
安芸高田市子供の生活実態調査 報告書

平成30年3月
広島県 安芸高田市

～ 目 次 ～

第1章 調査の概要	1
【1】調査概要	1
【2】生活困難の定義について	2
【3】報告書の見方	7
【4】回答者の基本属性	8
第2章 生活困窮の状況	11
【1】家計の状況	11
(1) 食料が買えなかった経験	11
(2) 衣類が買えなかった経験	13
(3) 公共料金等の滞納経験	15
(4) 物品等の所有状況	23
(5) 現在の（主観的）暮らし向き	25
(6) 家計の収支状況	27
【2】子供の生活水準	29
(1) 所有物の状況	29
(2) 子供への支出	45
(3) 子供の体験	55
【3】子供の食と栄養	61
(1) 朝食の摂取状況	61
(2) 栄養群の摂取状況	62
第3章 子供の学び	69
【1】学校について	69
(1) 学校の種類	69
(2) 私立選択の理由	70
【2】学校の成績	71
(1) 成績の主観的評価	71
(2) 得意教科	73
【3】授業の理解や学習の状況	75
(1) 授業の理解度	75
(2) 授業がわからなくなった時期	77
【4】学校生活の楽しみ	78
【5】学校外での学習・勉強の状況	91
(1) 勉強を教えてくれる人	91
(2) 学校外での勉強時間	93
(3) 学習塾・家庭教師の頻度	94
(4) 自宅での教材使用状況	95
(5) 計画的な勉強実施状況	97
(6) 宿題への対応状況	98
(7) 学校規則の遵守状況	99

【6】学習環境 -----	100
【7】将来の夢 -----	104
(1) 夢の有無と夢がない理由 -----	104
(2) 将来の進学希望 -----	107
【8】子供の教育 -----	110
(1) 子供がこれまでに通った保育・教育機関 -----	110
(2) 子供に受けさせたい教育レベルとその理由 -----	112
(3) 私立進学への保護者意向とその理由 -----	116
【9】学習関連の支援プログラムの利用意向 -----	119
第4章 子供の日常生活 -----	123
【1】家族や友だち -----	123
(1) 家族の接し方 -----	123
(2) 一番仲がよい友だち -----	128
(3) 友だちとの関係 -----	130
【2】平日の食事 -----	135
(1) 朝食を一緒にとる人 -----	135
(2) 夕食を一緒にとる人 -----	137
【3】平日の放課後の過ごし方 -----	139
(1) 放課後を一緒に過ごす人 -----	139
(2) 平日の放課後を過ごす場所 -----	140
(3) 放課後児童クラブ・部活動への参加状況 -----	152
(4) 放課後児童クラブ・部活動に参加していない理由 -----	153
【4】休日の過ごし方 -----	155
(1) 休日の午後を一緒に過ごす人 -----	155
(2) 休日の午後を過ごす場所 -----	156
【5】活動の状況 -----	158
(1) 活動の状況 -----	158
(2) 運動の状況 -----	167
(3) 読書の状況 -----	168
(4) 会話の状況 -----	169
(5) 就寝時刻 -----	178
(6) 起床時刻 -----	179
(7) 歯磨き・入浴の頻度 -----	180
【6】各種経験状況 -----	182
【7】居場所関連等の支援プログラムの利用意向 -----	186
第5章 子供の健康と自己肯定感 -----	192
【1】子供の健康状態 -----	192
(1) 子供の主観的健康状態 -----	192
(2) 保護者からみた子供の健康状態 -----	193

(3) 子供の医療受診抑制経験とその理由	194
(4) 予防接種状況と未接種の理由	197
(5) 虫歯の本数	204
(6) 身長・体重	205
【2】自己肯定感	207
(1) 自己肯定感	207
(2) 心の状態	221
第6章 子育てと各種制度・サービス	242
【1】子育てにかかる費用	242
【2】就学援助	252
(1) 就学援助受給状況と受給していない理由	252
(2) 支給額と実費との差が大きい経費	255
【3】公的年金等の支給額	256
【4】世帯年収	262
【5】子供とのかかわり	265
(1) 子供とのかかわり頻度	265
(2) 子供の将来についての会話	277
【6】子供のしつけ	278
【7】子育て上の経験	291
【8】制度・サービスの利用	293
(1) 子供関連情報の入手方法の現状と意向	293
(2) 各種支援制度の利用経験	297
(3) 各種経済的支援制度の利用経験	307
(4) 将来的に必要と思う支援	312
【9】相談	315
(1) 相談相手の有無	315
(2) 公的相談機関の利用経験	316
第7章 保護者の状況	327
【1】回答者	327
(1) 婚姻状況	327
(2) 健康状態	328
(3) 心の状態	329
(4) 朝食をとる頻度	336
(5) 朝食を一緒にとる人	337
(6) 15歳の頃の家族構成	339
(7) 15歳の頃の（主観的）暮らし向き	341
(8) 成人するまでの体験	342
(9) 子供の頃の親の接し方	344

【2】	家族	-----	349
(1)	人数	-----	349
(2)	高齢・障害の同居家族の有無	-----	350
(3)	頼れる親族・友人の有無	-----	351
(4)	転居経験	-----	352
【3】	母親のこと	-----	353
(1)	職業	-----	353
(2)	就労時間	-----	355
(3)	税込収入	-----	356
(4)	平日日中以外の勤務状況	-----	358
(5)	最終学歴	-----	360
(6)	最終学校の卒業の有無	-----	362
【4】	父親のこと	-----	363
(1)	職業	-----	363
(2)	就労時間	-----	365
(3)	税込収入	-----	366
(4)	平日日中以外の勤務状況	-----	368
(5)	最終学歴	-----	370
(6)	最終学校の卒業の有無	-----	372

第1章 調査の概要

【1】調査概要

1 調査の目的

本調査は、子供の生活状況の実態や家庭の状況、生活環境についての意識やニーズなどを把握し、今後の子供の貧困対策における、効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象者

小学5・6年生とその保護者、中学1～3年生とその保護者

3 調査方法

学校を通じた配付・回収

調査票は「小学生票」「中学生票」（以下「子供票」と表記）及び「小学生保護者」「中学生保護者」（以下「保護者票」と表記）で構成され、学校を通じて配付した。子供票と保護者票はそれぞれ無記名で記入の上、各々個別の封筒に入れ封かんした後、さらに世帯用の封筒に入れたものを、学校を通じて回収した。

4 調査時期

平成29年7月

5 回収状況

		小学5・6年生の家庭	中学1～3年生の家庭
子供	配付数	470人	678人
	有効回答数	391人	572人
	回答率	83.2%	84.4%
保護者	配付数	470人	678人
	有効回答数	385人	551人
	回答率	81.9%	81.3%

【2】生活困難の定義について

1 本調査における「生活困難」の定義

- ・子供の生活実態調査（以下「本調査」と表記）では、子供の生活における「生活困難」を、次の3つの要素から分類している。
 - ① 低所得
 - ② 家計の逼迫
 - ③ 子供の体験や所有物の欠如
- ・「①低所得」は、先進諸国の貧困の測定に最も一般的に用いられ、厚生労働省も用いている指標である。しかし、本調査においては自記入式の質問紙調査であるため、把握できる世帯所得の精緻度が限られている。そこで、所得データを補完するために、「② 家計の逼迫」と「③ 子供の体験や所有物の欠如」に用いられている物質的剥奪指標を用いている。物質的剥奪指標とは、所得データによる貧困率と併せて用いることで、貧困の測定の精緻化が可能であることが、欧州連合などをはじめ国内外の研究より判明している。以下にそれぞれの詳細な定義を示す。

（1）低所得

- ・「低所得」とは、世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で除した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準[※]未満の世帯と定義している。なお、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」において公表されている「子供の貧困率」（13.9%）との比較はできない。

※厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」(所得は平成 27 年値)の世帯所得の中央値(428 万円)を、平均世帯人数(2.47 人)の平方根で除した値の 50%である 136.2 万円

（2）家計の逼迫

- ・「家計の逼迫（ひっぱく）」は、経済的な制約を子供に課し、生活水準を低下させるだけでなく、親の心理的なゆとりや心身的健康状態の悪化を通して、子供に悪影響をもたらす可能性があることと言われている。そこで、本調査においては「家計の逼迫」を、公共料金や食料・衣類の費用などが、家計の中で大きな比重を占めるとともに、これらが家計から捻出できないことにより、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる状況と定義している。
- ・具体的には、保護者票において、過去1年間に経済的な理由で「電話」「電気」「ガス」「水道」「家賃」などの料金の滞納があったか、また、過去1年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」の7つの項目のうち、1つ以上が該当する場合を「家計の逼迫がある」と定義している。

(3) 子供の体験や所有物の欠如

- ・上記(1)と(2)は、世帯全体の生活困難の状況を表すが、子供自身の生活困難を表す指標として、「子供の体験や所有物の欠如」を用いている。ここで用いられる子供の体験や所有物とは、日本社会において、大多数の子供が一般的に享受していると考えられる経験や物品であることとしている。
- ・具体的には、保護者票において過去1年間に「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「キャンプやバーベキューに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」「遊園地やテーマパークに行く」ことが経済的にできない、また「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習いごと(音楽, スポーツ, 習字等)に通わせる」「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」「お誕生日のお祝いをする」「1年に1回くらい家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」ことが経済的にできない、または「子供の年齢に合った本」「子供用のスポーツ用品・おもちゃ」「子供が自宅で宿題ができる場所」が経済的理由のために世帯に無い場合である(全15項目)。これらの項目のうち3つ以上が該当している場合に、「子供の体験や所有物の欠如」の状態にあると定義している。

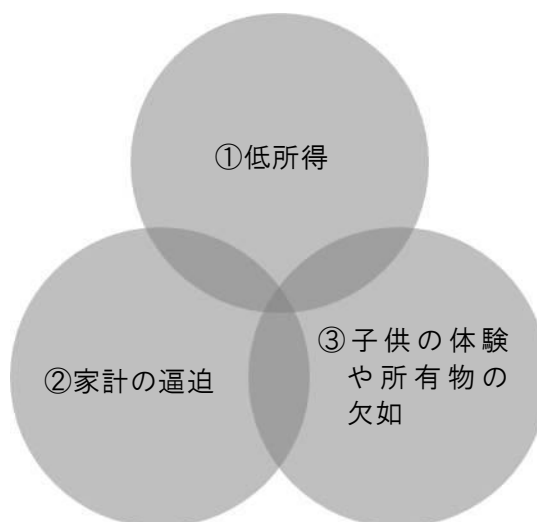
2 生活困難層の定義について

- ・本調査では、基本クロス集計に用いている「生活困難層」等を、以下の3つの要素に基づいて分類している。

①低所得	<p>●等価世帯所得が厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準> 世帯所得の中央値 428 万円÷√平均世帯人数 (2.47 人) ×50%=136.2 万円</p>
②家計の逼迫	<p>●経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電話料金 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった
③子供の体験や所有物の欠如	<p>●子供の体験や所有物などに関する次の15項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月お小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習いごと（音楽，スポーツ，習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子供の年齢に合った本 14 子供用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子供が自宅で宿題をすることができる場所

【生活困難層（困窮層・周辺層），非生活困難層】

生活困難層	困窮層＋周辺層
生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない



3 生活困難層の割合とクロス集計について

「低所得」や「家計の逼迫」、「子供の体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し、生活困窮層にあると思われる小学5・6年生の家庭は14.7%、いずれか1つに該当するその周辺層まで含めた生活困難層にあたる小学5・6年生の家庭は37.0%、同様に中学1～3年生の家庭は生活困窮層が11.2%、生活困難層が32.6%であった（「生活困難度別クロス集計」）。

生活困難層を世帯の状況別に区分した「生活困難層世帯タイプ別」では、小学5・6年生のひとり親家庭の23.1%が生活困窮層、中学1～3年生のひとり親家庭の27.3%が生活困窮層である。

【生活困難度別クロス集計】

区 分	小学5・6年生	中学1～3年生
生活困難層	37.0%	32.6%
生活困窮層	14.7%	11.2%
周辺層	22.3%	21.4%
非生活困難層	63.0%	67.4%

【生活困難層世帯タイプ別クロス集計】

区 分	生活困難層				非生活困難層	
	生活困窮層		周辺層		小学5・6年生	中学1～3年生
	小学5・6年生	中学1～3年生	小学5・6年生	中学1～3年生		
ひとり親の家庭	23.1%	27.3%	26.9%	38.2%	50.0%	34.5%
ふたり親の家庭	13.9%	8.8%	21.3%	17.9%	64.8%	73.3%

本報告書においては、上記のクロス集計結果を中心に分析を行い、世帯タイプ別クロス集計については、特徴のある箇所についてコメントしている。又、図表においては、例えば「小学5・6年保護者」を「小5・6保護者」、「中学1～3年生保護者」を「中学生保護者」などと略記している。

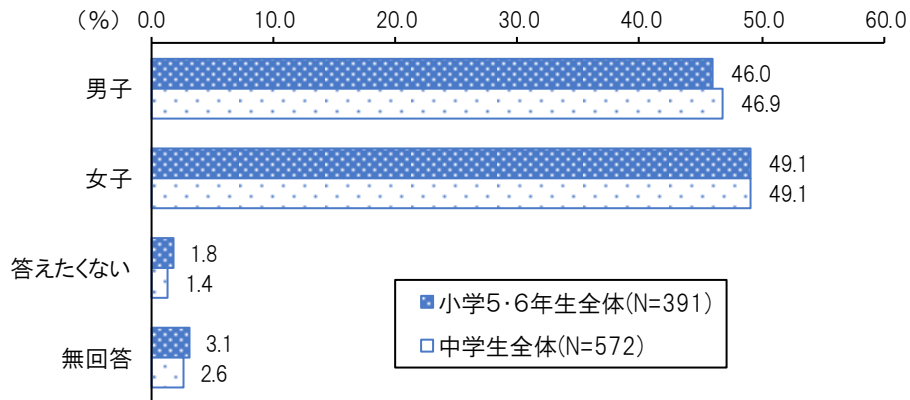
【3】 報告書の見方

- 1 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- 2 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- 3 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」，「該当数」を「n」で表記している。
- 4 図表中における生活困難度別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- 5 各設問文の文頭に表記している「保」は「保護者票」，「子」は「子供票」の設問であることを示す。又、設問文はそれぞれ中学生用の文章を採用している。
- 6 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%，0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- 7 この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

【4】回答者の基本属性

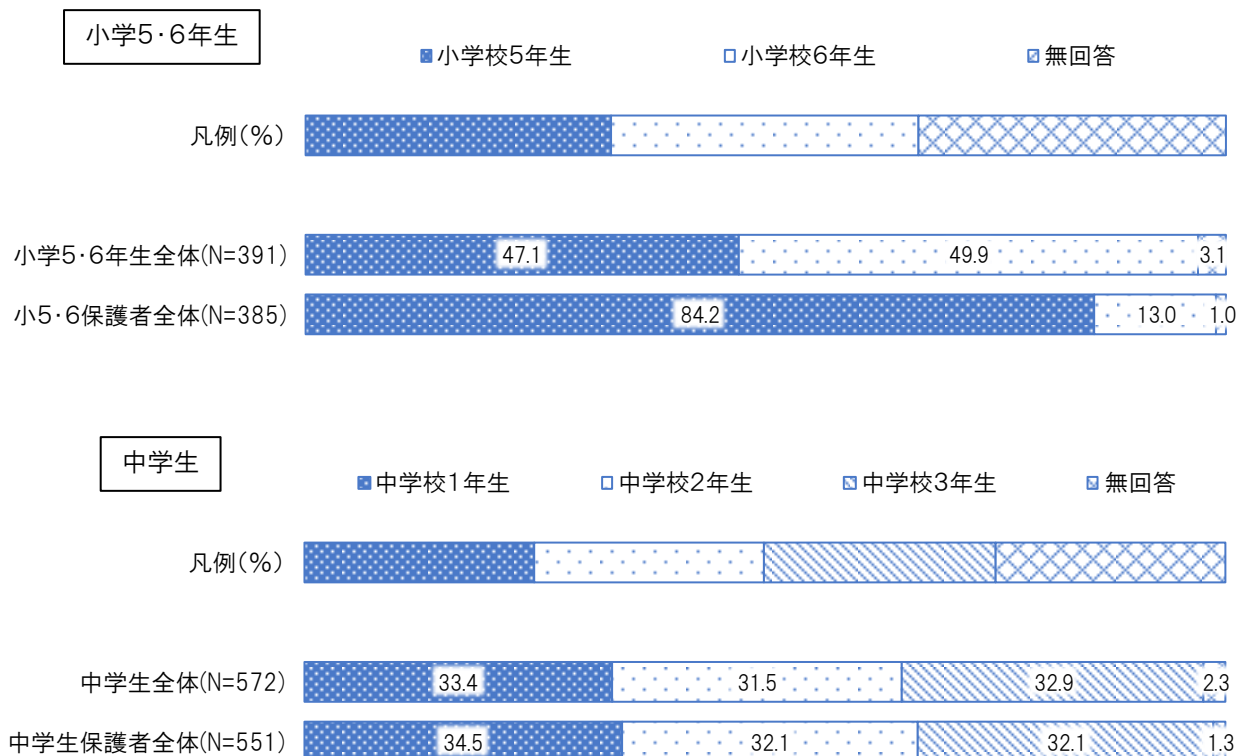
(1) 子供の性別

子供の性別については、小学5・6年生、中学生ともにおおむね同割合となっており、大きな差はみられない。



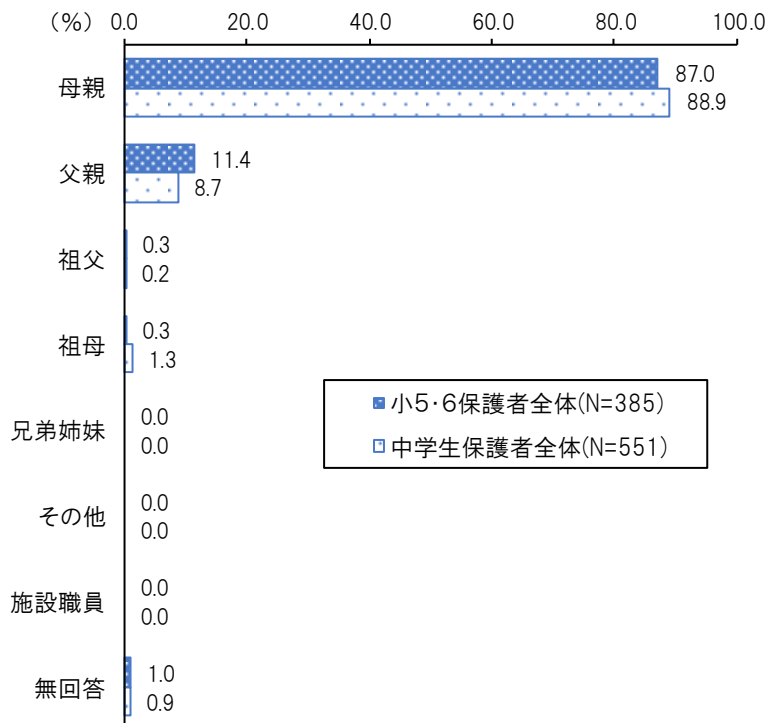
(2) 子供の学年

子供の学年については、小学5・6年生保護者全体で「小学校5年生」の割合が8割以上と高くなっている。中学生では大きな差はみられない。



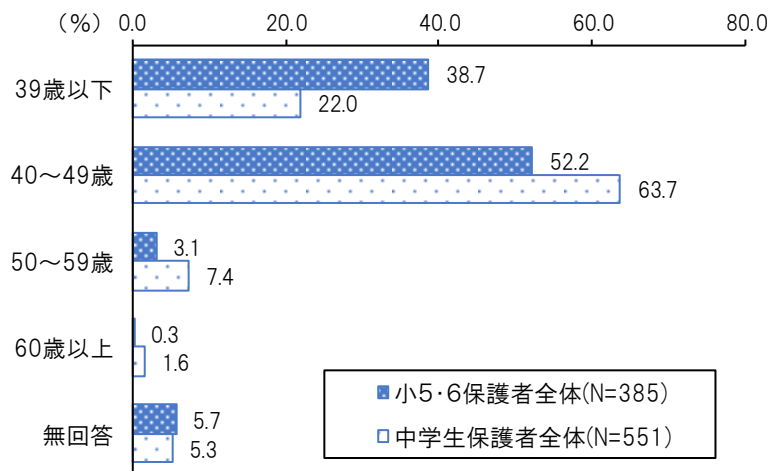
(3) 子供からみた保護者の続柄

子供からみた保護者の続柄については、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「母親」が約9割を占めており、「父親」は1割前後となっている。



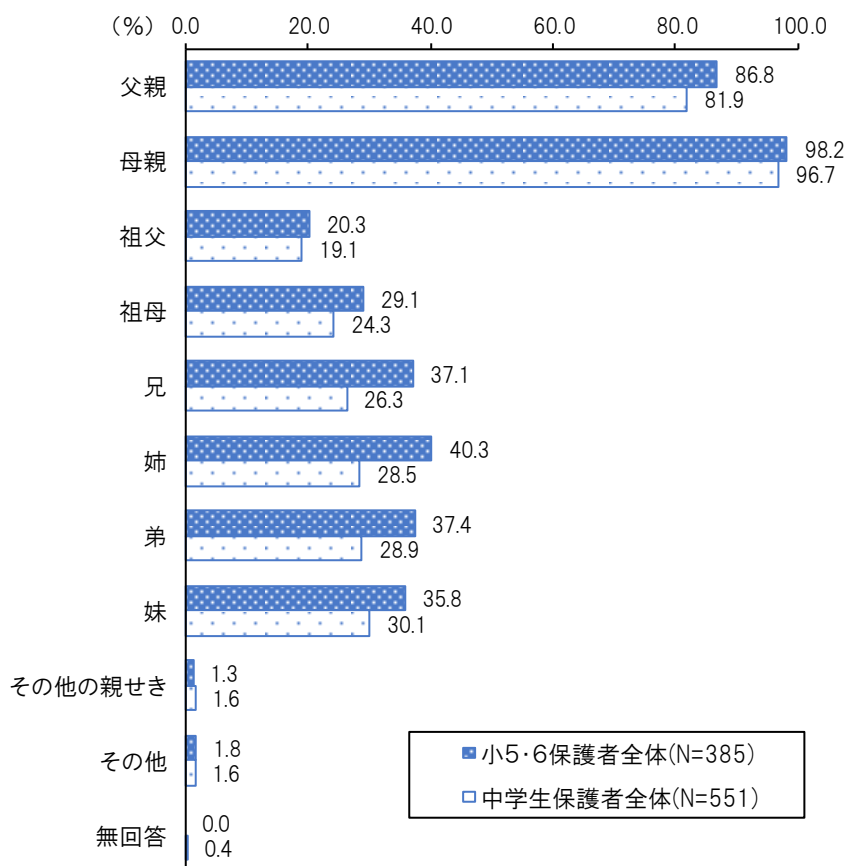
(4) 保護者の年齢

保護者の年齢については、小学5・6年保護者全体では、「39歳以下」が約4割を占め中学生保護者全体を大きく上回っており、中学生保護者全体では、「40～49歳」が6割以上を占めている。



(5) 世帯構成

世帯構成については、「母親」の割合が最も高く、次いで「父親」が続いている。この他、兄弟姉妹、祖母、祖父の順となっている。



第2章 生活困窮の状況

【1】家計の状況

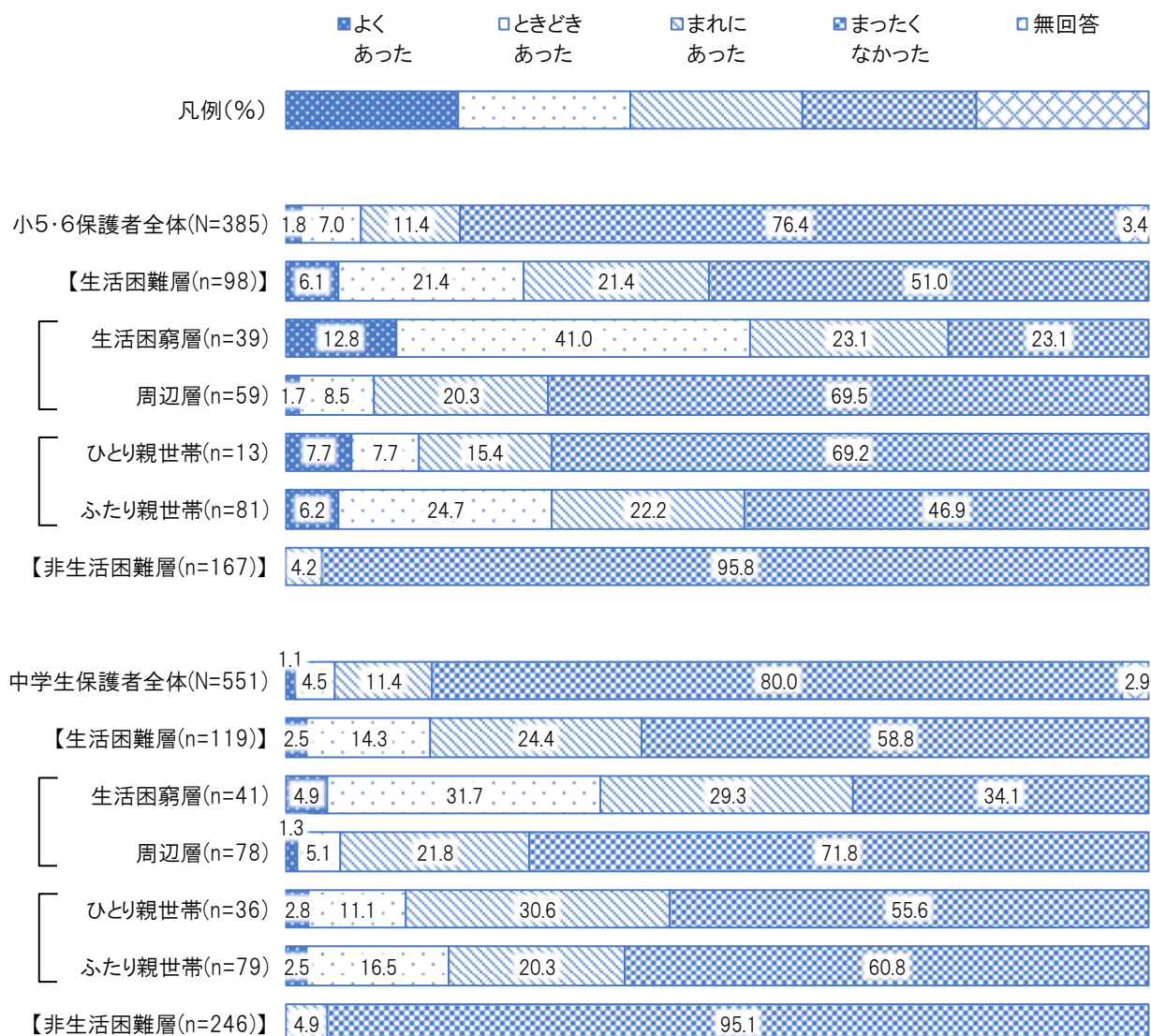
(1) 食料が買えなかった経験

保／問 31 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

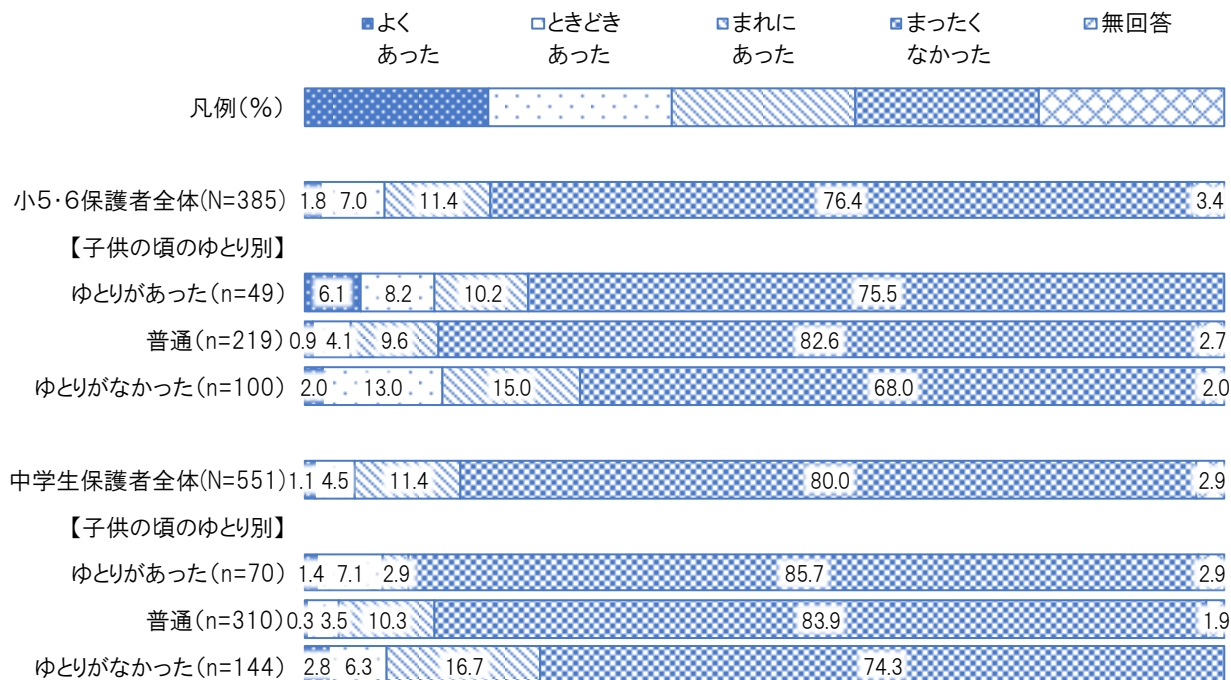
食料が買えなかった経験については、小学5・6年保護者全体では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計が20.2%、中学生保護者全体では17.0%となっている。

生活困難度別にみた『あった(合計)』割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で76.9%、中学生保護者で65.9%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で『あった(合計)』割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



子供の頃のゆとり別（問 39）でみると、小学5・6年保護者，中学生保護者ともに，ゆとりがなかった層で『あった（合計）』割合が，他の層に比べて高くなっている。



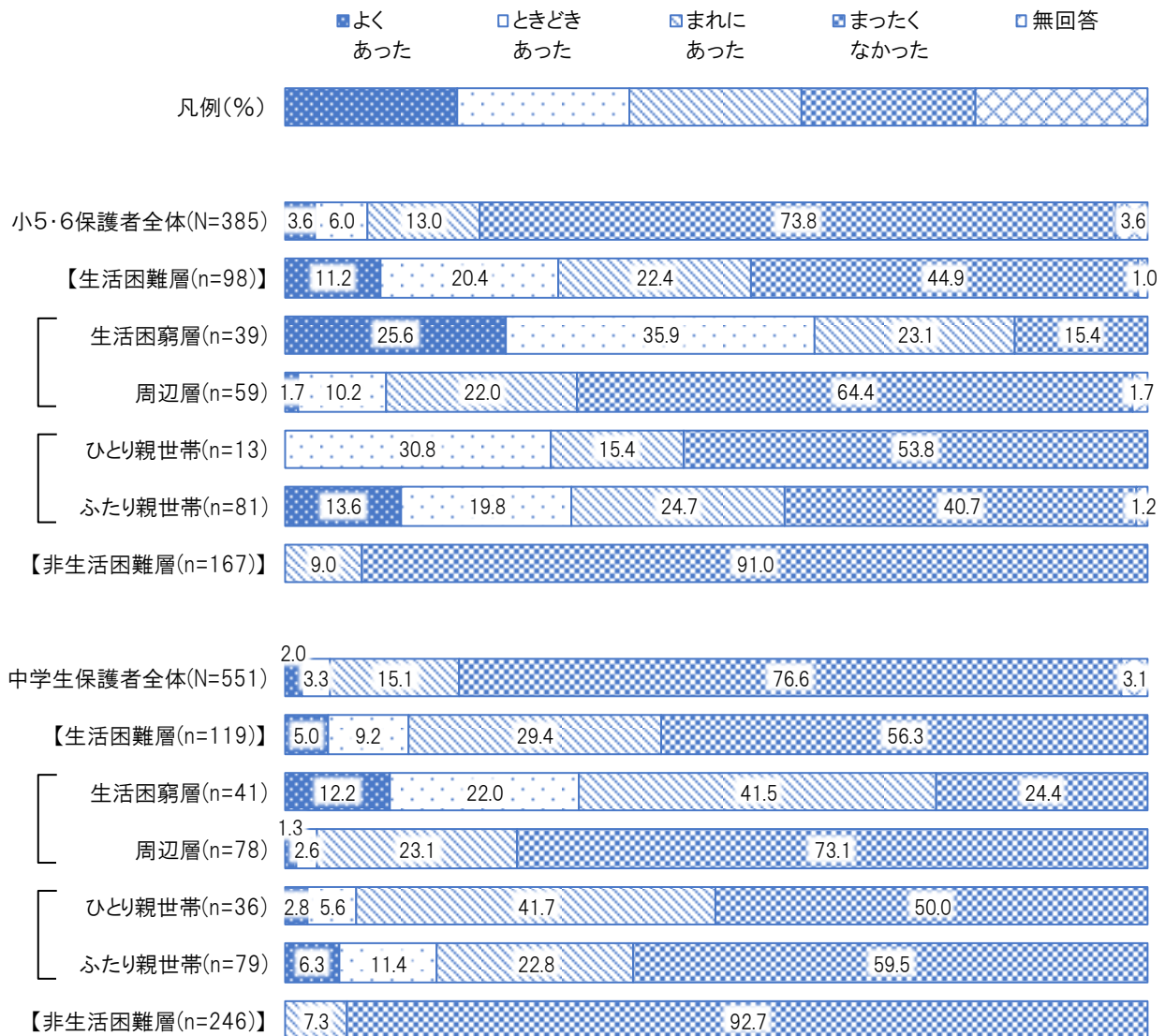
(2) 衣類が買えなかった経験

保／問 32 あなたの家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

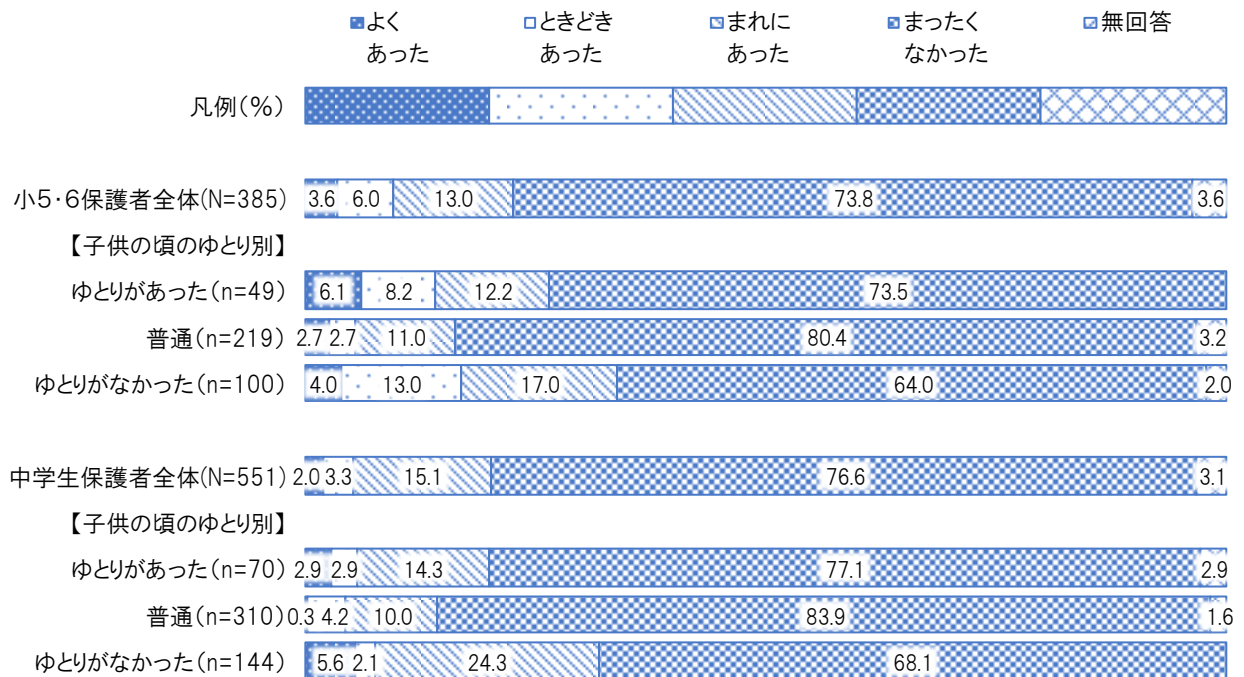
衣類が買えなかった経験については、小学5・6年保護者全体では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計が22.6%，中学生保護者全体では20.4%となっている。

生活困難度別にみた『あった(合計)』割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で84.6%，中学生保護者で75.7%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別にみた『あった(合計)』割合は、小学5・6年保護者ではふたり親世帯，中学生保護者ではひとり親世帯で高くなっている。



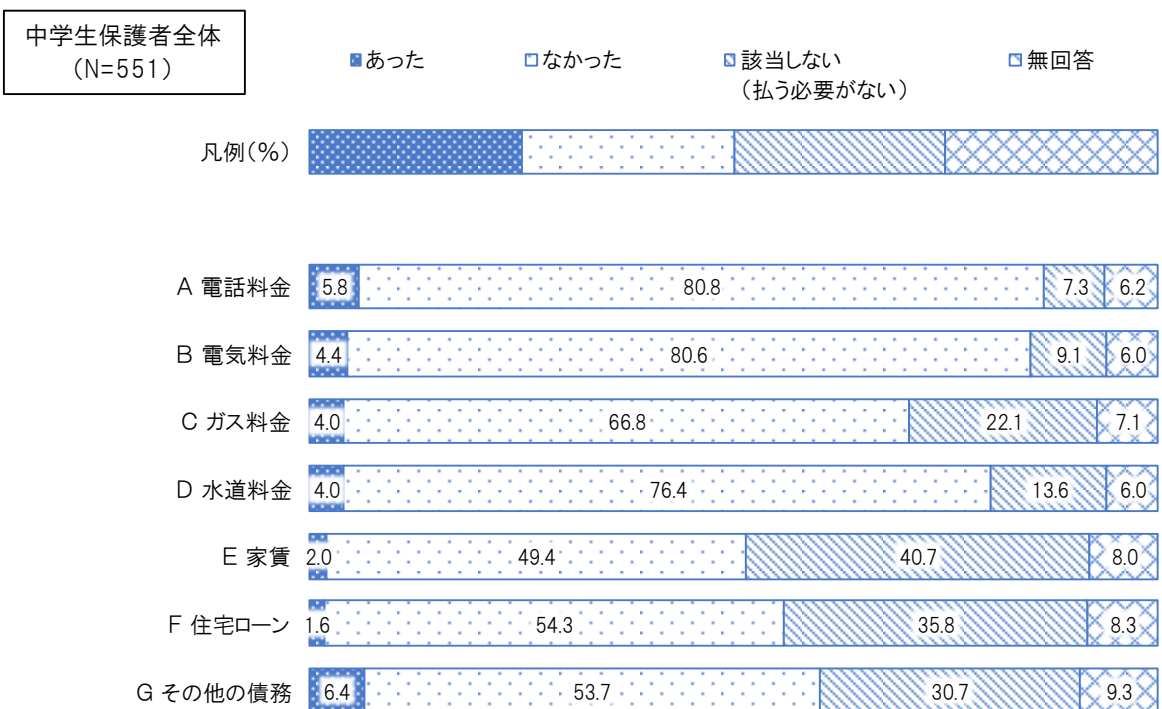
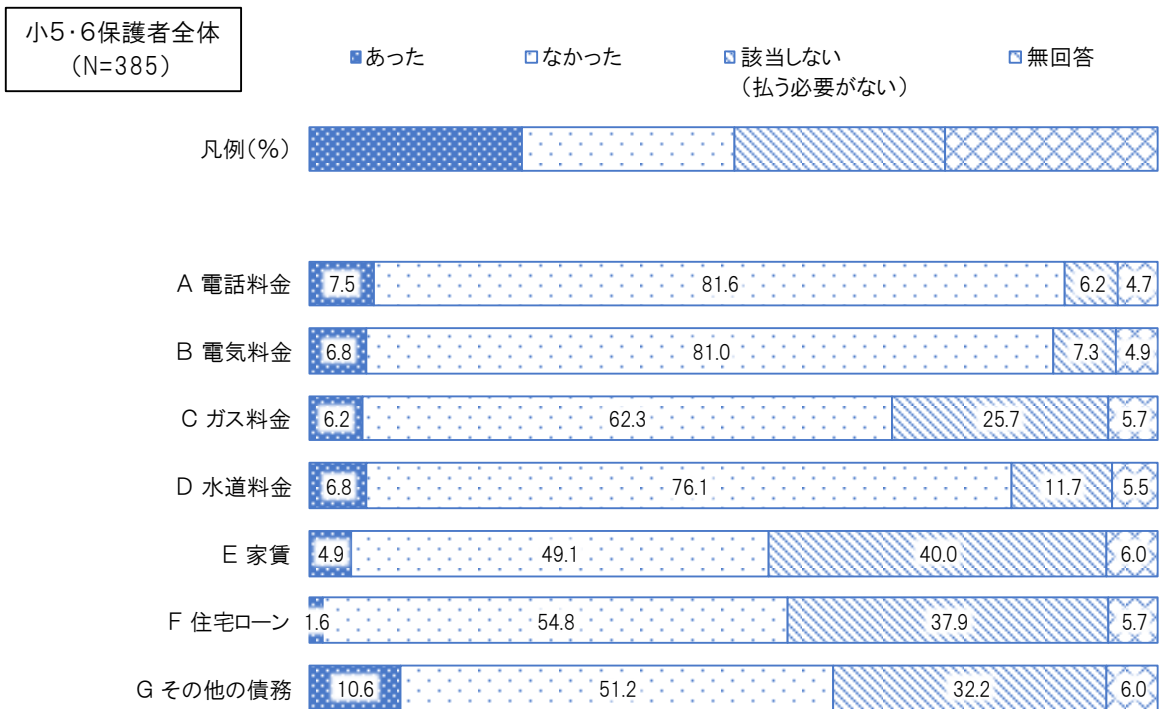
子供の頃のゆとり別（問 39）で見ると、ゆとりがなかった層で小学5・6年保護者では「ときどきあった」、中学生保護者では「よくあった」の割合が、他の層に比べてそれぞれ高くなっている。



(3) 公共料金等の滞納経験

保／問 33 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

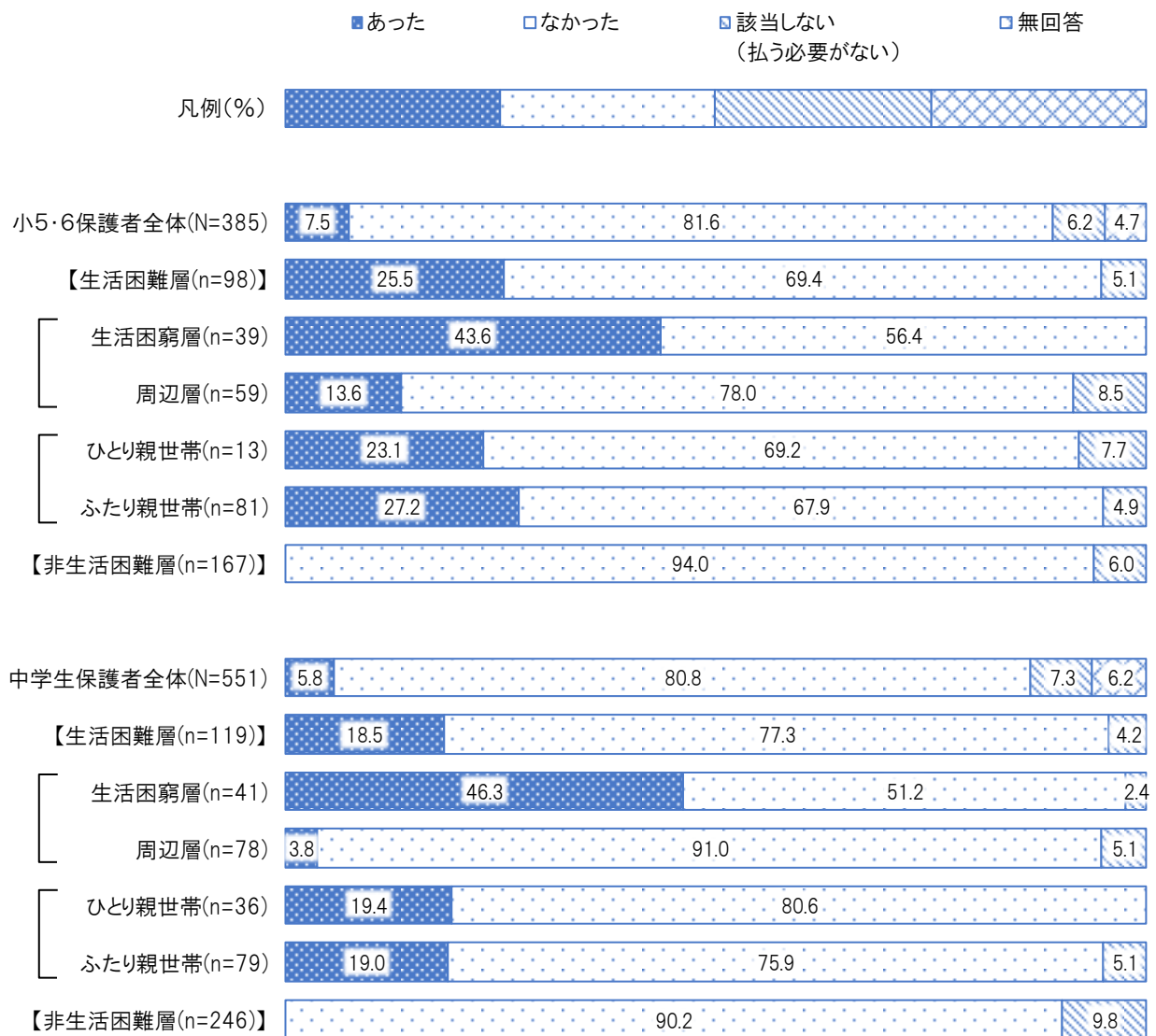
公共料金等の滞納経験については、小学5・6年保護者全体では「あった」の割合が高い順に「G その他の債務」(10.6%)、「A 電話料金」(7.5%)、「B 電気料金」「D 水道料金」(各6.8%)となっている。中学生保護者全体では、「G その他の債務」(6.4%)、「A 電話料金」(5.8%)、「B 電気料金」(4.4%)などがあげられる。



A 電話料金

電話料金の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で13.6%、中学生保護者では、生活困窮層で46.3%、周辺層で3.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

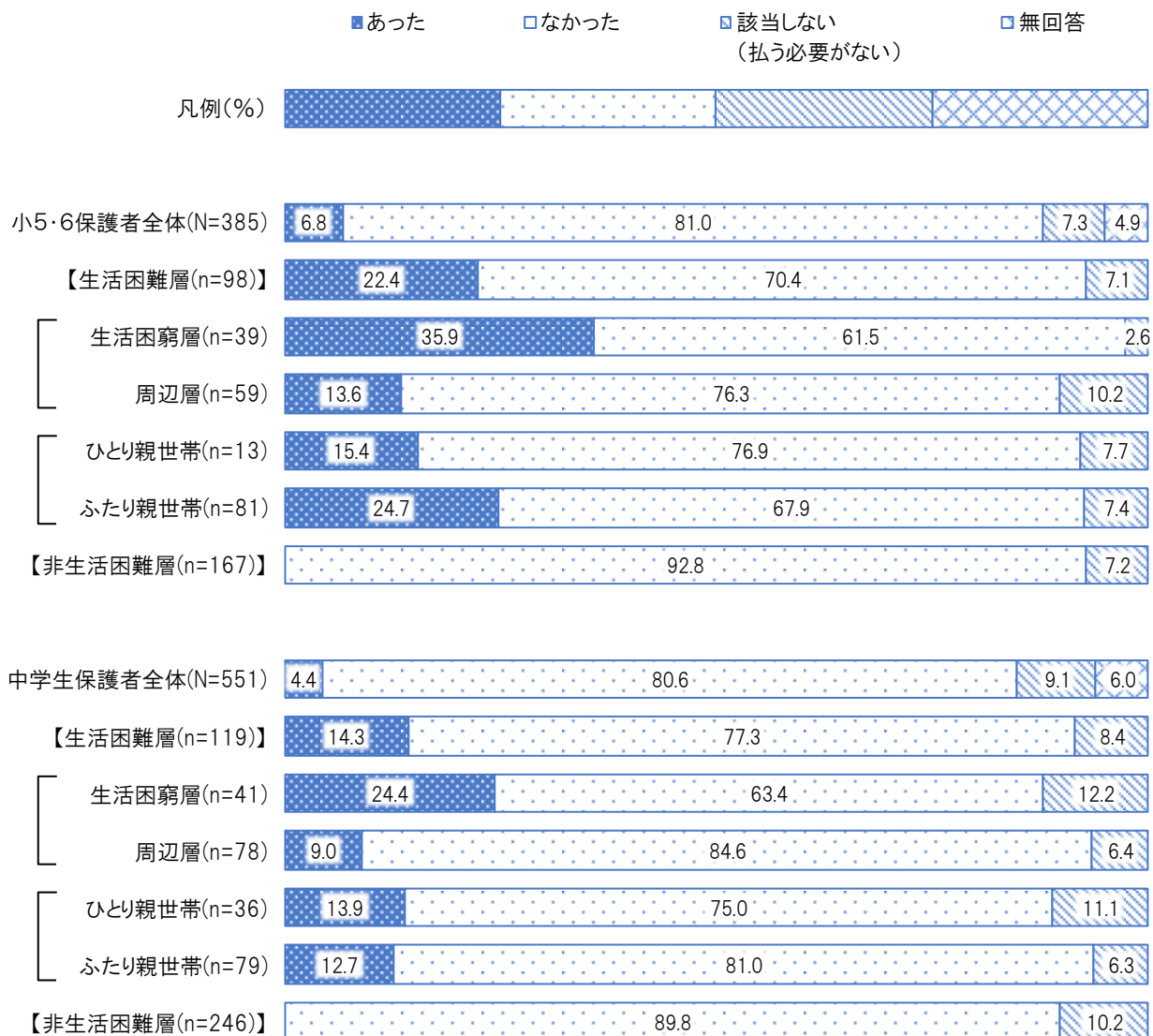
生活困難層世帯タイプ別では大きな差はみられない。



B 電気料金

電気料金の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で13.6%、中学生保護者では、生活困窮層で24.4%、周辺層で9.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

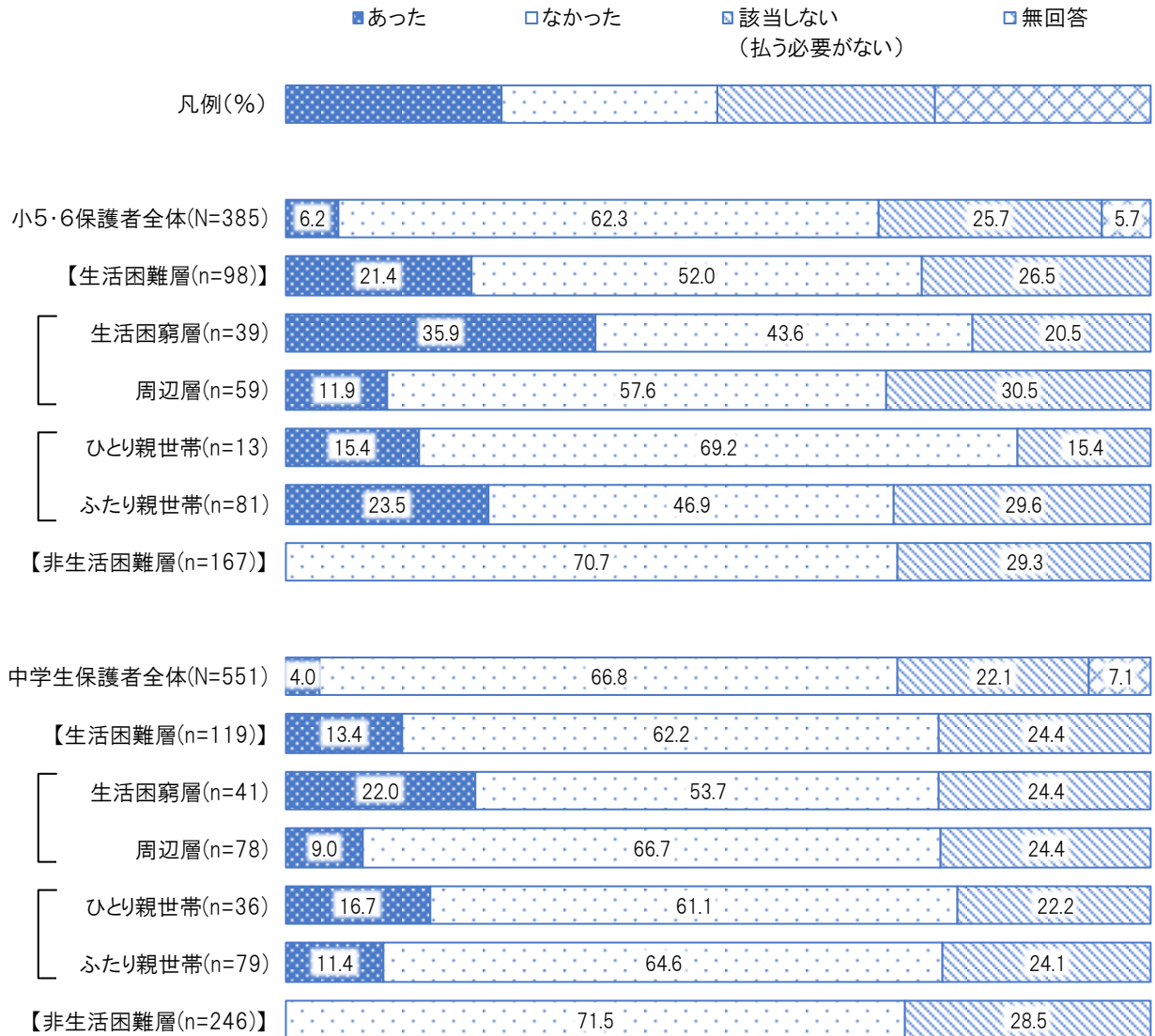
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あった」割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C ガス料金

ガス料金の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で11.9%、中学生保護者では、生活困窮層で22.0%、周辺層で9.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

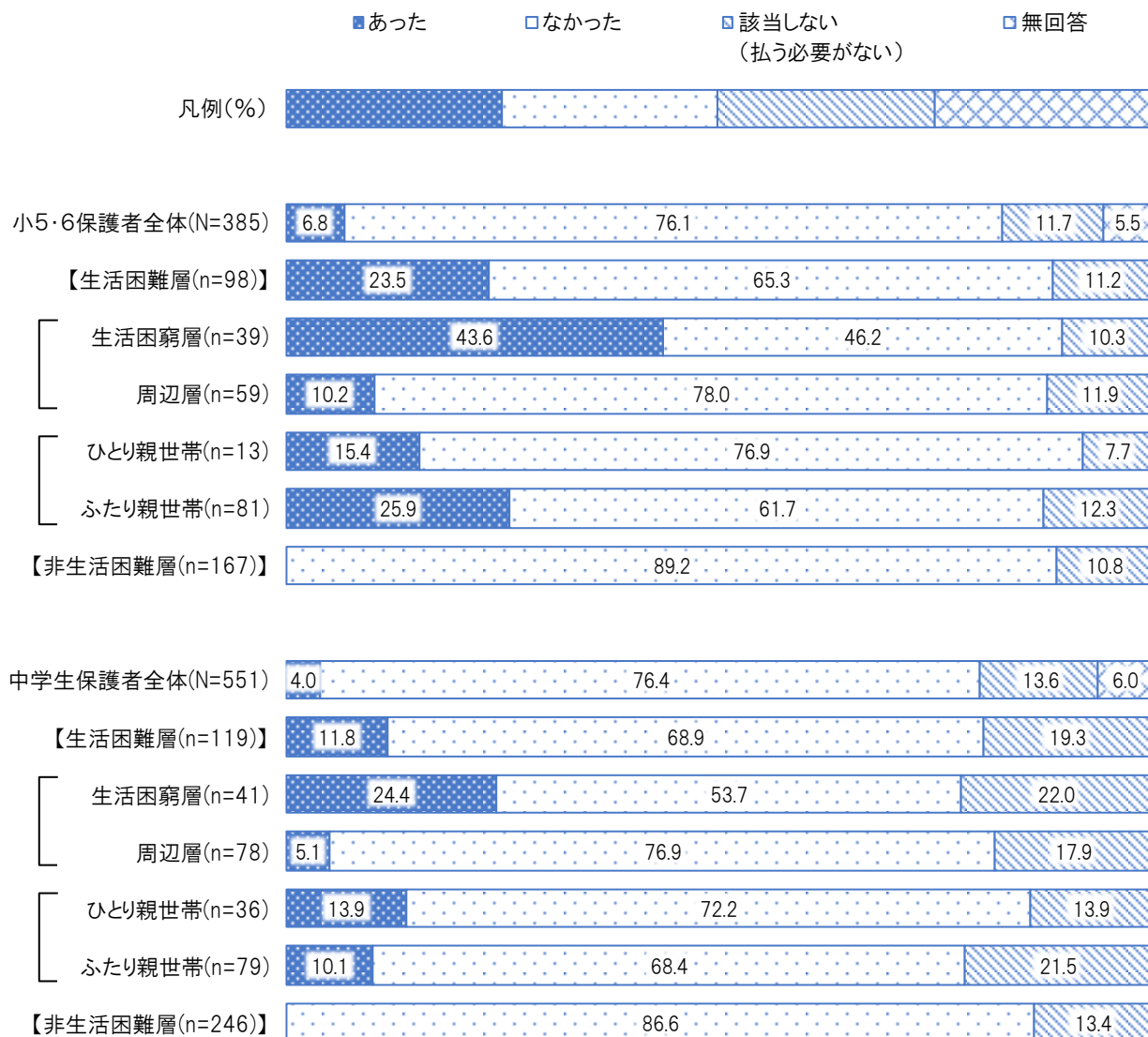
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あった」割合が高く、一方、中学生保護者ではひとり親世帯でやや高くなっている。



D 水道料金

水道料金の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で10.2%、中学生保護者では、生活困窮層で24.4%、周辺層で5.1%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

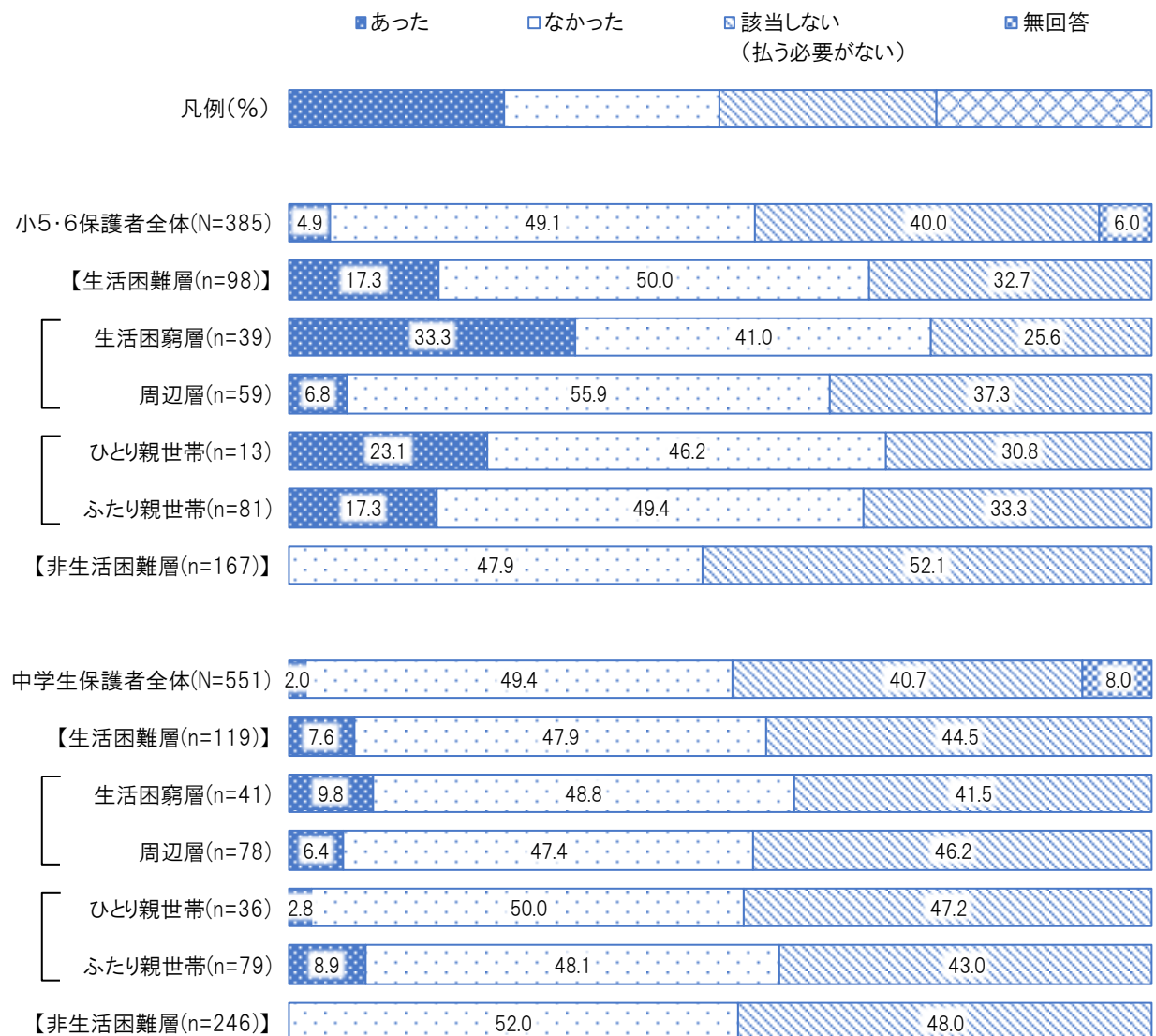
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あった」割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



E 家賃

家賃の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で33.3%、周辺層で6.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

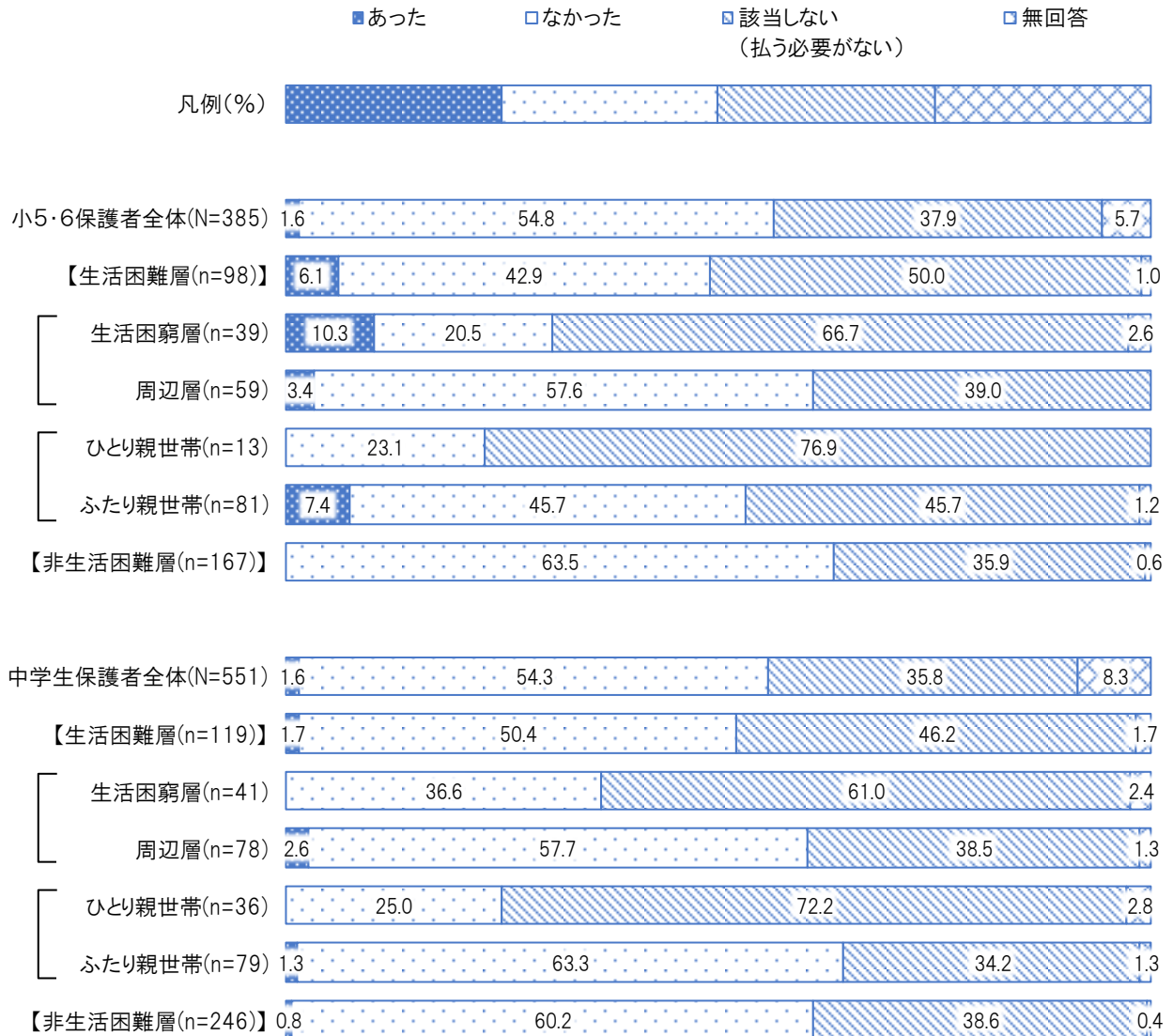
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「あった」割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。



F 住宅ローン

住宅ローンの滞納経験について「該当なし（払う必要がない）」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で66.7%、周辺層で39.0%、中学生保護者では、生活困窮層で61.0%、周辺層で38.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

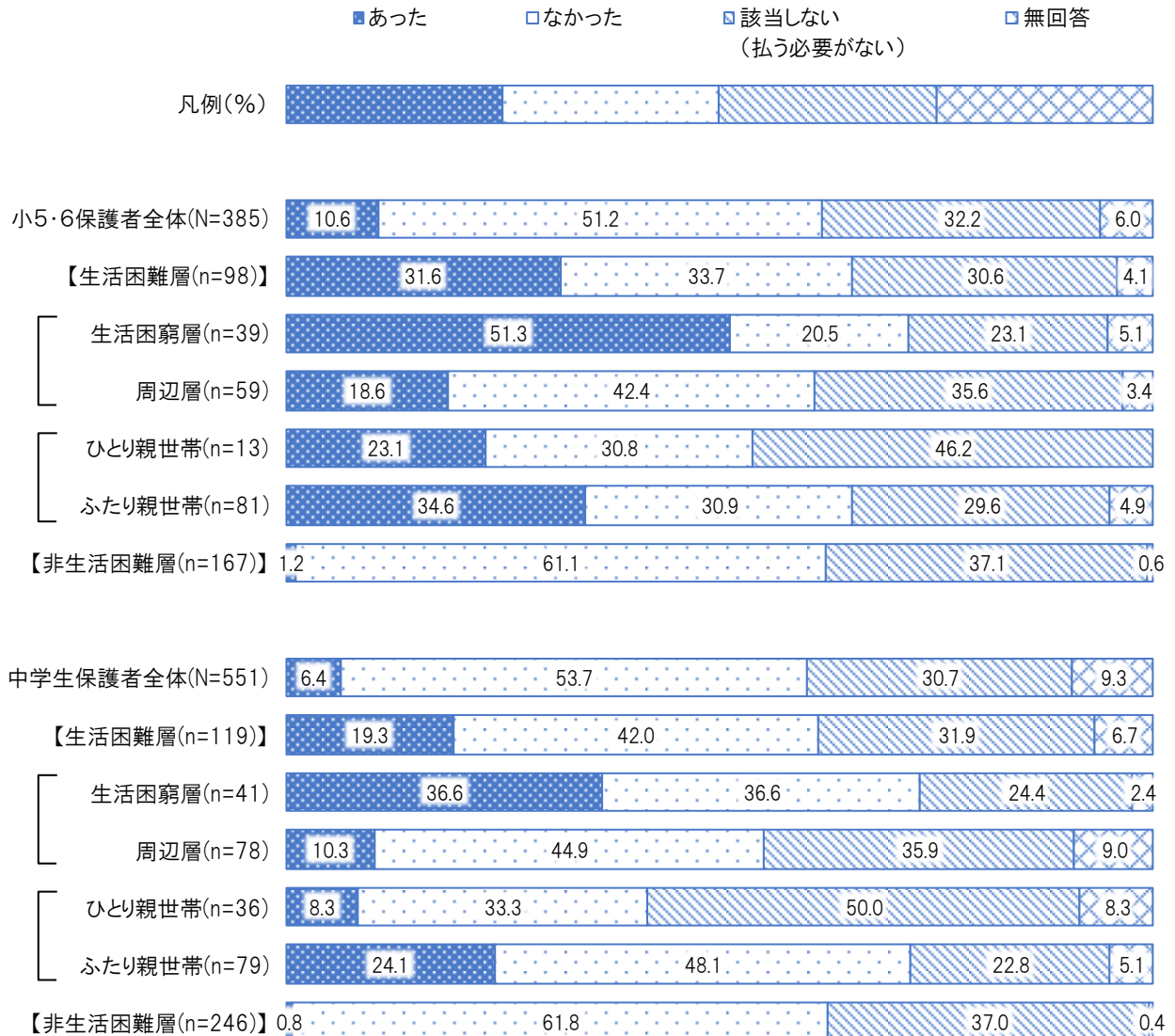
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「該当なし（払う必要がない）」割合が高くなっている。



G その他の債務

その他の債務の滞納経験について「あった」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で51.3%、周辺層で18.6%、中学生保護者では、生活困窮層で36.6%、周辺層で10.3%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「あった」割合が高くなっている。

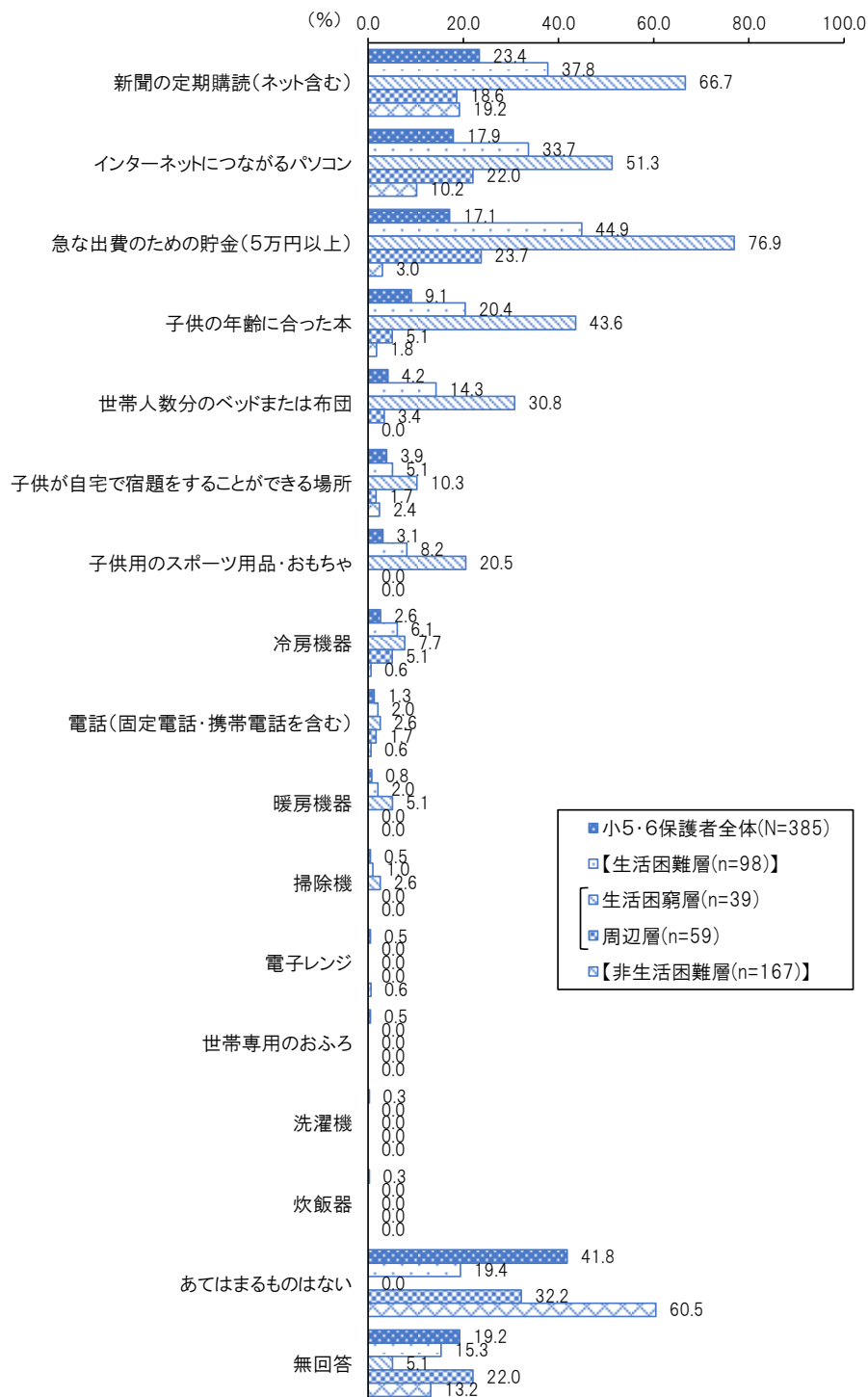


(4) 物品等の所有状況

保／問 35-1 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

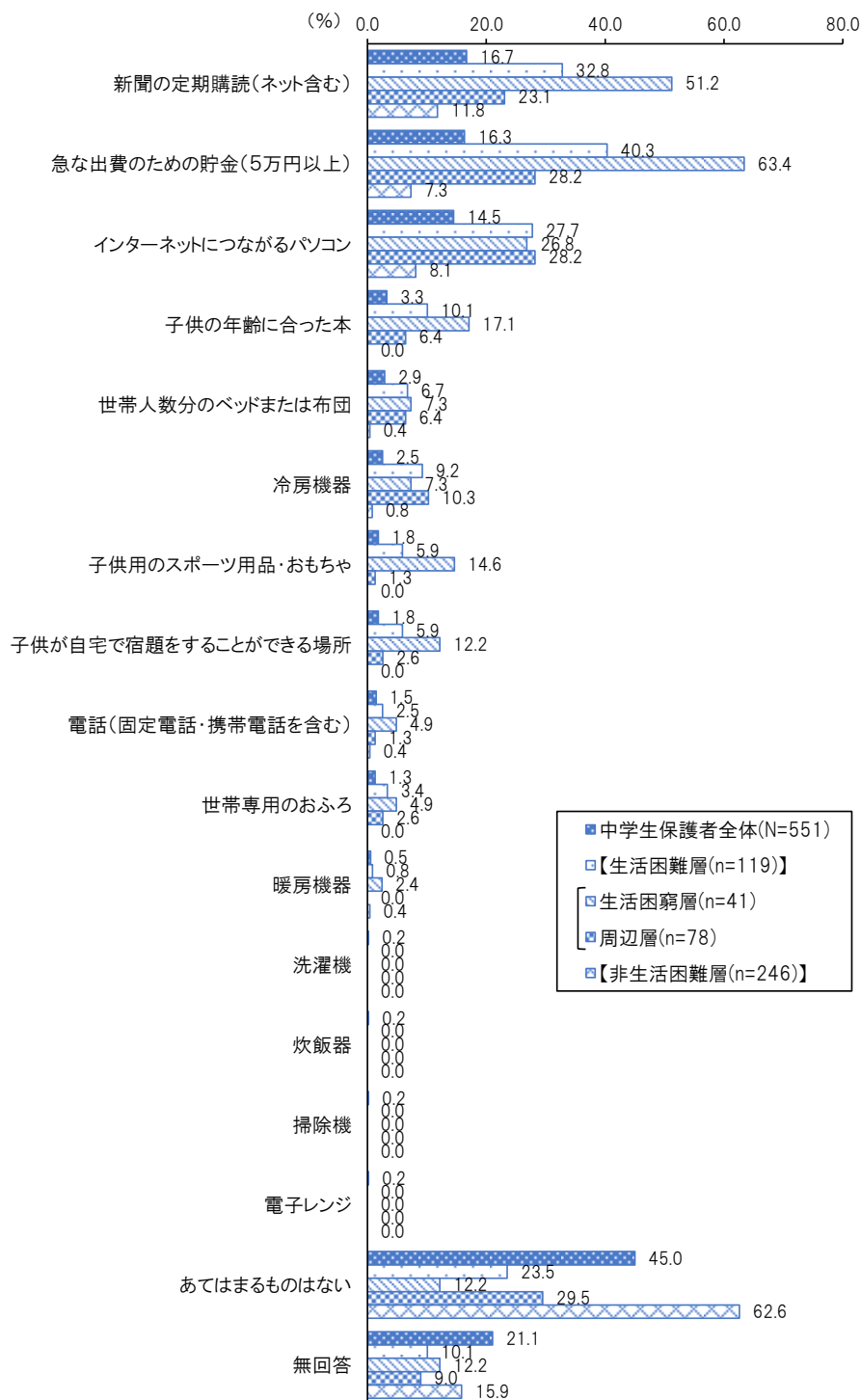
物品等の所有状況については、小学5・6年保護者全体で「新聞の定期購読(ネット含む)」の割合が23.4%と最も高く、次いで「インターネットにつながるパソコン」(17.9%)、「急な出費のための貯金(5万円以上)」(17.1%)の順となっている。

生活困難度別では、生活困窮層で「新聞の定期購読(ネット含む)」「インターネットにつながるパソコン」「急な出費のための貯金(5万円以上)」「子供の年齢に合った本」などの割合が他の層を大きく上回っている。



中学生保護者全体で「新聞の定期購読（ネット含む）」の割合が 16.7%と最も高く、次いで「急な出費のための貯金（5万円以上）」（16.3%）,「インターネットにつながるパソコン」（14.5%）の順となっている。

生活困難度別では、生活困窮層で「新聞の定期購読（ネット含む）」「急な出費のための貯金（5万円以上）」などの割合が他の層を大きく上回っている。



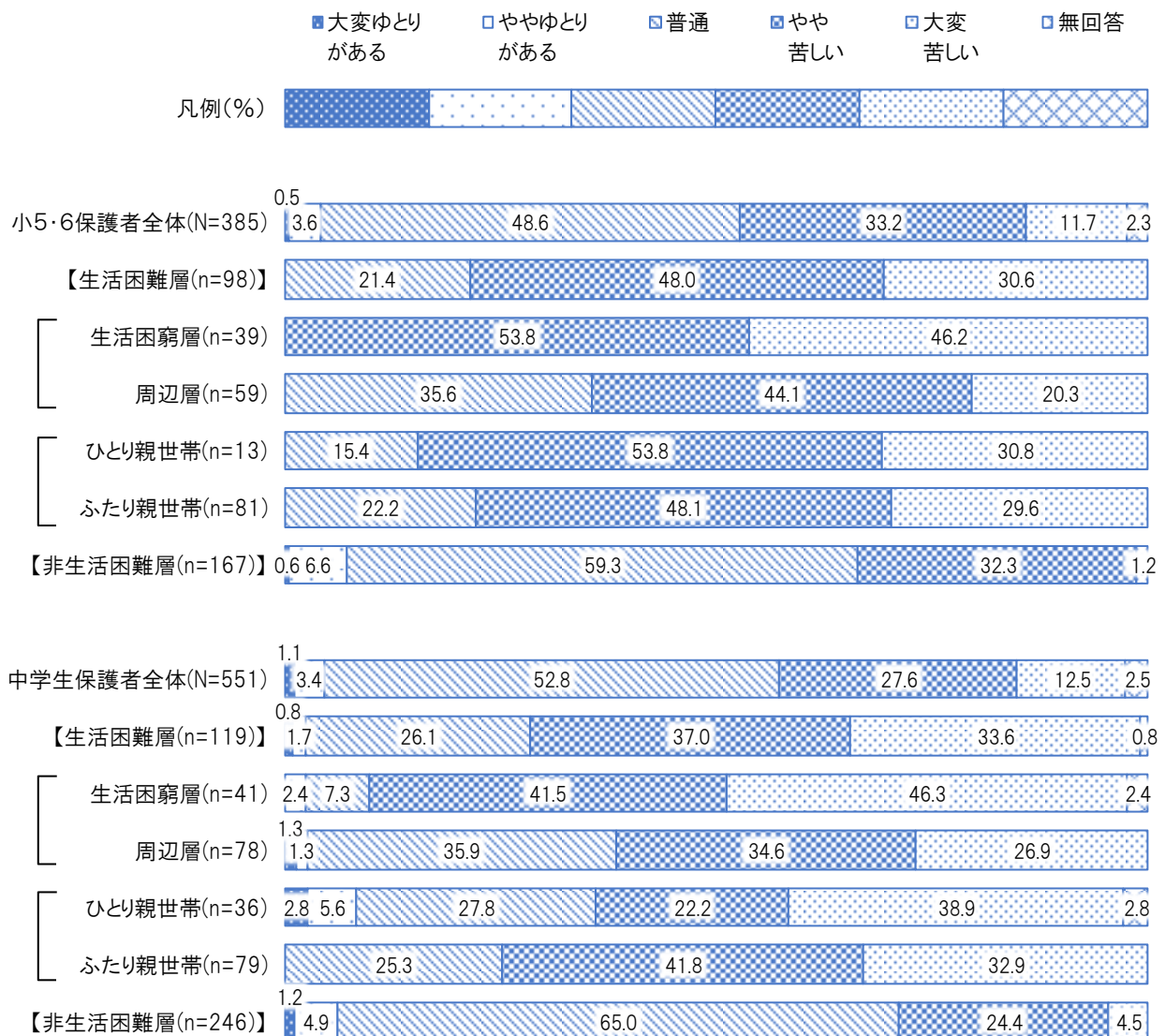
(5) 現在の（主観的）暮らし向き

保／問 29 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。
 （あてはまる番号1つに○）

現在の（主観的）暮らし向きについては、小学5・6年保護者全体では「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」の合計が4.1%，中学生保護者全体では4.5%となっている。一方、「やや苦しい」「大変苦しい」の合計は、小学5・6年保護者全体では44.9%，中学生保護者全体では40.1%となっている。

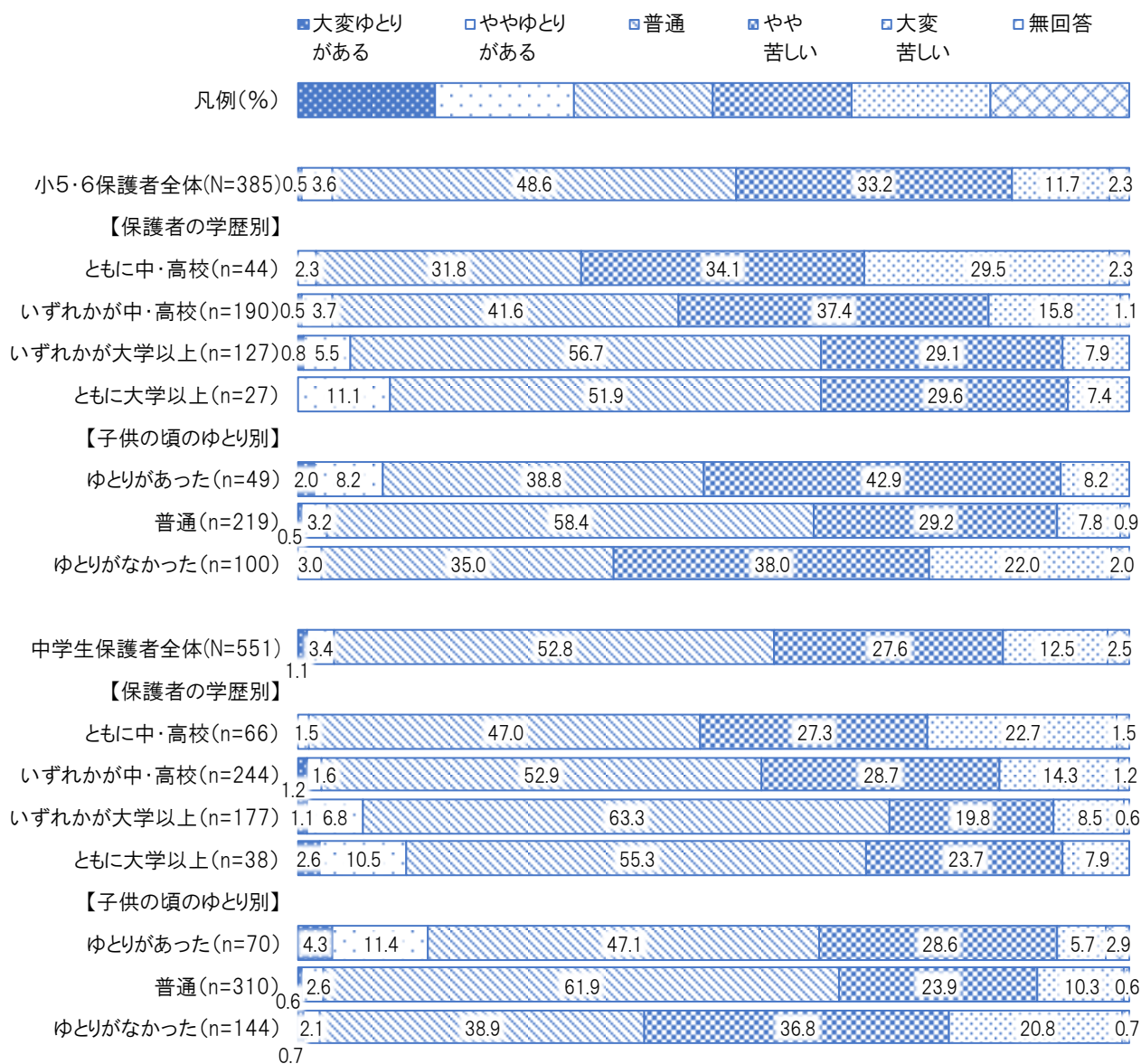
生活困難度別にみた『苦しい(合計)』の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で100.0%，中学生保護者で87.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「やや苦しい」の割合が周辺層に比べてやや高く、中学生保護者のふたり親世帯で『苦しい(合計)』の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



保護者の学歴別（問 36・問 37）でみると、小学 5・6 年保護者、中学生保護者ともに、「ともに中・高校」「いずれかが中・高校」では他の層に比べ『苦しい（合計）』の割合が高くなっている。

子供の頃のゆとり別（問 39）でみると、小学 5・6 年保護者、中学生保護者ともに、ゆとりがなかった層で『苦しい（合計）』の割合が、他の層に比べて高くなっている。



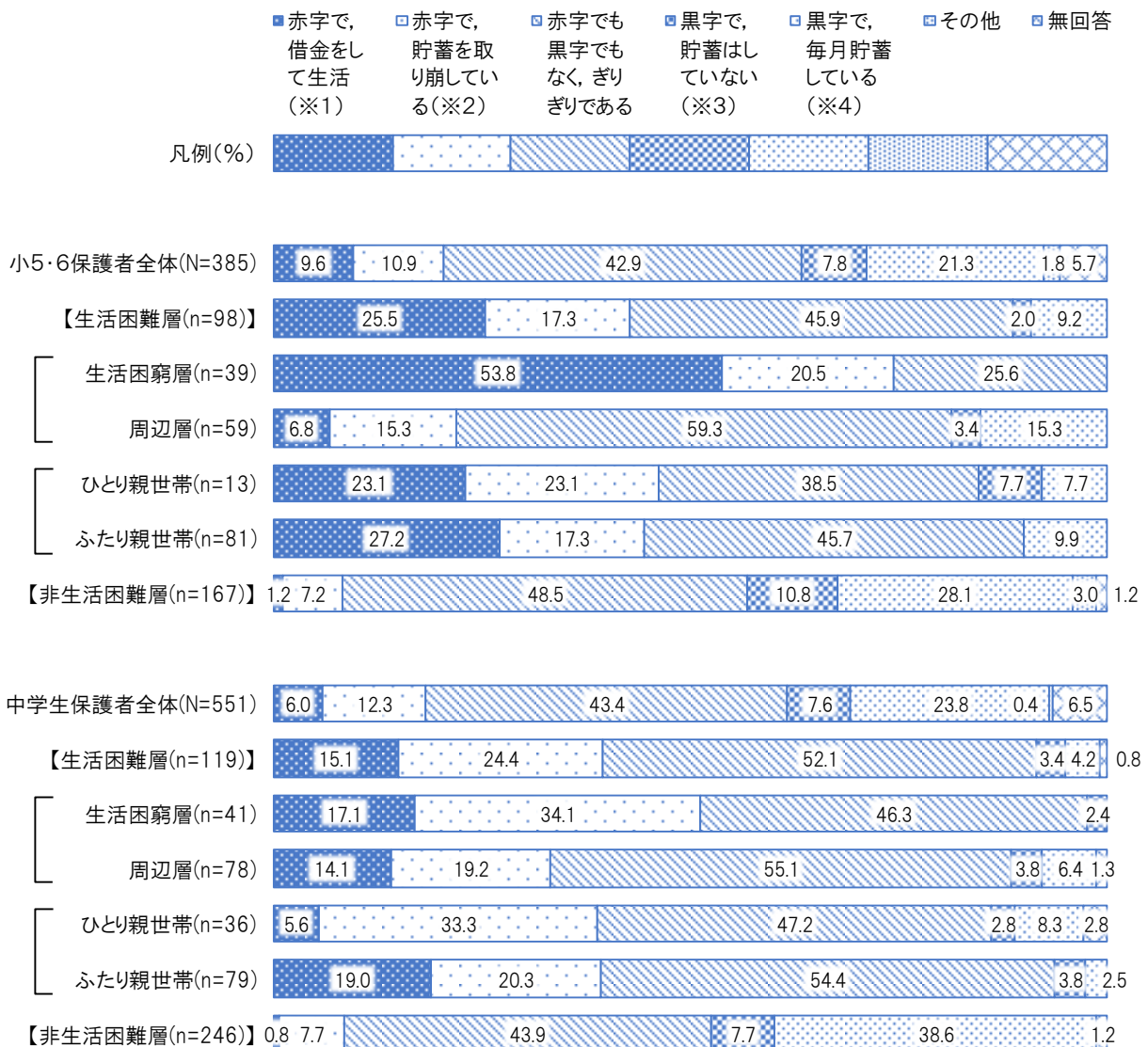
(6) 家計の収支状況

保／問 30 ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。
(あてはまる番号1つに○)

家計の収支状況については、小学5・6年保護者全体では「赤字であり、借金をして生活している」「赤字であり、貯蓄を取り崩している」の合計が20.5%、中学生保護者全体では18.3%となっている。一方、「黒字であるが、貯蓄はしていない」「黒字であり、毎月貯蓄をしている」の合計は、小学5・6年保護者全体では29.1%、中学生保護者全体では31.4%となっている。

生活困難度別にみた『赤字である(合計)』の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で74.3%、中学生保護者で51.2%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

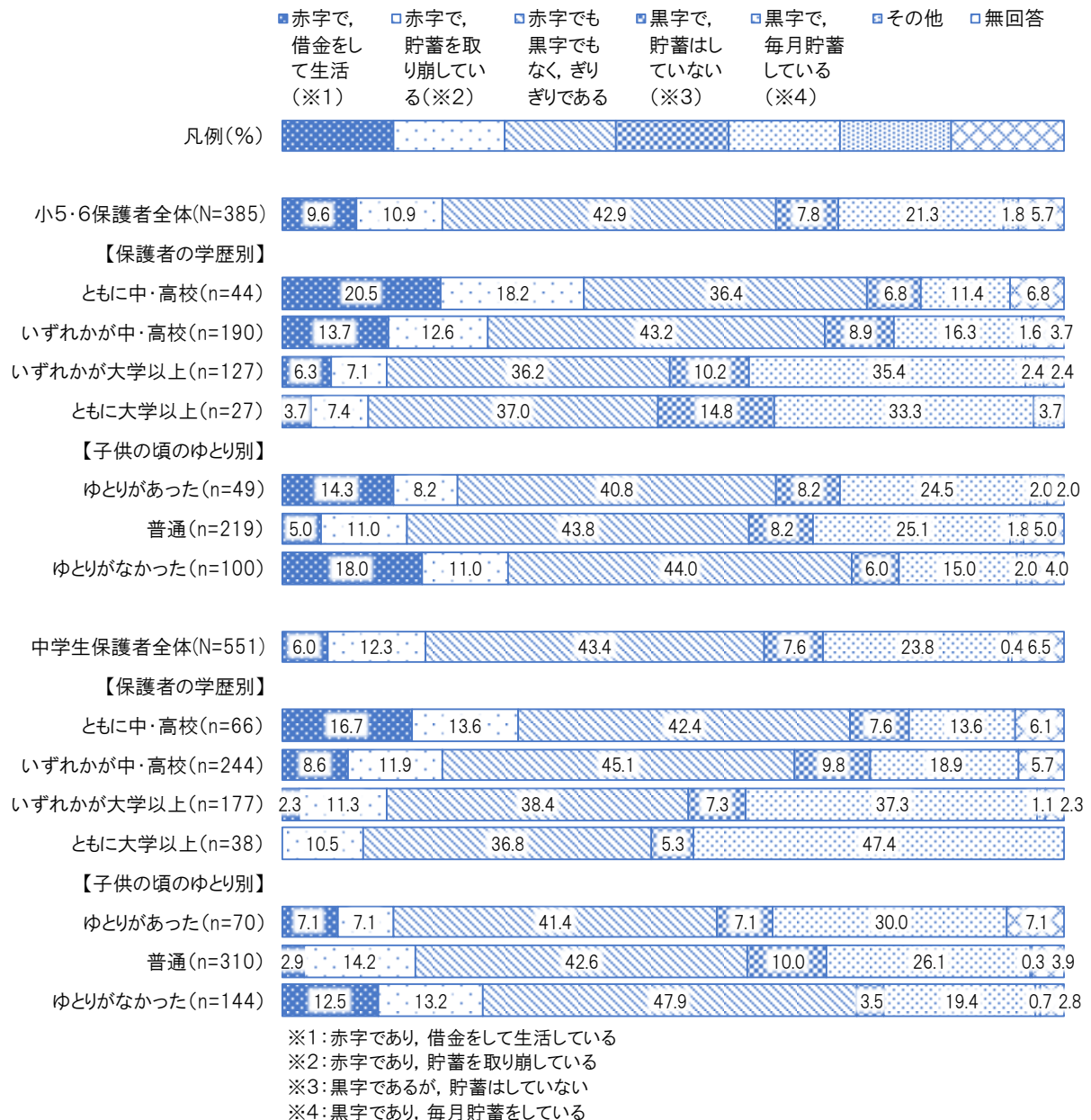
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のふたり親世帯で「赤字であり、借金をして生活している」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



※1:赤字であり、借金をして生活している
 ※2:赤字であり、貯蓄を取り崩している
 ※3:黒字であるが、貯蓄はしていない
 ※4:黒字であり、毎月貯蓄をしている

保護者の学歴別（問 36・問 37）でみると、小学 5・6 年保護者、中学生保護者ともに「ともに中・高校」「いずれかが中・高校」では他の層に比べ『赤字である（合計）』の割合が高くなっている。

子供の頃のゆとり別（問 39）でみると、小学 5・6 年保護者、中学生保護者ともに、ゆとりがなかった層で「赤字であり、借金をして生活している」の割合が、他の層に比べてやや高くなっている。

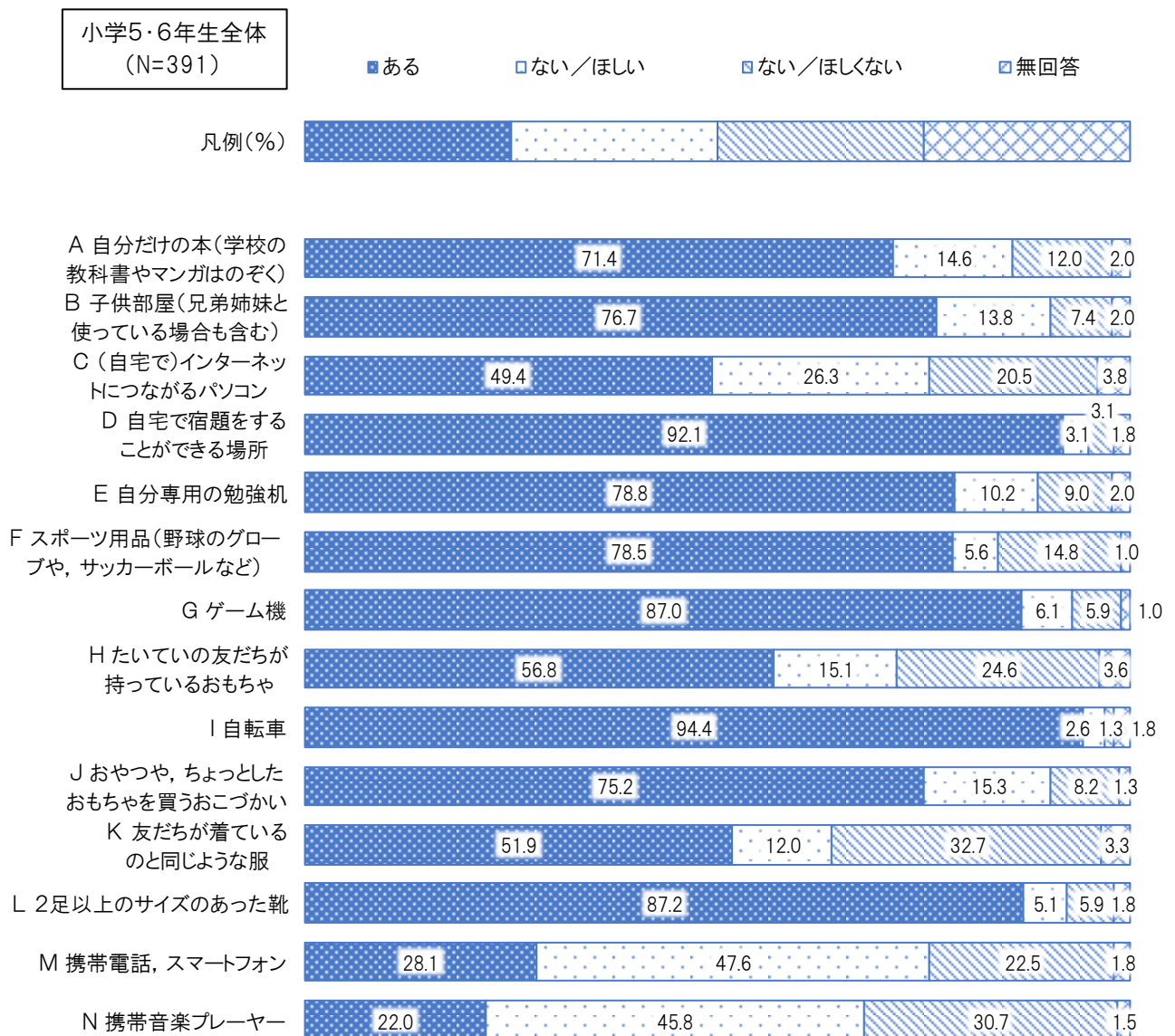


【2】子供の生活水準

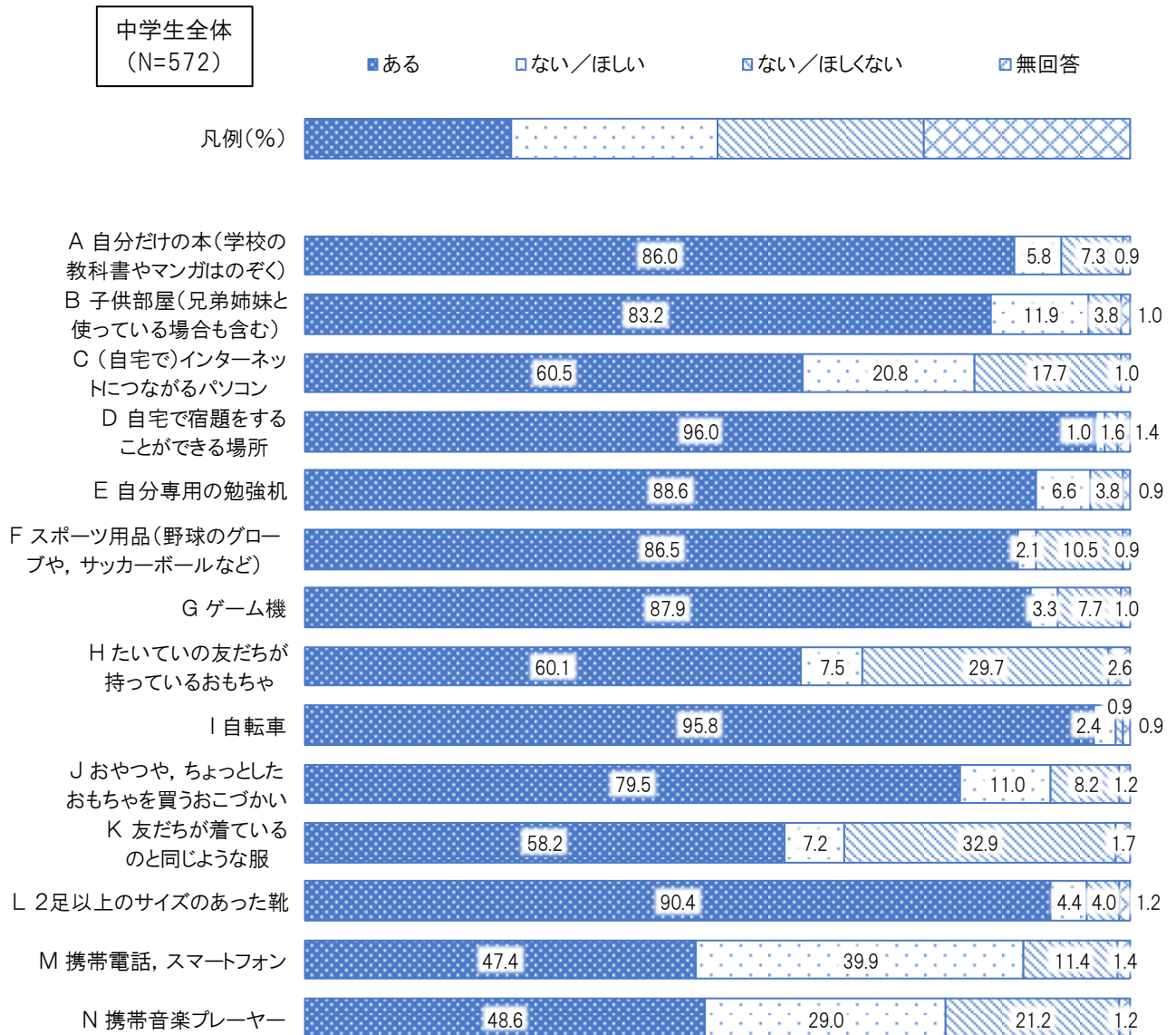
(1) 所有物の状況

子／問4 あなたには、自分が使うことができる、次のものがありますか。ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、いらないと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

所有物の状況については、小学5・6年生全体では「ない／ほしい」の割合が高い順に「M 携帯電話、スマートフォン」(47.6%)、「N 携帯音楽プレーヤー」(45.8%)、「C (自宅でインターネットにつながるパソコン)」(26.3%)となっている。また、「ない／ほしくない」では「K 友だちが着ているのと同じような服」(32.7%)、「N 携帯音楽プレーヤー」(30.7%)などがあげられる。



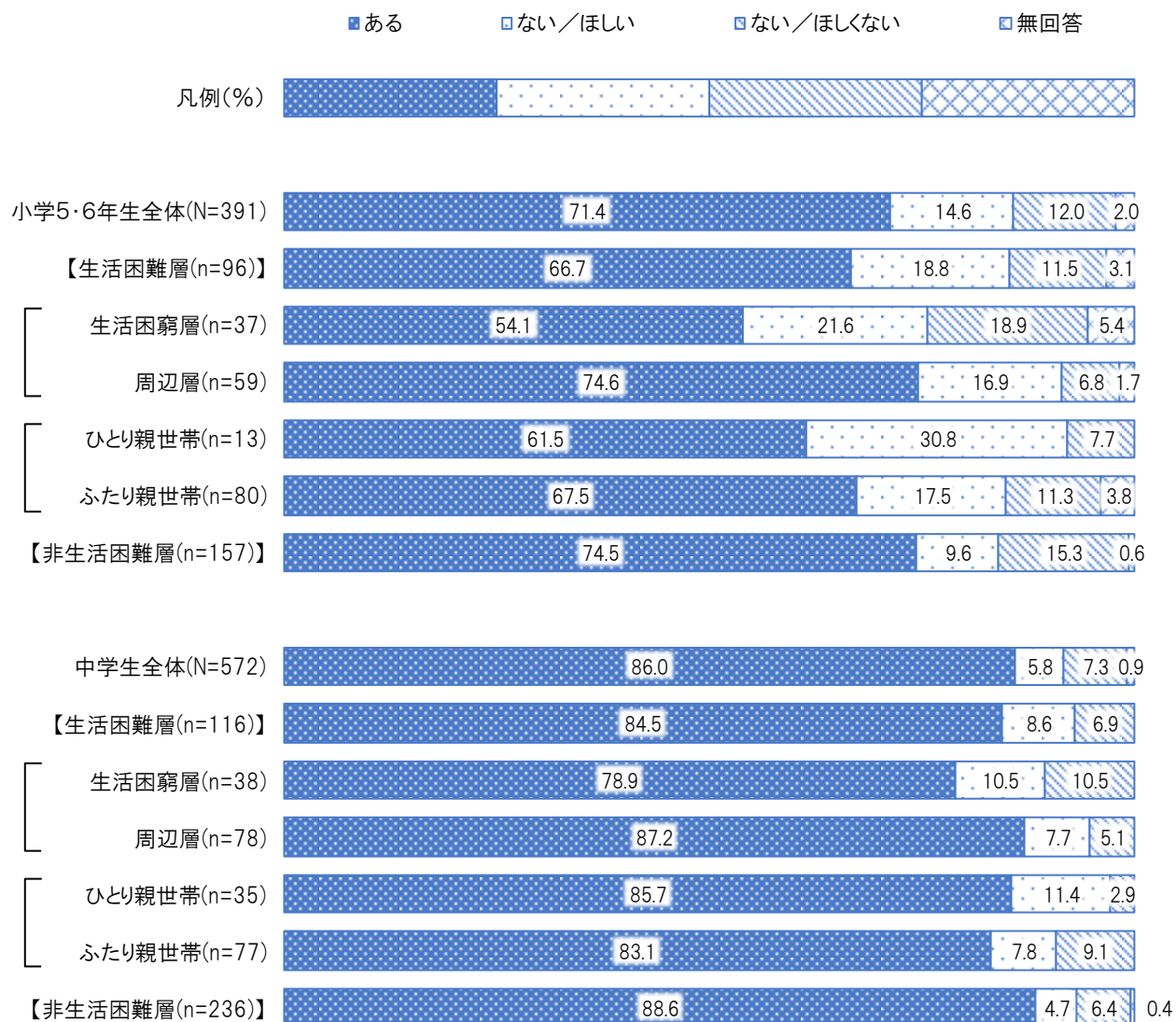
中学生全体では「ない／ほしい」の割合が高い順に「M 携帯電話，スマートフォン」(39.9%)，「N 携帯音楽プレーヤー」(29.0%)，「C (自宅で) インターネットにつながるパソコン」(20.8%) となっている。また，「ない／ほしくない」では「K 友だちが着ているのと同じような服」(32.9%)，「H たいていの友だちが持っているおもちゃ」(29.7%)，「N 携帯音楽プレーヤー」(21.2%) などがあげられる。



A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）

自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%，周辺層で16.9%，「ない／ほしくない」の割合は、生活困窮層で18.9%，周辺層で6.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。

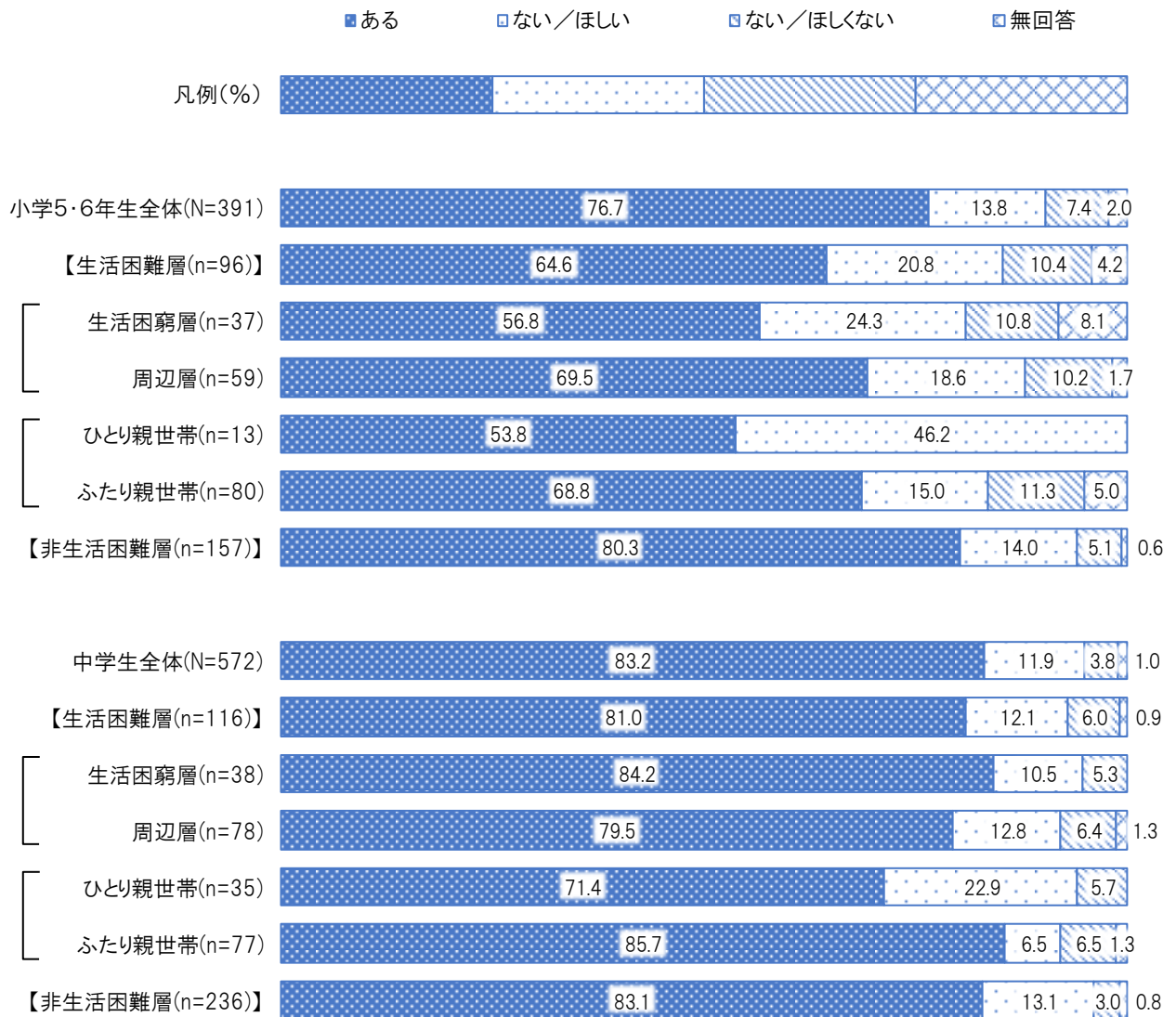
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 子供部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）

子供部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）について「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で56.8%、周辺層で69.5%となっており、生活困窮層で低くなっている。

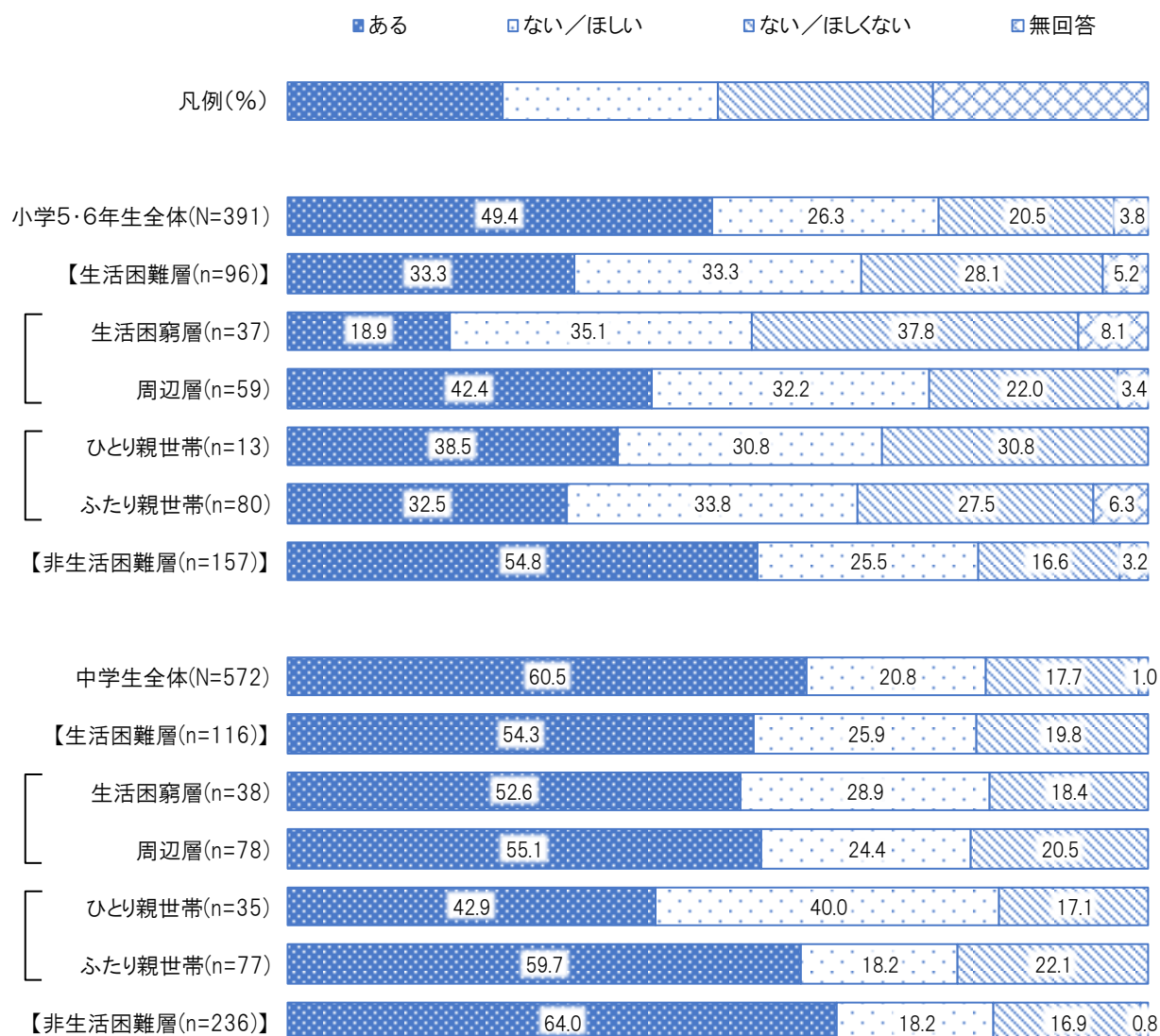
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C (自宅で) インターネットにつながるパソコン

(自宅で) インターネットにつながるパソコンについて「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で42.4%となっており、生活困窮層で低くなっている。

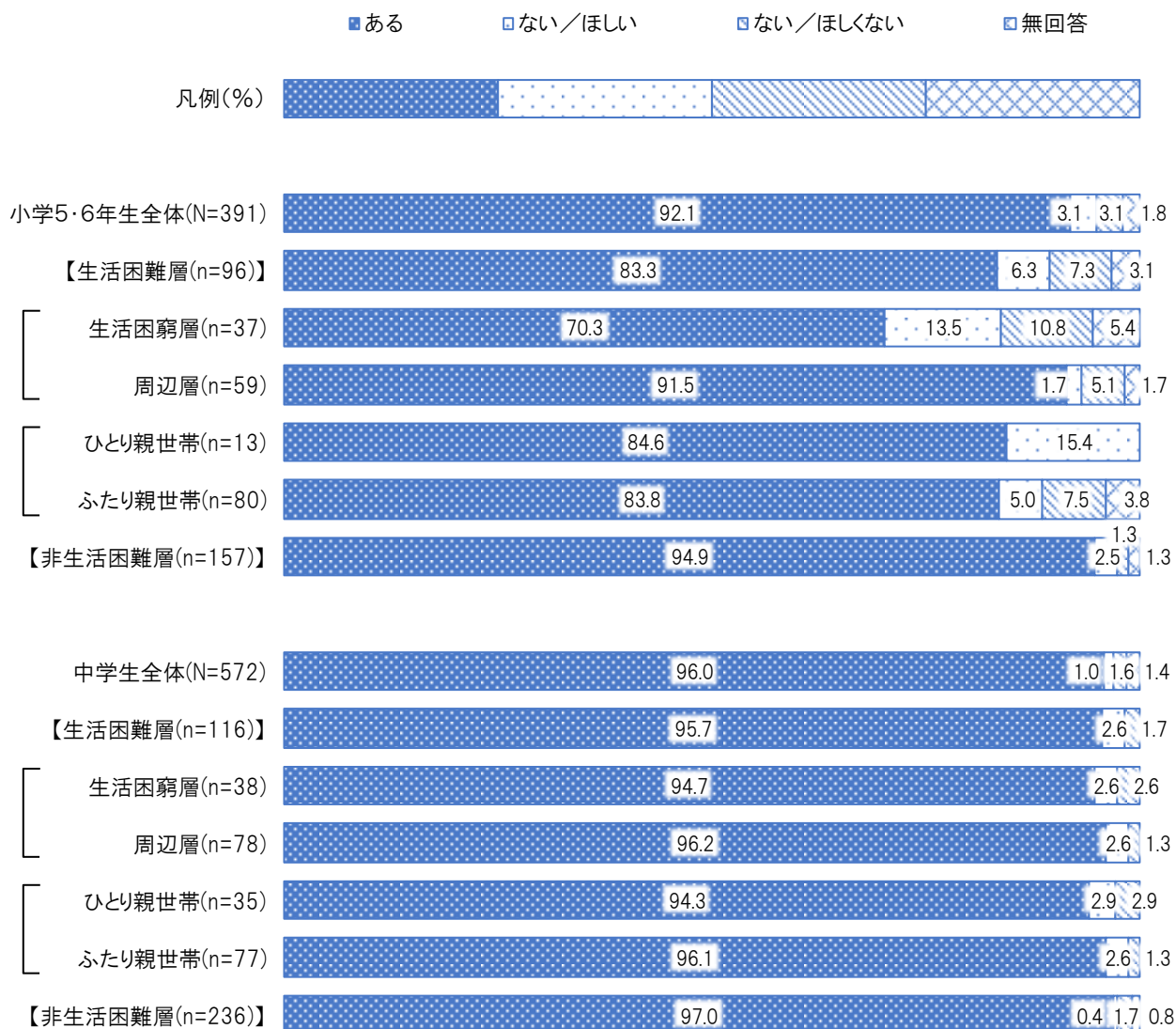
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「ない/ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



D 自宅で宿題をすることができる場所

自宅で宿題をすることができる場所について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%，周辺層で1.7%となっており、生活困窮層で高くなっている。

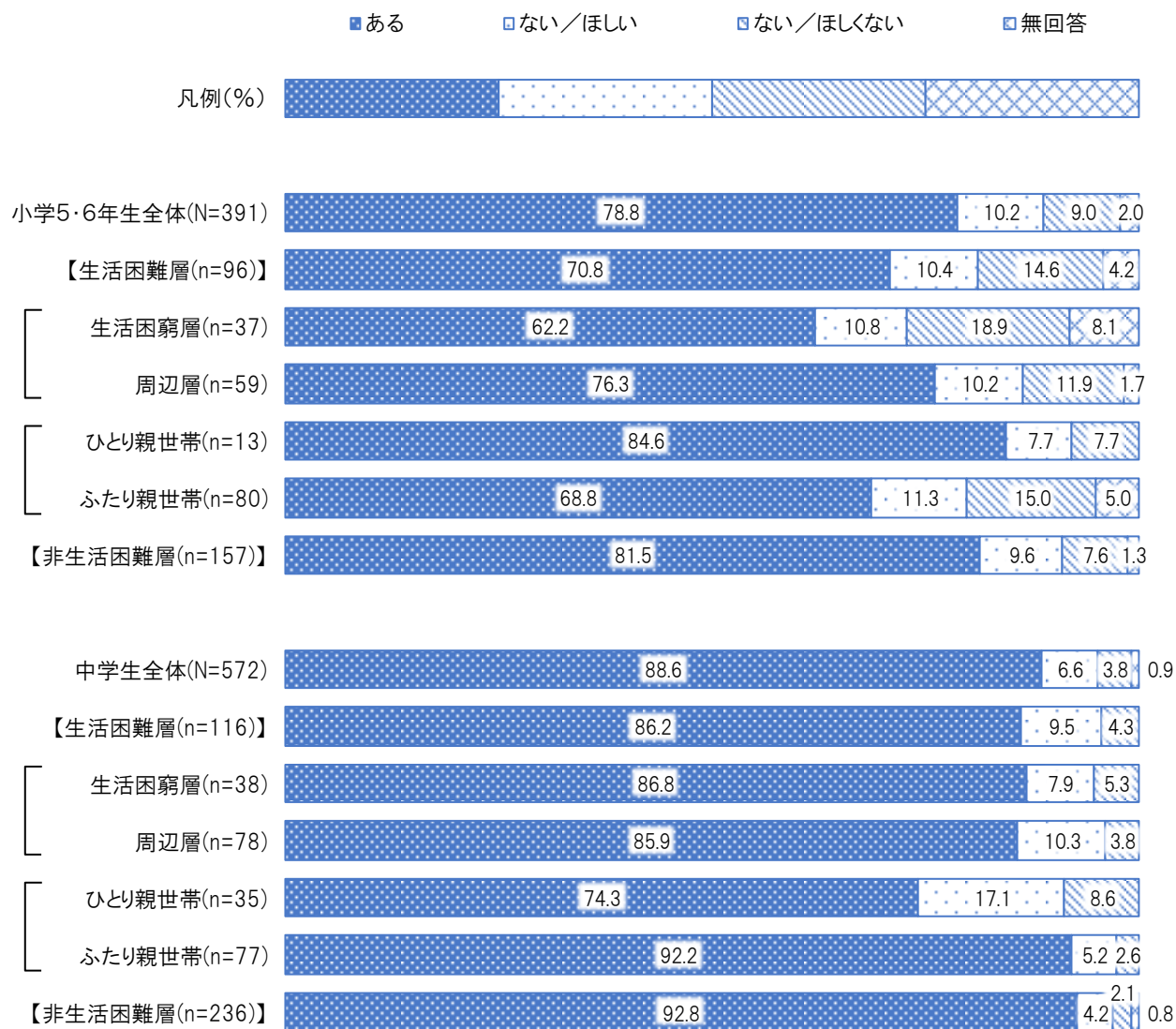
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 自分専用の勉強机

自分専用の勉強机について「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で62.2%、周辺層で76.3%となっており、生活困窮層で低くなっている。

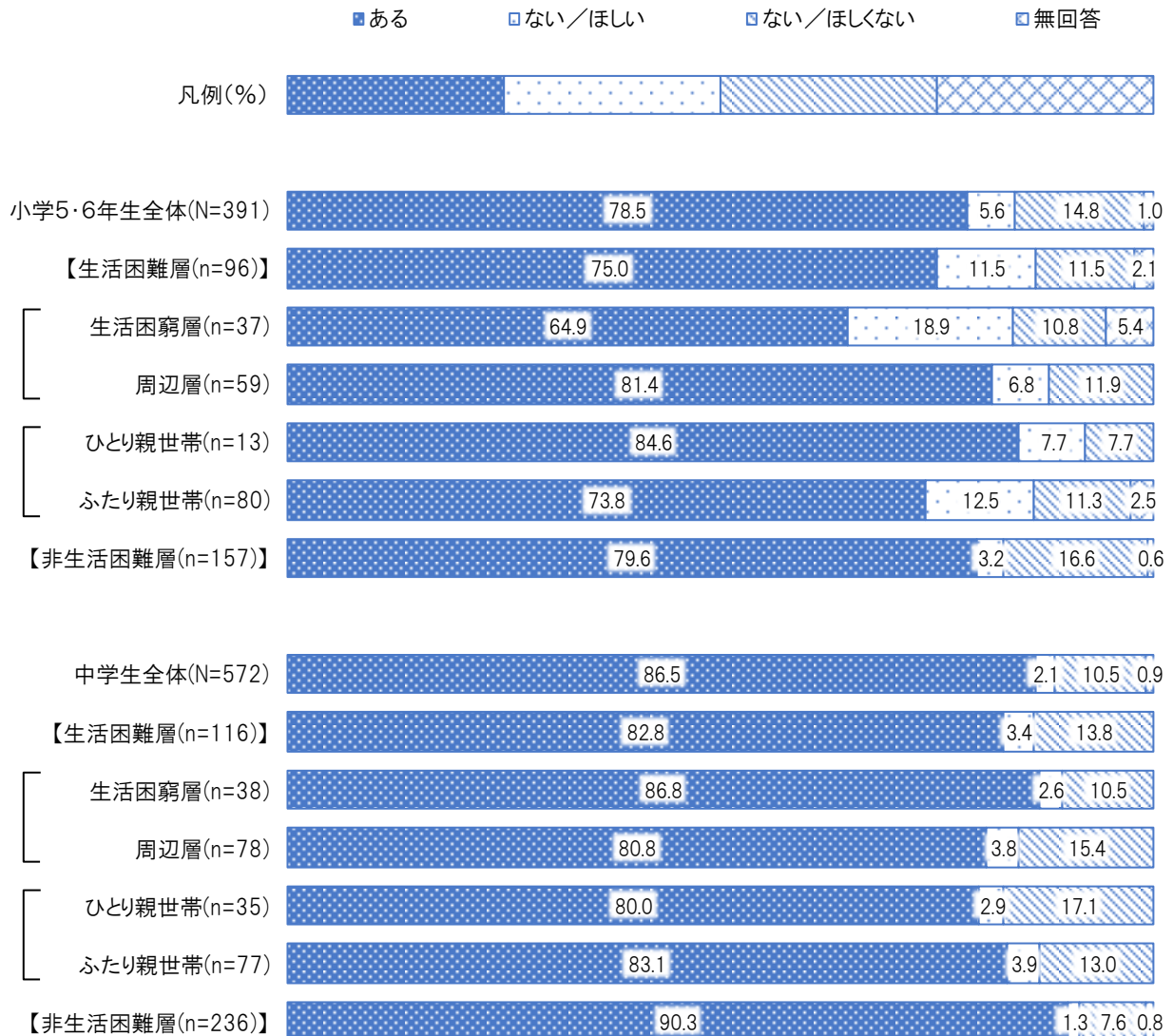
生活困難層世帯タイプ別にみた「ある」の割合は、小学5・6年生ではふたり親世帯、中学生ではひとり親世帯で低くなっている。



F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）

スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で6.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。

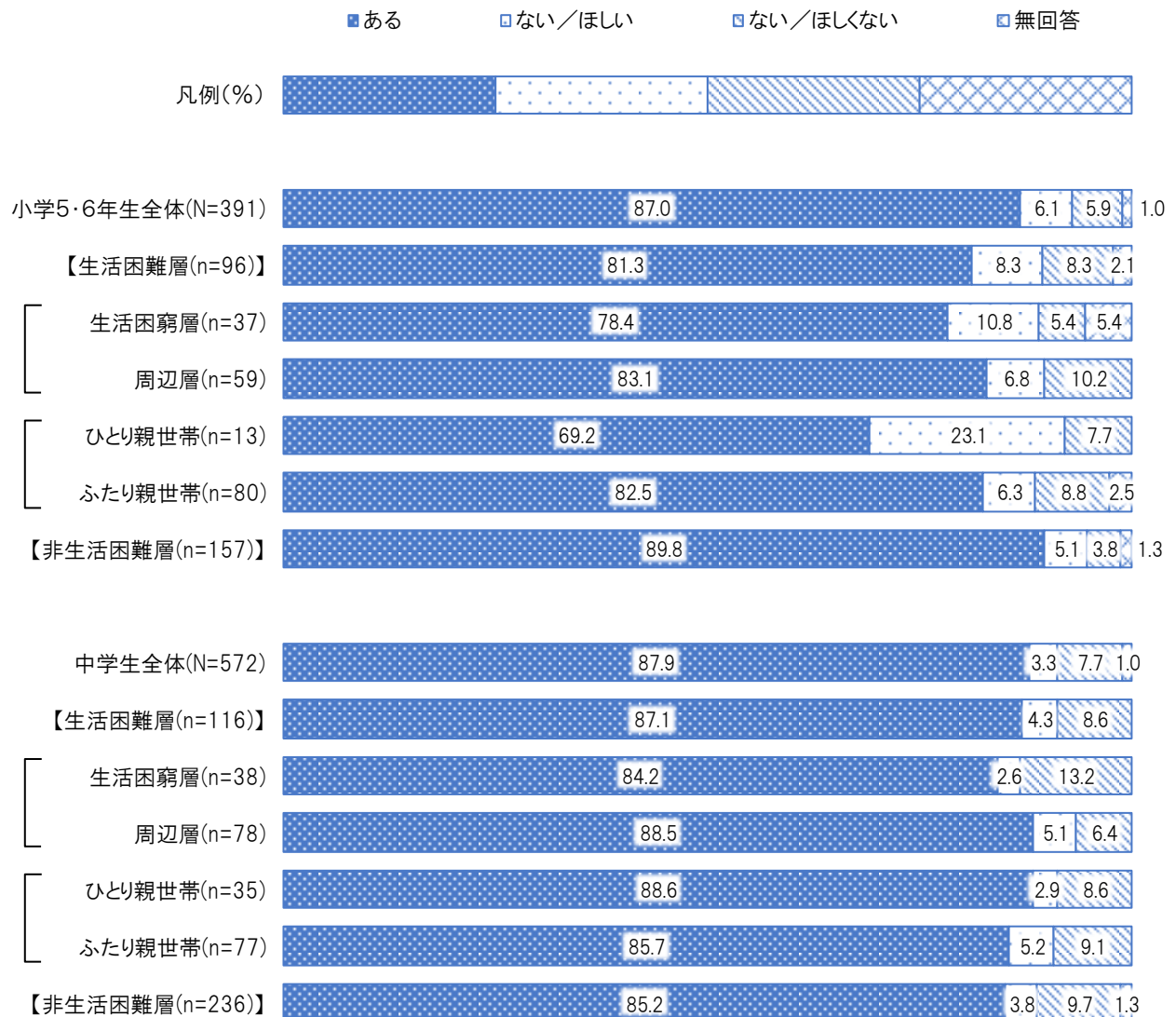
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「ある」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



G ゲーム機

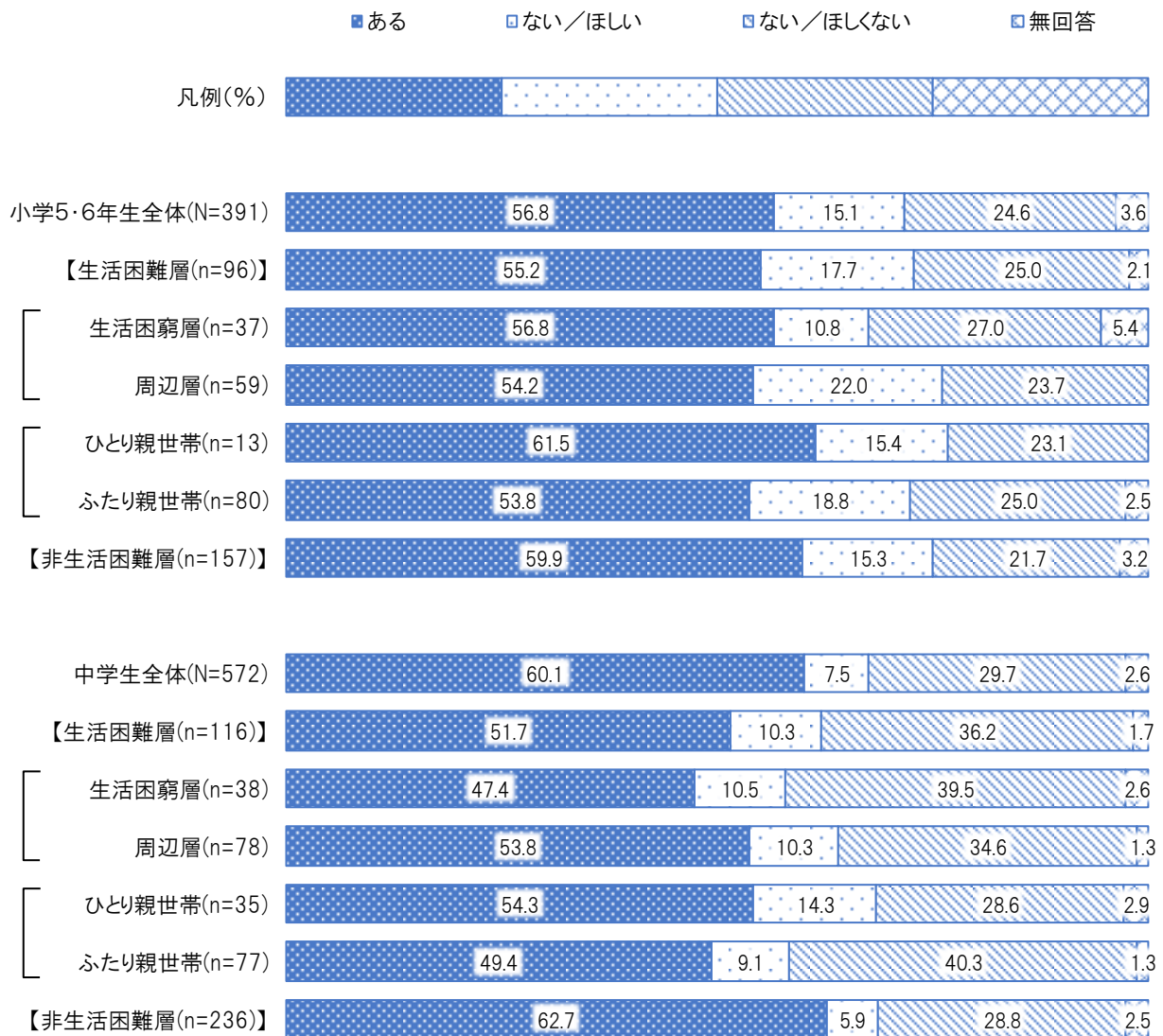
ゲーム機について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で6.8%となっており、生活困窮層でやや高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



H たいていの友だちが持っているおもちゃ

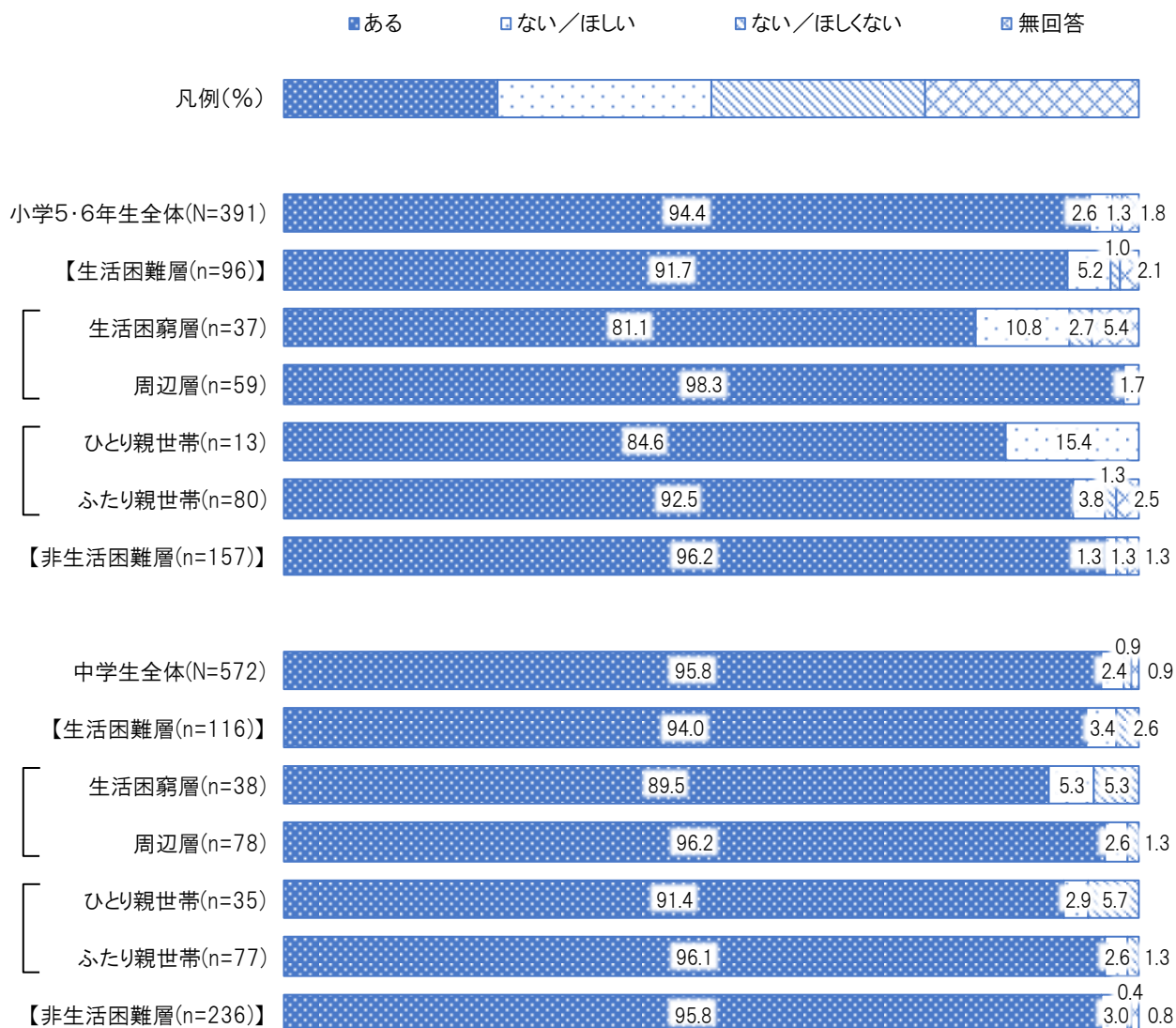
たいていの友だちが持っているおもちゃについて「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%，周辺層で22.0%となっており，周辺層で高くなっている。



I 自転車

自転車について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で1.7%となっており、生活困窮層で高くなっている。

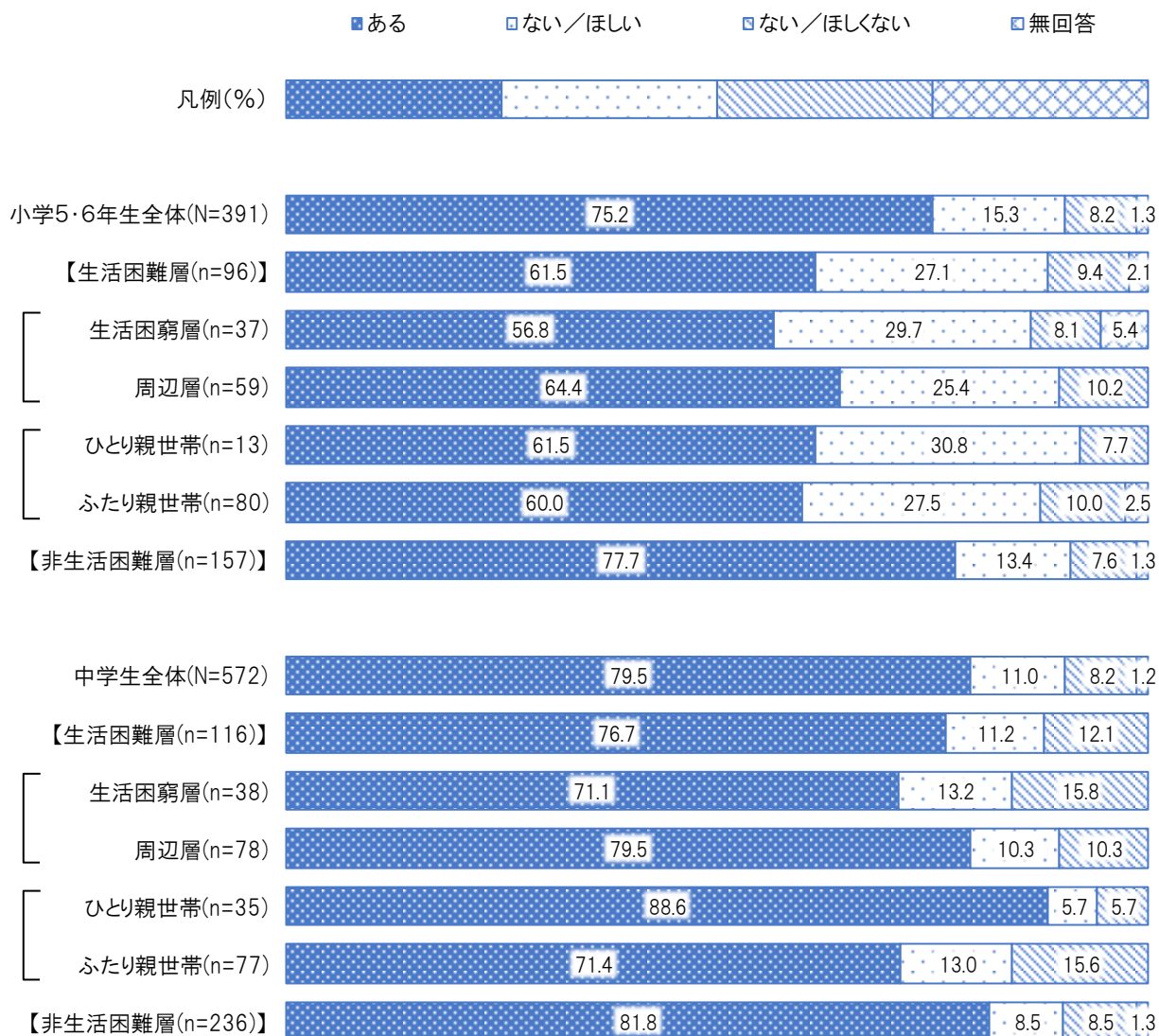
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



J おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかいについて「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で56.8%、周辺層で64.4%、中学生では、生活困窮層で71.1%、周辺層で79.5%となっており、生活困窮層で低くなっている。

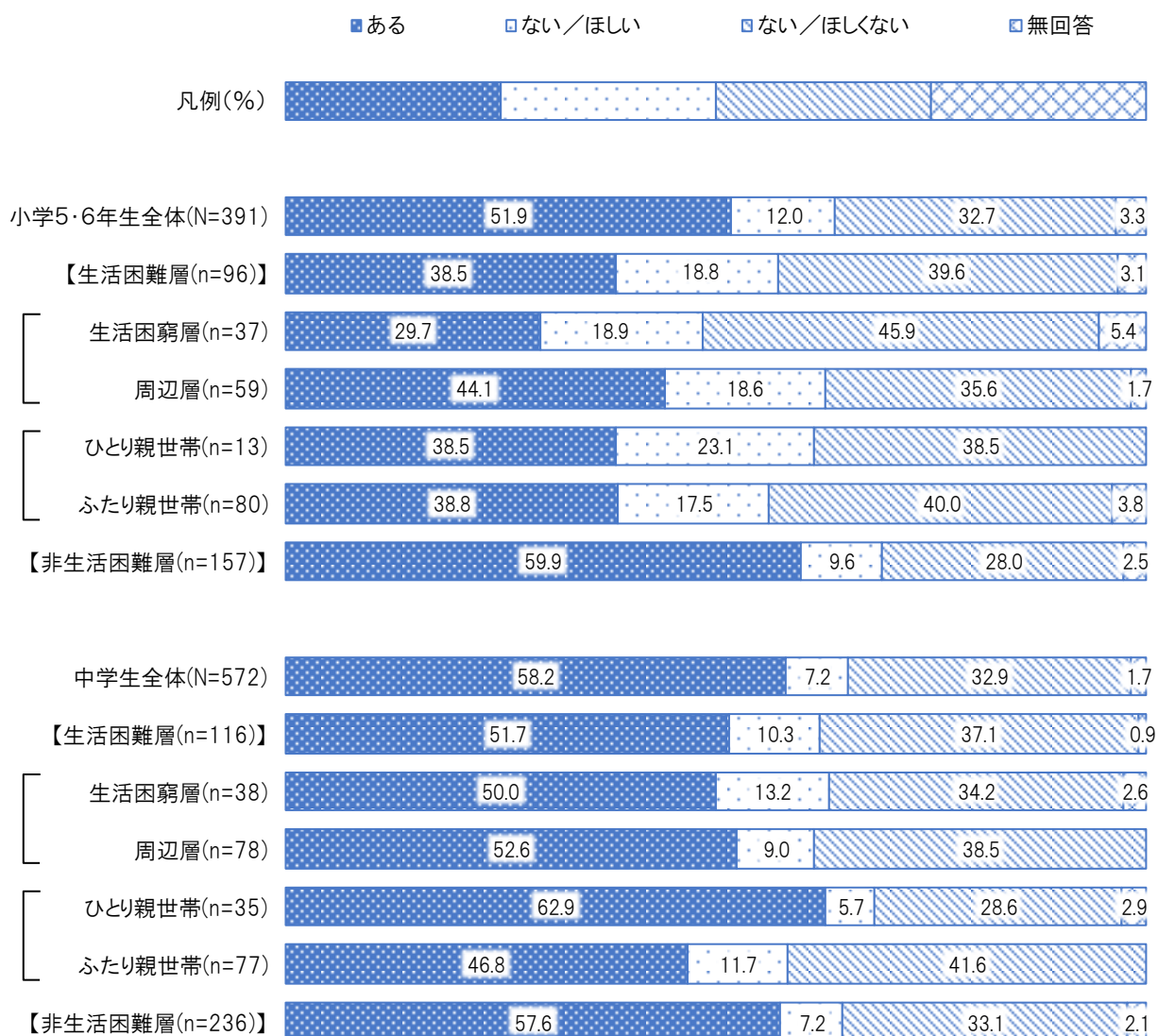
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「ある」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



K 友だちが着ているのと同じような服

友だちが着ているのと同じような服について「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%，周辺層で44.1%となっており、生活困窮層で低くなっている。

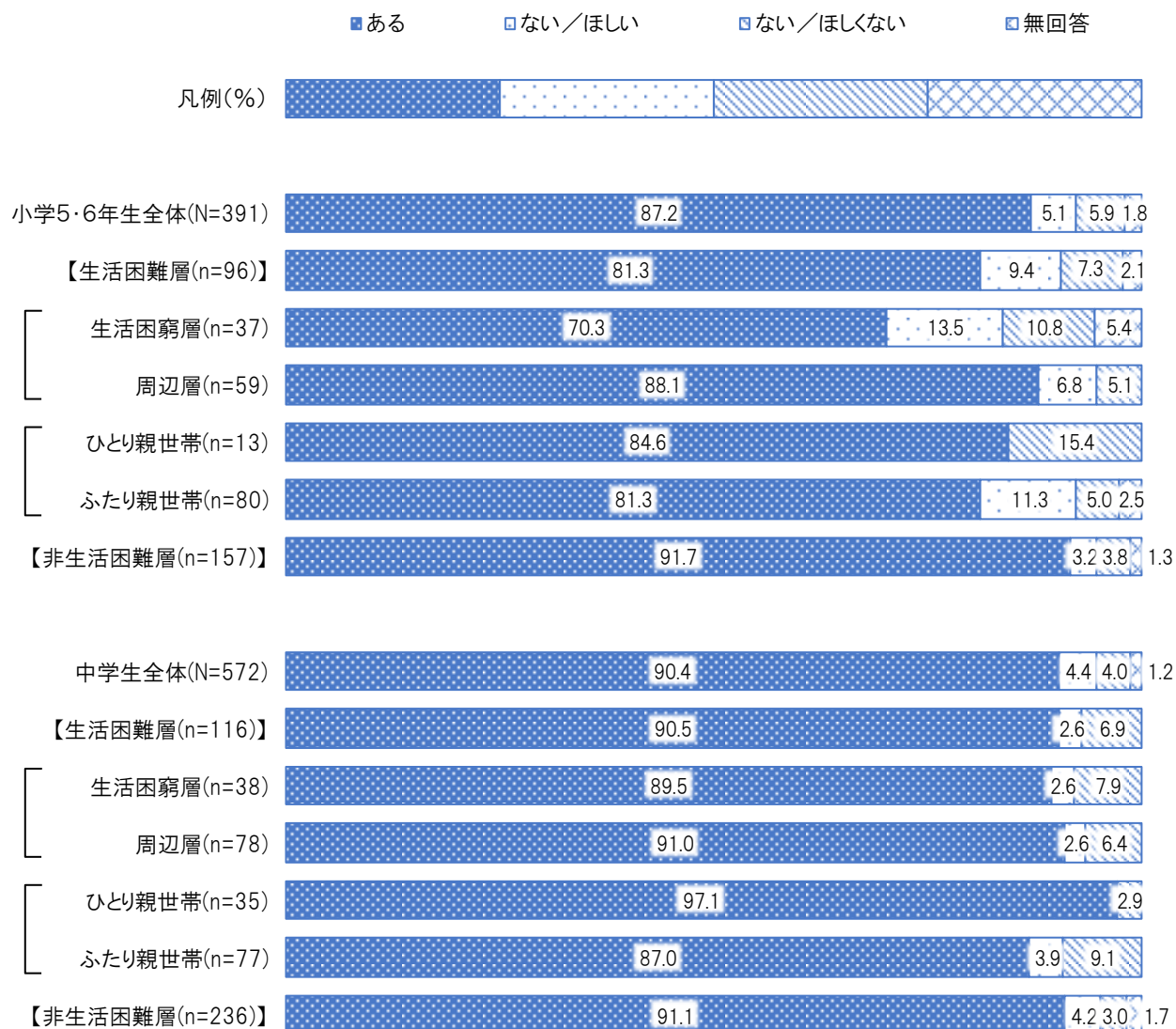
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「ある」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



L 2以上のサイズのあった靴

2以上のサイズのあった靴について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%，周辺層で6.8%となっており，生活困窮層でやや高くなっている。

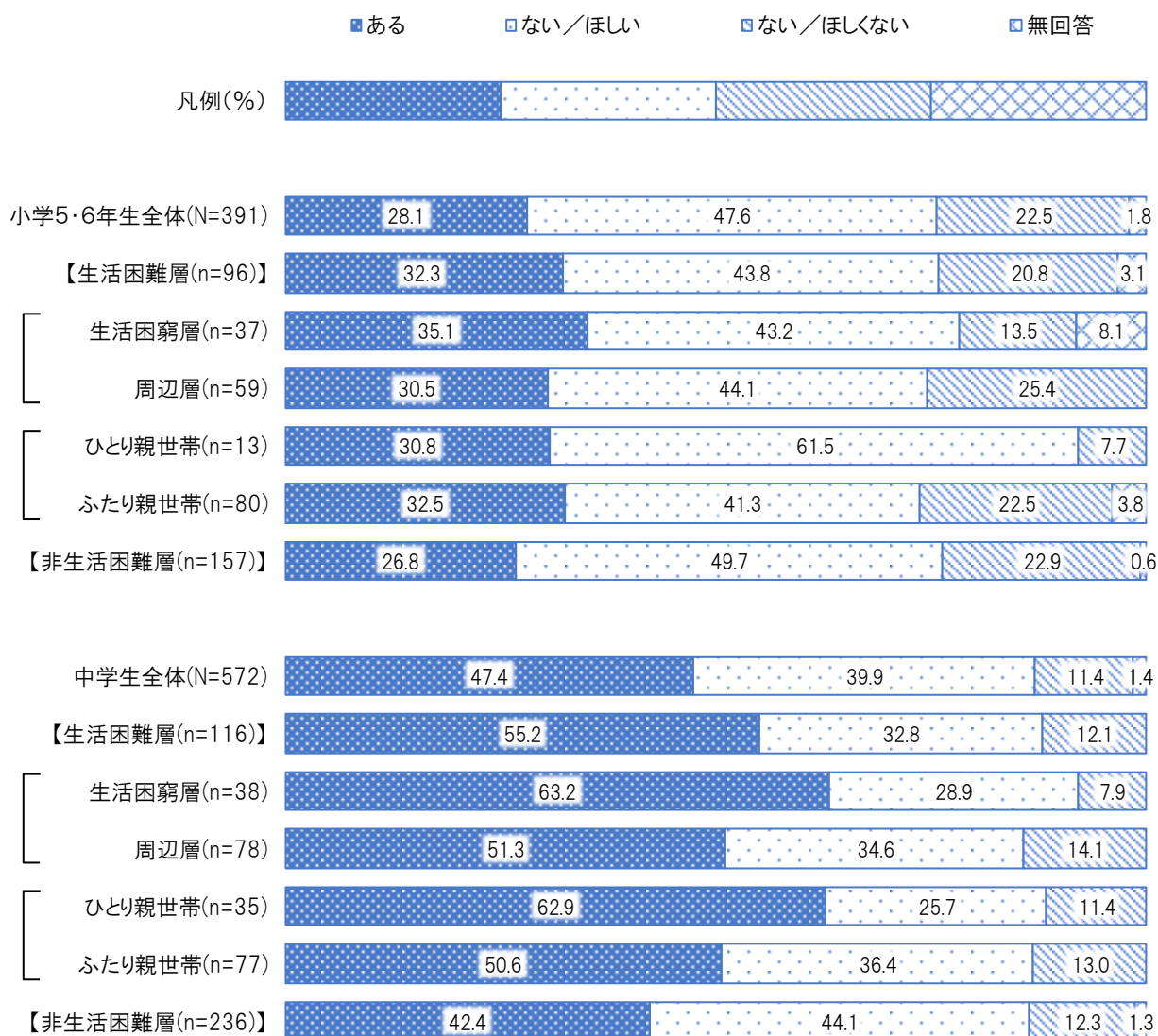
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のふたり親世帯で「ない／ほしい」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



M 携帯電話，スマートフォン

携帯電話，スマートフォンについて「ある」の割合は，小学5・6年生の生活困窮層で35.1%，周辺層で30.5%，中学生では，生活困窮層で63.2%，周辺層で51.3%となっており，生活困窮層で高くなっている。

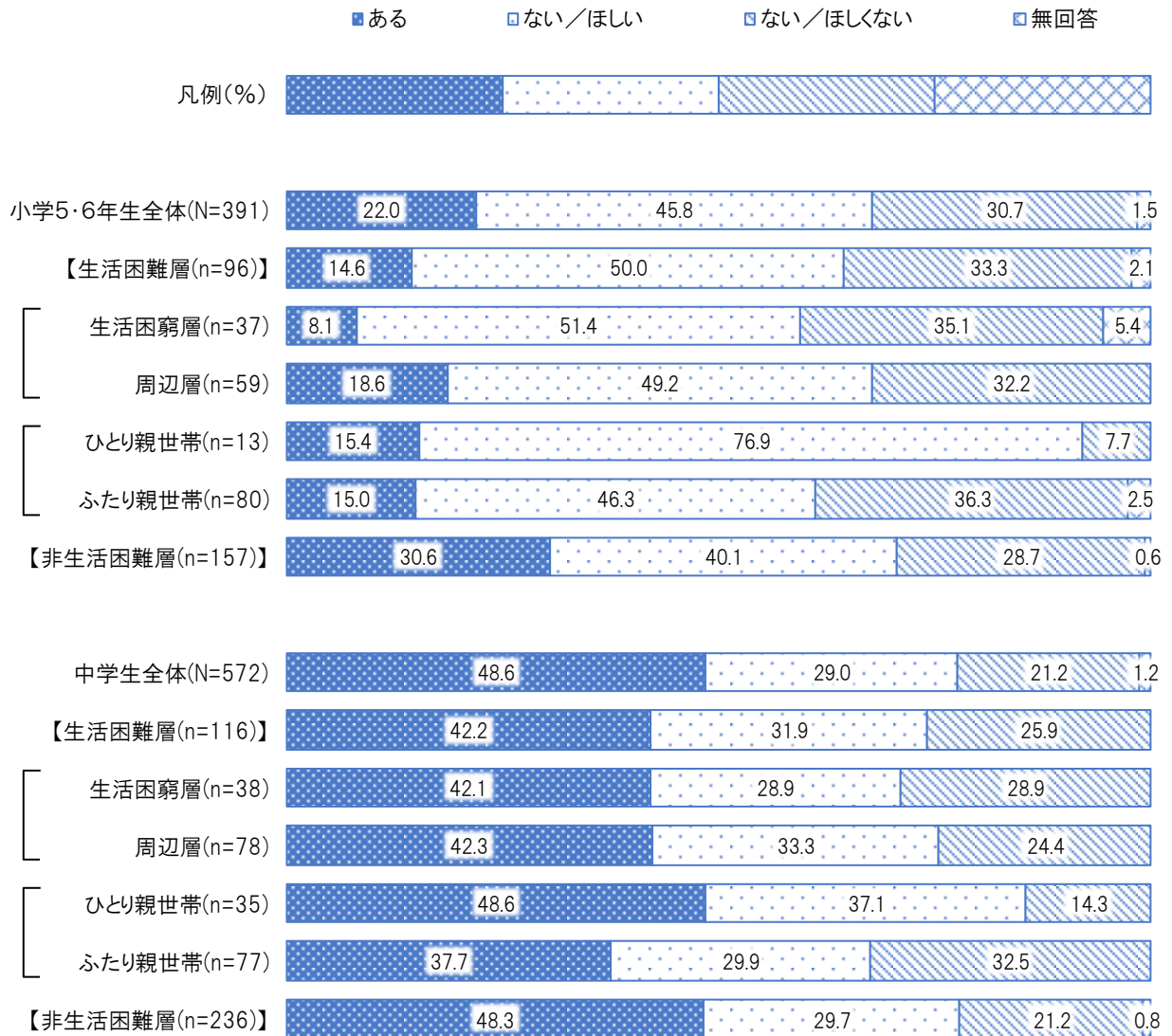
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。一方，中学生のふたり親世帯で「ない／ほしい」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



N 携帯音楽プレーヤー

携帯音楽プレーヤーについて「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で8.1%、周辺層で18.6%となっており、生活困窮層で低くなっている。

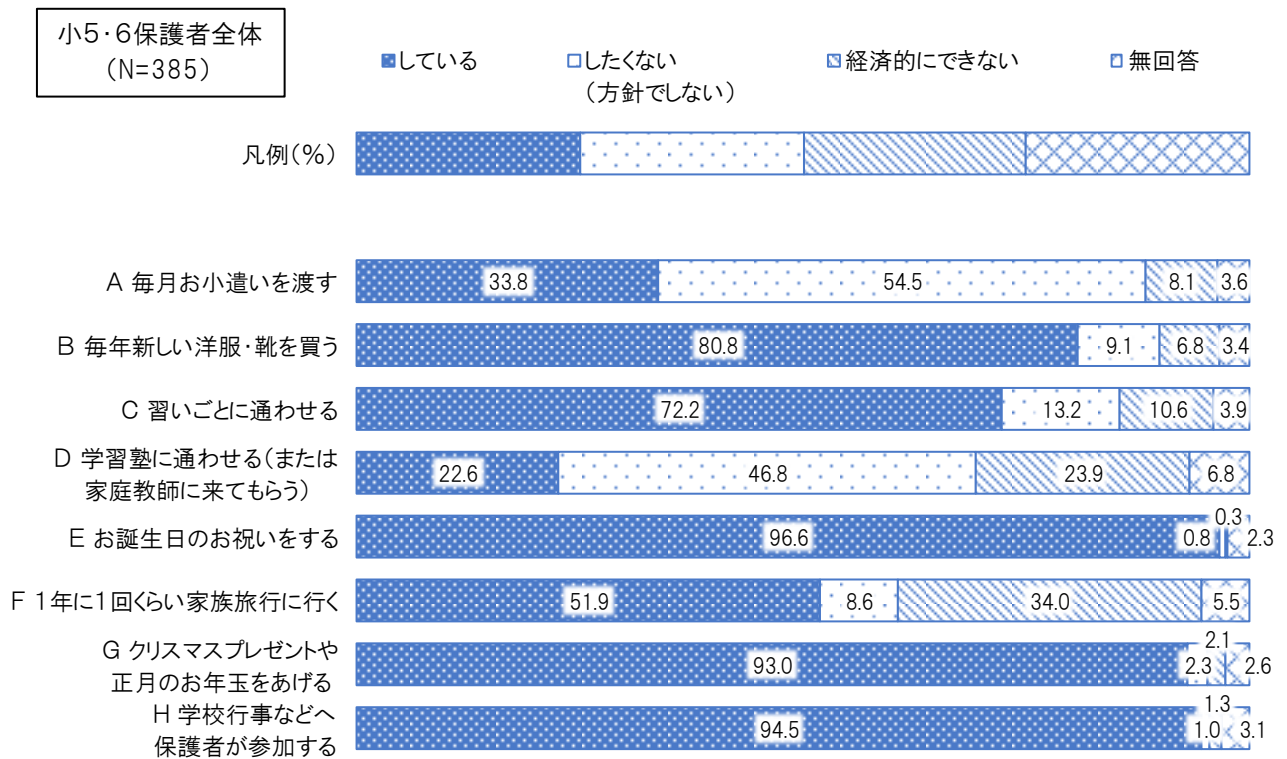
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



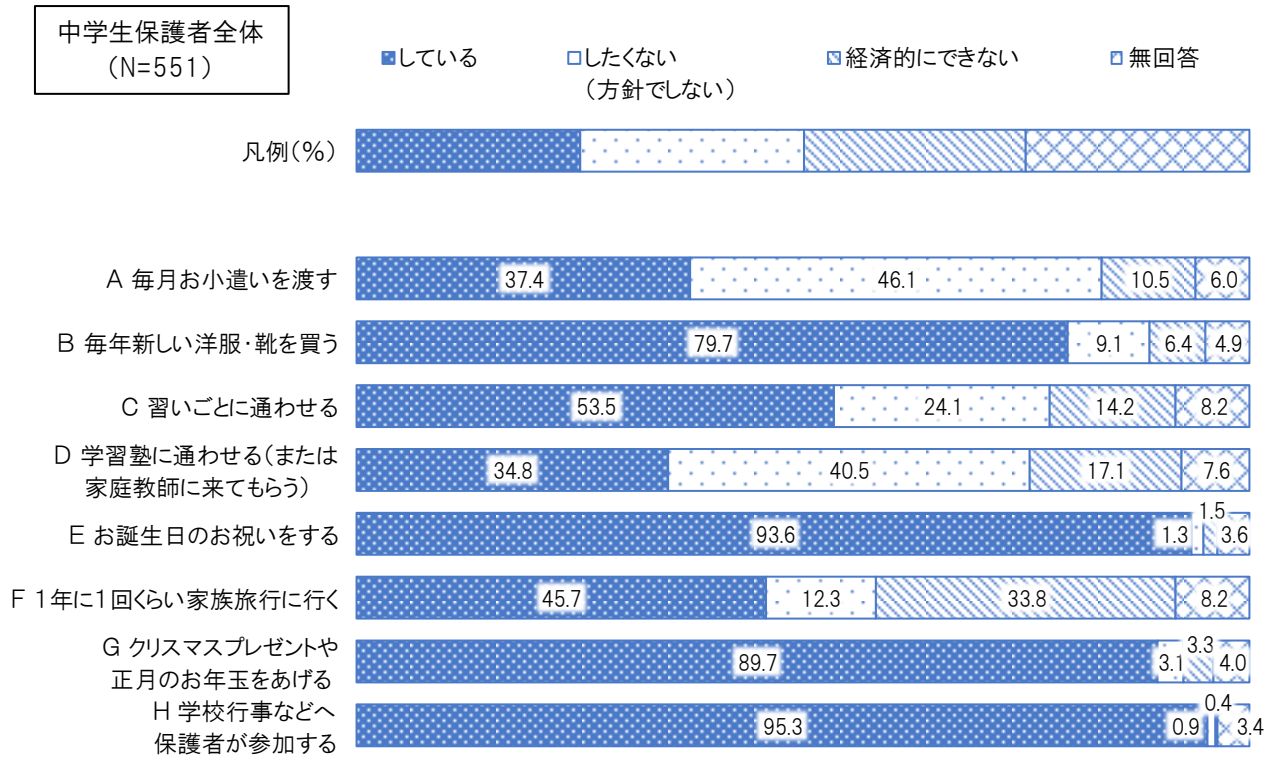
(2) 子供への支出

保／問 35 あなたの家庭では、お子さんに下のことをしていますか。A～Hについて、「1 している」「2 していない、したくない（方針でしない）」「3 していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

子供への支出については、小学5・6年保護者全体では「経済的にできない」の割合が高い順に「F 1年に1回くらい家族旅行に行く」(34.0%)、「D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」(23.9%)となっている。また、「したくない（方針でしない）」では「A 毎月お小遣いを渡す」(54.5%)、「D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」(46.8%)などがあげられる。

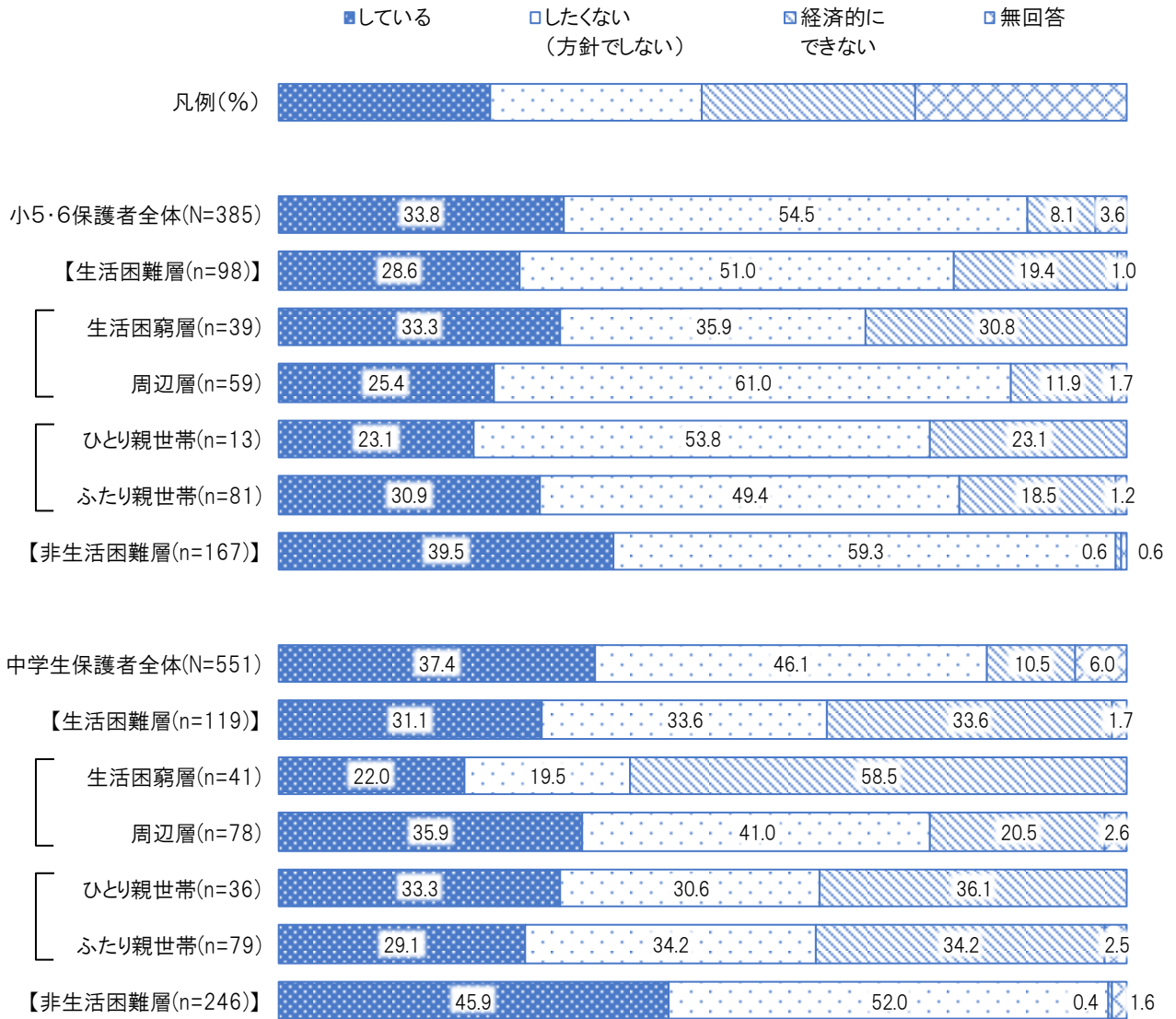


中学生保護者全体では「経済的にできない」の割合が高い順に「F 1年に1回くらい家族旅行に行く」(33.8%),「D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」(17.1%),「C 習いごとに通わせる」(14.2%)となっている。また、「したくない(方針でしない)」では「A 毎月お小遣いを渡す」(46.1%),「D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」(40.5%),「C 習いごとに通わせる」(24.1%)などがあげられる。



A 毎月お小遣いを渡す

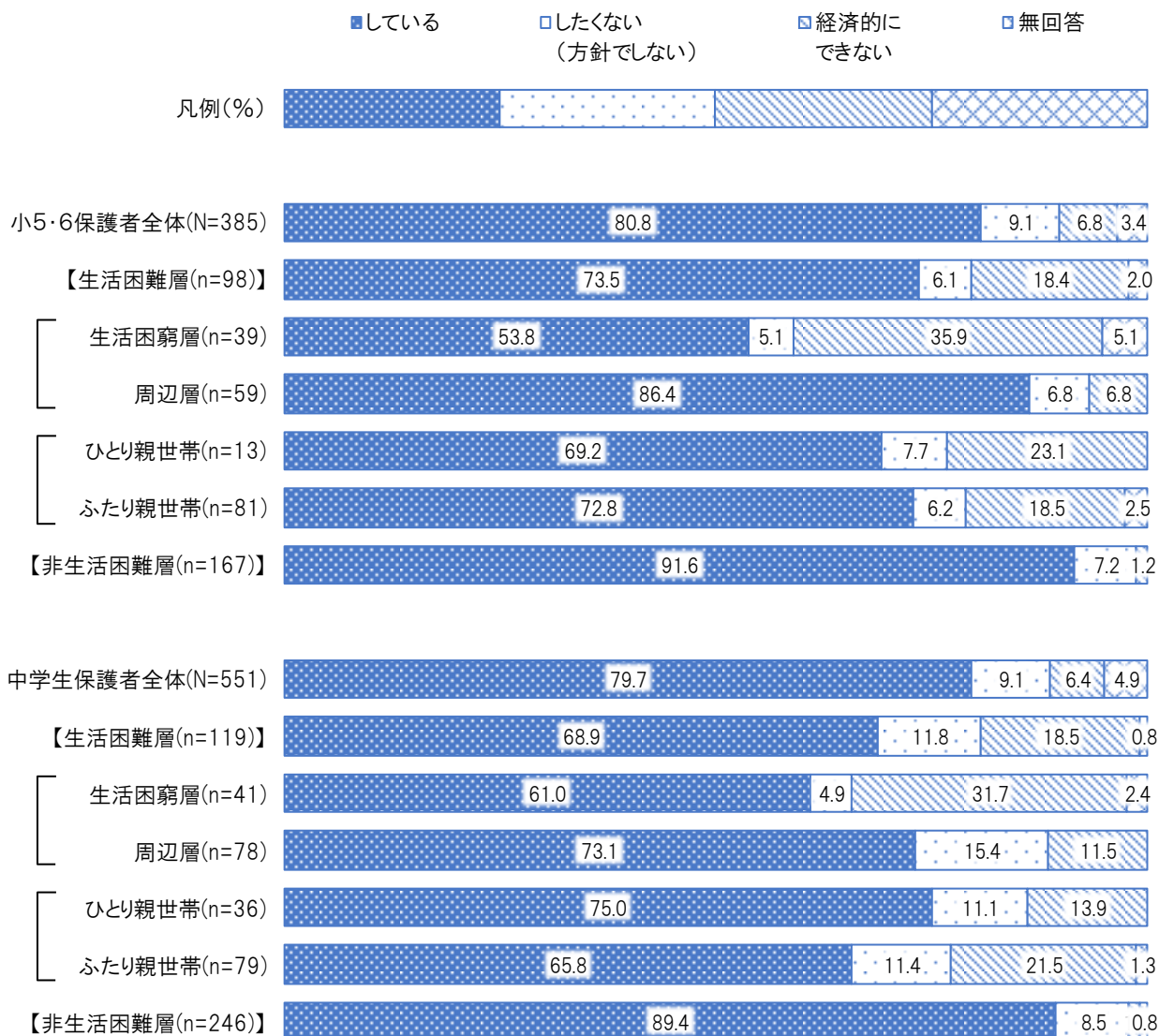
毎月お小遣いを渡すことについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で30.8%、周辺層で11.9%、中学生保護者では、生活困窮層で58.5%、周辺層で20.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。



B 毎年新しい洋服・靴を買う

毎年新しい洋服・靴を買うことについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困難層で35.9%、周辺層で6.8%、中学生保護者では、生活困難層で31.7%、周辺層で11.5%となっており、生活困難層で高くなっている。

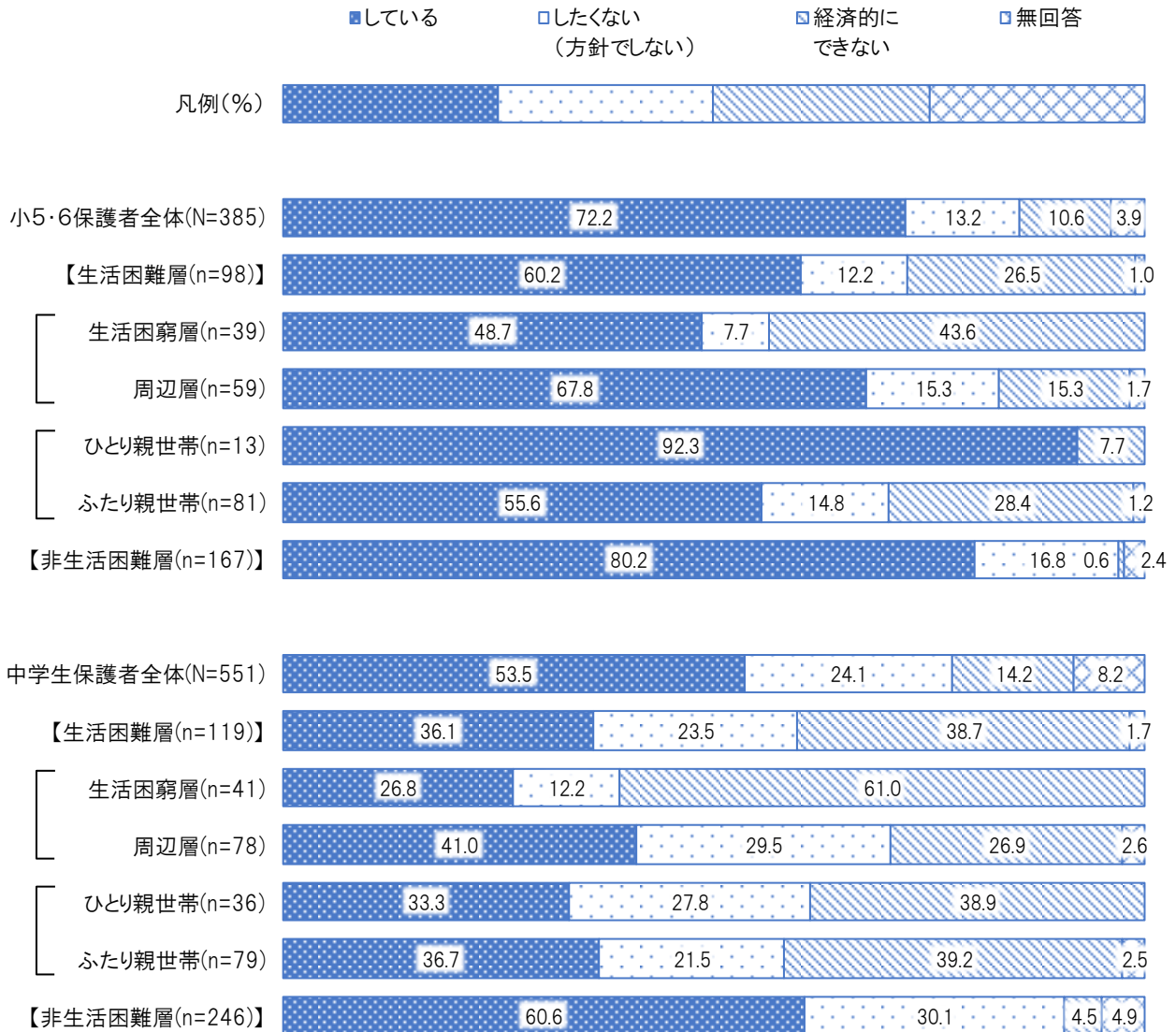
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のふたり親世帯で「経済的にできない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C 習いごとに通わせる

習いごとに通わせることについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で15.3%、中学生保護者では、生活困窮層で61.0%、周辺層で26.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

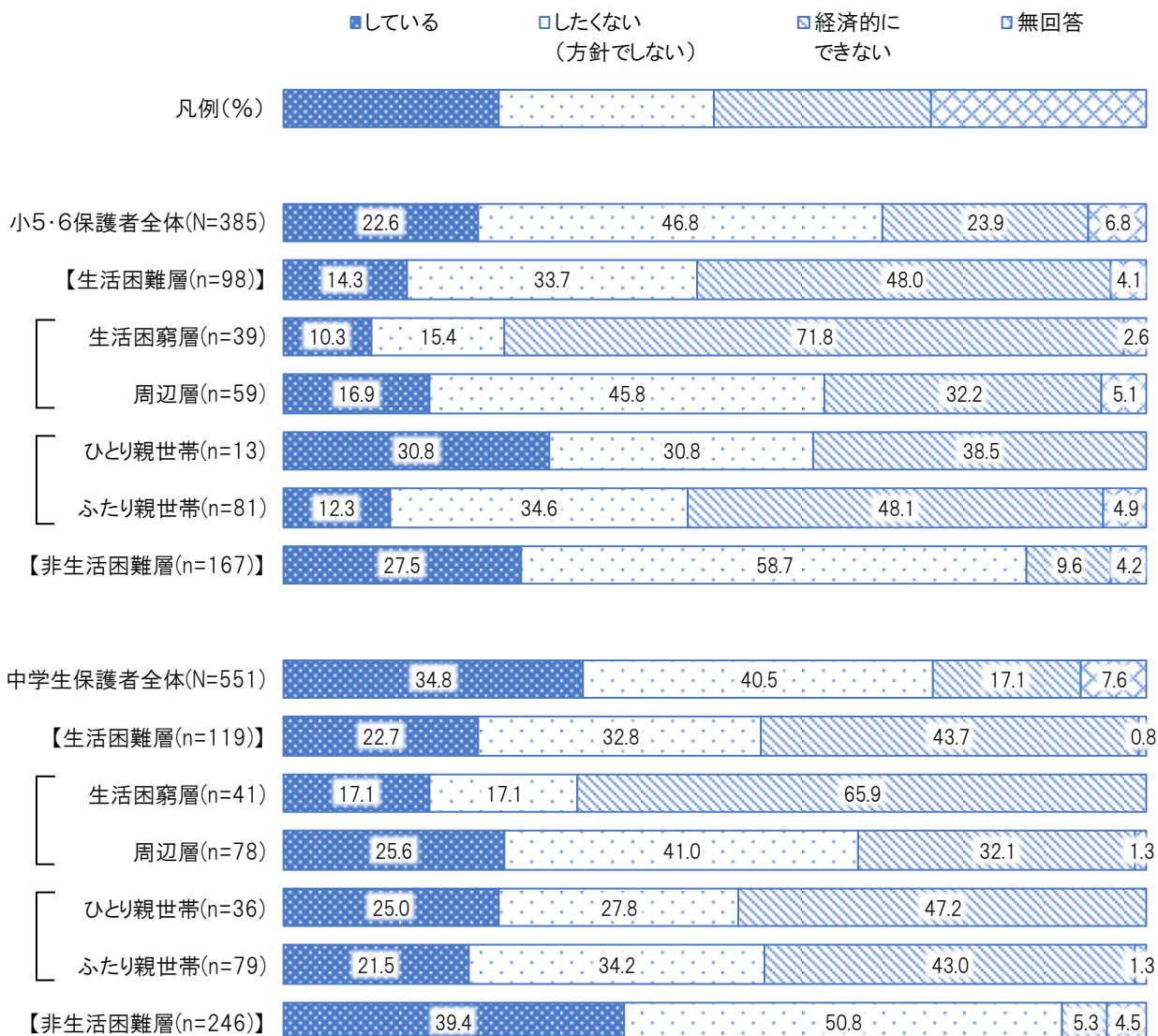
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「経済的にできない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）

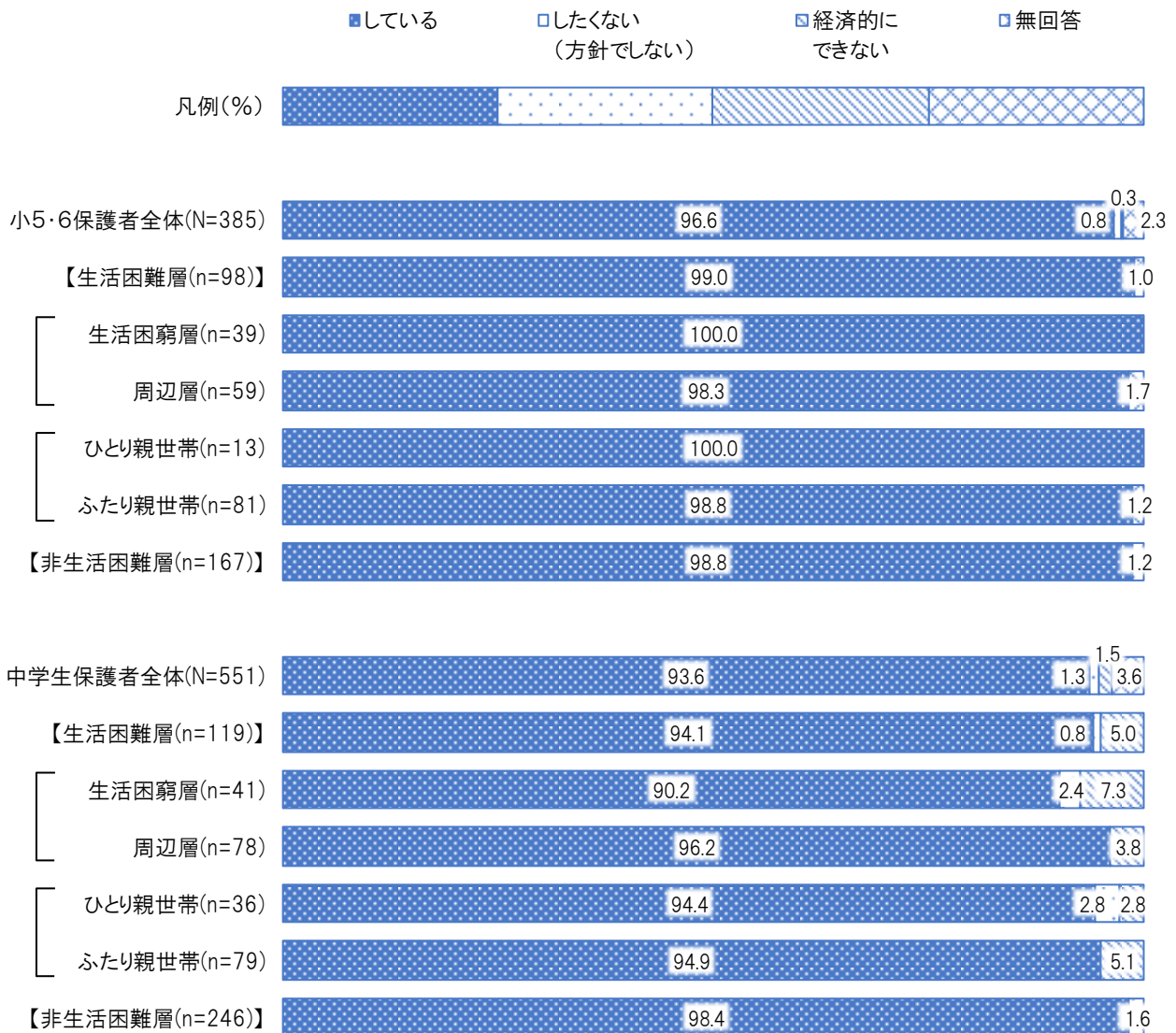
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）ことについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で71.8%、周辺層で32.2%、中学生保護者では、生活困窮層で65.9%、周辺層で32.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「経済的にできない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



E お誕生日のお祝いをする

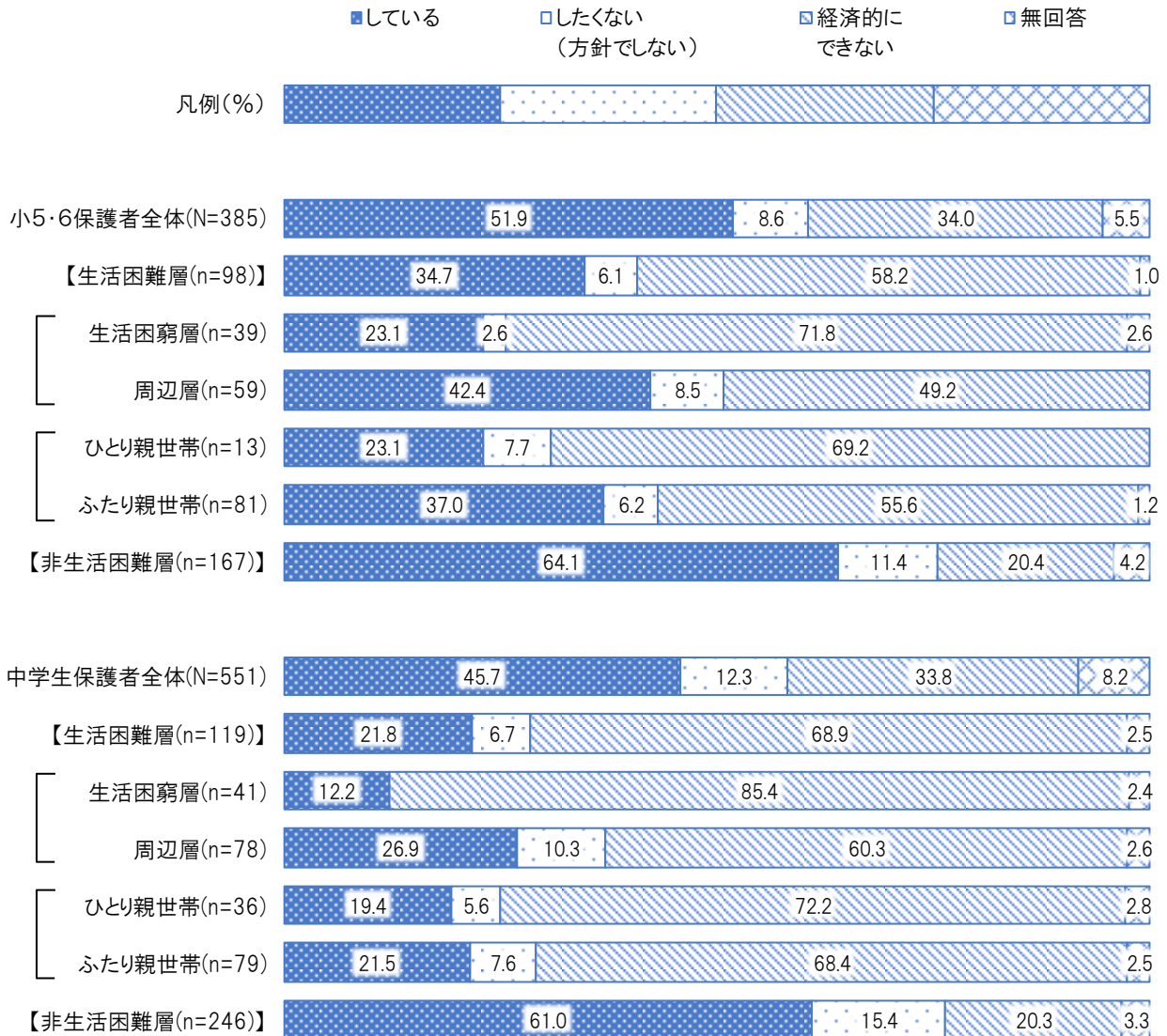
お誕生日のお祝いをするについては「している」が大半を占めている。



F 1年に1回くらい家族旅行に行く

1年に1回くらい家族旅行に行くことについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で71.8%、周辺層で49.2%、中学生保護者では、生活困窮層で85.4%、周辺層で60.3%となっており、生活困窮層で高くなっている。

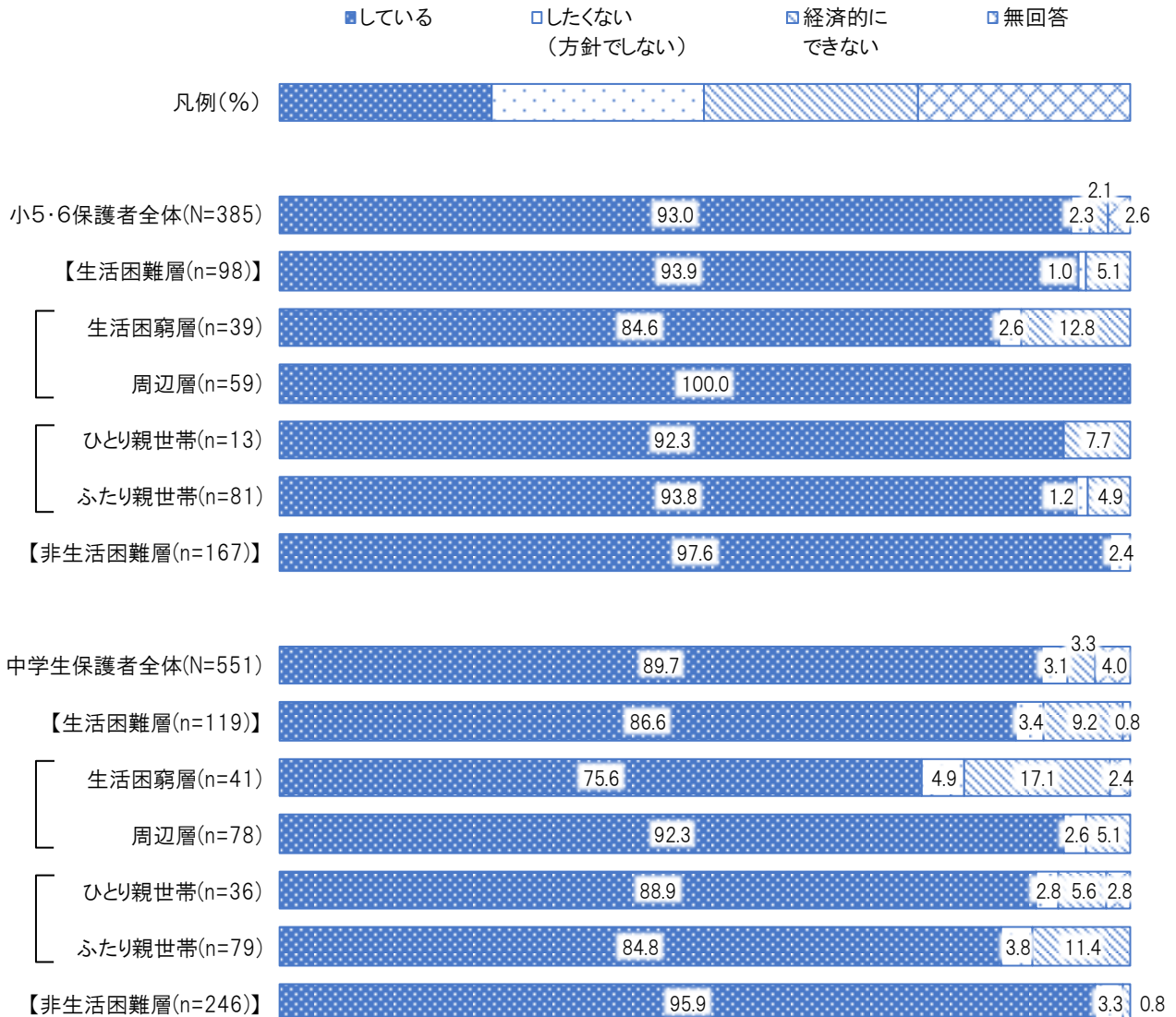
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「経済的にできない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



G クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげる

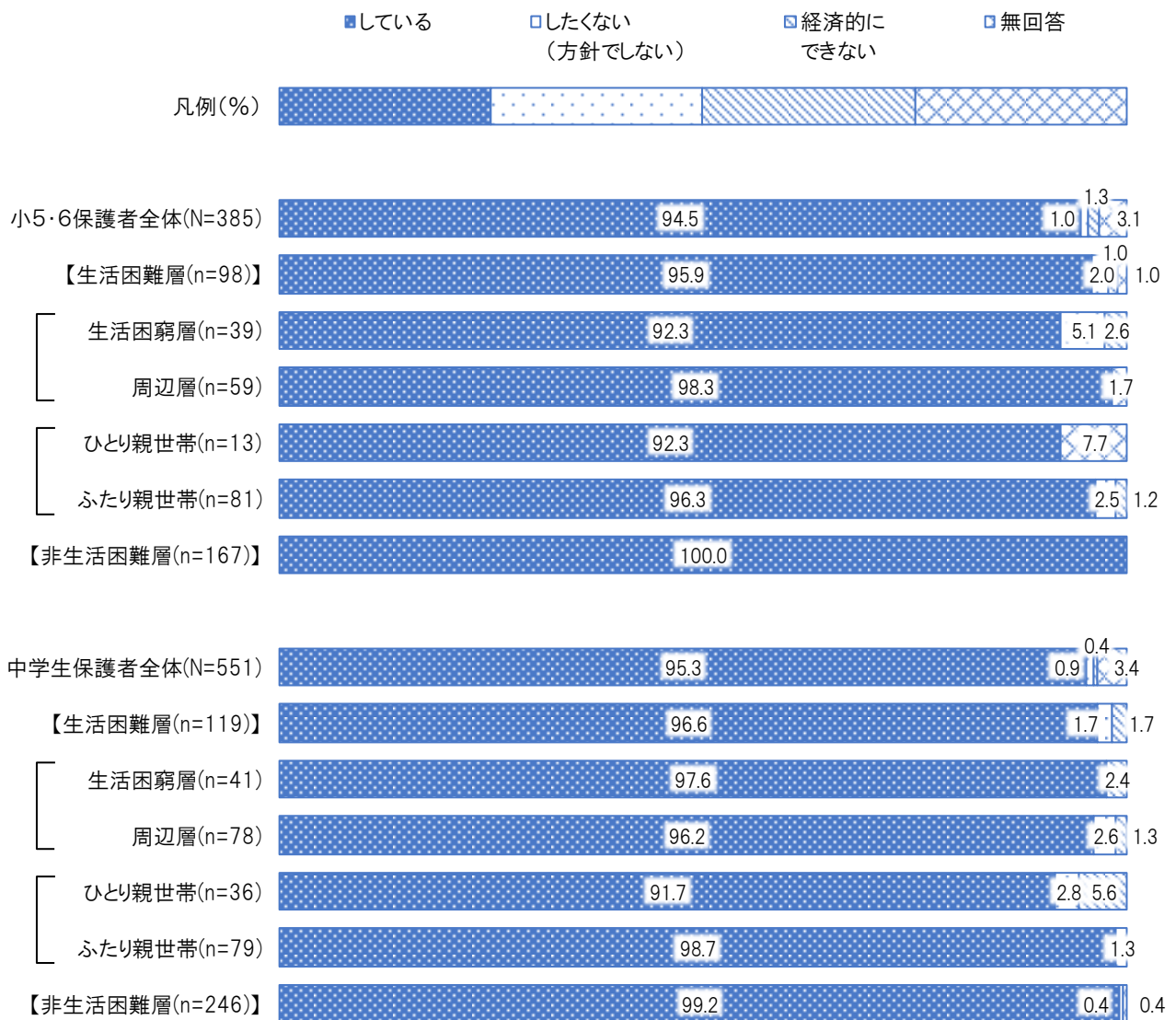
クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげることについて「経済的にできない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で 12.8%，中学生保護者で 17.1%となっており，生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では，中学生保護者のひとり親世帯で「経済的にできない」の割合がひとり親世帯に比べてやや高くなっている。



H 学校行事などへ保護者が参加する

学校行事などへ保護者が参加することについては「している」が大半を占めている。

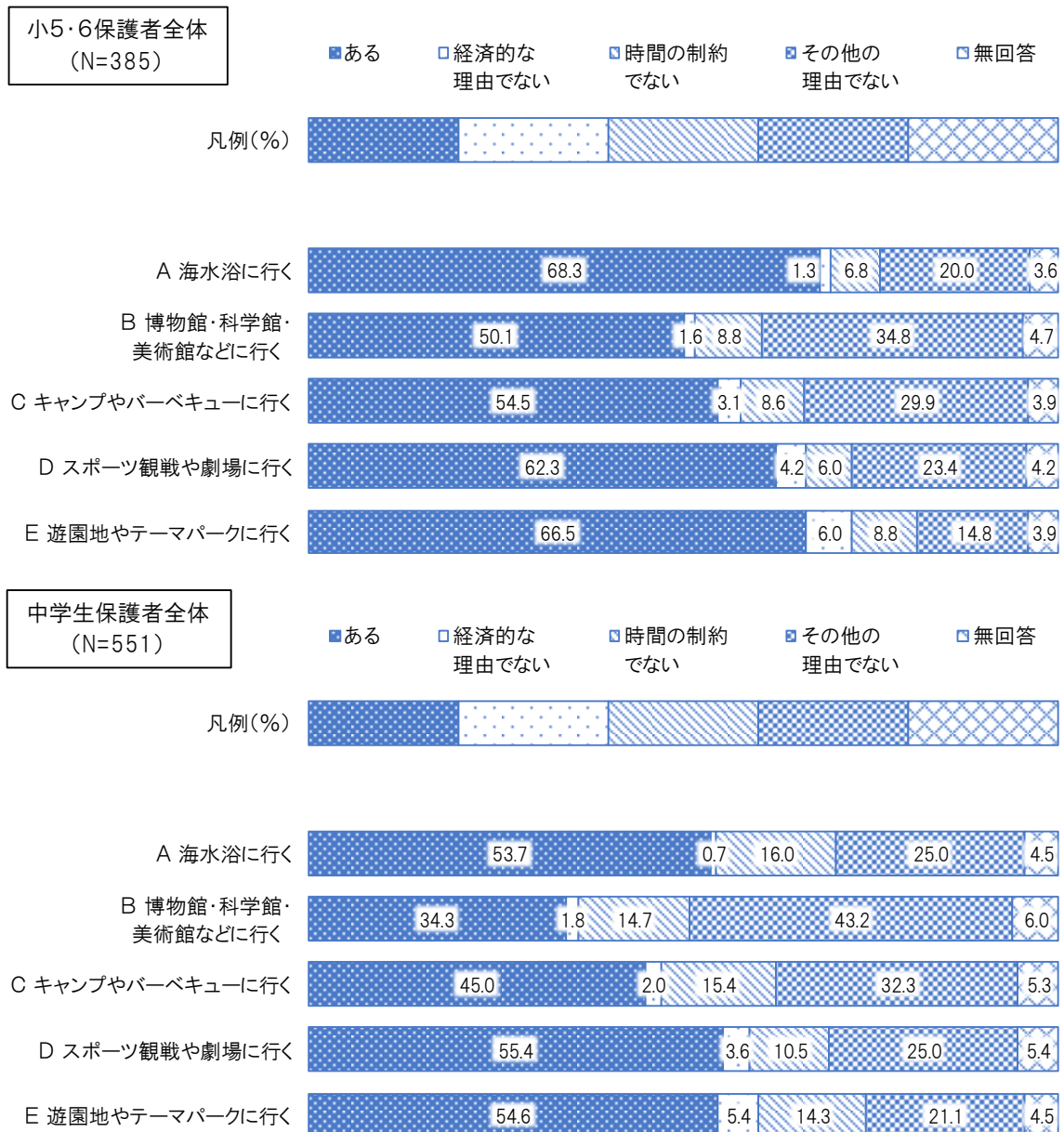


(3) 子供の体験

保/問 27 あなたの家庭では、お子さんと次のような体験をすることができますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

子供の体験については、小学5・6年保護者全体では「経済的な理由でない」の割合が高い順に「E 遊園地やテーマパークに行く」(6.0%),「D スポーツ観戦や劇場に行く」(4.2%)となっている。また、「時間の制約でない」では「B 博物館・科学館・美術館などに行く」「E 遊園地やテーマパークに行く」(各 8.8%),「C キャンプやバーベキューに行く」(8.6%)などがあげられる。

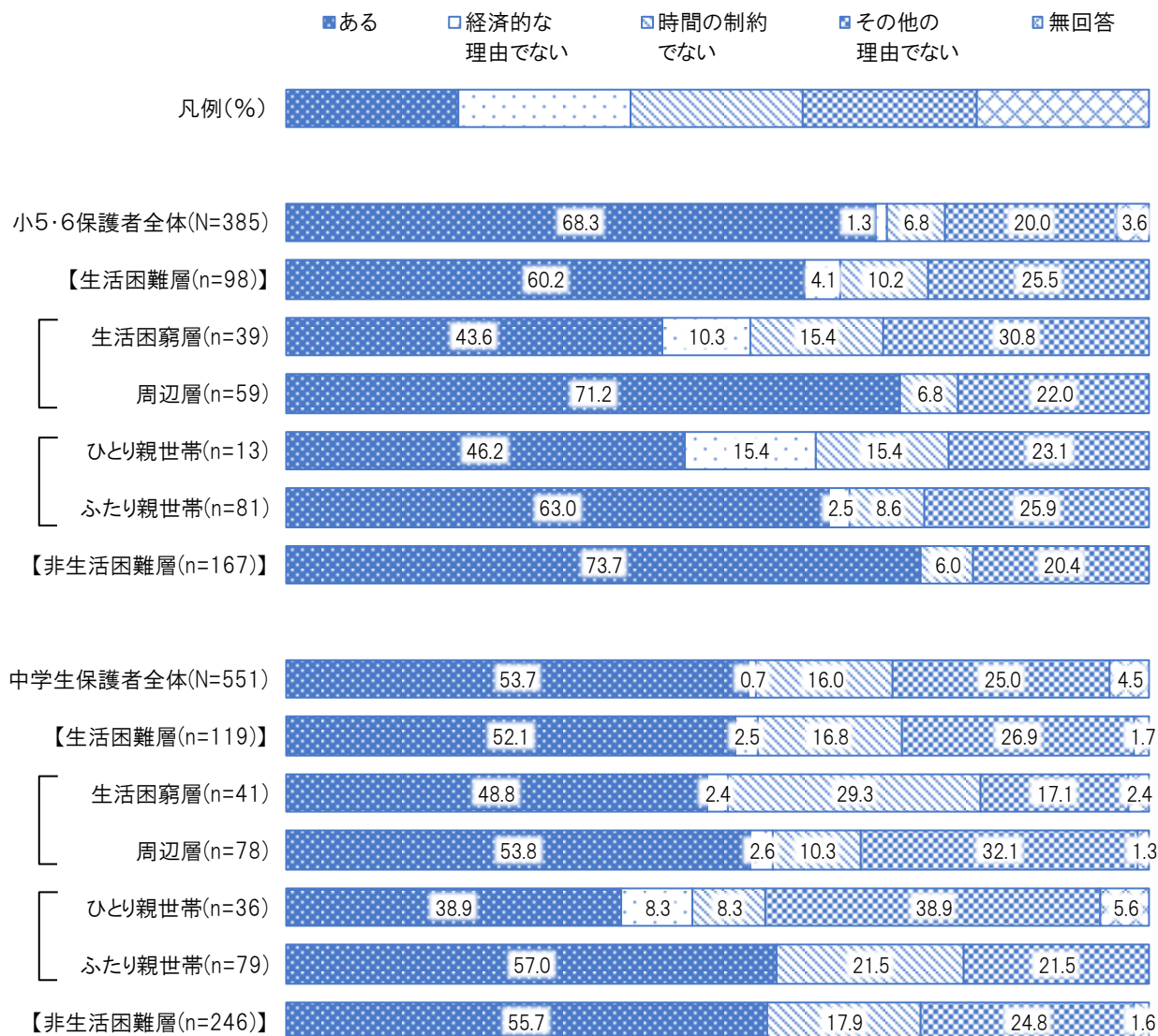
中学生保護者全体では、「経済的な理由でない」の割合が高い順に「E 遊園地やテーマパークに行く」(5.4%),「D スポーツ観戦や劇場に行く」(3.6%)となっている。また、「時間の制約でない」では「A 海水浴に行く」(16.0%),「C キャンプやバーベキューに行く」(15.4%)などがあげられる。



A 海水浴に行く

海水浴に行くことについて「ある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で71.2%となっており、生活困窮層で低くなっている。中学生保護者では、生活困窮層で48.8%、周辺層で53.8%となっている。

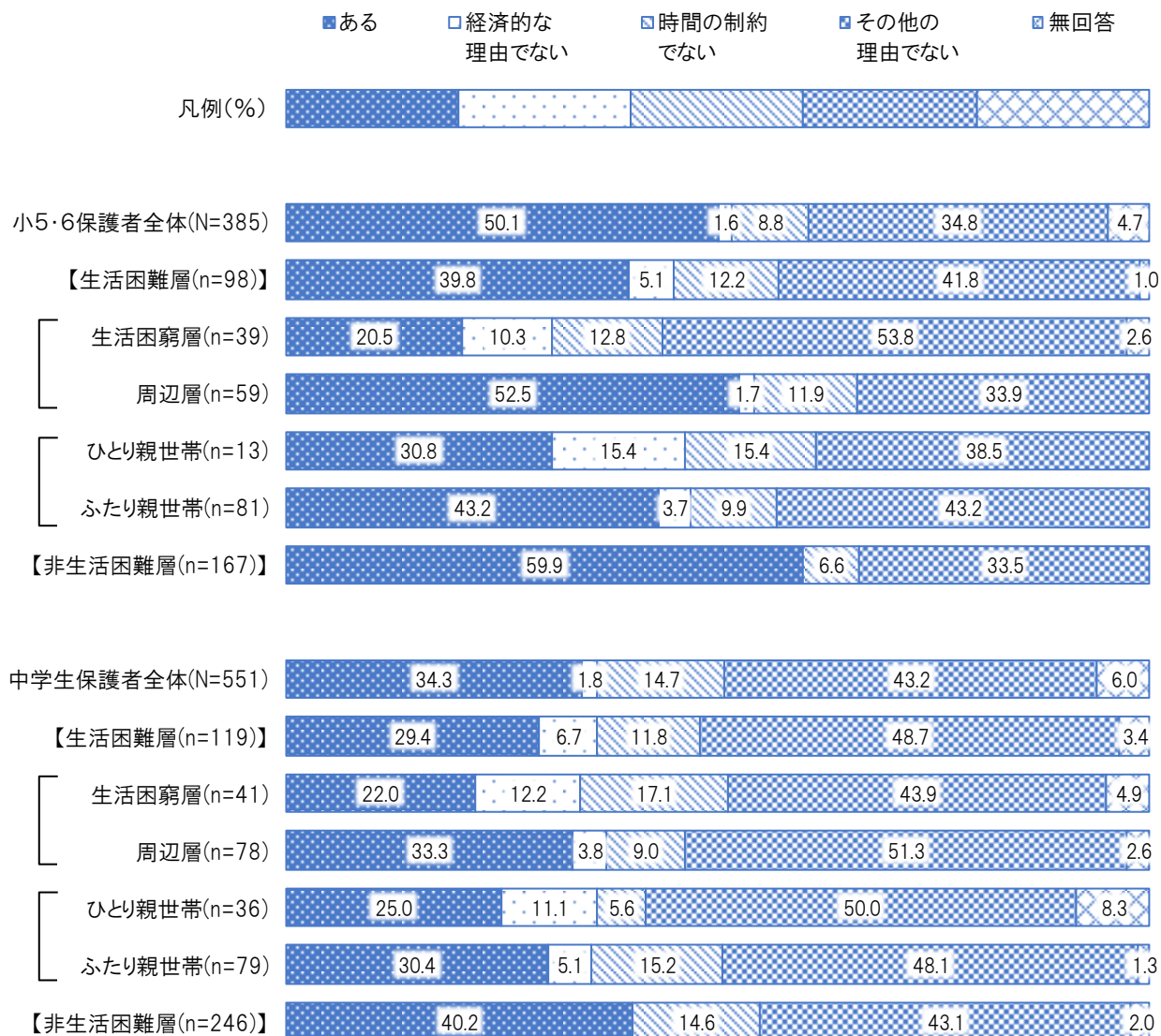
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「経済的な理由でない」、中学生保護者のふたり親世帯で「時間の制約でない」の割合が他の層に比べて高くなっている。



B 博物館・科学館・美術館などに行く

博物館・科学館・美術館などに行くことについて「ある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%、周辺層で52.5%、中学生保護者では、生活困窮層で22.0%、周辺層で33.3%となっており、生活困窮層で低くなっている。

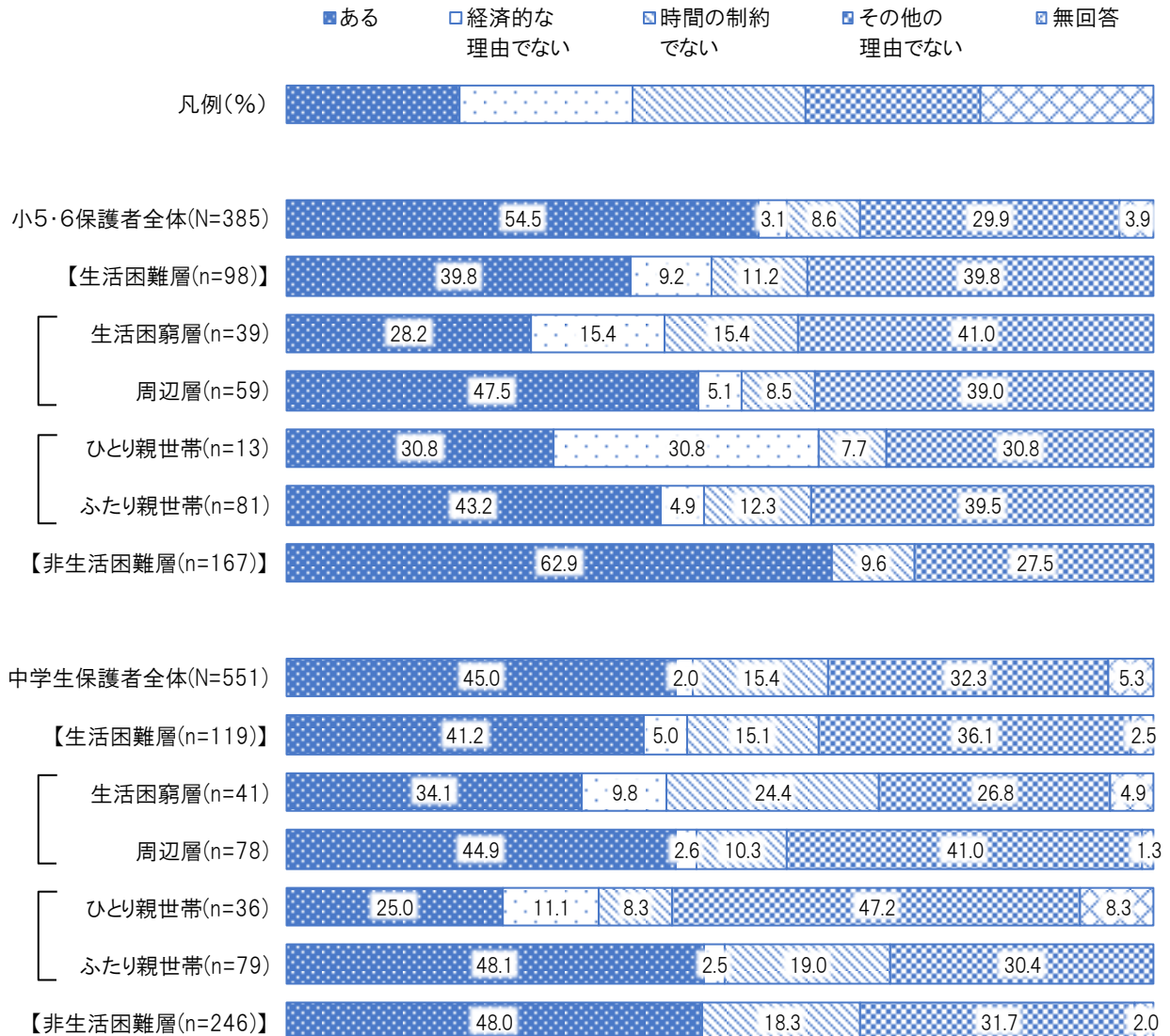
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「経済的な理由でない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C キャンプやバーベキューに行く

キャンプやバーベキューに行くことについて「経済的な理由でない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で15.4%、周辺層で5.1%、中学生保護者では、生活困窮層で9.8%、周辺層で2.6%となっており、生活困窮層で高くなっている。

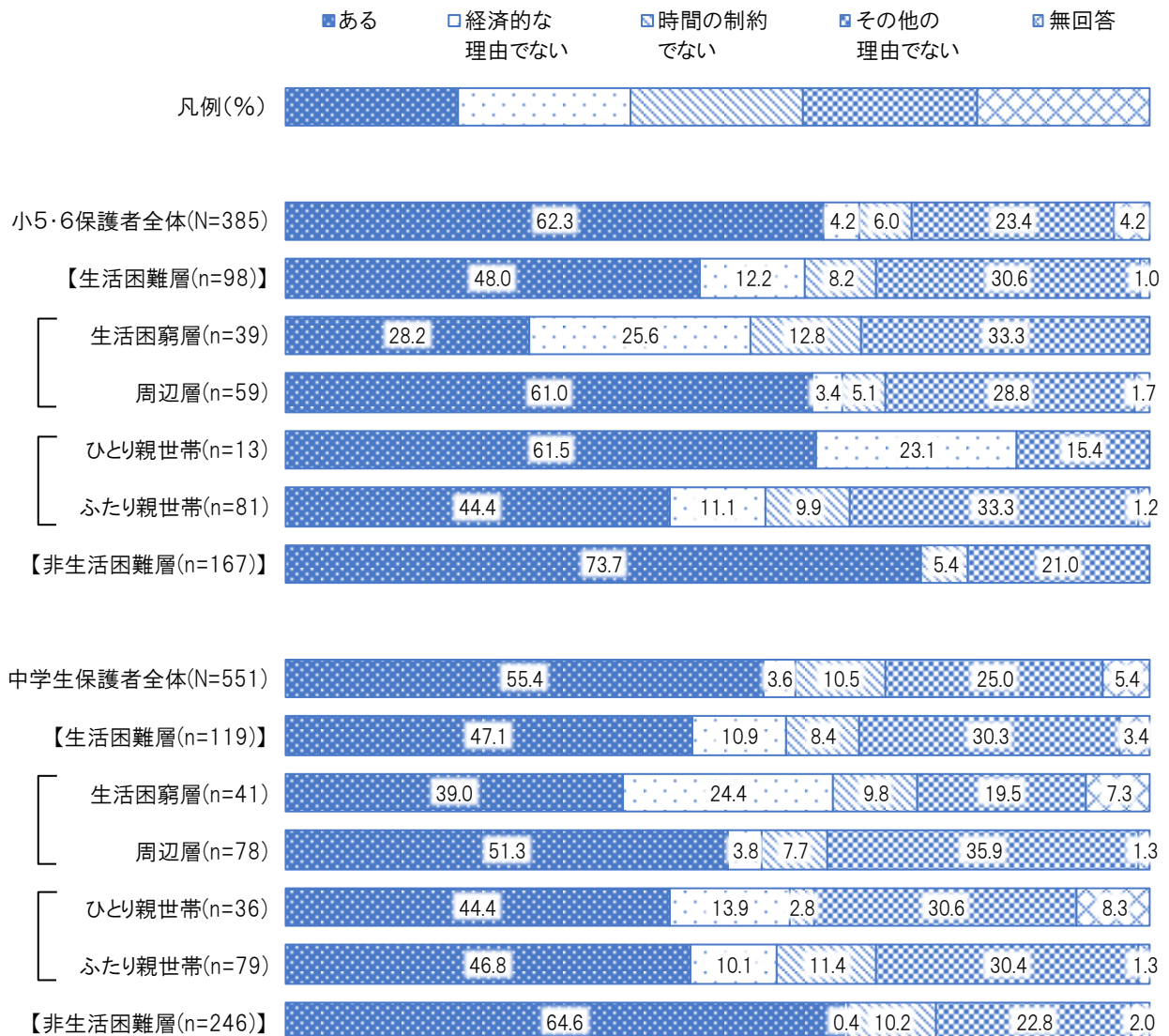
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「経済的な理由でない」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



D スポーツ観戦や劇場に行く

スポーツ観戦や劇場に行くことについて「経済的な理由でない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で25.6%、周辺層で3.4%、中学生保護者では、生活困窮層で24.4%、周辺層で3.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。

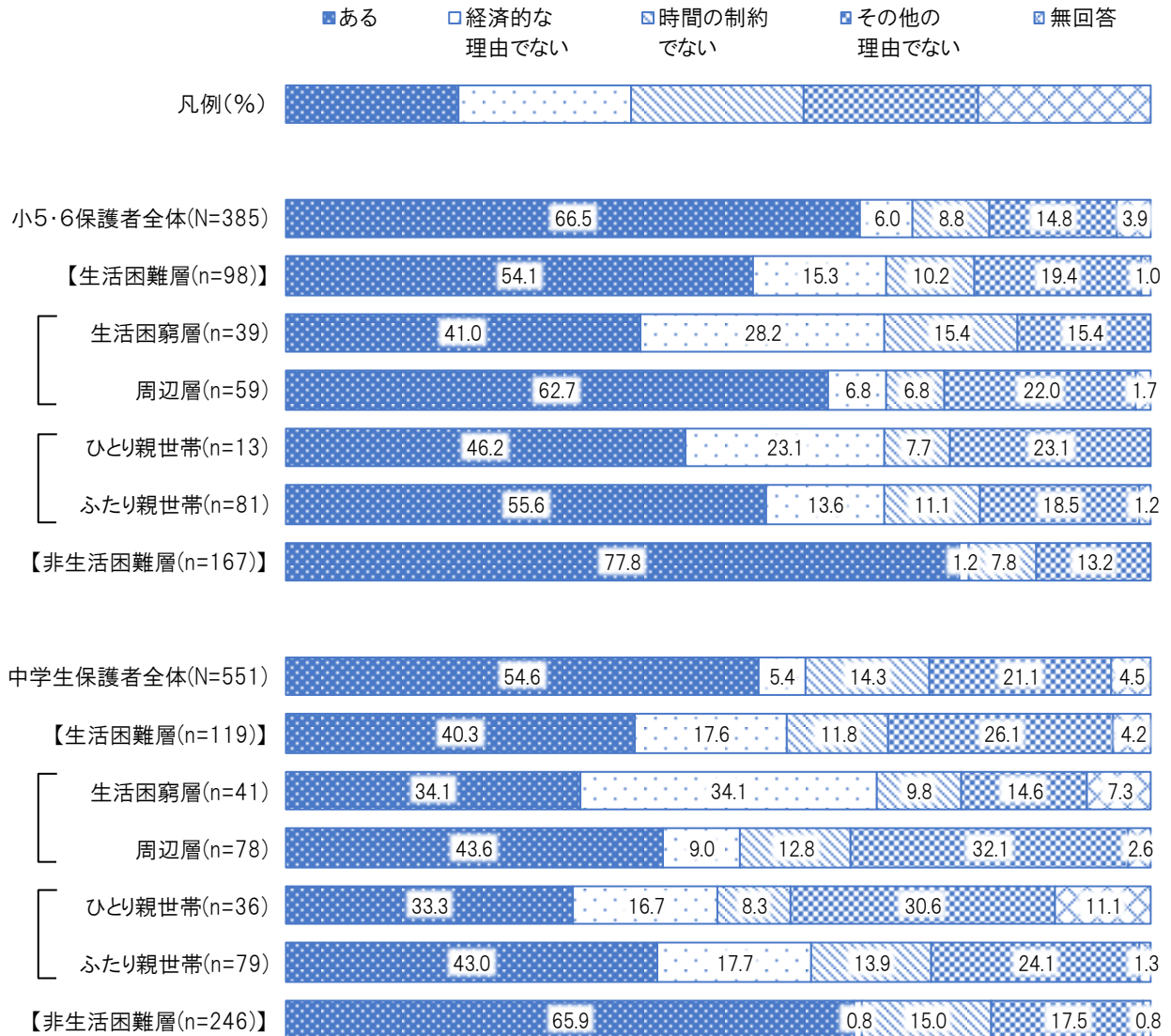
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ある」の割合が高い一方、「経済的な理由でない」の割合もふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 遊園地やテーマパークに行く

遊園地やテーマパークに行くことについて「経済的な理由でない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%、周辺層で6.8%、中学生保護者では、生活困窮層で34.1%、周辺層で9.0%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「経済的な理由でない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



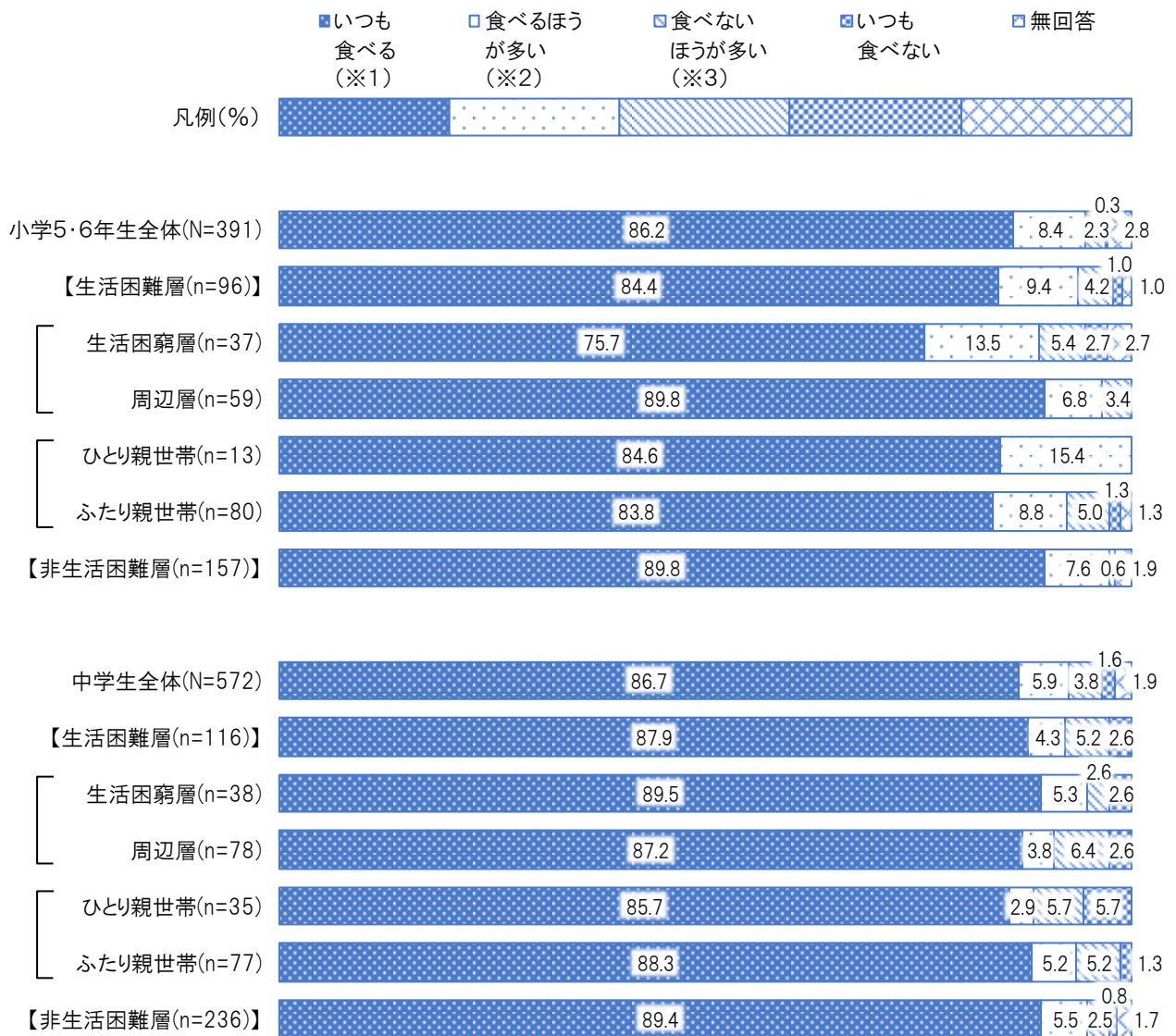
【3】子供の食と栄養

(1) 朝食の摂取状況

子／問 21 あなたは、平日（学校に行く日）に毎日、朝ごはんを食べますか。
（あてはまる番号1つに○）

朝食の摂取状況については、「いつも食べる（週に5日）」「食べるほうが多い（週に3，4日）」の合計は、小学5・6年生全体では94.6%，中学生全体では92.6%となっている。一方、「食べないほうが多い（週に1，2日）」「いつも食べない」の合計は、小学5・6年生全体では2.6%，中学生全体では4.4%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困窮層で「いつも食べる（週に5日）」の割合が他の層に比べて低くなっている。



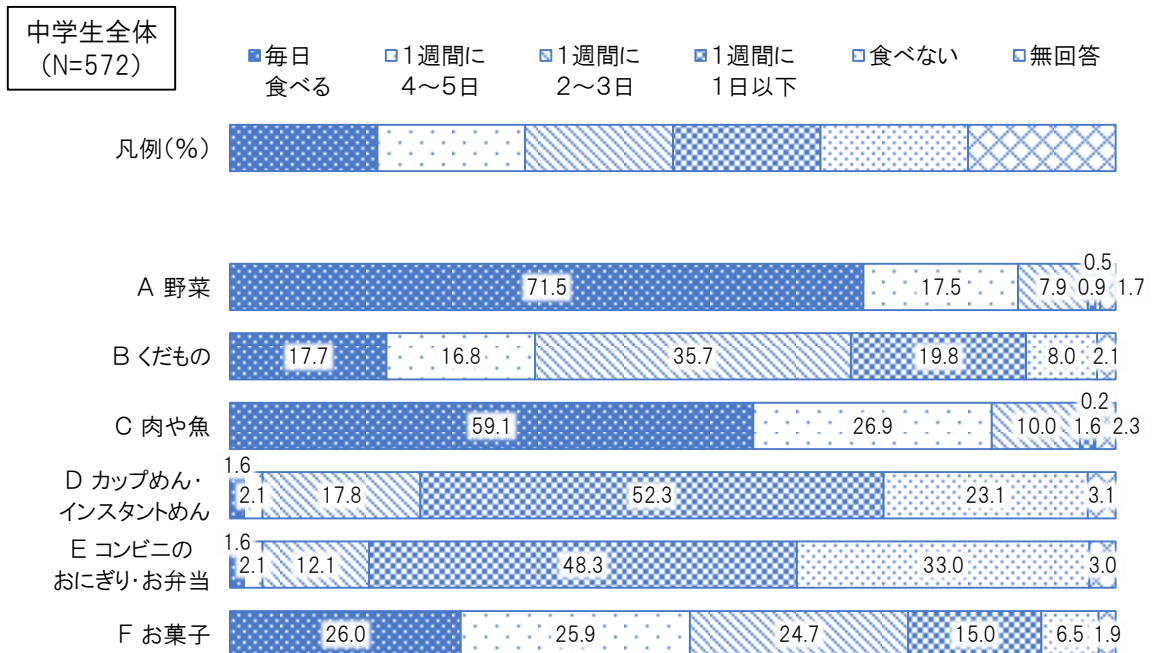
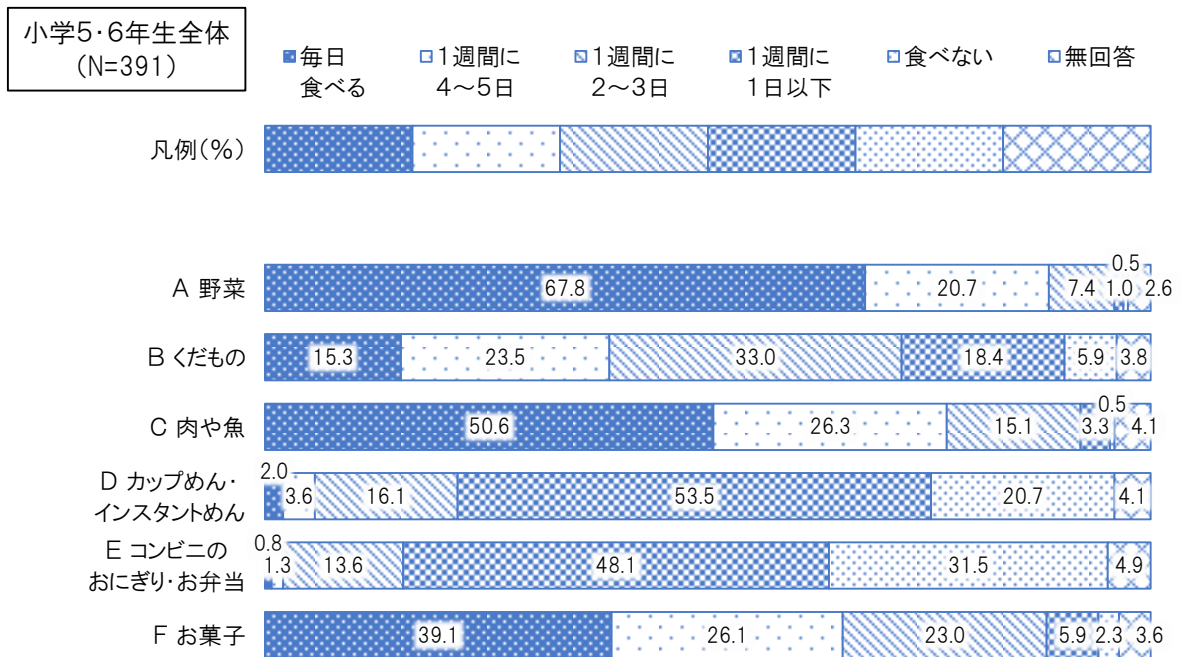
※1:いつも食べる(週に5日)
 ※2:食べるほうが多い(週に3, 4日)
 ※3:食べないほうが多い(週に1, 2日)

(2) 栄養群の摂取状況

子／問 24 あなたは、給食をのぞいて、次の食物をふだんどれくらい食べますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

栄養群の摂取状況については、小学5・6年生全体では「毎日食べる」の割合が高い順に「A 野菜」(67.8%)、「C 肉や魚」(50.6%)、「F お菓子」(39.1%)となっている。一方、「D カップめん・インスタントめん」「E コンビニのおにぎり・お弁当」は「1週間に1日以下」「食べない」の割合がそれぞれ高い。

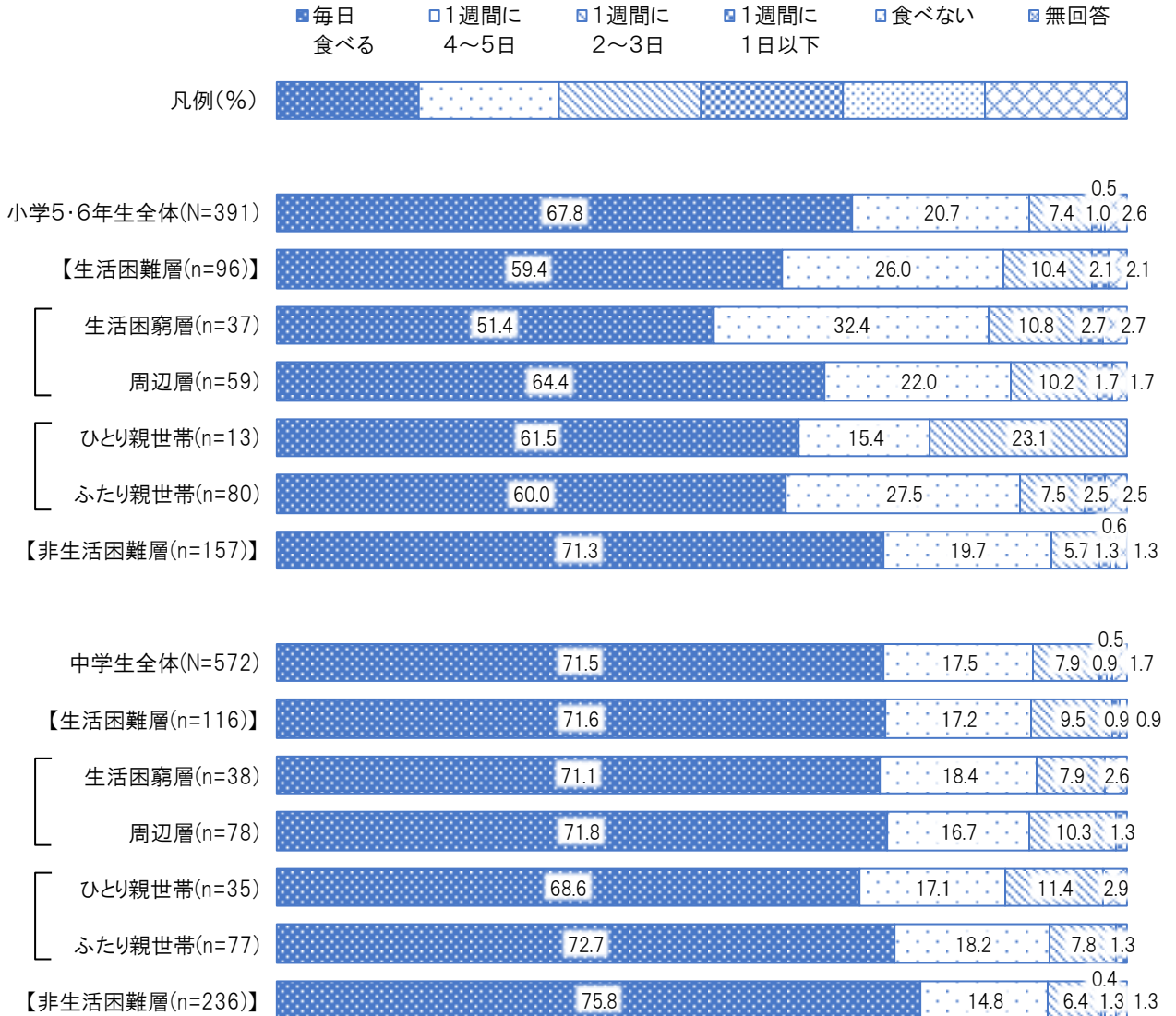
中学生全体では、「毎日食べる」の割合が高い順に「A 野菜」(71.5%)、「C 肉や魚」(59.1%)となっている。一方、「D カップめん・インスタントめん」「E コンビニのおにぎり・お弁当」は「1週間に1日以下」「食べない」の割合がそれぞれ高い。



A 野菜

野菜について「毎日食べる」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で51.4%、周辺層で64.4%となっており、生活困窮層で低くなっている。

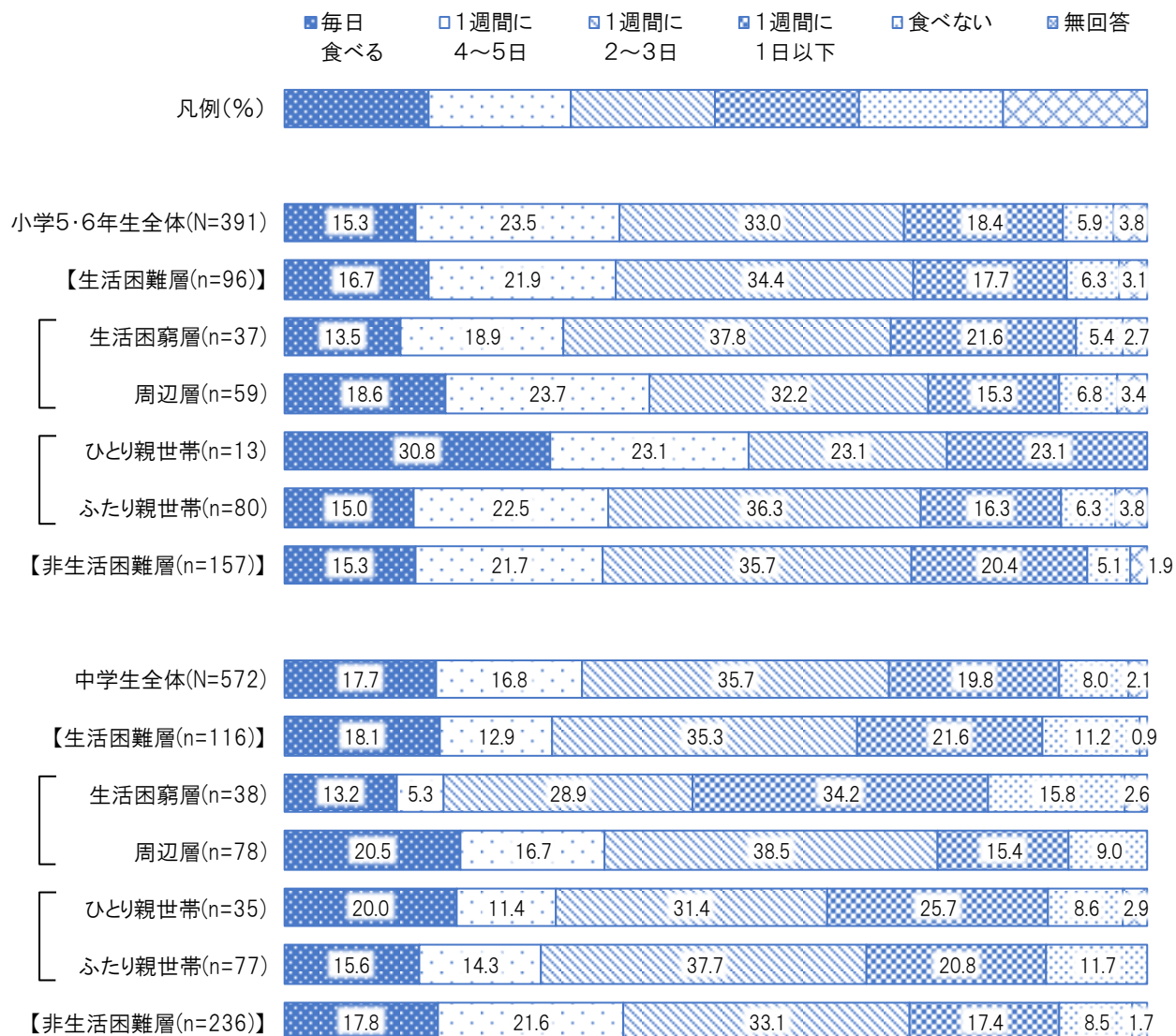
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「1週間に2～3日」の割合が他の層を大きく上回っている。



B くだもの

くだものについて「1週間に1日以下」「食べない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で27.0%、周辺層で22.1%となっている。中学生では、生活困窮層で50.0%、周辺層で24.4%となっており、生活困窮層で高くなっている。

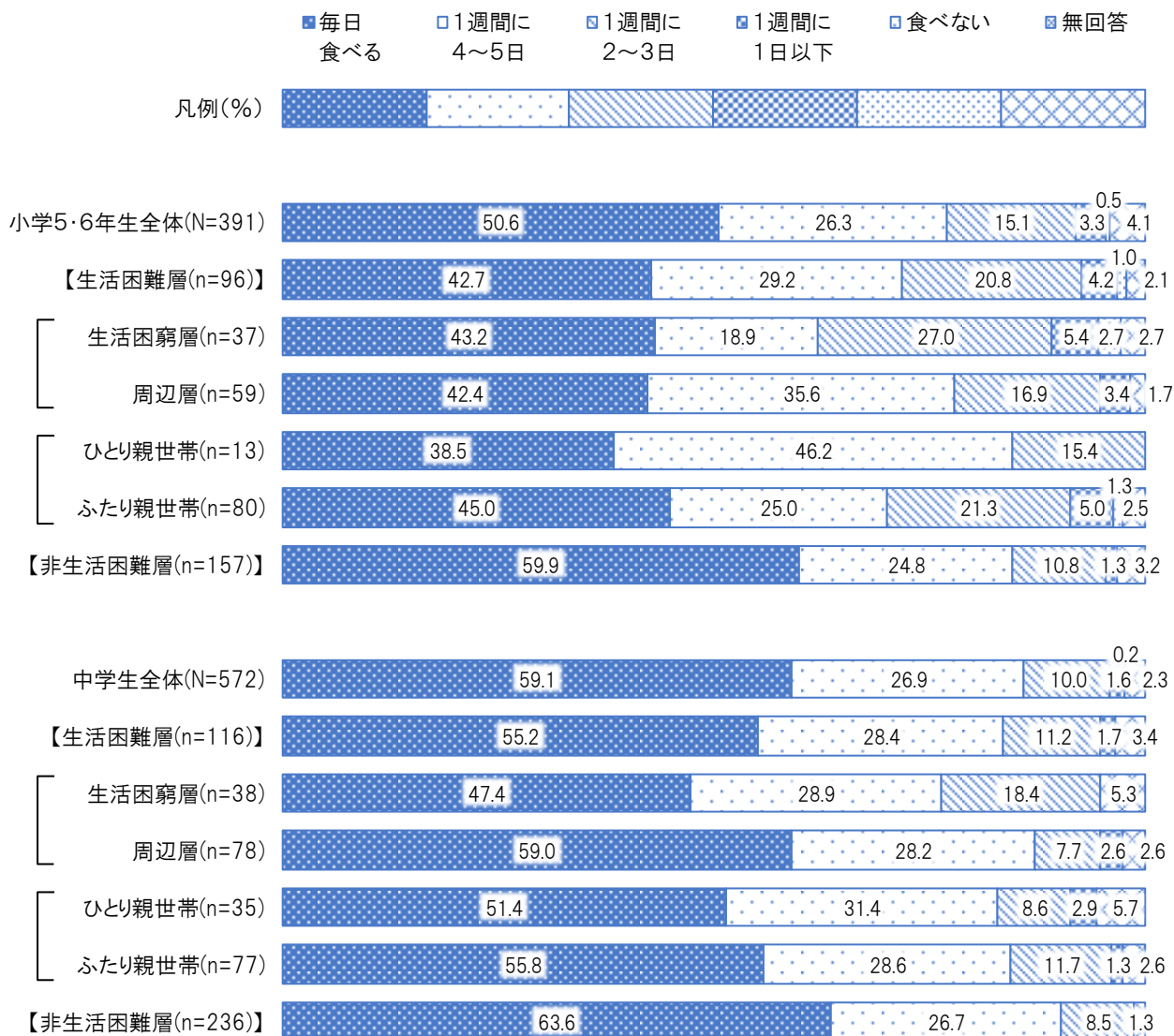
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日食べる」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



C 肉や魚

肉や魚については、小学5・6年生の生活困窮層で「1週間に2～3日」(27.0%)、周辺層で「1週間に4～5日」(35.6%)の割合が高くなっている。中学生では、生活困窮層で「1週間に2～3日」(18.4%)の割合が周辺層に比べて高くなっている。

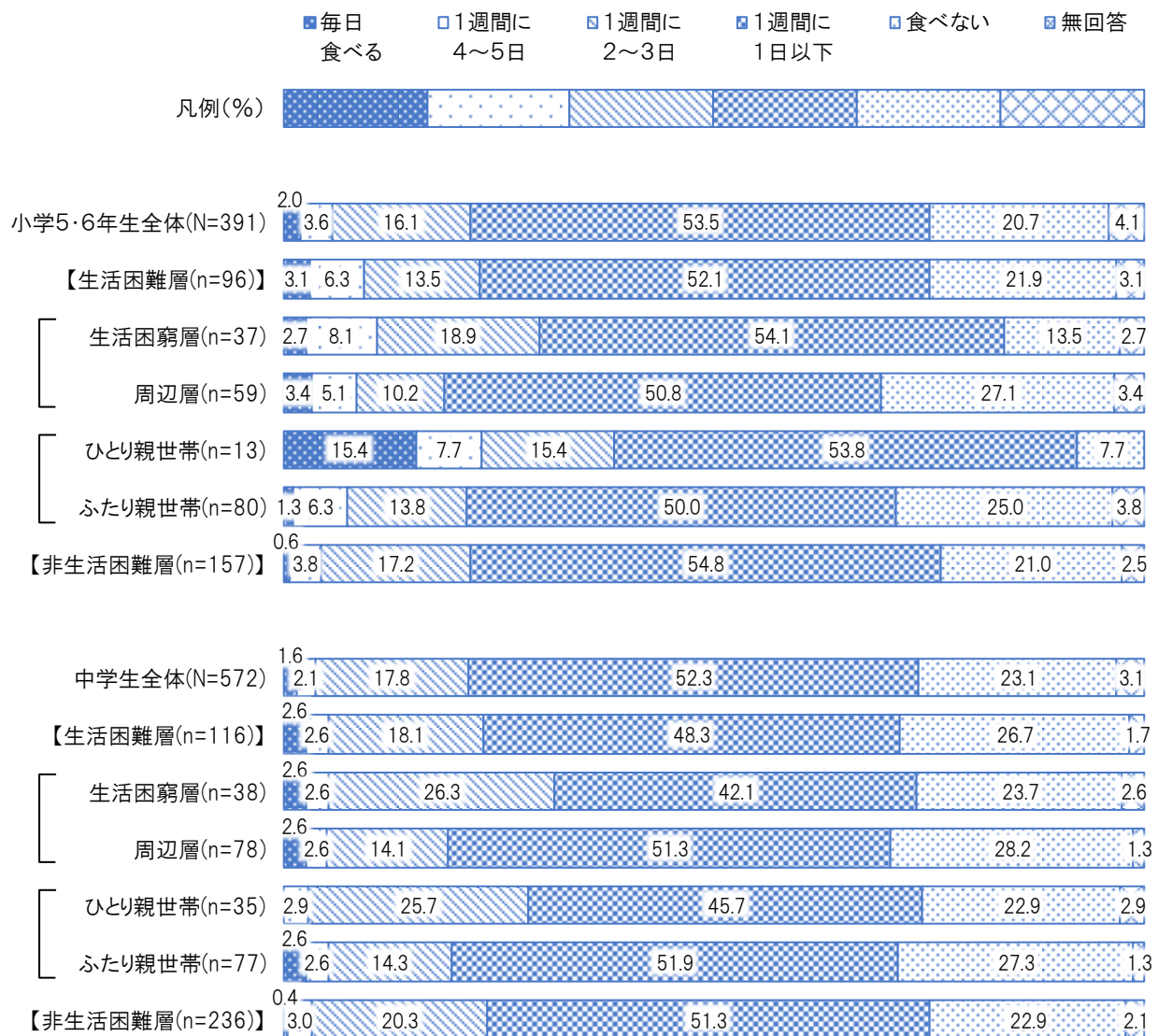
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「1週間に4～5日」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



D カップめん・インスタントめん

カップめん・インスタントめんについて「毎日食べる」「1週間に4～5日」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で8.5%となっている。

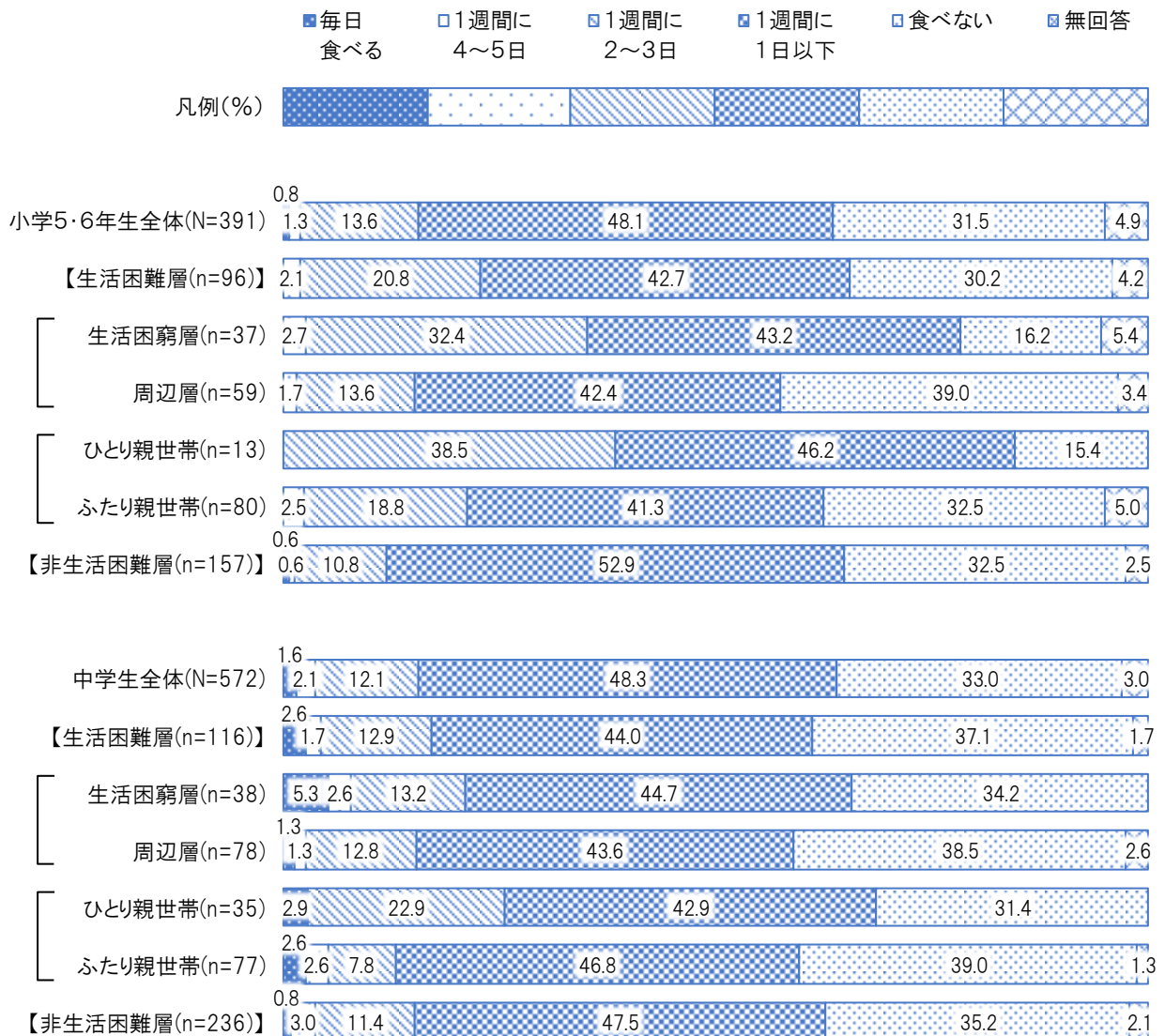
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日食べる」の割合が他の層に比べて高くなっている。



E コンビニのおにぎり・お弁当

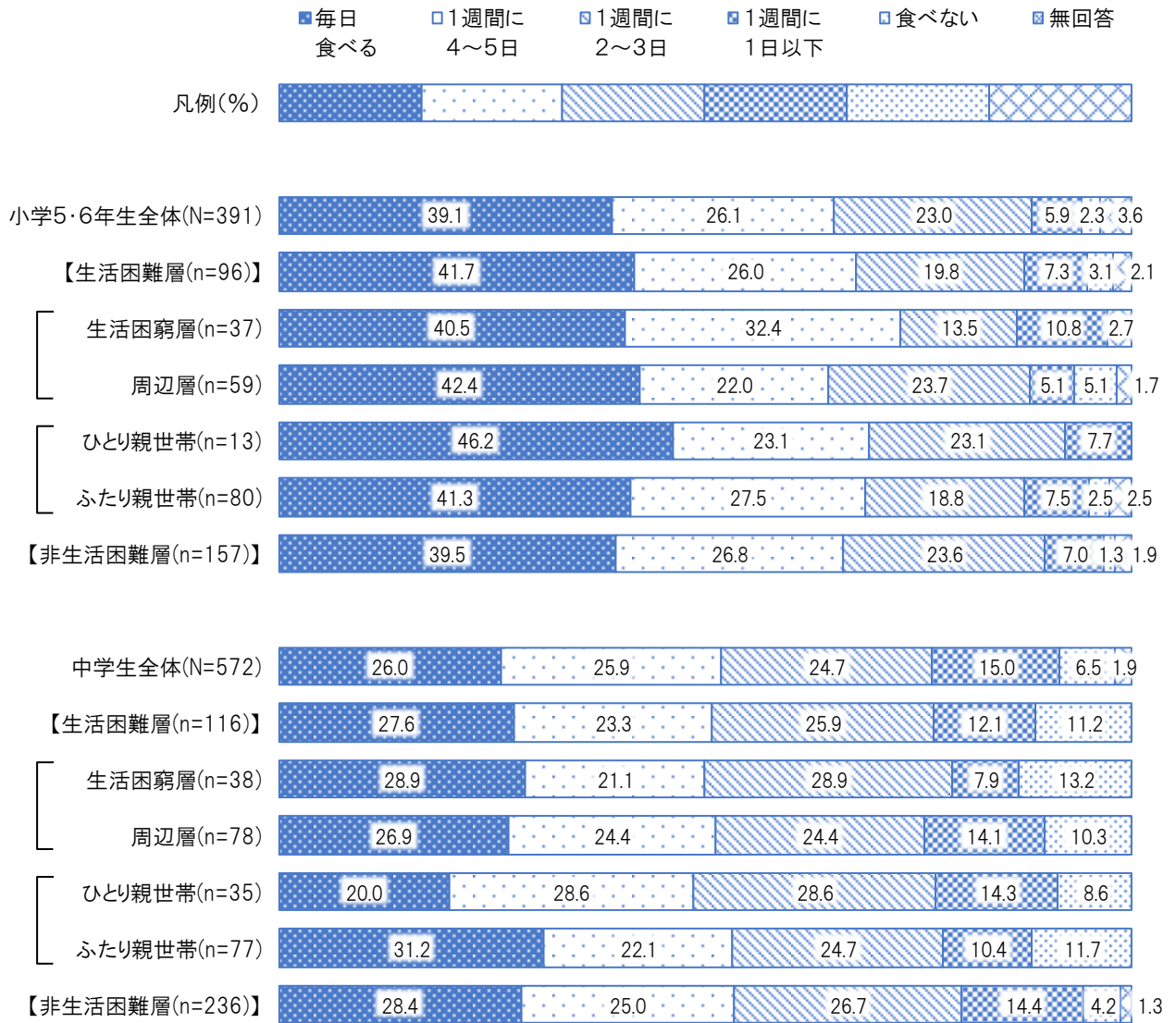
コンビニのおにぎり・お弁当について「食べない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で39.0%となっており、生活困窮層で低くなっている。中学生では、生活困窮層で34.2%、周辺層で38.5%となっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「1週間に2～3日」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F お菓子

お菓子について「1週間に1日以下」「食べない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%，周辺層で10.2%，中学生では，生活困窮層で21.1%，周辺層で24.4%となっている。



第3章 子供の学び

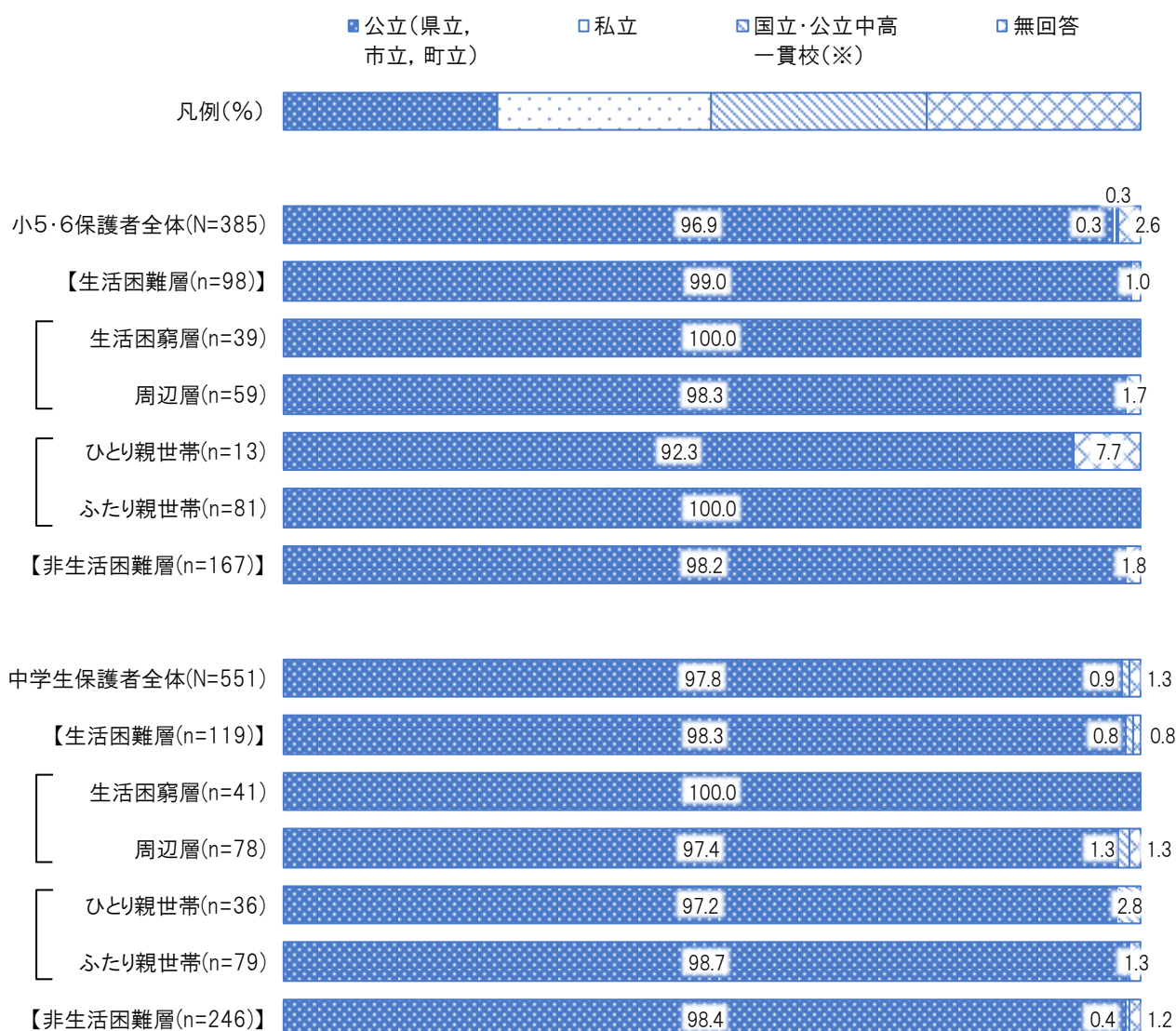
【1】学校について

(1) 学校の種類

保／問1 お子さんが通学している学校の種類は、次のどれになりますか。
(あてはまる番号1つに○)

学校の種類については、小学5・6年保護者全体で「公立（県立，市立，町立）」の割合が96.9%，中学生保護者全体で「公立（県立，市立，町立）」の割合が97.8%となっており、「公立（県立，市立，町立）」が大半を占める。

生活困難度別では、小学5・6年保護者，中学生保護者ともに生活困窮層で「公立（県立，市立，町立）」が100.0%となっている。



※小学生保護者票では「国立」

(2) 私立選択の理由

【問1で「2私立」を選んだ方におうかがいします。】

保／問1-1 私立の中学校※に進学したのは、なぜですか。(あてはまる番号1つに○)

※小学生票では、「私立の小学校」

私立選択の理由については、小学5・6年保護者全体では、回答者1名中「私立小学校の教育方針が気に入った」が1名であった。

【2】学校の成績

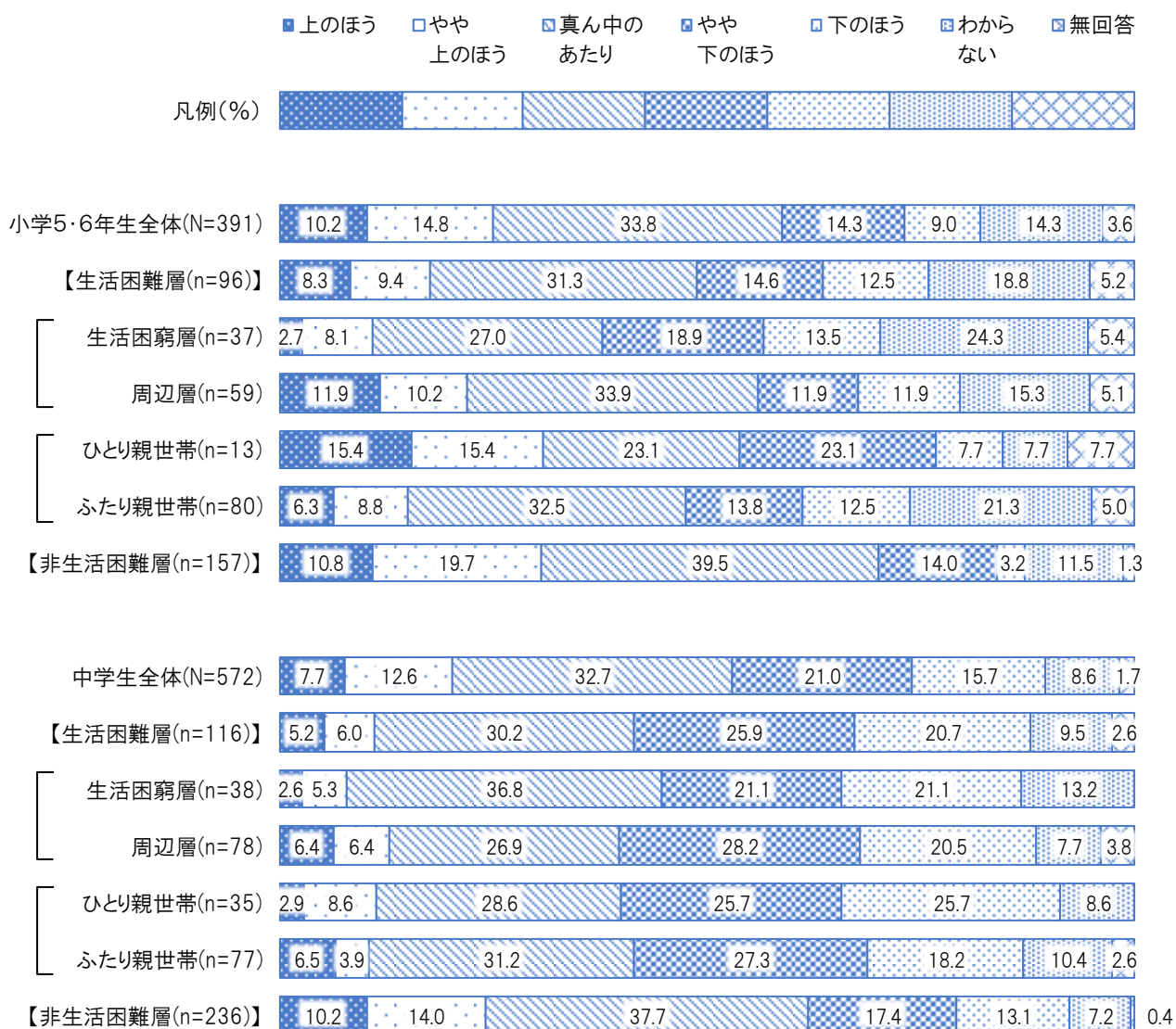
(1) 成績の主観的評価

子／問 30 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。
(あてはまる番号1つに○)

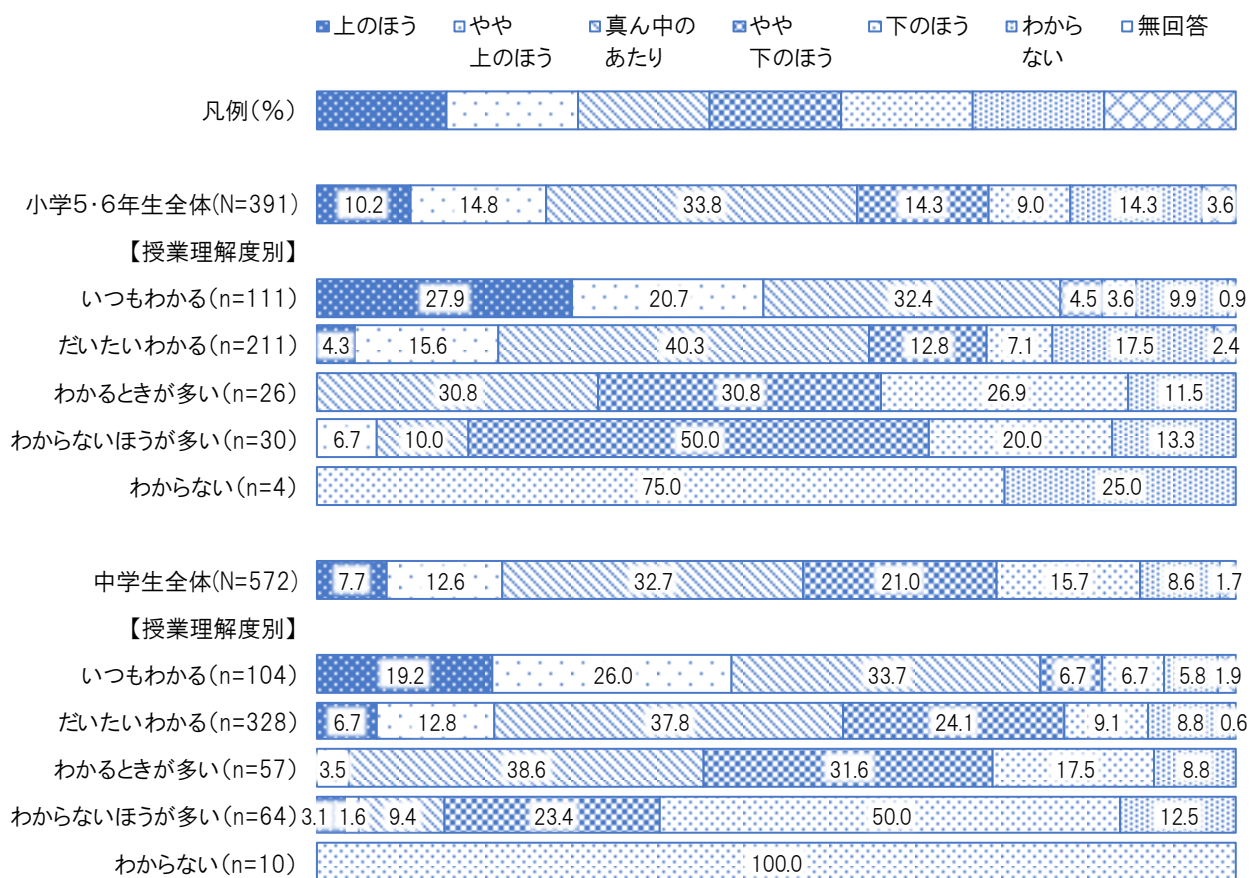
成績の主観的評価については、小学5・6年生全体では、「上のほう」「やや上のほう」の合計が25.0%、中学生全体では20.3%となっている。一方、「やや下のほう」「下のほう」の合計は、小学5・6年生全体では23.3%、中学生全体では36.7%となっている。

生活困難度別にみた『下のほう(合計)』の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で32.4%、周辺層で23.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で『上のほう(合計)』の割合が高い一方、「やや下のほう」の割合もふたり親世帯に比べて高くなっている。



授業理解度別（問 28）で見ると、小学5・6年生、中学生ともに理解度が高い層ほど「上のほう」「やや上のほう」の割合が高く、理解度が低い層ほど「やや下のほう」「下のほう」の割合が高い傾向にある。



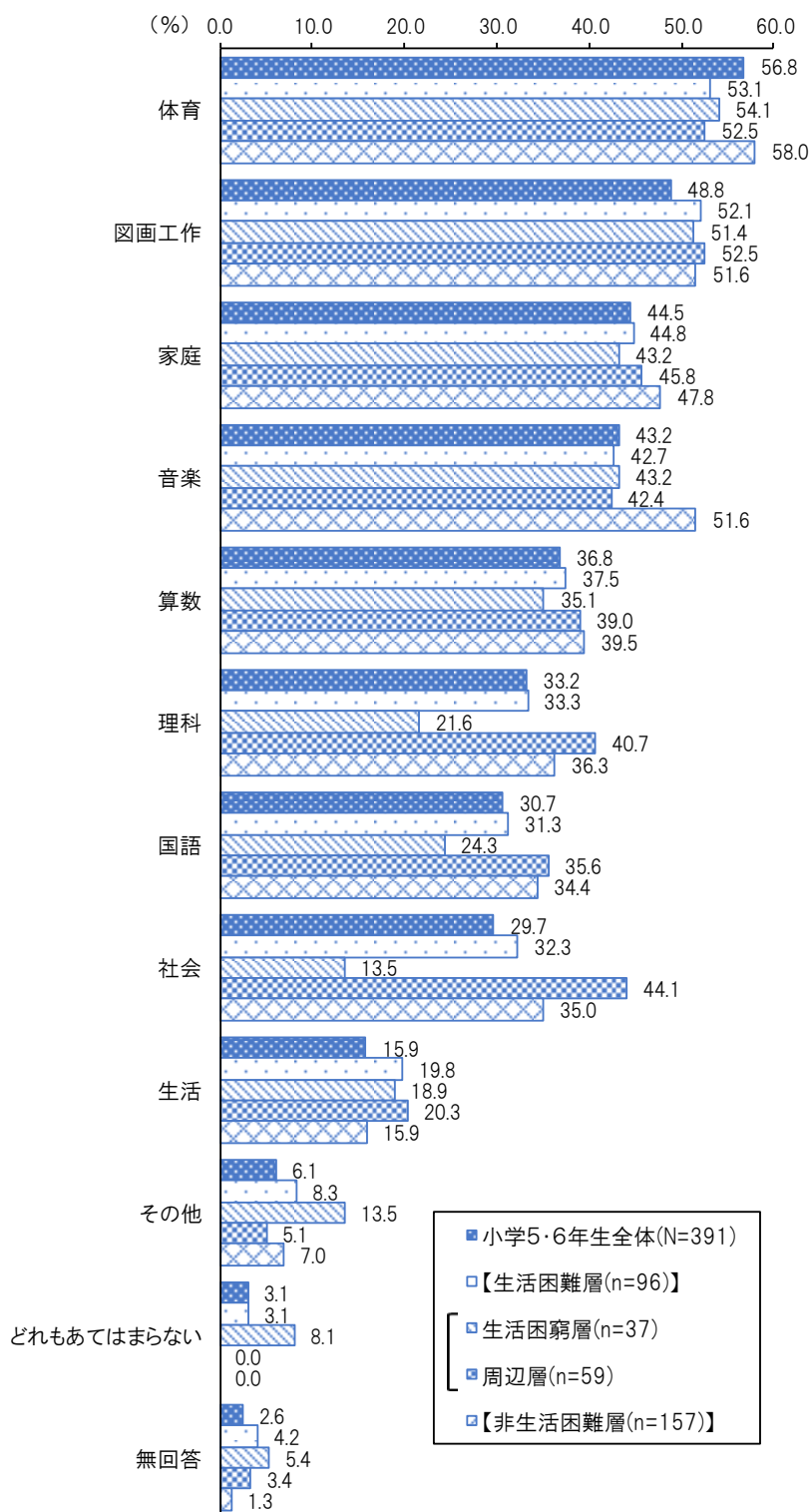
注：小学5・6年生の「わからない」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

(2) 得意教科

子／問 31 あなたの得意な教科は、どれですか。(あてはまる番号すべてに○)

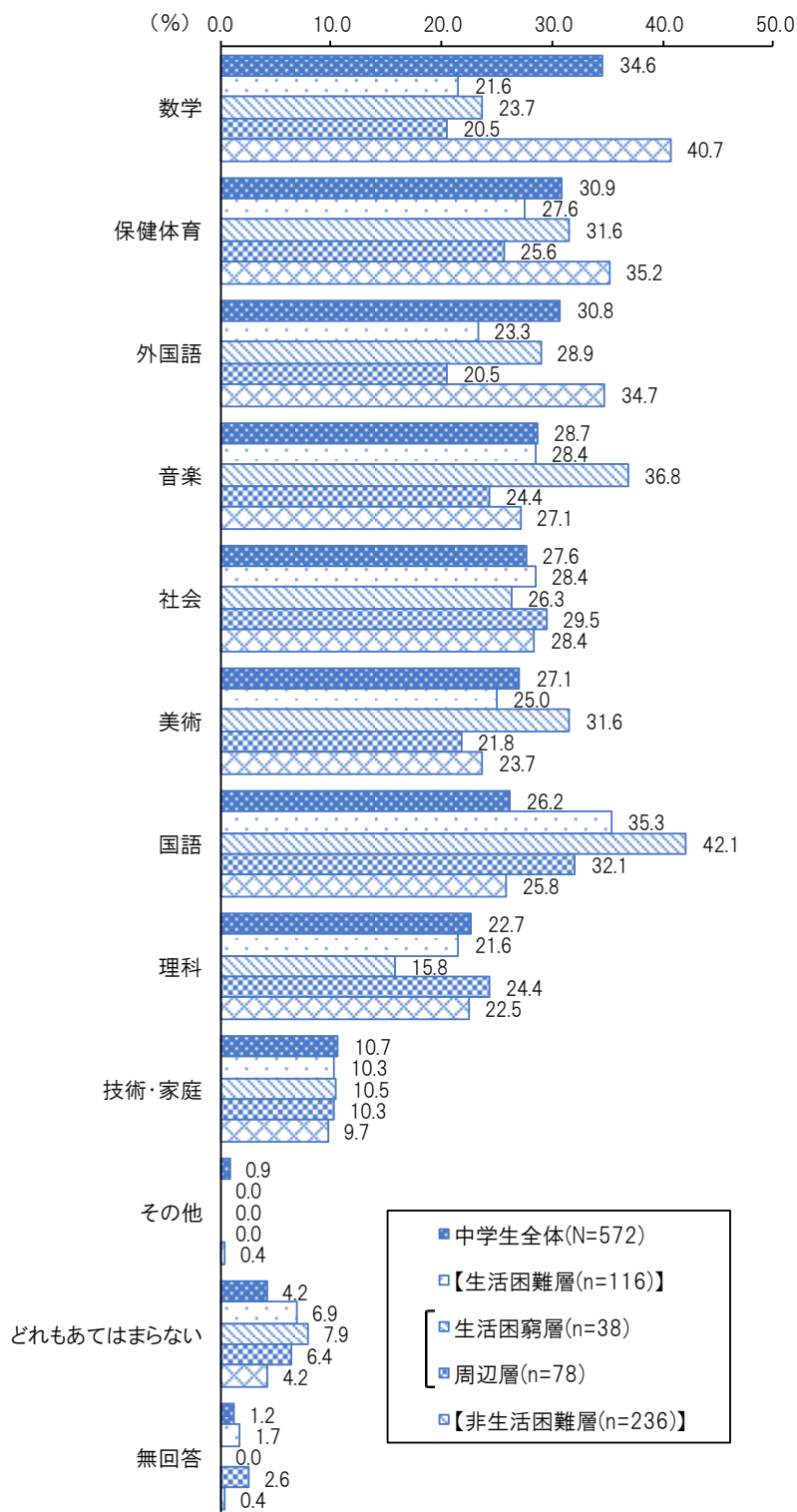
得意教科については、小学5・6年生全体で「体育」の割合が56.8%と最も高く、次いで「図画工作」(48.8%)、「家庭」(44.5%)、「音楽」(43.2%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「理科」「国語」「社会」などの割合が他の層を大きく下回っている。



中学生全体では、「数学」の割合が34.6%と最も高く、次いで「保健体育」(30.9%)、「外国語」(30.8%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「数学」の割合が非生活困難層を大きく下回っている。



【3】授業の理解や学習の状況

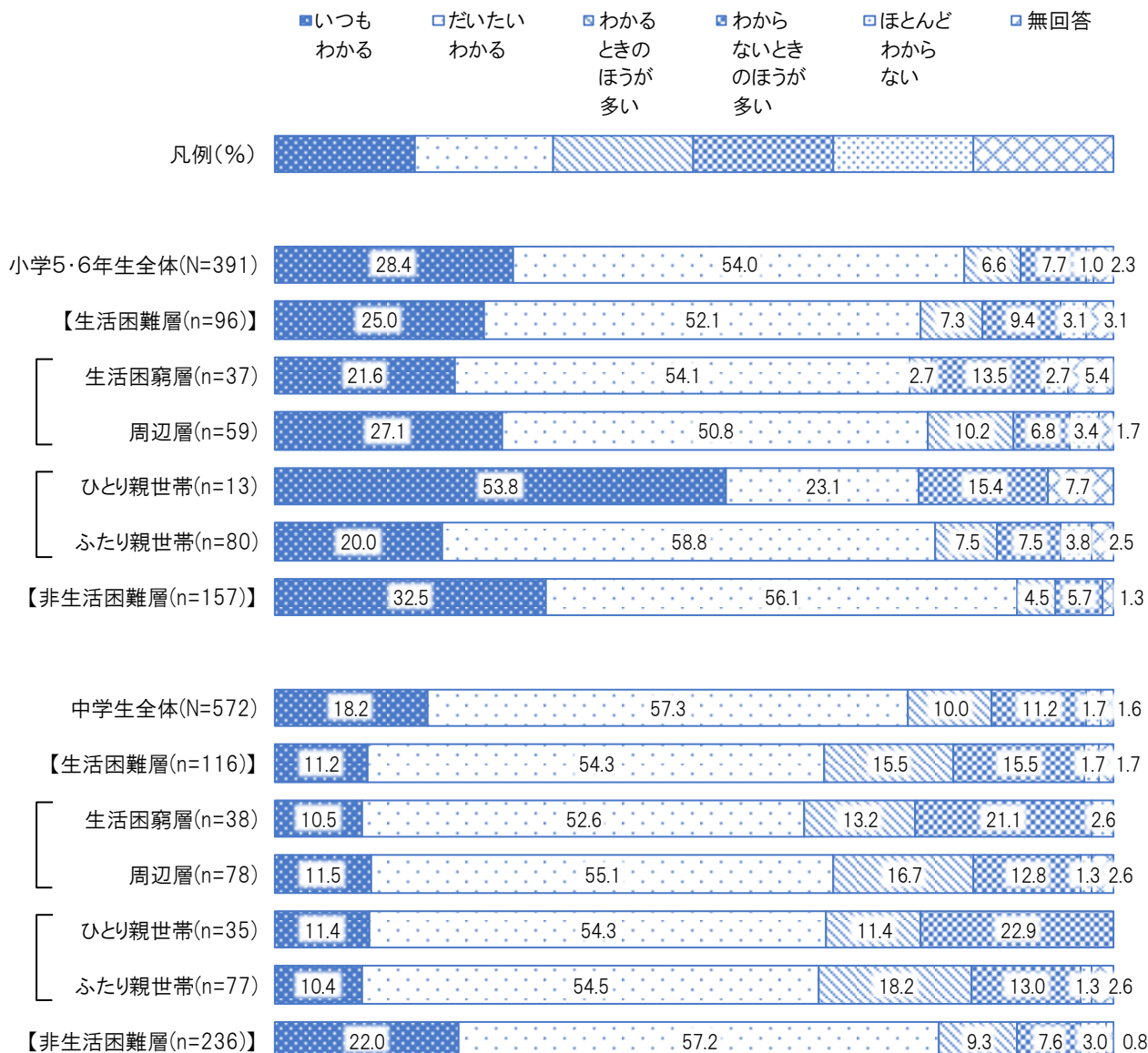
(1) 授業の理解度

子／問 28 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまる番号1つに○)

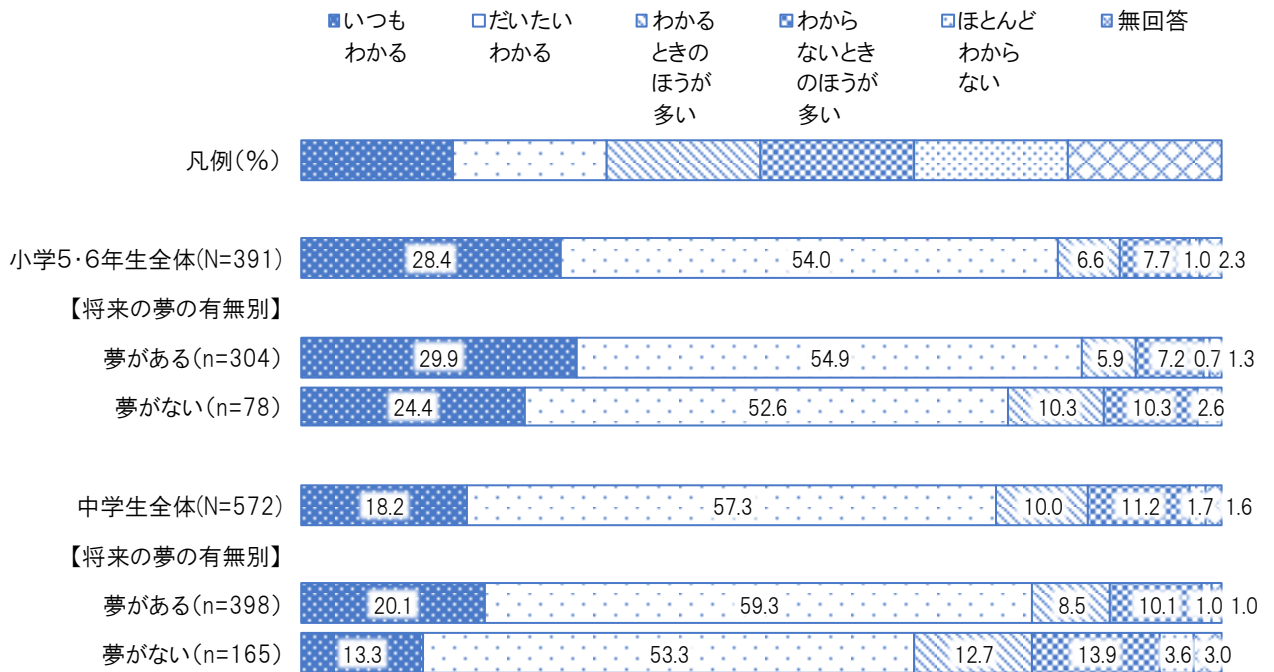
授業の理解度については、小学5・6年生全体では「いつもわかる」は28.4%、中学生全体では18.2%となっている。一方、「わからないときのほうが多い」「ほとんどわからない」の合計は、小学5・6年生全体では8.7%、中学生全体では12.9%となっている。

生活困難度別にみた『わからない(合計)』の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で10.2%、中学生の生活困窮層で23.7%、周辺層で14.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「いつもわかる」の割合が他の層を大きく上回っている。一方、中学生のひとり親世帯で「わからないときのほうが多い」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



将来の夢の有無別（問5）でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「いつもわかる」の割合が高くなっている。



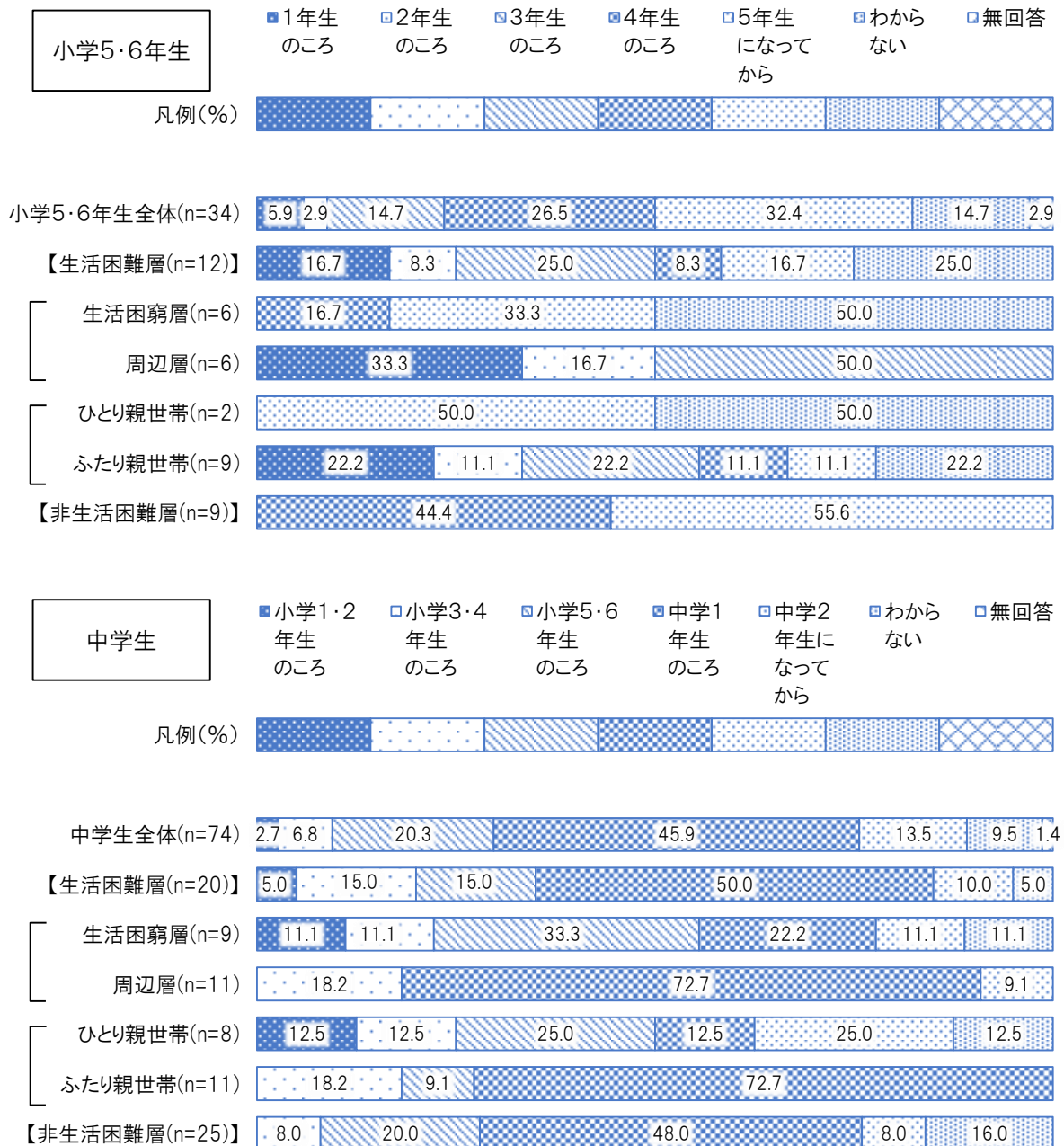
(2) 授業がわからなくなった時期

【学校の授業が「4 わからないときのほうが多い」または「5 ほとんどわからない」と答えた人におききします。】

子／問 28-1 いつごろから、授業がわからなくなりましたか。

(あてはまる番号1つに○)

授業がわからなくなった時期については、小学5・6年生全体では「4年生のころ」(26.5%)、「5年生になってから」(32.4%)が比較的高く、中学生全体では「中学1年生のころ」の割合が45.9%と最も高くなっている。

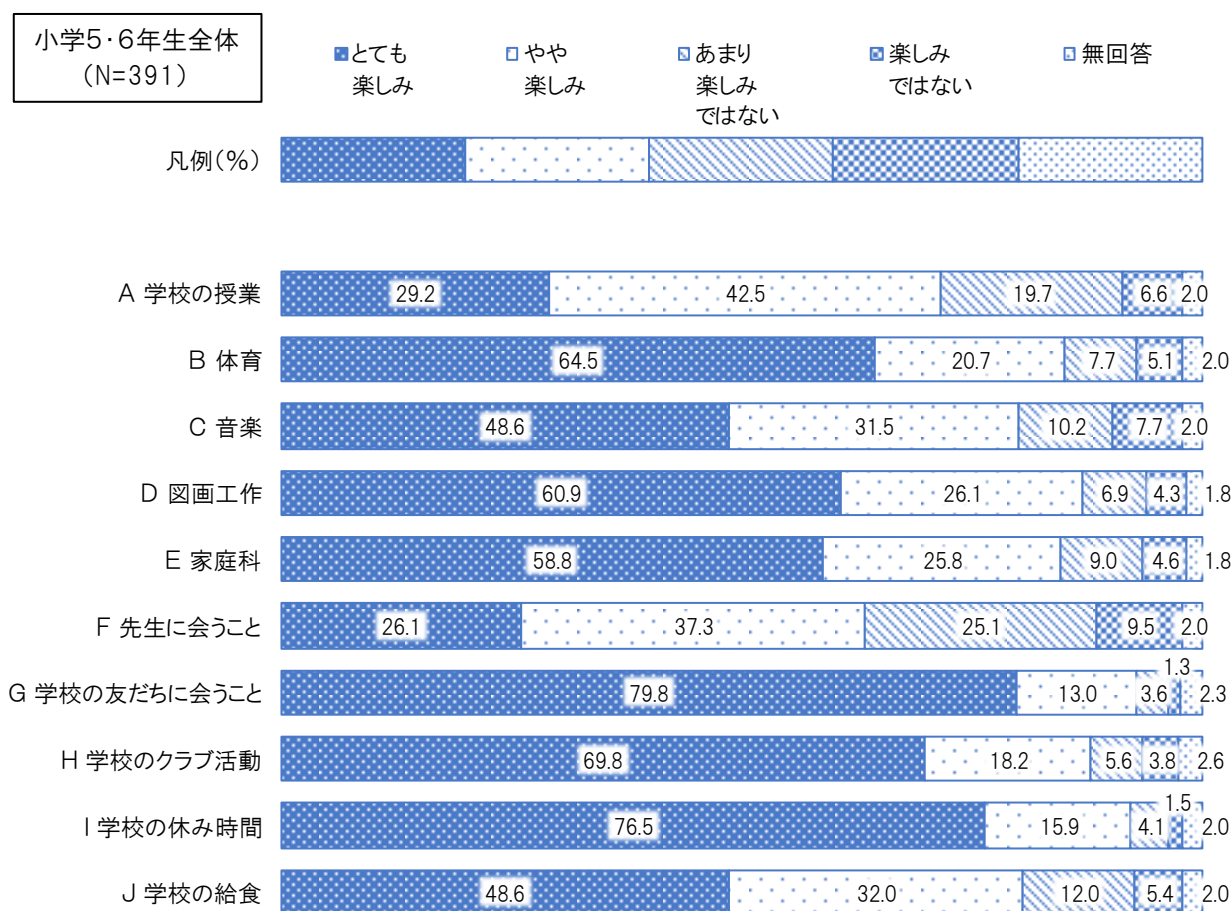


注：生活困窮度別，生活困難層世帯タイプ別については，件数(n)が少ないため参考値として参照

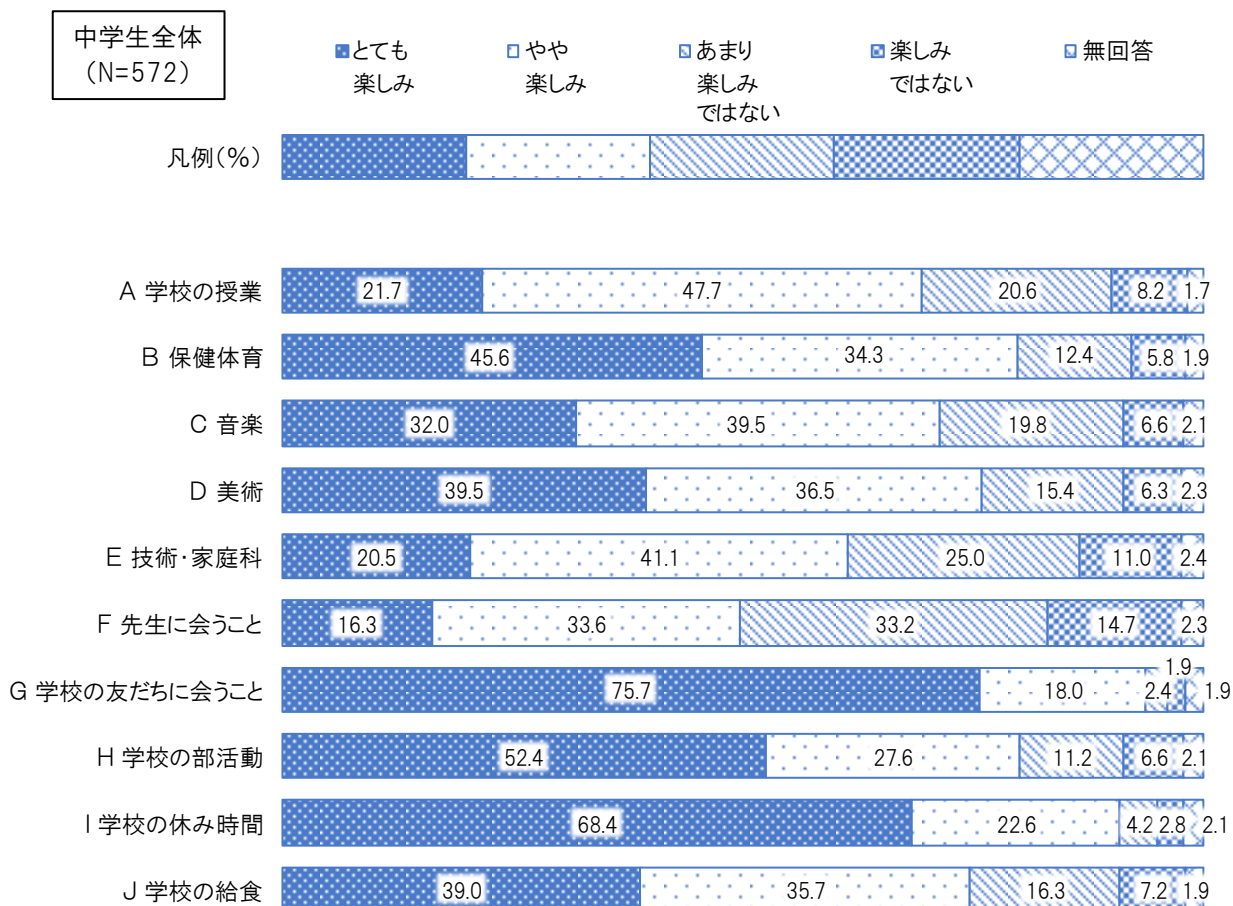
【4】学校生活の楽しみ

子／問 27 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「1 とても楽しみ」から「4 楽しみではない」のもっとも近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

学校生活の楽しみについては、小学5・6年生全体では「とても楽しみ」の割合が高い順に「G 学校の友だちに会うこと」(79.8%)、「I 学校の休み時間」(76.5%)、「H 学校のクラブ活動」(69.8%)、「B 体育」(64.5%)となっている。また、「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計が高い順に「F 先生に会うこと」(34.6%)、「A 学校の授業」(26.3%)、「C 音楽」(17.9%)となっている。



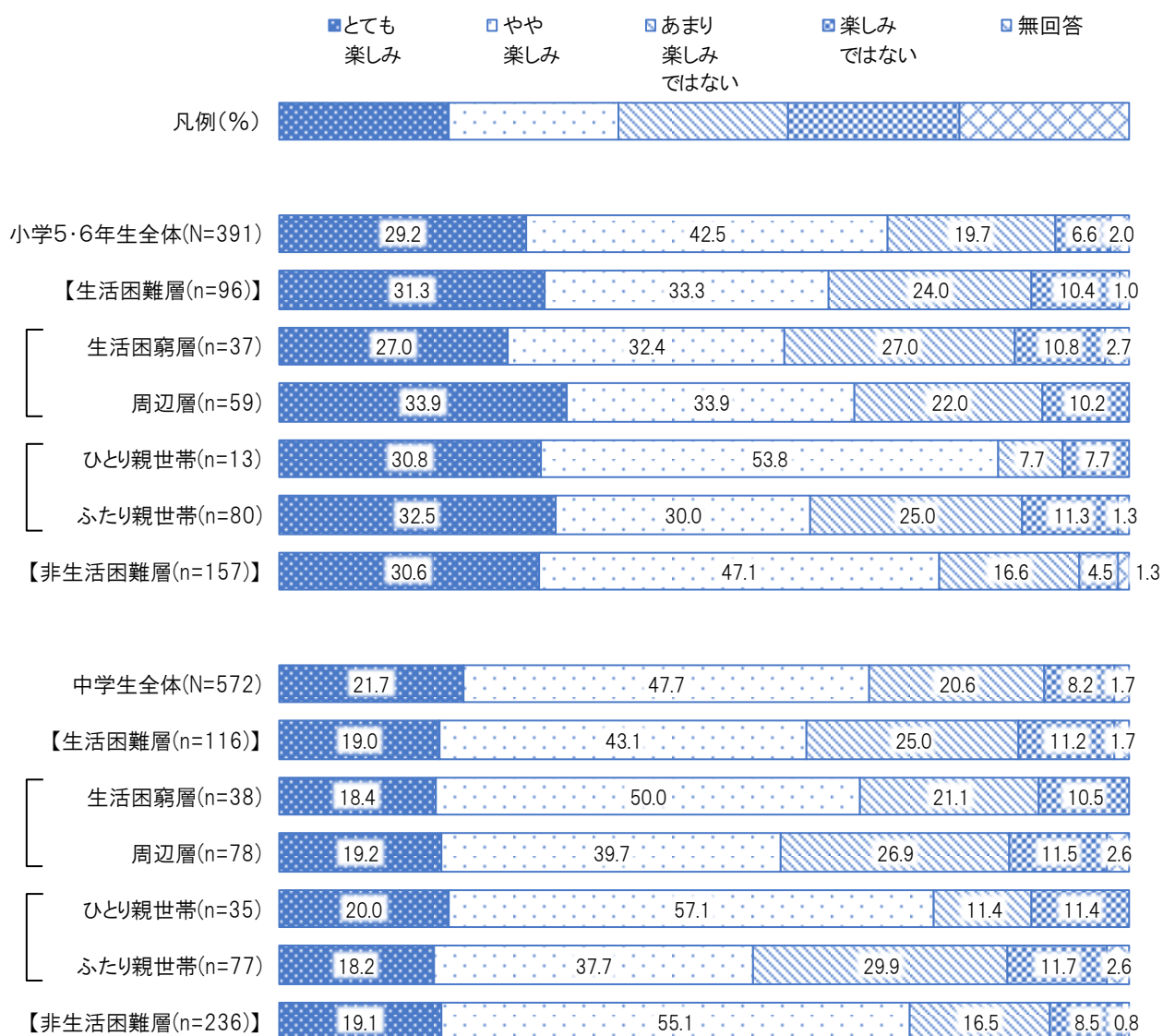
中学生全体では「とても楽しみ」の割合が高い順に「G 学校の友だちに会うこと」(75.7%)、「I 学校の休み時間」(68.4%)、「H 学校の部活動」(52.4%) となっている。また、「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計が高い順に「F 先生に会うこと」(47.9%)、「E 技術・家庭科」(36.0%)、「A 学校の授業」(28.8%) となっている。



A 学校の授業*（保健体育・音楽・美術・技術・家庭科以外で道徳，総合学習の時間を含む。）

学校の授業について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は，小学5・6年生の生活困窮層で37.8%，周辺層で32.2%となっており，生活困窮層で高くなっている。一方，中学生では，生活困窮層で31.6%，周辺層で38.4%となっており，周辺層で高くなっている。

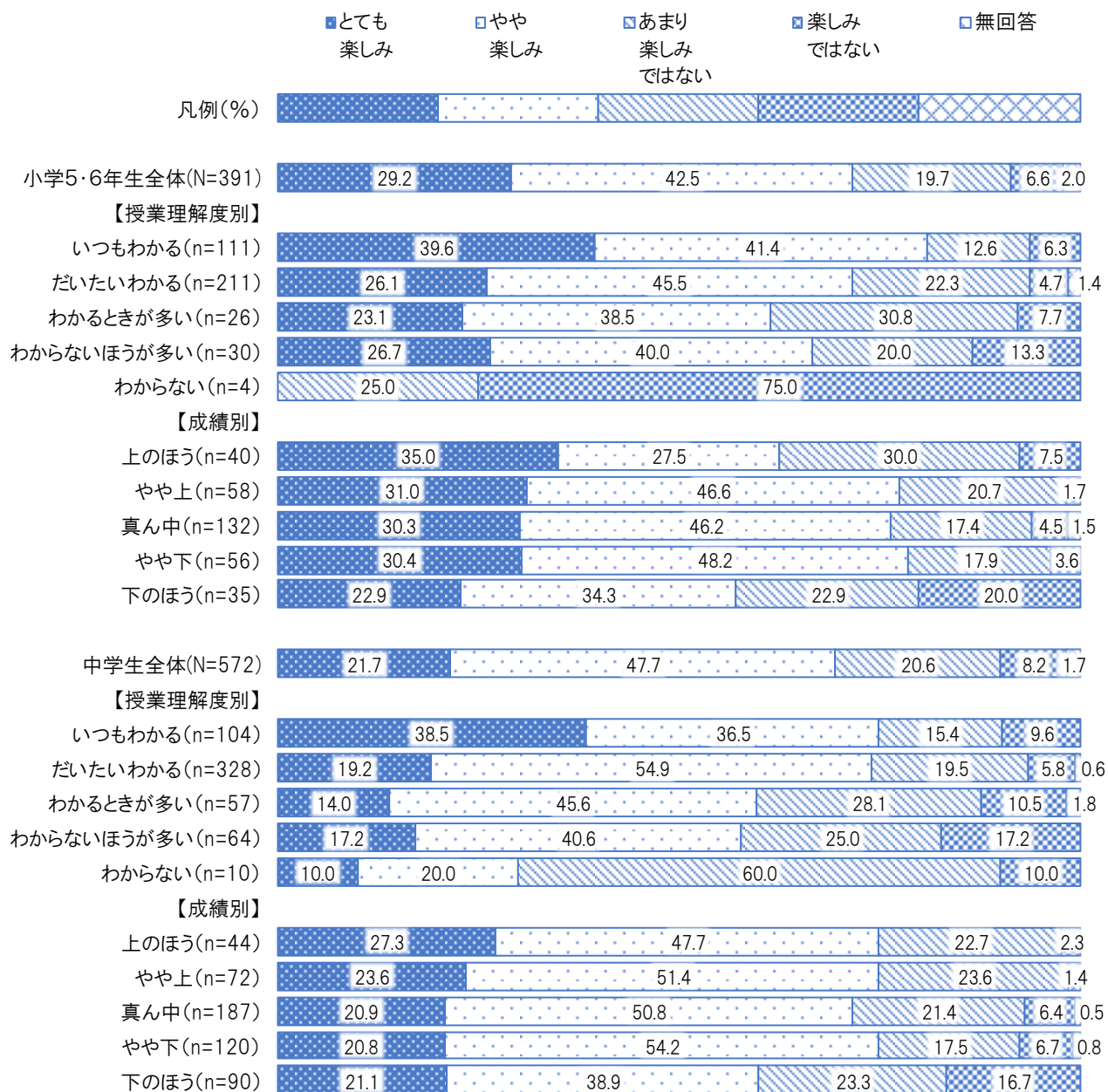
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生，中学生ともにふたり親世帯で「あまり楽しみではない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



※小学生票では「学校の授業(体育・音楽・図工・家庭科以外で道徳，総合学習の時間をふくむ。)」

授業理解度別（問 28）でみると、小学5・6年生、中学生ともに「いつもわかる」では「とても楽しみ」の割合が高い傾向にある。

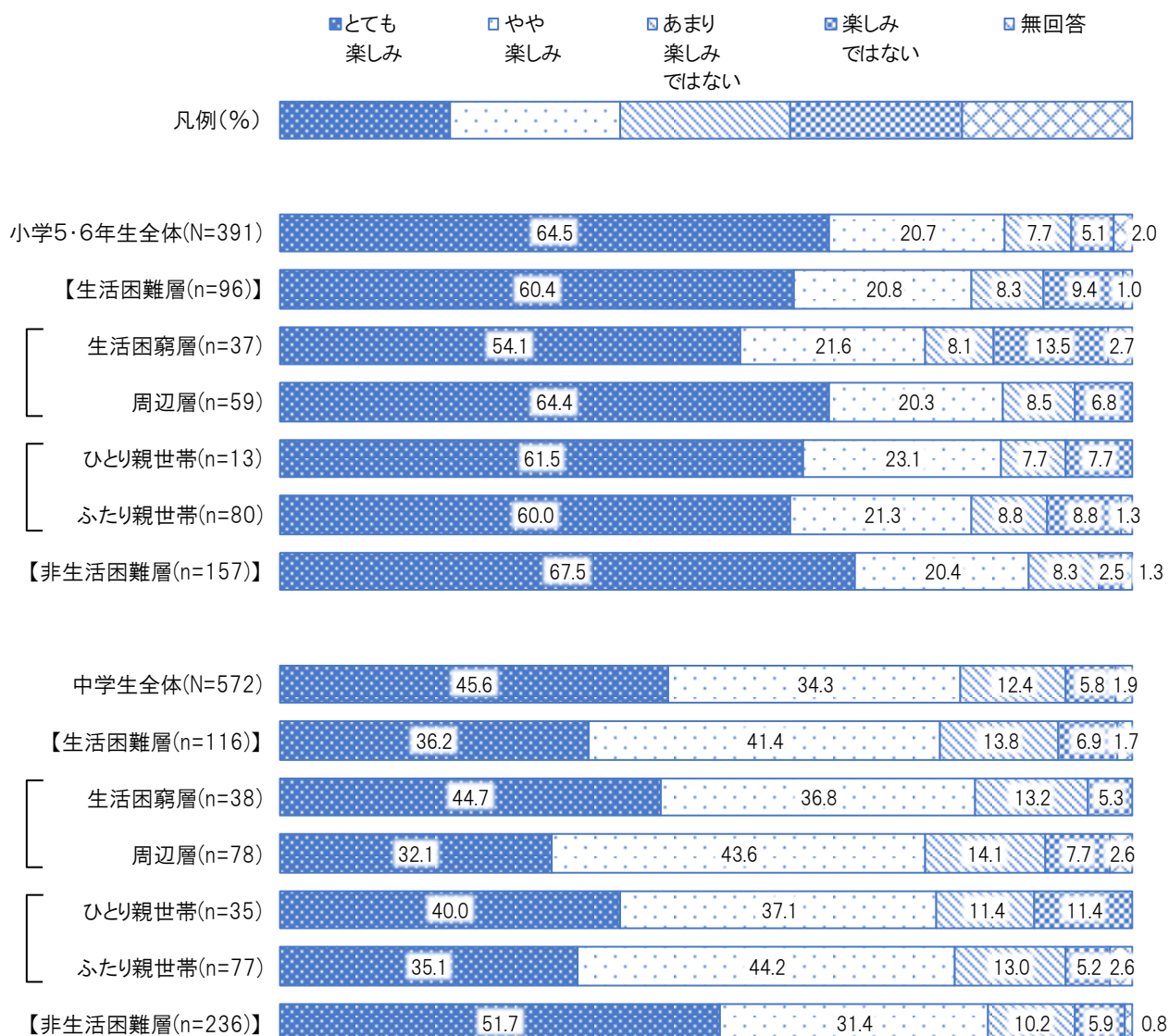
成績別（問 30）でみると、小学5・6年生、中学生ともに成績が「下のほう」では「楽しみではない」の割合が高くなっている。



注：小学5・6年生の「わからない」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

B 保健体育*

保健体育について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で15.3%となっており、生活困窮層でやや高くなっている。中学生では、生活困窮層で18.5%、周辺層で21.8%となっている。

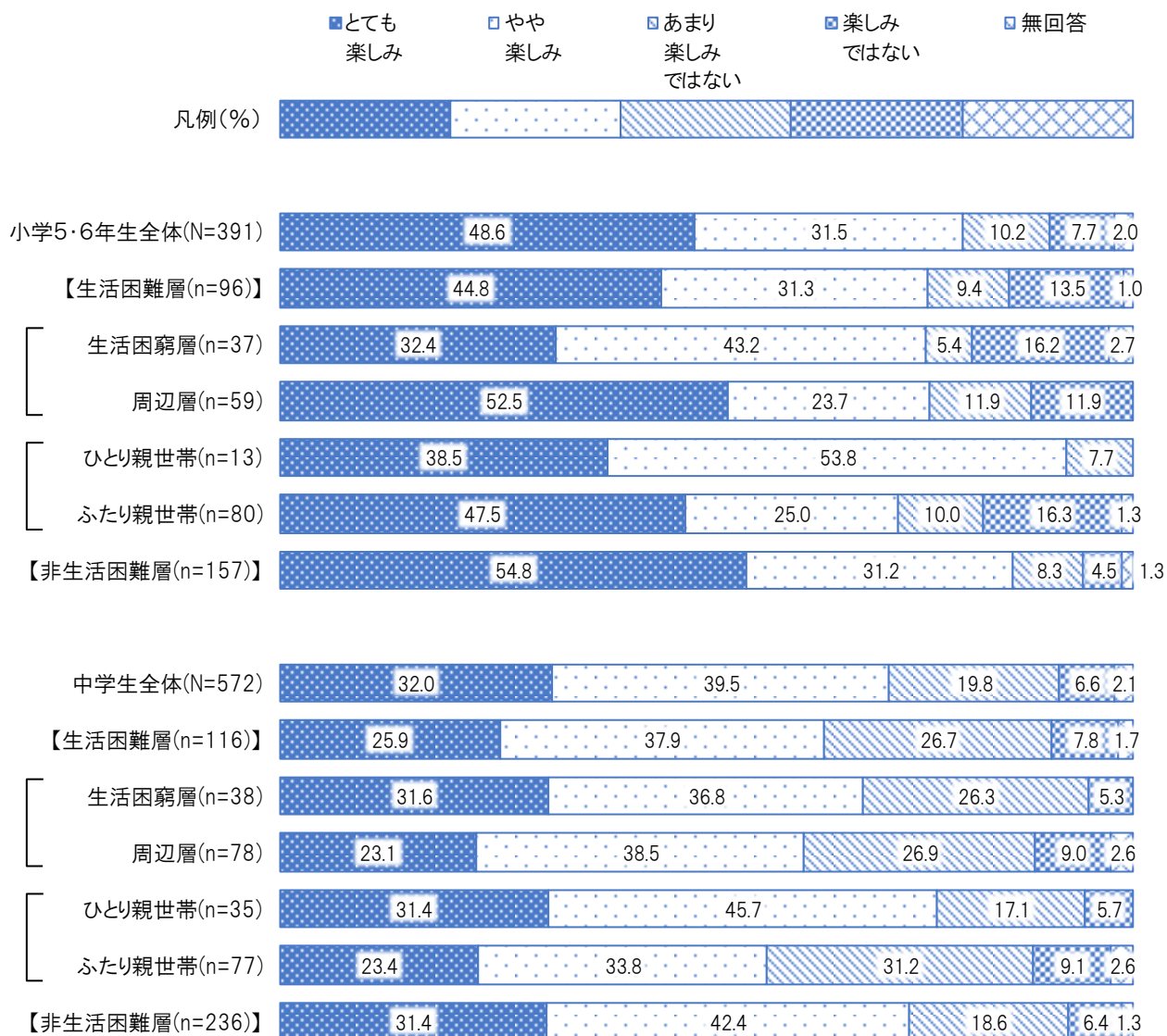


※小学生票では「体育」

C 音楽

音楽について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で23.8%、中学生では、生活困窮層で31.6%、周辺層で35.9%となっている。

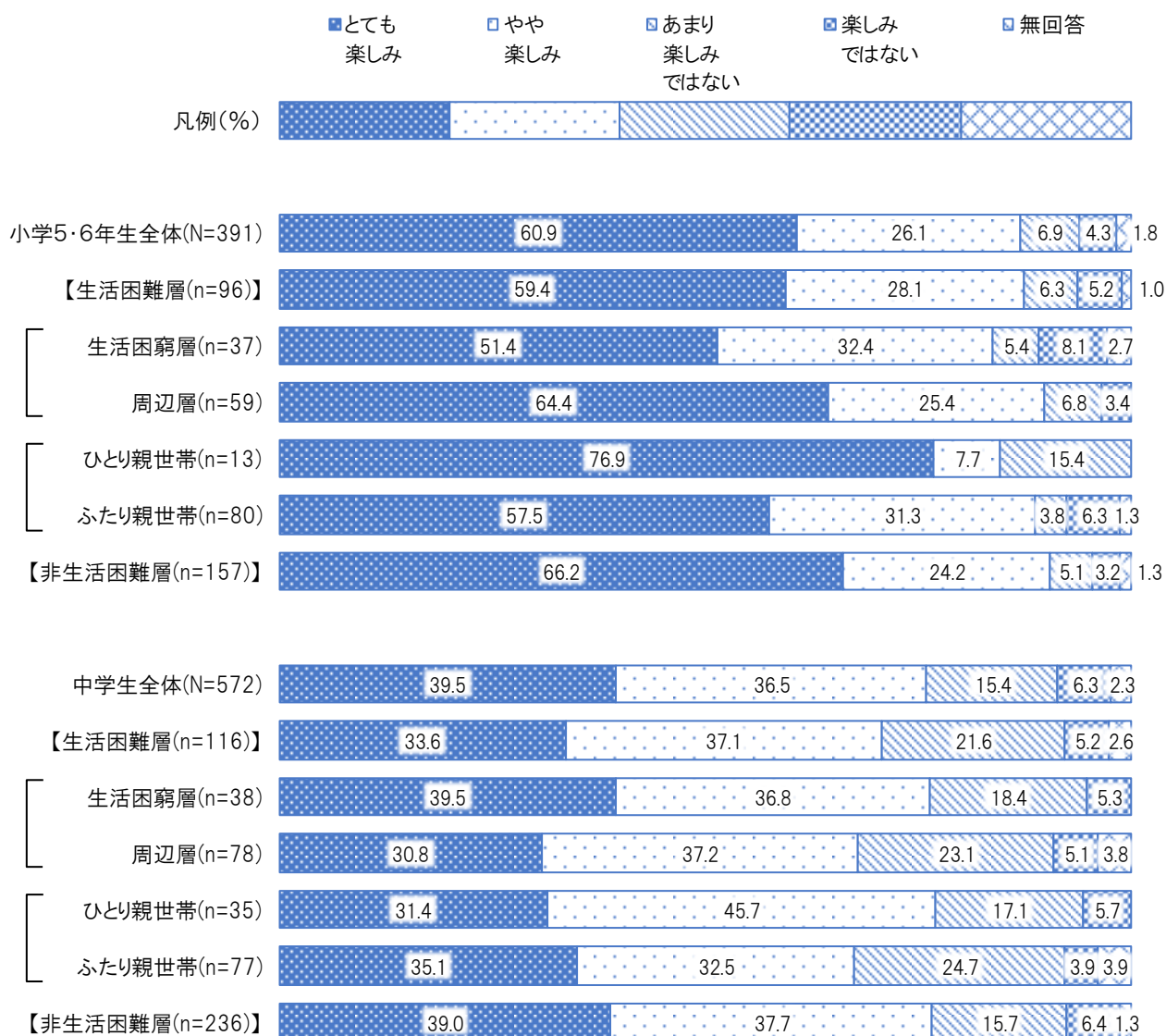
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「あまり楽しみではない」の割合が他の層に比べて高くなっている。



D 美術*

美術について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%、周辺層で10.2%となっている。中学生では、生活困窮層で23.7%、周辺層で28.2%となっており、周辺層でやや高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とても楽しみ」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。中学生のふたり親世帯で「あまり楽しみではない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。

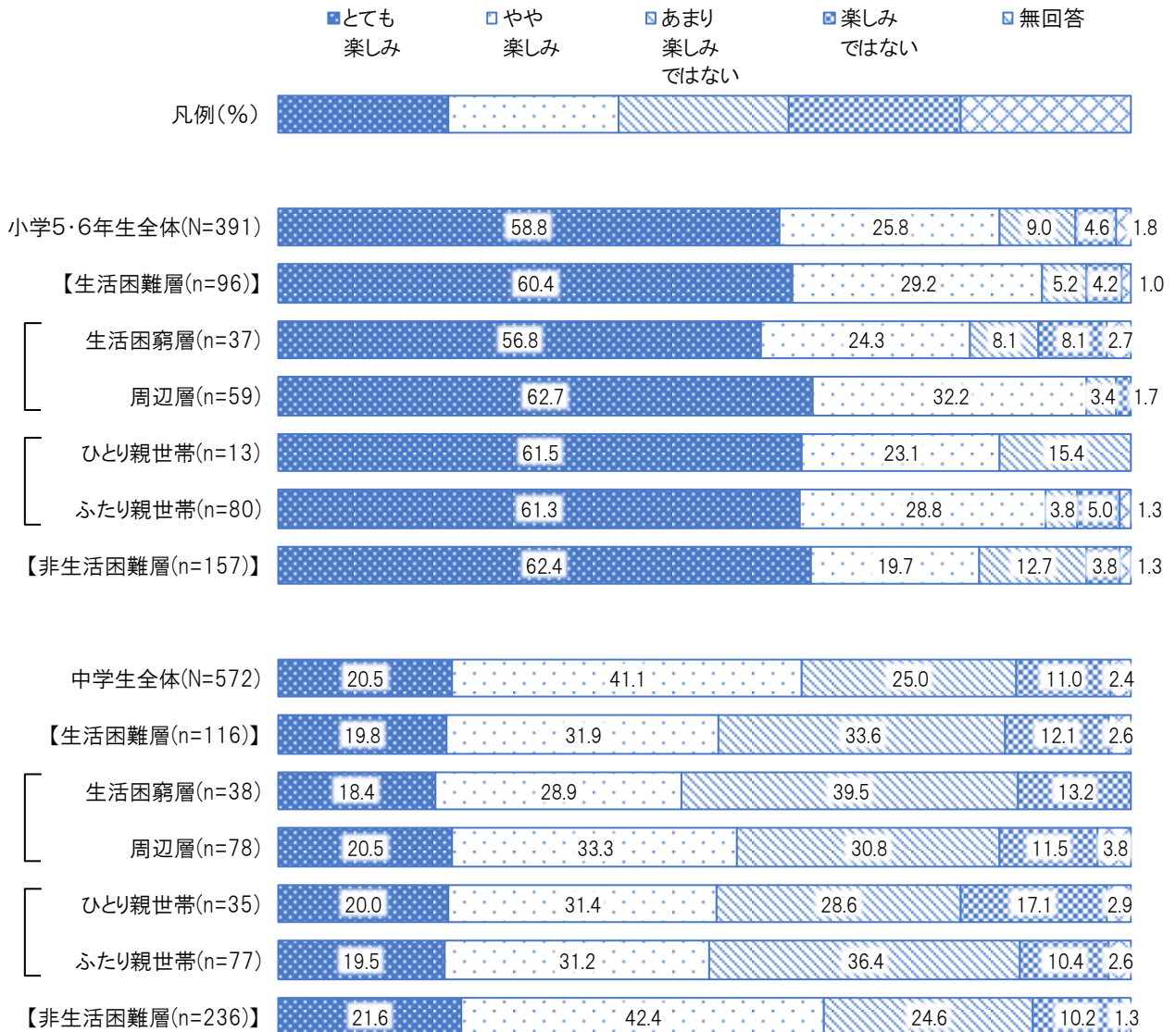


※小学生票では「図画工作」

E 技術・家庭科*

技術・家庭科について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で5.1%、中学生では、生活困窮層で52.7%、周辺層で42.3%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「あまり楽しみではない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

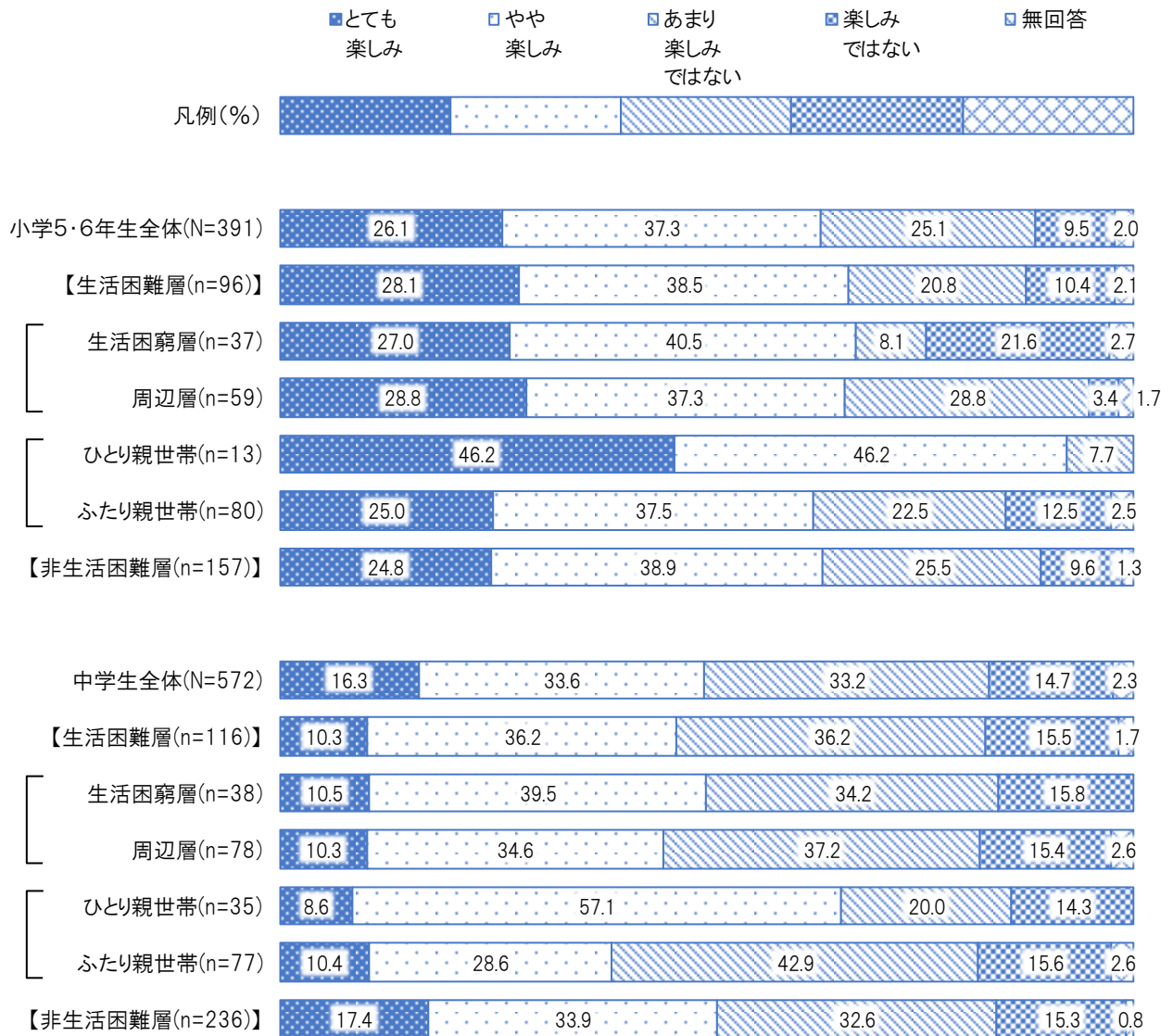


※小学生票では「家庭科」

F 先生に会うこと

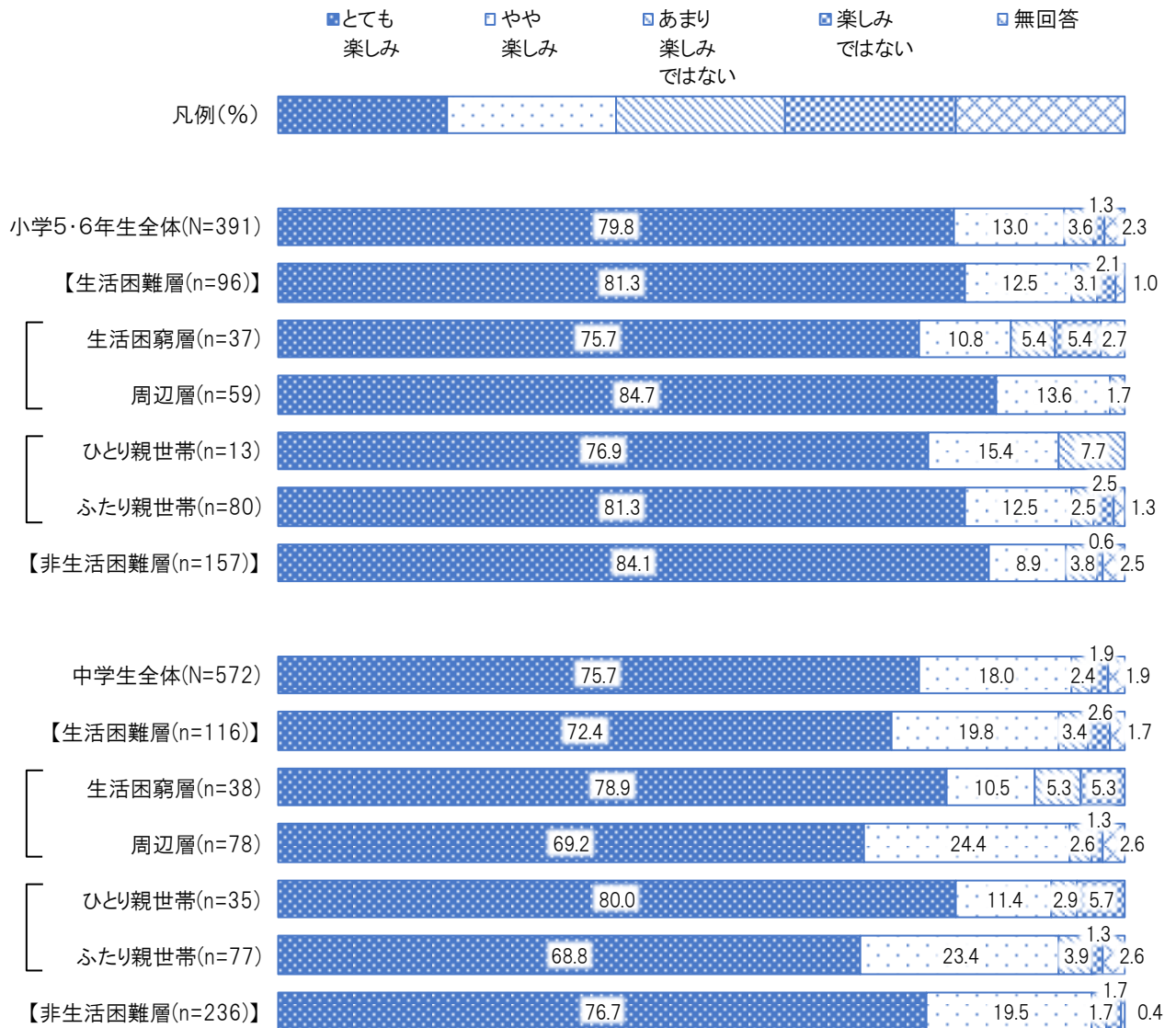
先生に会うことについて「楽しみではない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で3.4%となっており、周辺層を大きく上回っている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とても楽しみ」の割合が他の層を大きく上回っている。また、中学生のふたり親世帯で「あまり楽しみではない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



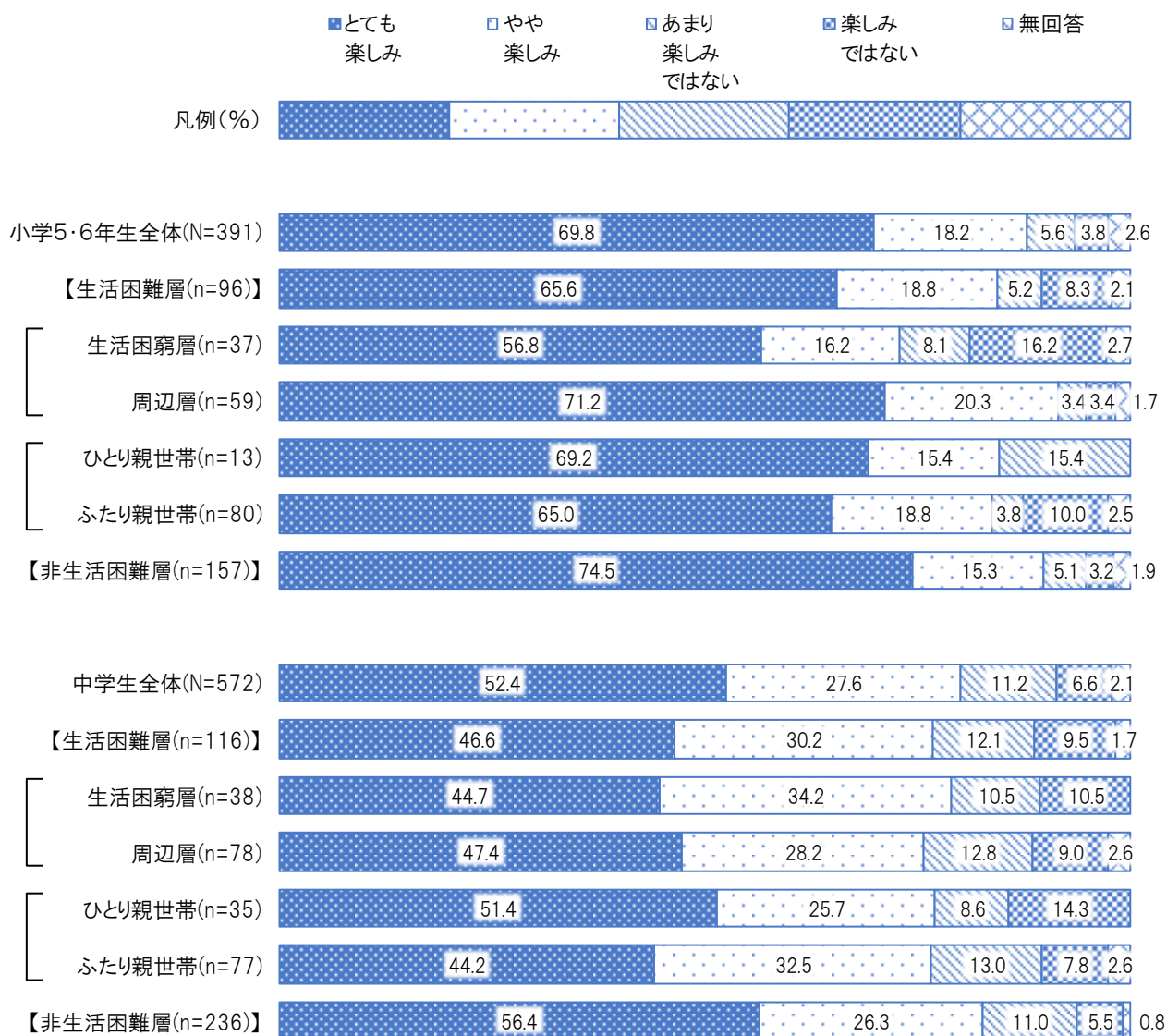
G 学校の友だちに会うこと

学校の友だちに会うことについて「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で1.7%となっており、生活困窮層で「あまり楽しみではない」の割合がやや高くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で10.8%、周辺層で3.9%となっている。



H 学校の部活動*

学校の部活動について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で24.3%, 周辺層で6.8%となっており, 生活困窮層で高くなっている。中学生では, 生活困窮層で21.0%, 周辺層で21.8%となっている。

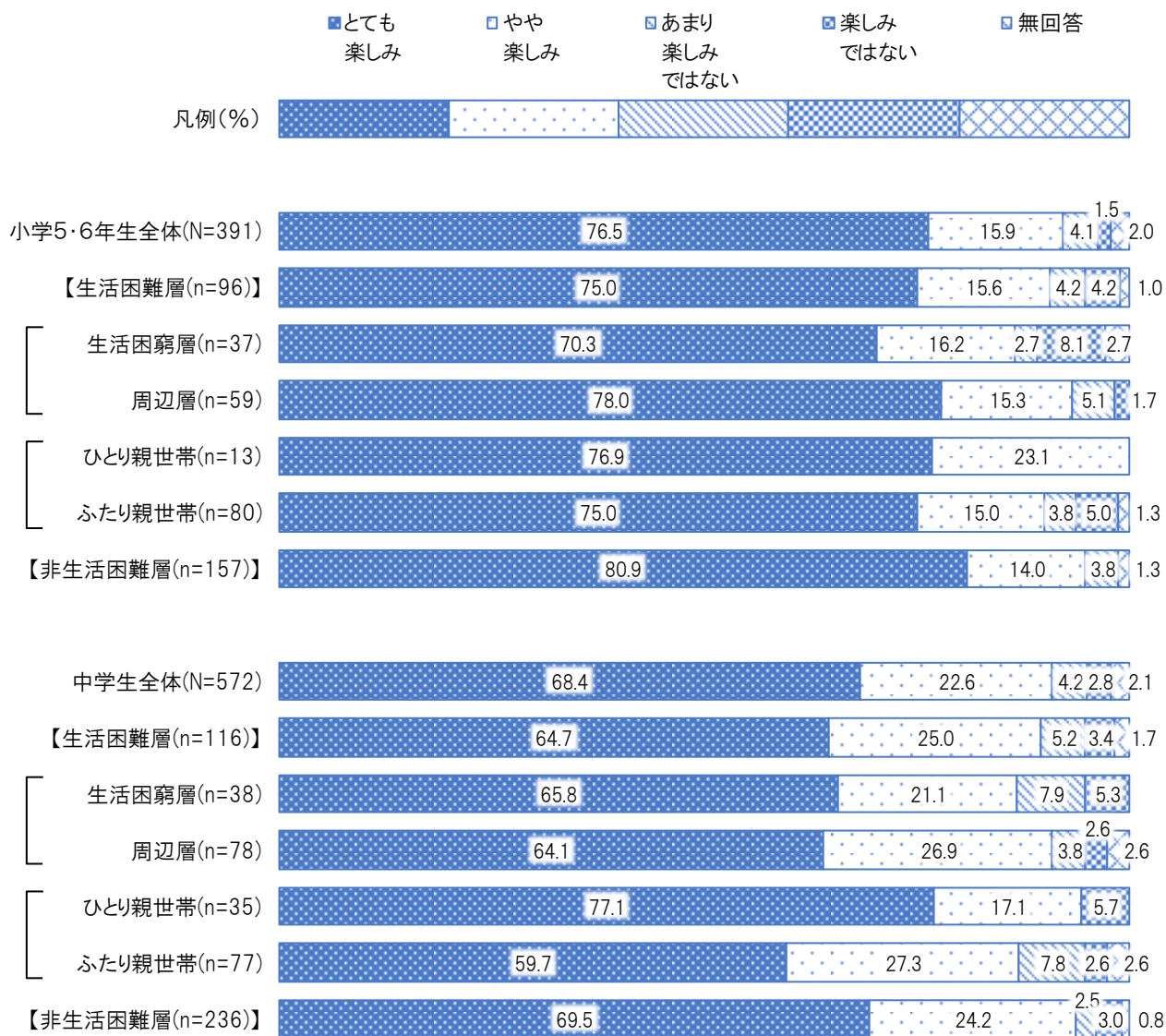


※小学生票では「学校のクラブ活動」

I 学校の休み時間

学校の休み時間について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で6.8%、中学生では、生活困窮層で13.2%、周辺層で6.4%となっており、生活困窮層でやや高くなっている。

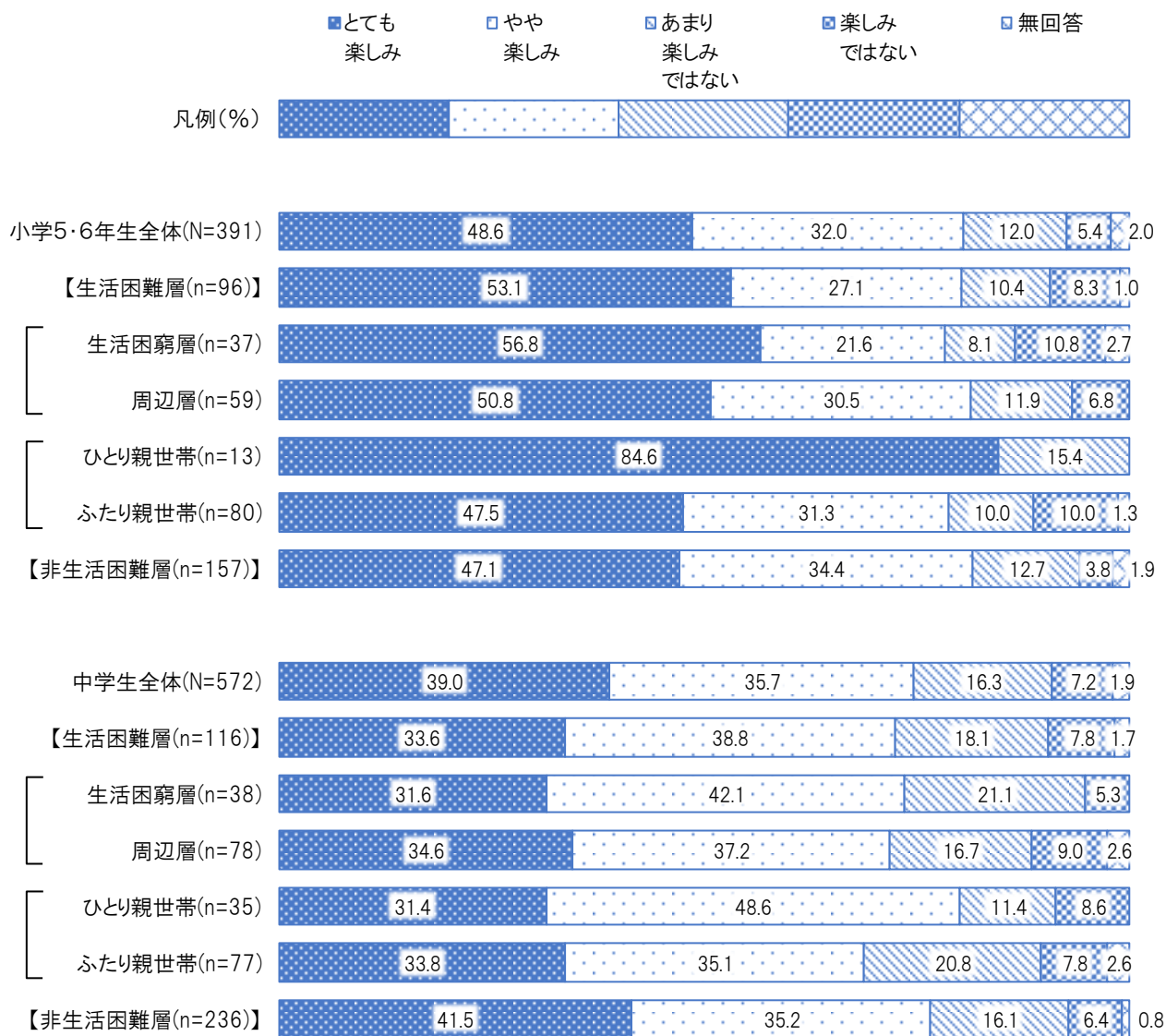
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「とても楽しみ」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



J 学校の給食（お弁当など）

学校の給食（お弁当など）について「あまり楽しみではない」「楽しみではない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で18.7%、中学生では、生活困窮層で26.4%、周辺層で25.7%となっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とても楽しみ」の割合が他の層を大きく上回っている。



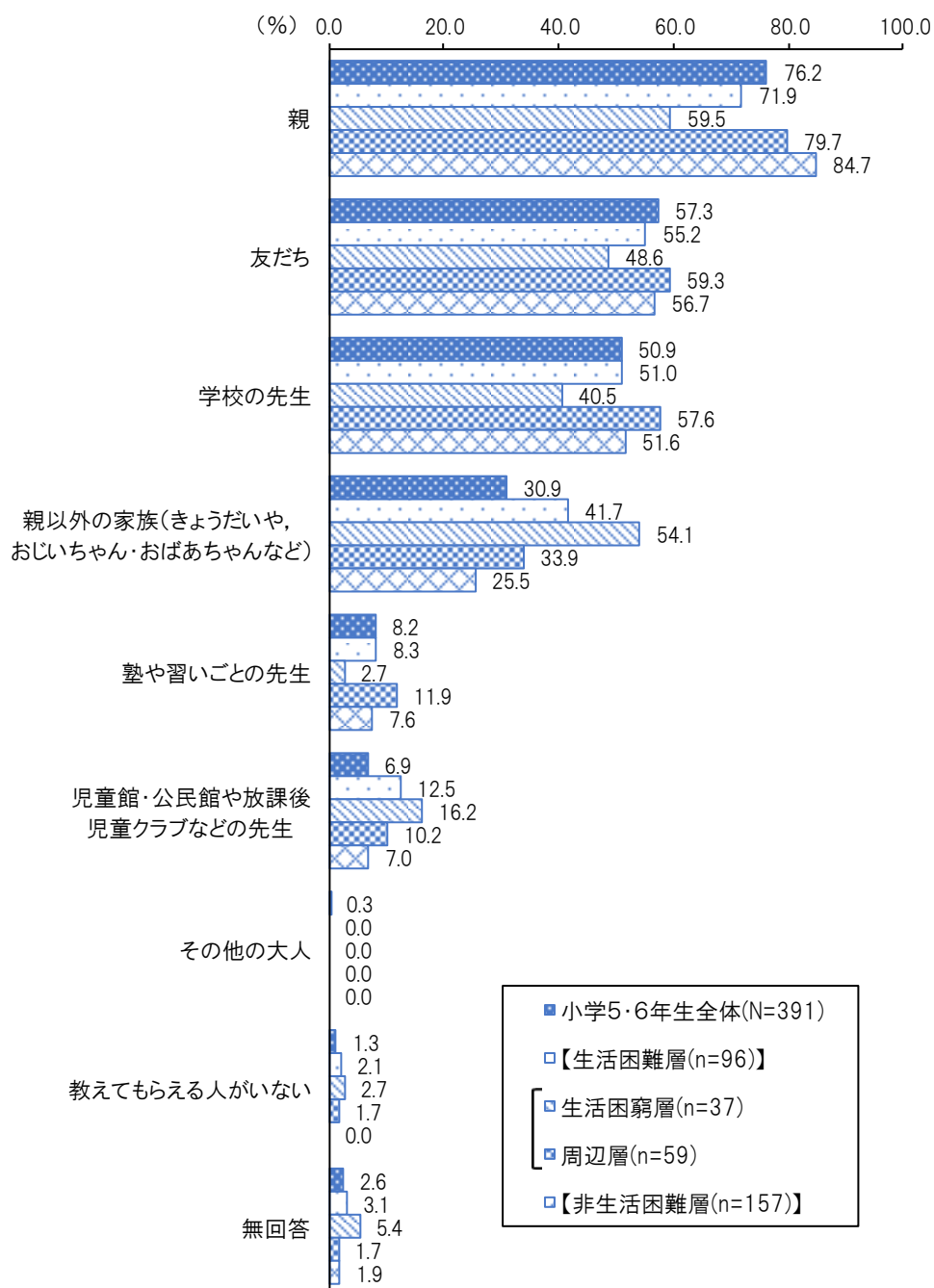
【5】学校外での学習・勉強の状況

(1) 勉強を教えてくれる人

子／問 29 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

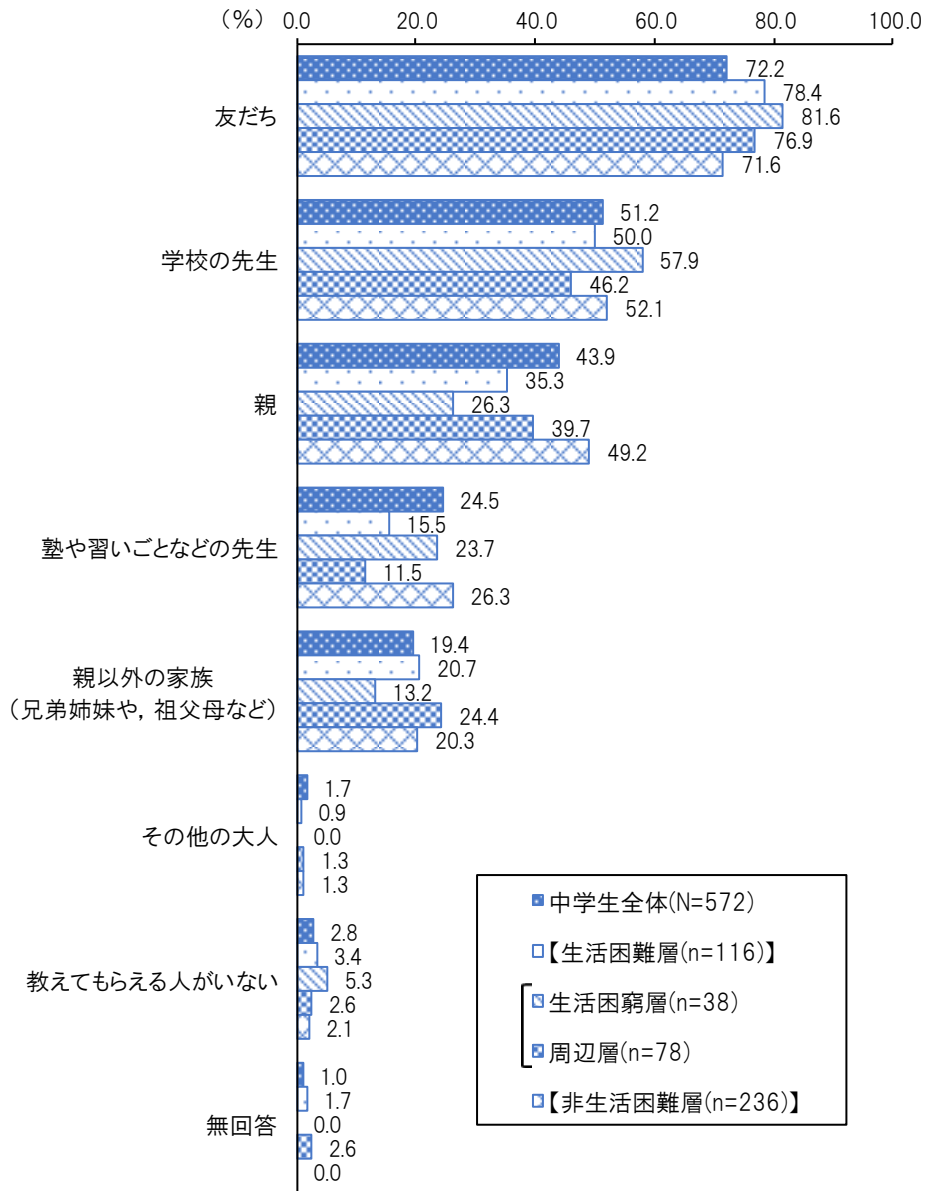
勉強を教えてくれる人については、小学5・6年生全体で「親」の割合が76.2%と最も高く、次いで「友だち」(57.3%)、「学校の先生」(50.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「親」「友だち」「学校の先生」などの割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生全体で「友だち」の割合が72.2%と最も高く、次いで「学校の先生」(51.2%)、「親」(43.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「親」の割合が他の層を大きく下回っている。



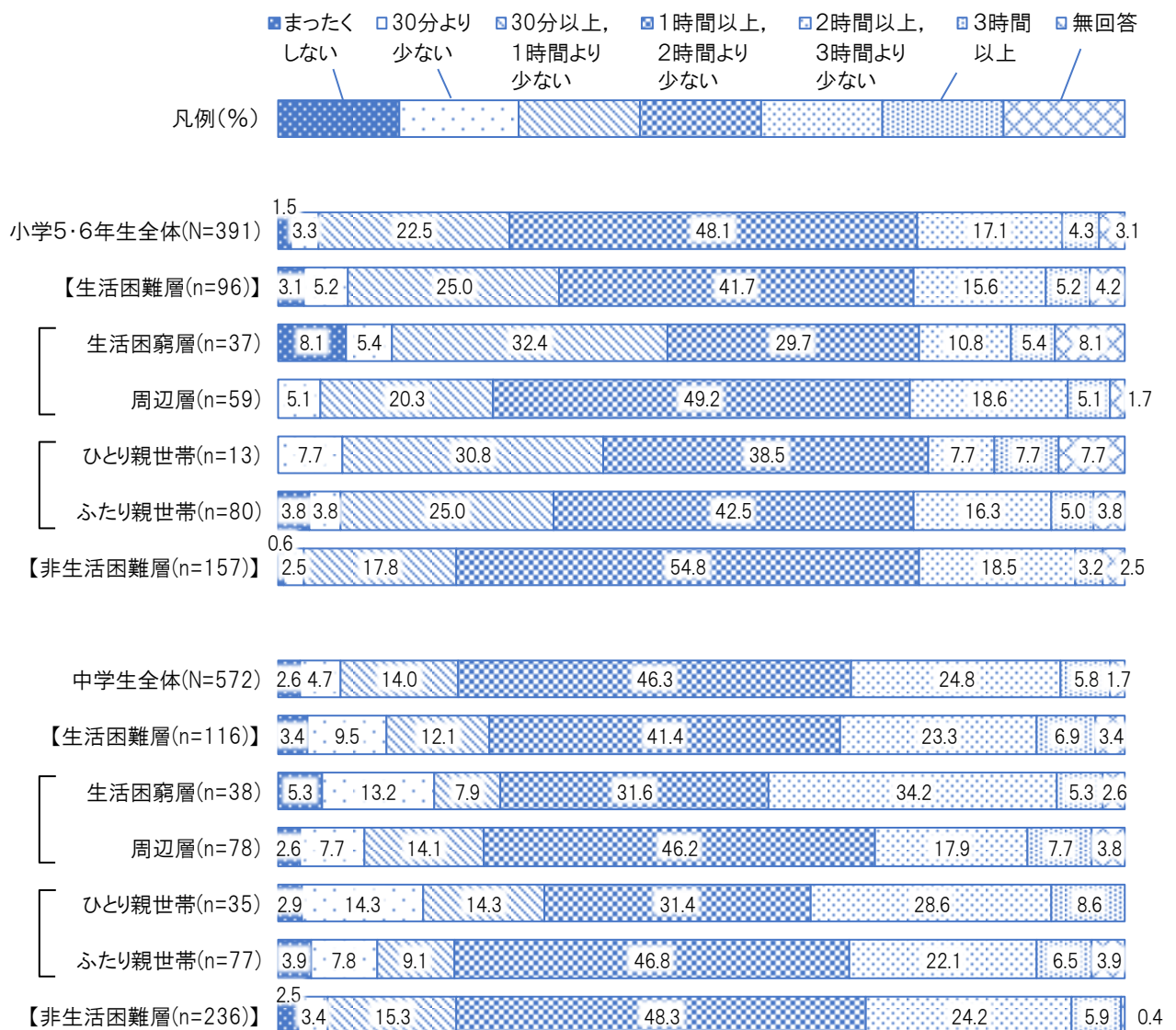
(2) 学校外での勉強時間

子／問 32 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。
 (あてはまる番号1つに○)
 ※塾などでの時間も含まれます。

学校外での勉強時間については、小学5・6年生全体では、「まったくしない」「30分より少ない」の合計が4.8%、中学生全体では7.3%となっている。一方、「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」の合計は、小学5・6年生全体では21.4%、中学生全体では30.6%となっている。

生活困難度別にみた「まったくしない」「30分より少ない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%、中学生で18.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「まったくしない」「30分より少ない」の合計がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。

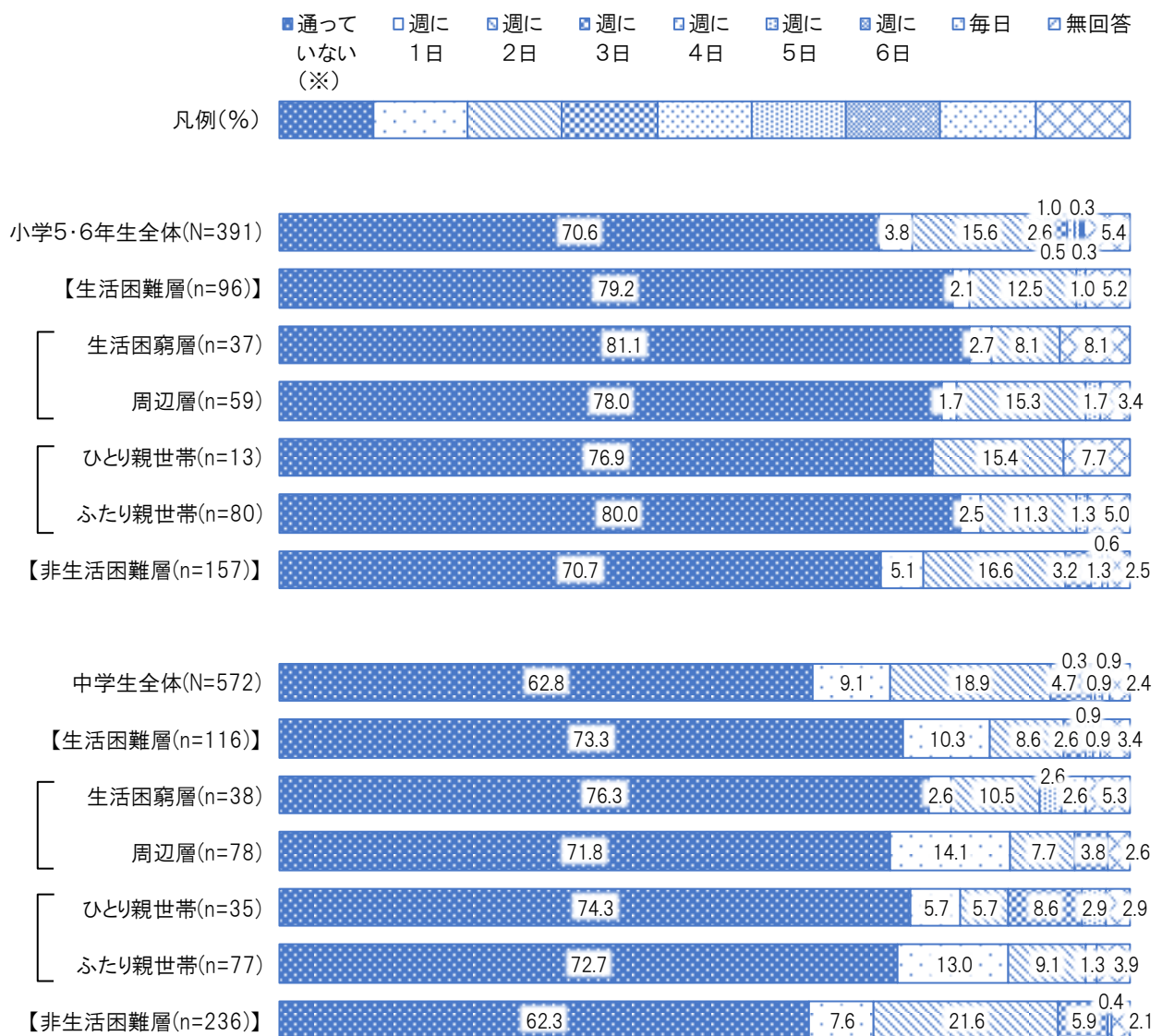


(3) 学習塾・家庭教師の頻度

子／問 33 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらっていますか。通っている（来てもらっている）場合、1週間に何日通って（来てもらって）いますか。（あてはまる番号1つに○）

学習塾・家庭教師の頻度については、小学5・6年生全体では「通って（来てもらって）いない」の割合が70.6%、中学生全体では62.8%となっている。一方、「週に1日」「週に2日」「週に3日」の合計は、小学5・6年生全体では22.0%、中学生全体では31.7%となっている。

生活困難度別にみた「通って（来てもらって）いない」割合は、小学5・6年生の生活困窮層で81.1%、中学生で76.3%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。



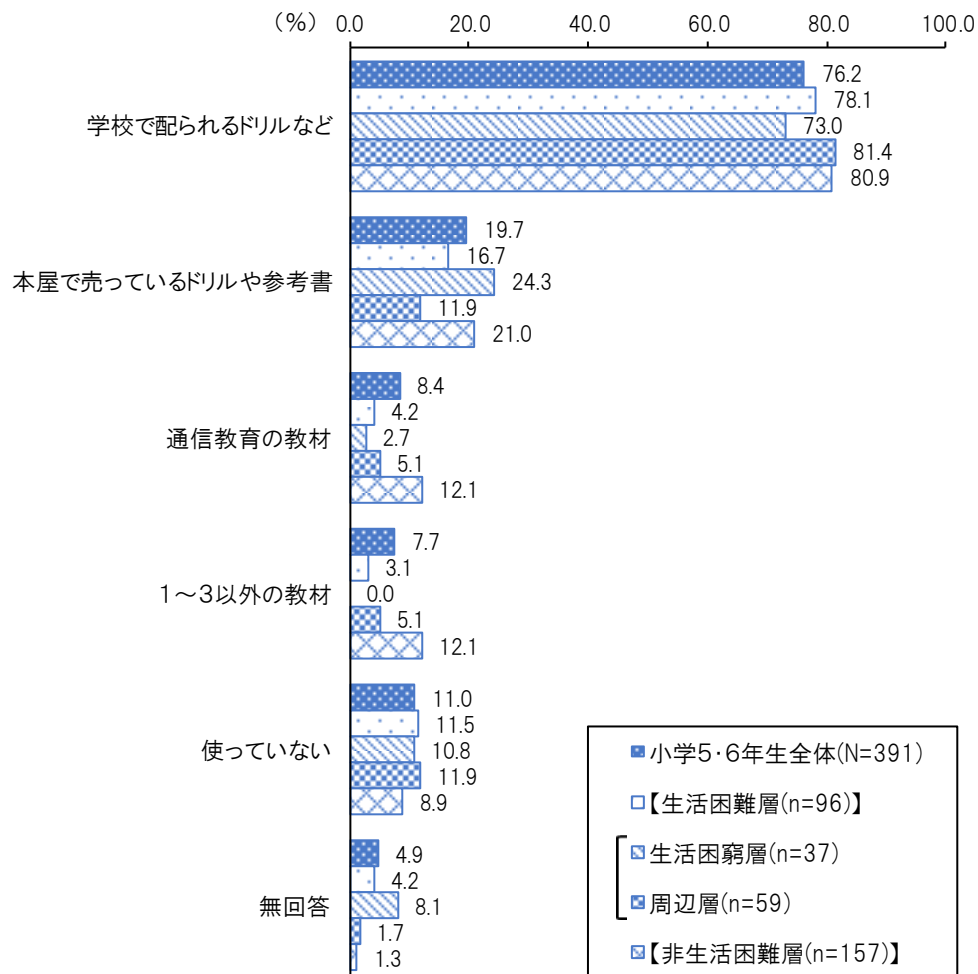
※通って(来てもらって)いない

(4) 自宅での教材使用状況

子／問 34 あなたは、自宅で次の教材を使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

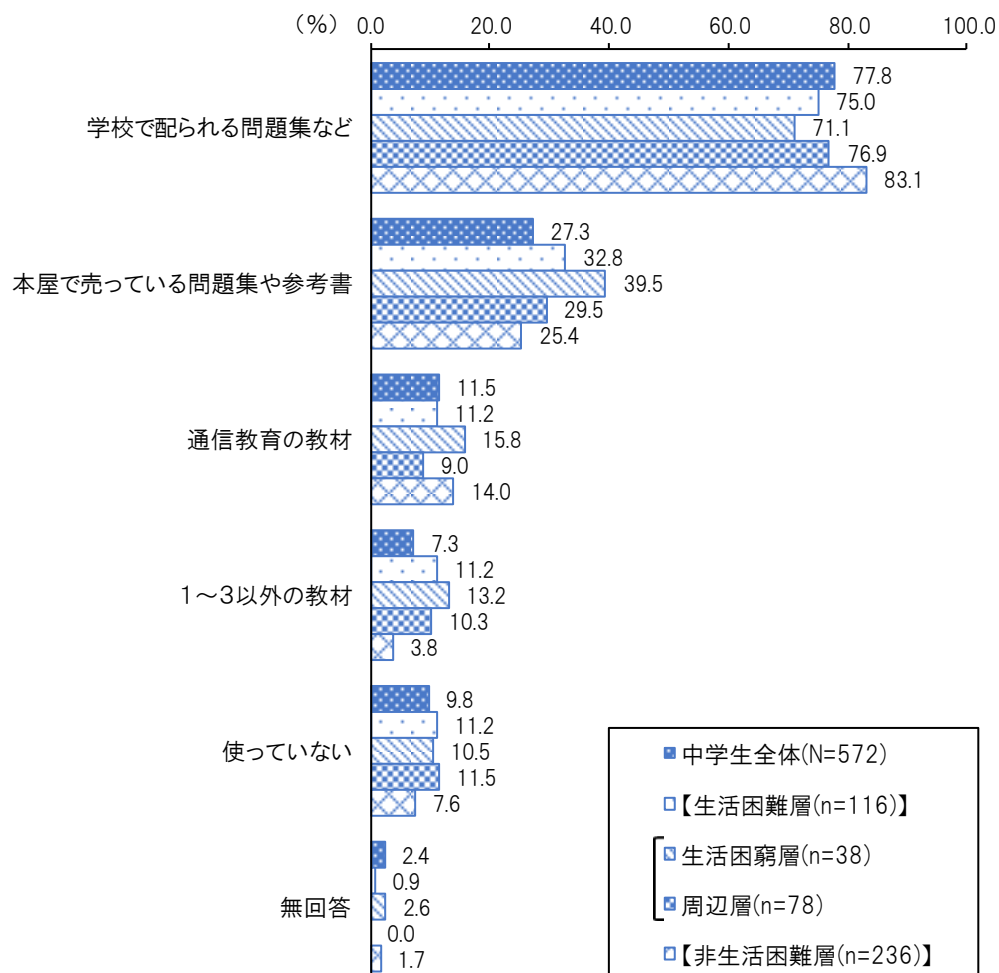
自宅での教材使用状況については、小学5・6年生全体で「学校で配られるドリルなど」の割合が76.2%と最も高く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」(19.7%)の順となっている。

生活困難度別による大きな差はみられない。



中学生全体で「学校で配られる問題集など」の割合が77.8%と最も高く、次いで「本屋で売っている問題集や参考書」(27.3%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「学校で配られる問題集など」の割合がやや低く、一方で「本屋で売っている問題集や参考書」の割合が高くなっている。



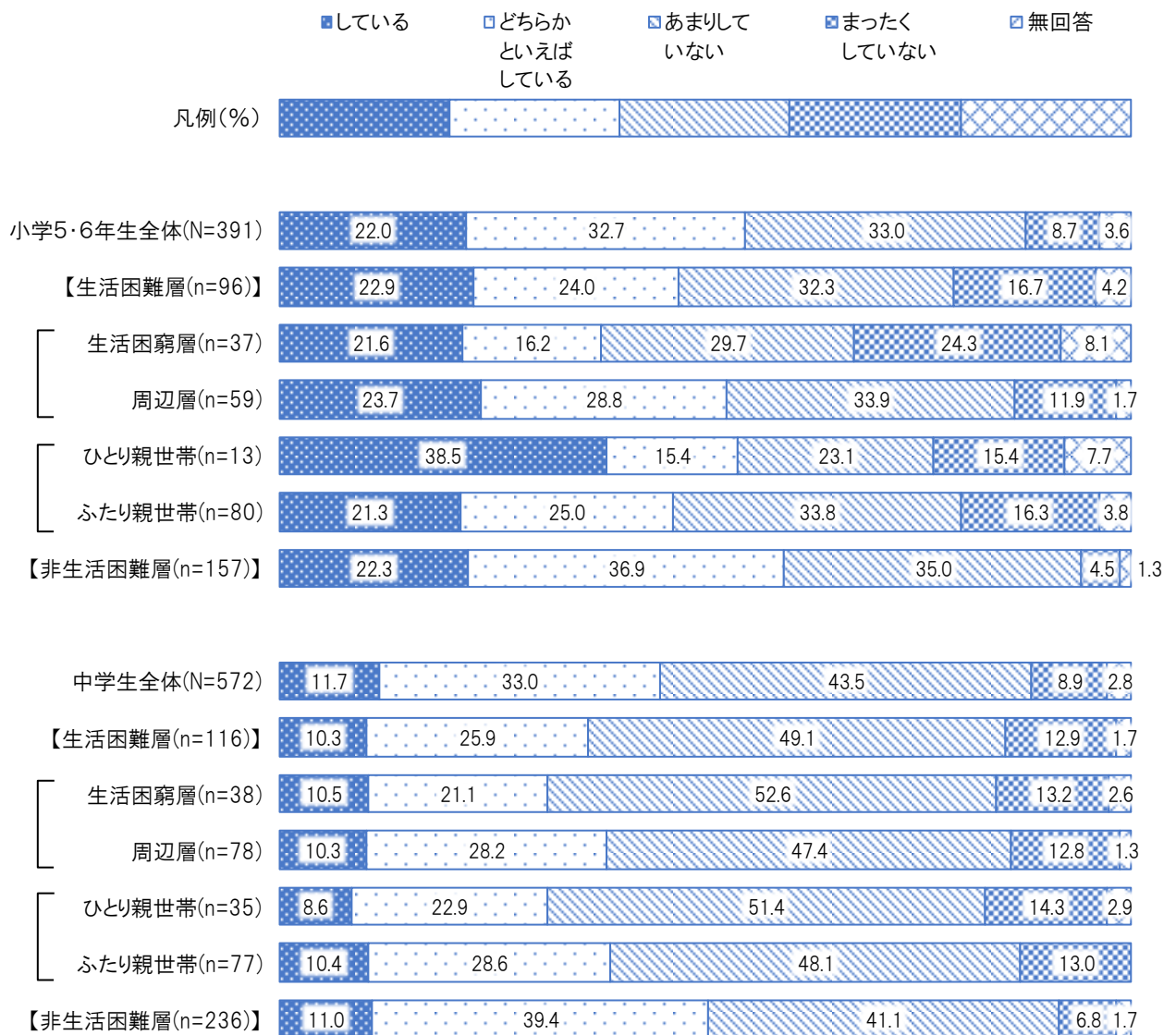
(5) 計画的な勉強実施状況

子／問 35 あなたは、ふだん、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
(あてはまる番号1つに○)

計画的な勉強実施状況については、小学5・6年生全体では「している」「どちらかといえばしている」の合計が54.7%、中学生全体では44.7%となっている。一方、「まったくしていない」の割合は、小学5・6年生全体では8.7%、中学生全体では8.9%となっている。

生活困難度別にみた「まったくしていない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で24.3%、周辺層で11.9%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「している」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



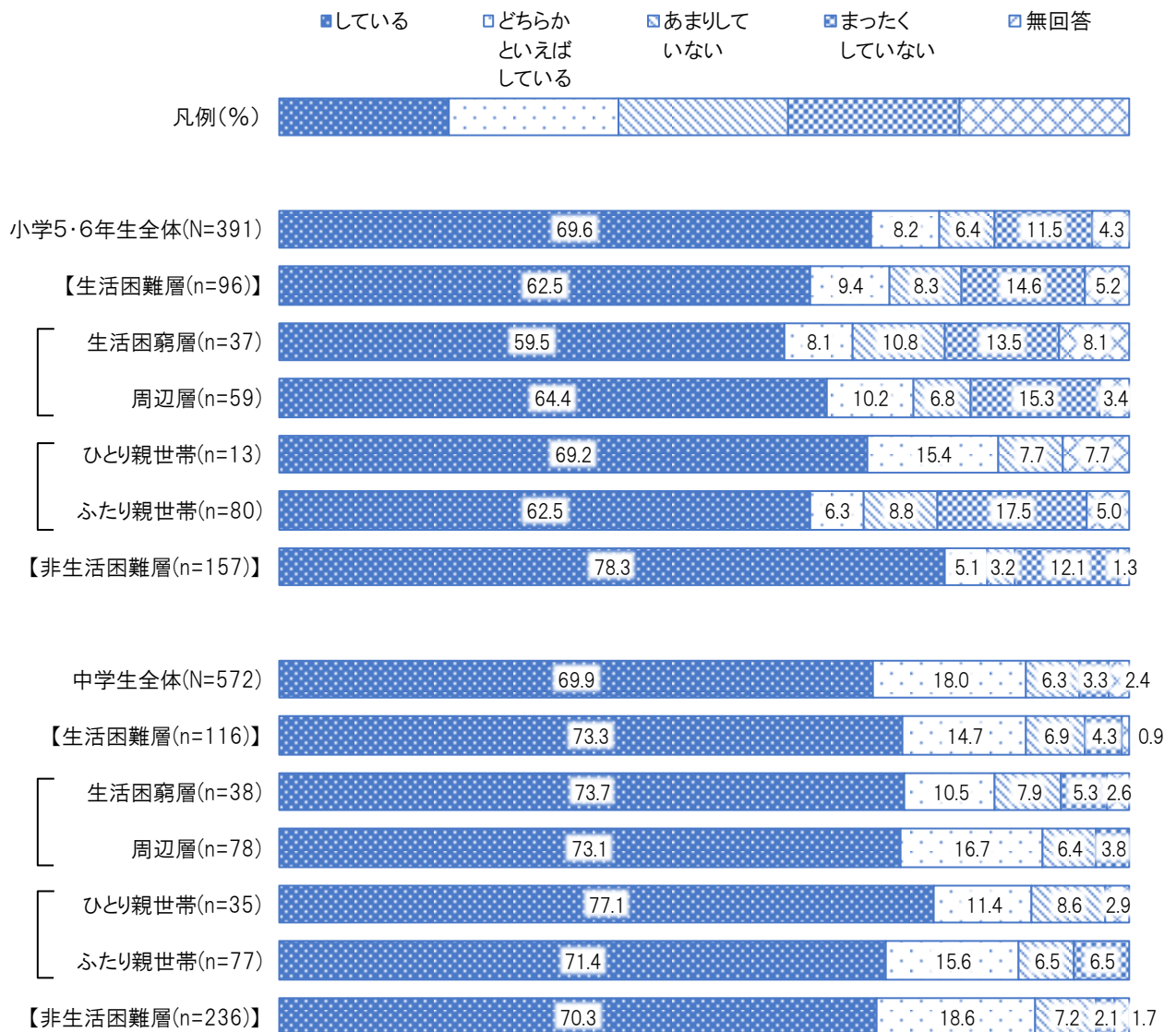
(6) 宿題への対応状況

子／問 36 あなたは、ふだん、自宅や学習塾などで学校の宿題をしていますか。
(あてはまる番号1つに○)

宿題への対応状況については、小学5・6年生全体では「している」の割合が69.6%、中学生全体では69.9%となっている。一方、「あまりしていない」「まったくしていない」の合計は、小学5・6年生全体では17.9%、中学生全体では9.6%となっている。

生活困難度別にみた「あまりしていない」「まったくしていない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で24.3%、周辺層で22.1%、中学生の生活困窮層で13.2%、周辺層で10.2%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「まったくしていない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



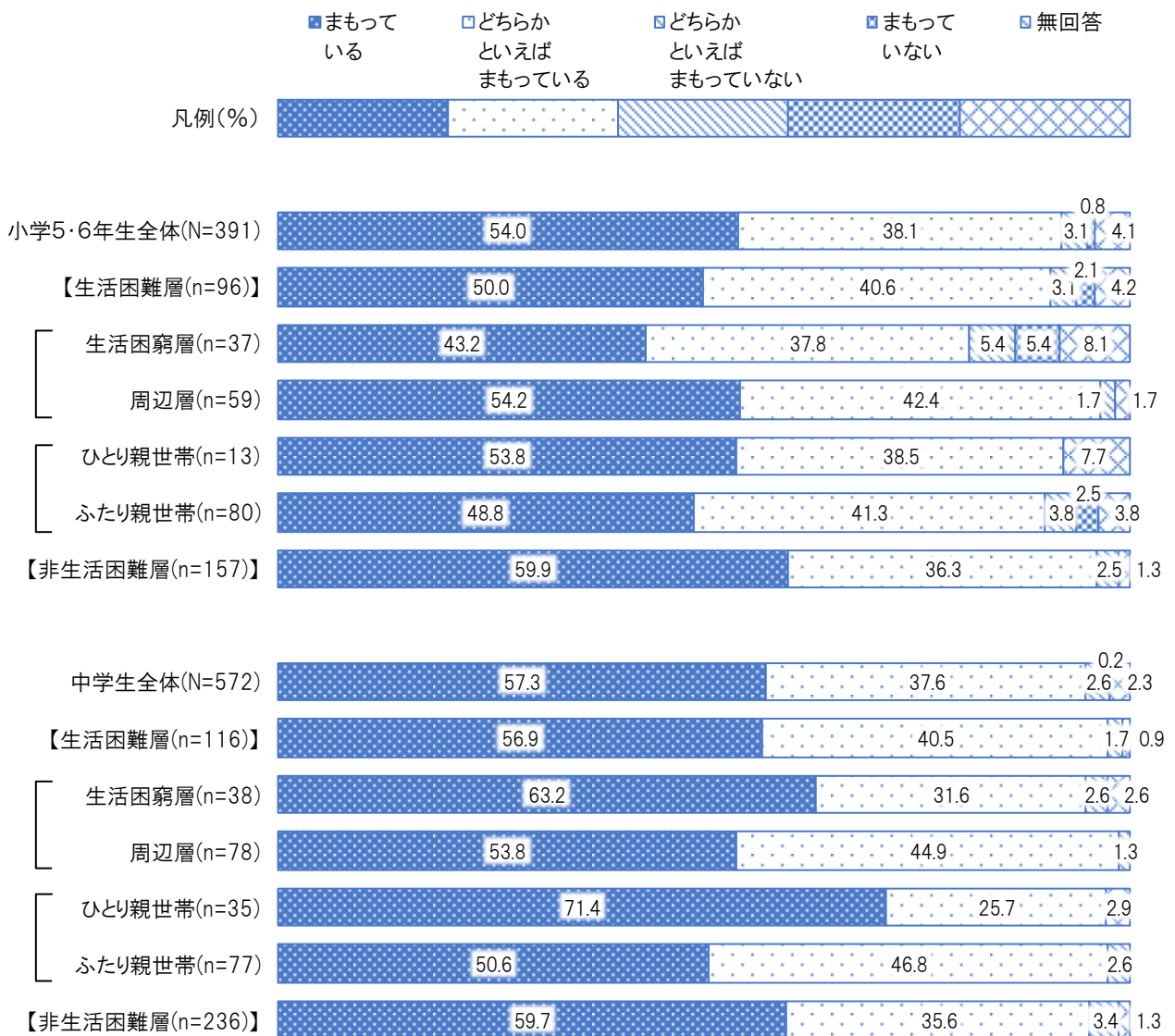
(7) 学校規則の遵守状況

子／問 37 あなたは、ふだん、学校の規則をまもっていますか。
(あてはまる番号1つに○)

学校規則の遵守状況については、小学5・6年生全体では「まもっている」の割合が54.0%、中学生全体では57.3%となっている。一方、「どちらかといえばまもっていない」「まもっていない」の合計は、小学5・6年生全体では3.9%、中学生全体では2.8%となっている。

生活困難度別にみた「まもっている」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で43.2%、周辺層で54.2%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「まもっている」の割合が他の層を大きく上回っている。



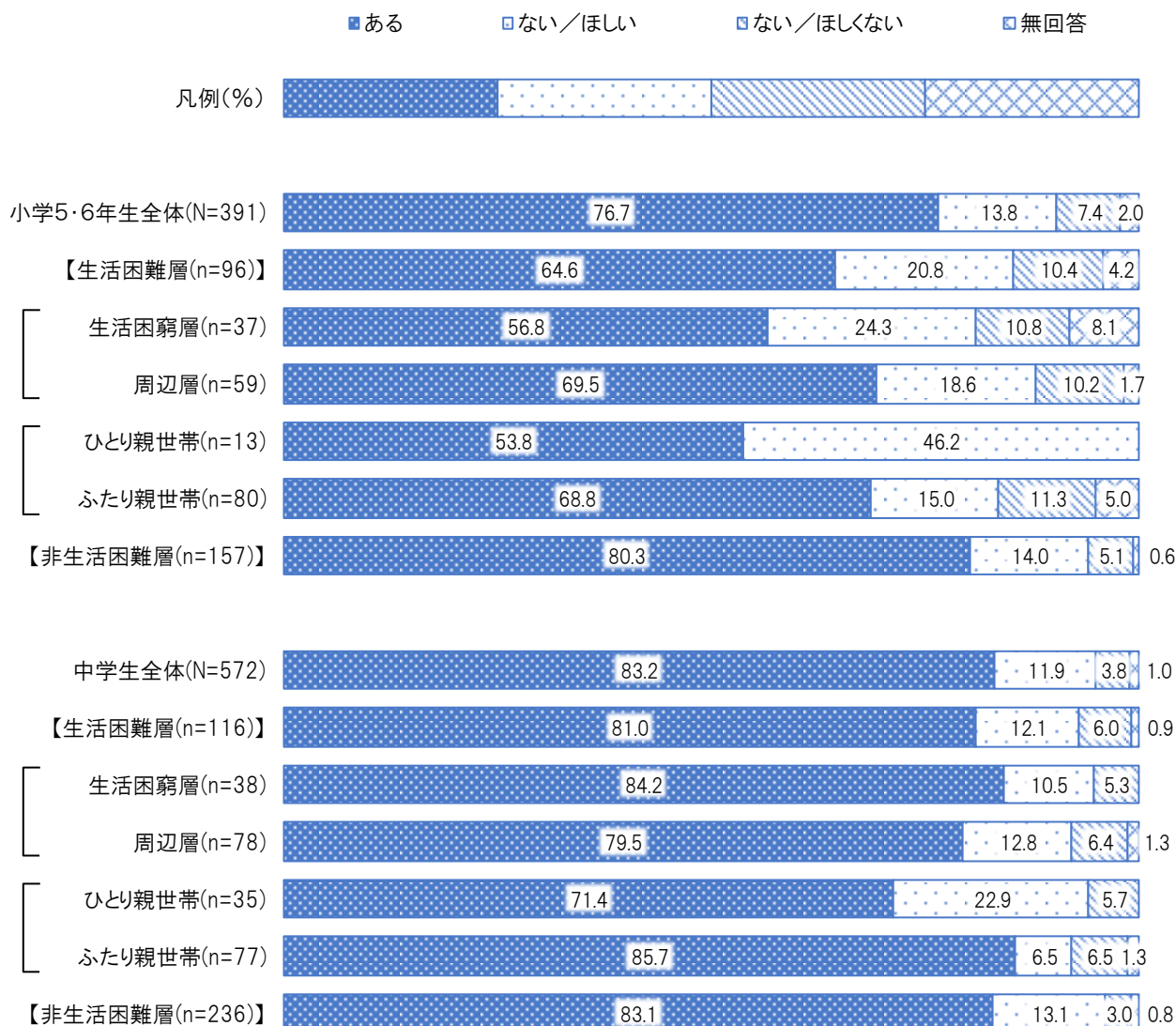
【6】学習環境

子／問4 あなたには、自分が使うことができる、次のものがありますか。ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、いらないと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

B 子供部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）（再掲）

子供部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）について「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で56.8%，周辺層で69.5%となっており、生活困窮層で低くなっている。

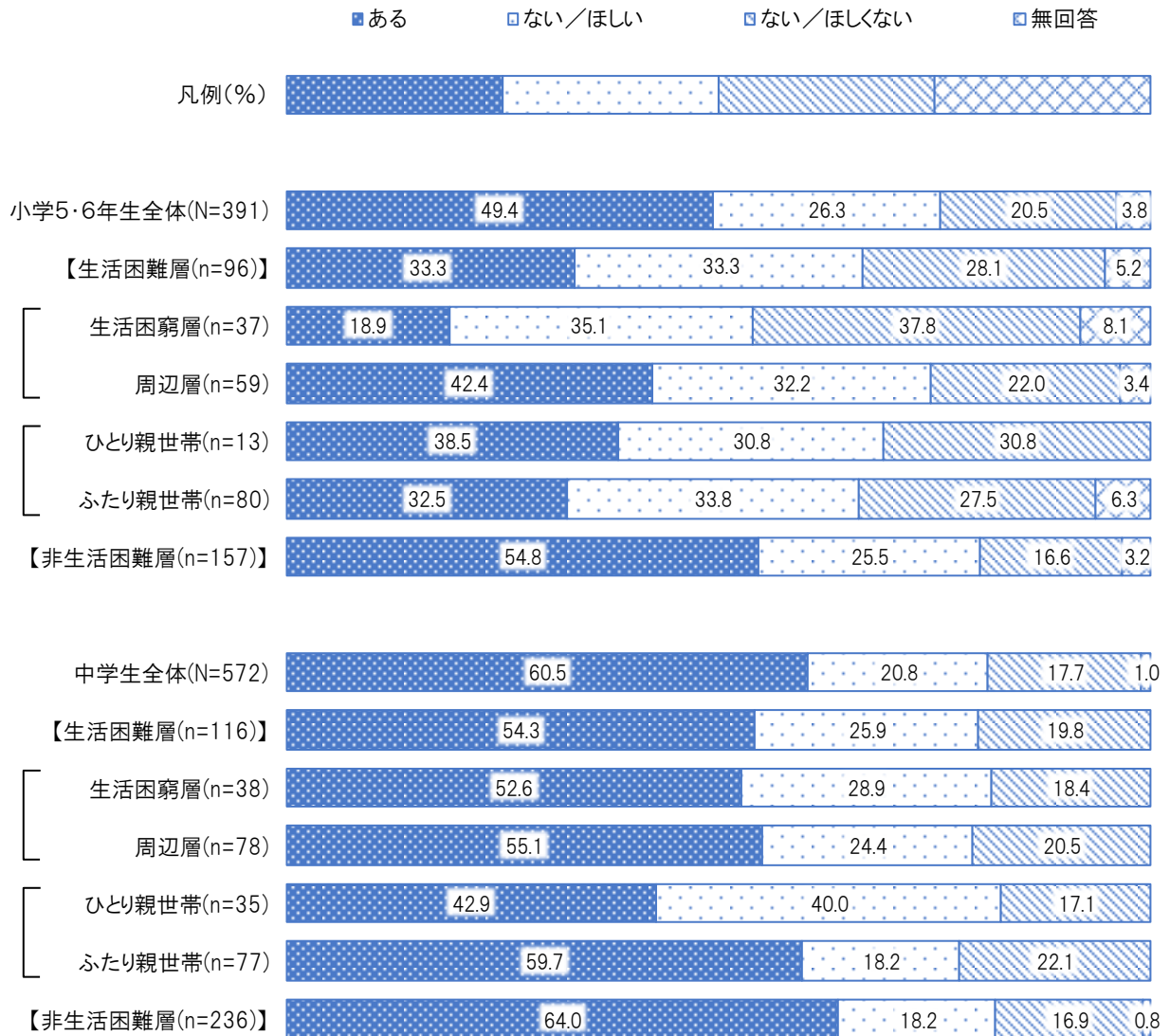
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C (自宅で)インターネットにつながるパソコン(再掲)

(自宅で)インターネットにつながるパソコンについて「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で42.4%となっており、生活困窮層で低くなっている。

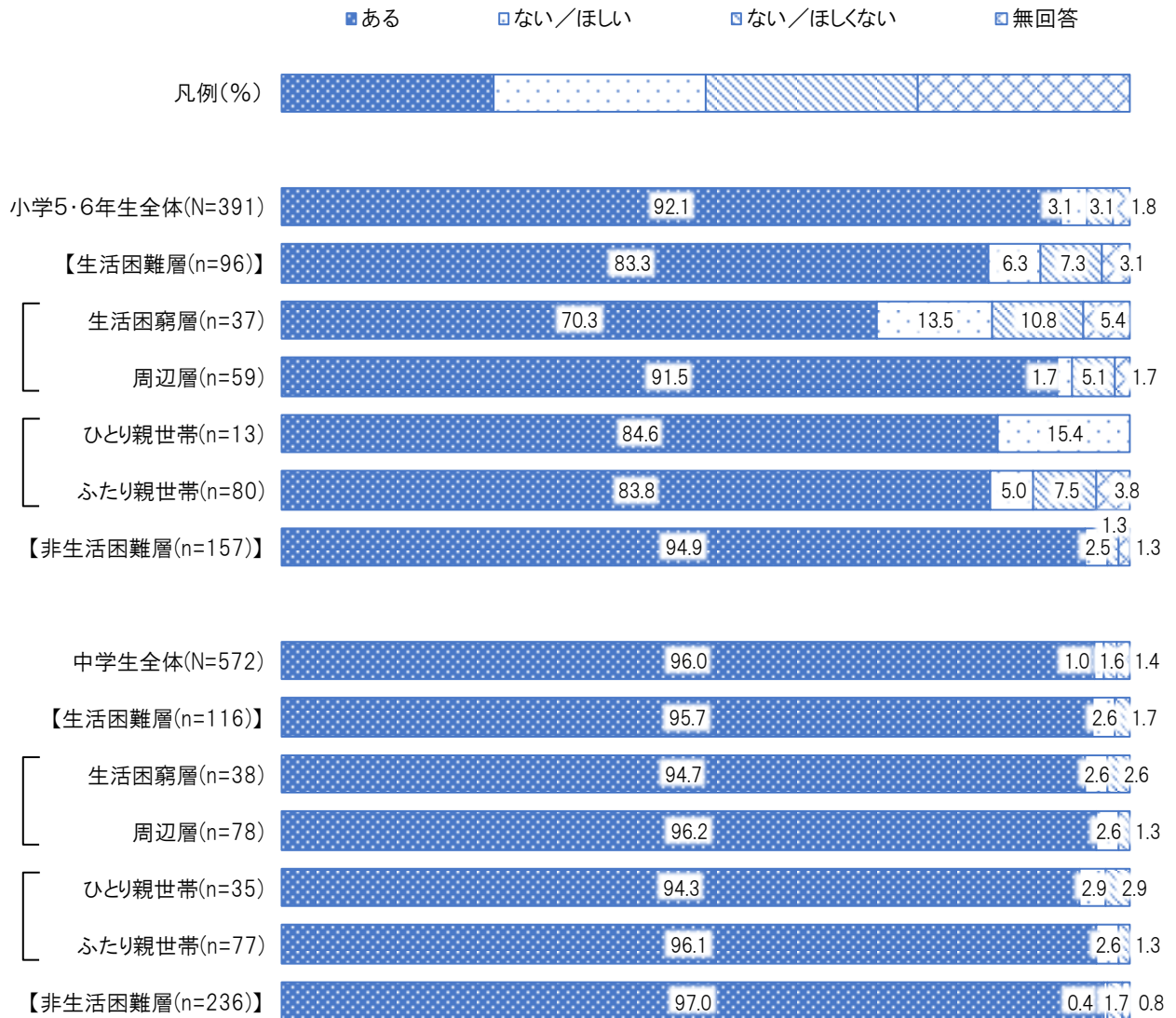
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「ない/ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



D 自宅で宿題をすることができる場所（再掲）

自宅で宿題をすることができる場所について「ない／ほしい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%，周辺層で1.7%となっており，生活困窮層で高くなっている。

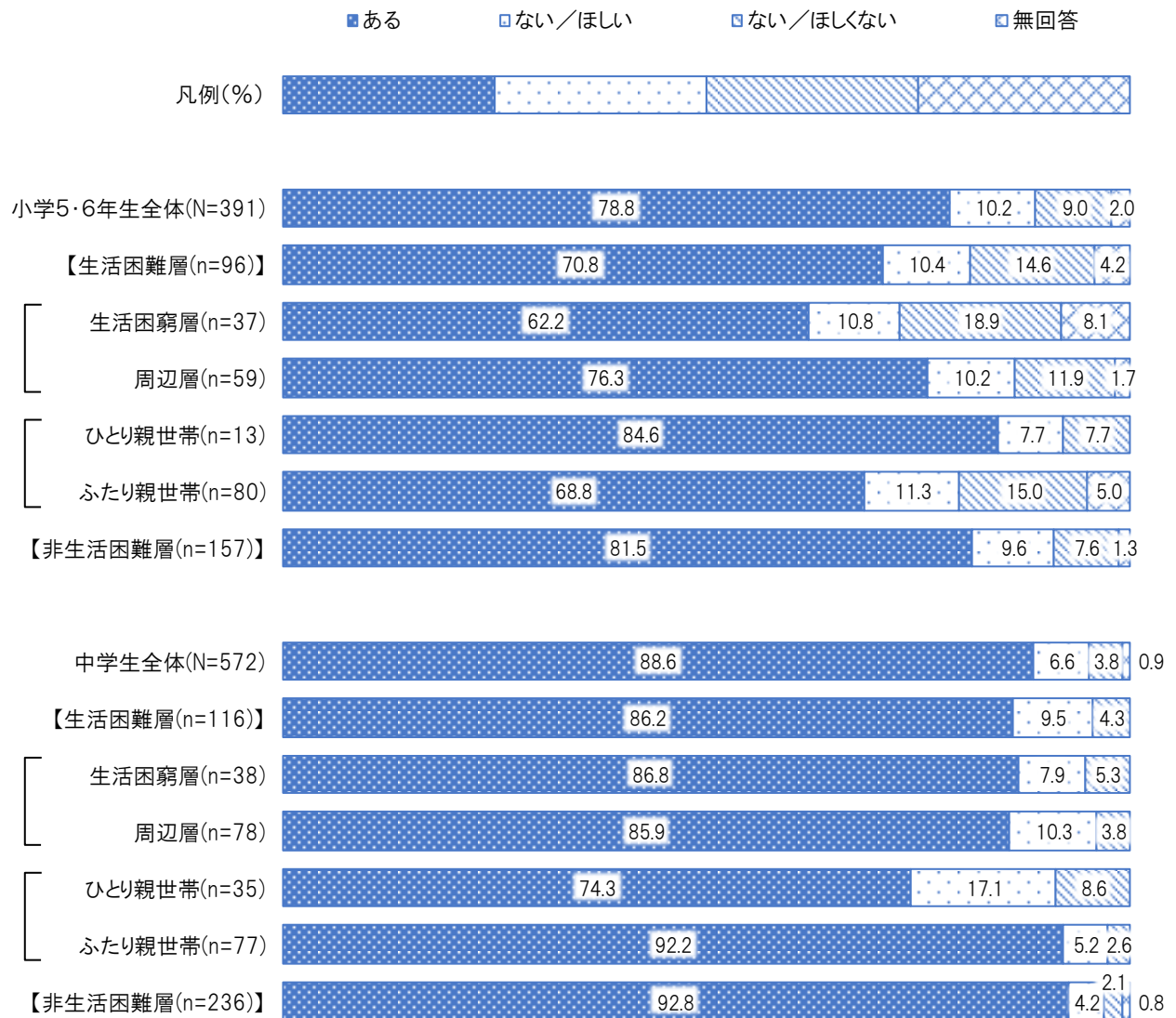
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のひとり親世帯で「ない／ほしい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 自分専用の勉強机（再掲）

自分専用の勉強机について「ある」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で62.2%、周辺層で76.3%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別にみた「ある」の割合は、小学5・6年生ではふたり親世帯、中学生ではひとり親世帯で低くなっている。



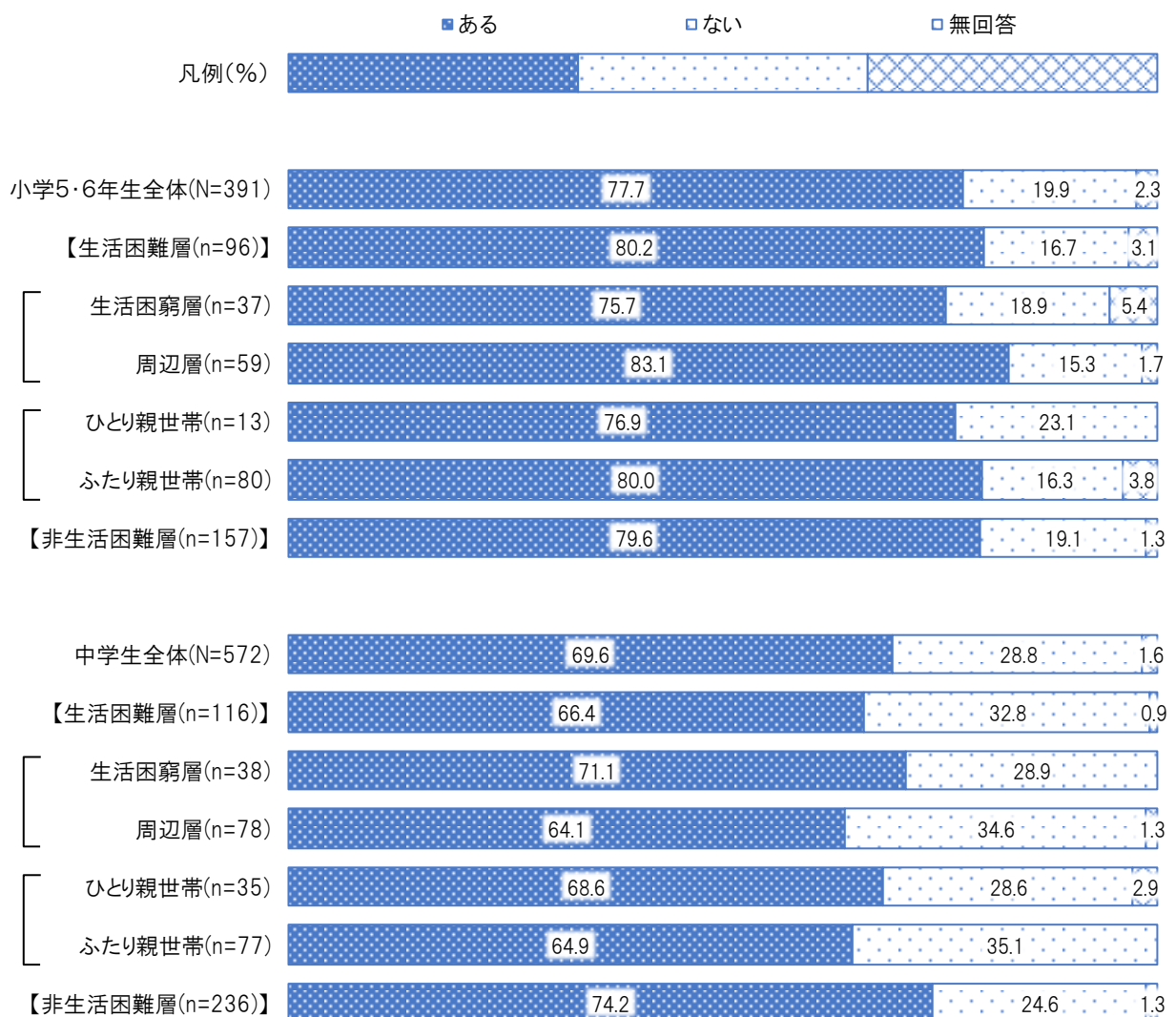
【7】将来の夢

(1) 夢の有無と夢がない理由

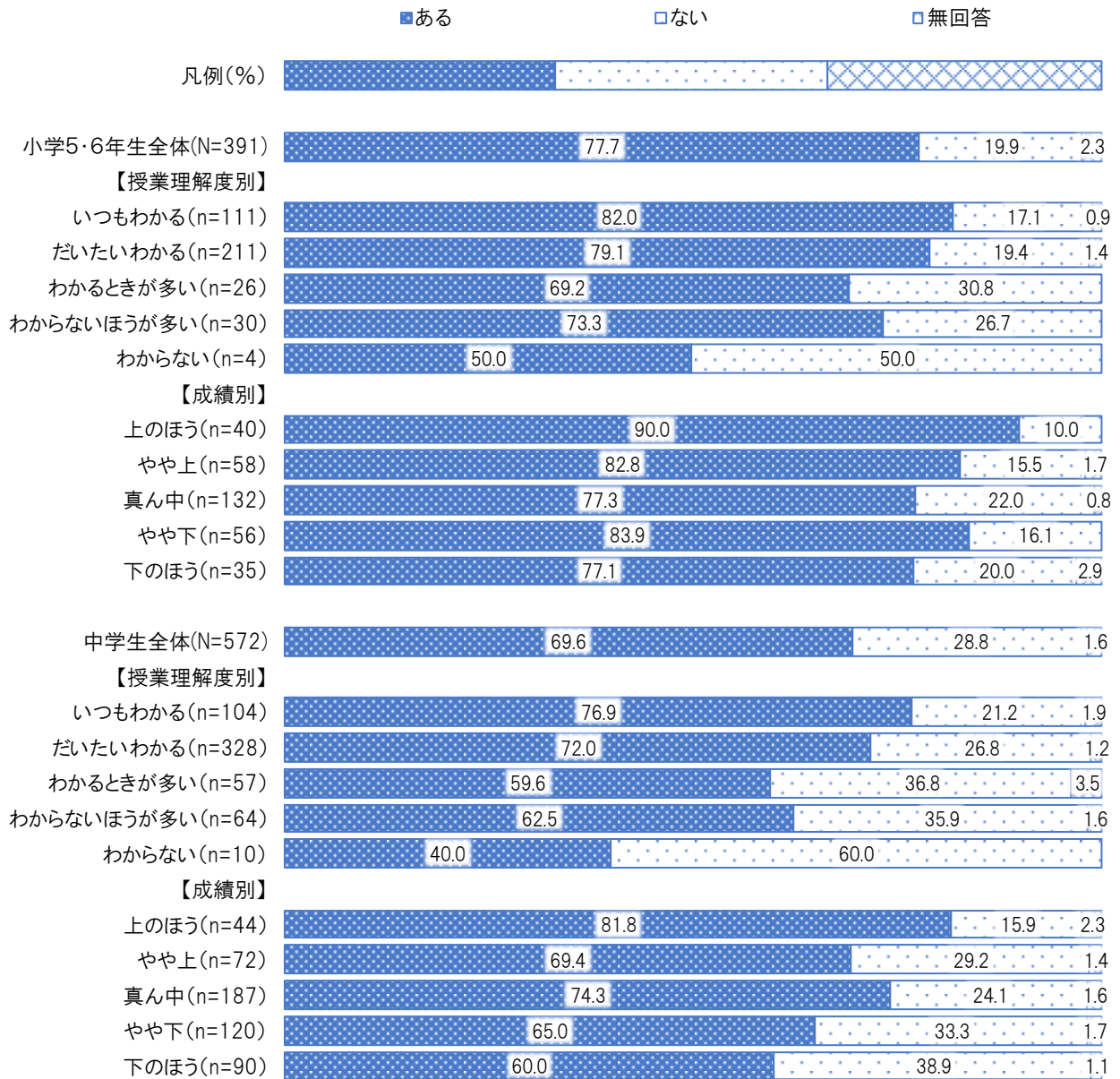
子／問5 あなたには、将来の夢やつきたい職業がありますか。
(あてはまる番号1つに○)

将来の夢やつきたい職業については、小学5・6年生全体では「ある」が77.7%、中学生全体では69.6%となっている。一方、「ない」は、小学5・6年生全体では19.9%、中学生全体では28.8%となっている。

生活困難度別にみた「ない」の割合は、中学生の生活困窮層で28.9%、周辺層では34.6%となっており、周辺層で高くなっている。



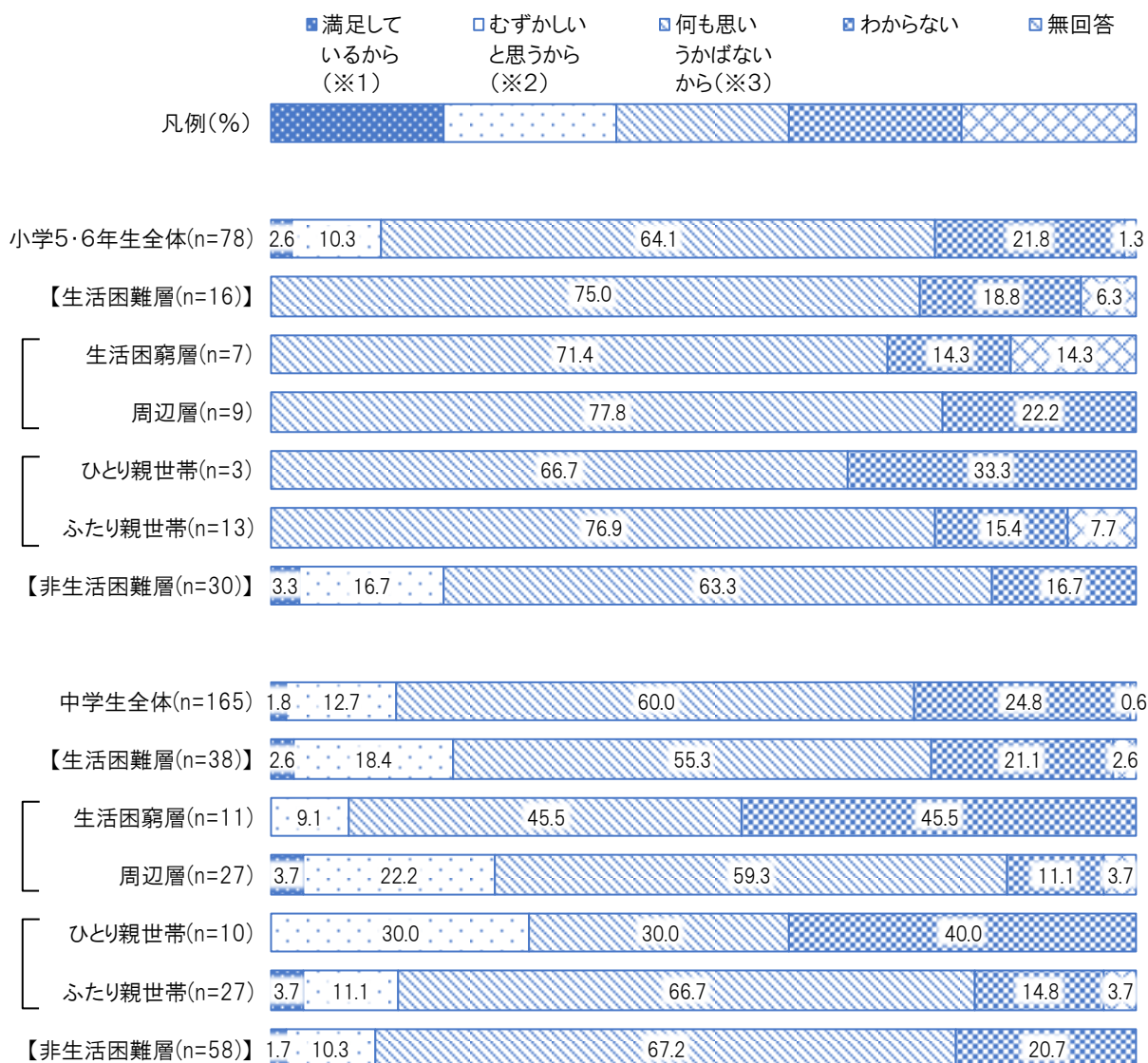
授業理解度別（問 28）で見ると、小学 5・6 年生、中学生ともに、おおむね理解度が高い層ほど「ある」の割合が高く、成績別（問 30）では、おおむね成績が上の層ほど「ある」の割合が高い傾向にある。



注：小学5・6年生の「わからない」については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

【将来の夢やつきたい職業が「2ない」と答えた人におききします。】
 子／問5-2 夢やつきたい職業がない理由は何ですか。（あてはまる番号1つに○）

夢やつきたい職業がない理由については、「具体的に、何も思いうかばないから」が小学5・6年生全体で64.1%，中学生全体で60.0%となっており、「夢をかなえるのはむずかしいと思うから」が小学5・6年生全体で10.3%，中学生全体で12.7%となっている。



※1:もうすべてに満足しているから

※2:夢をかなえるのはむずかしいと思うから

※3:具体的に、何も思いうかばないから

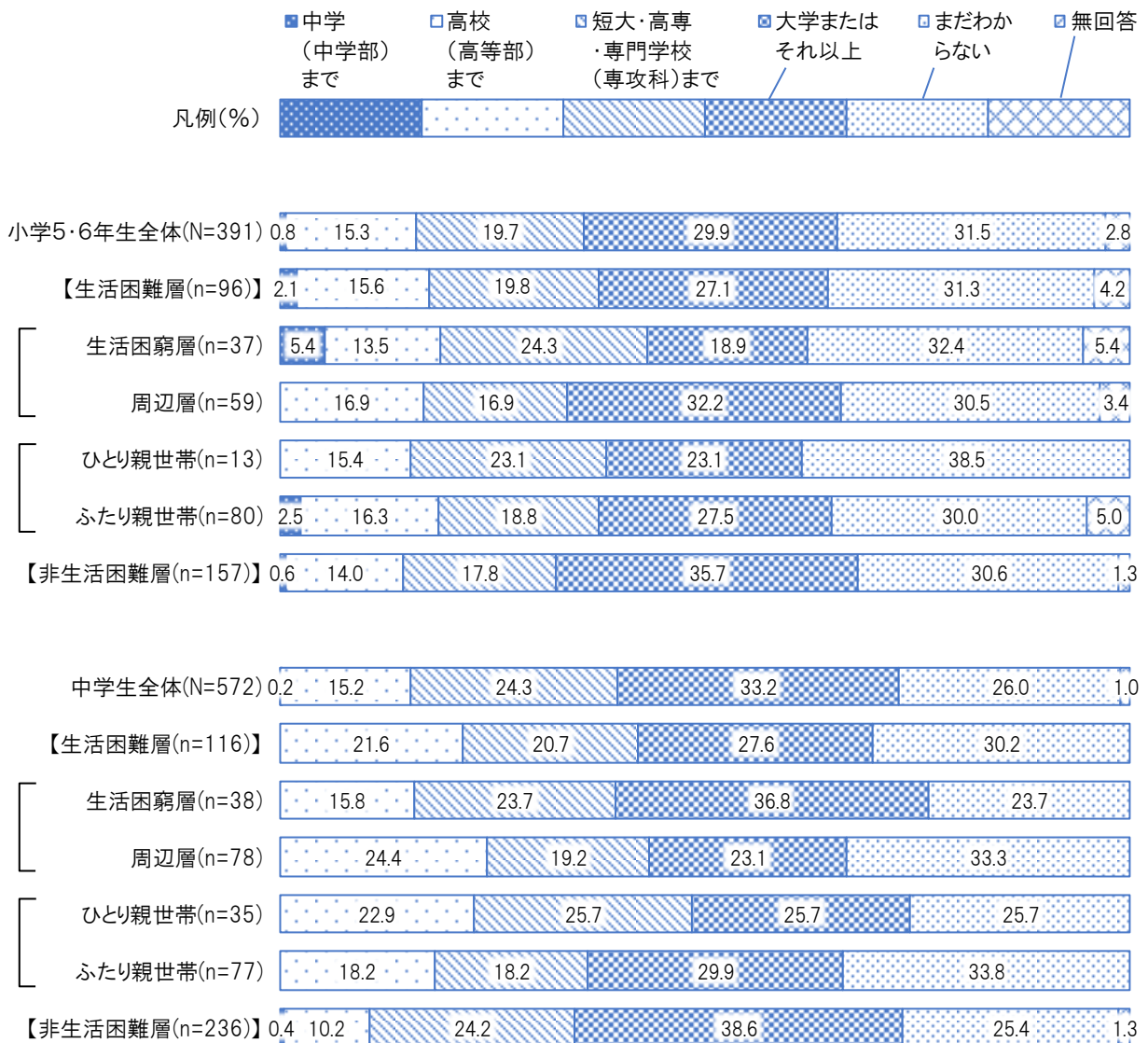
注:生活困窮層・周辺層、ひとり親世帯については、件数(n)が少ないため参考値として参照

(2) 将来の進学希望

子／問5-3 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

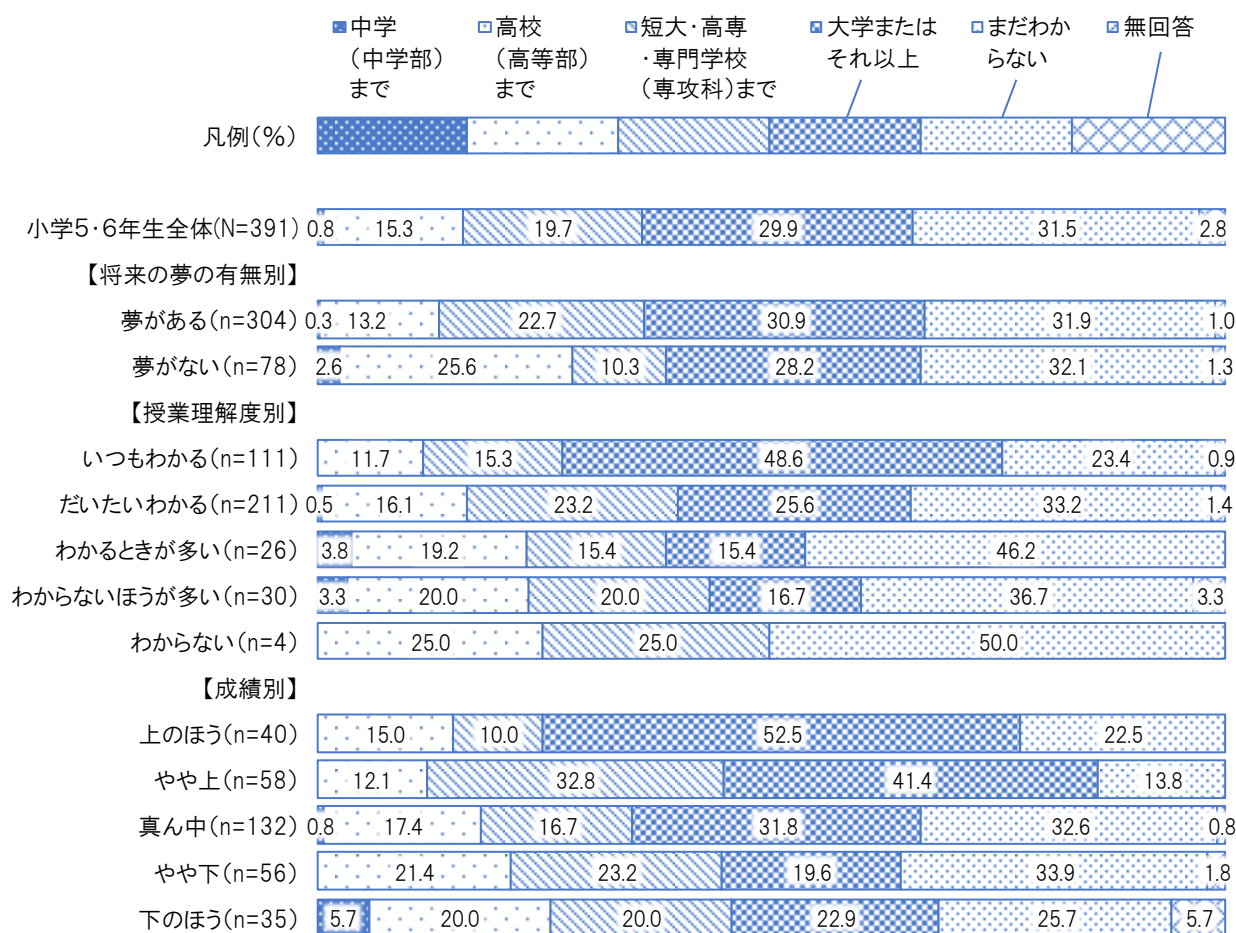
将来の進学希望については、「大学またはそれ以上」が小学5・6年生全体で29.9%、中学生全体で33.2%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が小学5・6年生全体で19.7%、中学生全体で24.3%、「高校(高等部)まで」が小学5・6年生全体で15.3%、中学生全体で15.2%となっている。

生活困難度別にみた「大学またはそれ以上」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で32.2%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。一方、中学生では生活困窮層で36.8%、周辺層で23.1%となっており、生活困窮層で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっている。



小学5・6年生について将来の夢の有無別（問5）で見ると、夢がない層では、夢がある層に比べ「高校（高等部）まで」が高くなっている。

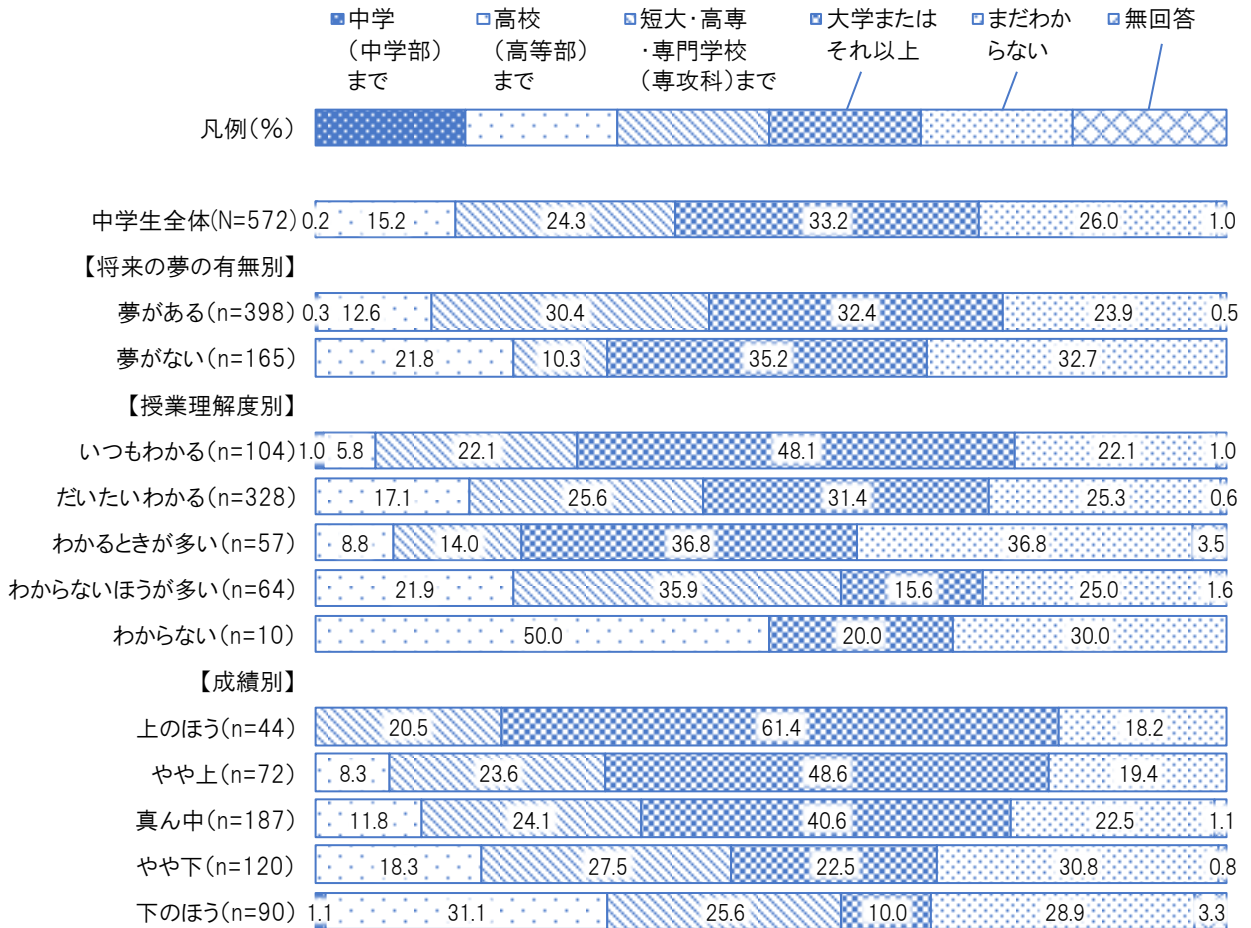
授業理解度別（問28）では、理解度が高い層ほど、成績別（問30）では成績が上の層ほど「大学またはそれ以上」の割合がそれぞれ高い傾向にある。



注:「わからない」については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

中学生について将来の夢の有無別（問5）でみると、夢がない層では、夢がある層に比べ「高校（高等部）まで」及び「まだわからない」の割合が高くなっている。

授業理解度別（問28）では、おおむね理解度が高い層ほど、成績別（問30）では成績が上の層ほど「大学またはそれ以上」の割合がそれぞれ高い傾向にある。

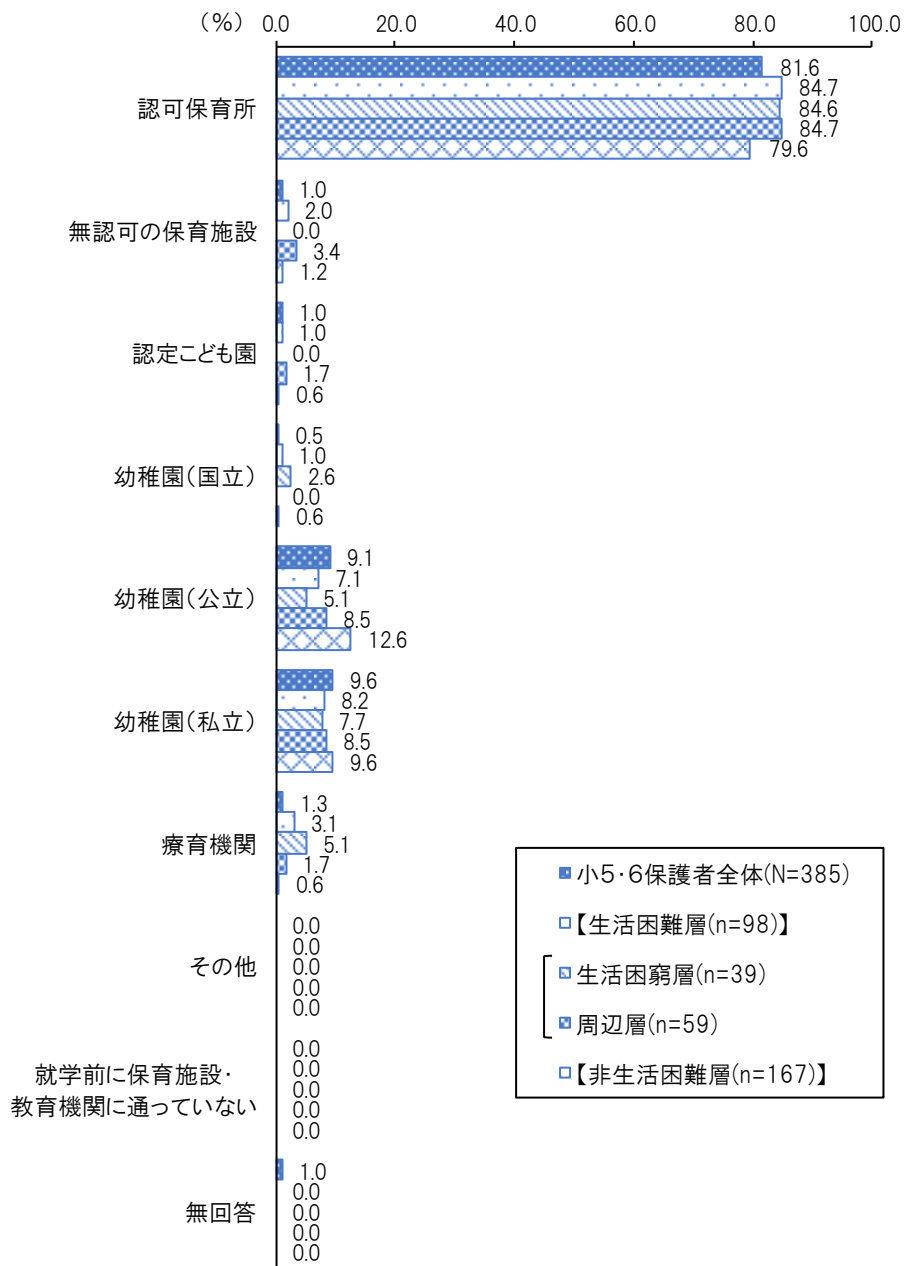


【8】子供の教育

(1) 子供がこれまでに通った保育・教育機関

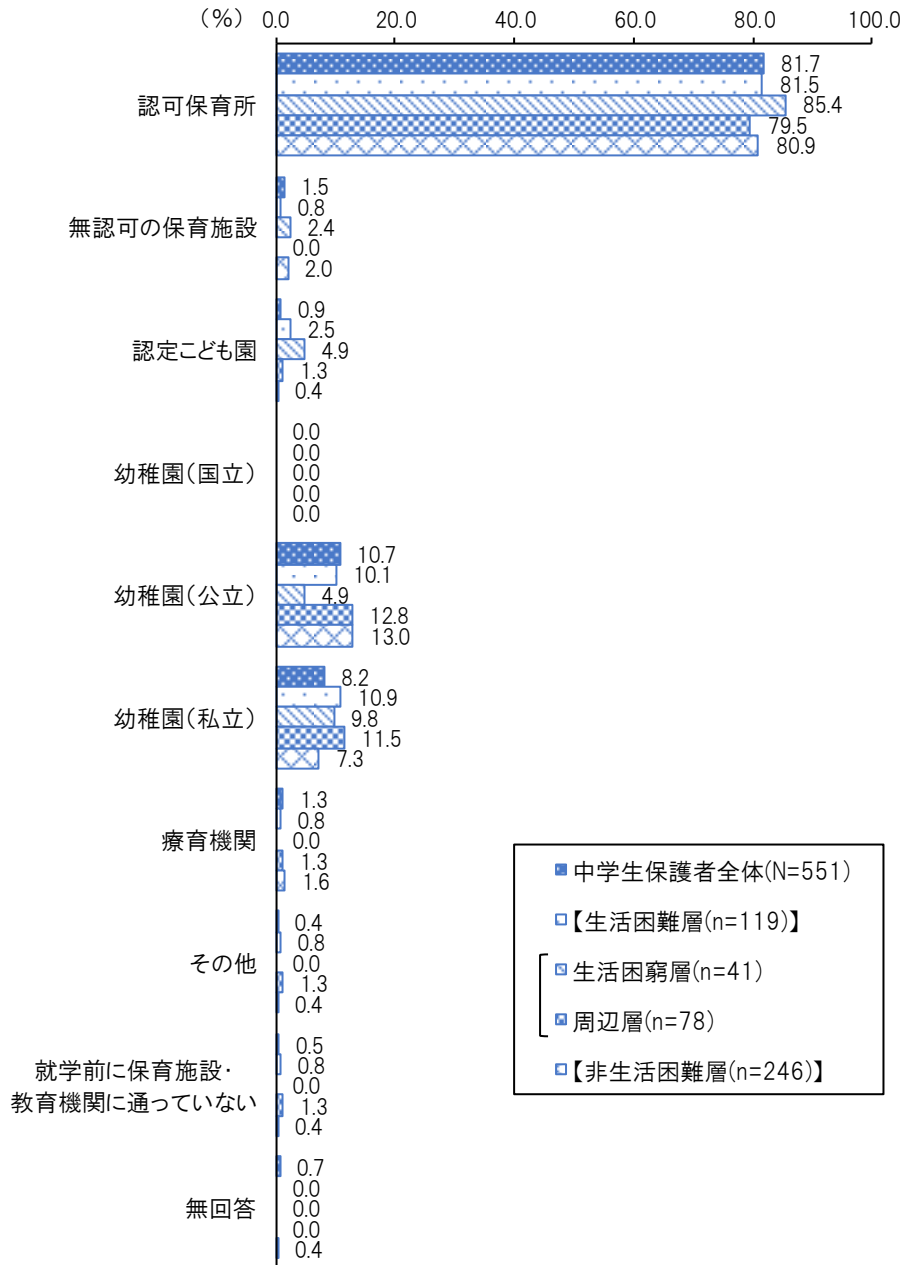
保／問 12 お子さんが就学前に通ったことのある保育施設・教育機関をすべてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

これまでに通った保育・教育機関について、小学5・6年保護者全体では「認可保育所」が81.6%と最も高く大半を占めている。



中学生保護者全体では、「認可保育所」が 81.7%と最も高く、次いで「幼稚園（公立）」（10.7%）、「幼稚園（私立）」（8.2%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「幼稚園（公立）」の割合が他の層に比べてやや低くなっている。



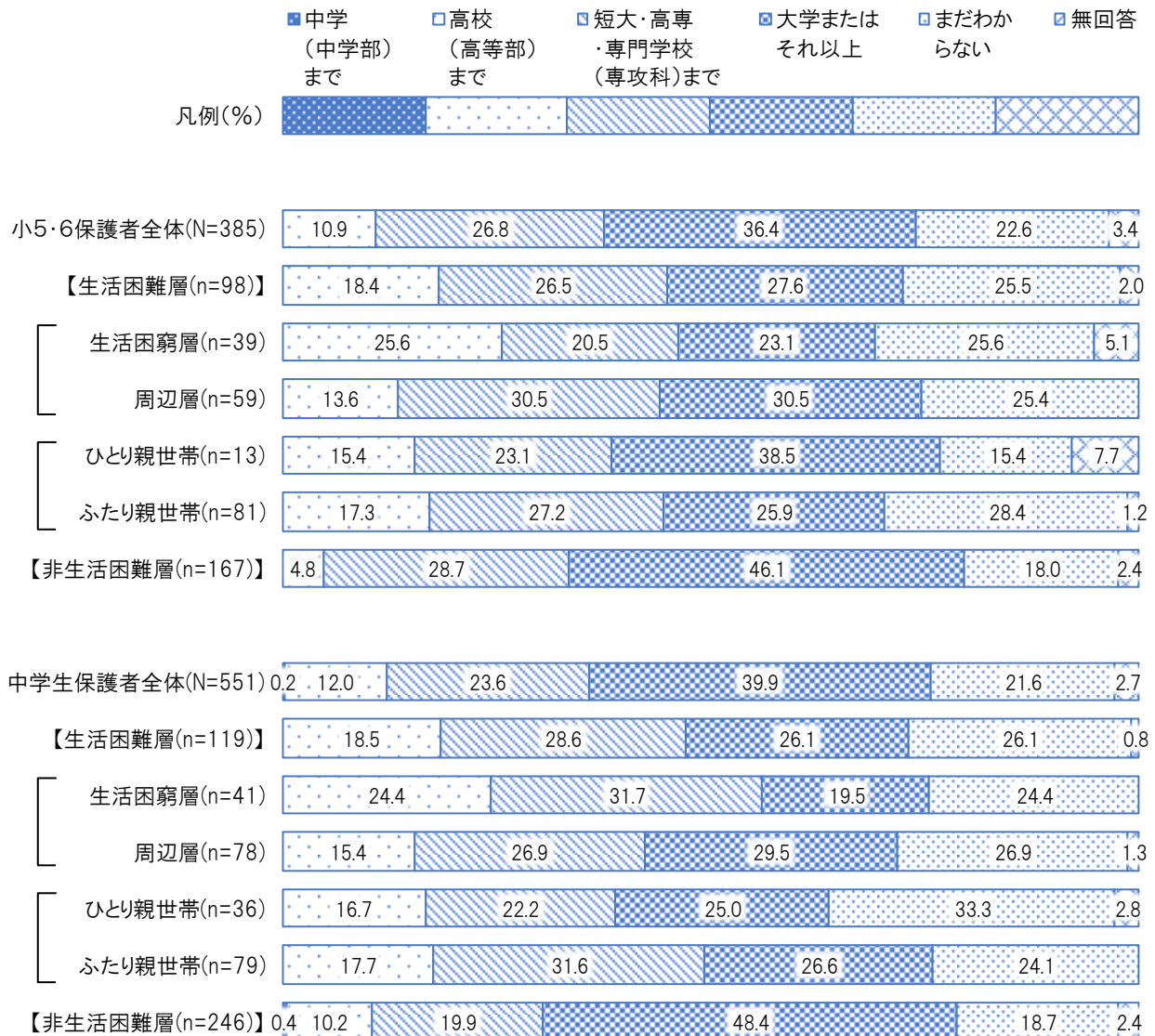
(2) 子供に受けさせたい教育レベルとその理由

保／問 13 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものにおをつけてください。(あてはまる番号1つに○)

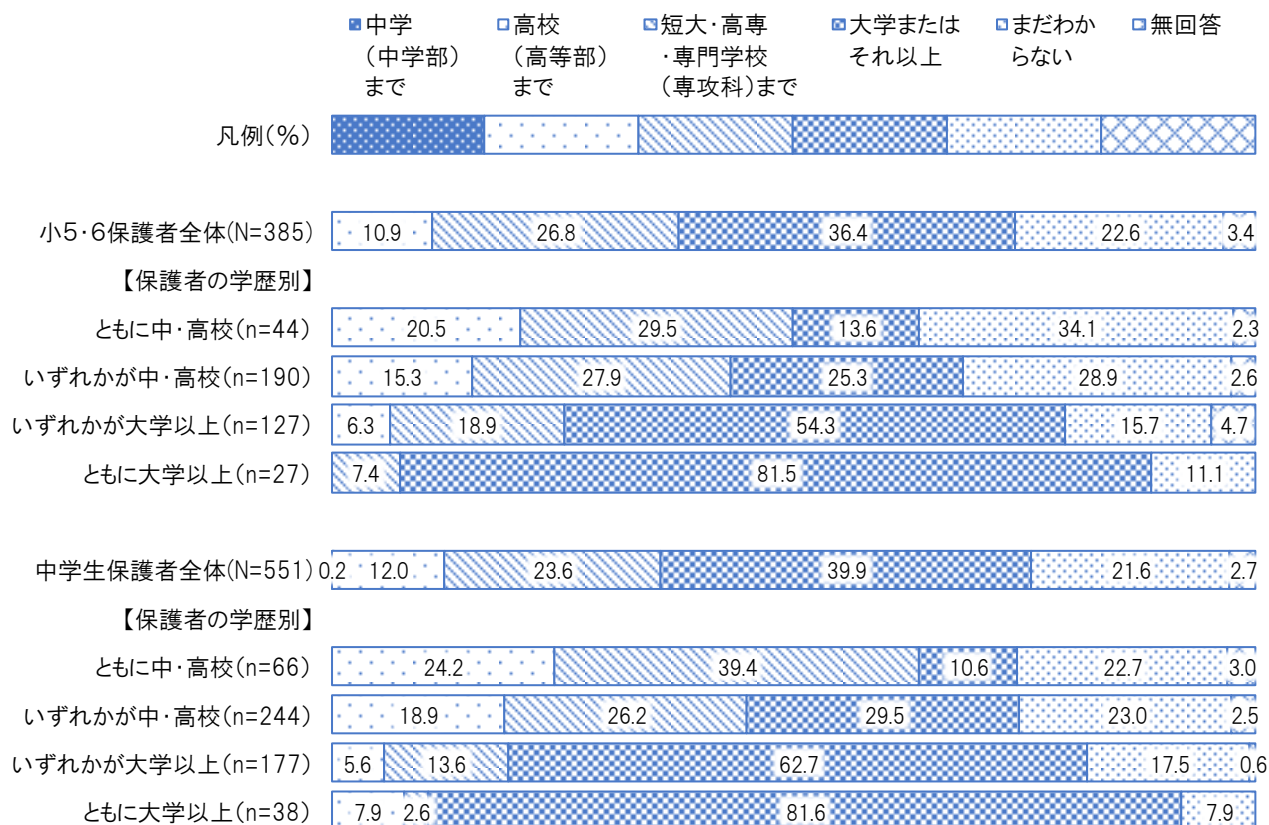
子供に受けさせたい教育レベルについては、「大学またはそれ以上」が小学5・6年保護者全体で36.4%、中学生保護者全体で39.9%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が小学5・6年保護者全体で26.8%、中学生保護者全体で23.6%、「高校(高等部)まで」が小学5・6年保護者全体で10.9%、中学生保護者全体で12.0%となっている。

生活困難度別にみた「高校(高等部)まで」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で25.6%、中学生保護者で24.4%となっており、生活困難度が高い層ほど高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「大学またはそれ以上」の割合が高く、中学生保護者のふたり親世帯で「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



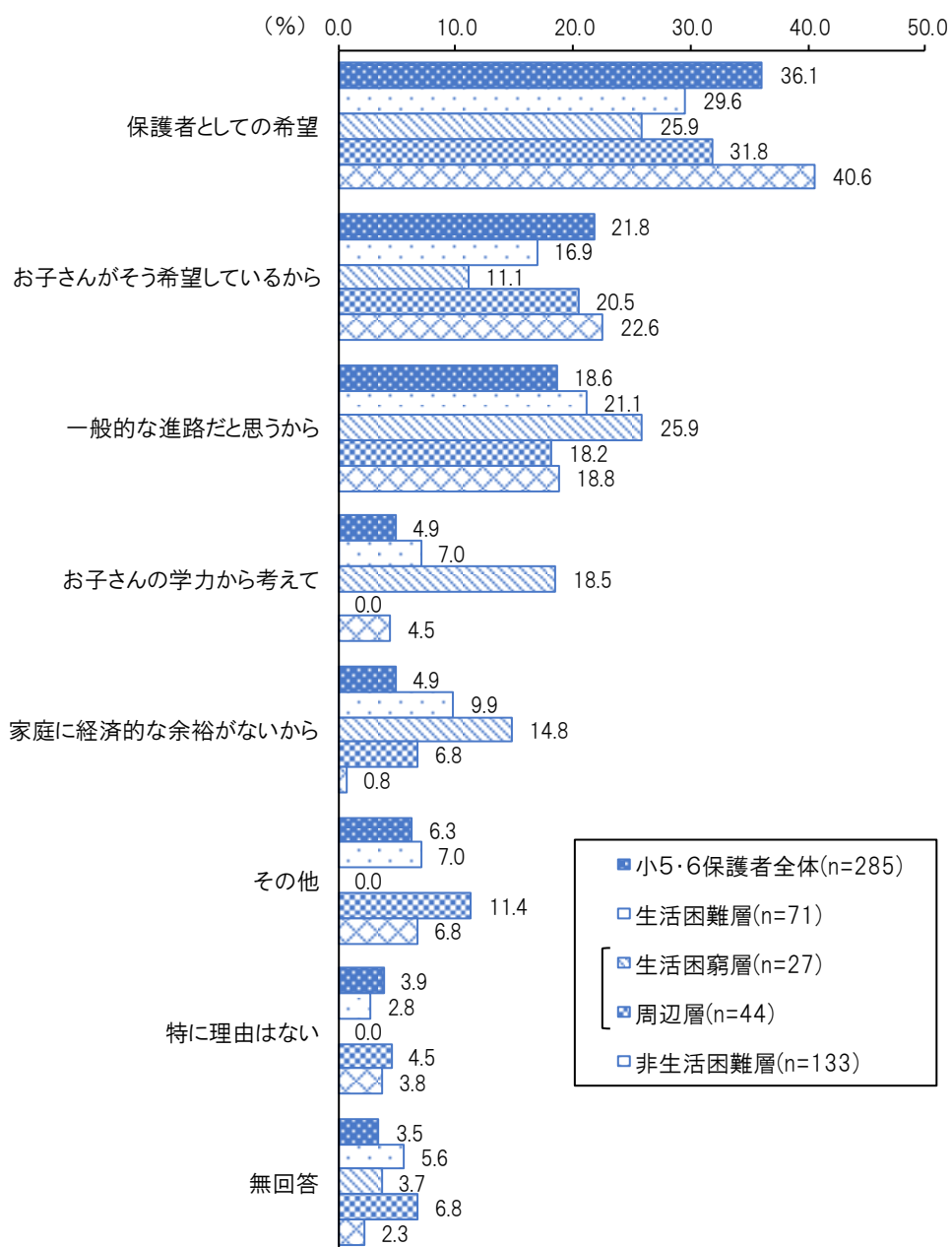
保護者の学歴別（問 36・問 37）で見ると、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「ともに中・高校」「いずれかが中・高校」では他の層に比べ「高校（高等部）まで」「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が高く、「いずれかが大学以上」「ともに大学以上」では「大学またはそれ以上」の割合が高い傾向にある。



【問 13 で「1」～「4」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 13-1 その理由は、何ですか。次の中から、最も近いものに○をつけてください。
 (あてはまる番号1つに○)

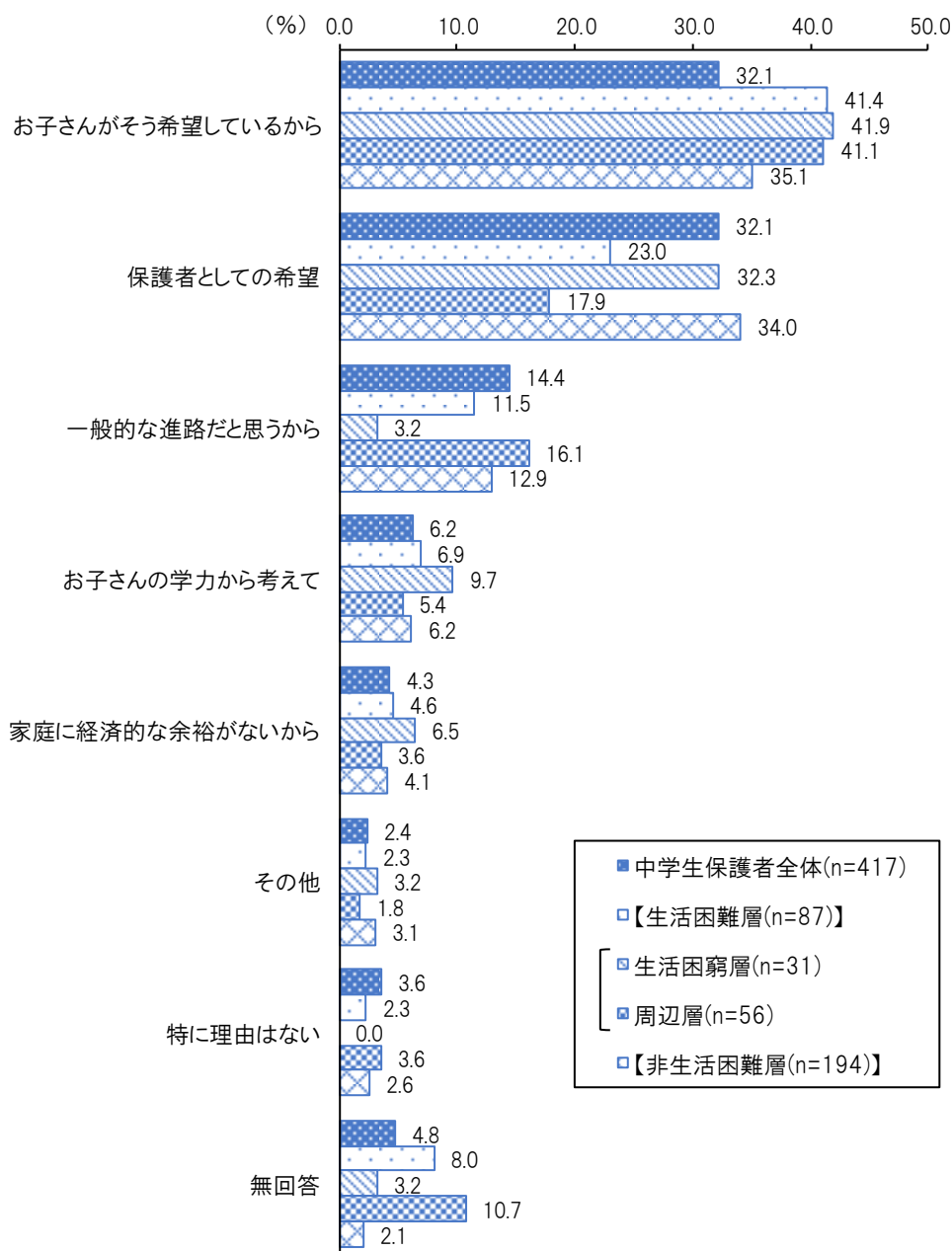
子供に受けさせたい教育レベルについて、小学5・6年保護者全体では「保護者としての希望」が36.1%と最も高く、次いで「お子さんがそう希望しているから」(21.8%)、「一般的な進路だと思うから」(18.6%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は他の層に比べて「保護者としての希望」の割合が低く、「一般的な進路だと思うから」「お子さんの学力から考えて」「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が高くなっている。



中学生保護者全体では「お子さんがそう希望しているから」「保護者としての希望」が各32.1%と最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」(14.4%)の順となっている。

生活困難度別にみると、周辺層で「保護者としての希望」、生活困窮層で「一般的な進路だと思うから」の割合が他の層に比べて低くなっている。

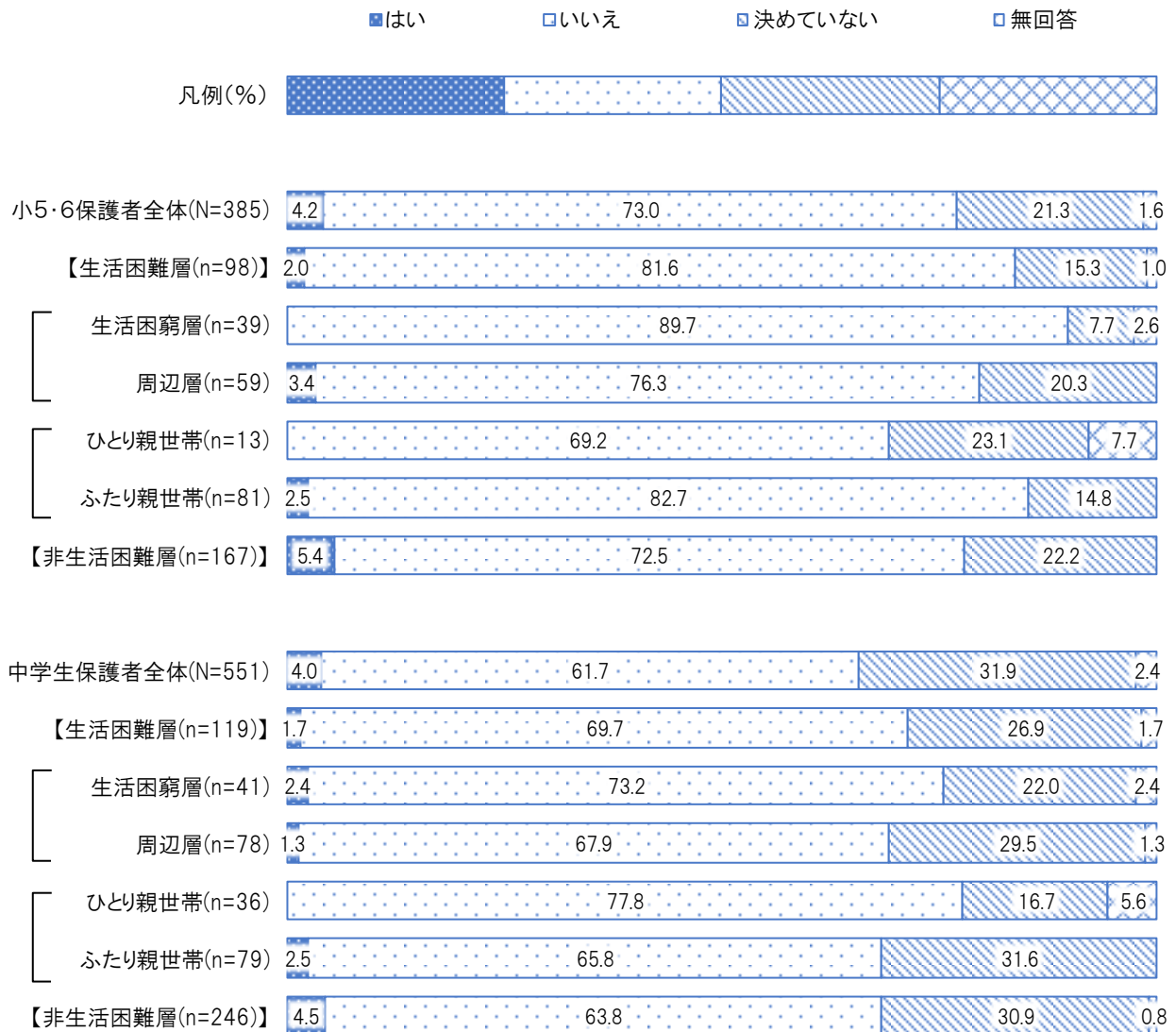


(3) 私立進学への保護者意向とその理由

保／問 14 お子さんを私立高校※に行かせたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

※小学生保護者票では「私立中学」

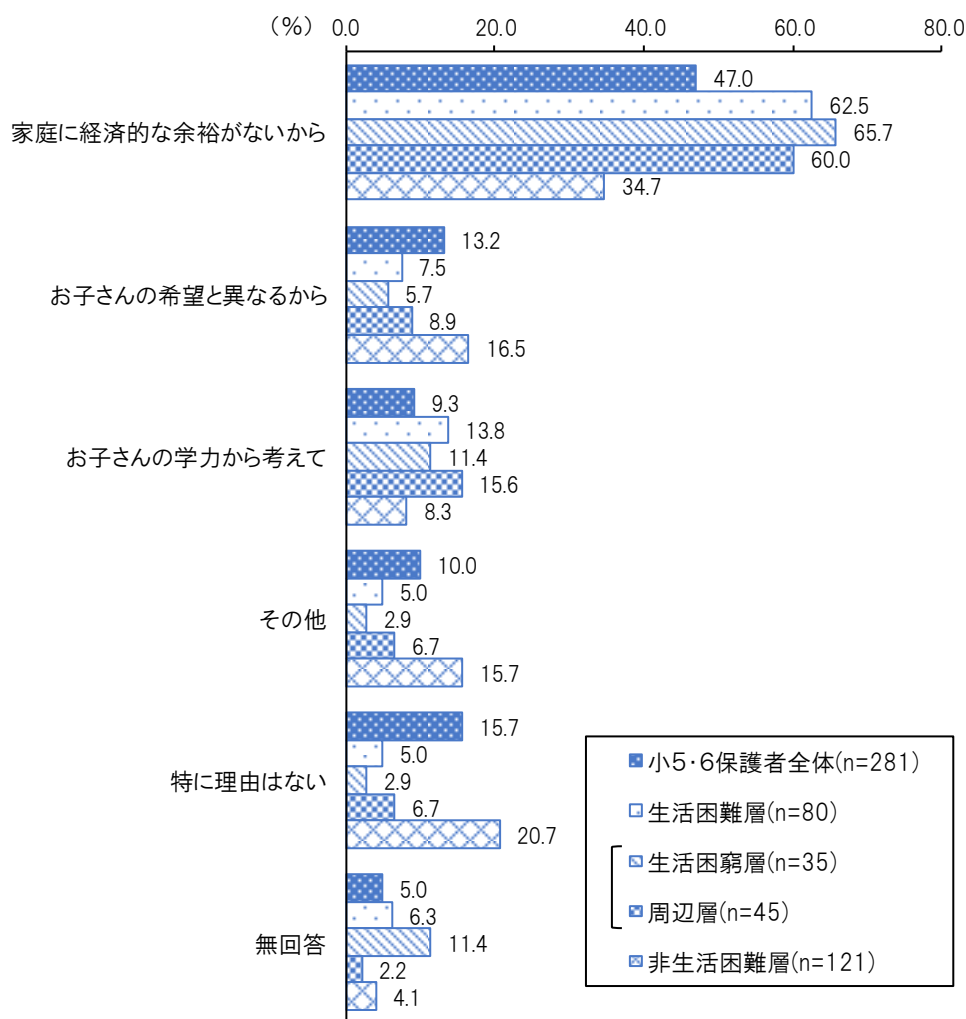
私立進学への保護者意向については、「はい」は小学5・6年保護者全体で4.2%、中学生保護者全体で4.0%となっており、「いいえ」は小学5・6年保護者全体で73.0%、中学生保護者全体で61.7%となっている。



【問 14 で「2 いいえ」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 14-1 その理由は、何ですか。次の中から、最も近いものに○をつけてください。
 (あてはまる番号1つに○)

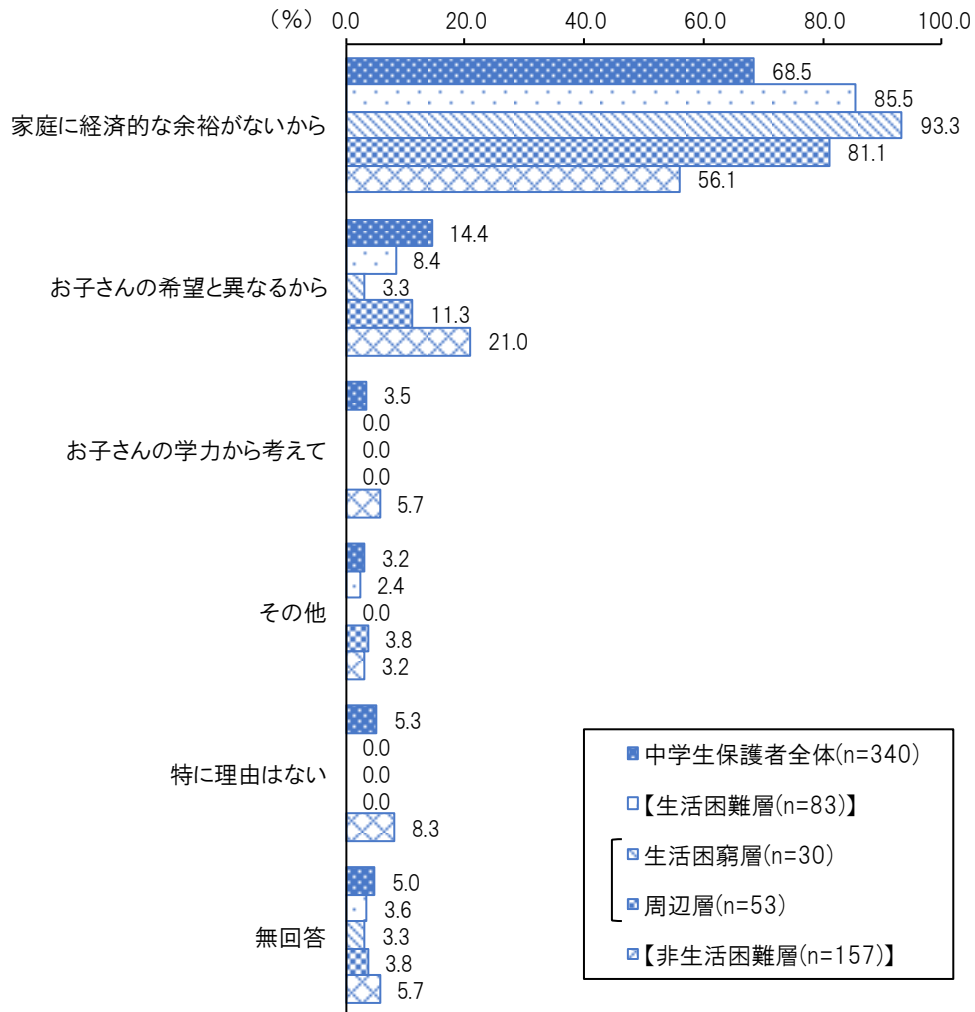
私立進学を希望しない理由について、小学5・6年保護者全体では「家庭に経済的な余裕がないから」が47.0%と最も高く、次いで「お子さんの希望と異なるから」(13.2%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が非生活困難層を大きく上回っている。



中学生保護者全体では、「家庭に経済的な余裕がないから」が68.5%と最も高く、次いで「お子さんの希望と異なるから」(14.4%)が続いている。

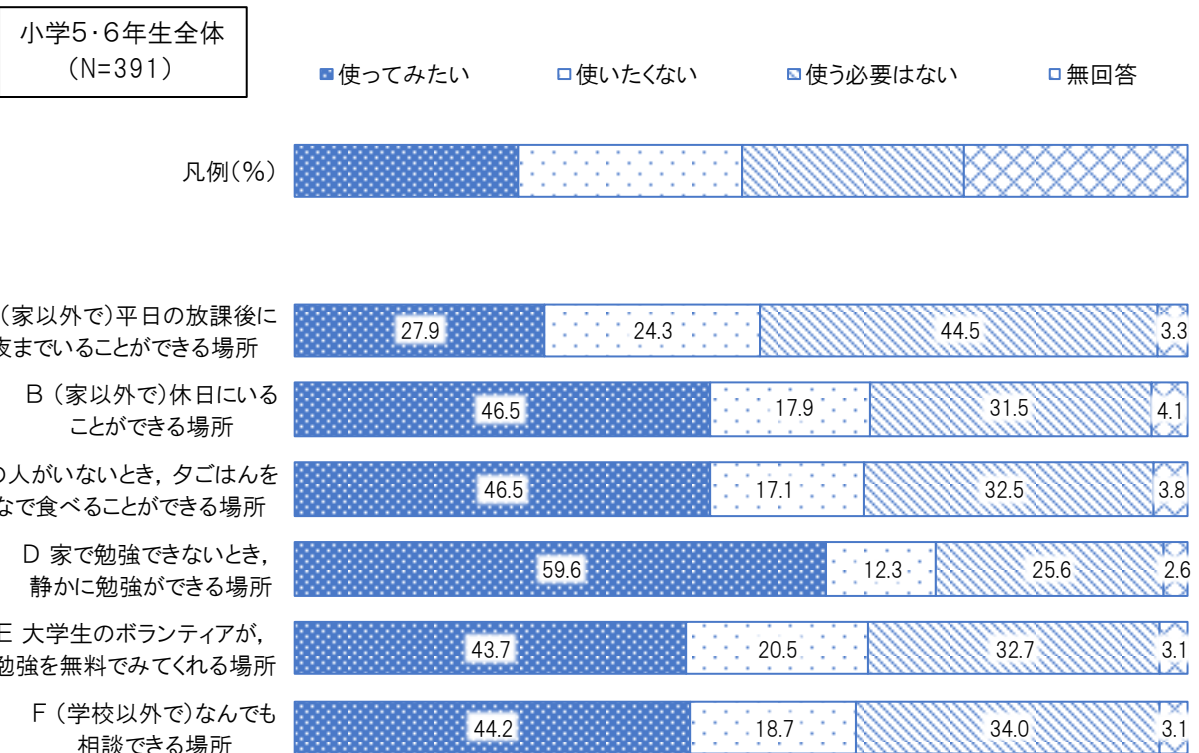
生活困難度別にみると、生活困窮層は「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が他の層に比べて高くなっている。



【9】学習関連の支援プログラムの利用意向

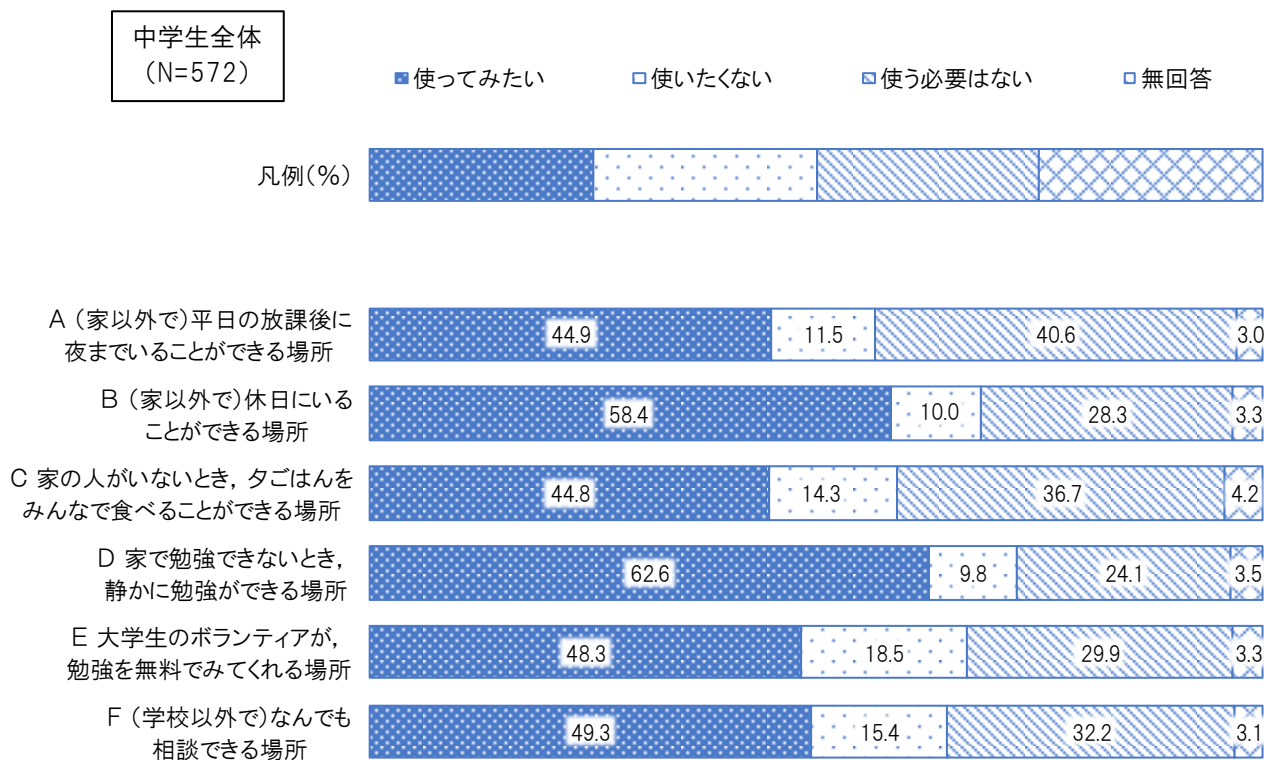
子／問 41 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

支援プログラムの利用意向については、小学5・6年生全体では「使ってみたい」の割合が高い順に「D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」(59.6%)、「B (家以外) 休日にいることができる場所」「C 家の人がいなくて、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」(各 46.5%) となっている。



注:A, B, C, Fの個別結果については、第4章 7居場所関連等の支援プログラムの利用意向に掲載

中学生全体では、「使ってみたい」の割合が高い順に「D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」(62.6%)、「B (家以外で) 休日にいることができる場所」(58.4%)、「F (学校以外で) なんでも相談できる場所」(49.3%) となっている。

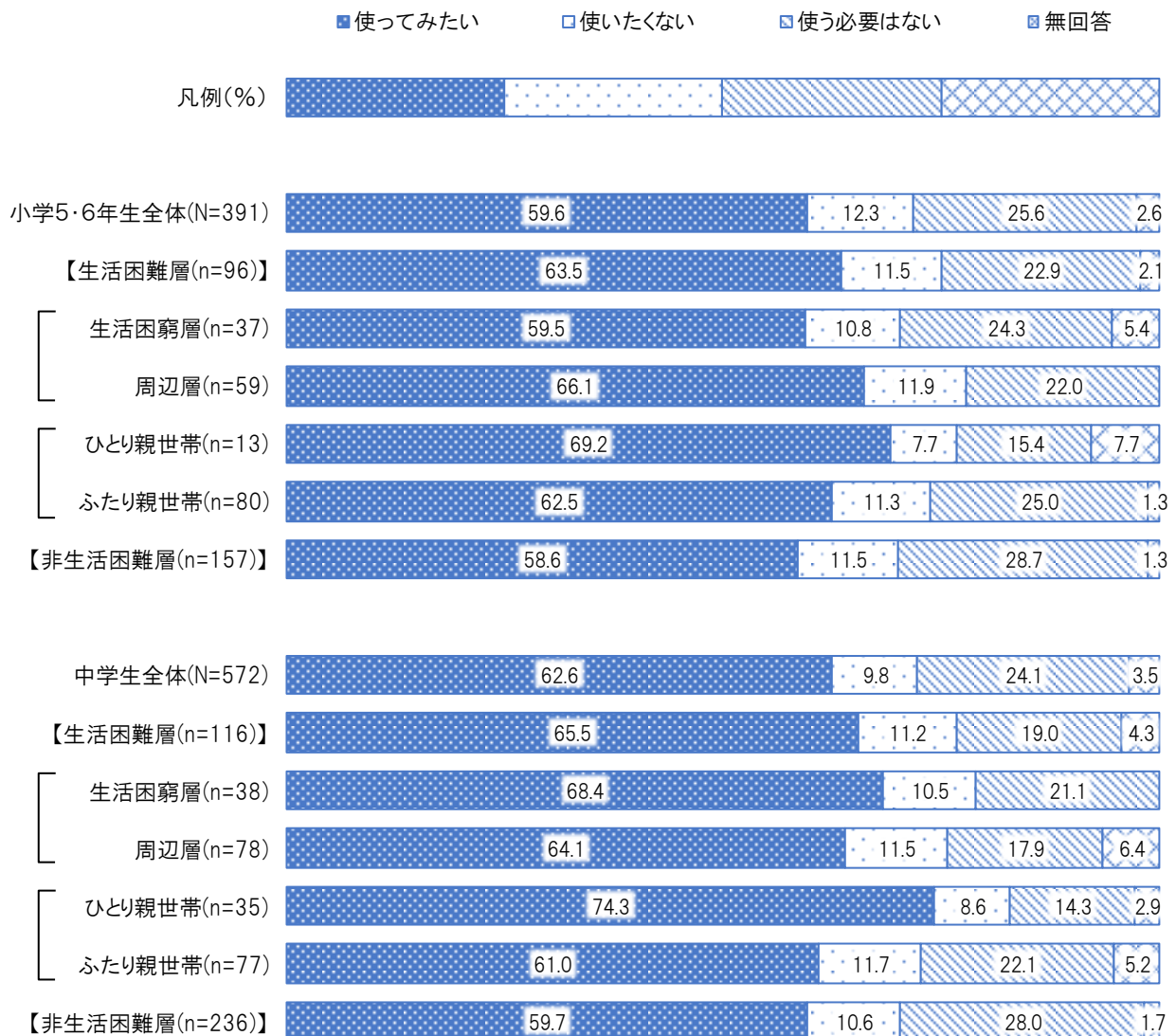


注: A, B, C, Fの個別結果については、第4章 7居場所関連等の支援プログラムの利用意向に掲載

D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所について「使ってみたい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で59.5%、周辺層で66.1%となっており、周辺層で高くなっている。中学生では、生活困窮層で68.4%、周辺層で64.1%となっている。

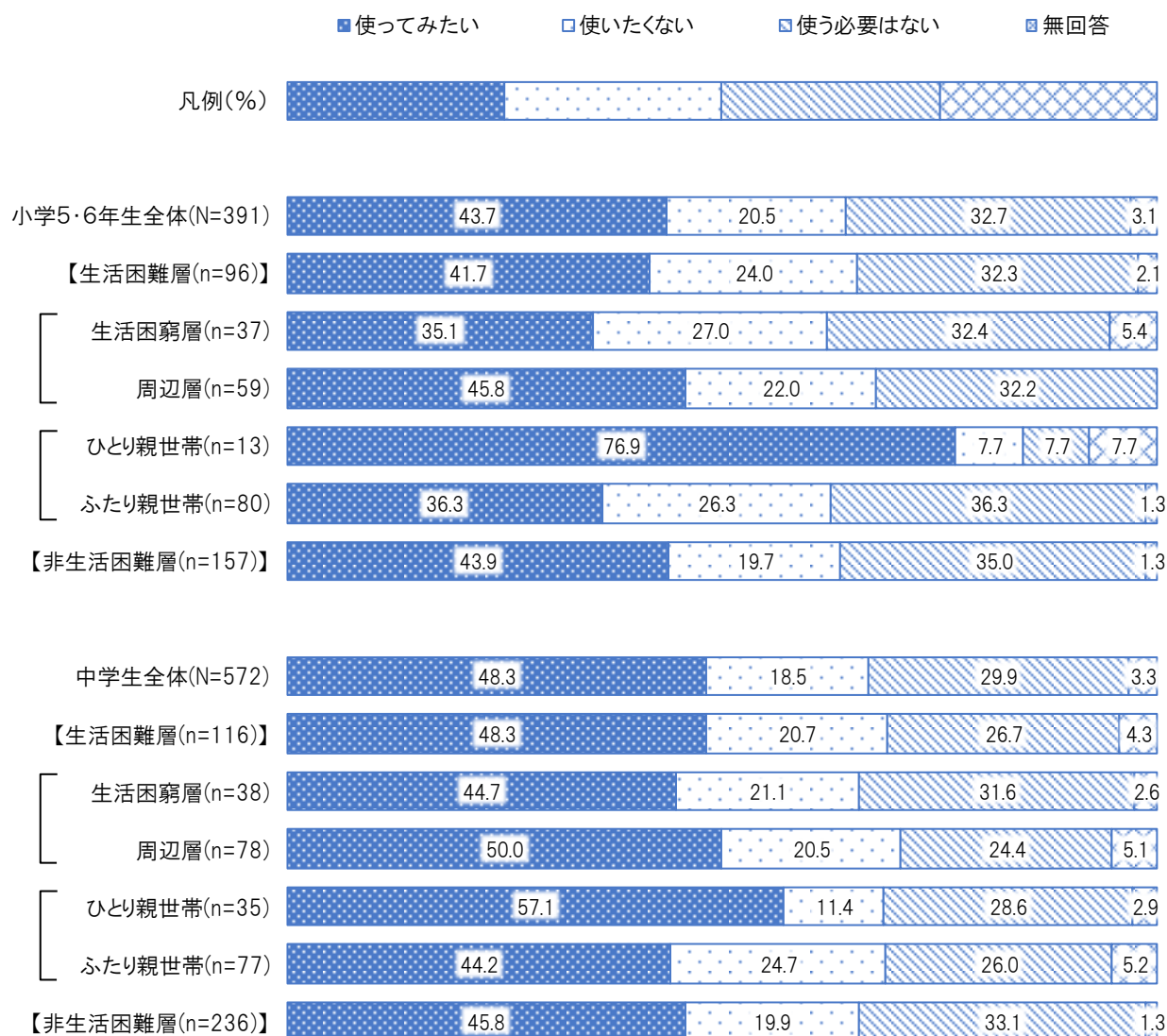
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「使ってみたい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 大学生のボランティアが、勉強を無料でみてくれる場所

大学生のボランティアが、勉強を無料でみてくれる場所について「使ってみたい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で35.1%、周辺層で45.8%、中学生では、生活困窮層で44.7%、周辺層で50.0%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「使ってみたい」の割合が他の層を大きく上回っている。



第4章 子供の日常生活

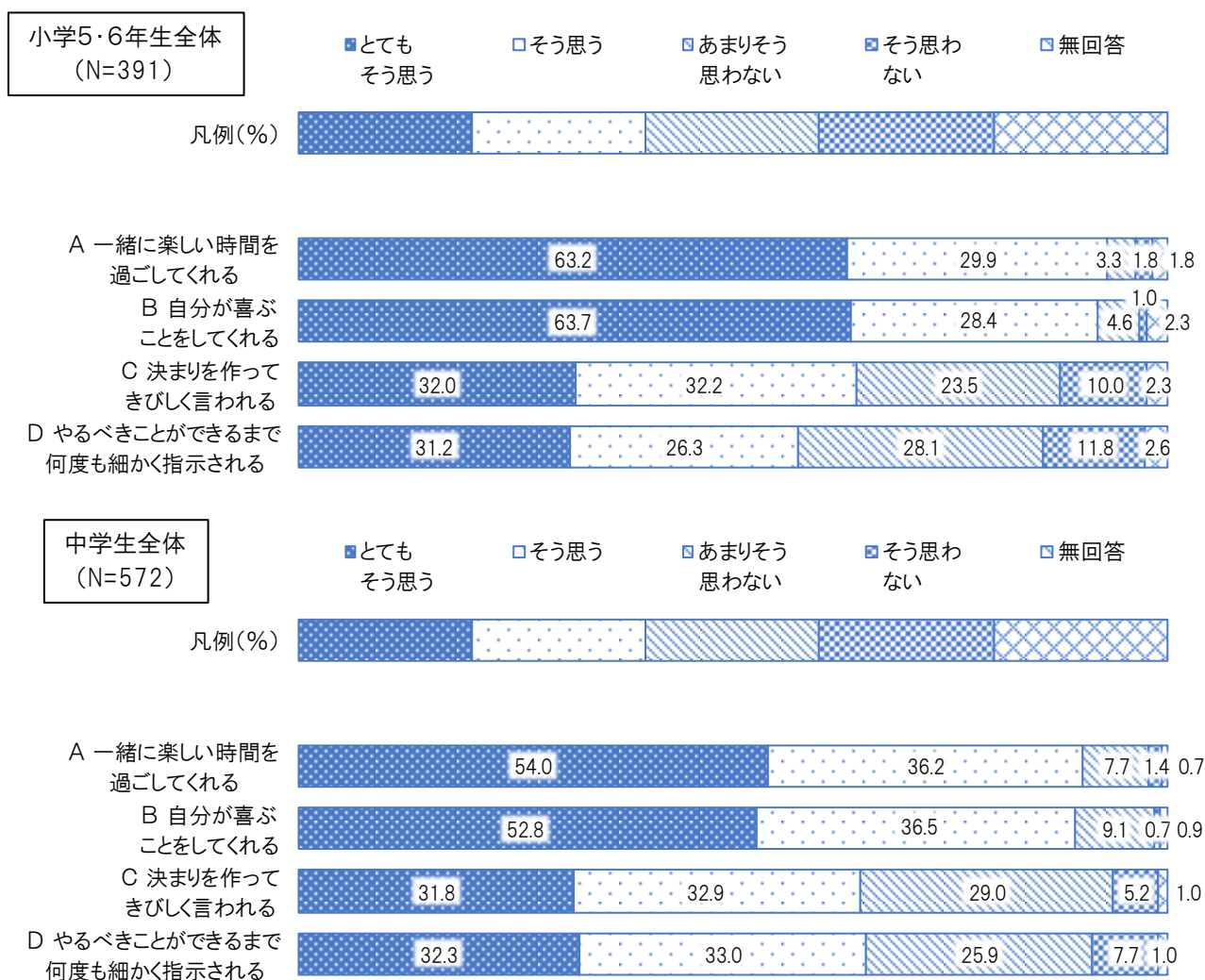
【1】家族や友だち

(1) 家族の接し方

子／問6 あなたの家族はあなたに対していつもどのようにしていますか。
 もっとも近いと思うものに○をつけてください。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

家族の接し方については、小学5・6年生全体では「とてもそう思う」の割合が高い順に「B 自分が喜ぶことをしてくれる」(63.7%)、「A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれる」(63.2%)、「C 決まりを作ってきびしく言われる」(32.0%)、「D やるべきことができるまで何度も細かく指示される」(31.2%)となっている。

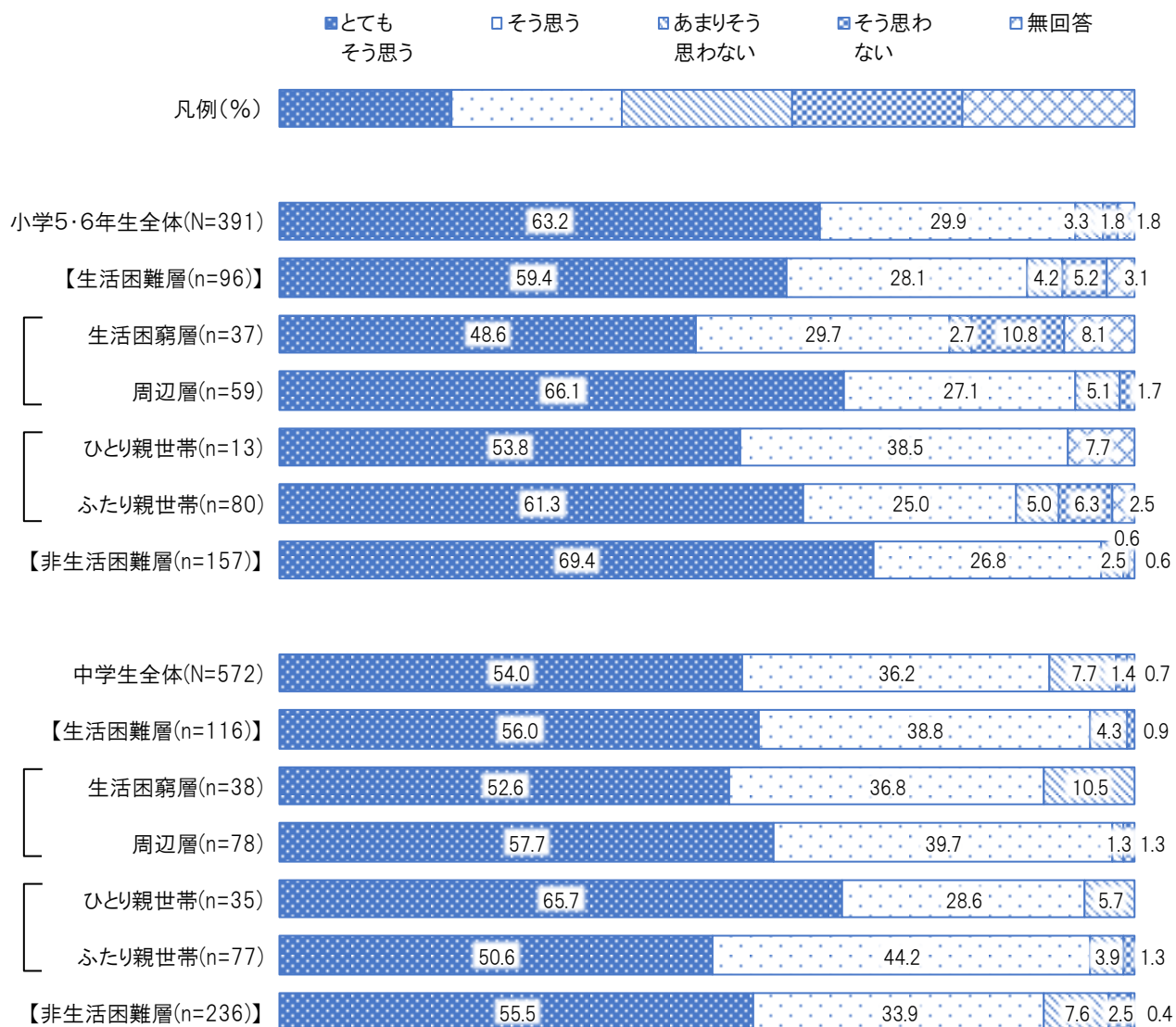
中学生全体では「A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれる」(54.0%)、「B 自分が喜ぶことをしてくれる」(52.8%)、「D やるべきことができるまで何度も細かく指示される」(32.3%)、「C 決まりを作ってきびしく言われる」(31.8%)となっている。



A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれる

一緒に楽しい時間を過ごしてくれることについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

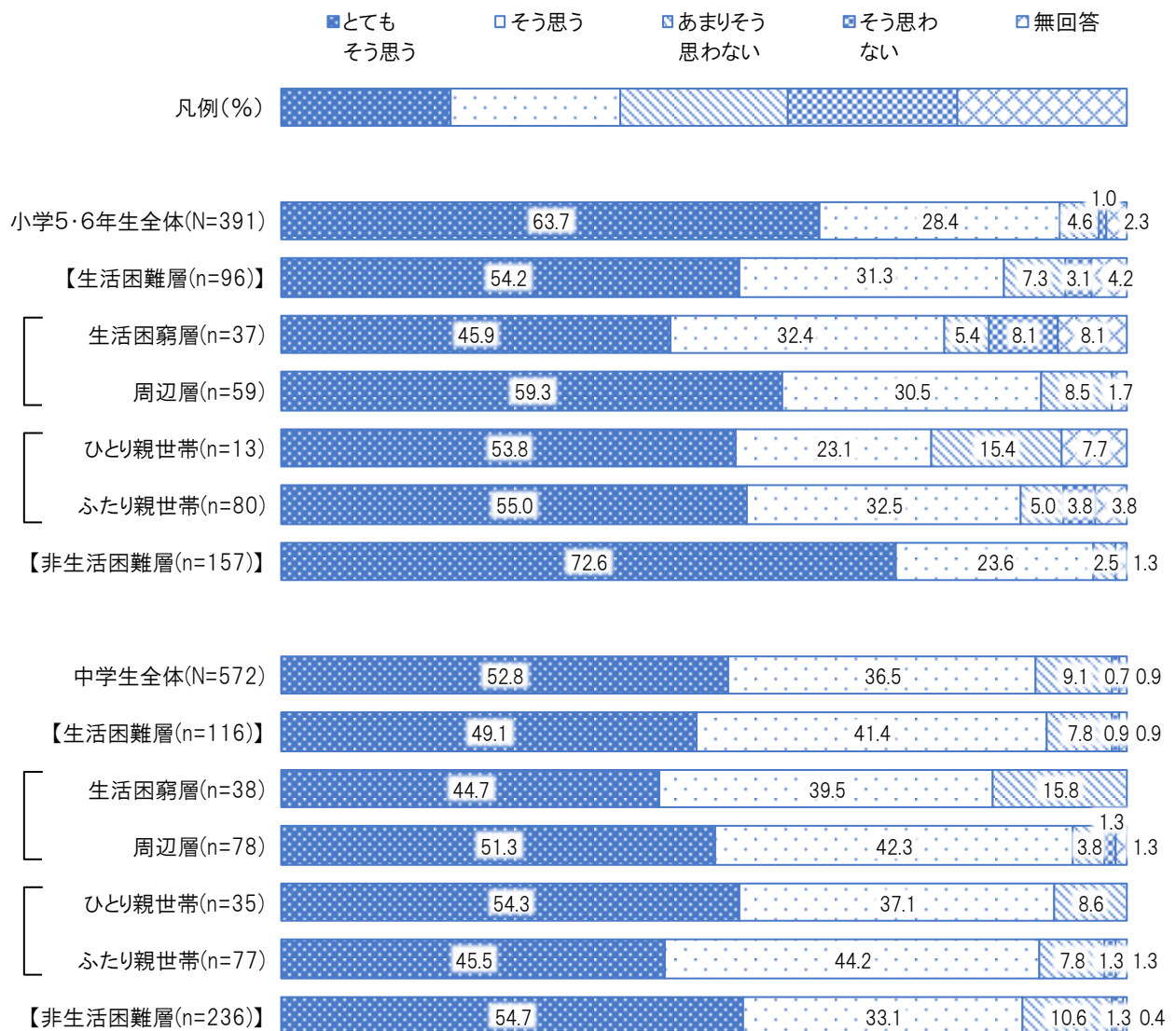
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯に比べて低く、一方で中学生のひとり親世帯では「とてもそう思う」の割合が高くなっている。



B 自分が喜ぶことをしてくれる

自分が喜ぶことをしてくれることについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で45.9%となっており、非生活困難層を大きく下回っている。

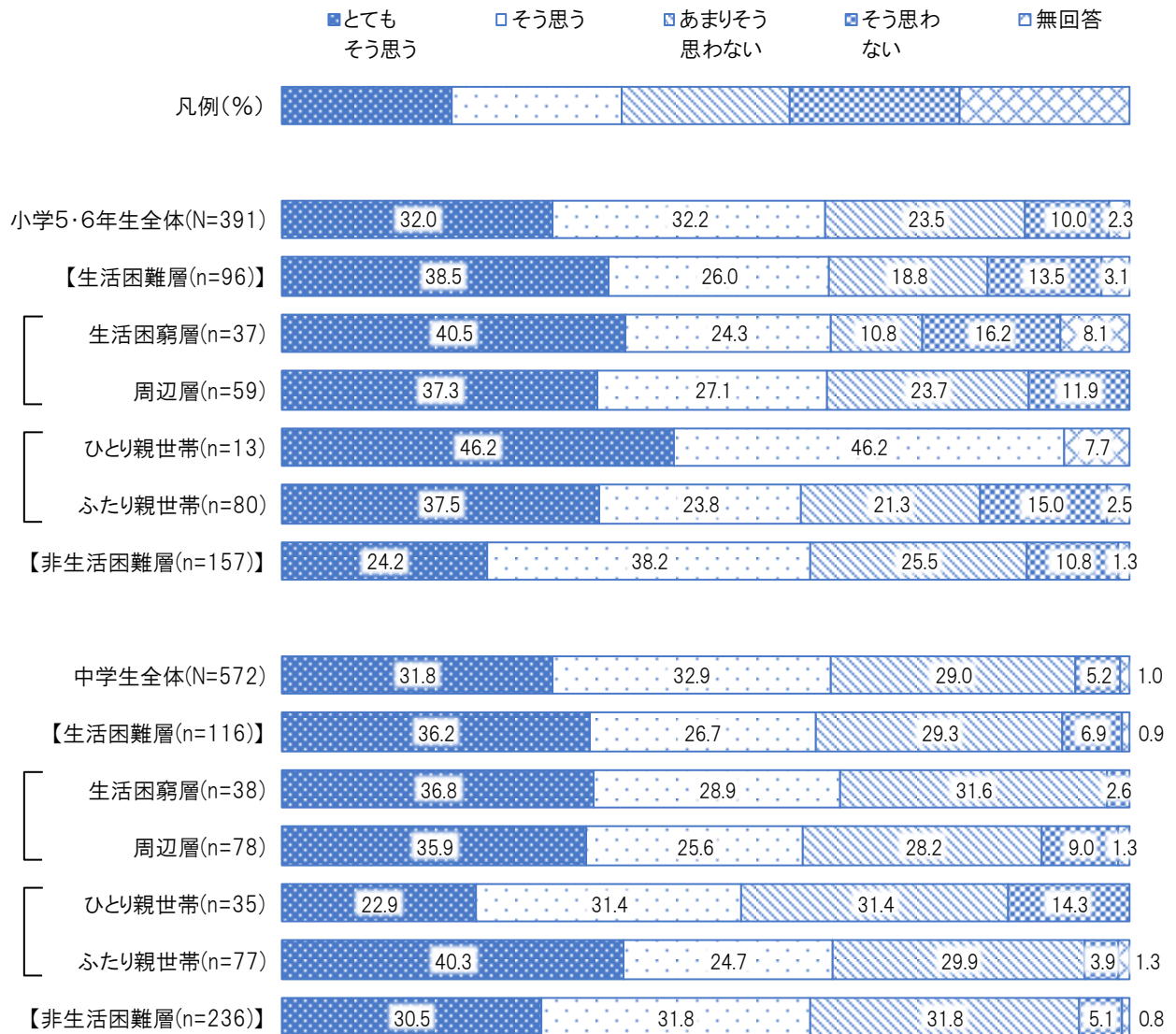
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「あまりそう思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C 決まりを作ってきびしく言われる

決まりを作ってきびしく言われることについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で40.5%、周辺層で37.3%、中学生では、生活困窮層で36.8%、周辺層で35.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

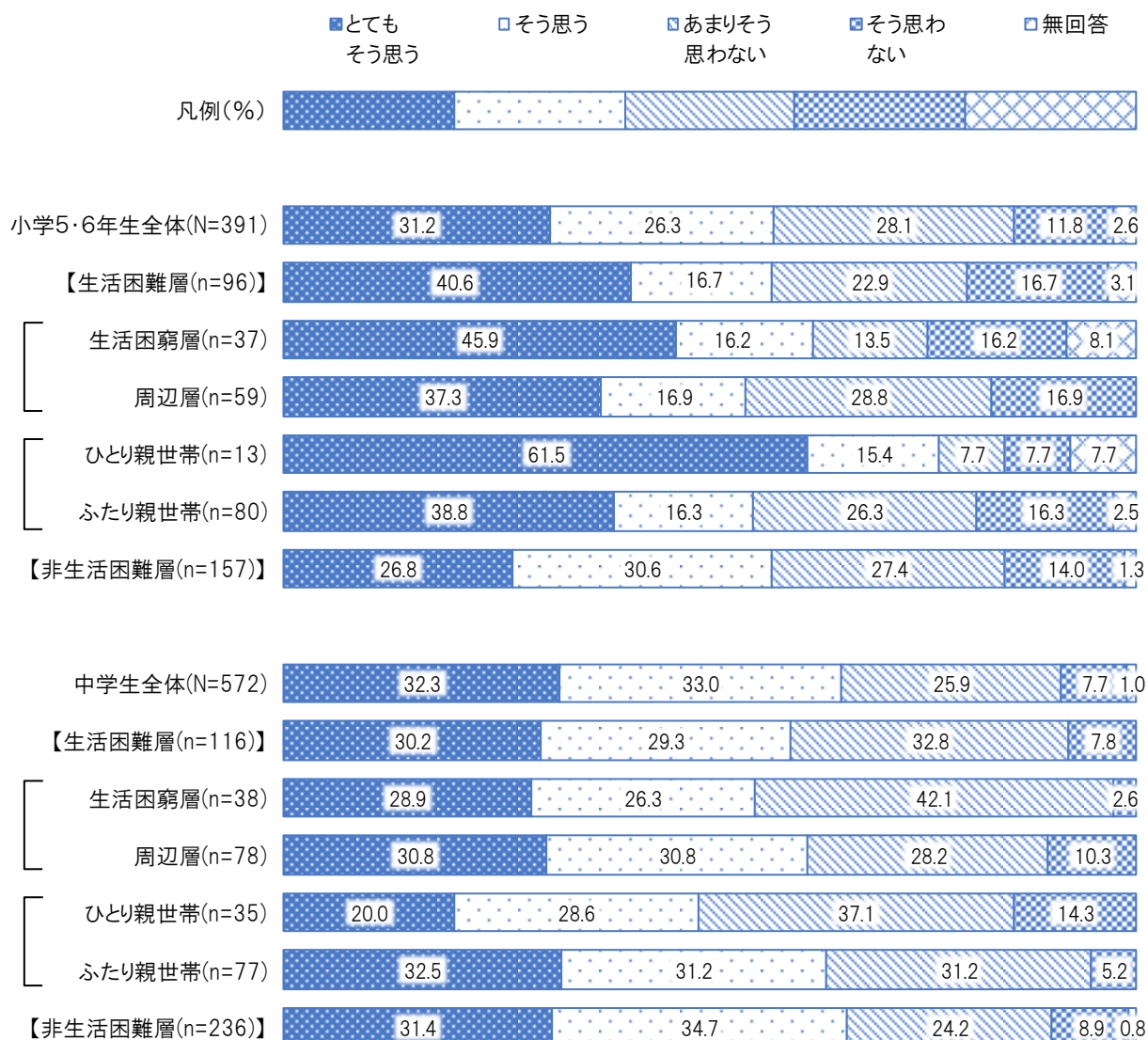
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とてもそう思う」「そう思う」の割合が他の層を大きく上回っている。



D やるべきことができるまで何度も細かく指示される

やるべきことができるまで何度も細かく指示されることについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で45.9%、周辺層で37.3%となっており、生活困窮層で高くなっている。中学生では、生活困窮層で「あまりそう思わない」(42.1%)の割合が周辺層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。一方、中学生のひとり親世帯で「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

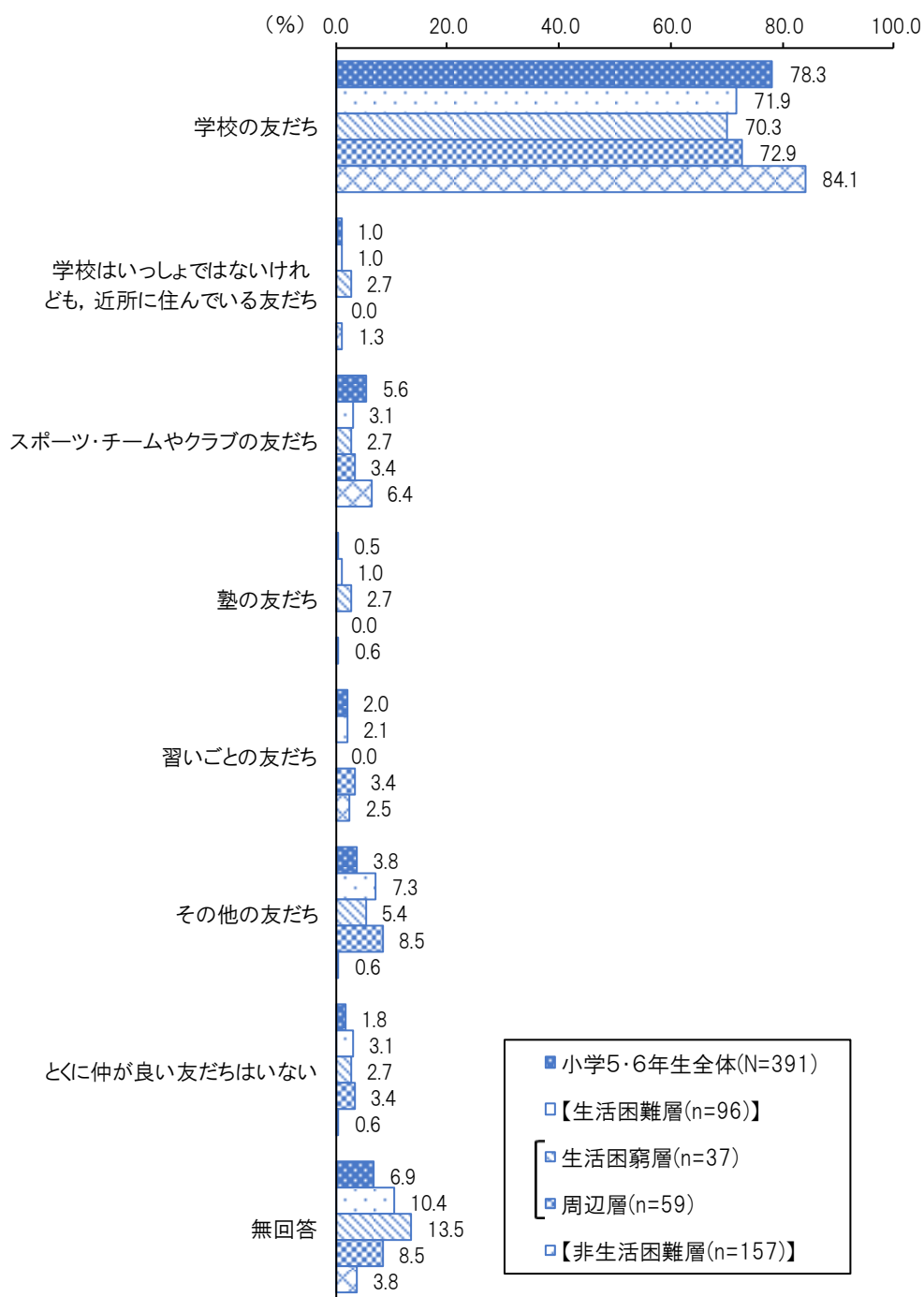


(2) 一番仲がよい友だち

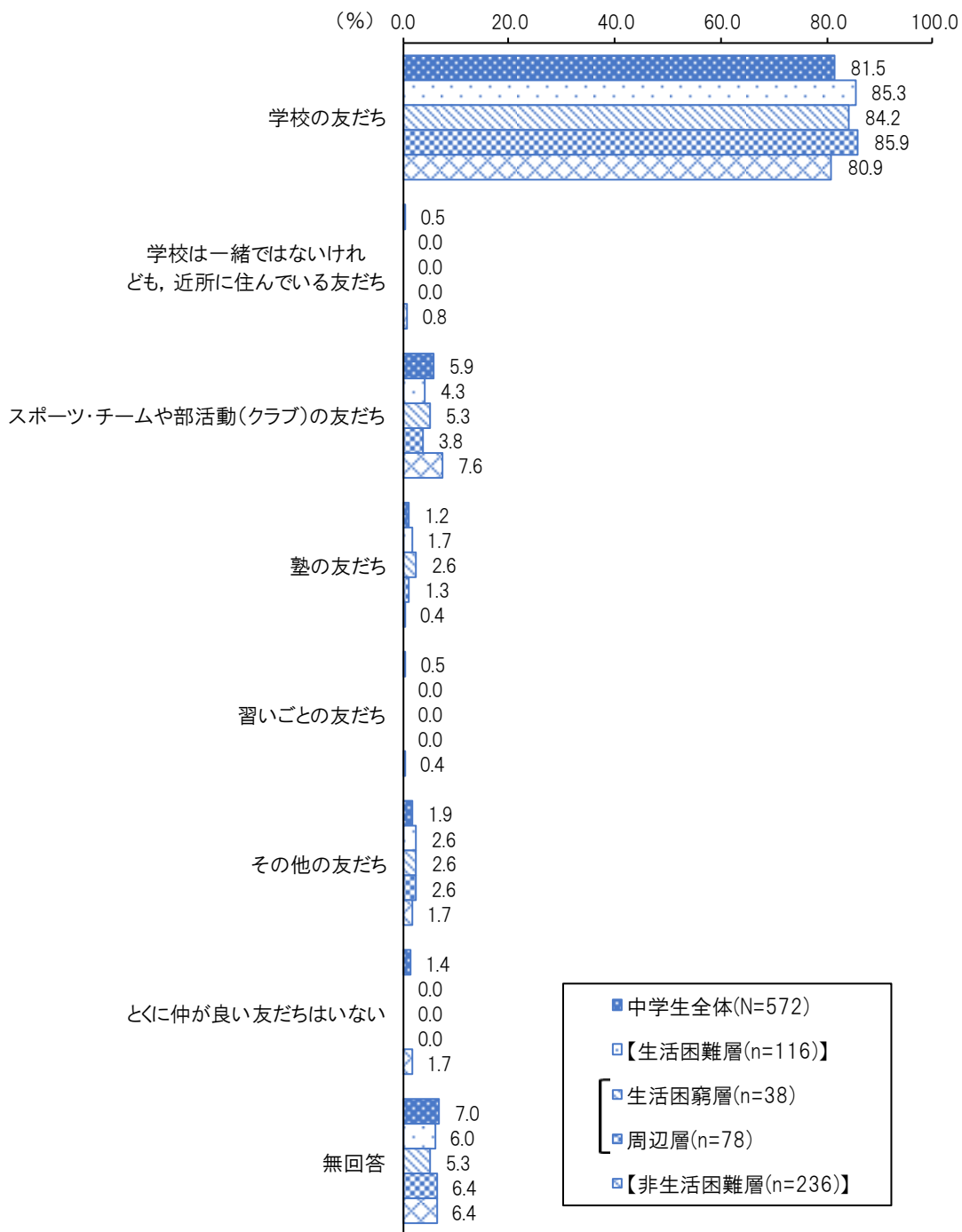
子／問7 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。
(あてはまる番号1つに○)

一番仲がよい友だちについて、小学5・6年生全体では「学校の友だち」が78.3%と最も高く、次いで「スポーツ・チームやクラブの友だち」(5.6%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困難層は「学校の友だち」の割合が他の層に比べてやや低くなっている。



中学生全体では、「学校の友だち」が 81.5%と最も高く、次いで「スポーツ・チームや部活動（クラブ）の友だち」（5.9%）が続いている。

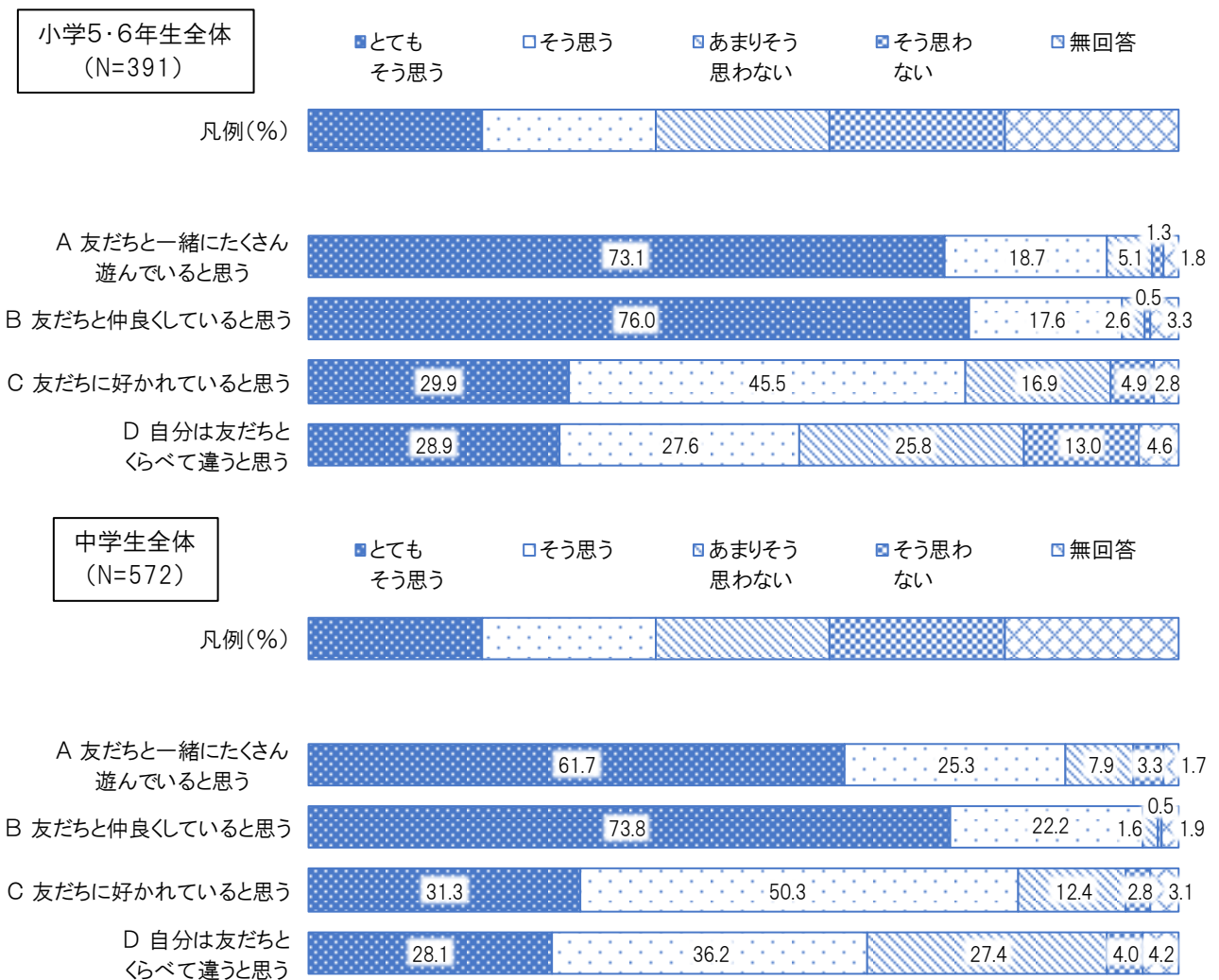


(3) 友だちとの関係

子／問8 あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

友だちとの関係については、小学5・6年生全体では「とてもそう思う」の割合が高い順に「B 友だちと仲良くしていると思う」(76.0%)、「A 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う」(73.1%)、「C 友だちに好かれていると思う」(29.9%)、「D 自分は友だちとくらべて違うと思う」(28.9%)となっている。

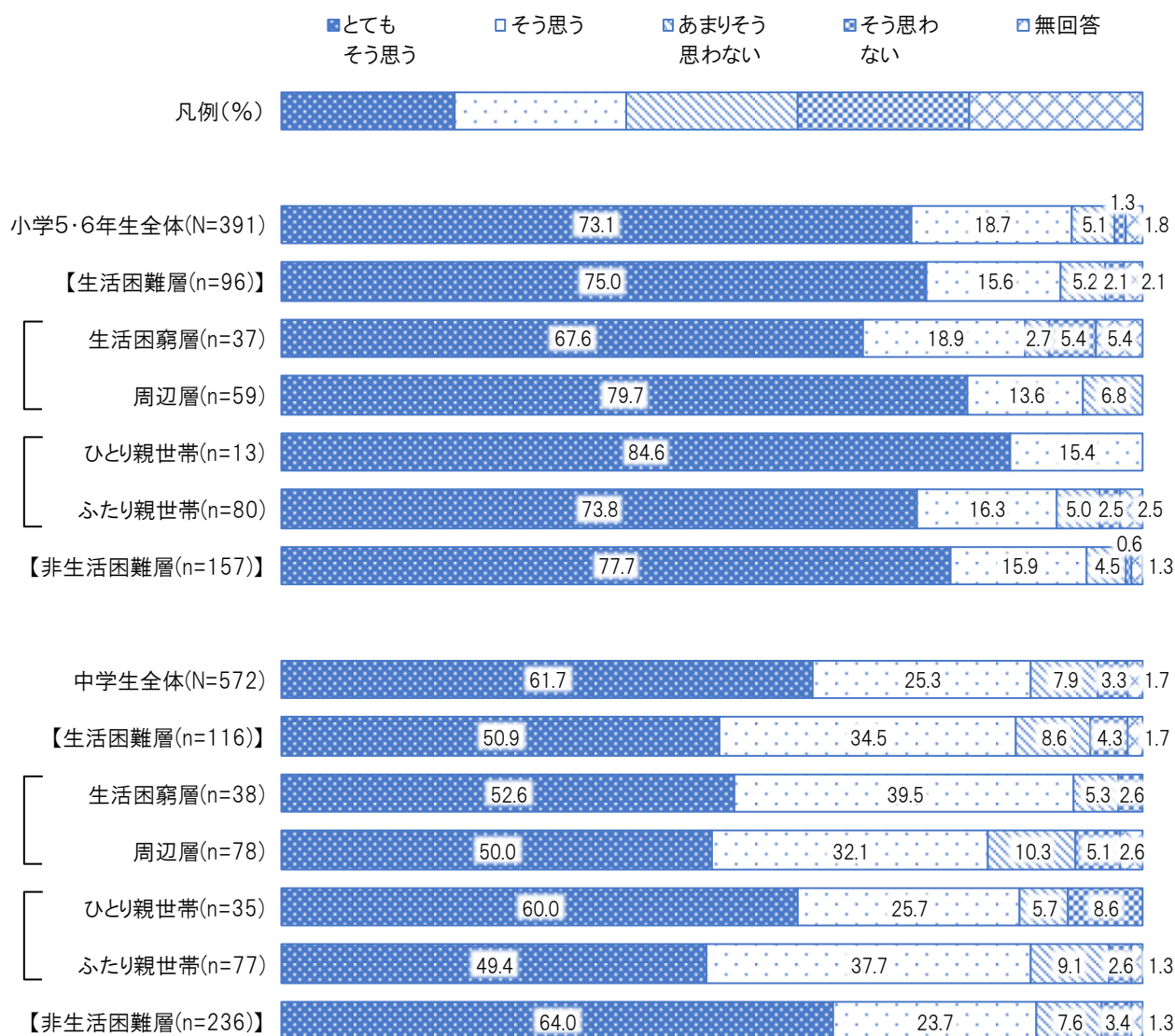
中学生全体では、「B 友だちと仲良くしていると思う」(73.8%)、「A 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う」(61.7%)、「C 友だちに好かれていると思う」(31.3%)、「D 自分は友だちとくらべて違うと思う」(28.1%)となっている。



A 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う

友だちと一緒にたくさん遊んでいると思うことについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で67.6%、周辺層で79.7%となっており、生活困窮層で低くなっている。中学生では、生活困窮層で52.6%、周辺層で50.0%となっている。

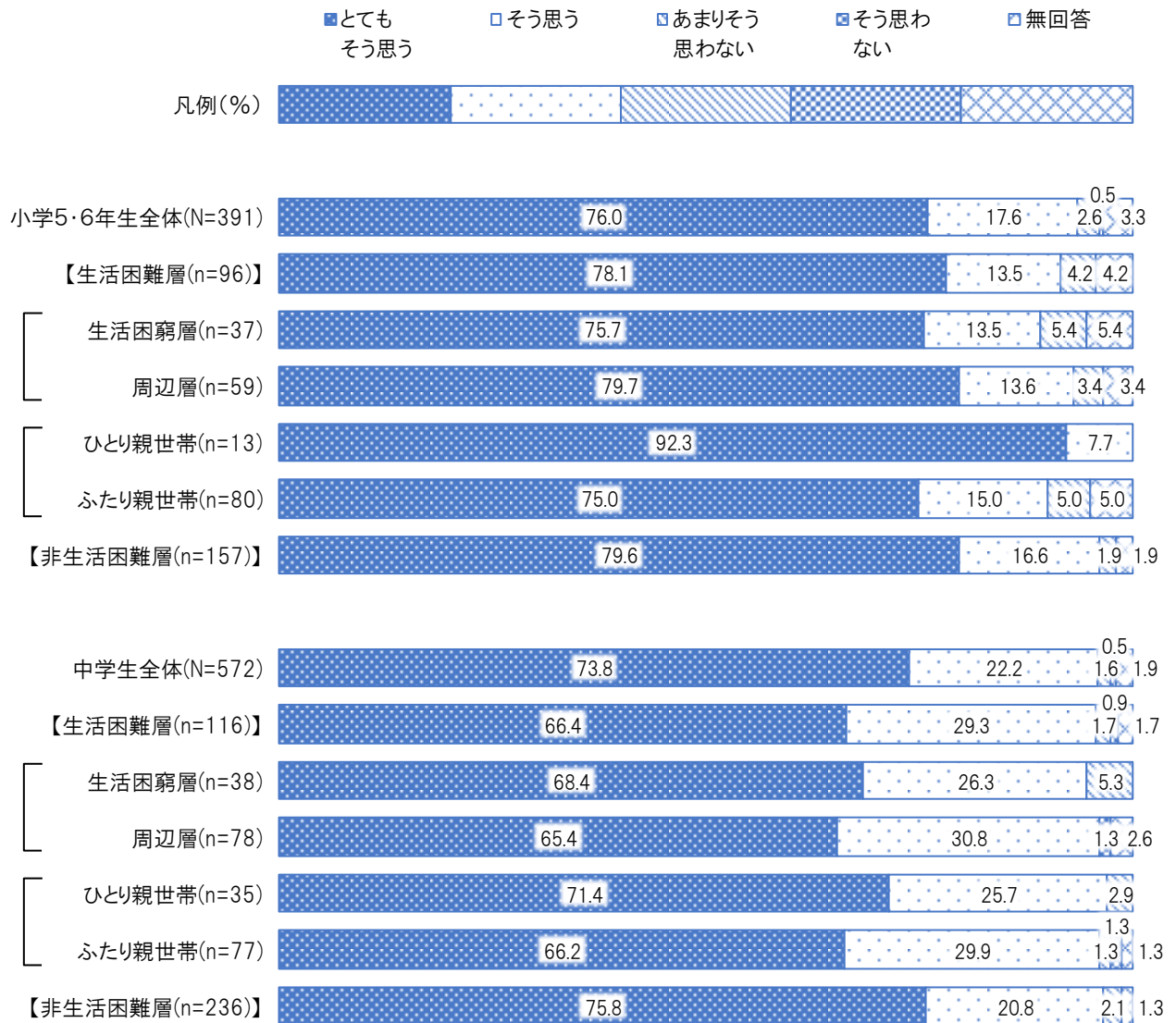
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 友だちと仲良くしていると思う

友だちと仲良くしていると思うことについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で75.7%，周辺層で79.7%，中学生では、生活困窮層で68.4%，周辺層で65.4%となっている。

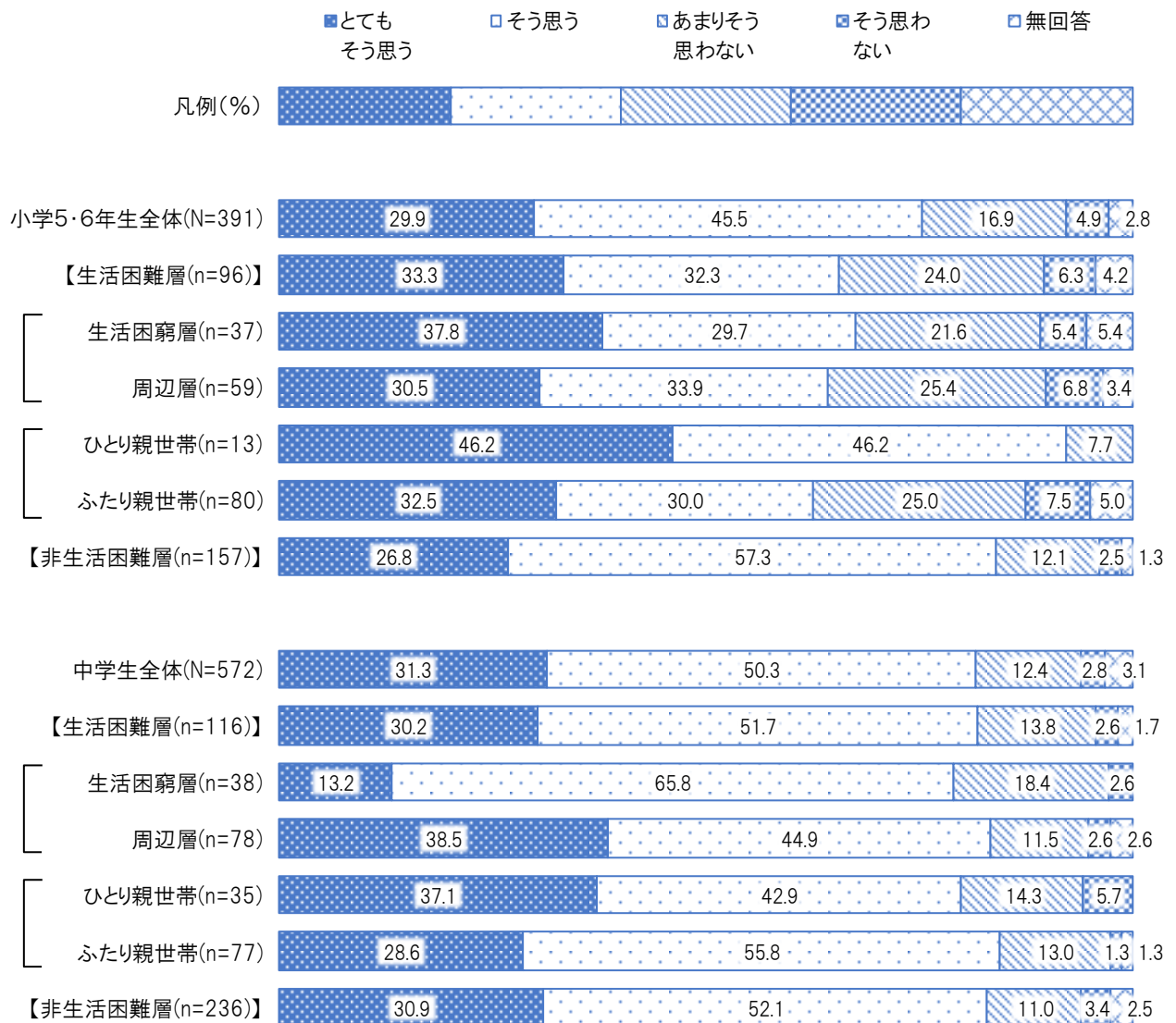
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C 友だちに好かれていると思う

友だちに好かれていると思うことについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で37.8%、周辺層で30.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で13.2%、周辺層で38.5%となっており、生活困窮層で低くなっている。

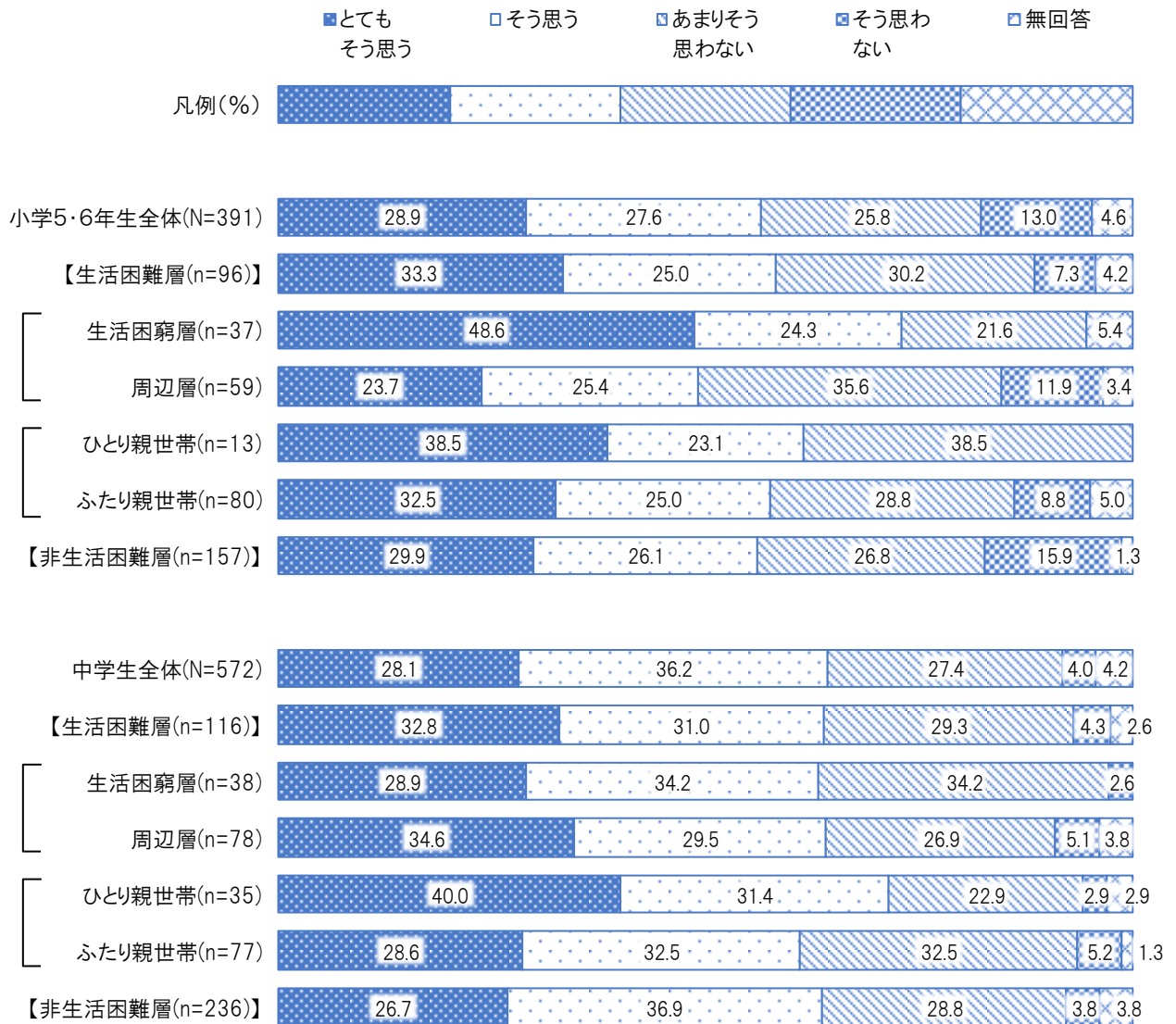
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合が高く、一方、ふたり親世帯で「あまりそう思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



D 自分は友だちとくらべて違うと思う

自分は友だちとくらべて違うと思うことについて「とてもそう思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%、周辺層で23.7%となっており、周辺層を大きく上回っている。中学生では、生活困窮層で28.9%、周辺層で34.6%となっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



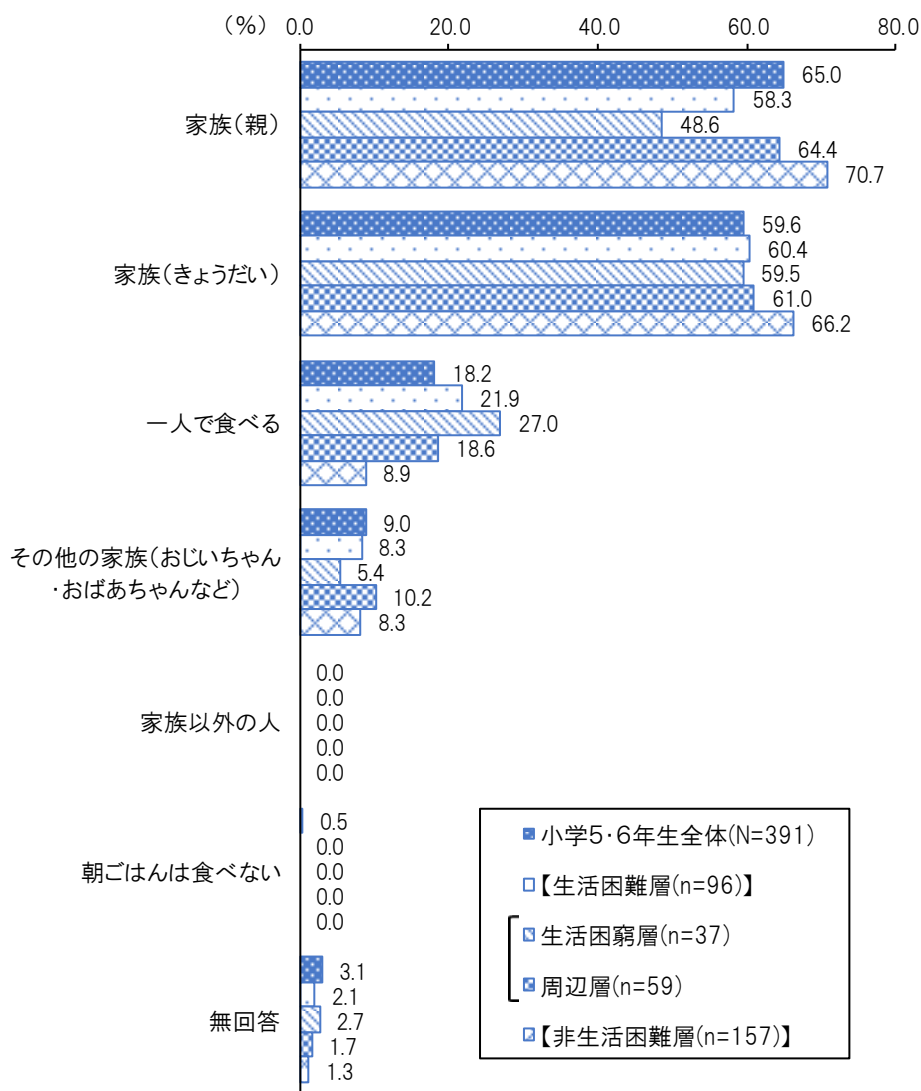
【2】 平日の食事

(1) 朝食を一緒にとる人

子／問 22 あなたは、平日（学校に行く日）に朝ごはんをだれと食べますか。
（あてはまる番号すべてに○）

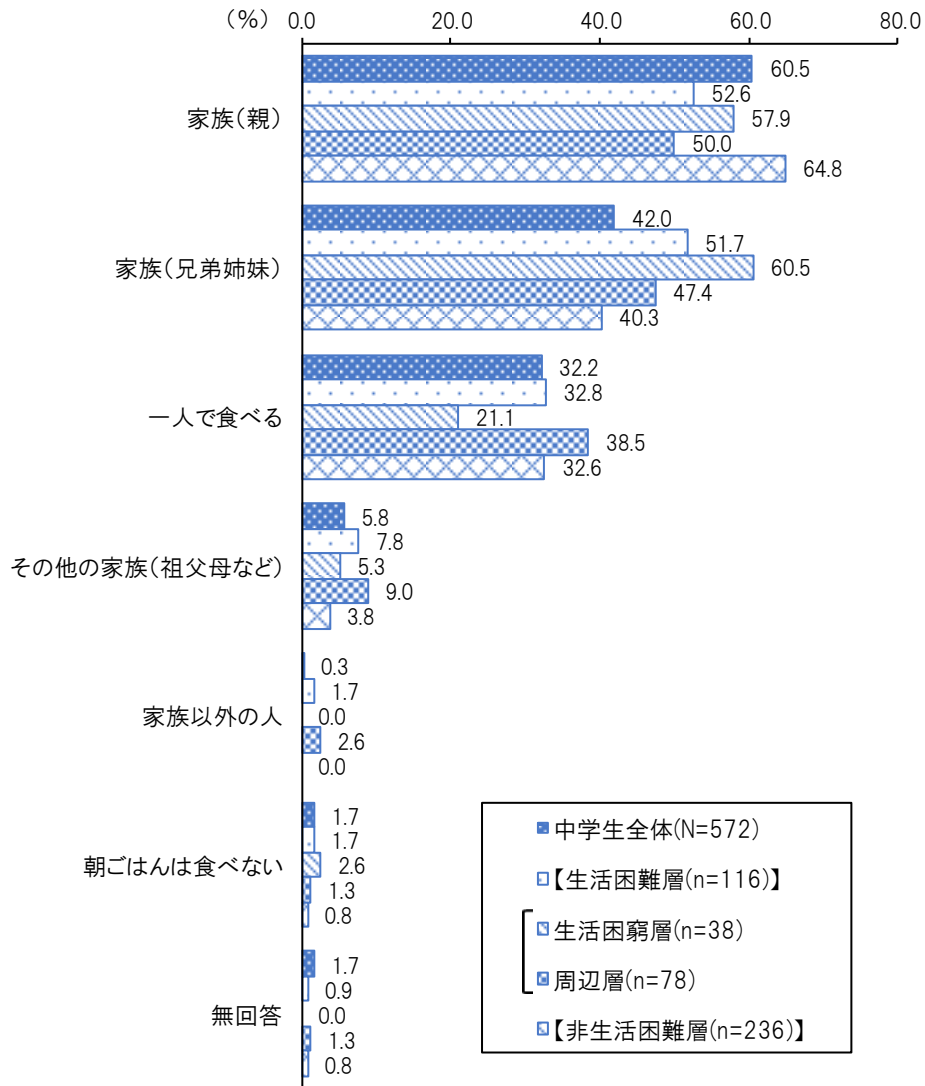
朝食を一緒にとる人について、小学5・6年生全体では「家族（親）」が65.0%と最も高く、次いで「家族（きょうだい）」（59.6%）、「一人で食べる」（18.2%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「家族（親）」の割合が低く、「一人で食べる」の割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生全体では、「家族（親）」が60.5%と最も高く、次いで「家族（兄弟姉妹）」（42.0%）、「一人で食べる」（32.2%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「家族（兄弟姉妹）」の割合が高く、「一人で食べる」の割合が他の層に比べて低くなっている。

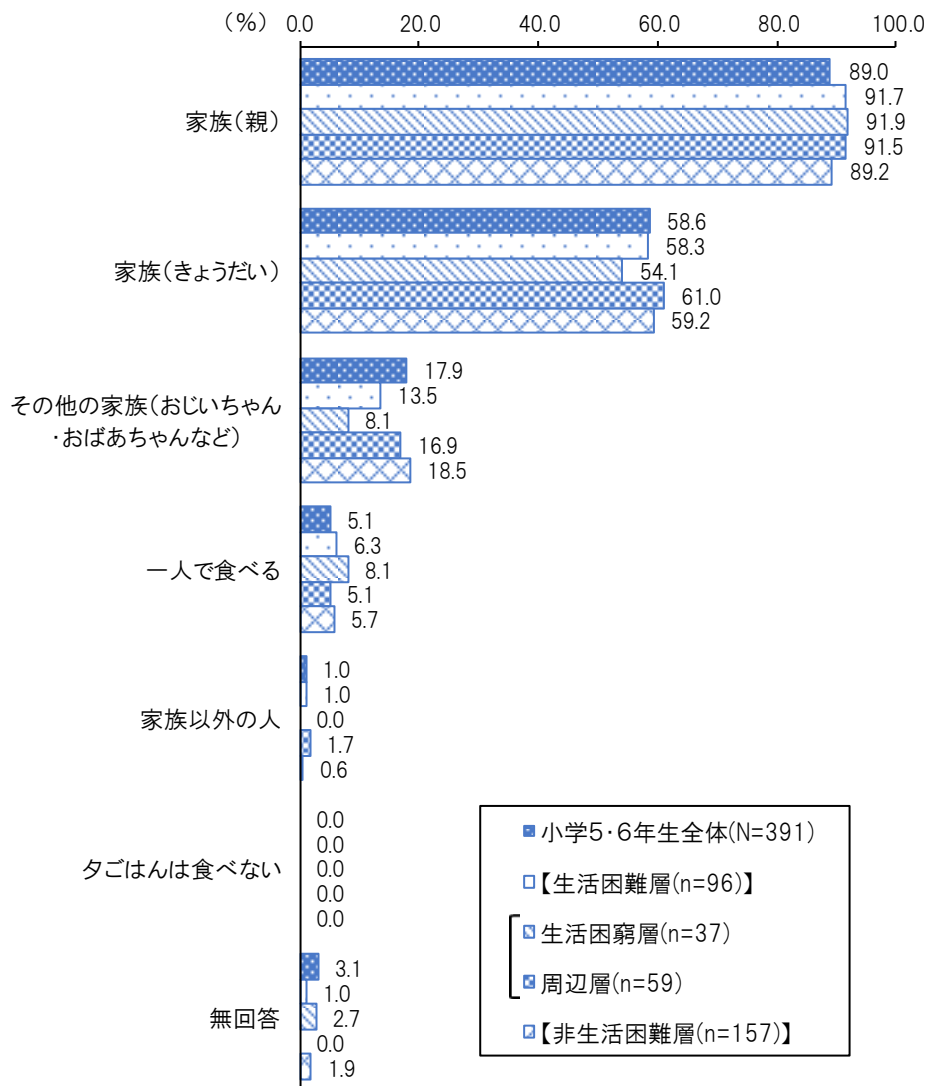


(2) 夕食を一緒にとる人

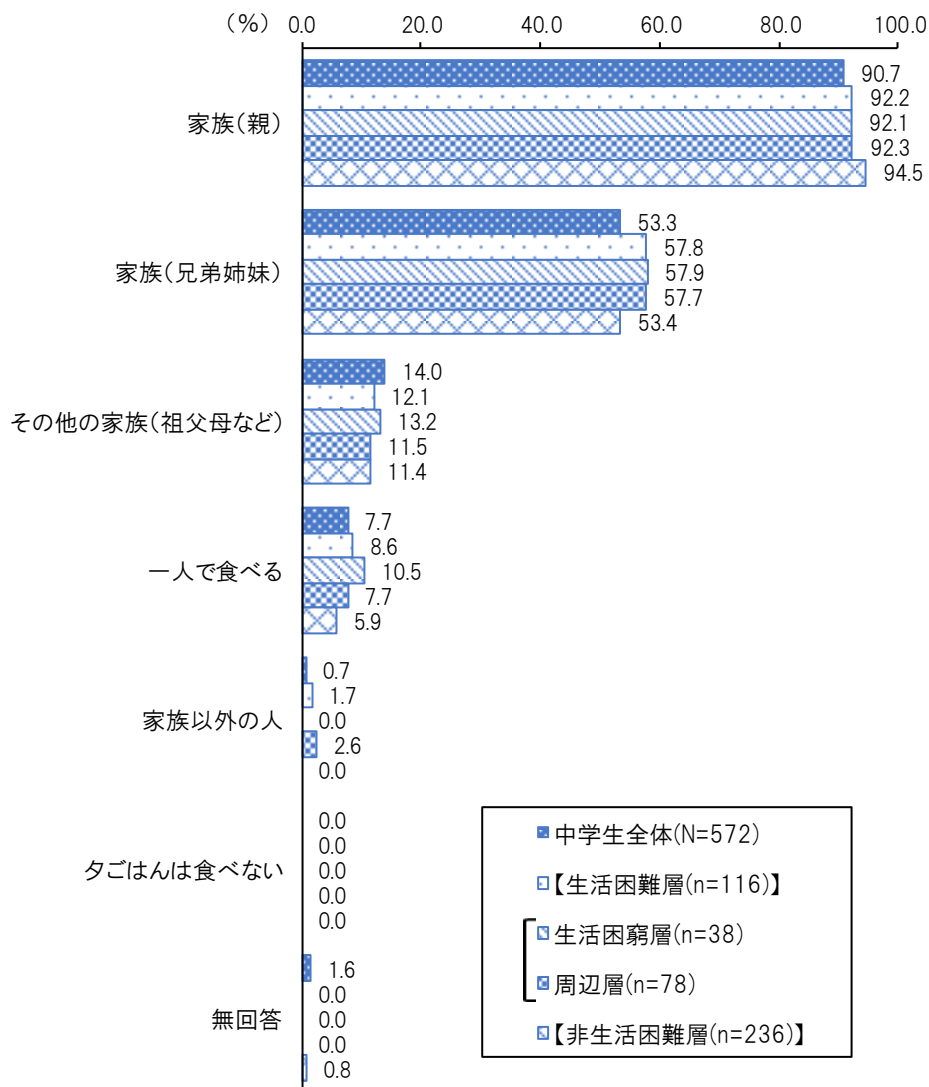
子/問 23 あなたは、平日（学校に行く日）に夕ごはんをだれと食べますか。
（あてはまる番号すべてに○）

夕食を一緒にとる人について、小学5・6年生全体では「家族（親）」が89.0%と最も高く、次いで「家族（きょうだい）」（58.6%）、「その他の家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）」（17.9%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「家族（きょうだい）」「その他の家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）」の割合が他の層に比べてやや低くなっている。



中学生全体では、「家族（親）」が90.7%と最も高く、次いで「家族（兄弟姉妹）」（53.3%），「その他の家族（祖父母など）」（14.0%）の順となっている。



【3】 平日の放課後の過ごし方

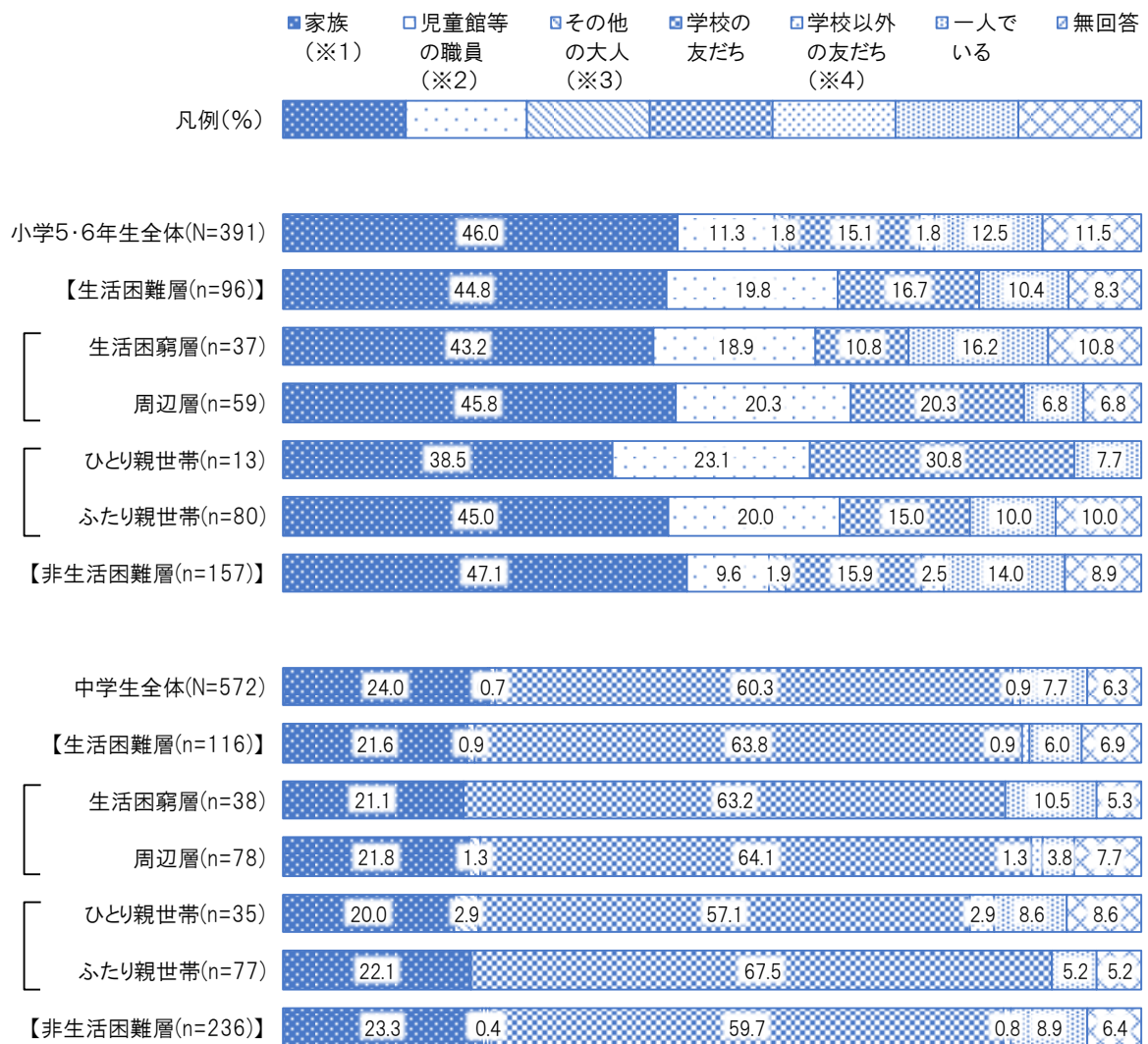
(1) 放課後を一緒に過ごす人

子／問9 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。
（あてはまる番号1つに○）

放課後を一緒に過ごす人については、「家族」が小学5・6年生全体で46.0%、中学生全体で24.0%となっており、「学校の友だち」が小学5・6年生全体で15.1%、中学生全体で60.3%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困難層で「学校の友だち」の割合が周辺層に比べて低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「学校の友だち」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

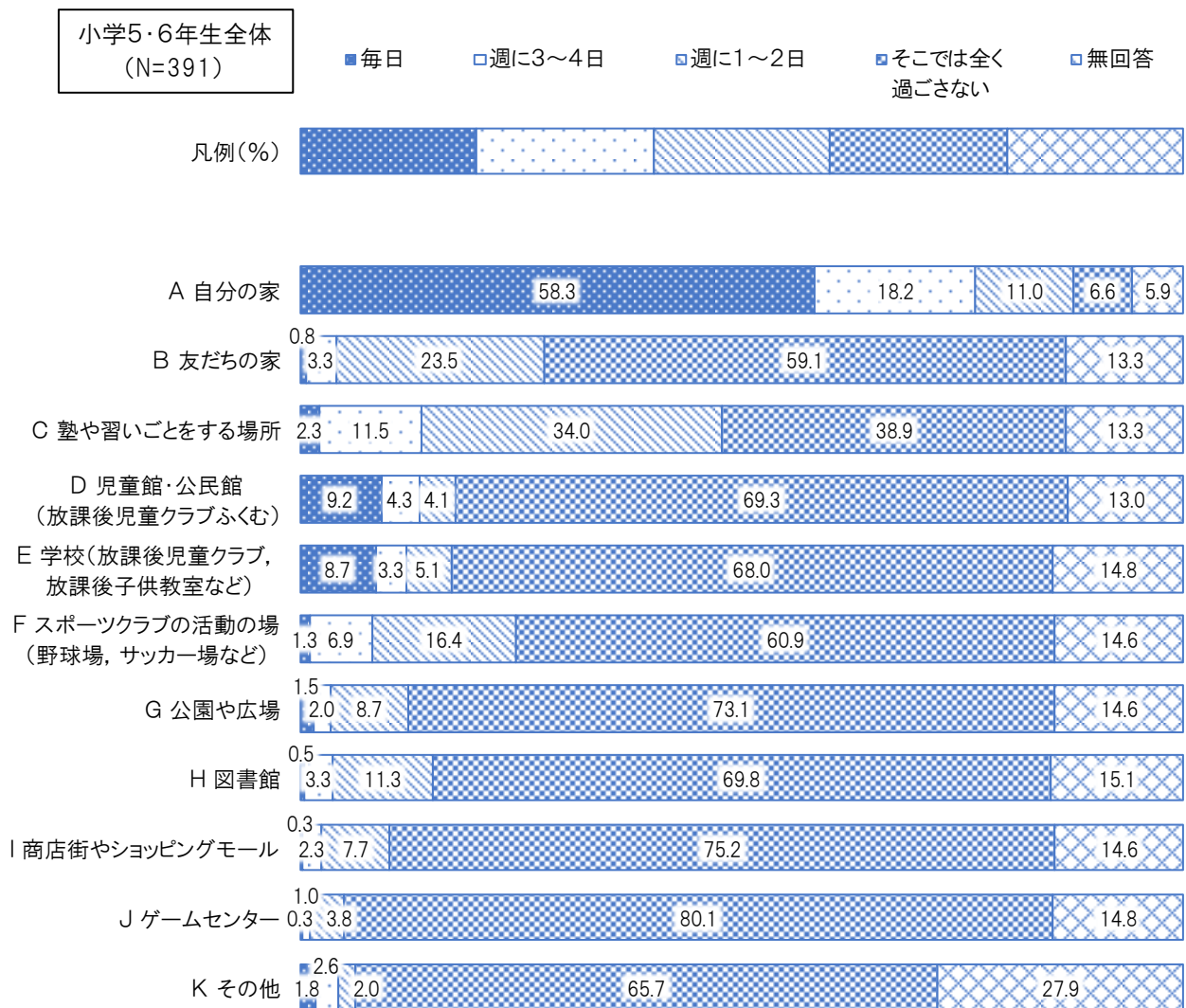


※1: 家族(祖父母, 親せきなども含みます)
 ※2: 小学生票では「放課後児童クラブ, 放課後子供教室, その他の施設の先生」
 中学生票では「児童館・公民館やその他の施設(放課後等デイサービス含む)の職員」
 ※3: その他の大人(近所の大人, 塾や習いごとの先生など)
 ※4: 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ, 近所の友だちなど)

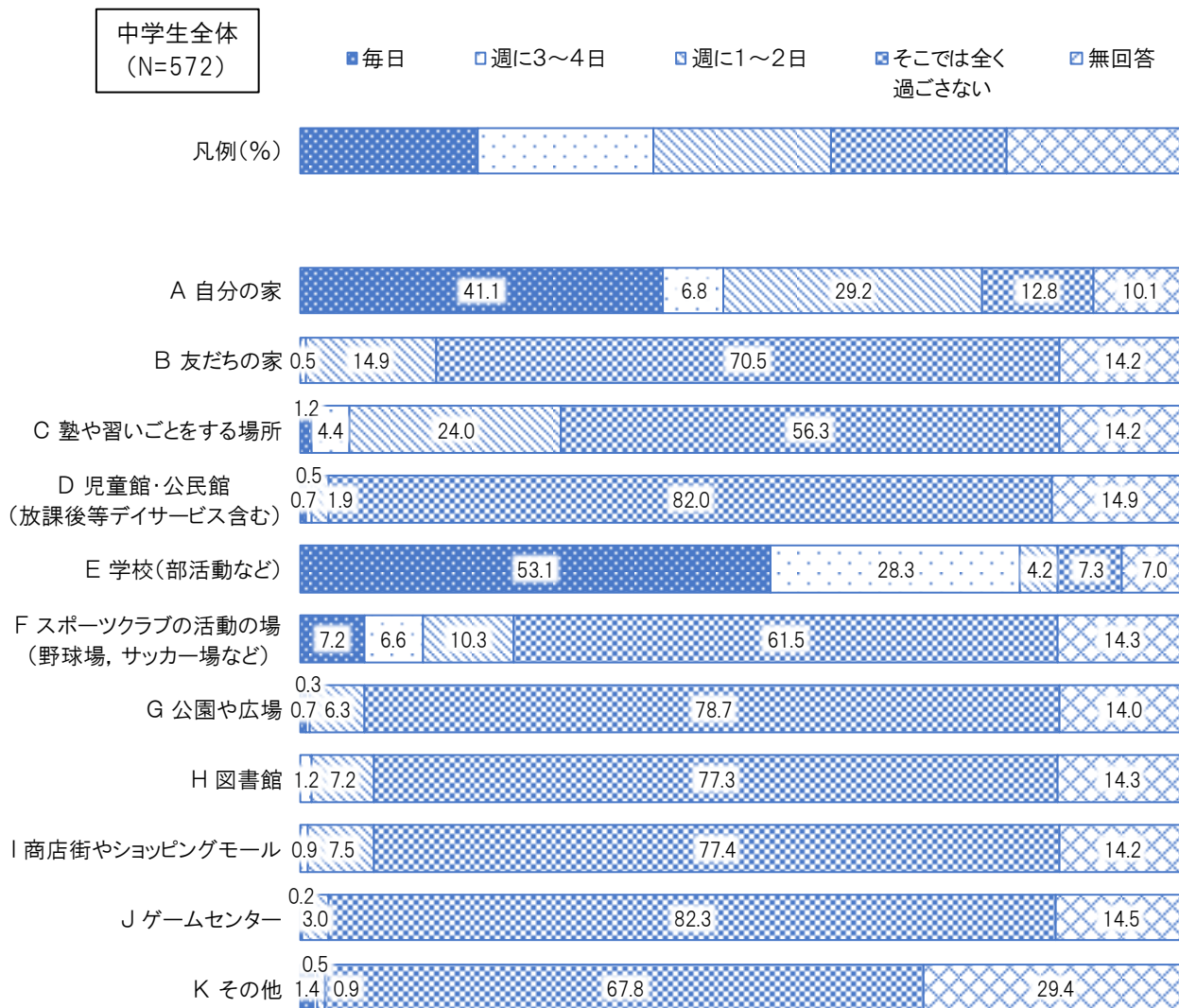
(2) 平日の放課後を過ごす場所

子／問 10 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

平日の放課後を過ごす場所について、小学5・6年生全体では「毎日」「週に3～4日」を合計した割合が高い順に「A 自分の家」(76.5%)、「C 塾や習いごとをする場所」(13.8%)、「D 児童館・公民館（放課後児童クラブふくむ）」(13.5%)、「E 学校（放課後児童クラブ、放課後子供教室など）」(12.0%) となっている。また、「そこでは全く過ごさない」では「J ゲームセンター」(80.1%)、「I 商店街やショッピングモール」(75.2%)、「G 公園や広場」(73.1%) などがあげられる。



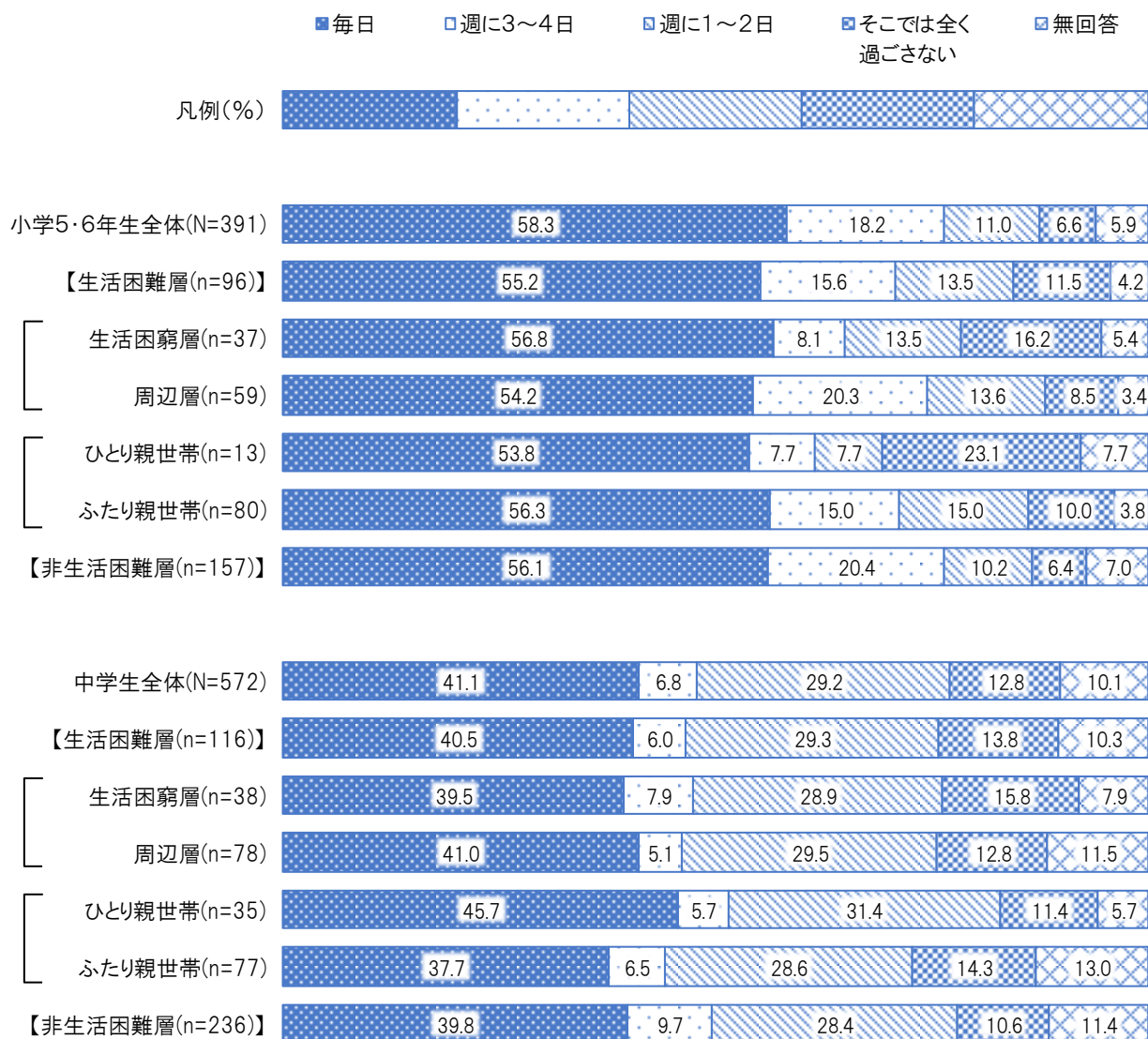
中学生全体では、「毎日」「週に3～4日」を合計した割合が高い順に「E 学校（部活動など）」(81.4%)、「A 自分の家」(47.9%)、「F スポーツクラブの活動の場（野球場，サッカー場など）」(13.8%) となっている。また、「そこでは全く過ごさない」では「J ゲームセンター」(82.3%)、「D 児童館・公民館（放課後等デイサービス含む）」(82.0%)、「G 公園や広場」(78.7%) などがあげられる。



A 自分の家

自分の家について、小学5・6年生の生活困窮層で「そこでは全く過ごさない」の割合が16.2%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

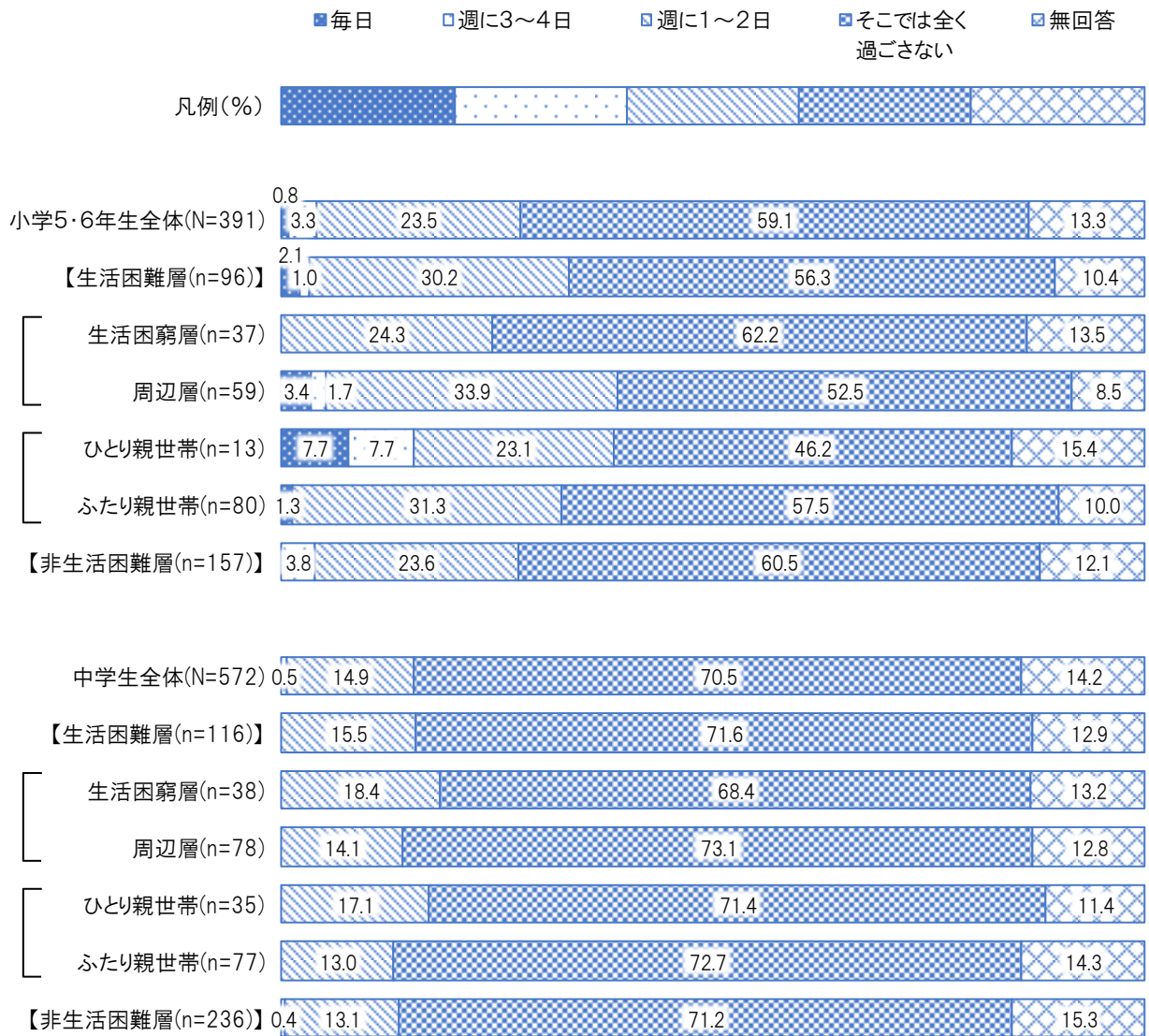
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「そこでは全く過ごさない」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



B 友だちの家

友だちの家について「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で62.2%、周辺層で52.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。

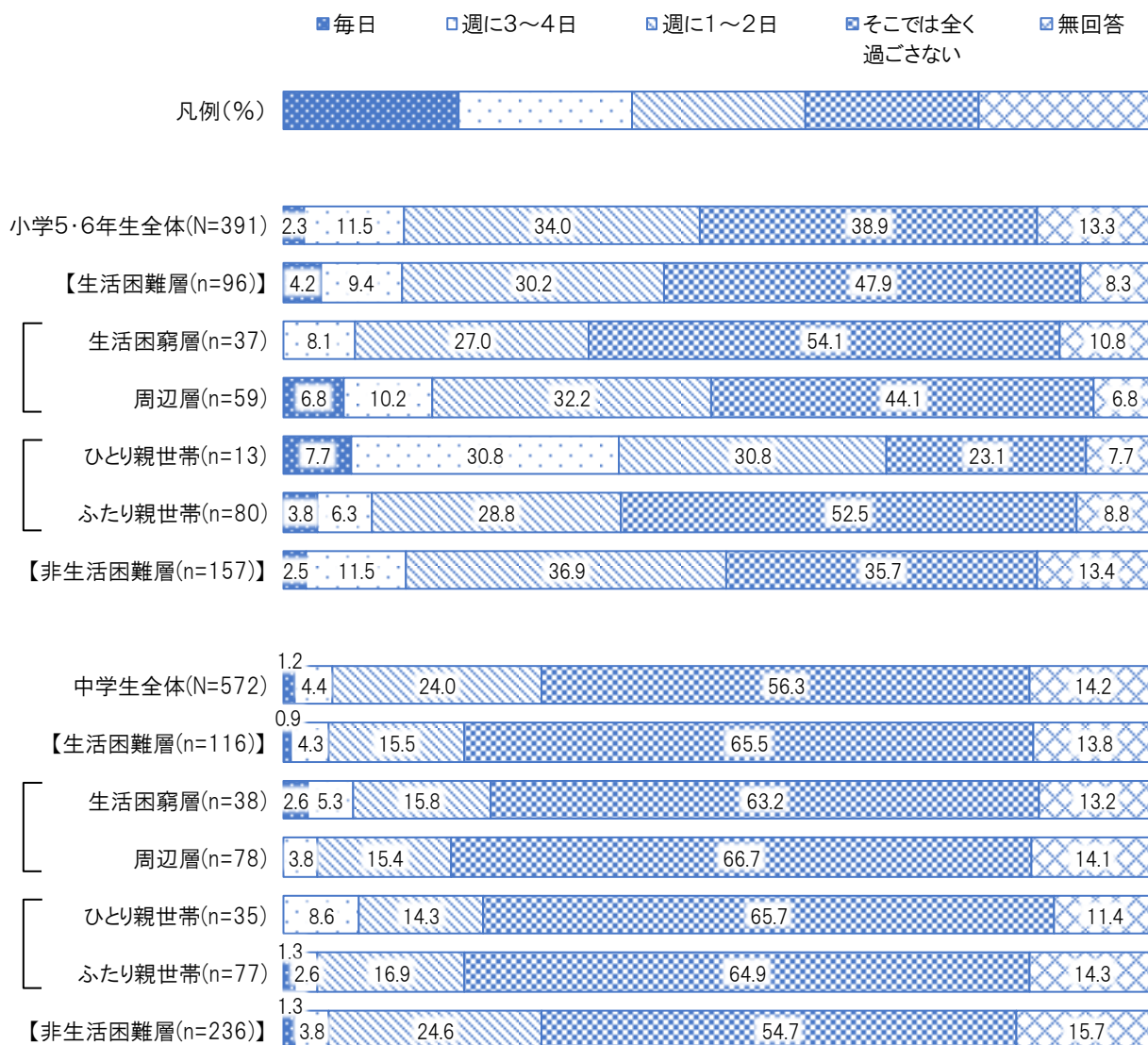
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日」「週に3～4日」の割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。



C 塾や習いごとをする場所

塾や習いごとをする場所について「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で54.1%、周辺層で44.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

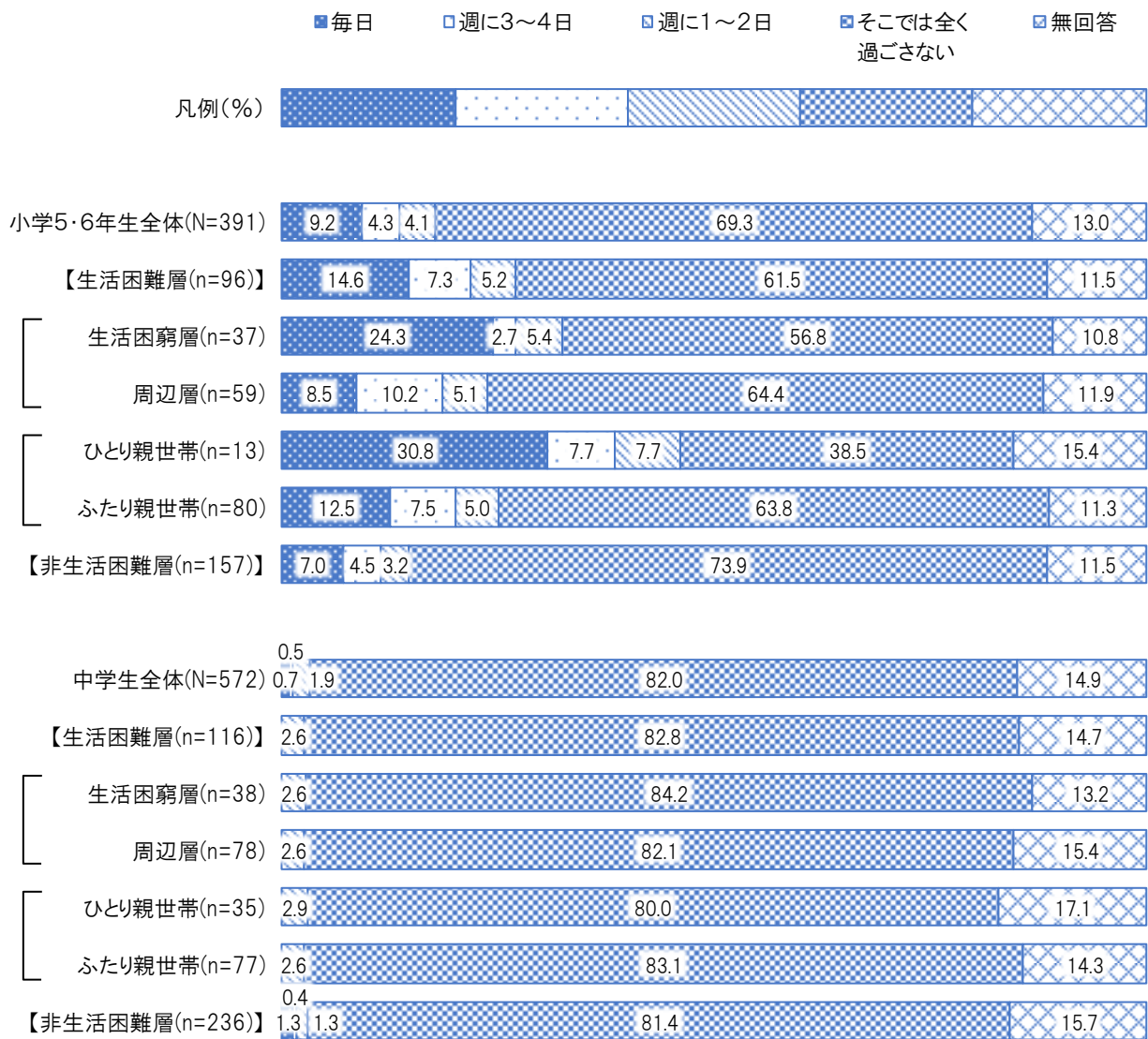
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「週に3～4日」の割合が他の層を大きく上回っている。



D 児童館・公民館※（放課後等デイサービス含む）

児童館・公民館について「毎日」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で24.3%となっており、非生活困難層を大きく上回っている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

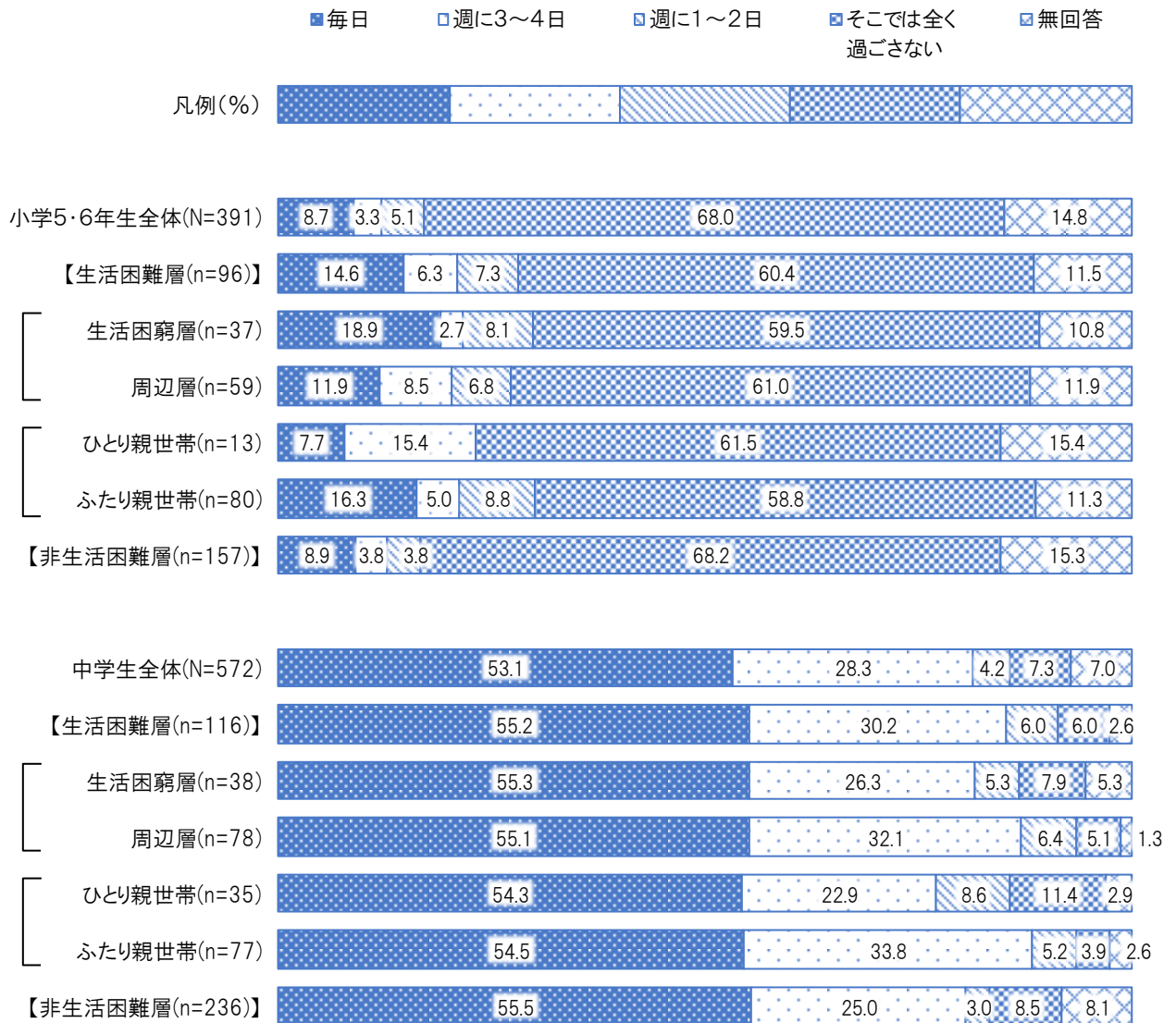


※小学生票では「児童館・公民館(放課後児童クラブふくむ)」

E 学校※（部活動など）

学校について、小学5・6年生の「毎日」の割合は、生活困窮層で18.9%、周辺層で11.9%となっており、生活困窮層でやや高くなっている。また、中学生の「週3～4日」の割合は、生活困窮層で26.3%、周辺層で32.1%となっており、生活困窮層でやや低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「週3～4日」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。

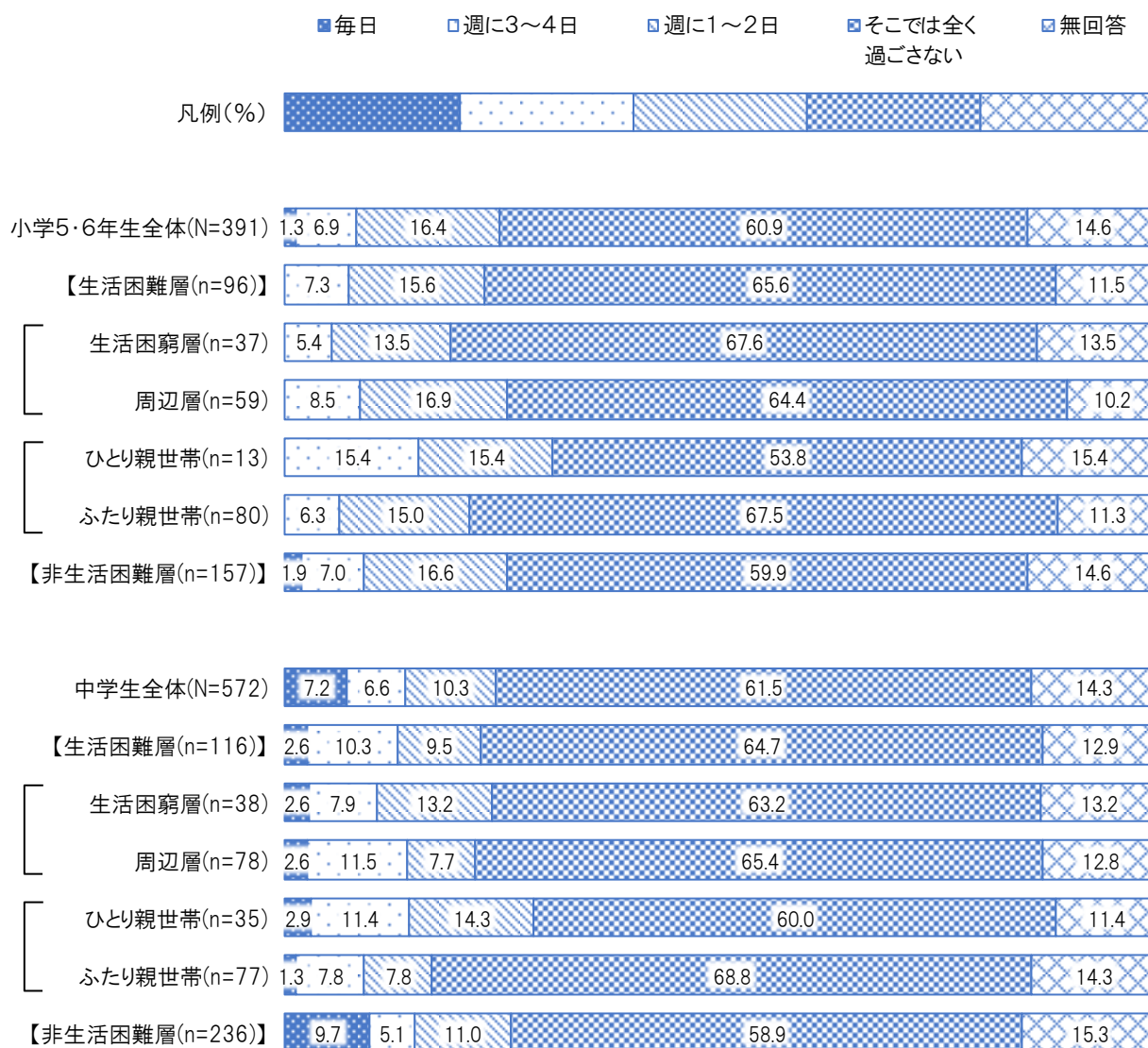


※小学生票では「学校(放課後児童クラブ, 放課後子供教室など)」

F スポーツクラブの活動の場（野球場，サッカー場など）

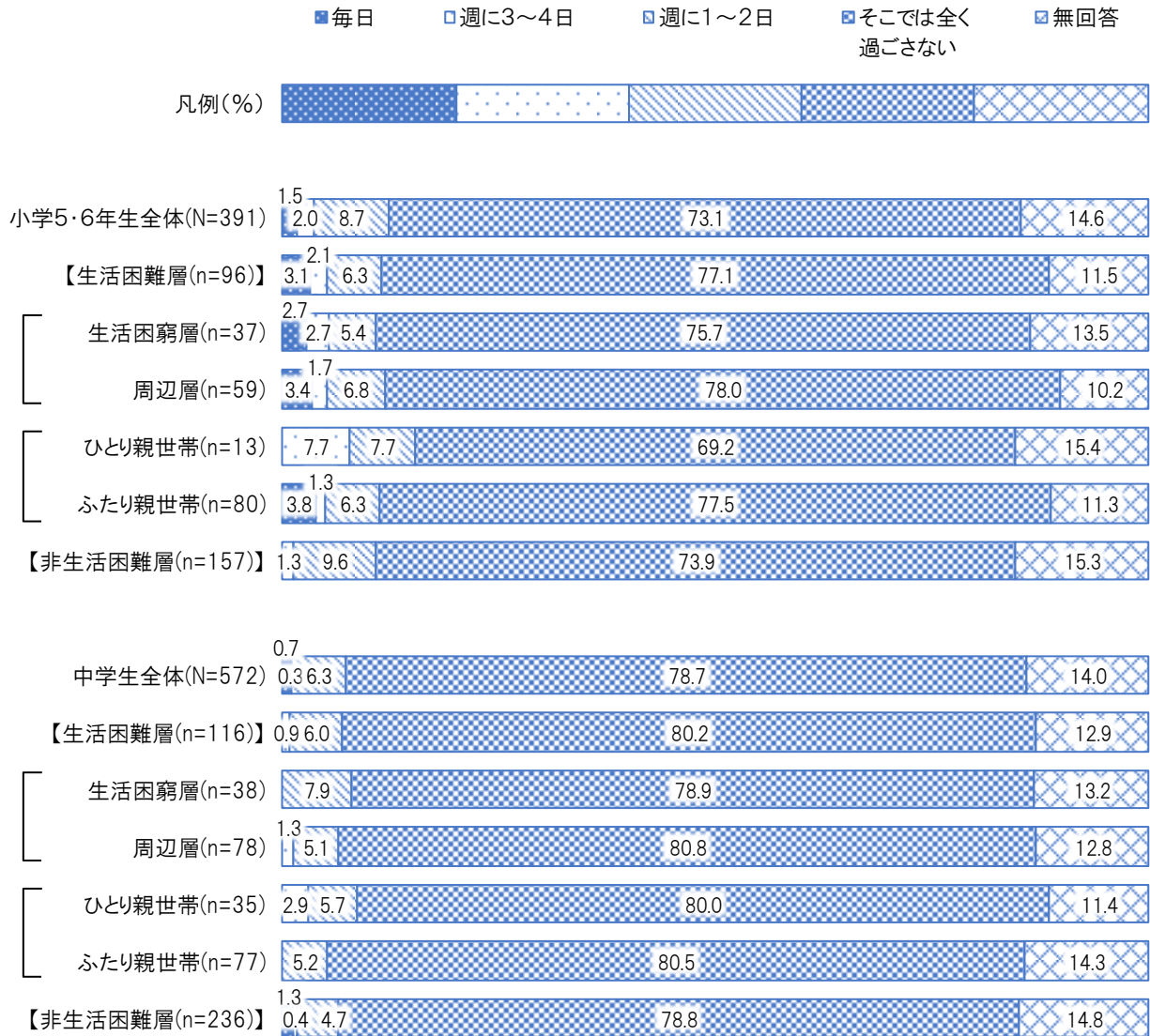
スポーツクラブの活動の場について「そこでは全く過ごさない」の割合は，小学5・6年生の生活困窮層で67.6%，周辺層で64.4%，中学生では，生活困窮層で63.2%，周辺層で65.4%となっており，生活困難度による大きな差はみられない。

生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生，中学生ともにふたり親世帯で「そこでは全く過ごさない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



G 公園や広場

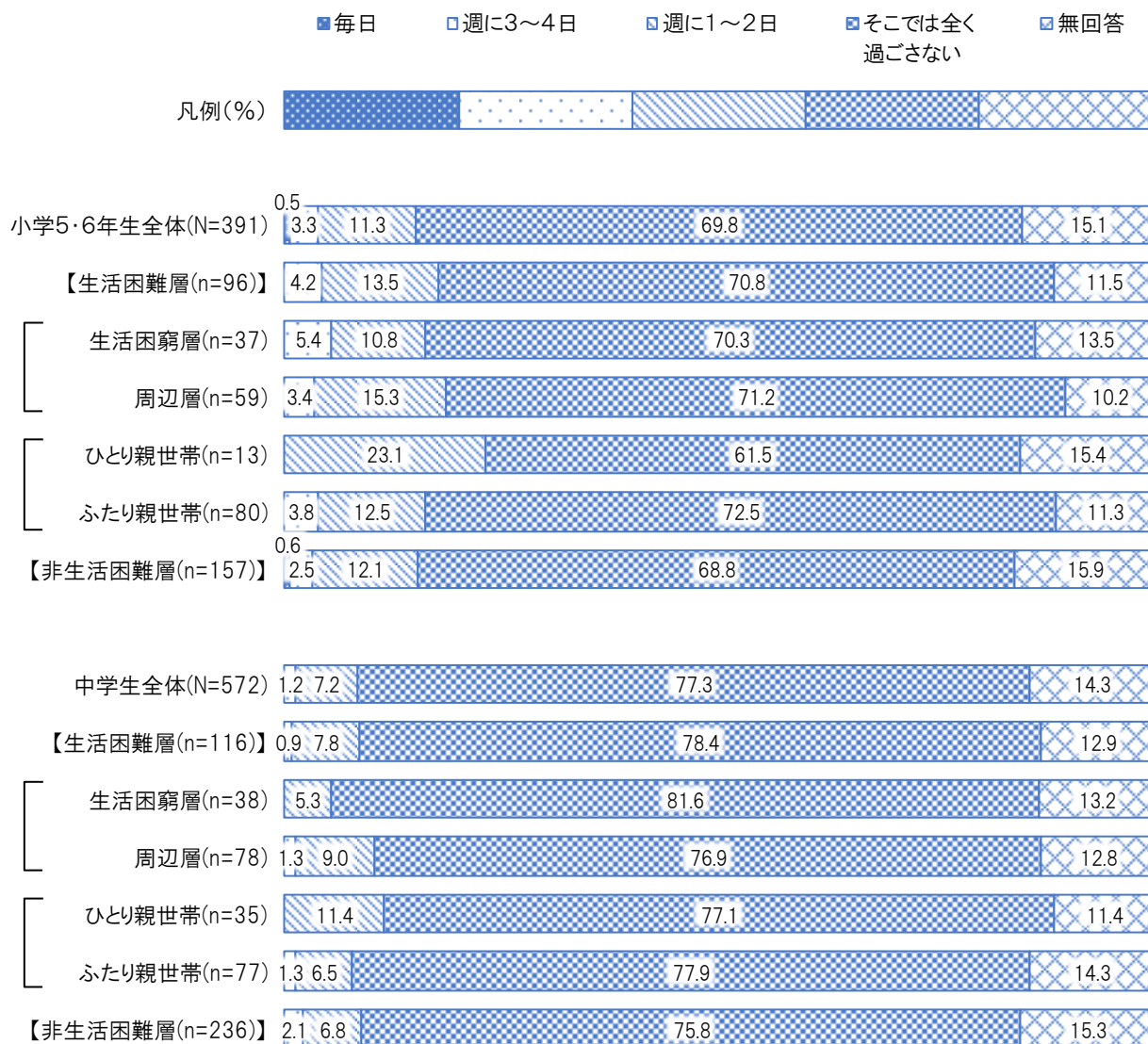
公園や広場について「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で75.7%，周辺層で78.0%，中学生では，生活困窮層で78.9%，周辺層で80.8%となっており，生活困難度による大きな差はみられない。



H 図書館

図書館について「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で70.3%，周辺層で71.2%，中学生では，生活困窮層で81.6%，周辺層で76.9%となっており，生活困難度による大きな差はみられない。

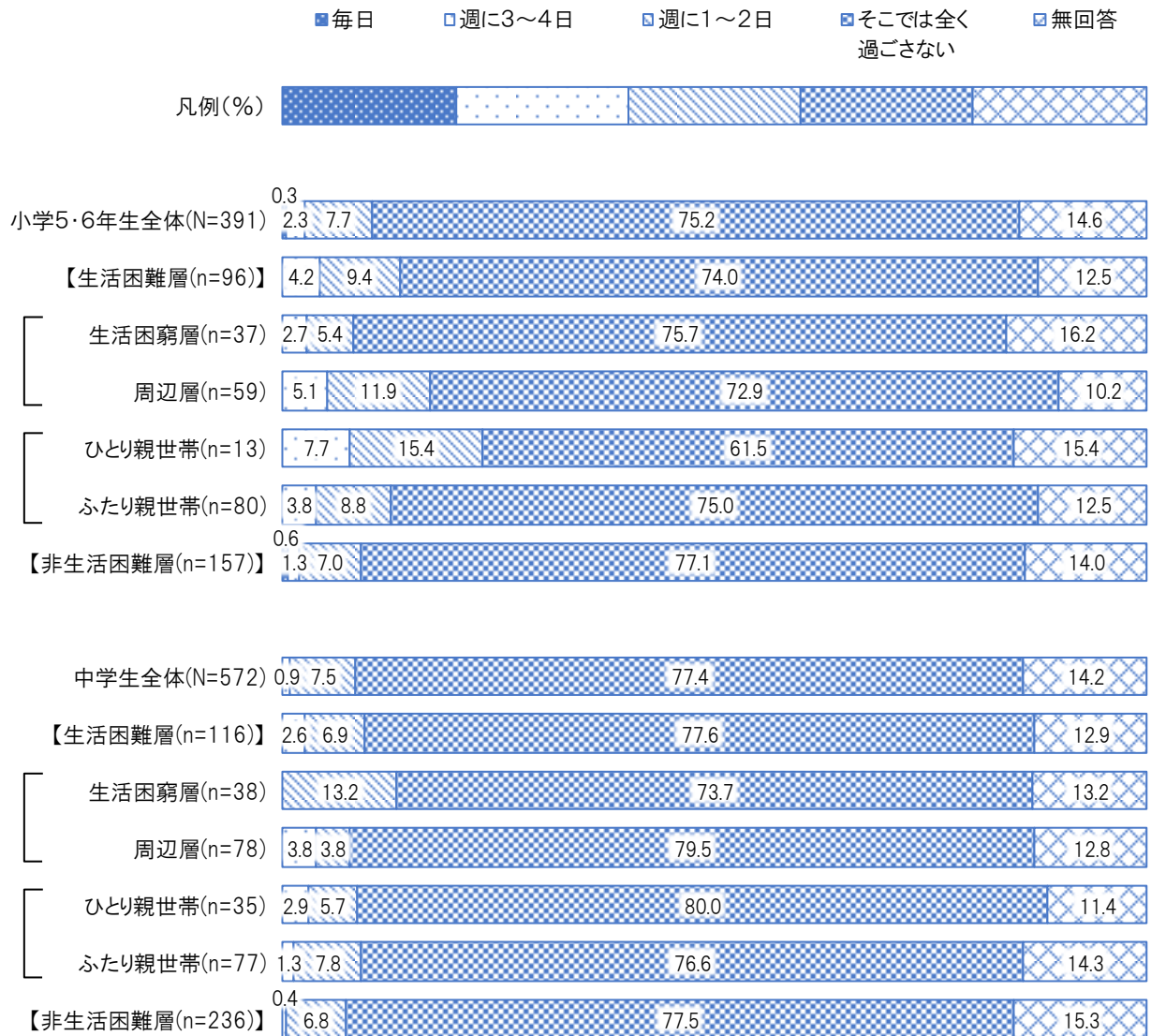
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のひとり親世帯で「週に1～2日」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



I 商店街やショッピングモール

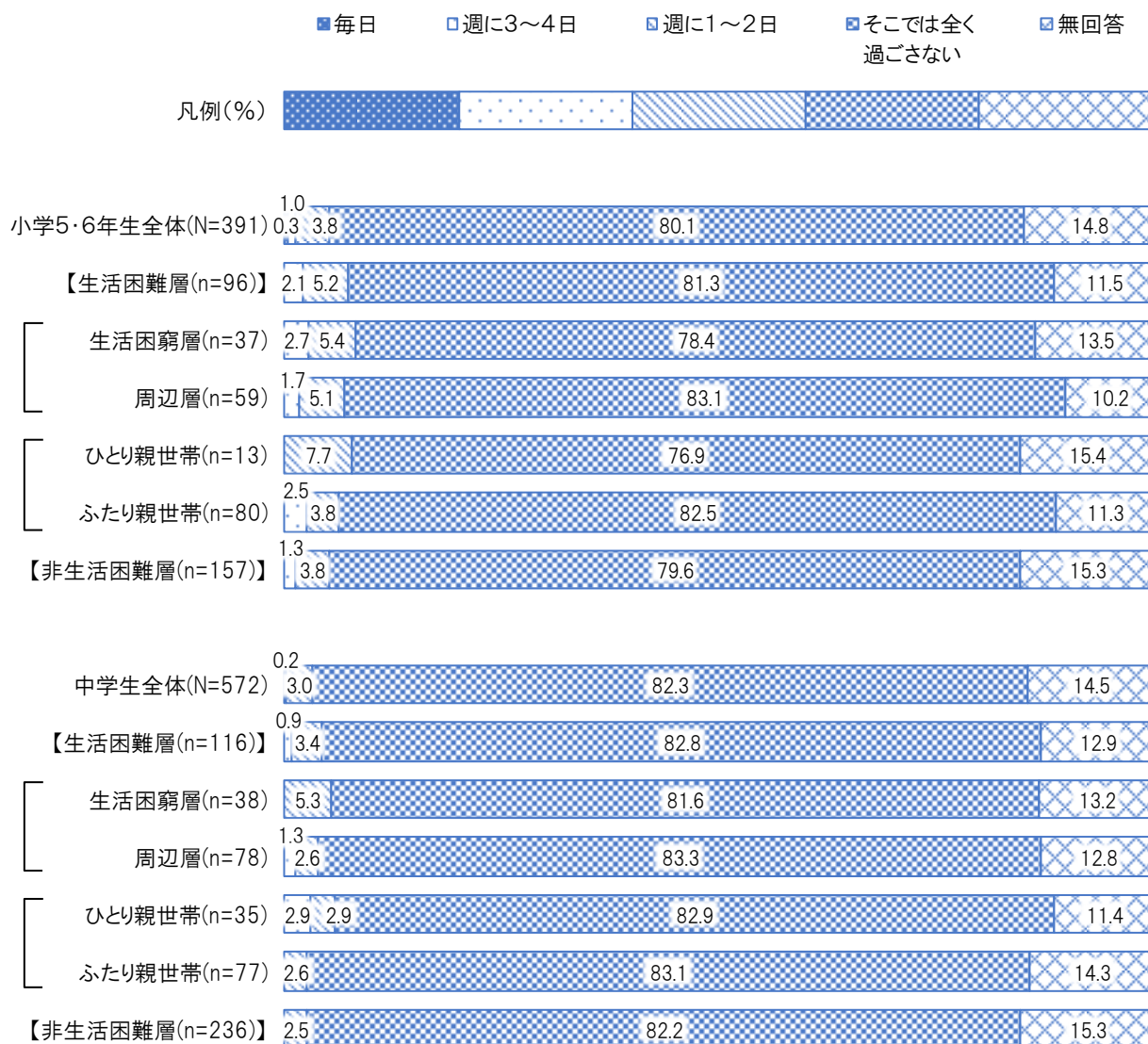
商店街やショッピングモールについて「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で75.7%、周辺層で72.9%、中学生では、生活困窮層で73.7%、周辺層で79.5%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「週に1～2日」の割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。



J ゲームセンター

ゲームセンターについて「そこでは全く過ごさない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で78.4%、周辺層で83.1%、中学生では、生活困窮層で81.6%、周辺層で83.3%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。



(3) 放課後児童クラブ・部活動への参加状況

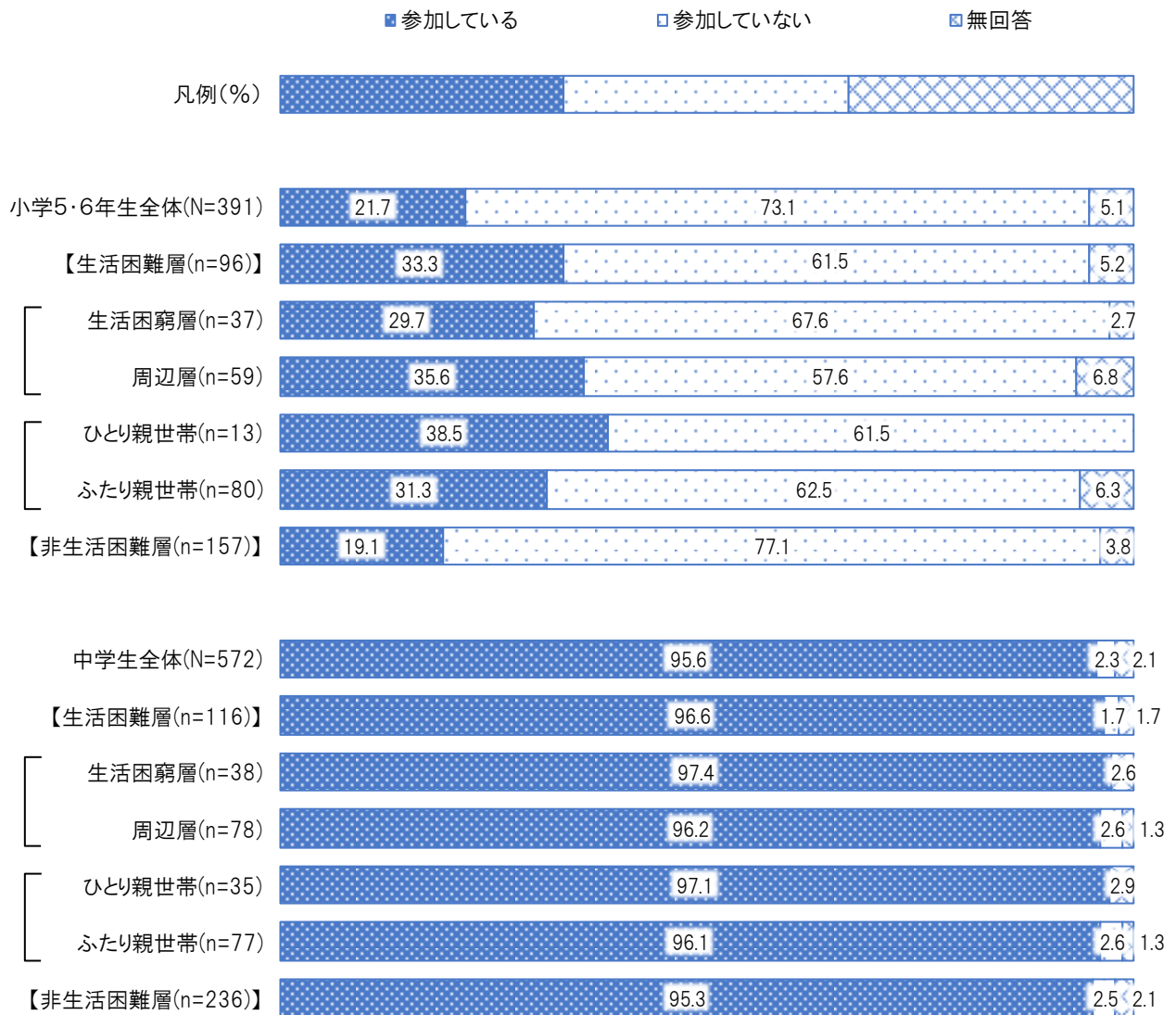
子／問 11 あなたは、学校の部活動※に参加していますか。（あてはまる番号1つに○）

※小学生票では「放課後児童クラブや放課後子供教室(以下「放課後児童クラブなど）」

放課後児童クラブへの参加状況については、小学5・6年生全体では「参加している」割合が21.7%、部活動への参加状況について中学生全体では95.6%となっている。一方、「参加していない」割合は、小学5・6年生全体では73.1%、中学生全体では2.3%となっている。

生活困難度別にみた「参加している」割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、周辺層で35.6%となっており、生活困窮層でやや低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「参加している」割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



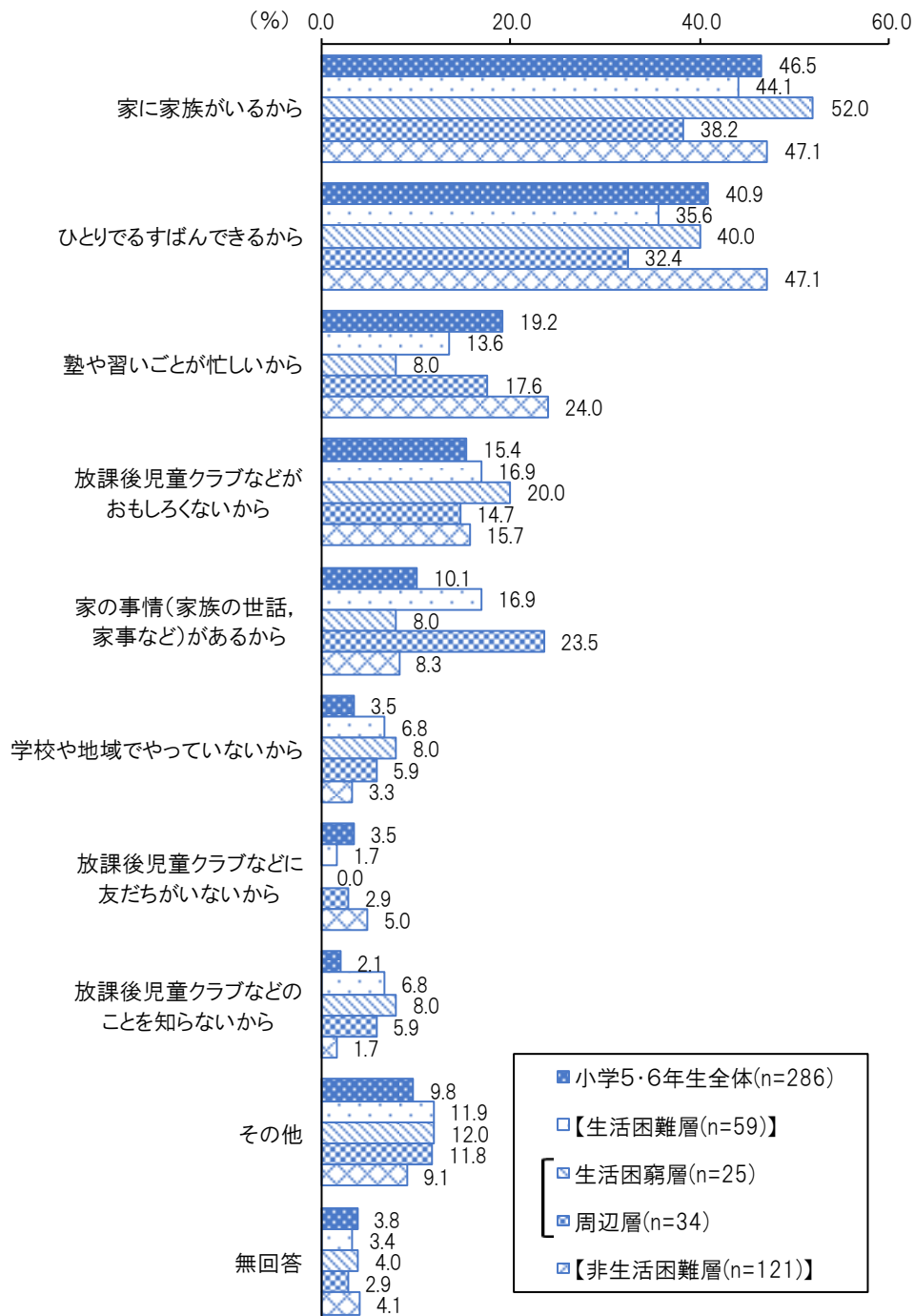
(4) 放課後児童クラブ・部活動に参加していない理由

【学校の部活動※に「2参加していない」と答えた人におききします。】
 子／問 11-1 参加しない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

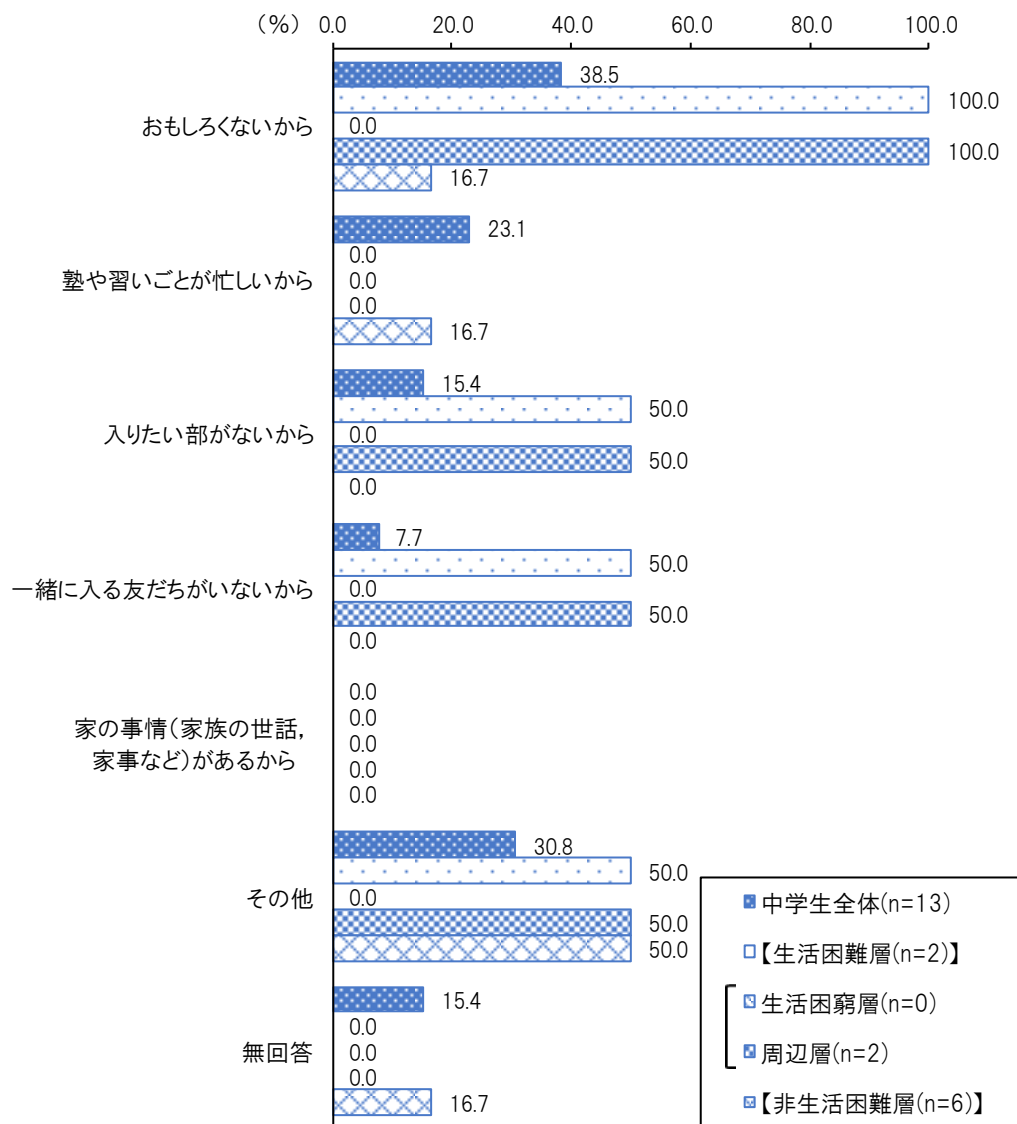
※小学生票では「放課後児童クラブなど」

放課後児童クラブに参加していない理由について、小学5・6年生全体では「家に家族がいるから」が46.5%と最も高く、次いで「ひとりですばんでできるから」(40.9%)、「塾や習いごとが忙しいから」(19.2%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「家に家族がいるから」の割合が高く、「塾や習いごとが忙しいから」などの割合が他の層に比べて低くなっている。



部活動に参加していない理由について、中学生全体では、「おもしろくないから」が38.5%と最も高く、次いで「塾や習いごとが忙しいから」(23.1%)の順となっている。



注:生活困難度別については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

【4】休日の過ごし方

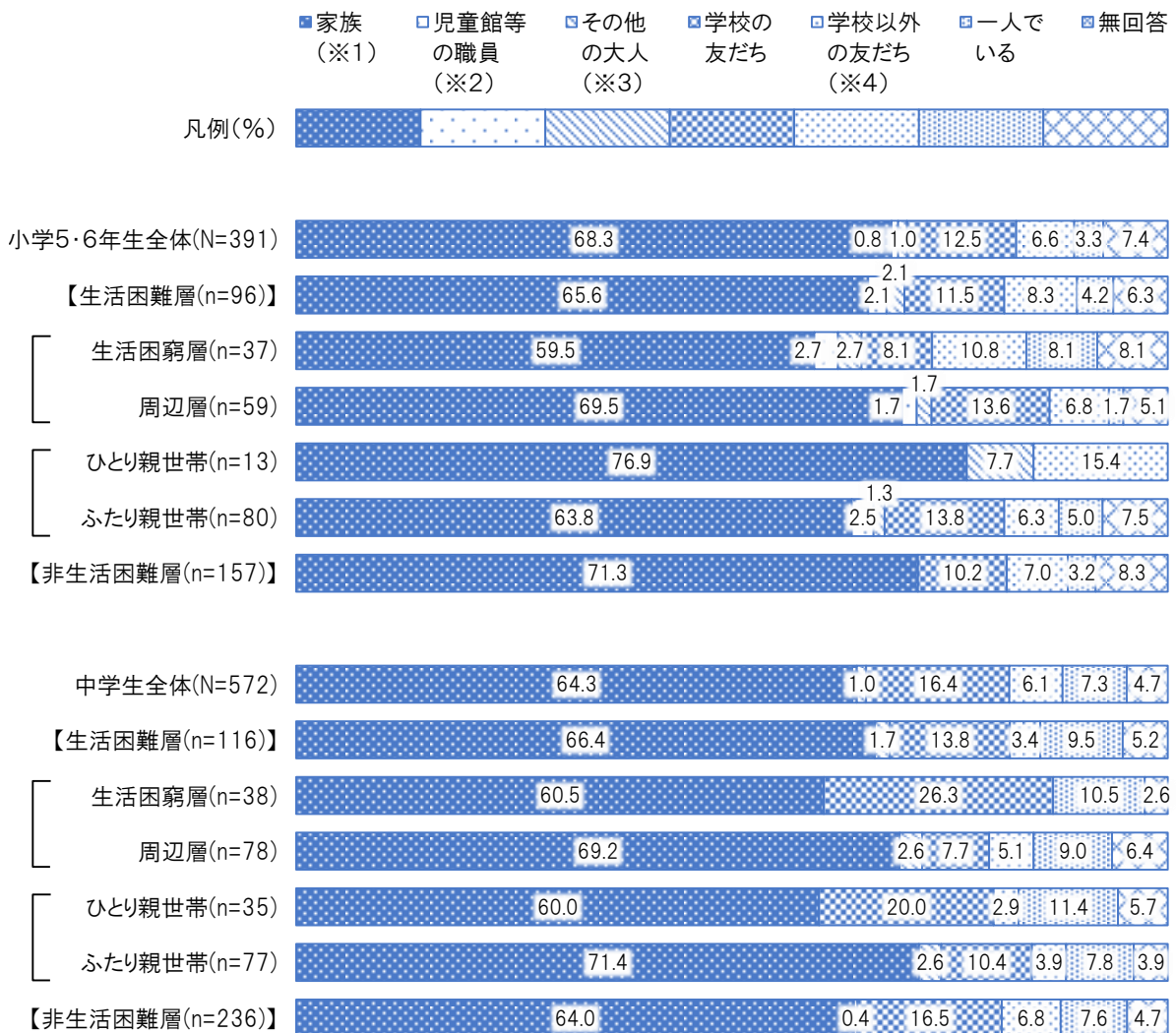
(1) 休日の午後を一緒に過ごす人

子／問 12 あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

休日の午後を一緒に過ごす人については、「家族」が小学5・6年生全体で68.3%、中学生全体で64.3%となっており、「学校の友だち」が小学5・6年生全体で12.5%、中学生全体で16.4%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困窮層で「家族」の割合が59.5%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。また、中学生の生活困窮層で「学校の友だち」の割合が26.3%となっており、周辺層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「学校以外の友だち」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



※1:家族(祖父母, 親せきなども含む)

※2:小学生票では「放課後児童クラブ, その他の施設の先生」

中学生票では「児童館・公民館やその他の施設(放課後等デイサービス含む)の職員」

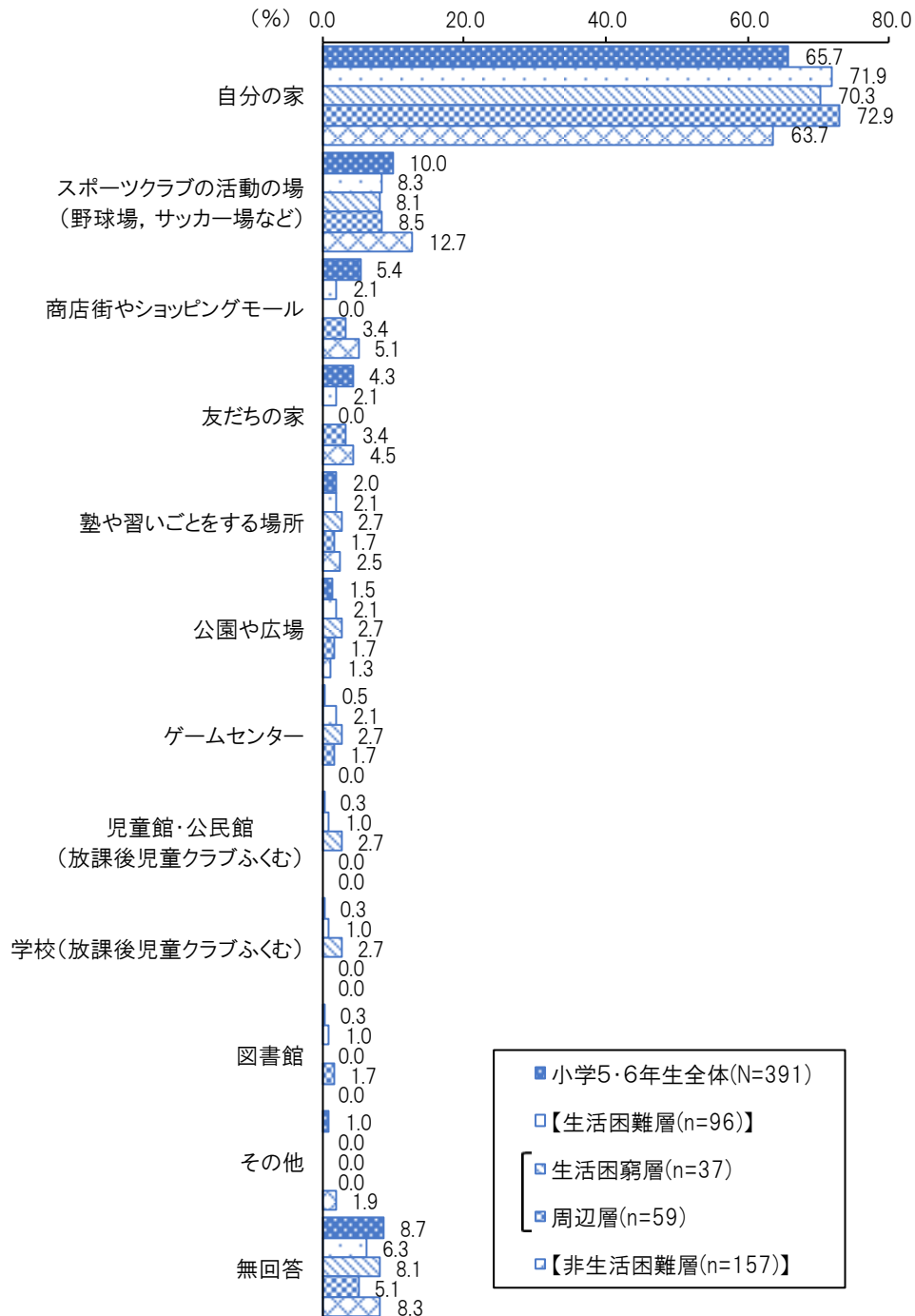
※3:その他の大人(近所の大人, 塾や習いごとの先生など)

※4:学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ, 近所の友だちなど)

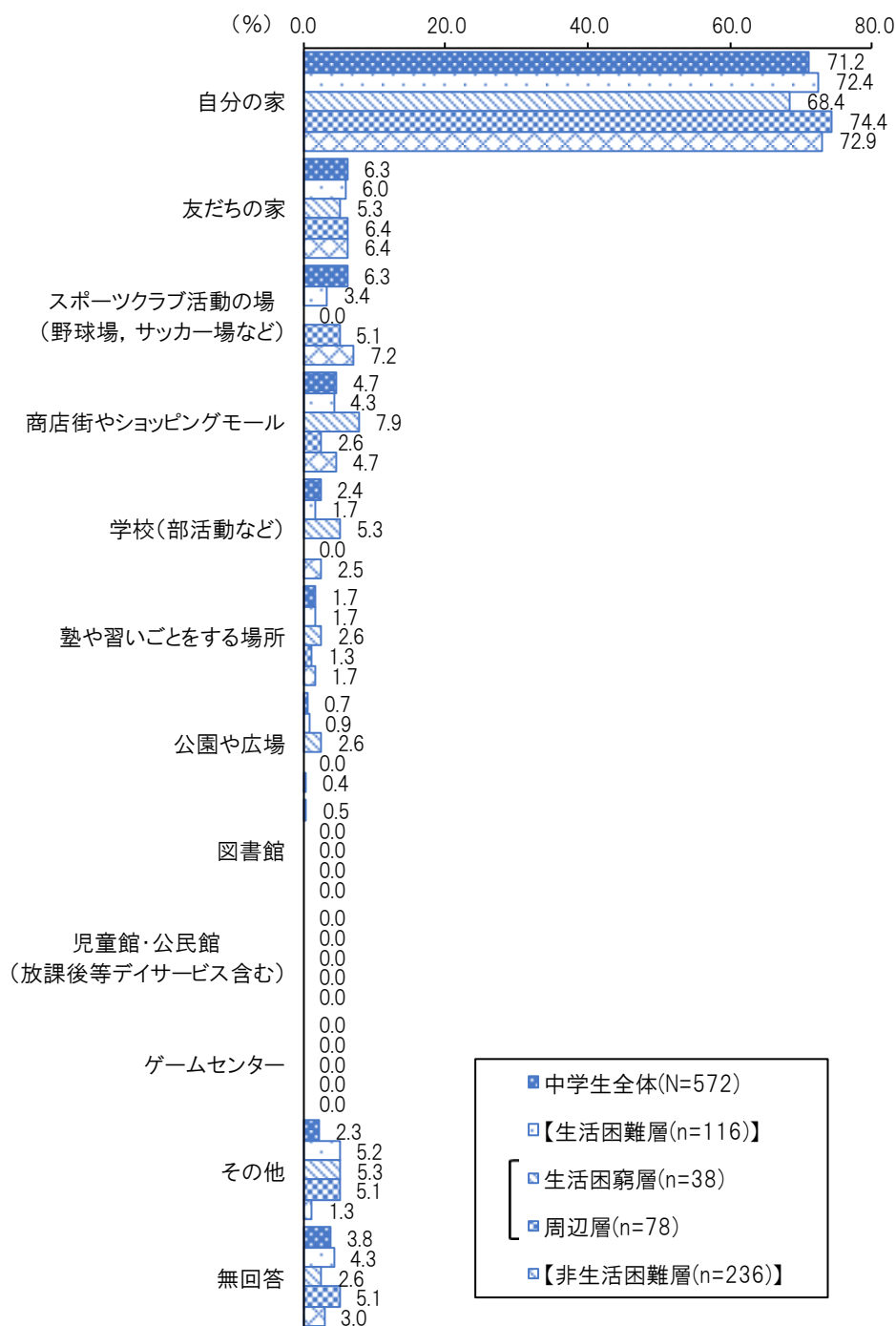
(2) 休日の午後を過ごす場所

子／問 13 あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後は、どこで過ごしますか。一番多く過ごす場所に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

休日の午後を過ごす場所について、小学5・6年生全体では「自分の家」が65.7%と突出して最も高く、次いで「スポーツクラブの活動の場（野球場，サッカー場など）」（10.0%），「商店街やショッピングモール」（5.4%）の順となっている。



中学生全体では、「自分の家」が71.2%と突出して最も高く、次いで「友だちの家」「スポーツクラブの活動の場（野球場，サッカー場など）」（各6.3%）の順となっている。



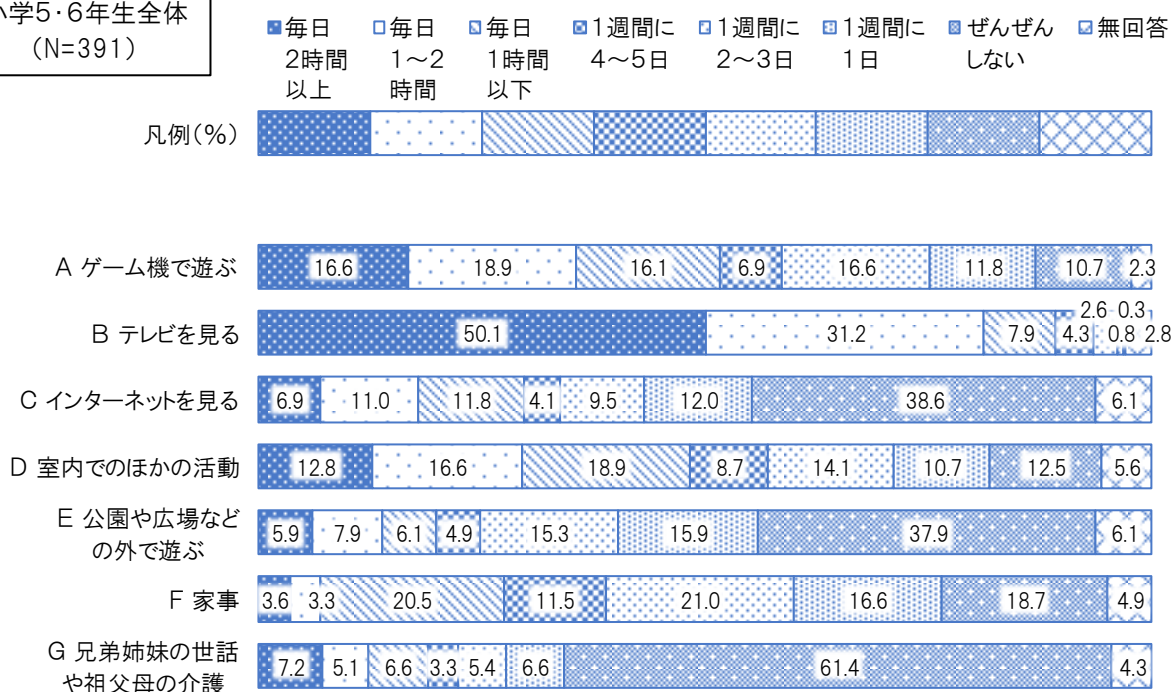
【5】活動の状況

(1) 活動の状況

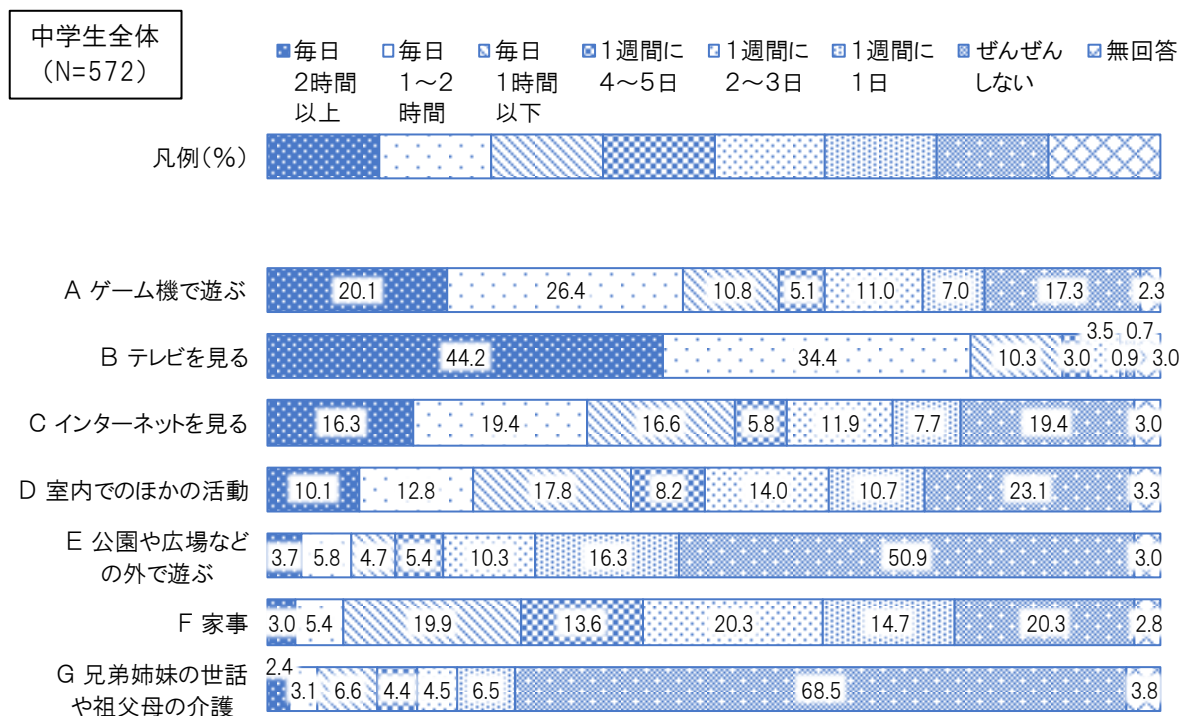
子／問 14 あなたは、次の活動を、ふだんどれくらいしますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

活動の状況については、小学5・6年生全体では「毎日2時間以上」の割合が高い順に「B テレビを見る」(50.1%)、「A ゲーム機で遊ぶ」(16.6%)、「D 室内でのほかの活動」(12.8%)となっている。また、「ぜんぜんしない」では「G 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護」(61.4%)、「C インターネットを見る」(38.6%)、「E 公園や広場などの外で遊ぶ」(37.9%)などがあげられる。

小学5・6年生全体
(N=391)



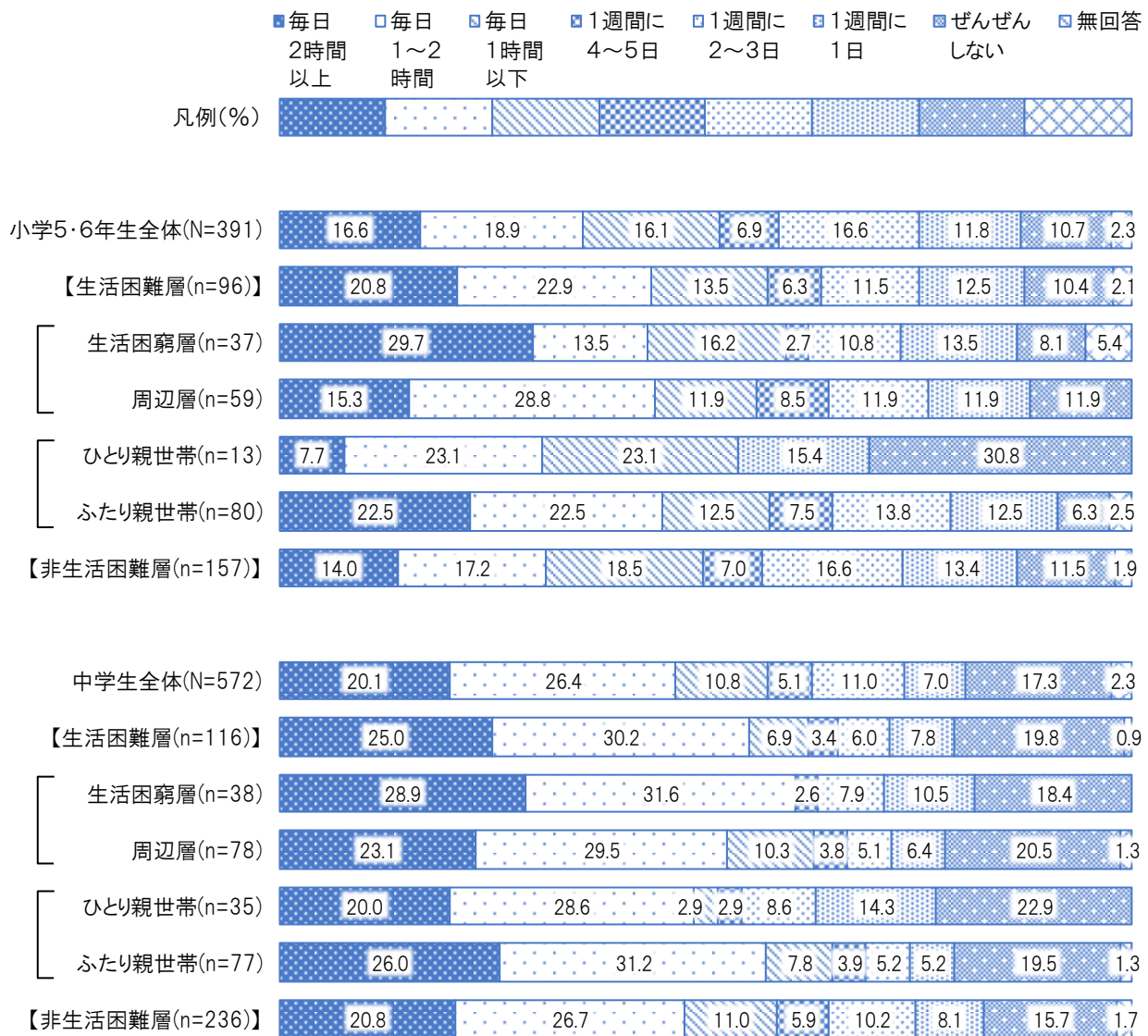
中学生全体では、「毎日2時間以上」の割合が高い順に「B テレビを見る」(44.2%)、「A ゲーム機で遊ぶ」(20.1%)、「C インターネットを見る」(16.3%)となっている。また、「ぜんぜんしない」では「G 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護」(68.5%)、「E 公園や広場などの外で遊ぶ」(50.9%)などがあげられる。



A ゲーム機で遊ぶ

ゲーム機で遊ぶことについて「毎日2時間以上」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、周辺層で15.3%、中学生では、生活困窮層で28.9%、周辺層で23.1%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

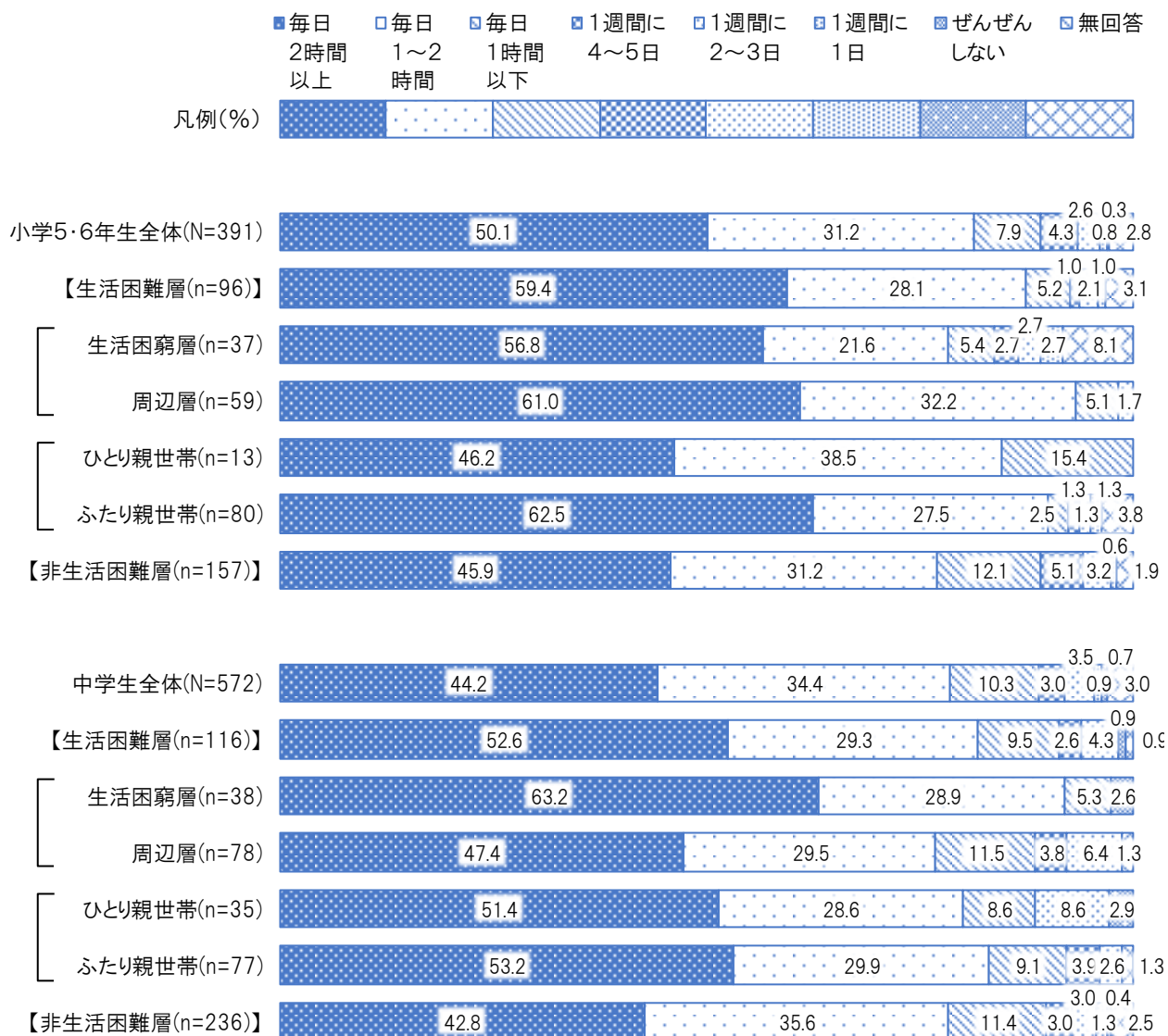
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ぜんぜんしない」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



B テレビを見る

テレビを見ることについて「毎日2時間以上」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で56.8%、周辺層で61.0%となっている。中学生では、生活困窮層で63.2%、周辺層で47.4%となっており、生活困窮層で高くなっている。

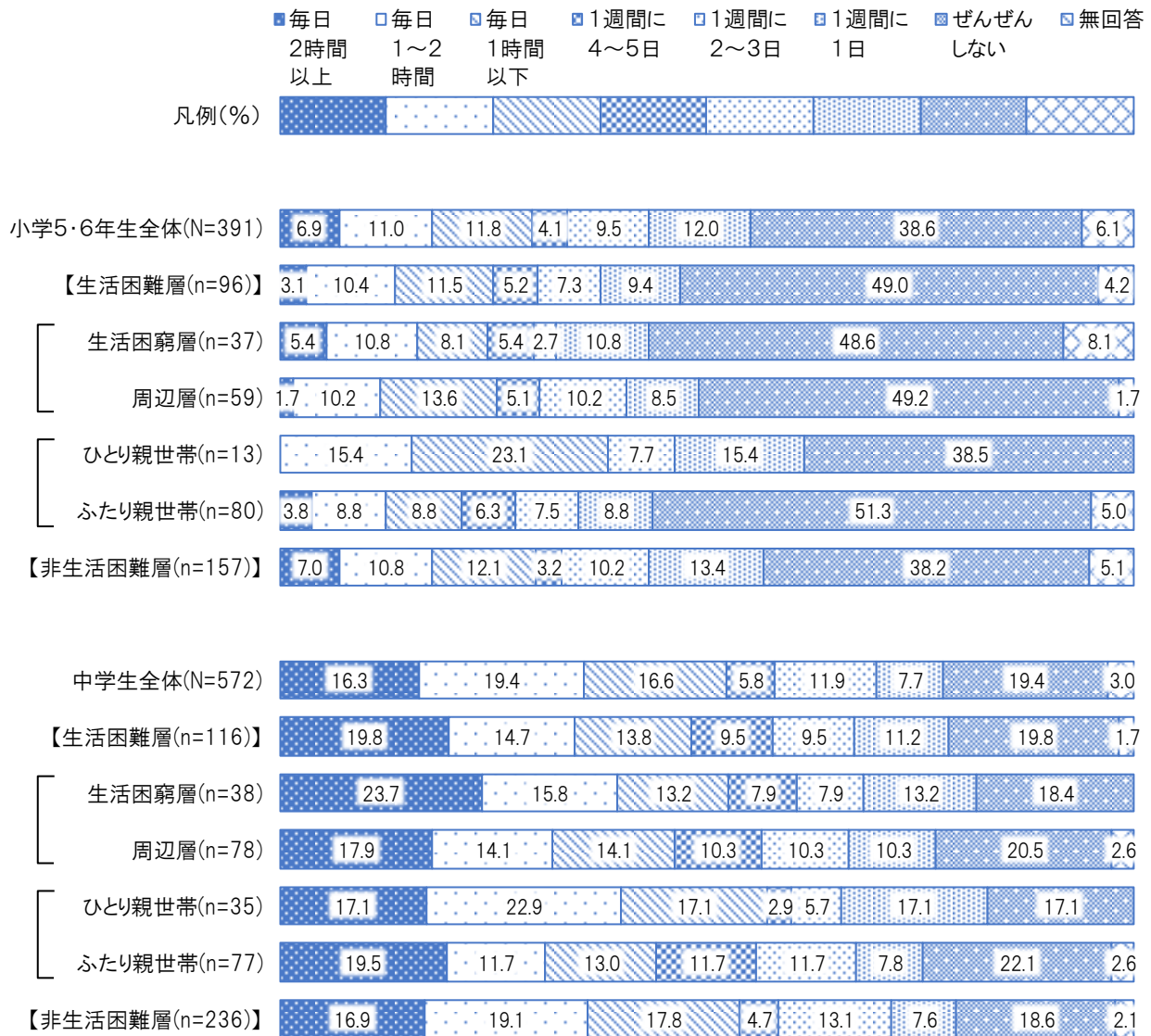
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「毎日2時間以上」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C インターネットを見る

インターネットを見ることについて「ぜんぜんしない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%、周辺層で49.2%となっている。一方、中学生では、生活困窮層で「毎日2時間以上」の割合が23.7%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

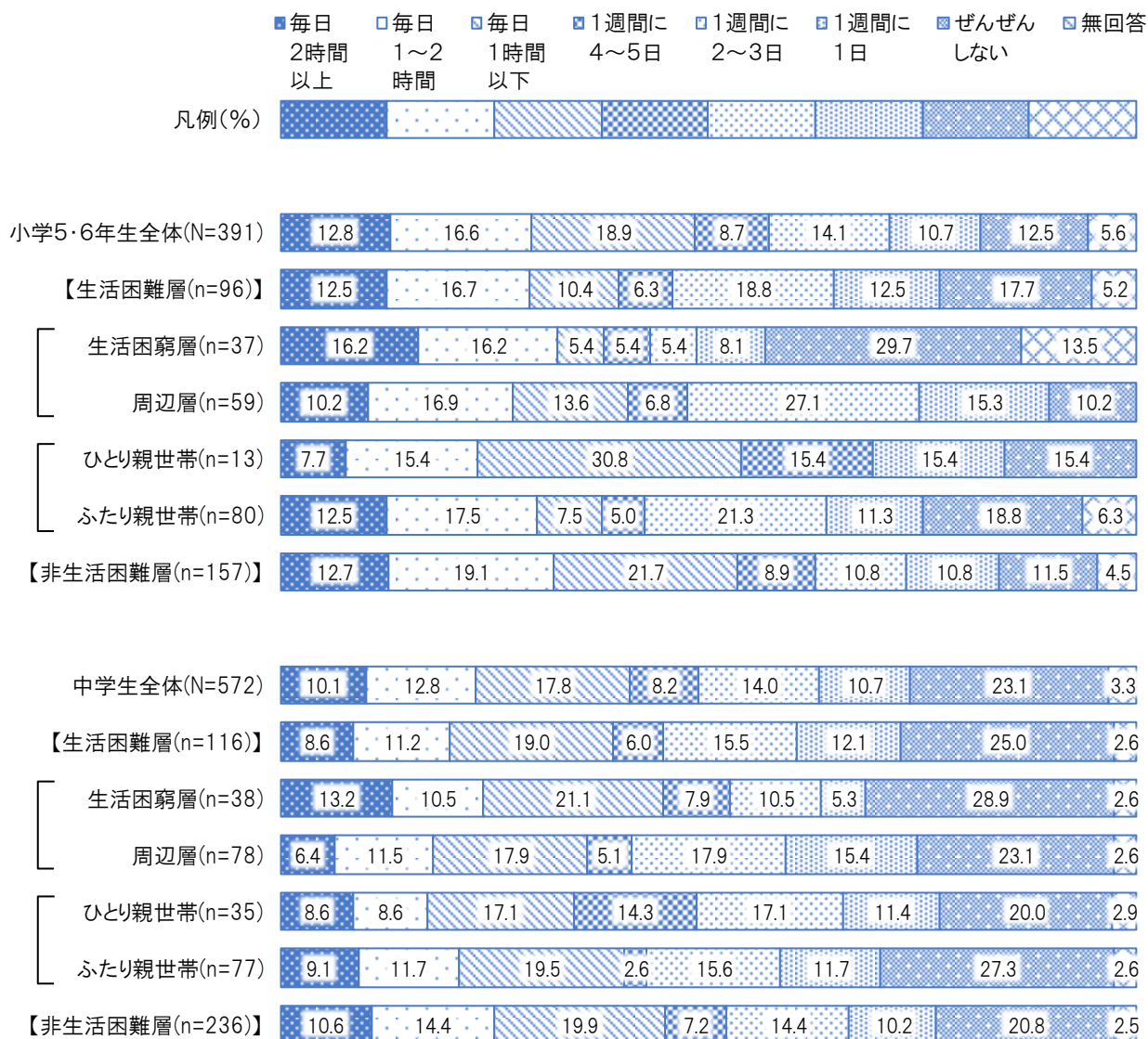
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「ぜんぜんしない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



D 室内でのほかの活動

室内でのほかの活動について、小学5・6年生の生活困窮層で「ぜんぜんしない」の割合が29.7%となっており、非生活困難層を大きく上回っている。

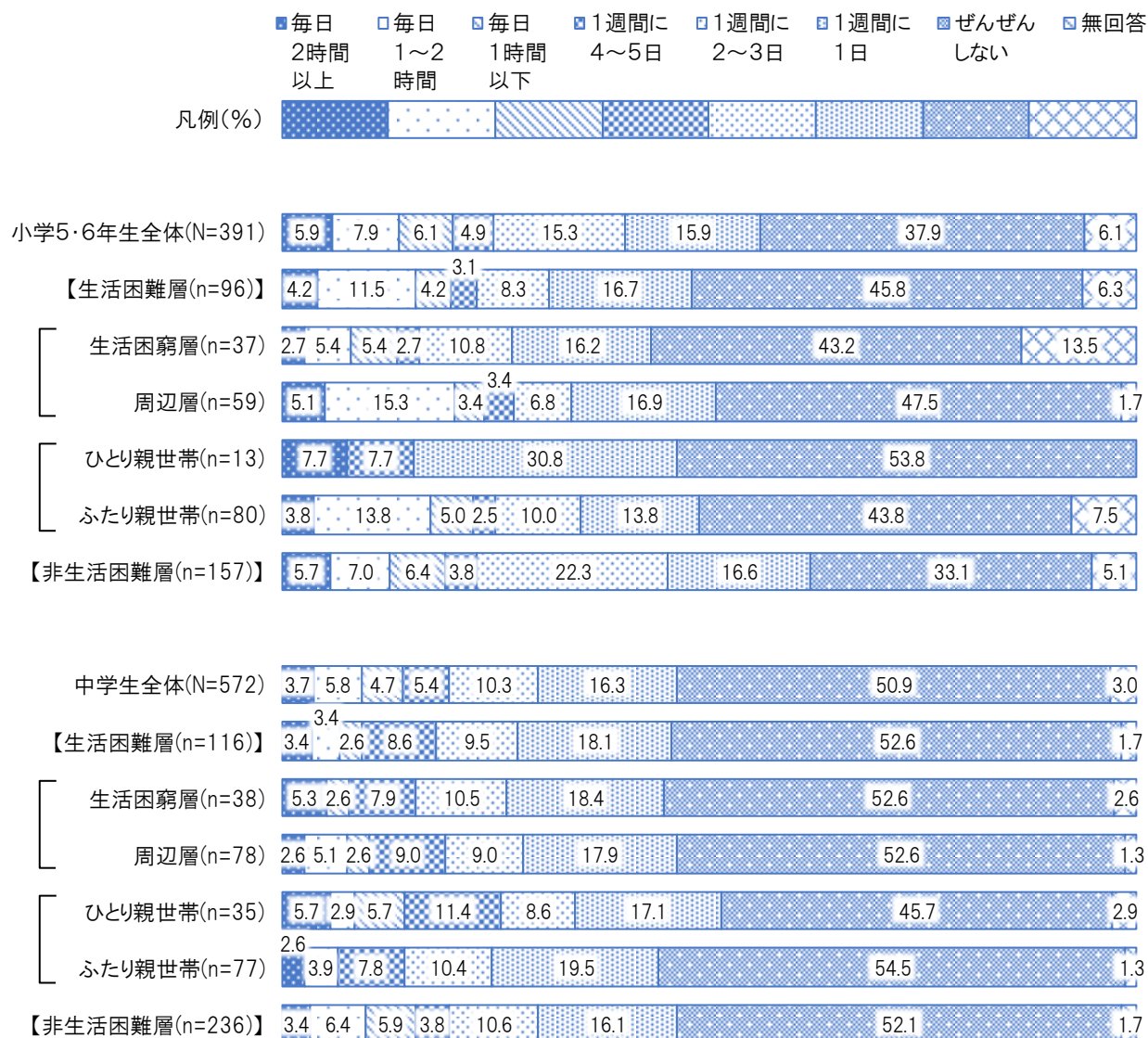
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日1時間以下」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生のふたり親世帯で「ぜんぜんしない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



E 公園や広場などの外で遊ぶ

公園や広場などの外で遊ぶことについて、小学5・6年生の周辺層で「毎日1～2時間」が15.3%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。

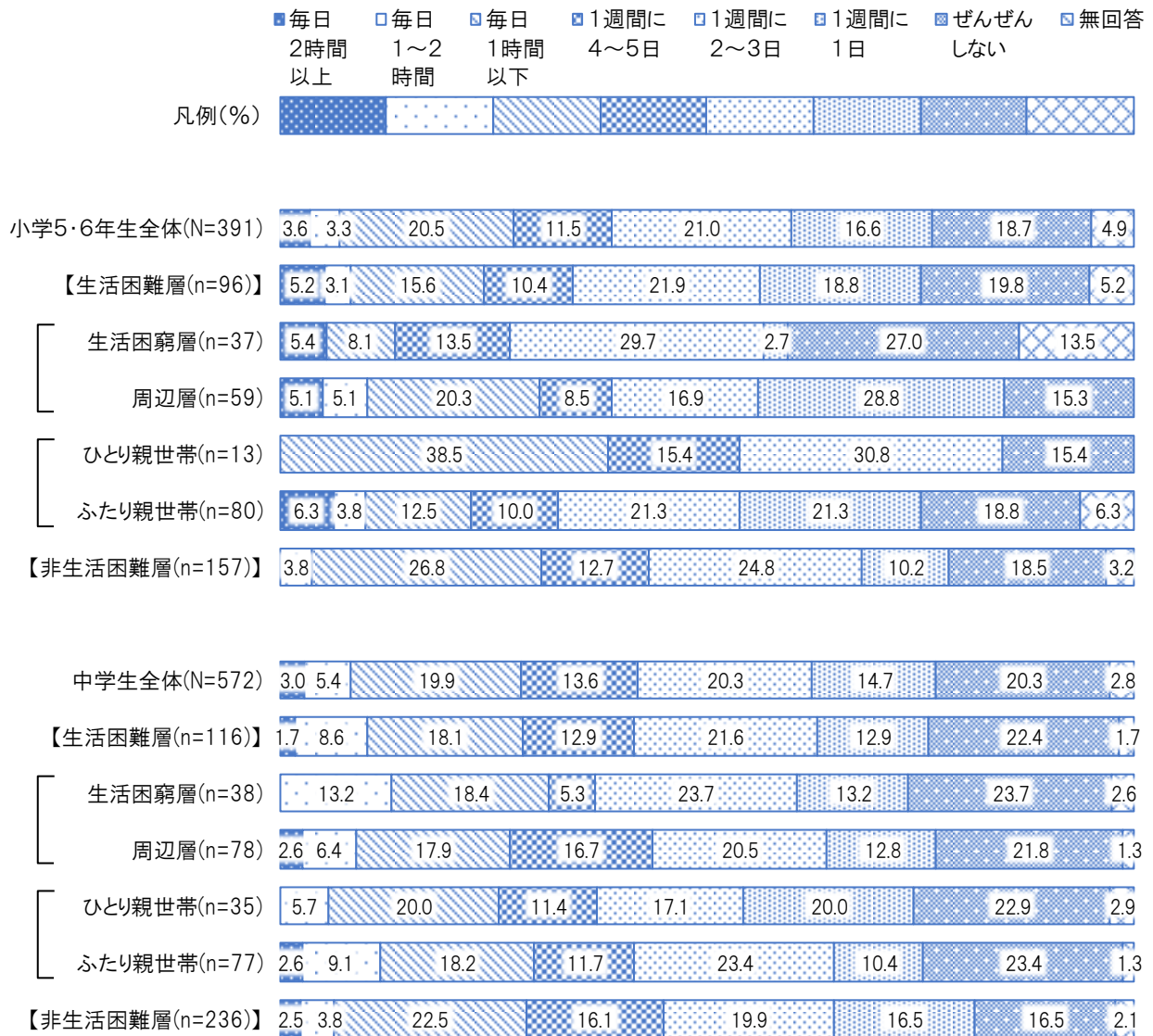
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「1週間に1日」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F 家事

家事について、小学5・6年生の生活困窮層で「ぜんぜんしない」の割合が27.0%となっており、周辺層を大きく上回っている。小学5・6年生の周辺層では「毎日1時間以下」(20.3%)、「1週間に1日」(28.8%)の割合が生活困窮層に比べて高くなっている。

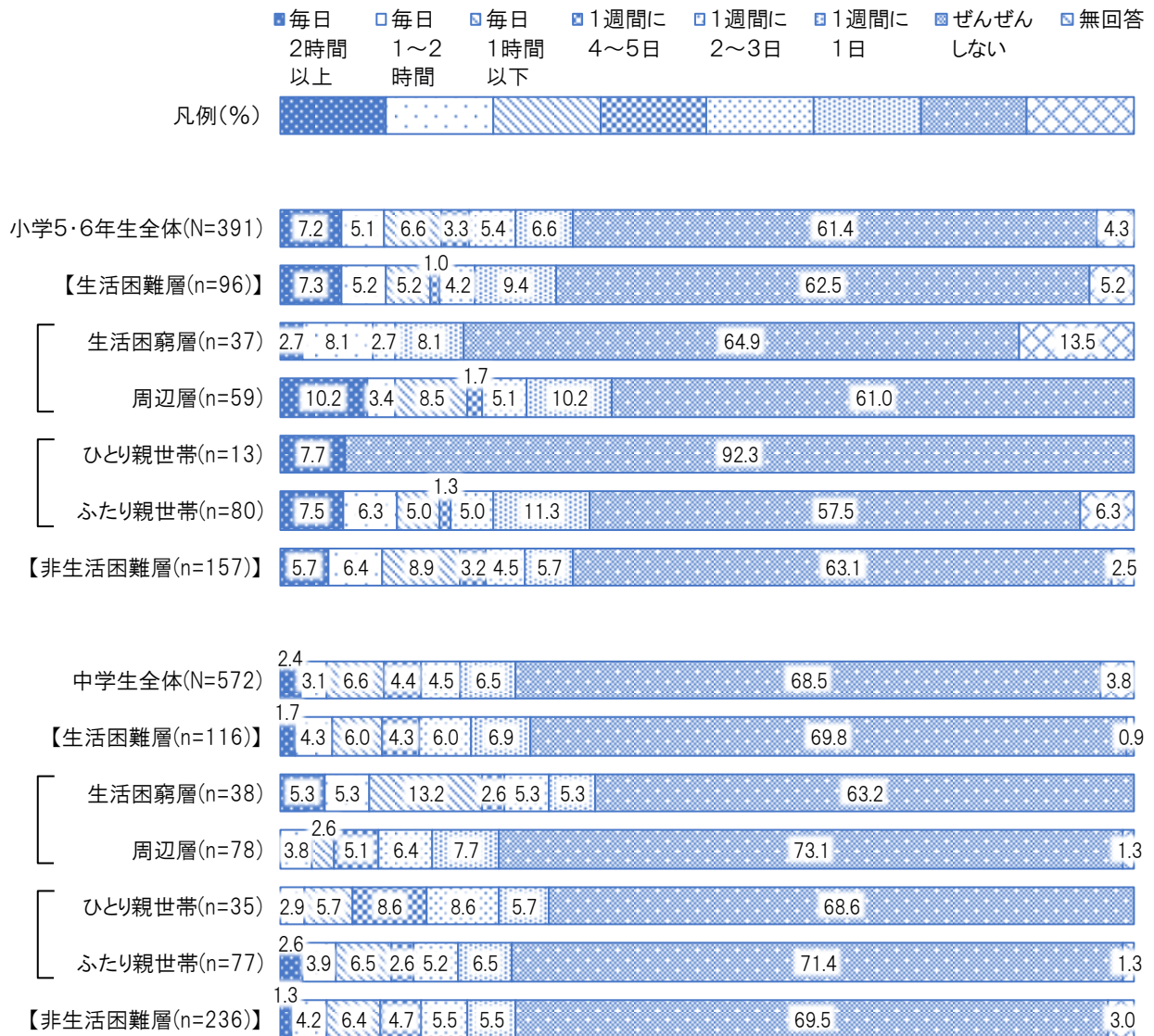
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「毎日1時間以下」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



G 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護

兄弟姉妹の世話や祖父母の介護について「ぜんぜんしない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で64.9%、周辺層で61.0%となっている。中学生で「ぜんぜんしない」の割合は、生活困窮層で63.2%、周辺層で73.1%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ぜんぜんしない」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



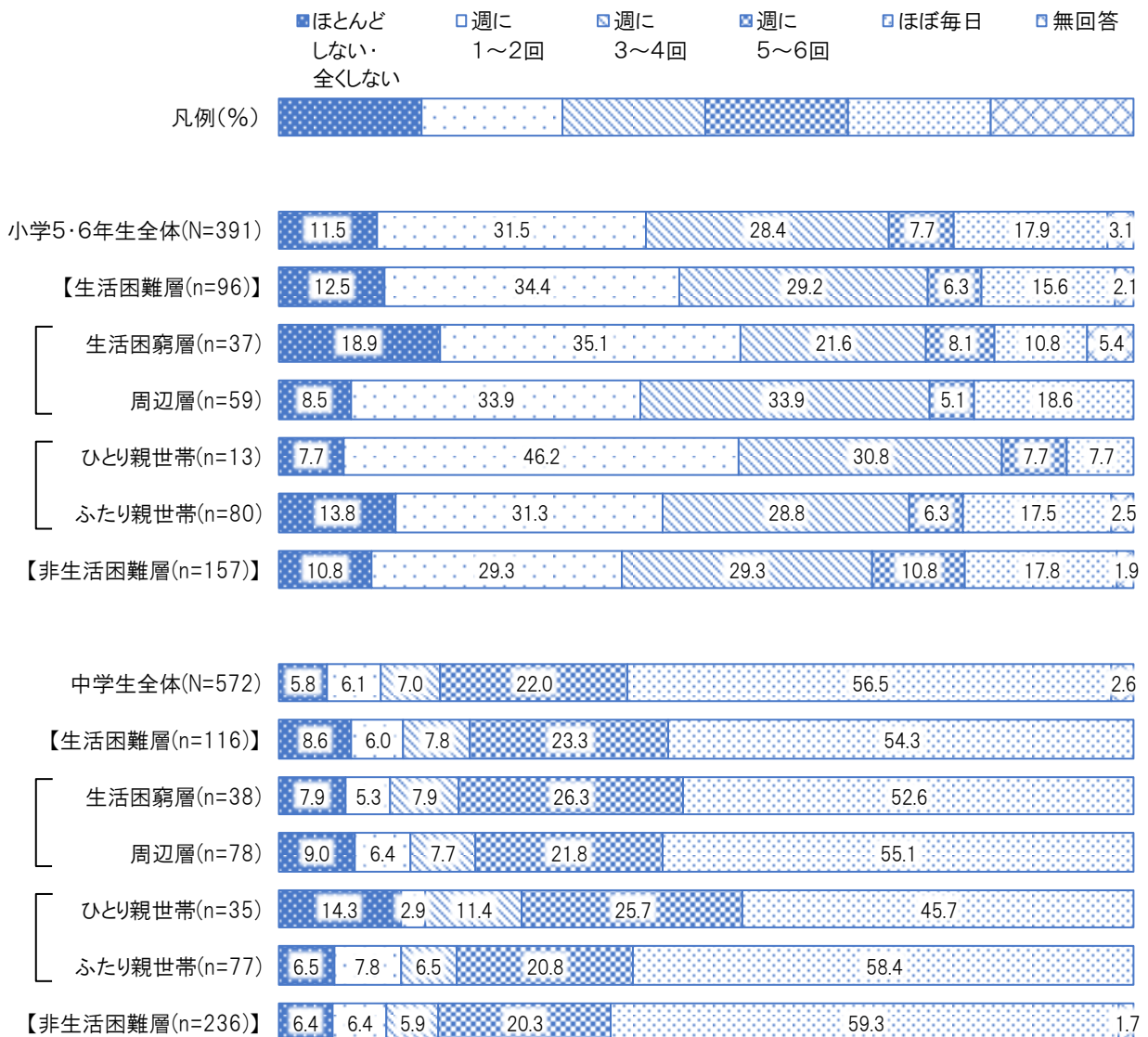
(2) 運動の状況

子／問 15 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習いごとを、1週間でどれくらいしますか。(あてはまる番号1つに○)
 ※例：ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳など。部活動を含みます。

運動の状況については、「ほぼ毎日」が小学5・6年生全体で17.9%、中学生全体で56.5%となっており、「ほとんどしない・全くしない」は小学5・6年生全体で11.5%、中学生全体で5.8%となっている。

生活困難度別にみた「ほとんどしない・全くしない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で8.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「ほぼ毎日」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



(3) 読書の状況

子／問 16 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。

(あてはまる番号1つに○)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

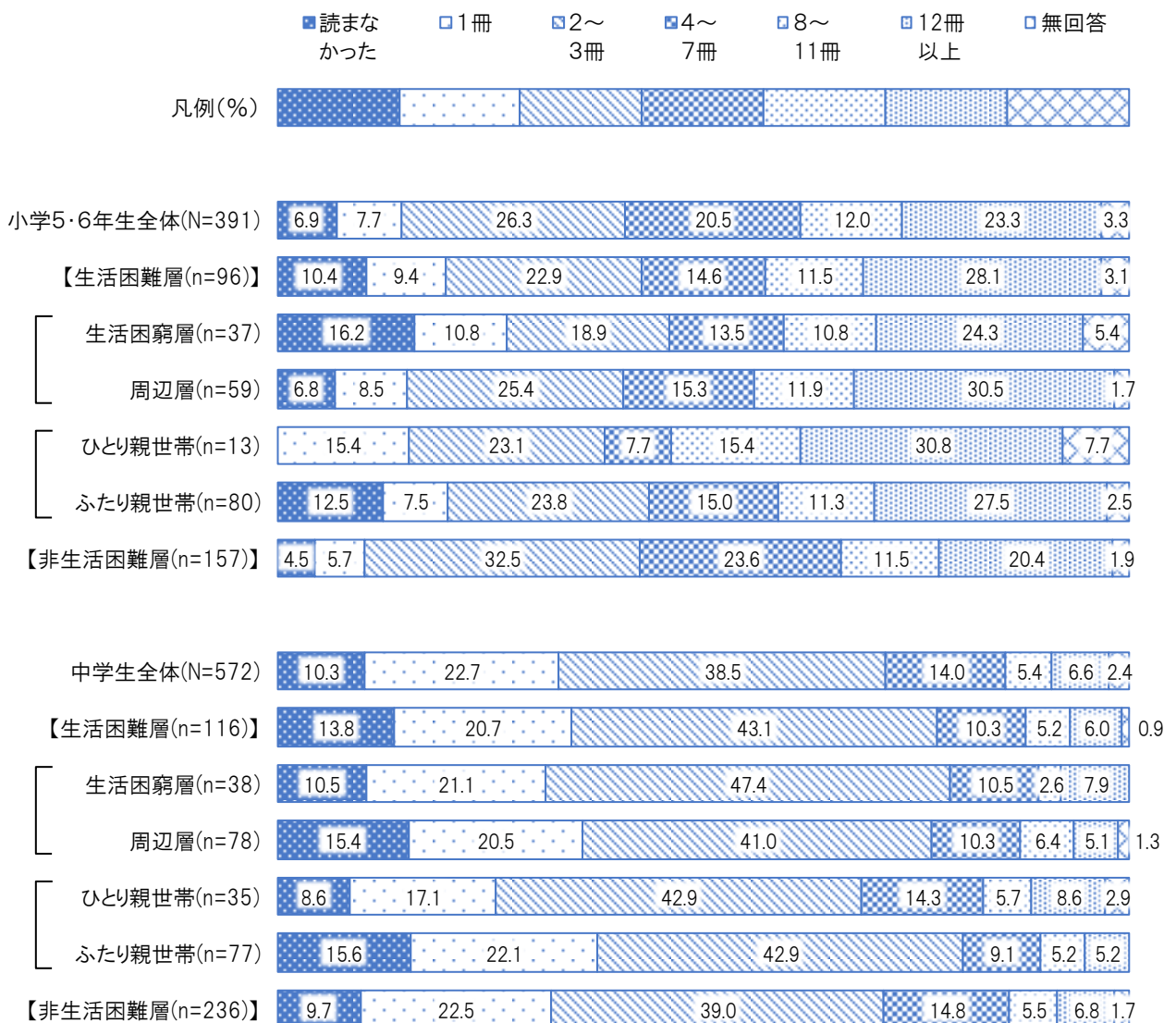
※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容に関わらず、数に含めないでください。

読書の状況については、小学5・6年生全体では「2～3冊」が26.3%と最も高く、次いで「12冊以上」(23.3%)、「4～7冊」(20.5%)の順となっており、「読まなかった」は6.9%であった。中学生全体では「2～3冊」が38.5%と最も高く、次いで「1冊」(22.7%)が続いており、「読まなかった」は10.3%であった。

生活困難度別にみた「読まなかった」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で6.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

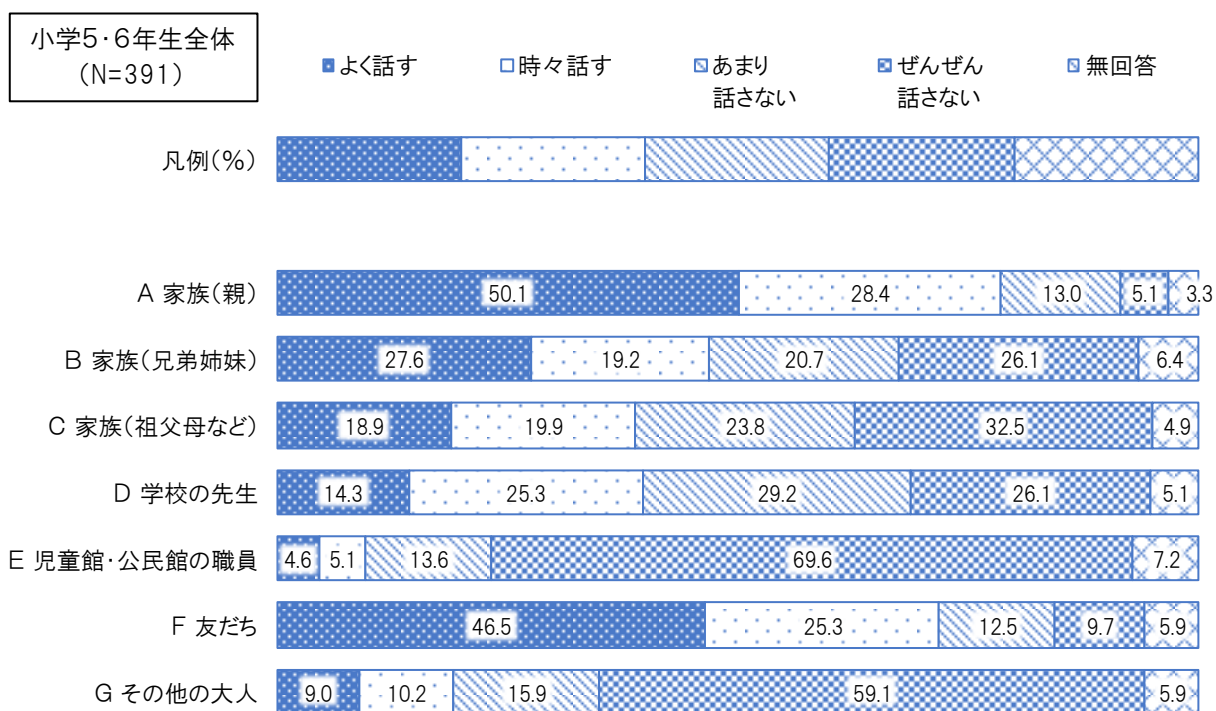
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにふたり親世帯で「読まなかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



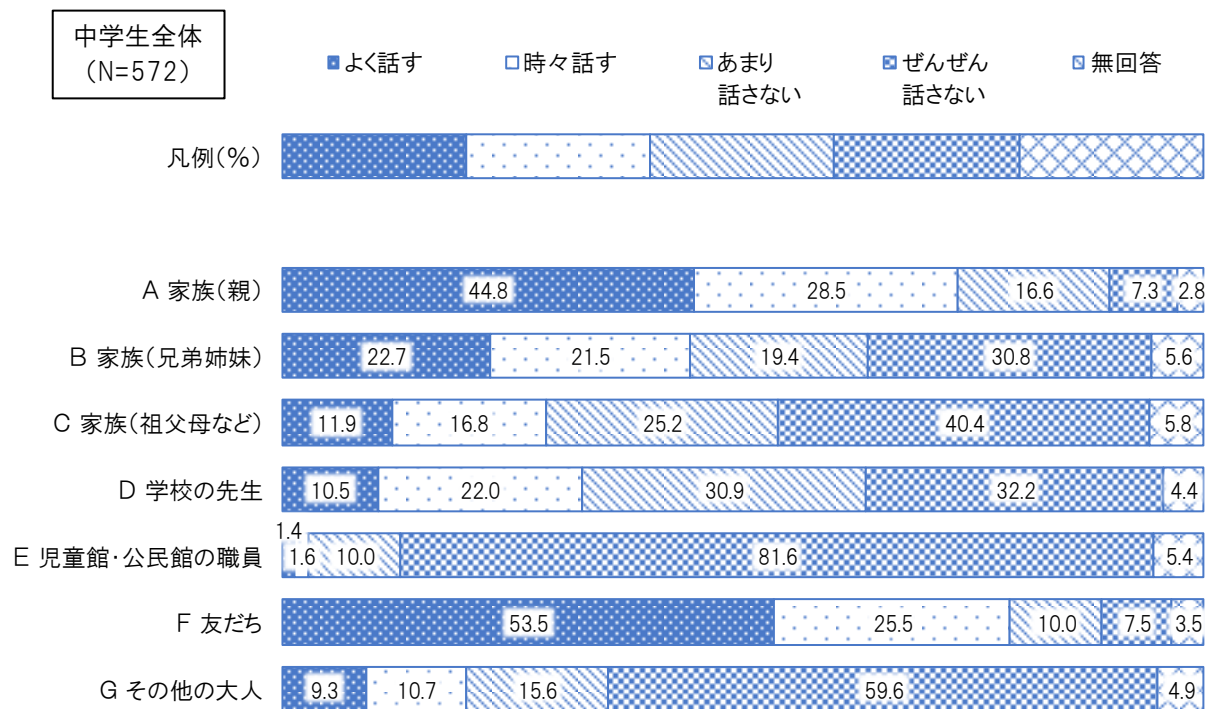
(4) 会話の状況

子／問 17 あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。「1 よく話す」から「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEなども含めて考えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

会話の状況について、小学5・6年生全体では「よく話す」割合が高い順に「A 家族（親）」（50.1%）、「F 友だち」（46.5%）、「B 家族（兄弟姉妹）」（27.6%）となっている。また、「ぜんぜん話さない」では「E 児童館・公民館の職員」（69.6%）、「G その他の大人」（59.1%）、「C 家族（祖父母など）」（32.5%）などがあげられる。



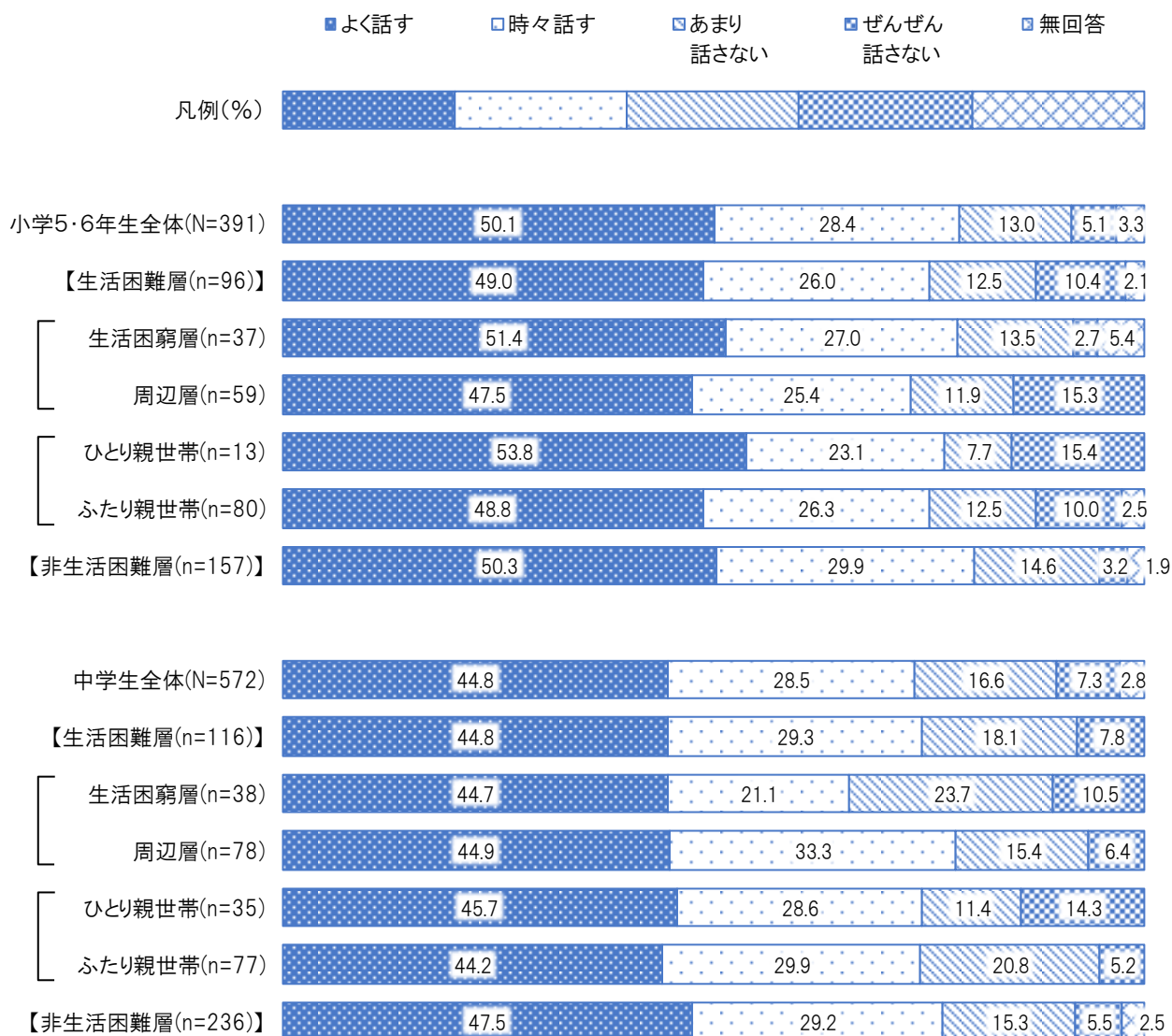
中学生全体では「よく話す」割合が高い順に「F 友だち」(53.5%),「A 家族(親)」(44.8%),「B 家族(兄弟姉妹)」(22.7%)となっている。また,「ぜんぜん話さない」では「E 児童館・公民館の職員」(81.6%),「G その他の大人」(59.6%),「C 家族(祖父母など)」(40.4%)などがあげられる。



A 家族（親）

家族（親）について、小学5・6年生で「ぜんぜん話さない」の割合は、生活困窮層で2.7%、周辺層で15.3%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生で「あまり話さない」の割合は、生活困窮層で23.7%、周辺層で15.4%となっており、生活困窮層で高くなっている。

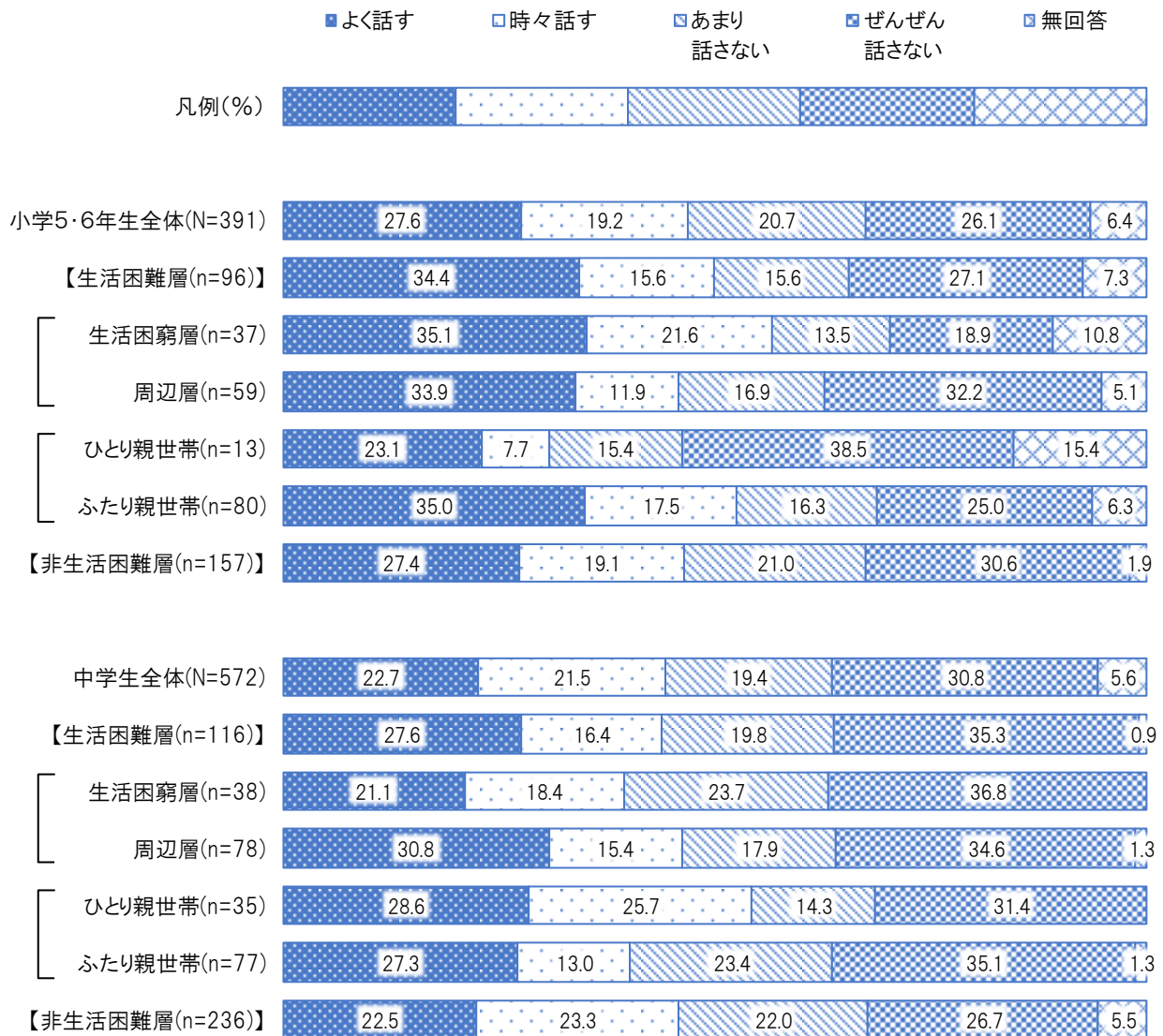
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「ぜんぜん話さない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 家族（兄弟姉妹）

家族（兄弟姉妹）について「ぜんぜん話さない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で32.2%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生で「よく話す」の割合は、生活困窮層で21.1%、周辺層で30.8%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

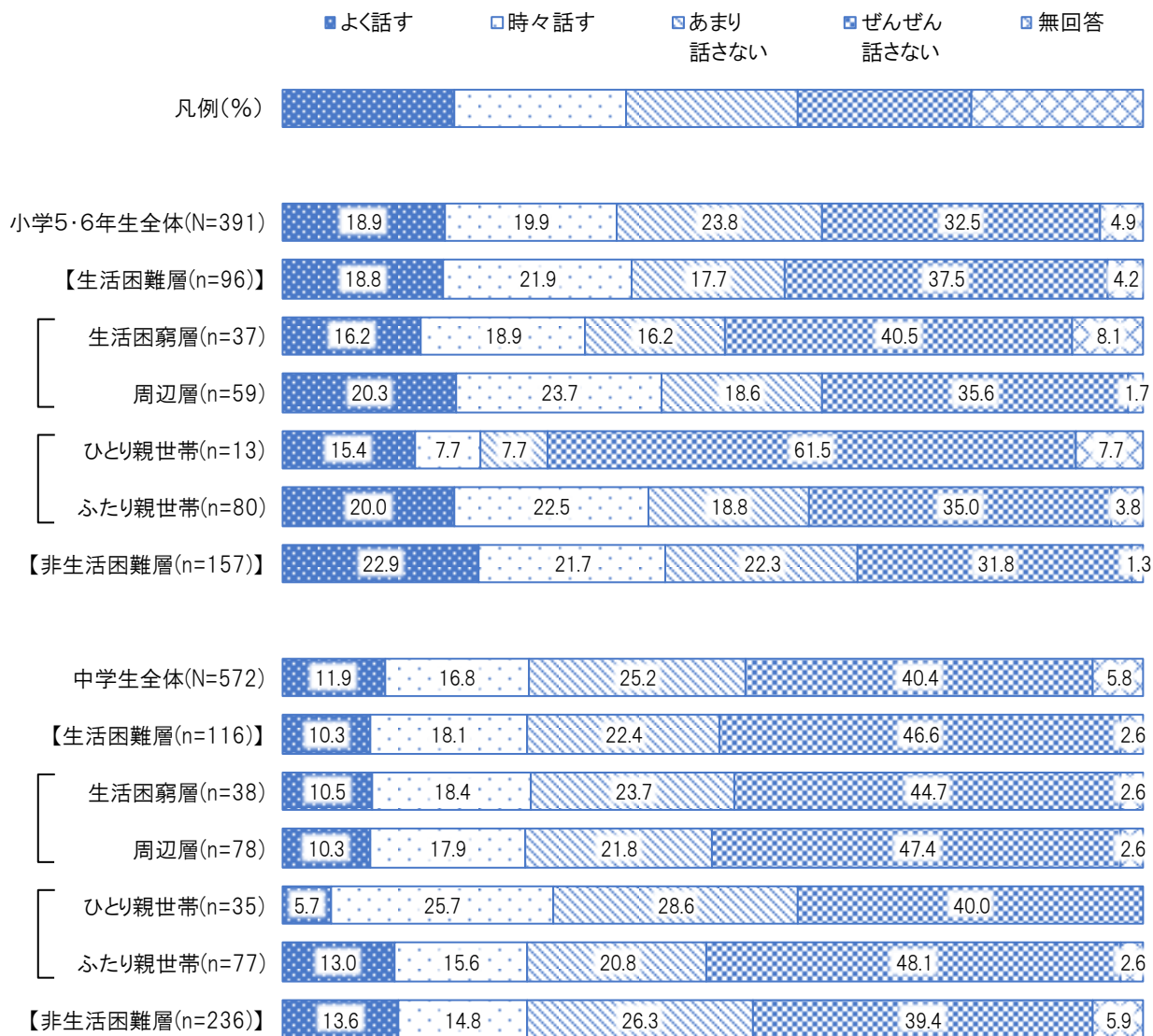
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ぜんぜん話さない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C 家族（祖父母など）

家族（祖父母など）について「よく話す」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で20.3%となっており、生活困窮層でやや低くなっている。

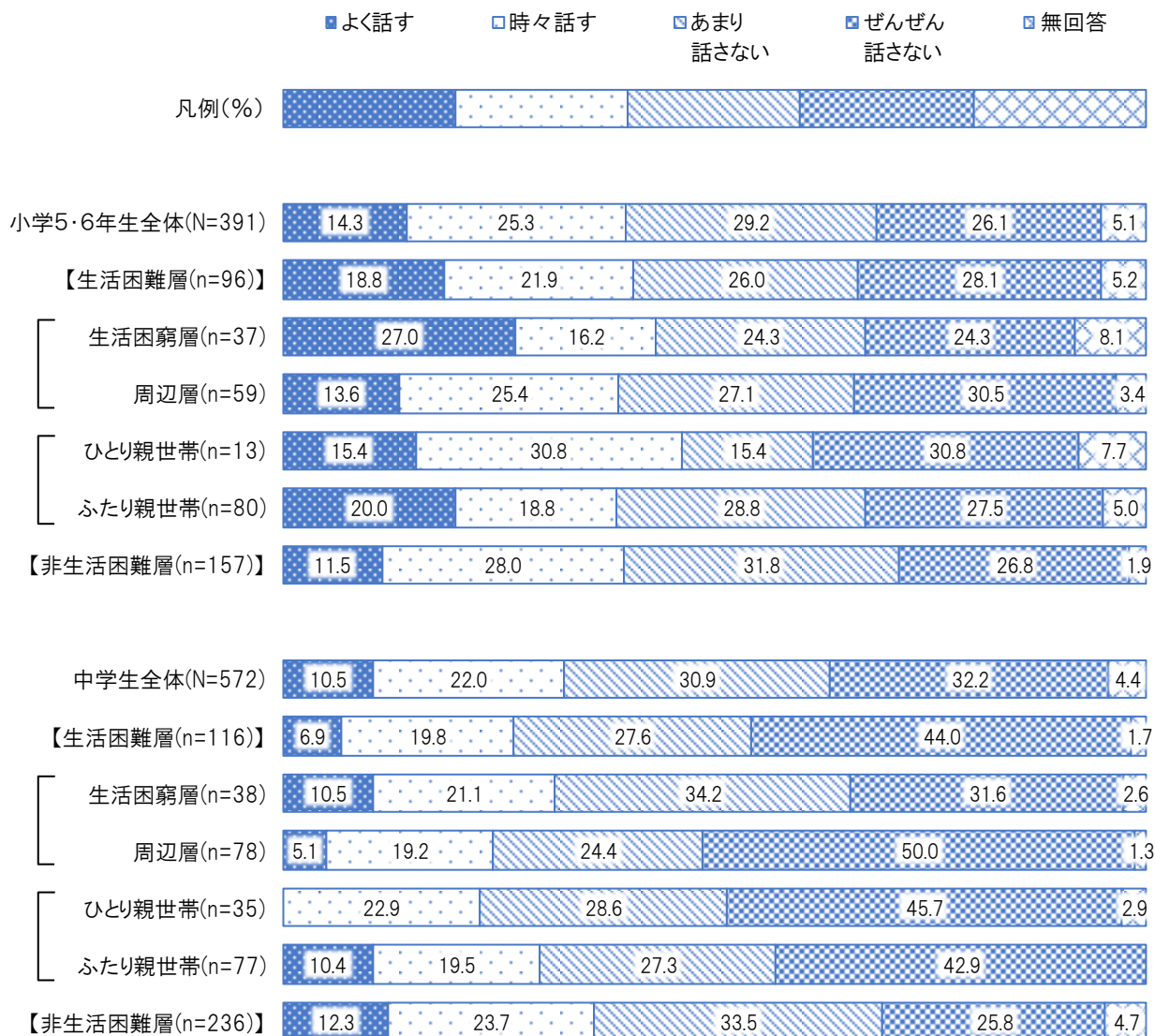
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ぜんぜん話さない」の割合が他の層を大きく上回っている。



D 学校の先生

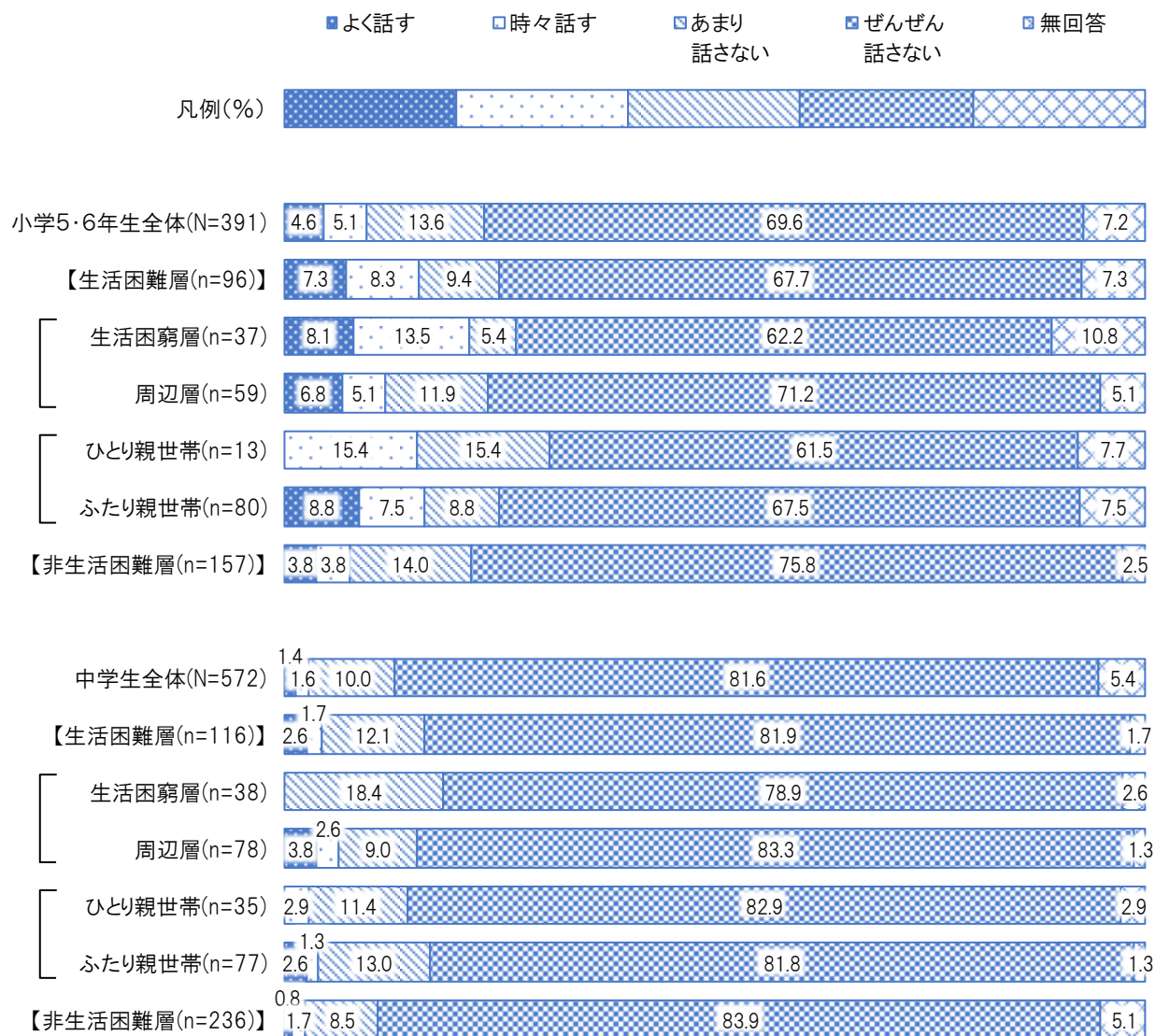
学校の先生について、小学5・6年生の生活困窮層で「よく話す」の割合が27.0%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。また、中学生の周辺層で「ぜんぜん話さない」の割合が50.0%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「よく話す」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



E 児童館・公民館の職員

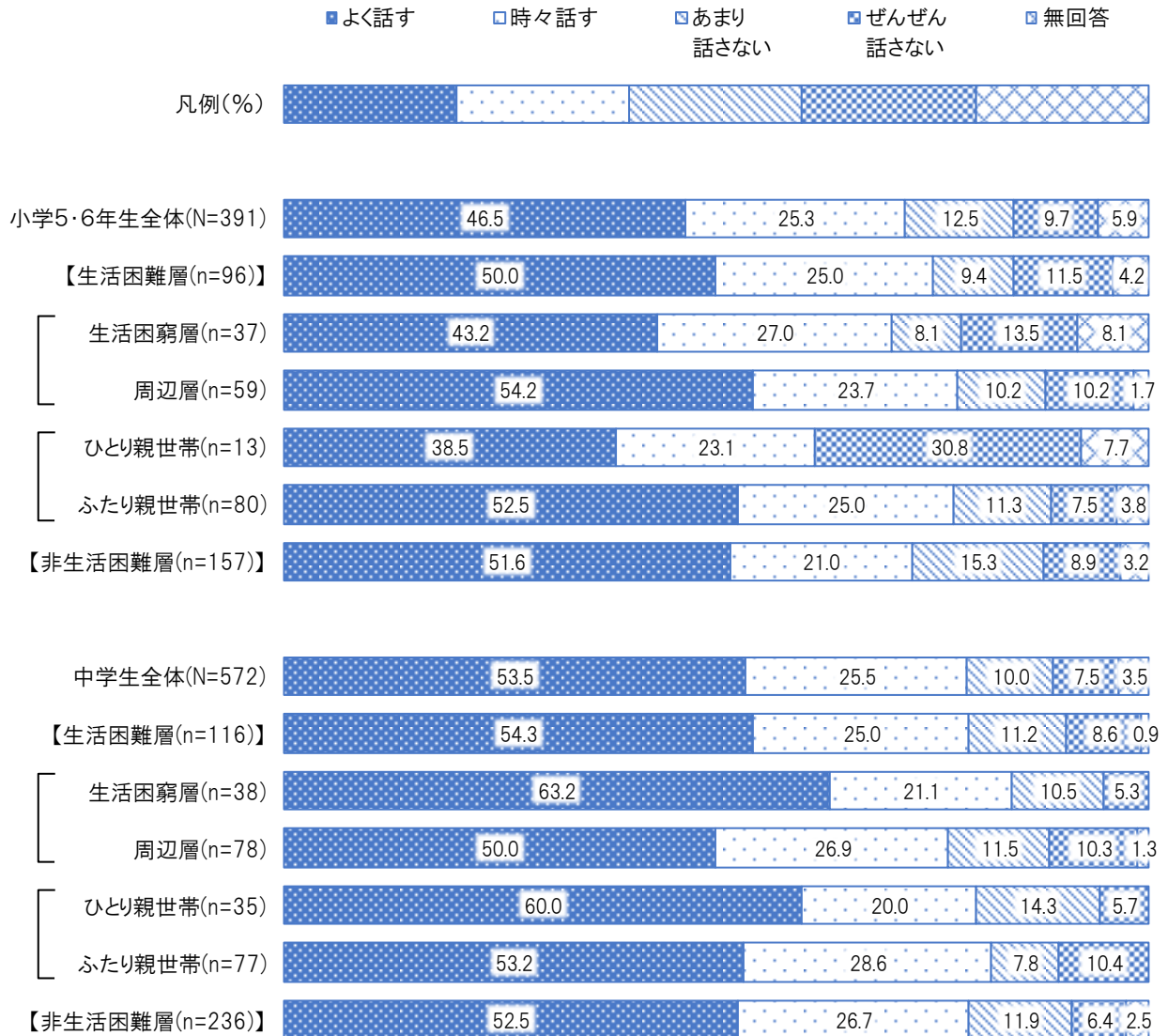
児童館・公民館の職員について「ぜんぜん話さない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で62.2%、周辺層で71.2%となっており、周辺層で高くなっている。中学生では、生活困窮層で78.9%、周辺層で83.3%となっている。



F 友だち

友だちについて「よく話す」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で43.2%、周辺層で54.2%となっており、生活困窮層で低くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で63.2%、周辺層で50.0%となっており、生活困窮層で高くなっている。

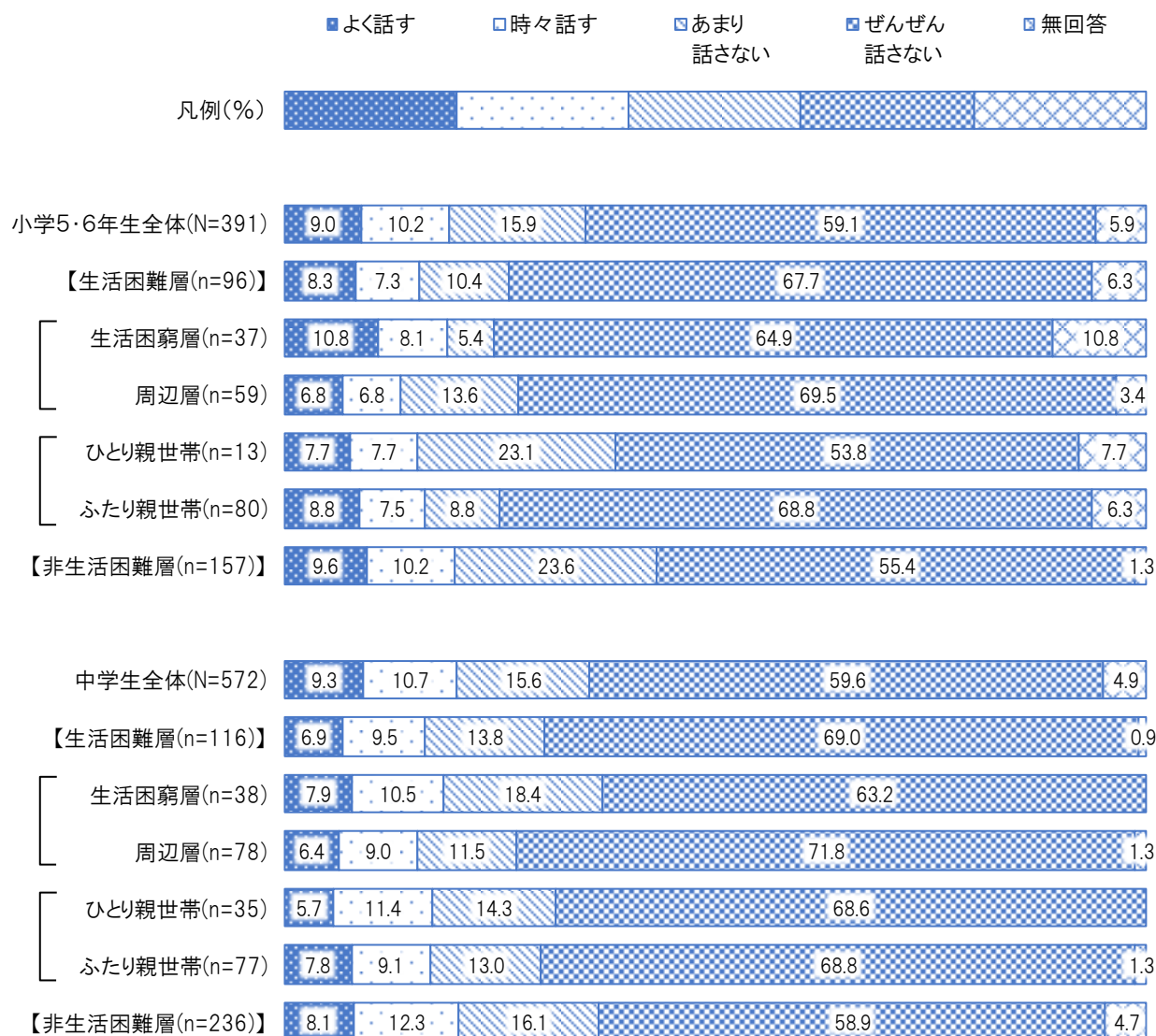
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「ぜんぜん話さない」の割合が他の層を大きく上回っている。



G その他の大人

その他の大人について「ぜんぜん話さない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で64.9%、周辺層で69.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生では、生活困窮層で63.2%、周辺層で71.8%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「ぜんぜん話さない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



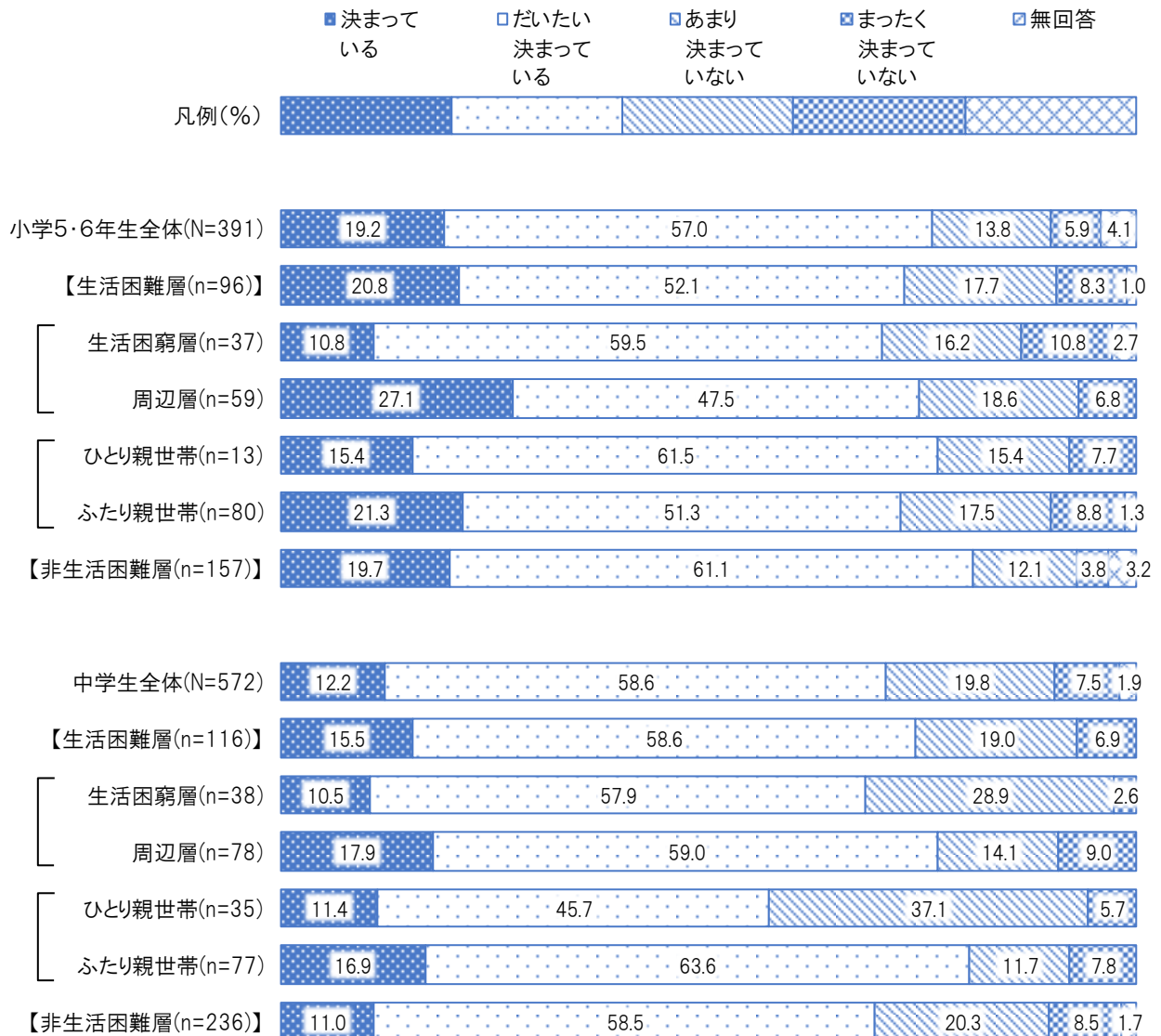
(5) 就寝時刻

子／問 18 あなたは毎日、夜、寝る時刻が決まっていますか。
(あてはまる番号1つに○)

就寝時刻について「決まっている」「だいたい決まっている」の合計は、小学5・6年生全体では76.2%、中学生全体では70.8%となっている。一方、「あまり決まっていない」「まったく決まっていない」の合計は、小学5・6年生全体では19.7%、中学生全体では27.3%となっている。

生活困難度別にみた「決まっている」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で27.1%、中学生では生活困窮層で10.5%、周辺層で17.9%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなる傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「あまり決まっていない」の割合が他の層を大きく上回っている。



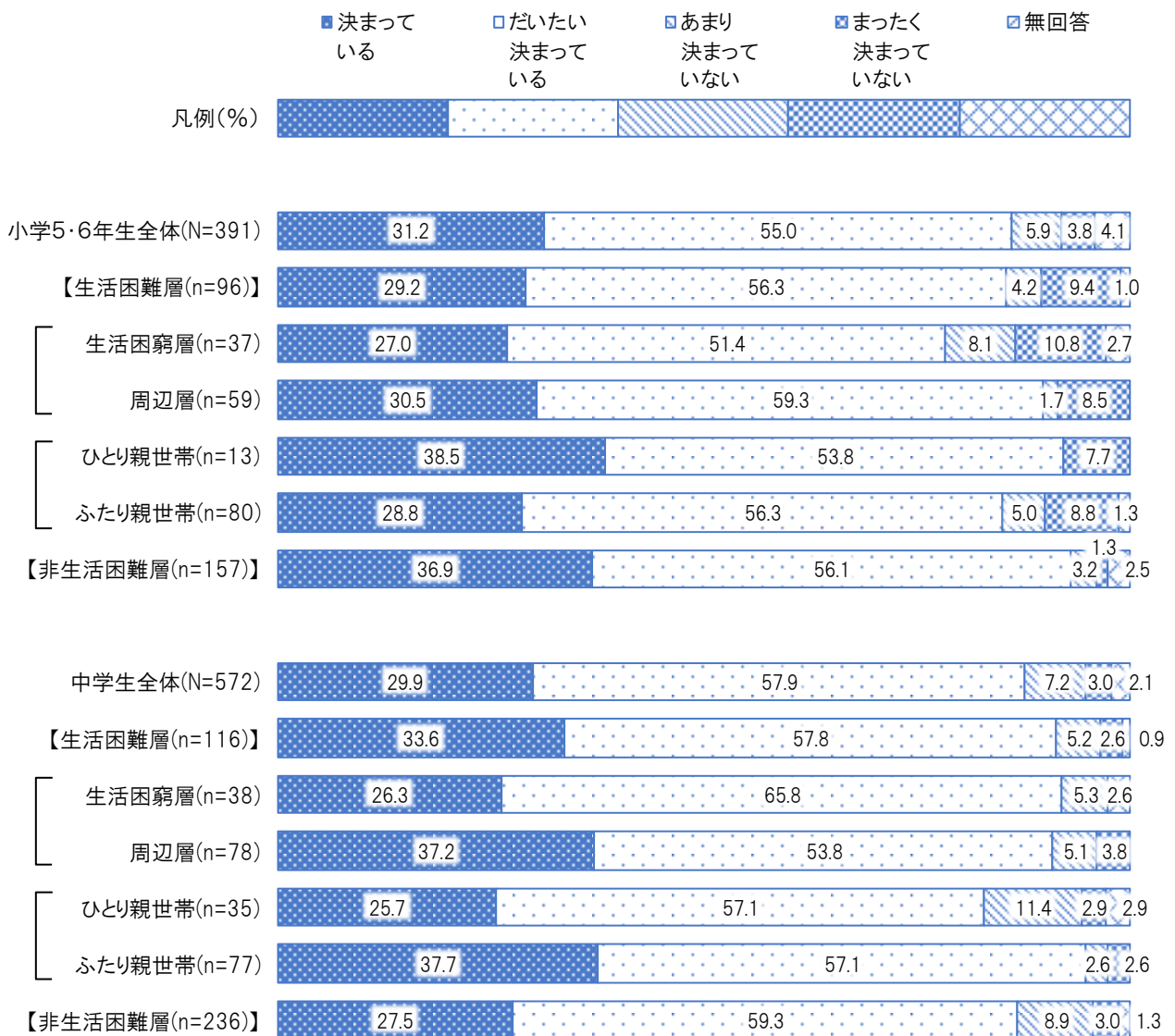
(6) 起床時刻

子／問 19 あなたは毎日、朝、起きる時刻が決まっていますか。
(あてはまる番号1つに○)

起床時刻については、小学5・6年生全体では「決まっている」の割合が31.2%、中学生全体では29.9%となっている。一方、「あまり決まっていない」「まったく決まっていない」の合計は、小学5・6年生全体では9.7%、中学生全体では10.2%となっている。

生活困難度別にみた『決まっていない(合計)』の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で10.2%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「決まっている」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



(7) 歯磨き・入浴の頻度

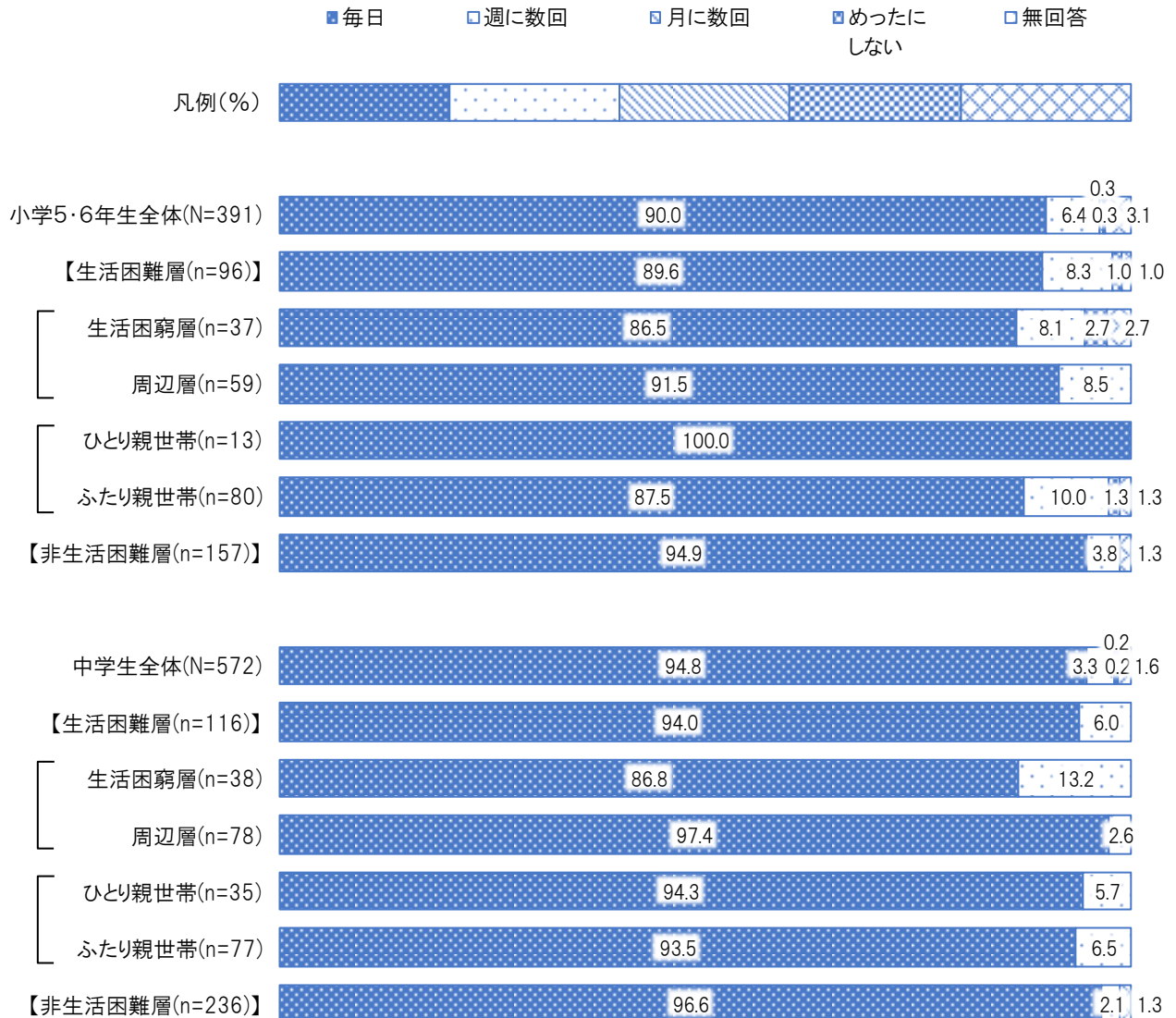
子／問 20 あなたは、歯磨きや入浴（風呂，シャワー）をしますか。
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

A 歯磨き

歯磨きについて、小学5・6年生全体では「毎日」の割合が90.0%、中学生全体では94.8%となっている。

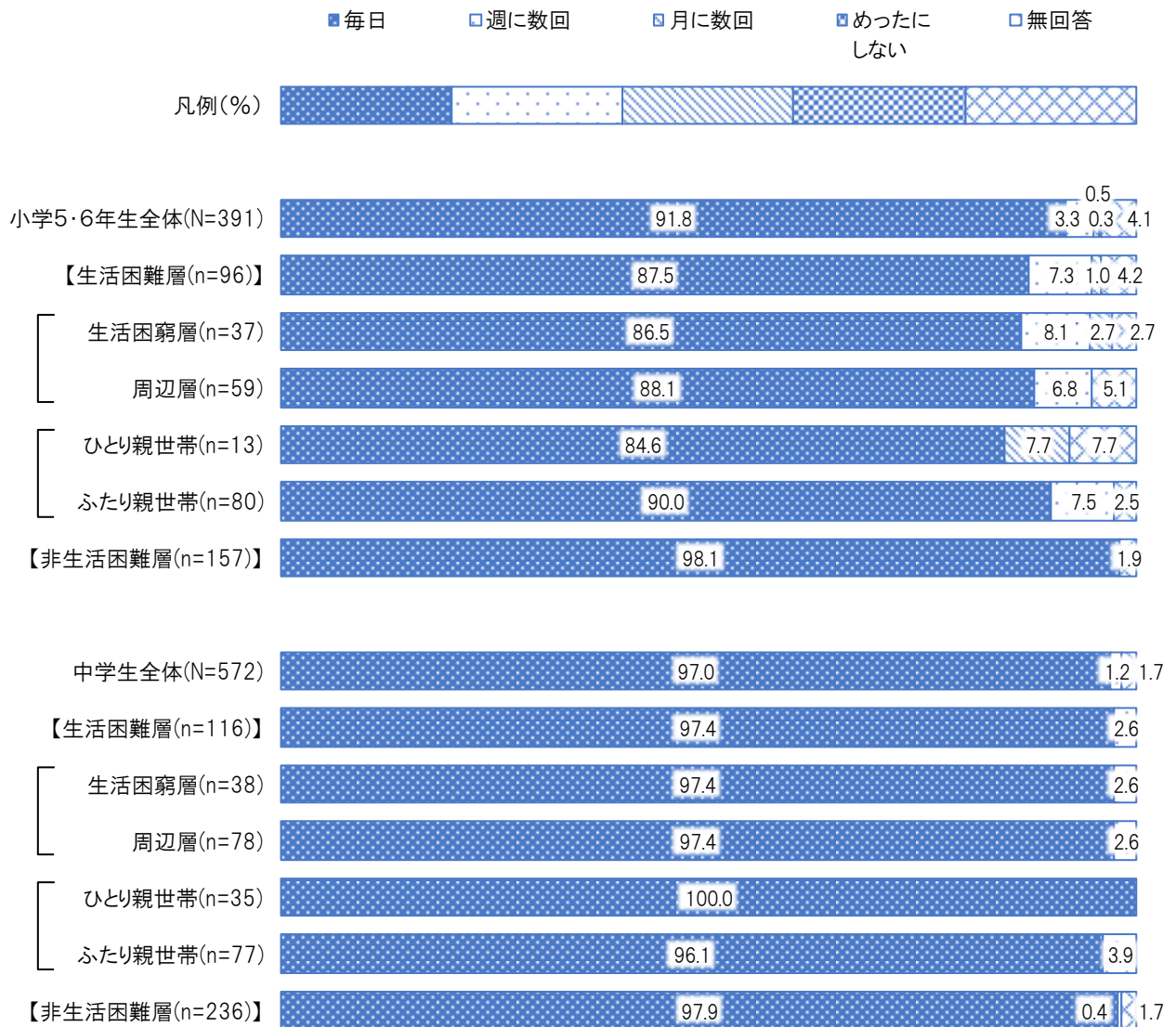
生活困難度別にみた「毎日」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で86.5%、周辺層で91.5%となっている。中学生では、生活困窮層で86.8%、周辺層で97.4%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「毎日」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



B 入浴

入浴について、小学5・6年生全体では「毎日」の割合が91.8%、中学生全体では97.0%となっており、生活困難度別、生活困難層世帯タイプ別による大きな差はみられない。



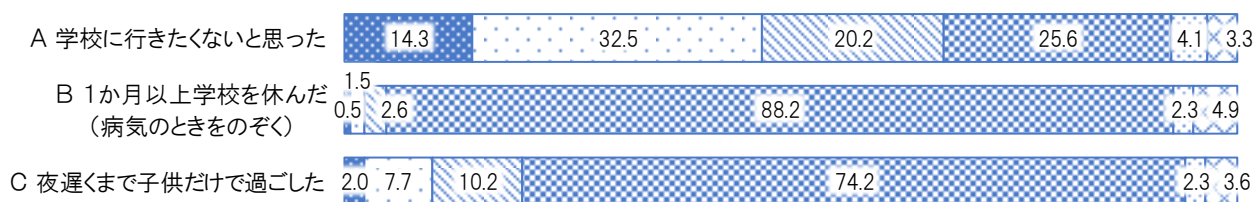
【6】各種経験状況

子／問 39 あなたは、これまでに次のようなことがありましたか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

各種経験状況について「よくあった」の割合は、「A 学校に行きたくないと思った」では小学5・6年生全体で14.3%、中学生全体で15.2%となっている。「B 1か月以上学校を休んだ(病気のときをのぞく)」について「よくあった」「時々あった」の合計は、小学5・6年生全体で2.0%、中学生全体で2.7%、「C 夜遅くまで子供だけで過ごした」では小学5・6年生全体で9.7%、中学生全体で10.1%となっている。

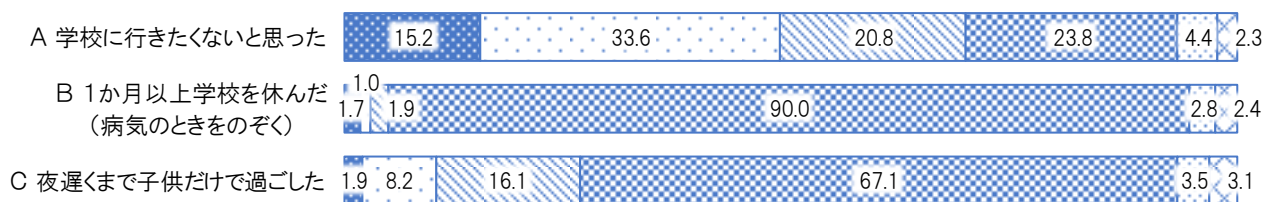
小学5・6年生全体
(N=391)

■よくあった □時々あった ■あまりなかった ■なかった □わからない ■無回答



中学生全体
(N=572)

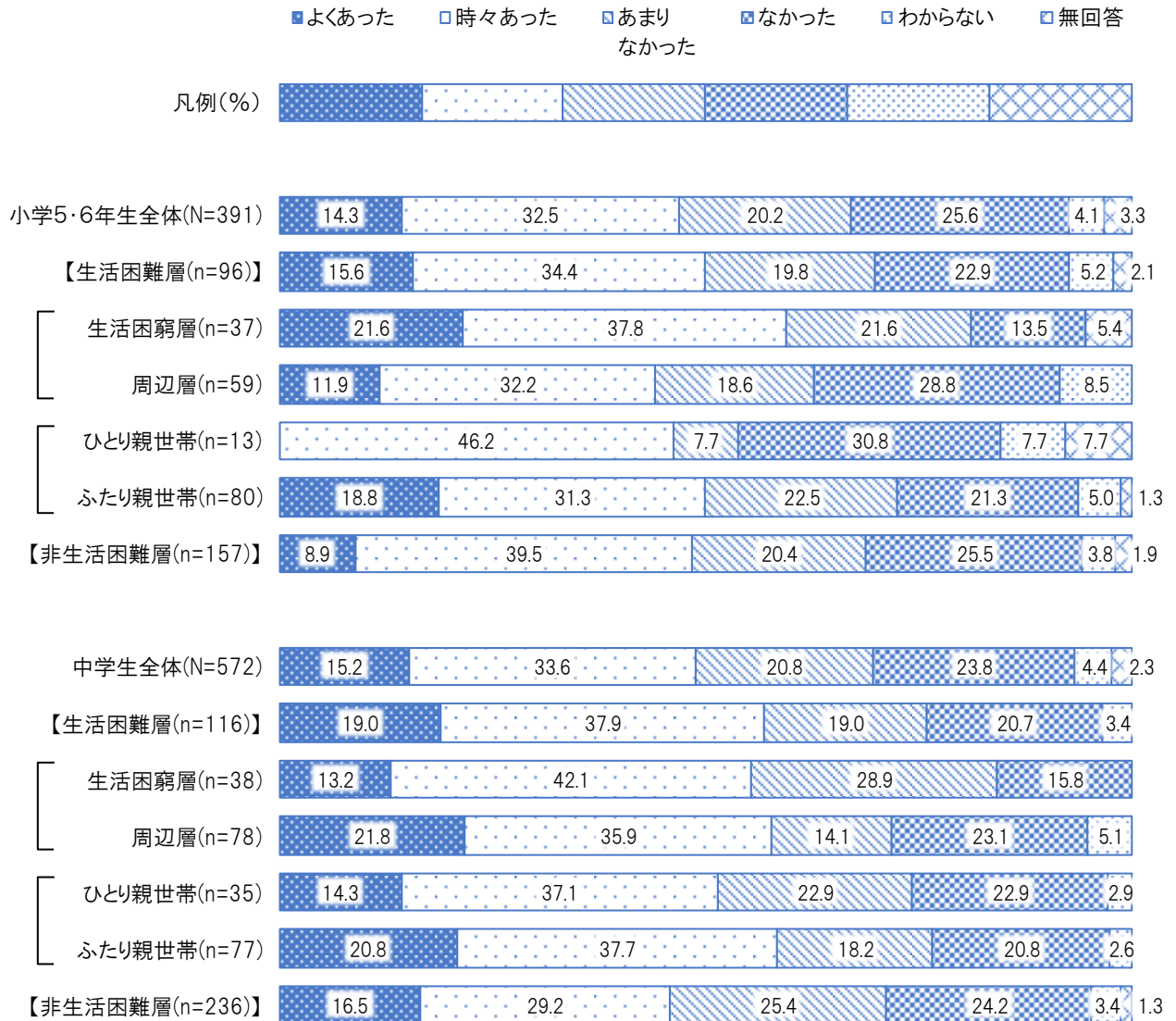
■よくあった □時々あった ■あまりなかった ■なかった □わからない ■無回答



A 学校に行きたくないと思った

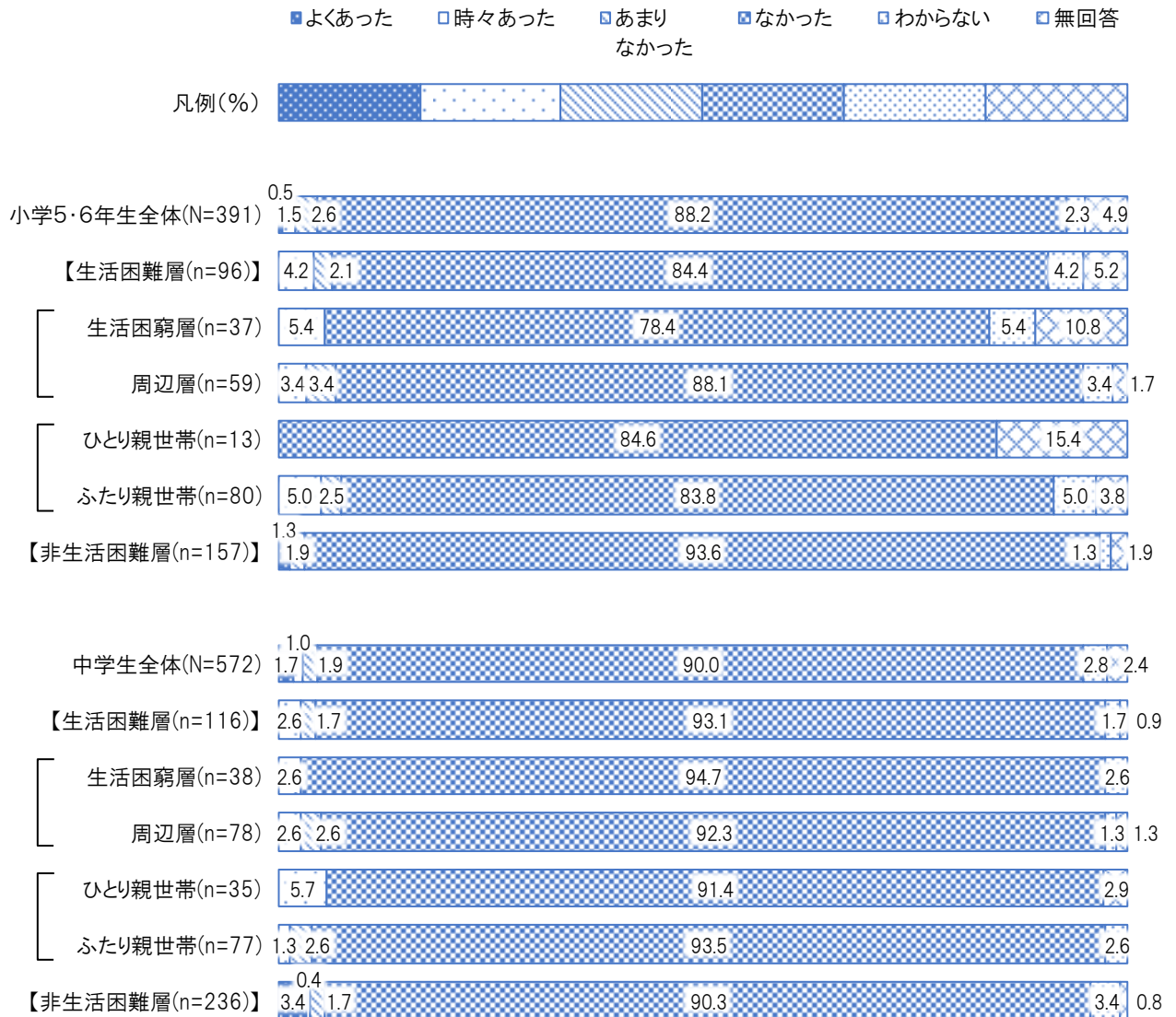
学校に行きたくないと考えたことについて「よくあった」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で11.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。一方、中学生の生活困窮層で13.2%、周辺層21.8%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「よくあった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



B 1か月以上学校を休んだ（病気の時をのぞく）

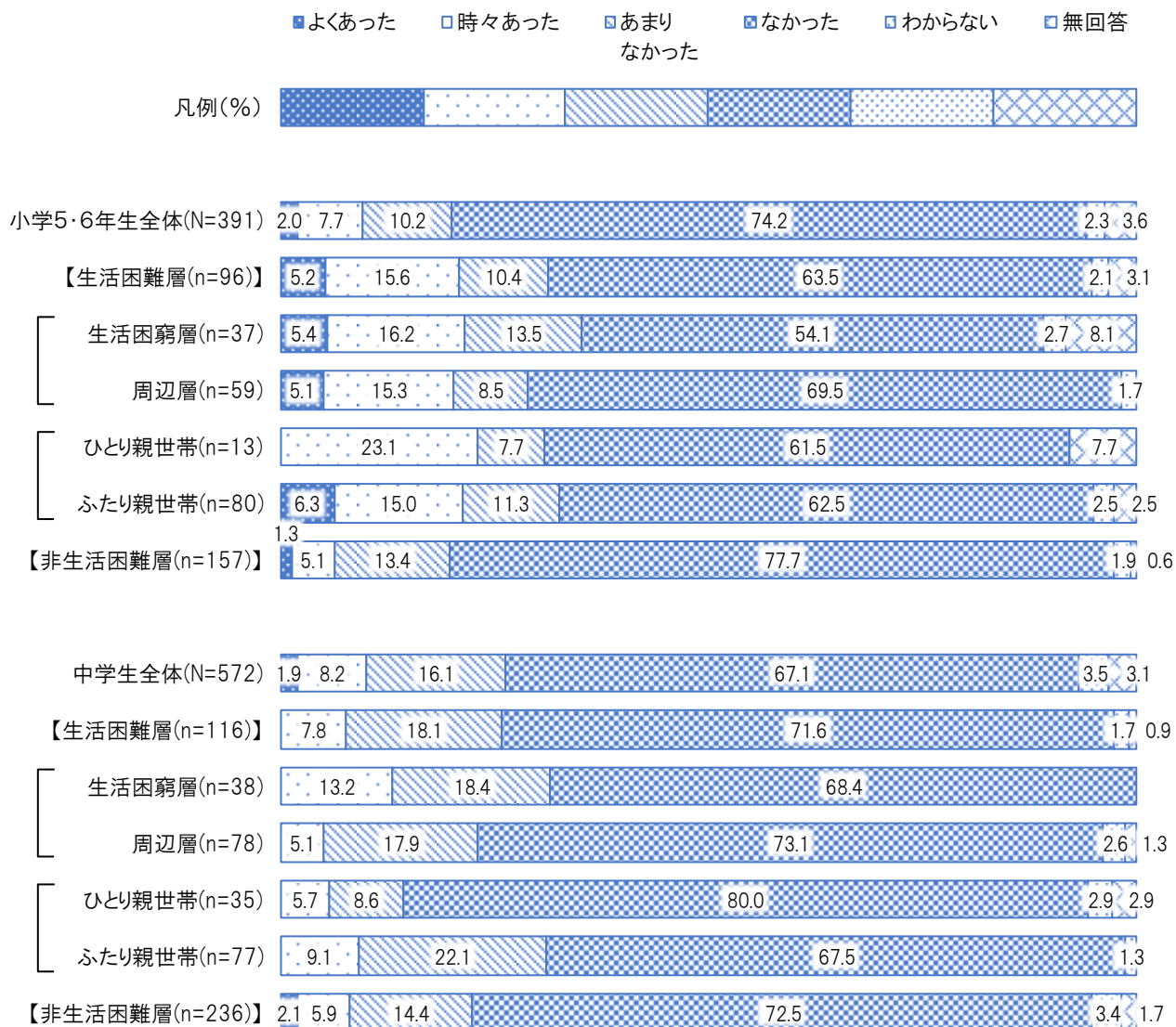
1か月以上学校を休んだことについて「なかった」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で78.4%，周辺層で88.1%となっており，生活困難度が高い層ほど低くなっている。中学生では，生活困窮層で94.7%，周辺層で92.3%となっている。



C 夜遅くまで子供だけで過ごした

夜遅くまで子供だけで過ごしたことについて「よくあった」「時々あった」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で20.4%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生で「時々あった」の割合は、生活困窮層で13.2%、周辺層で5.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

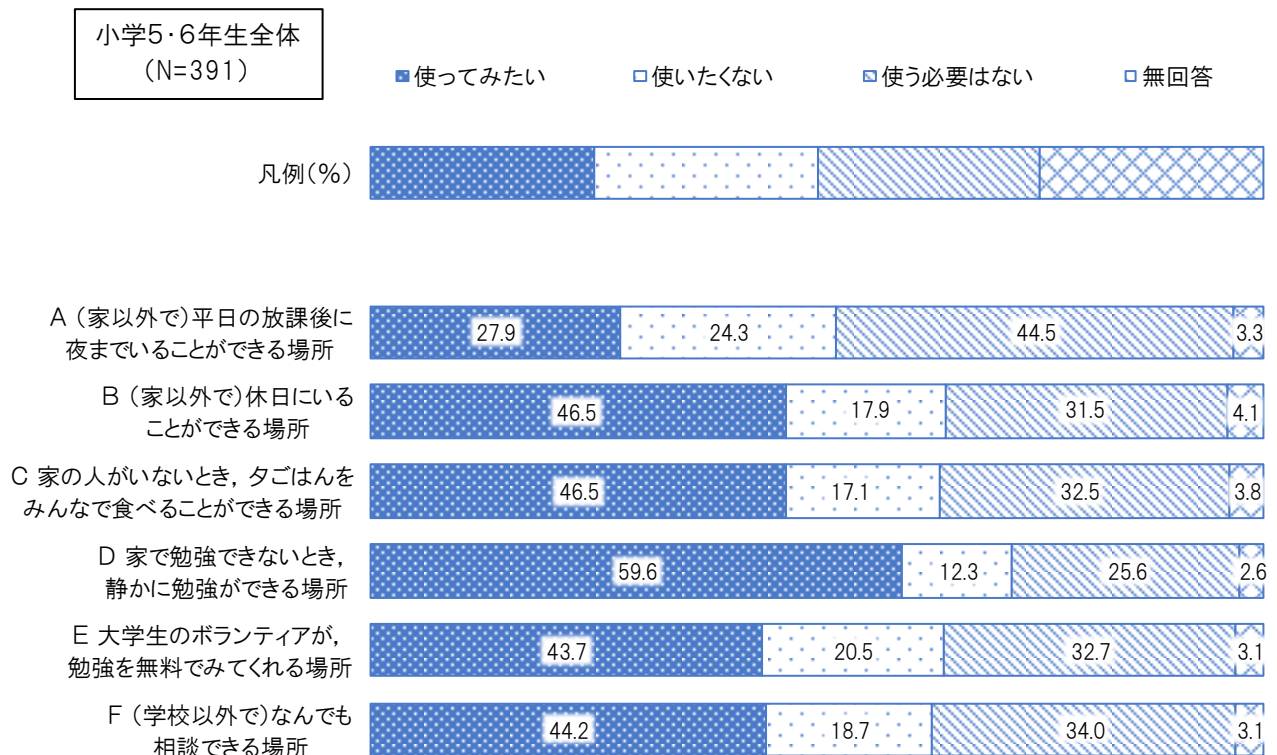
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「なかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



【7】居場所関連等の支援プログラムの利用意向

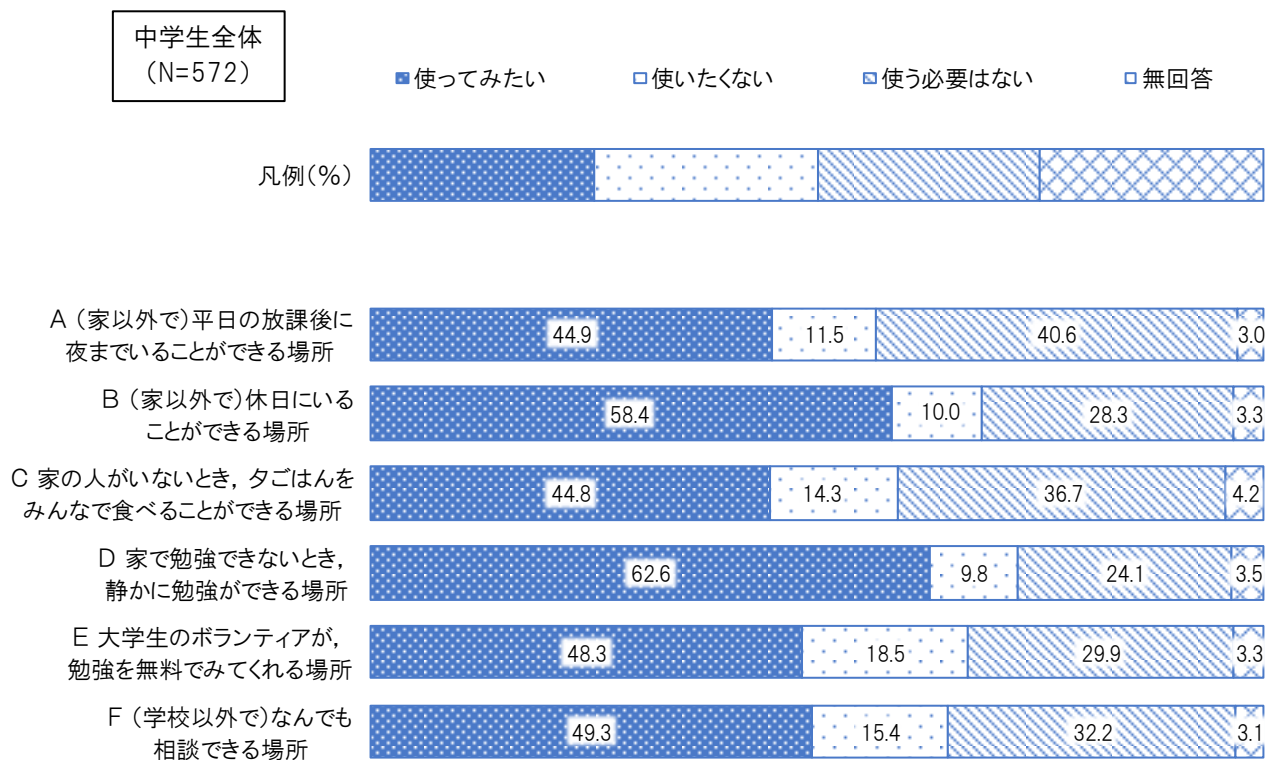
子／問 41 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

支援プログラムの利用意向については、小学5・6年生全体では「使ってみたい」の割合が高い順に「D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」(59.6%)、「B (家以外で) 休日にいることができる場所」「C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」(各 46.5%) となっている。



注: D, Eの個別結果については、第3章 9学習関連の支援プログラムの利用意向に掲載

中学生全体では、「使ってみたい」の割合が高い順に「D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」(62.6%)、「B (家以外で) 休日にいることができる場所」(58.4%)、「F (学校以外で) なんでも相談できる場所」(49.3%) となっている。

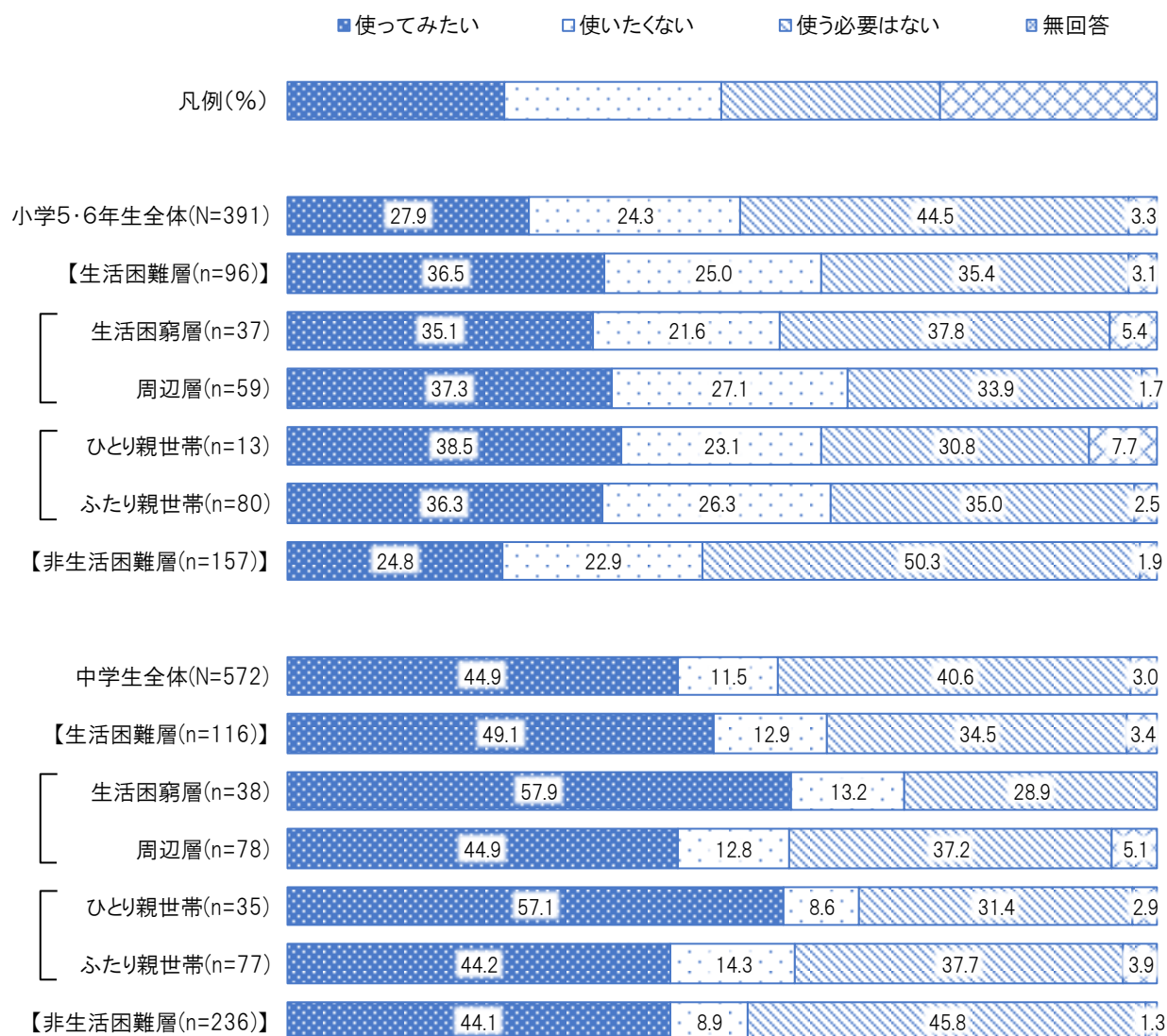


注: D, Eの個別結果については、第3章 9学習関連の支援プログラムの利用意向に掲載

A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

平日の放課後に夜までいることができる場所について「使ってみたい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で35.1%、周辺層で37.3%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生では、生活困窮層で57.9%、周辺層で44.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

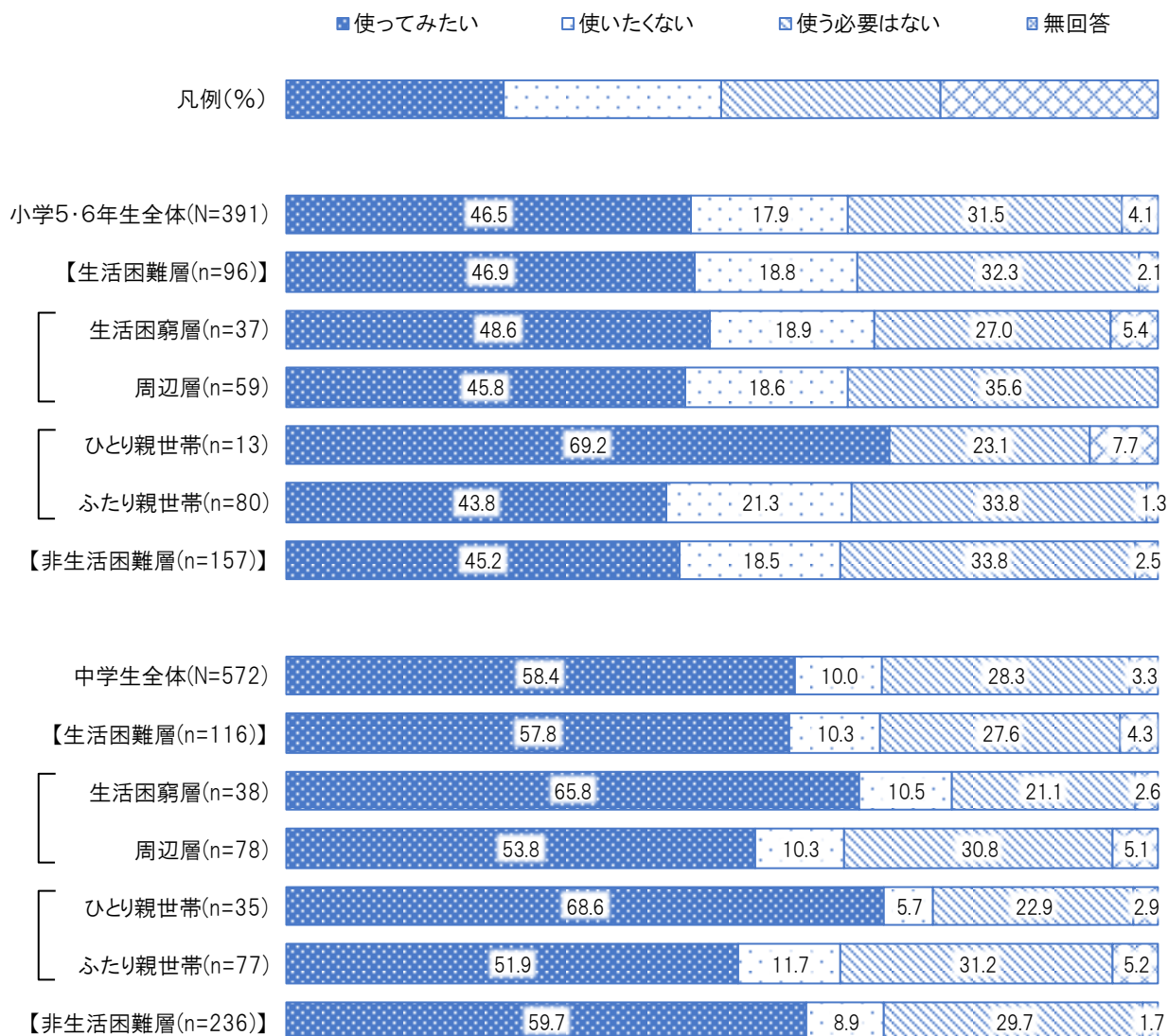
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「使ってみたい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B (家以外で) 休日にいることができる場所

休日にいることができる場所について「使ってみたい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%，周辺層で45.8%となっている。中学生では、生活困窮層で65.8%，周辺層で53.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。

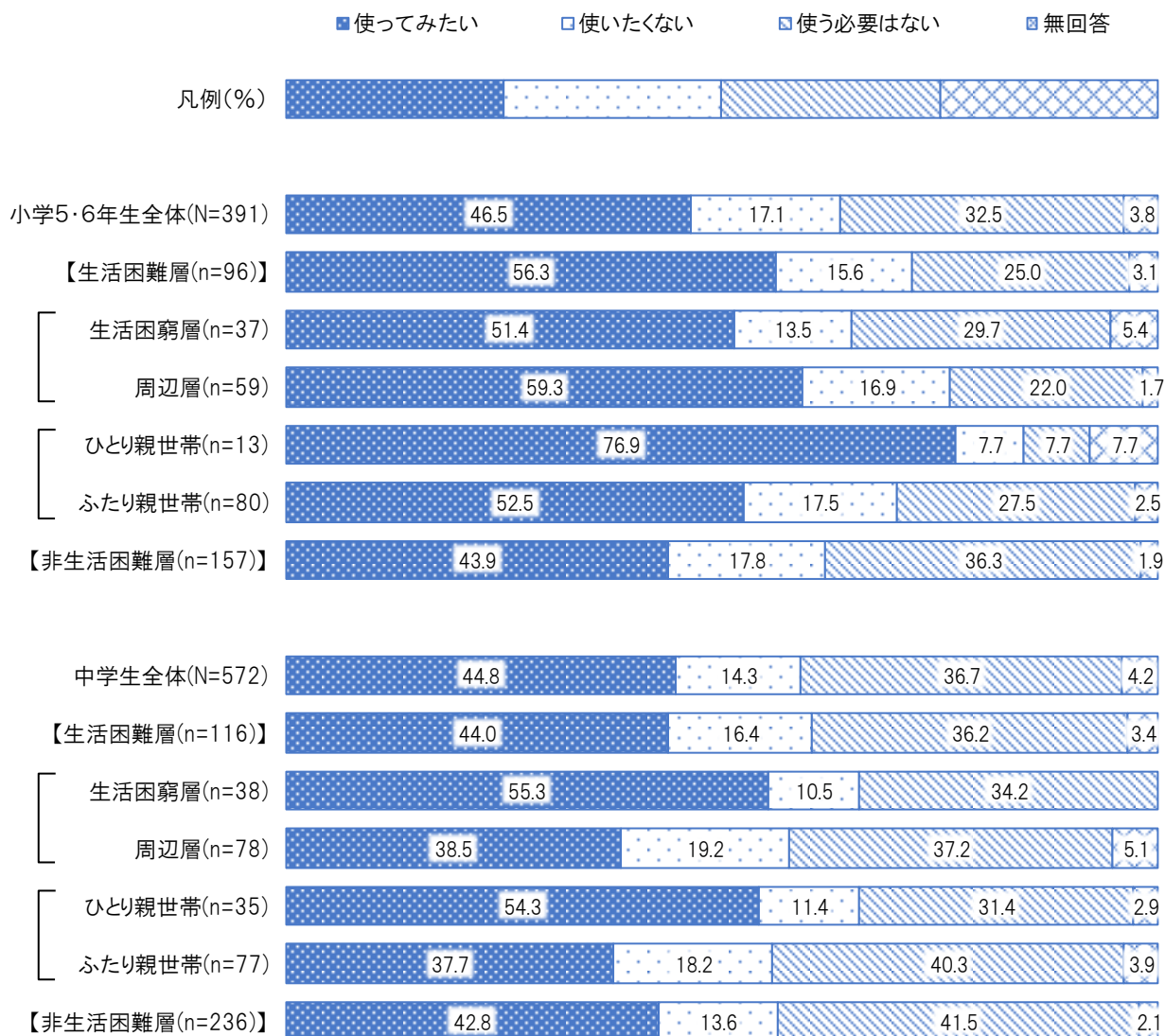
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「使ってみたい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所について「使ってみたい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で51.4%、周辺層で59.3%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で55.3%、周辺層で38.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。

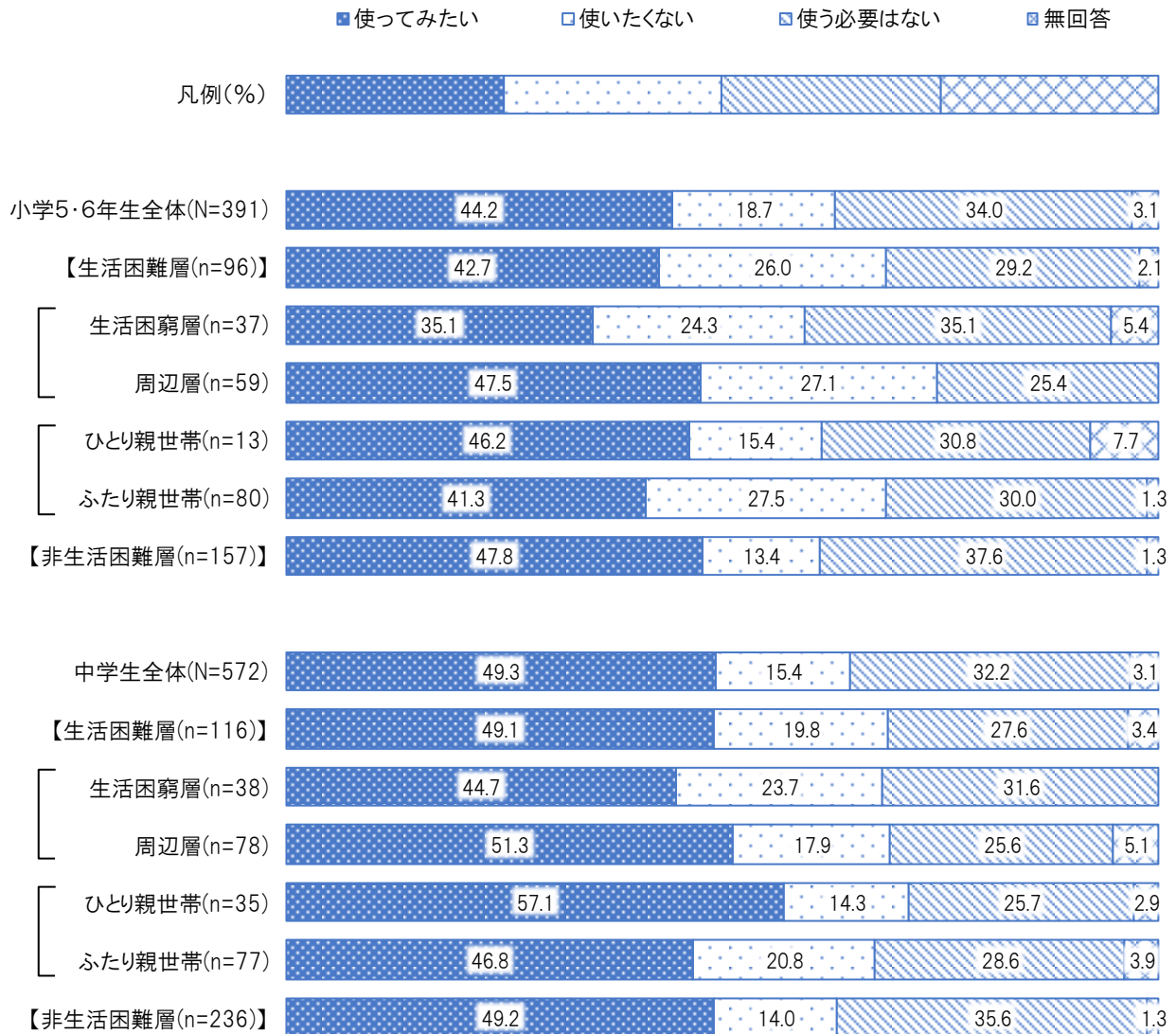
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「使ってみたい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F (学校以外で) 勉強, 進学, 家族のことなど, なんでも相談できる場所

勉強, 進学, 家族のことなど, なんでも相談できる場所について「使ってみたい」の割合は, 小学5・6年生の生活困窮層で 35.1%, 周辺層で 47.5%, 中学生では, 生活困窮層で 44.7%, 周辺層で 51.3%となっており, 生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では, 中学生のひとり親世帯で「使ってみたい」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



第5章 子供の健康と自己肯定感

【1】子供の健康状態

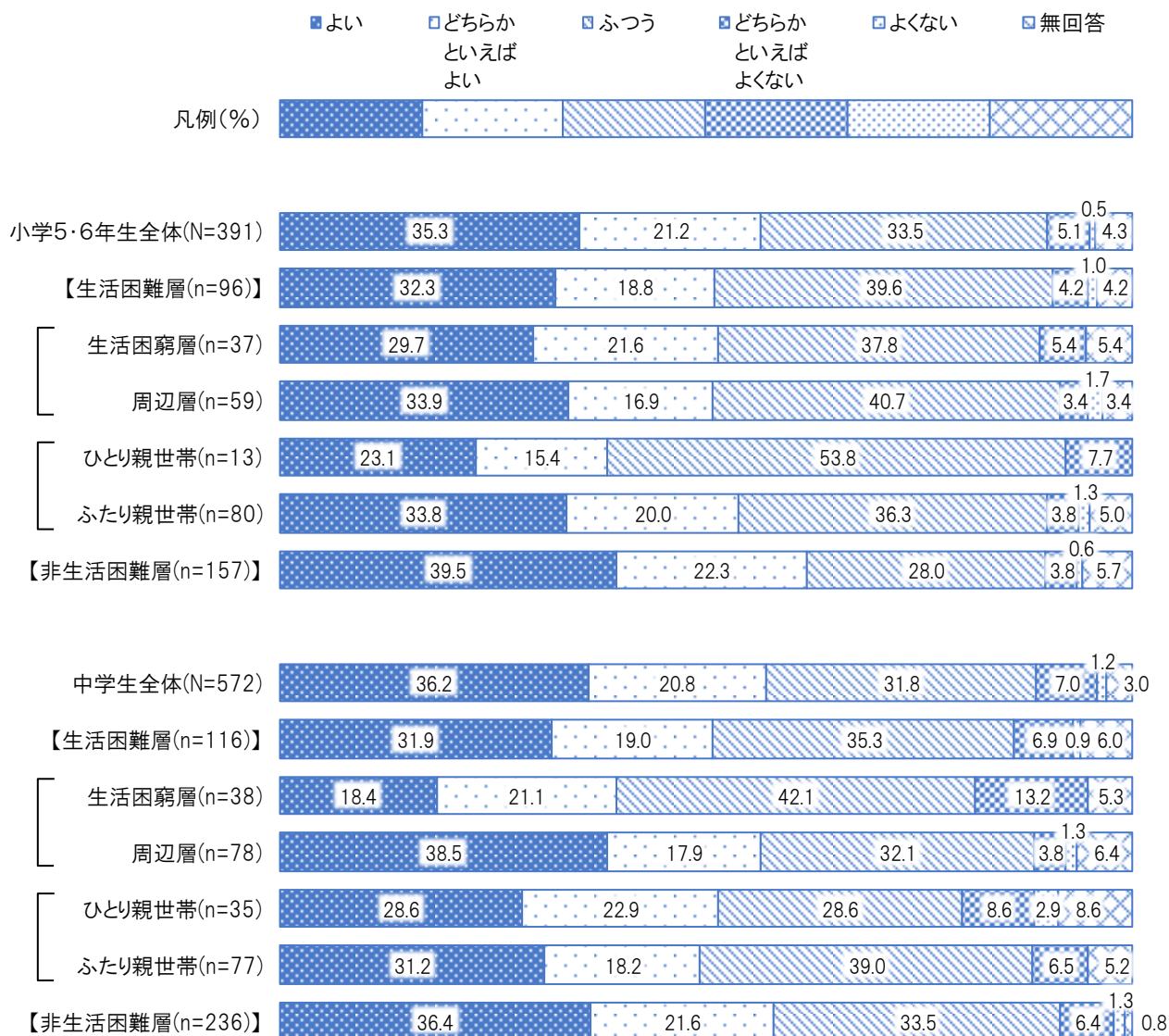
(1) 子供の主観的健康状態

子／問 25 あなたは、現在の健康状態についてどう感じていますか。
(あてはまる番号1つに○)

子供の主観的健康状態については、小学5・6年生全体では「よい」が35.3%、中学生全体では36.2%となっている。一方、「どちらかといえばよくない」「よくない」の合計は、小学5・6年生全体では5.6%、中学生全体では8.2%となっている。

生活困難度別にみた「よい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、中学生で18.4%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなる傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「よい」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



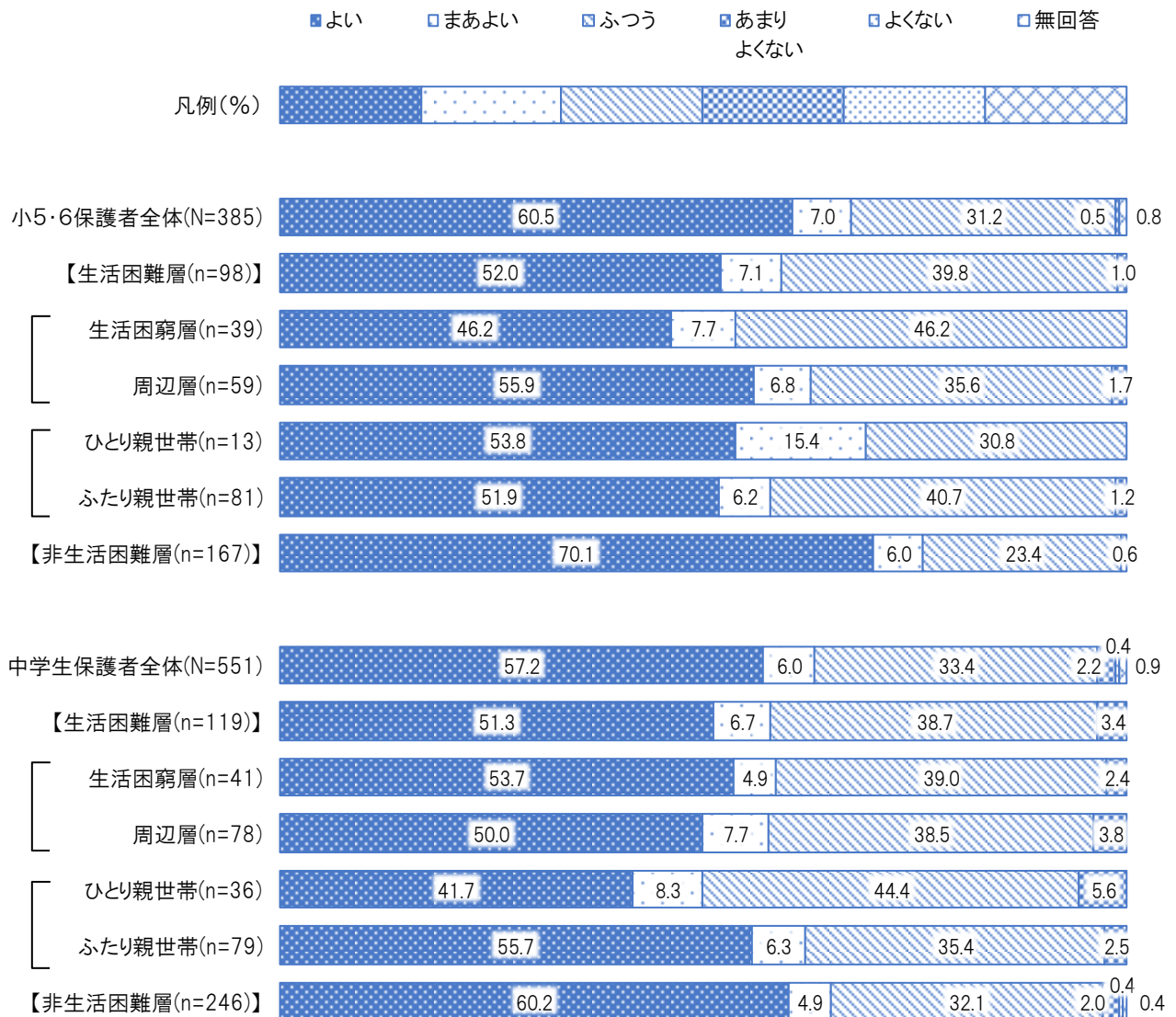
(2) 保護者からみた子供の健康状態

保／問 15-2 お子さんの健康状態についておうかがいします。最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

保護者からみた子供の健康状態については、小学5・6年保護者全体では「よい」が60.5%、中学生保護者全体では57.2%となっている。

生活困難度別にみた「よい」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で46.2%、周辺層で55.9%となっており、生活困窮層で低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「よい」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



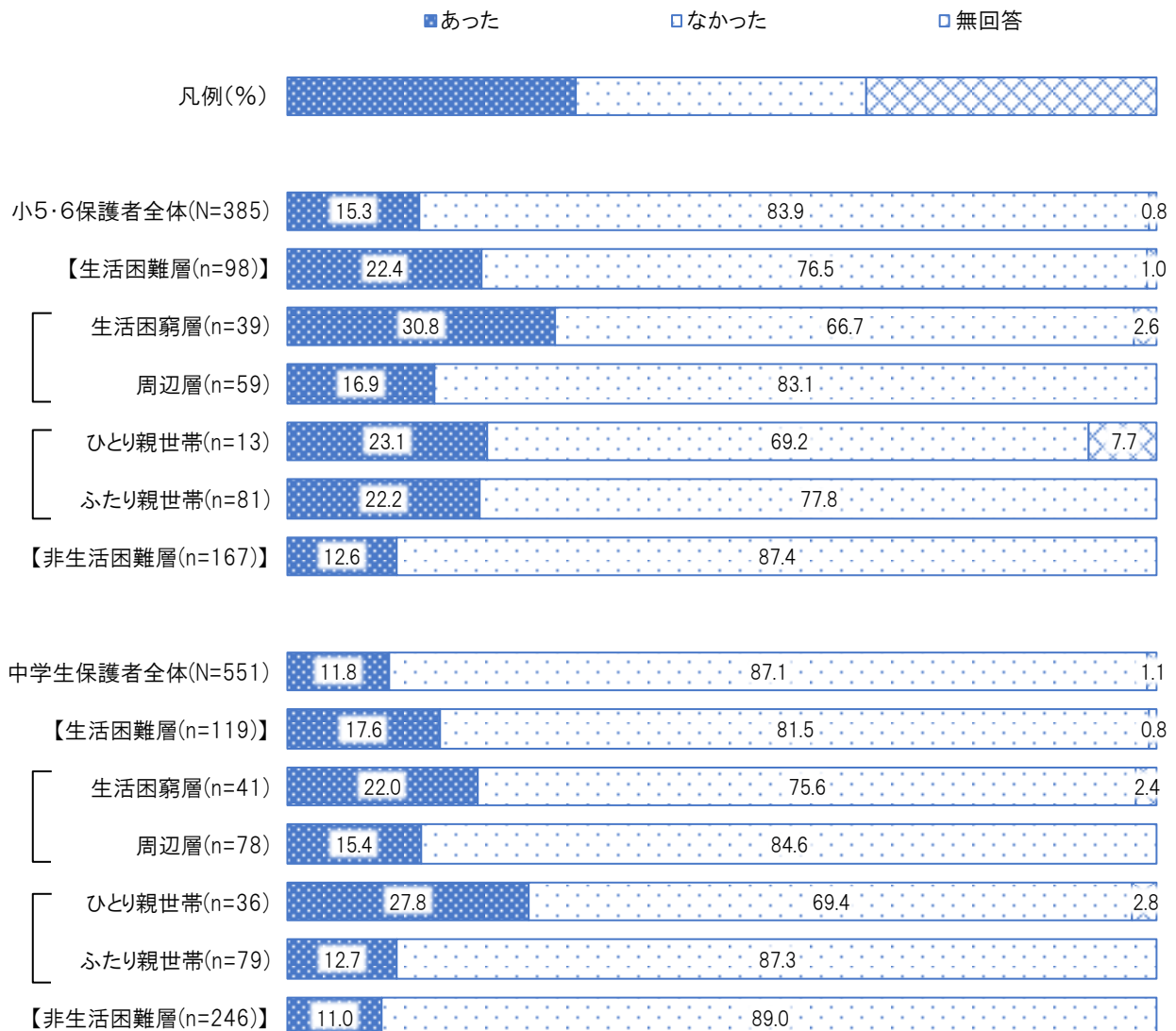
(3) 子供の医療受診抑制経験とその理由

保／問 16 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

子供の医療受診抑制経験については、小学5・6年保護者全体では「あった」が15.3%、中学生保護者全体では11.8%となっている。一方、「なかった」は、小学5・6年保護者全体では83.9%、中学生保護者全体では87.1%となっている。

生活困難度別にみた「あった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で30.8%、中学生保護者で22.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

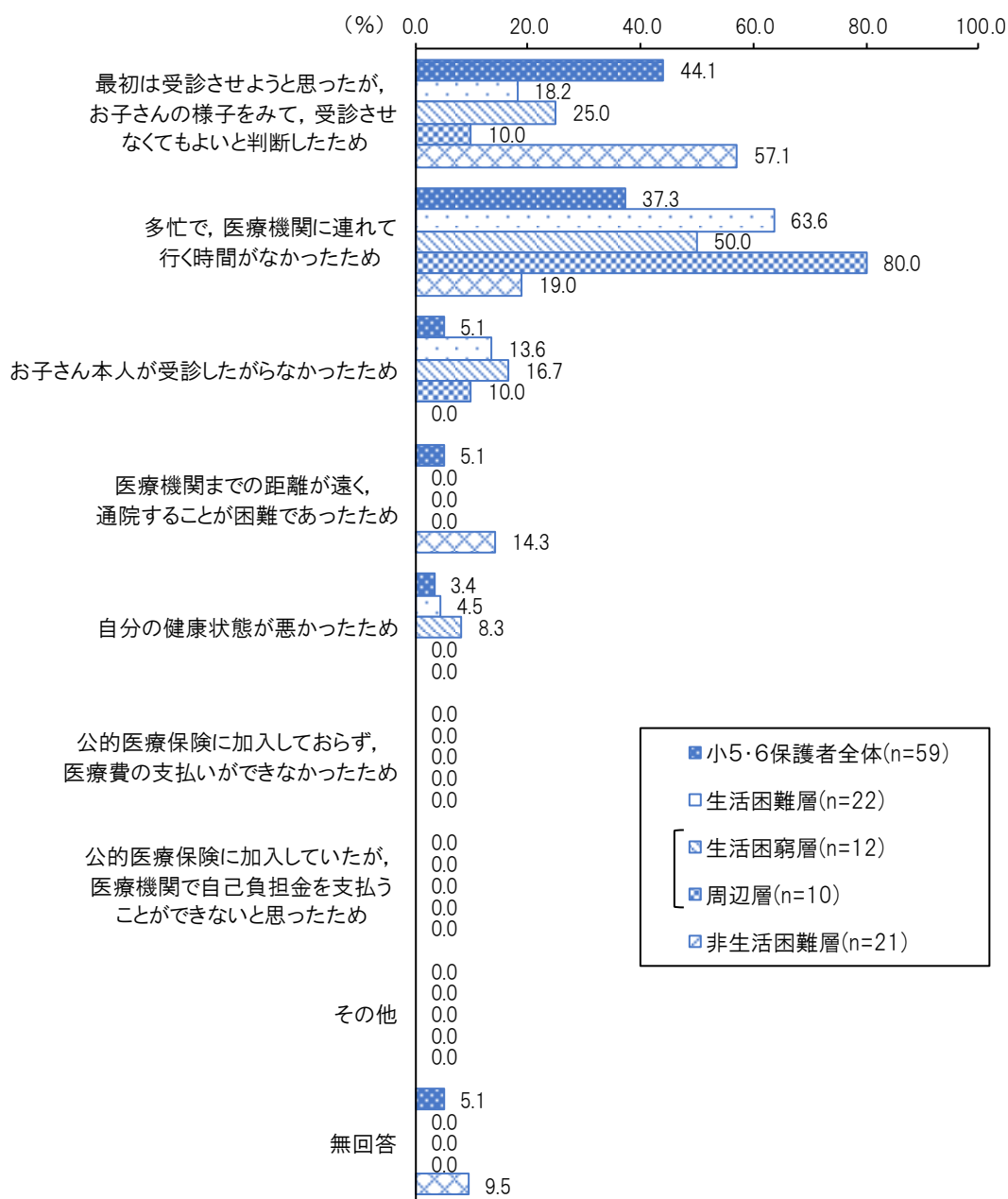
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「あった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



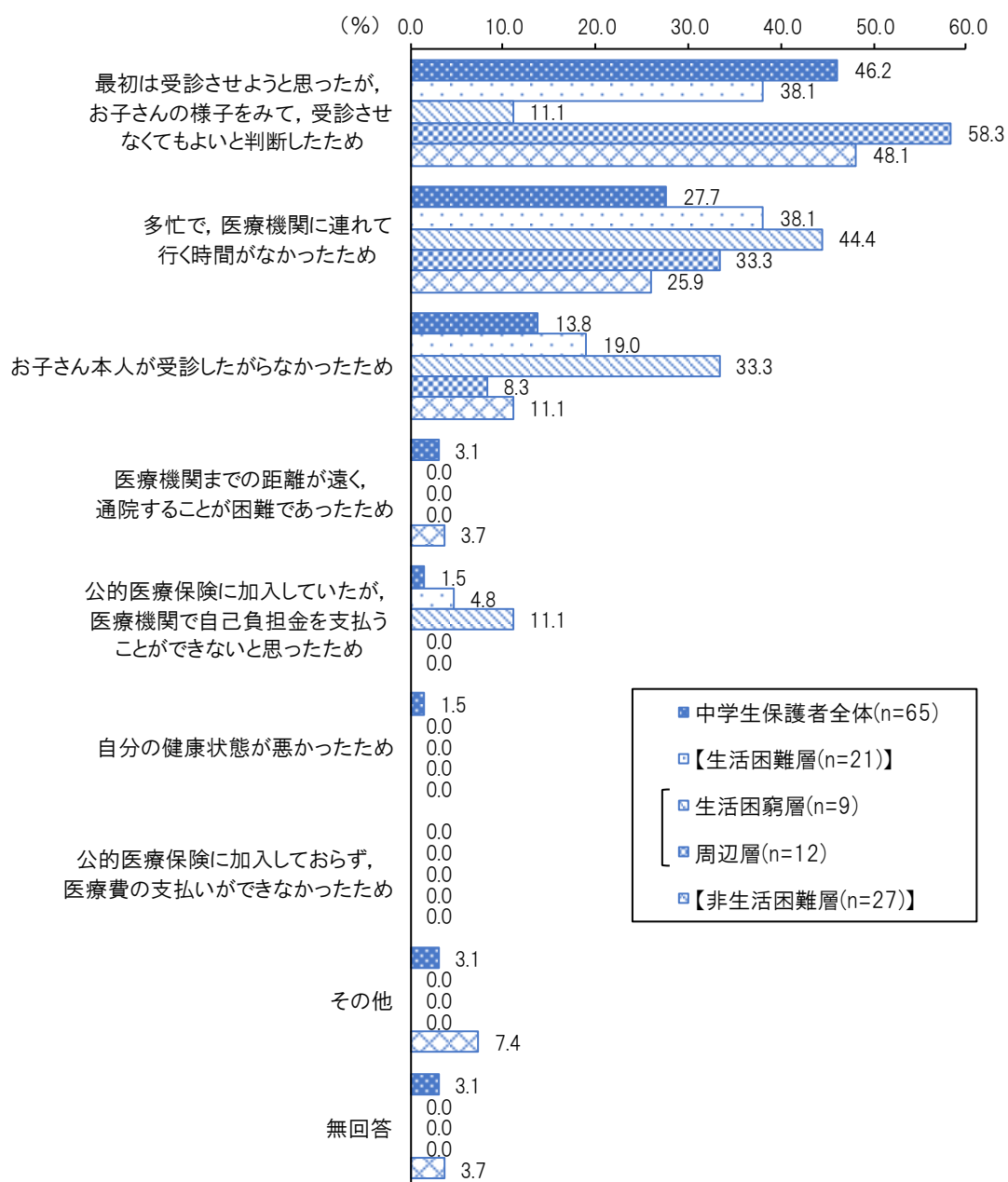
【問 16 で「1 あった」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 16-1 その理由は、何ですか。次の中から、最も近いものに○をつけてください。
 (あてはまる番号1つに○)

子供の医療受診を抑制した理由について、小学5・6年保護者全体では「最初は受診させようと思ったが、お子さんの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が44.1%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」(37.3%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困難層は非生活困難層に比べて「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」の割合が高くなっている。



中学生保護者全体では、「最初を受診させようと思ったが、お子さんの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が46.2%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」(27.7%)、「お子さん本人が受診しなかったため」(13.8%)の順となっている。



注：生活困難層については、件数(n)が少ないため参考値として参照

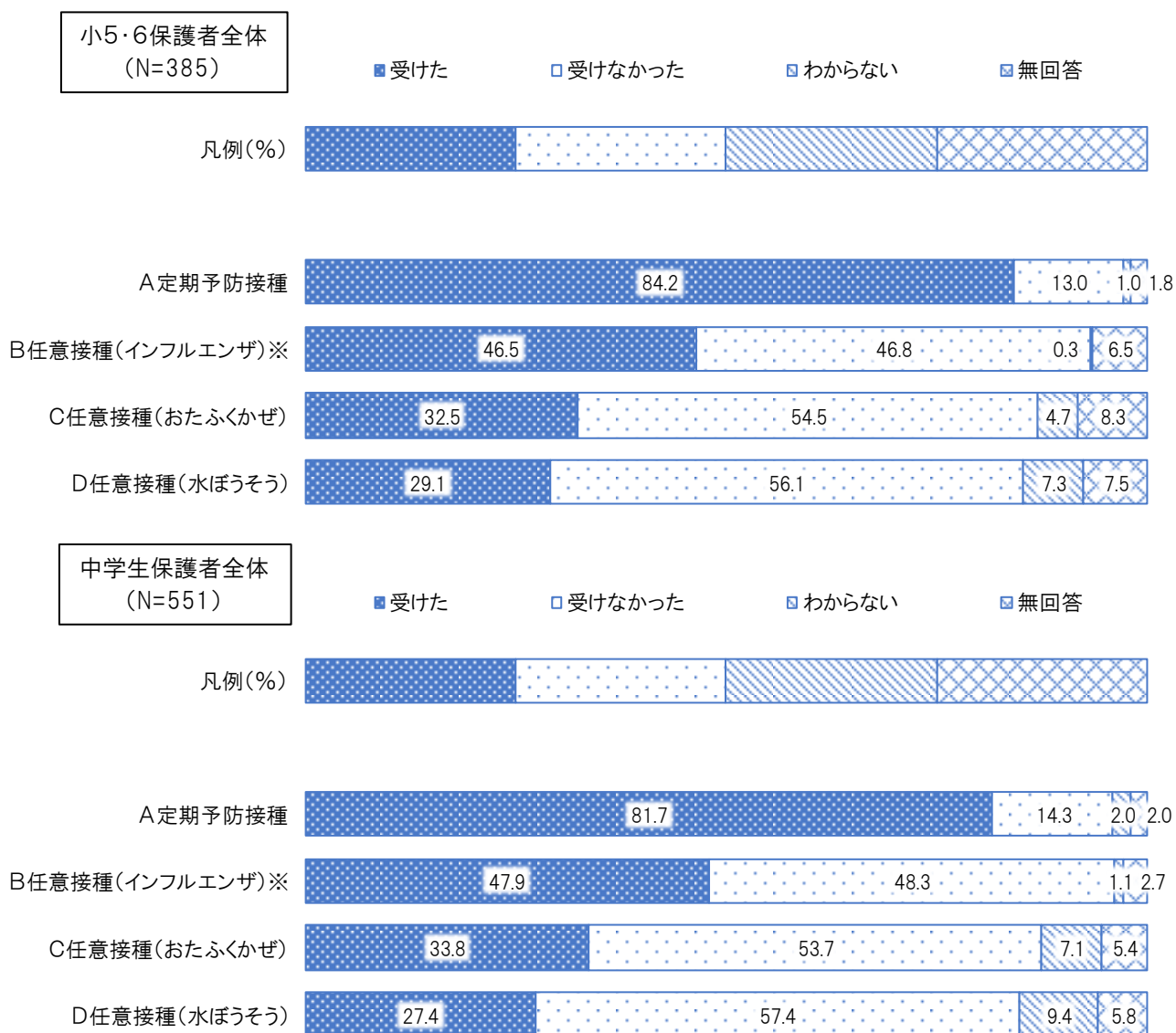
(4) 予防接種状況と未接種の理由

保／問 17 お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

※定期予防接種（結核（BCG），麻しん・風しん，ポリオ等）は，無料で受けられます。任意接種（インフルエンザ，おたふくかぜ等）は自己負担がかかります。

予防接種状況については、小学5・6年保護者全体では「受けた」割合が高い順に「A 定期予防接種」(84.2%)、「B 任意接種（インフルエンザ）」(46.5%)、「C 任意接種（おたふくかぜ）」(32.5%)、「D 任意接種（水ぼうそう）」(29.1%)となっている。

中学生保護者全体では、「A 定期予防接種」(81.7%)、「B 任意接種（インフルエンザ）」(47.9%)、「C 任意接種（おたふくかぜ）」(33.8%)、「D 任意接種（水ぼうそう）」(27.4%)となっている。

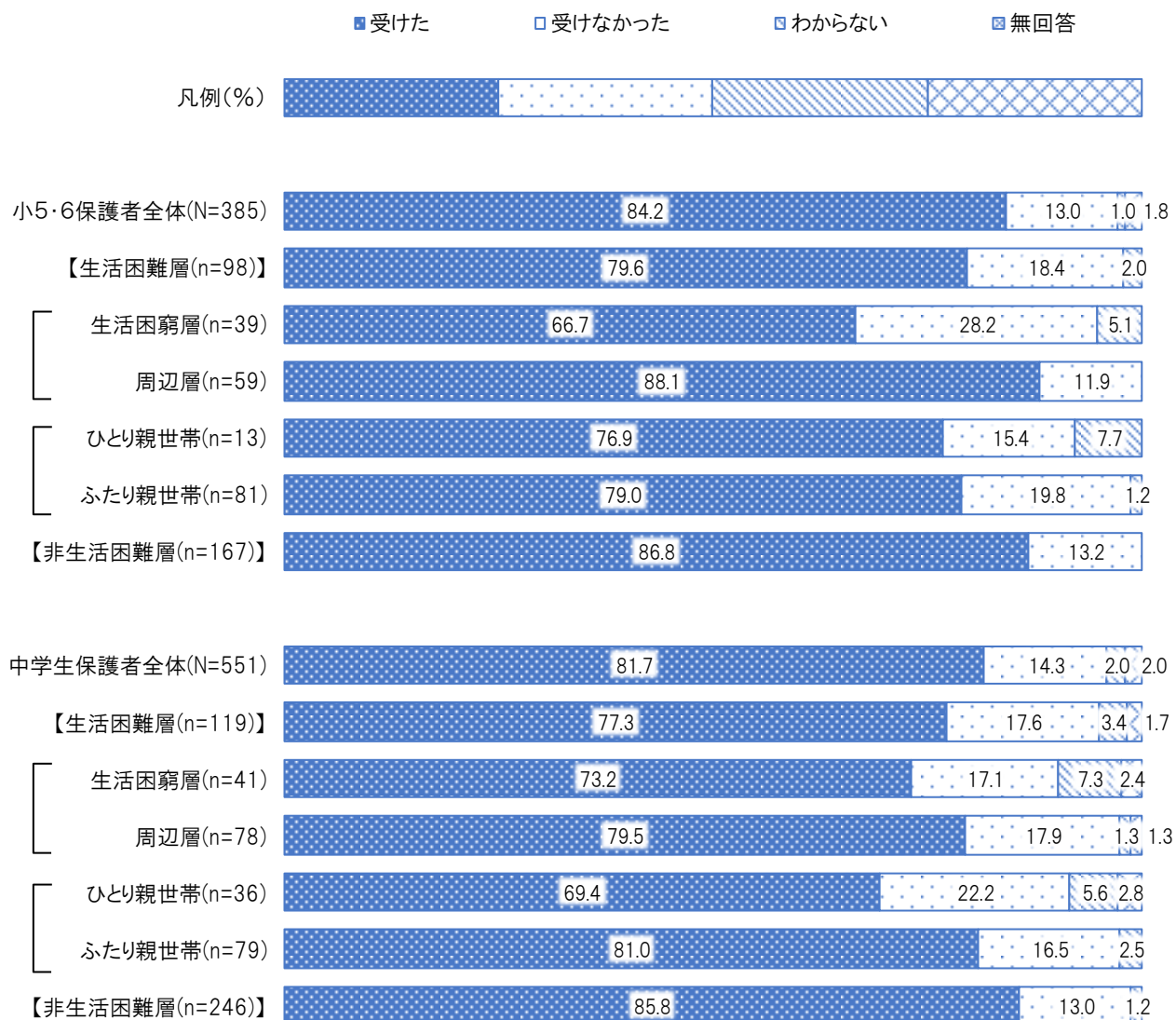


※任意接種(インフルエンザ)※過去1年間

A 定期予防接種

定期予防接種について「受けた」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で66.7%、周辺層で88.1%、中学生保護者では、生活困窮層で73.2%、周辺層で79.5%となっており、生活困窮層で低くなっている。

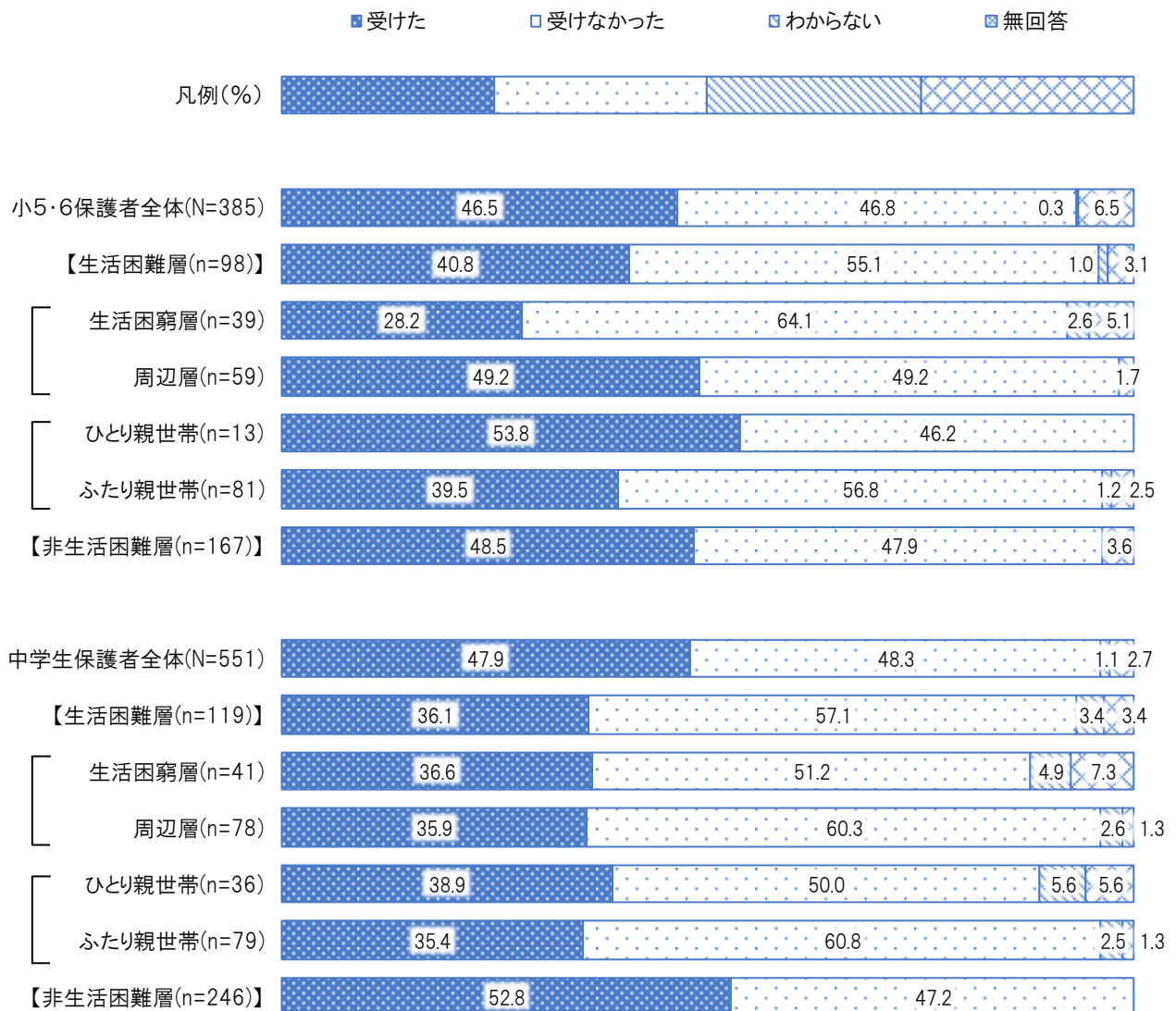
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「受けた」割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



B 任意接種（インフルエンザ）※過去1年間

任意接種（インフルエンザ）について「受けた」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%、周辺層で49.2%となっており、生活困窮層で低くなっている。中学生保護者では、生活困窮層で36.6%、周辺層で35.9%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

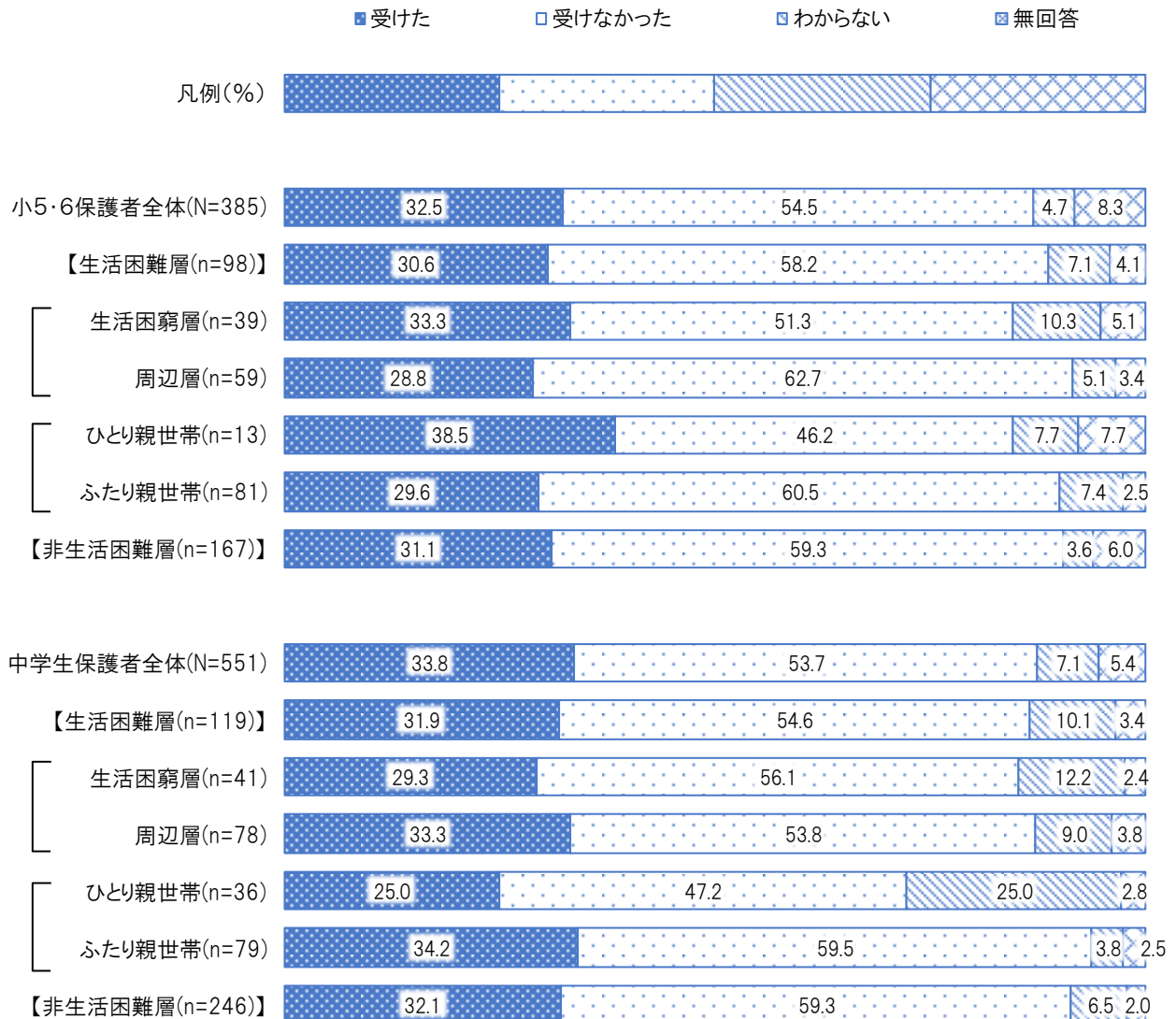
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「受けなかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C 任意接種（おたふくかぜ）

任意接種（おたふくかぜ）について「受けた」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で33.3%、周辺層で28.8%、中学生保護者では、生活困窮層で29.3%、周辺層で33.3%となっている。

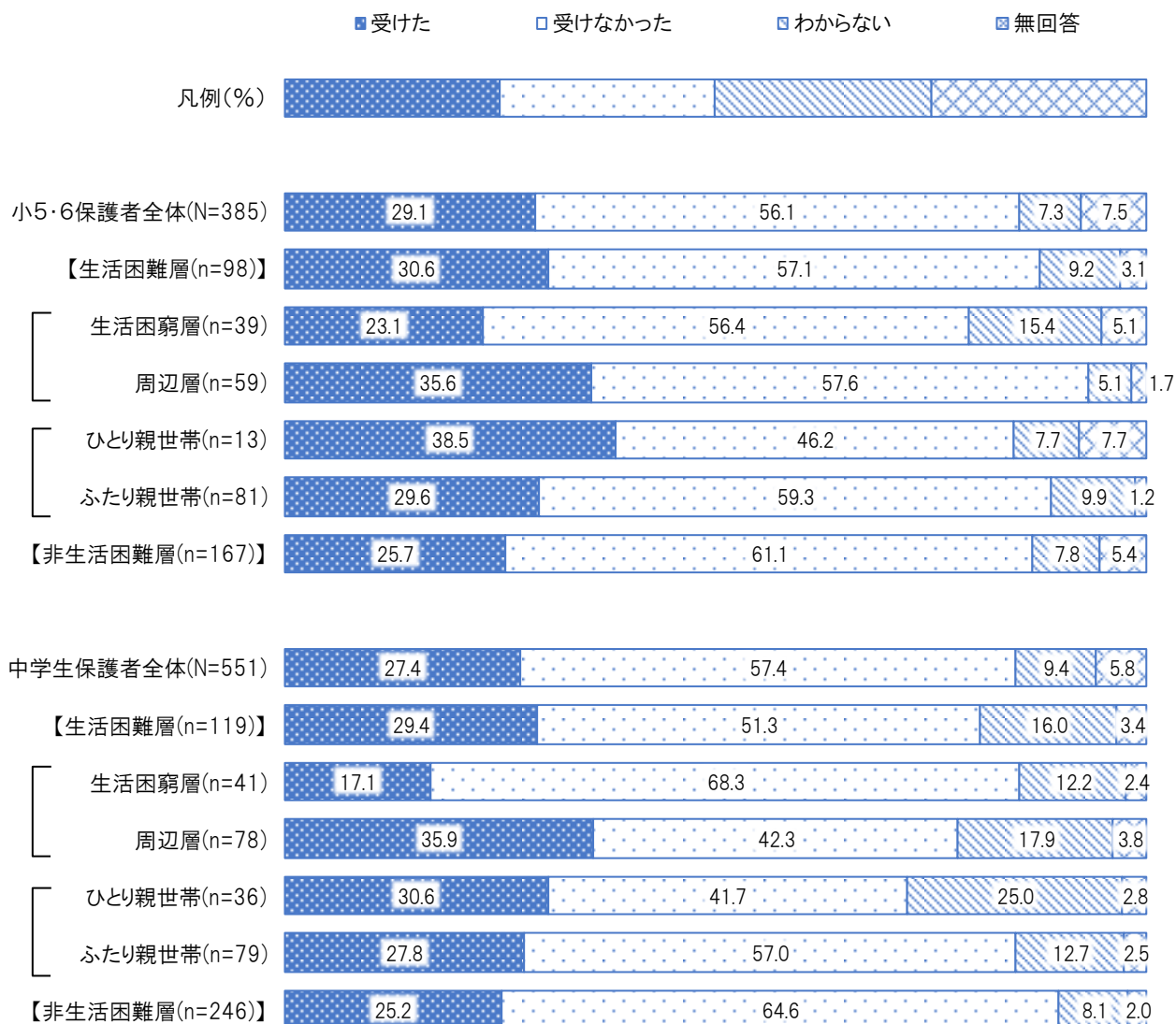
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「受けなかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



D 任意接種（水ぼうそう）

任意接種（水ぼうそう）について「受けた」割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で23.1%、周辺層で35.6%、中学生保護者では、生活困窮層で17.1%、周辺層で35.9%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

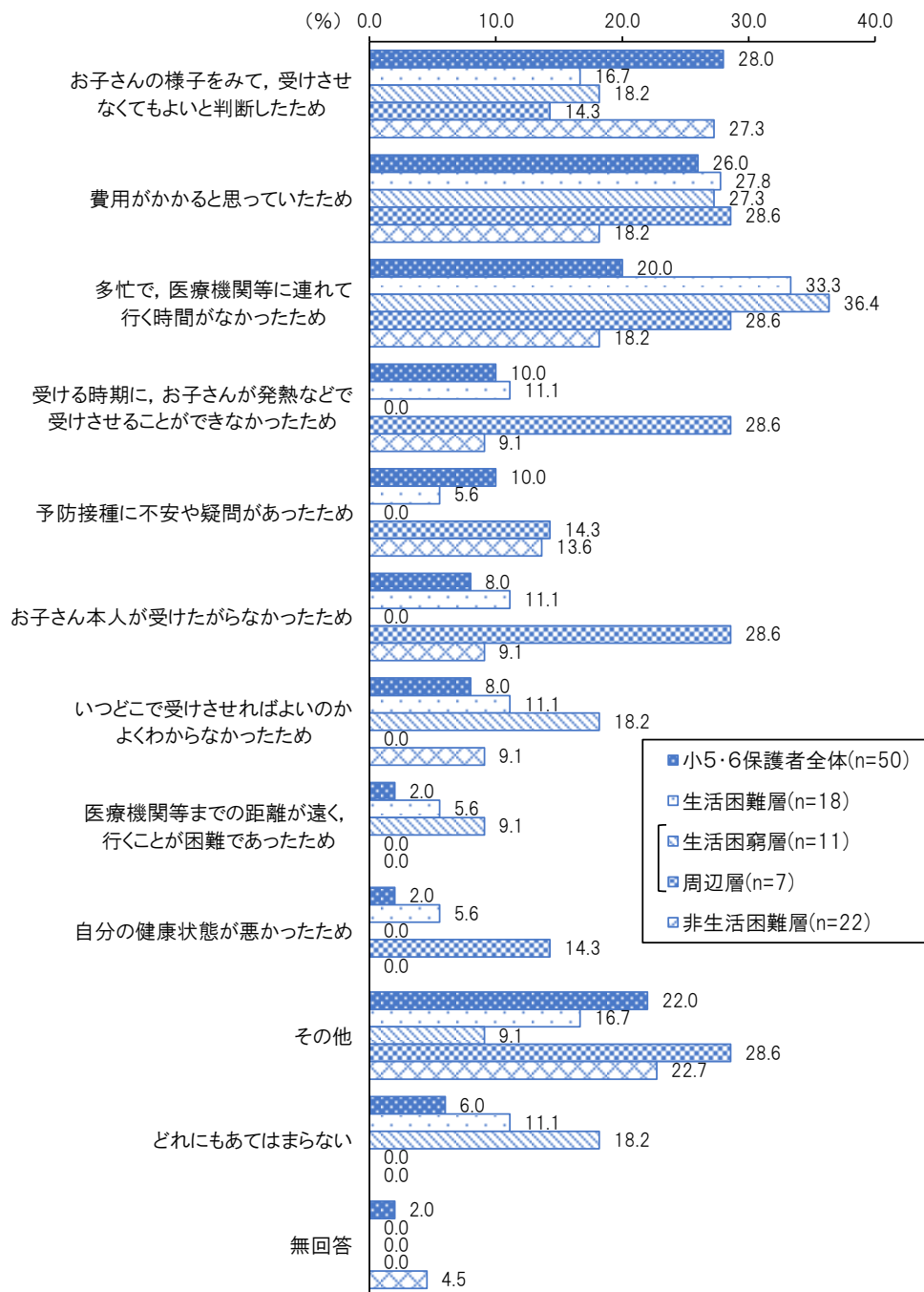
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「受けなかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



【問 17「A 定期予防接種」について「2 受けなかった」と回答した人におうかがいします。】
 保／問 17-1 定期予防接種を受けないことがあったのはなぜですか。
 (あてはまる番号すべてに○)

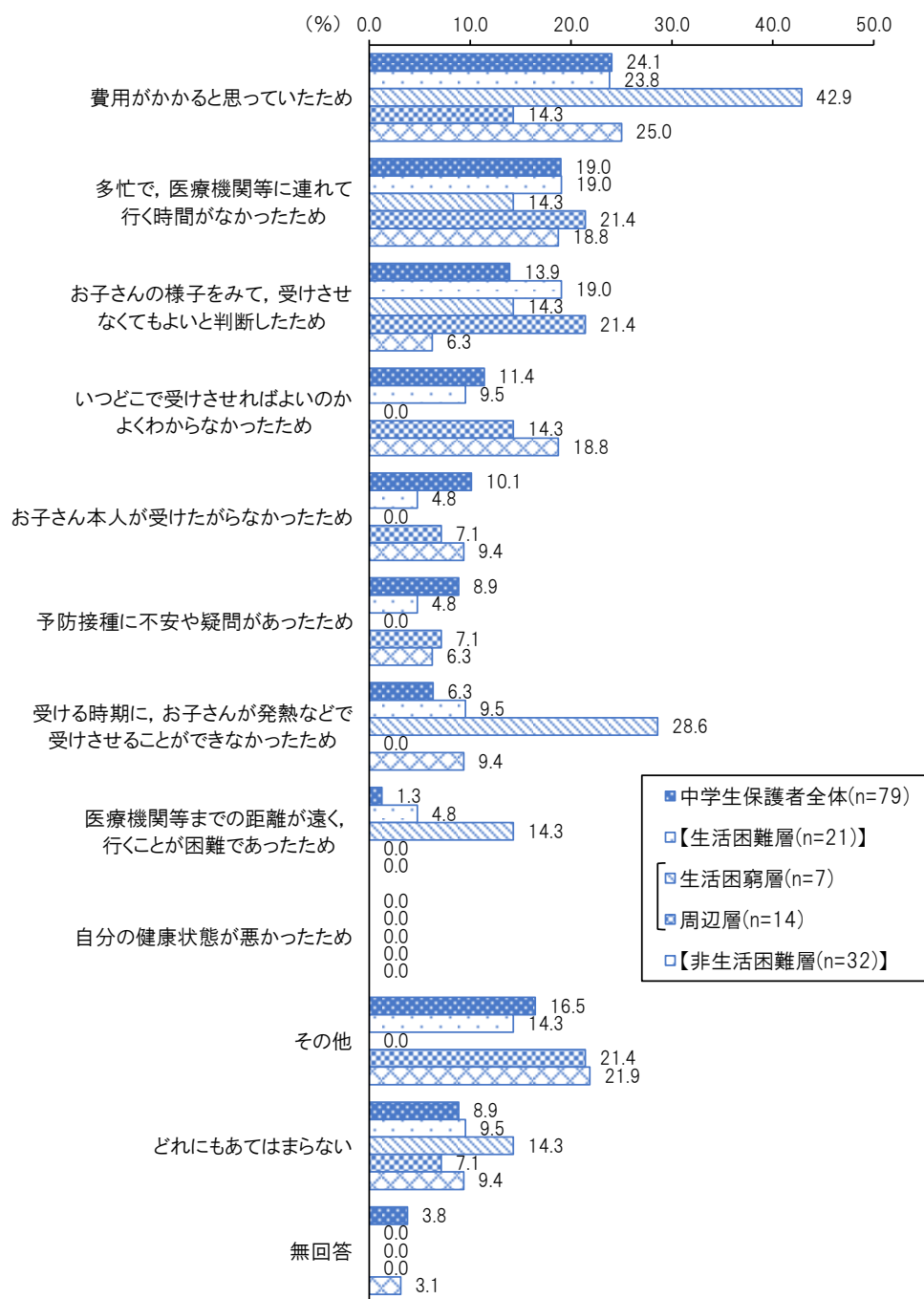
予防接種未接種の理由について、小学5・6年保護者全体では「お子さんの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため」が28.0%と最も高く、次いで「費用がかかると思っていたため」(26.0%)、「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため」(20.0%)の順となっている。

生活困難度別では、生活困難層は非生活困難層に比べて「費用がかかると思っていたため」「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため」の割合が高くなっている。



注：周辺層については、件数(n)が少ないため参考値として参照

中学生保護者全体では、「費用がかかると思っていたため」が24.1%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため」(19.0%)、「お子さんの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため」(13.9%)の順となっている。



注:生活困窮層については、件数(n)が少ないため参考値として参照

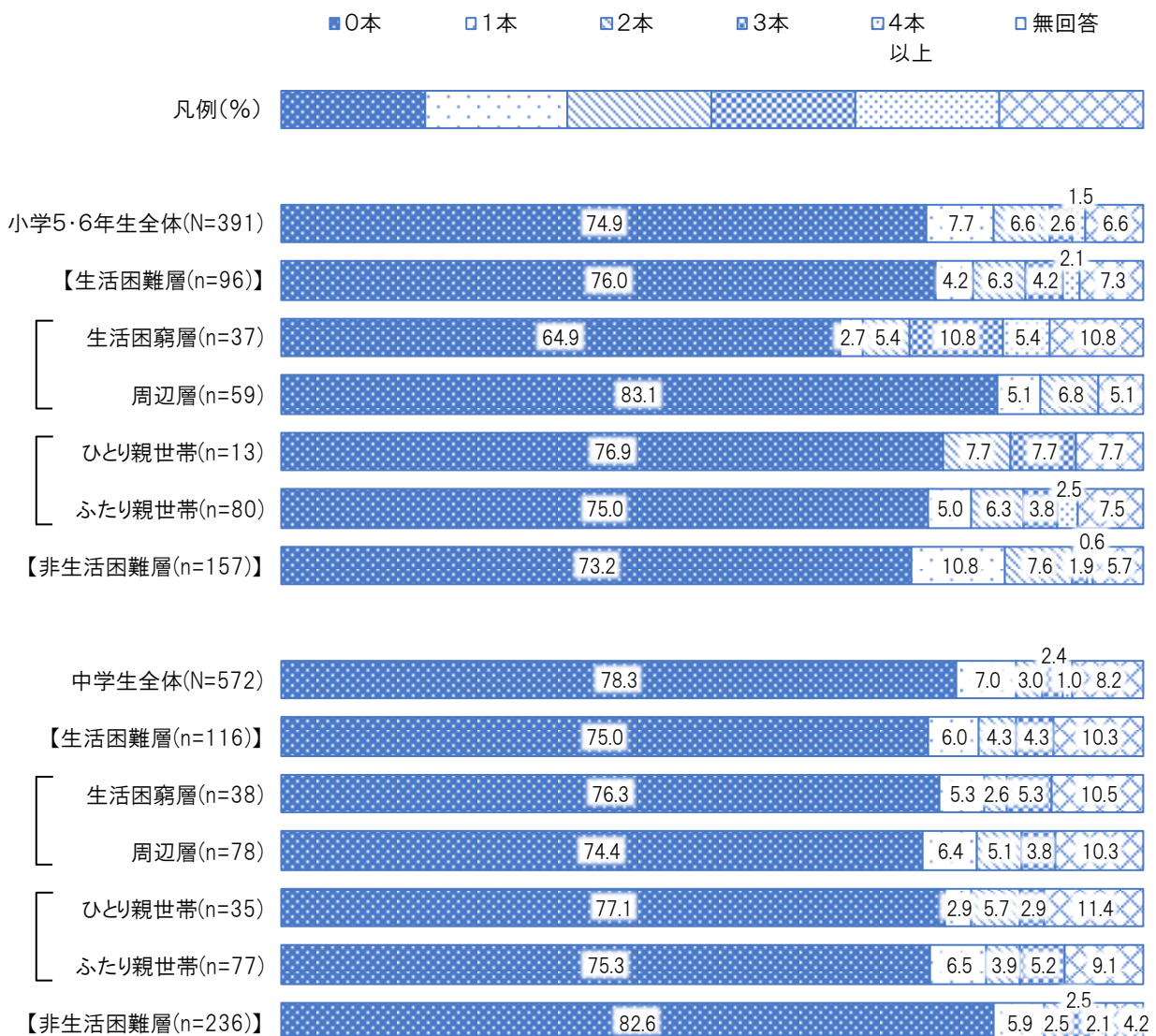
(5) 虫歯の本数

子／問 26 あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものも含まれます。（数字で教えてください）

※虫歯がない場合は、0本と書いてください。治療が終わったものは数えません。

虫歯の本数については、小学5・6年生全体では「0本」が74.9%、中学生全体では78.3%となっている。一方、『1本以上（合計）』の割合は、小学5・6年生全体では18.4%、中学生全体では13.4%となっている。

生活困難度別にみた「0本」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で64.9%、周辺層で83.1%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。中学生の生活困窮層で76.3%、周辺層で74.4%となっており、非生活困難層に比べてやや低くなっている。



(6) 身長・体重

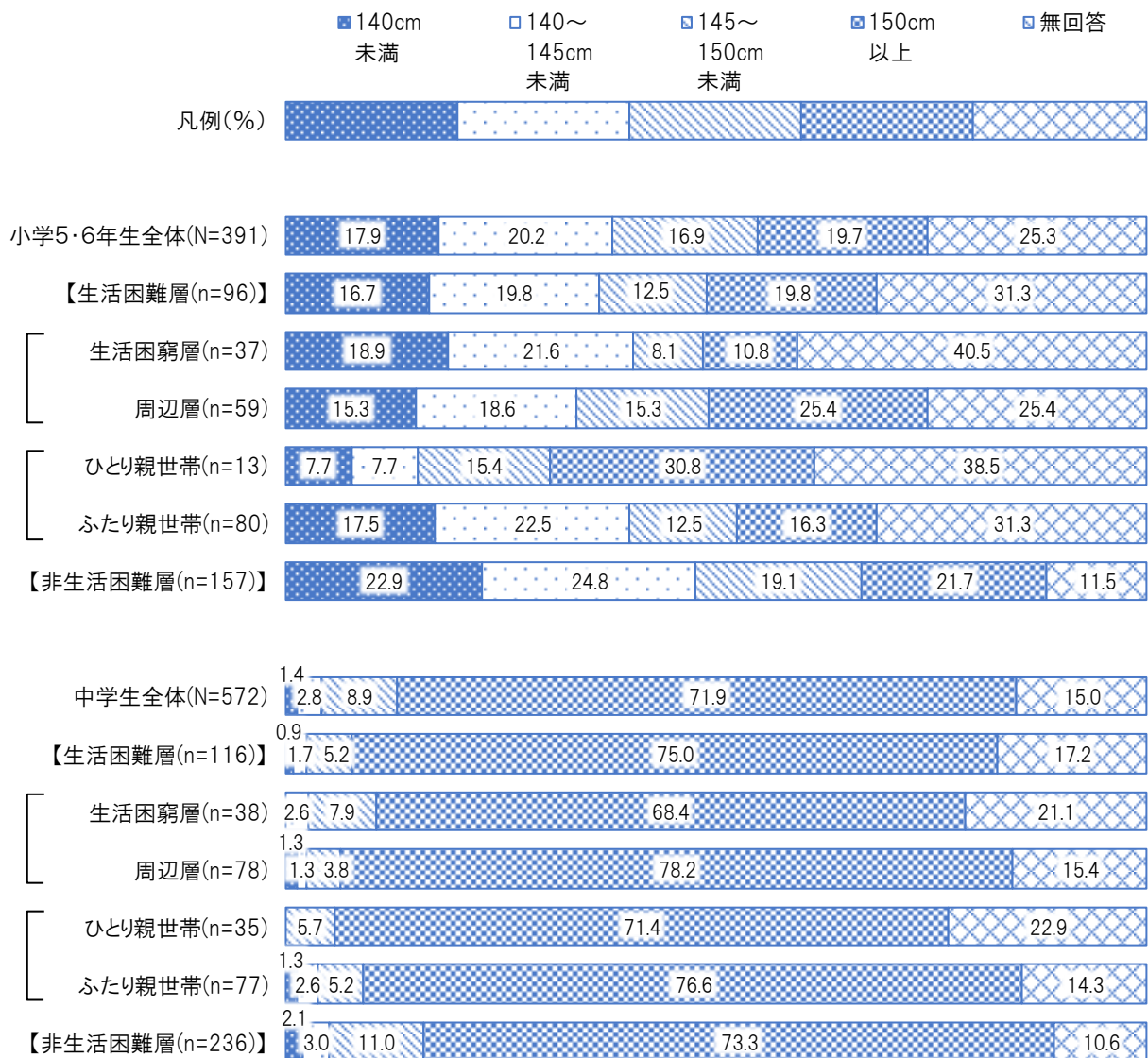
子／問2 あなたの身長・体重を教えてください。(カッコの中に数字で教えてください)

A 身長

身長について、小学5・6年生全体では「140～145cm 未満」が 20.2%と最も高く、次いで「150cm 以上」(19.7%)が続いている。中学生全体では「150cm 以上」が 71.9%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生,中学生ともに生活困窮層で「150cm 以上」の割合が非生活困難層に比べて低くなっている。

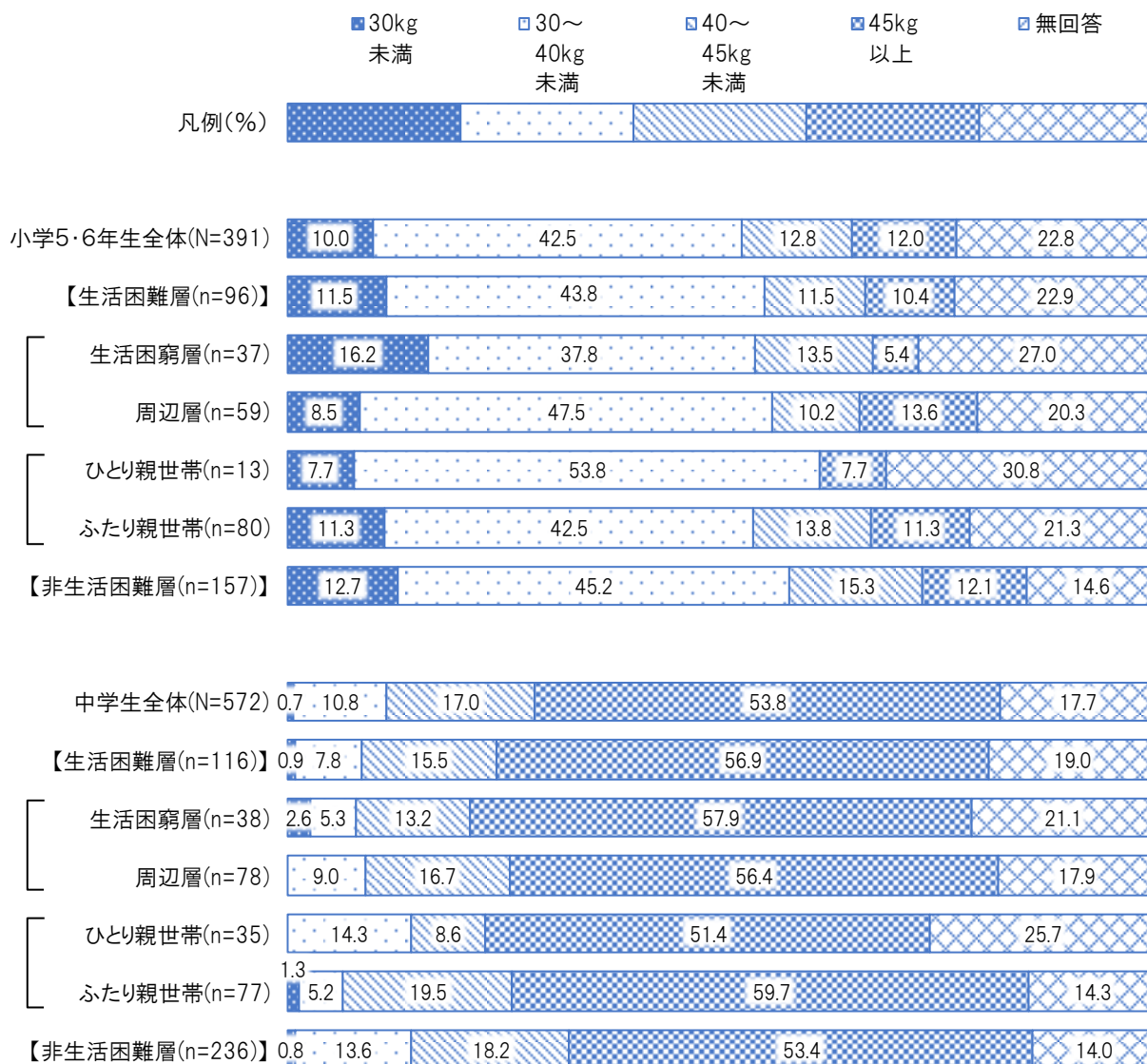
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「150cm 以上」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 体重

体重について、小学5・6年生全体では「30～40kg 未満」が42.5%、中学生全体では「45kg 以上」が53.8%とそれぞれ最も高くなっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困窮層で「30kg 未満」の割合が周辺層に比べて高くなっている。

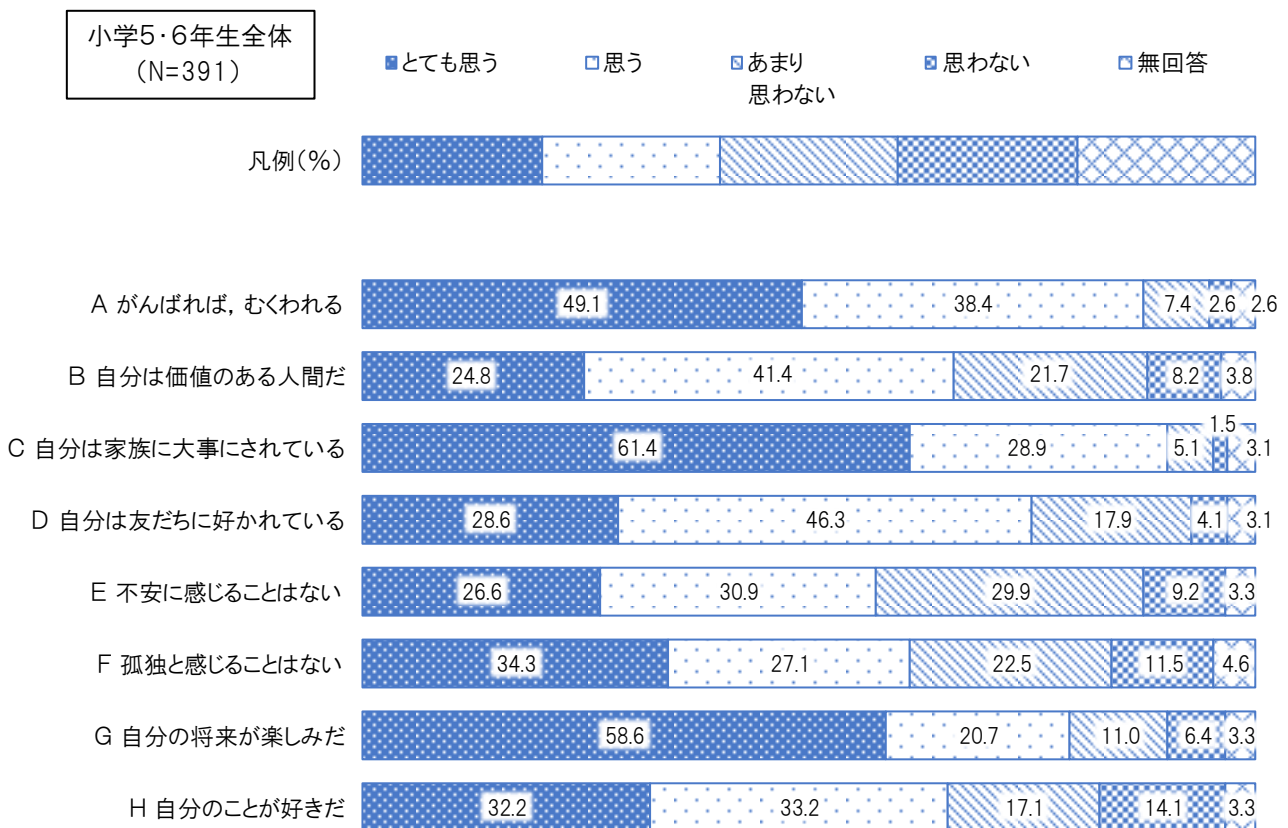


【2】自己肯定感

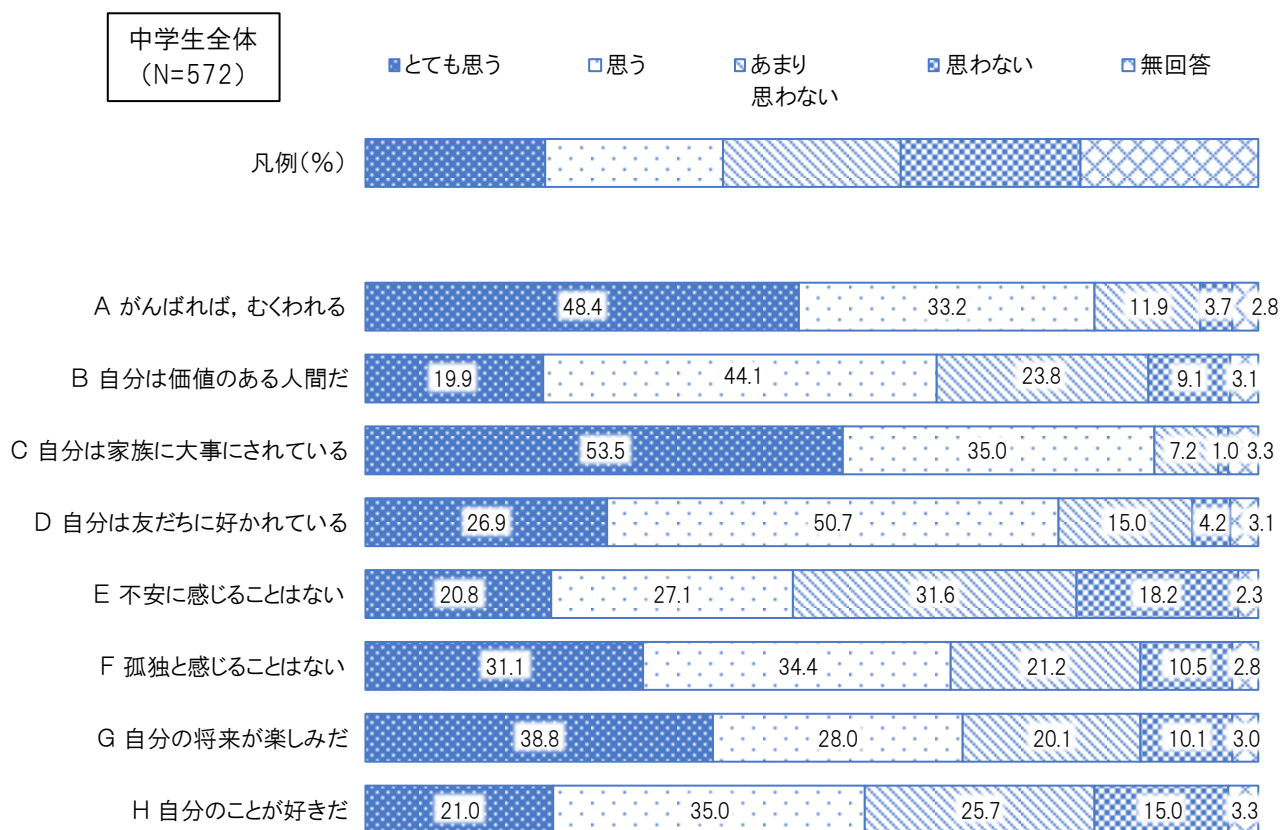
(1) 自己肯定感

子／問 38 あなたの思いや気持ちについて、「1とても思う」から「4思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

自己肯定感については、小学5・6年生全体では「とても思う」の割合が高い順に「C 自分は家族に大切にされている」(61.4%)、「G 自分の将来が楽しみだ」(58.6%)、「A がんばれば、むくわれる」(49.1%)となっている。また、「思わない」では「H 自分のことが好きだ」(14.1%)、「F 孤独と感ずることはない」(11.5%)、「E 不安に感ずることはない」(9.2%)などがあげられる。

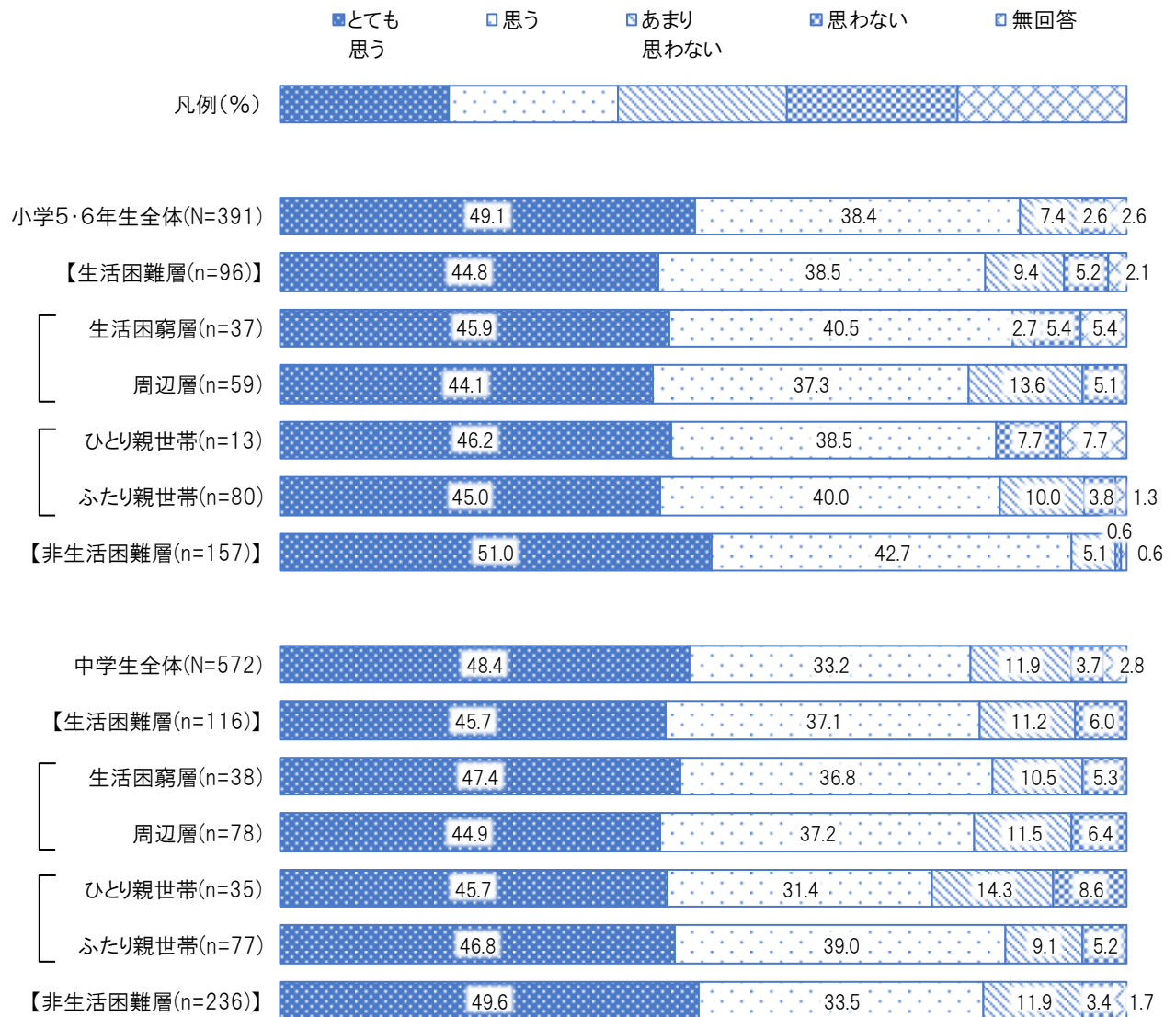


中学生全体では、「とても思う」の割合が高い順に「C 自分は家族に大事にされている」(53.5%)、「A がんばれば、むくわれる」(48.4%)、「G 自分の将来が楽しみだ」(38.8%)となっている。また、「思わない」では「E 不安に感じることはない」(18.2%)、「H 自分のことが好きだ」(15.0%)などがあげられる。

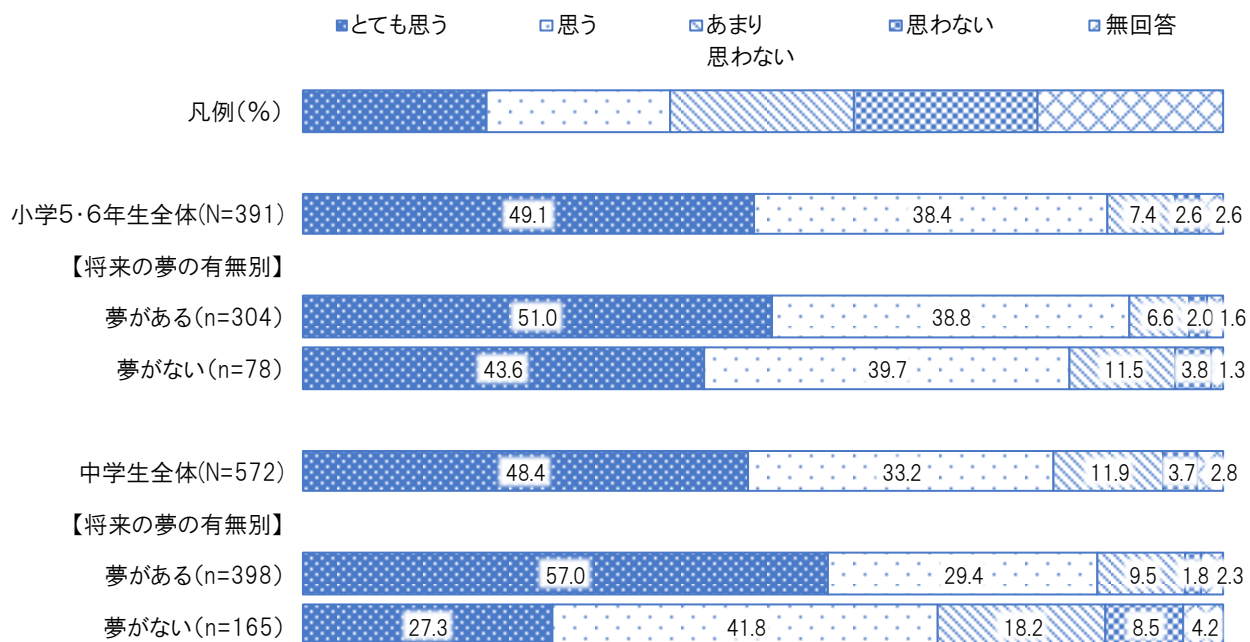


A がんばれば、むくわれる

がんばれば、むくわれると思うことについて、小学5・6年生の周辺層で「あまり思わない」の割合が13.6%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。



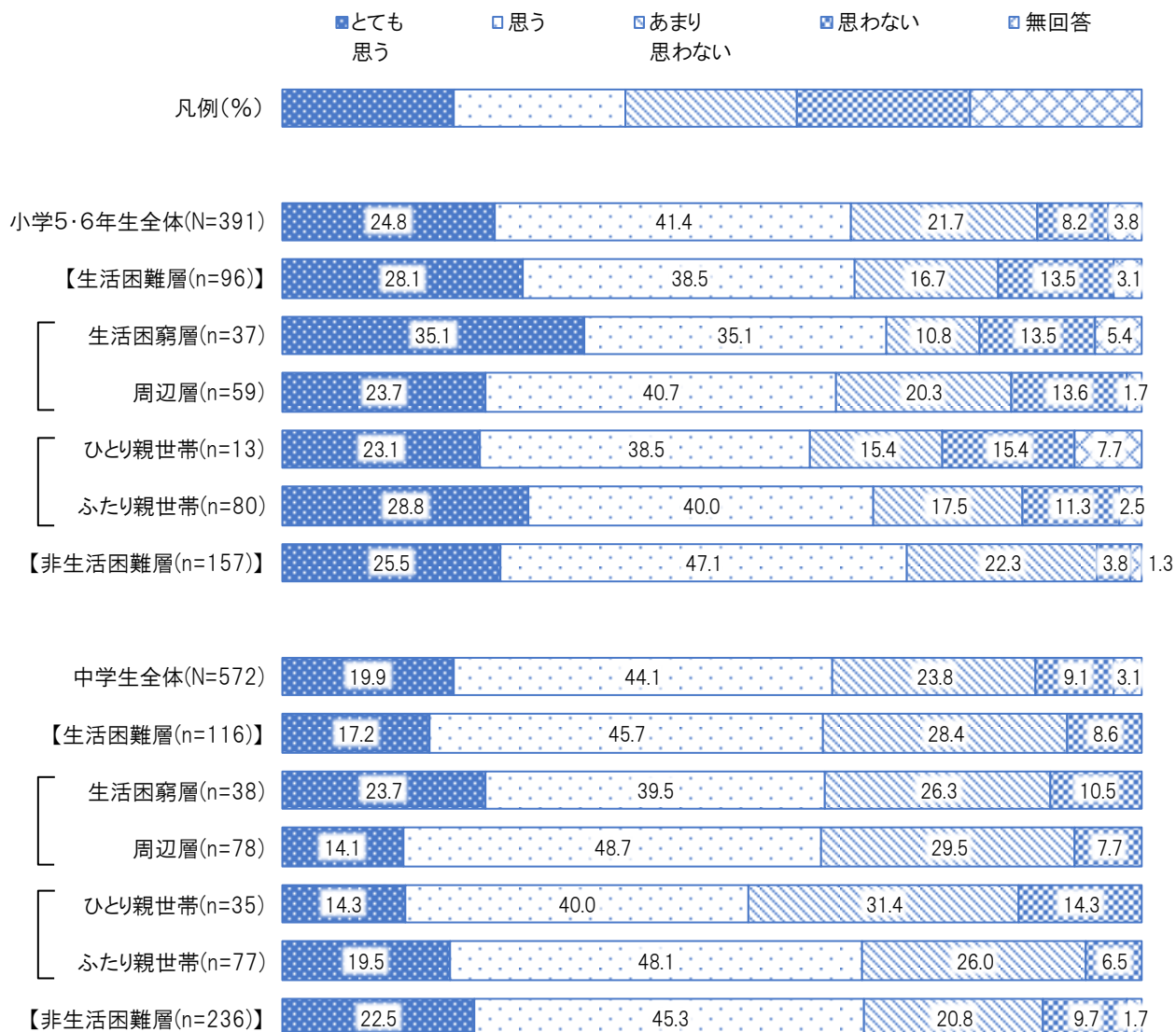
将来の夢の有無別（問5）でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「とても思う」の割合が高くなっている。



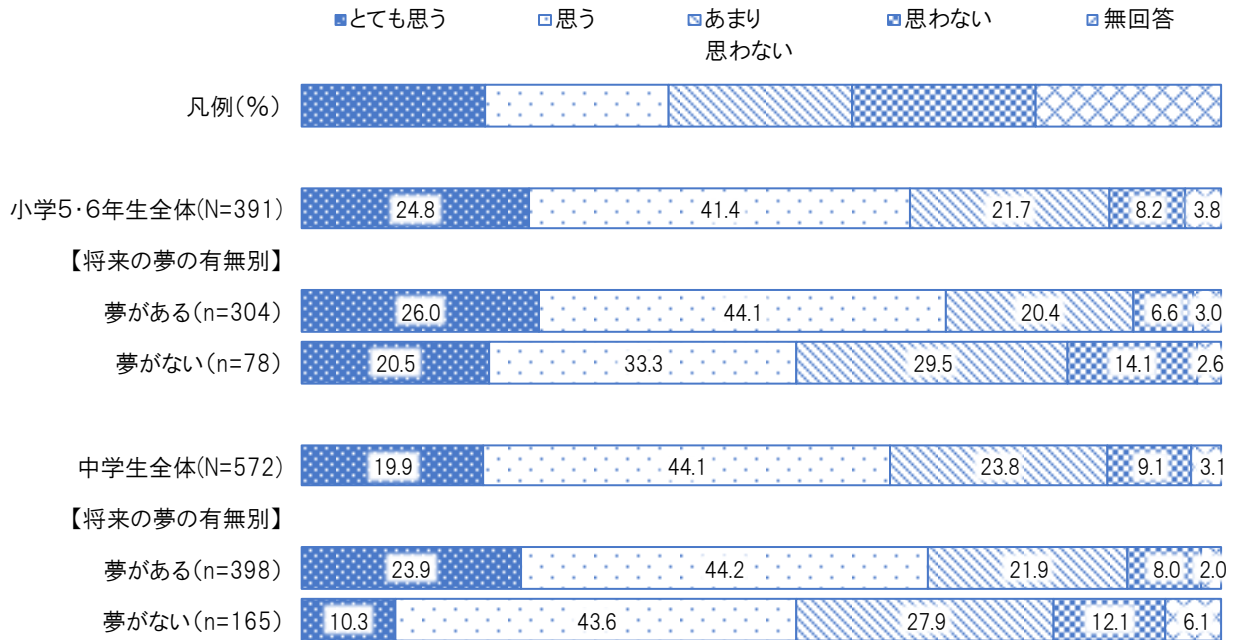
B 自分は価値のある人間だ

自分は価値のある人間だと思うことについて「思わない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%，周辺層で13.6%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「あまり思わない」「思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



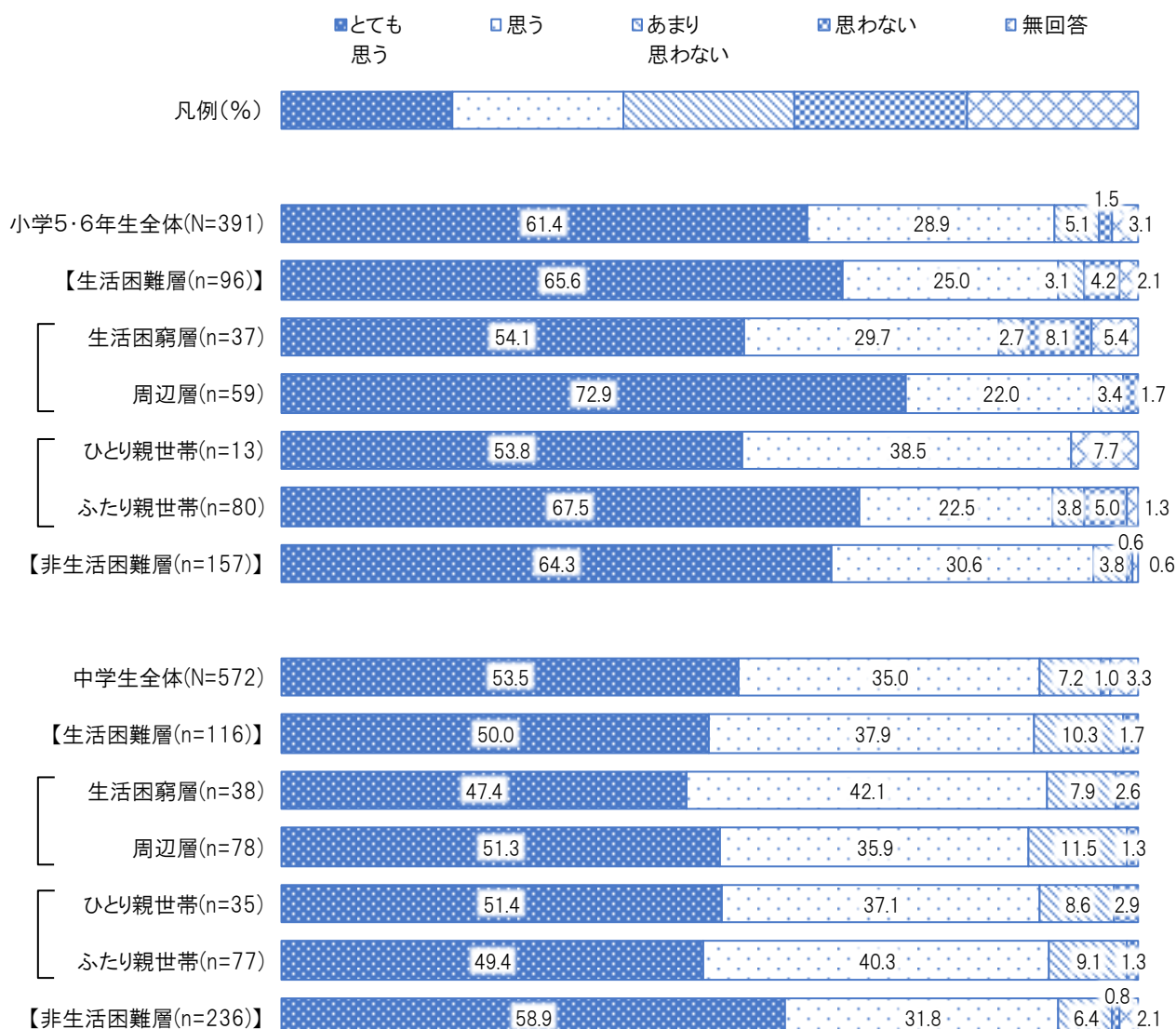
将来の夢の有無別（問5）でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「とても思う」の割合が高くなっている。



C 自分は家族に大事にされている

自分は家族に大事にされていると思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で 54.1%，周辺層で 72.9%となっており，生活困難度が高い層ほど低くなっている。中学生では，生活困窮層で 47.4%，周辺層で 51.3%となっており，非生活困窮層に比べて低くなっている。

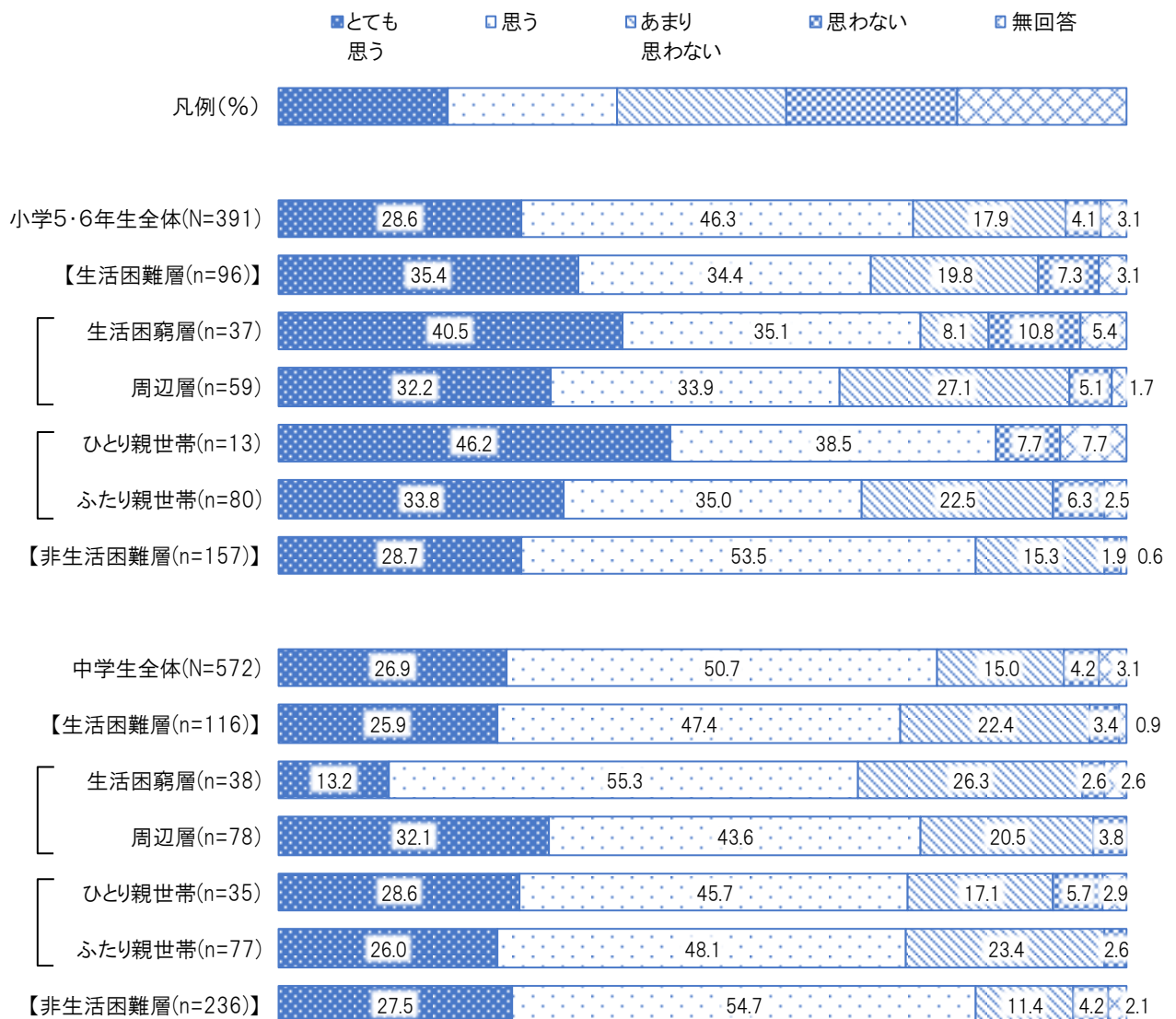
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のひとり親世帯で「とても思う」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



D 自分は友だちに好かれている

自分は友だちに好かれていると思うことについて「あまり思わない」の割合は、小学5・6年生の周辺層で27.1%となっており、生活困窮層を大きく上回っている。一方、中学生で「とても思う」の割合は、生活困窮層で13.2%、周辺層で32.1%となっており、生活困窮層で低くなっている。

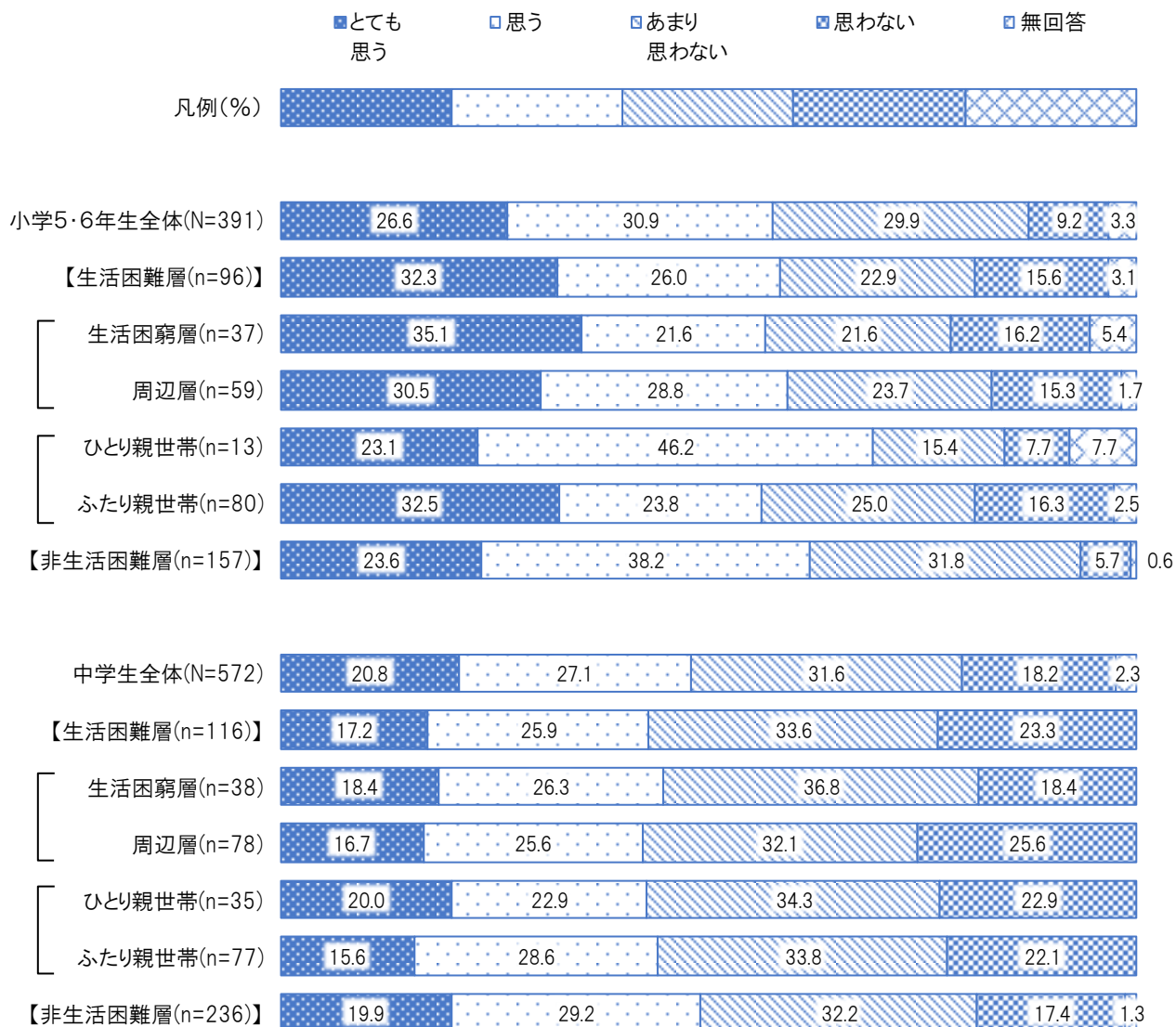
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「あまり思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



E 不安に感じることはない

不安に感じることはないと思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で35.1%、周辺層で30.5%、中学生では、生活困窮層で18.4%、周辺層で16.7%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。

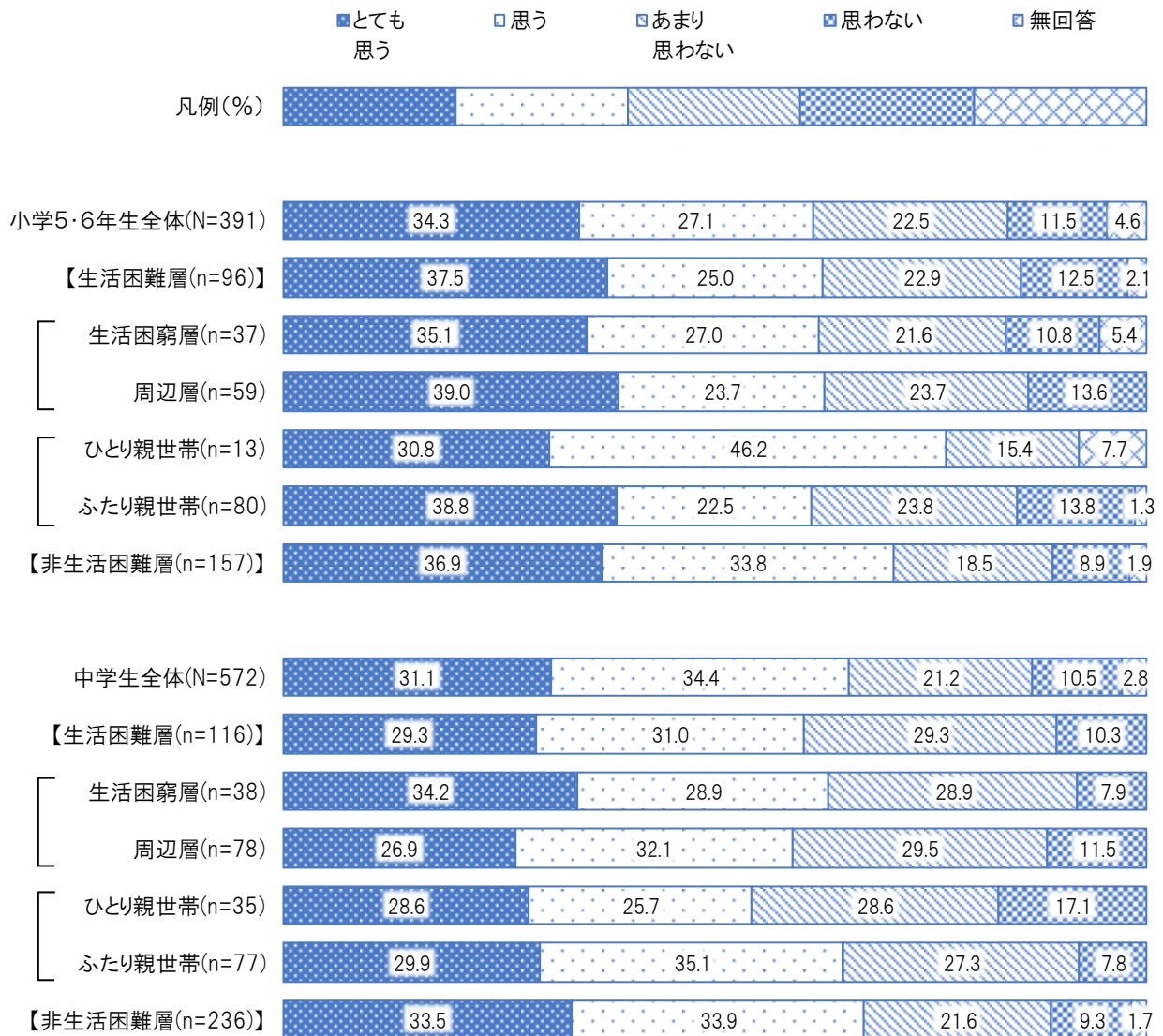
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「あまり思わない」「思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



F 孤独と感ずることはない

孤独と感ずることはないと思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で35.1%、周辺層で39.0%となっている。中学生では、生活困窮層で34.2%、周辺層で26.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

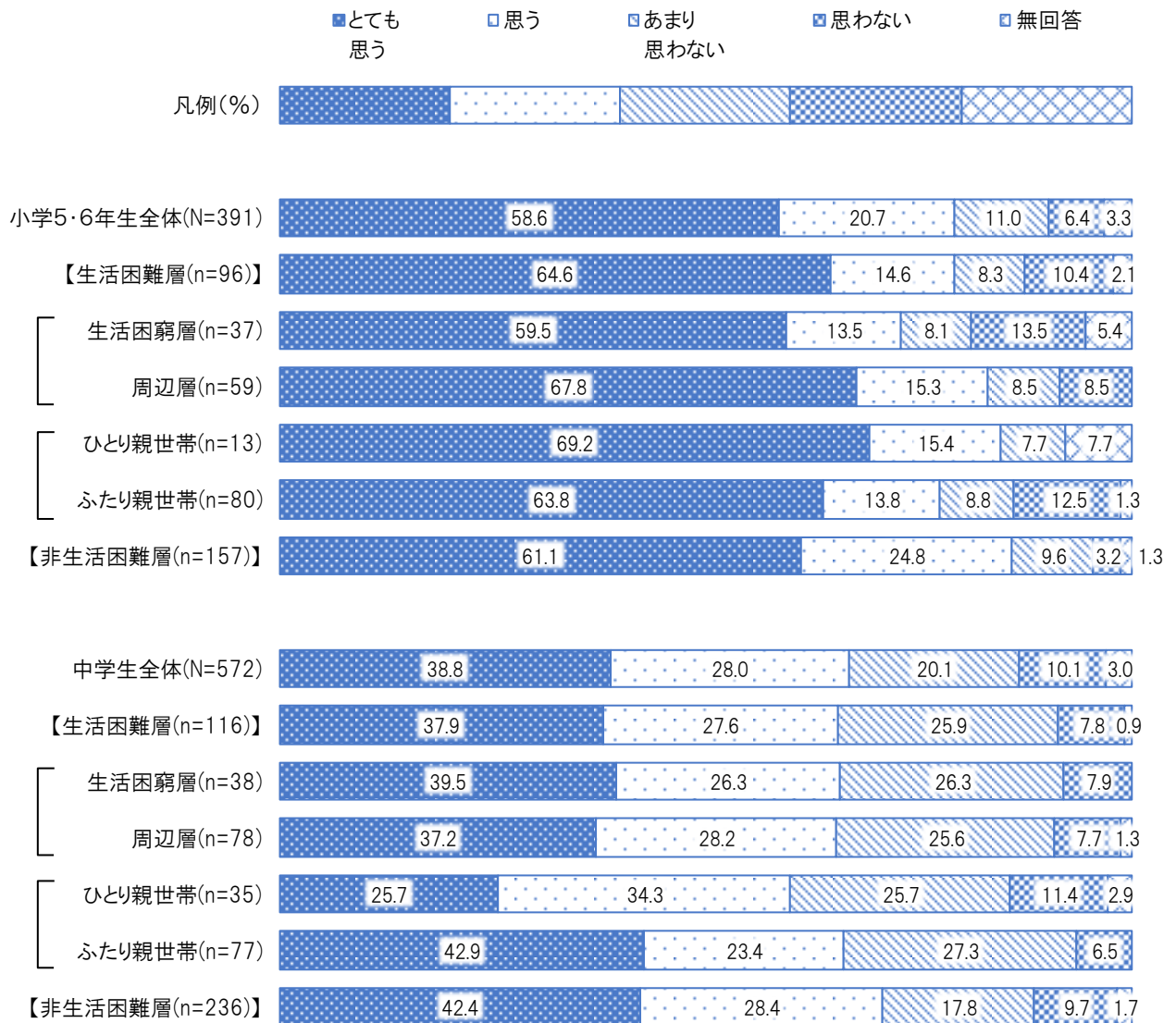
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「あまり思わない」「思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。一方、中学生のひとり親世帯で「思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



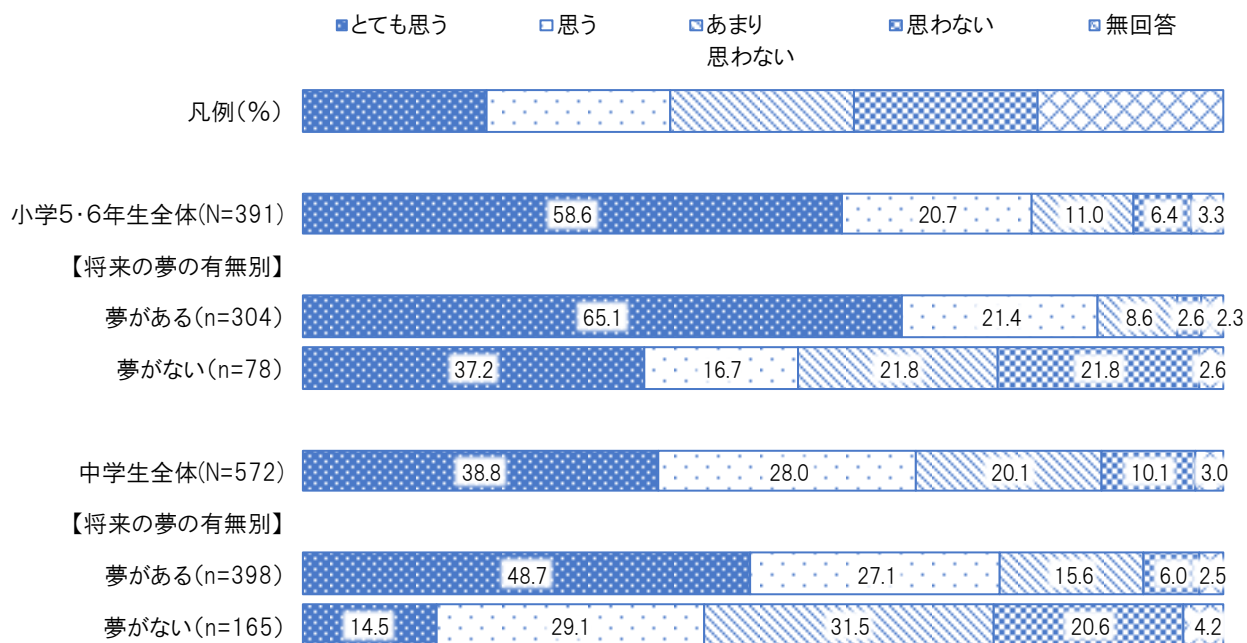
G 自分の将来が楽しみだ

自分の将来が楽しみだと思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で 59.5%，周辺層で 67.8%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生のひとり親世帯で「とても思う」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



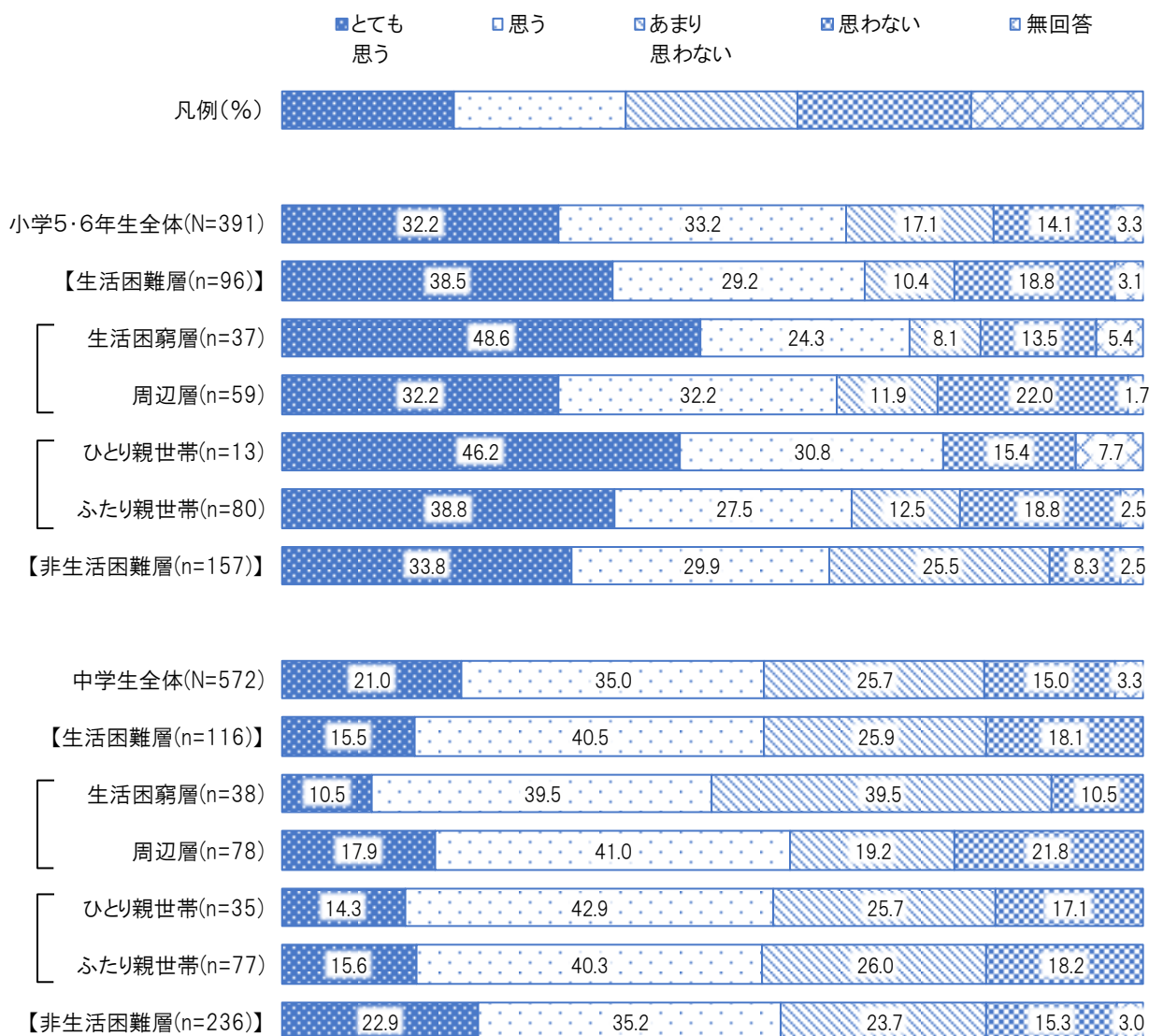
将来の夢の有無別（問5）で見ると、小学5・6年生、中学生ともに、夢がある層では「とても思う」の割合が、夢がない層を大きく上回っている。



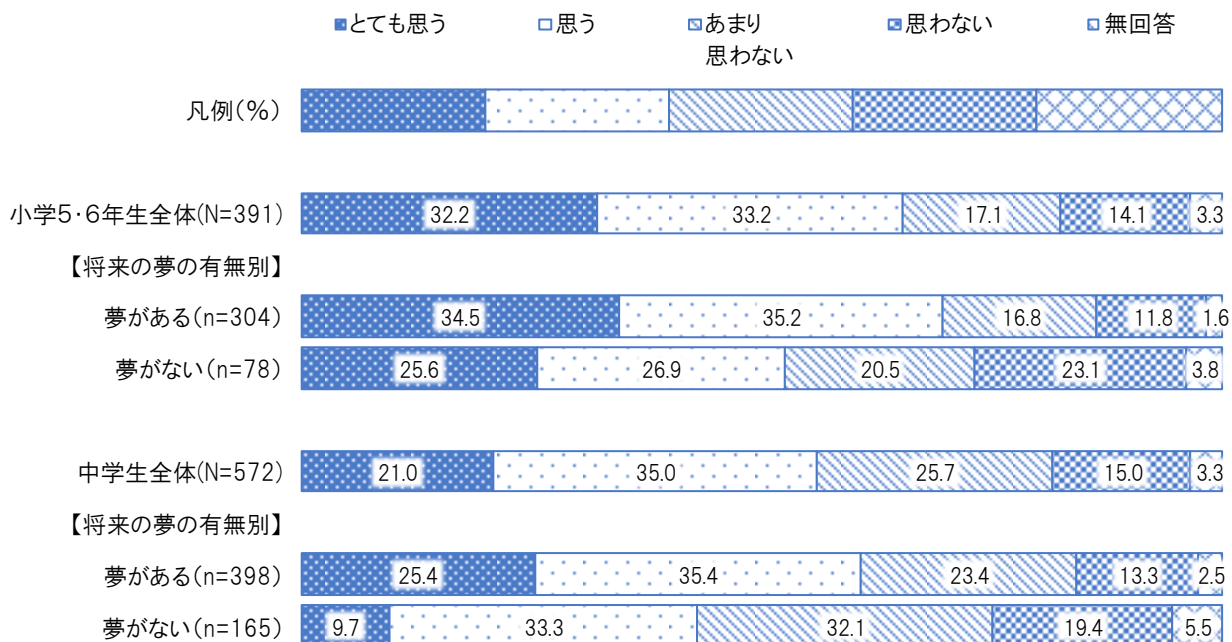
H 自分のことが好きだ

自分のことが好きだと思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%、周辺層で32.2%となっており、周辺層で低くなっている。中学生では、生活困窮層で「あまり思わない」の割合が39.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「とても思う」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



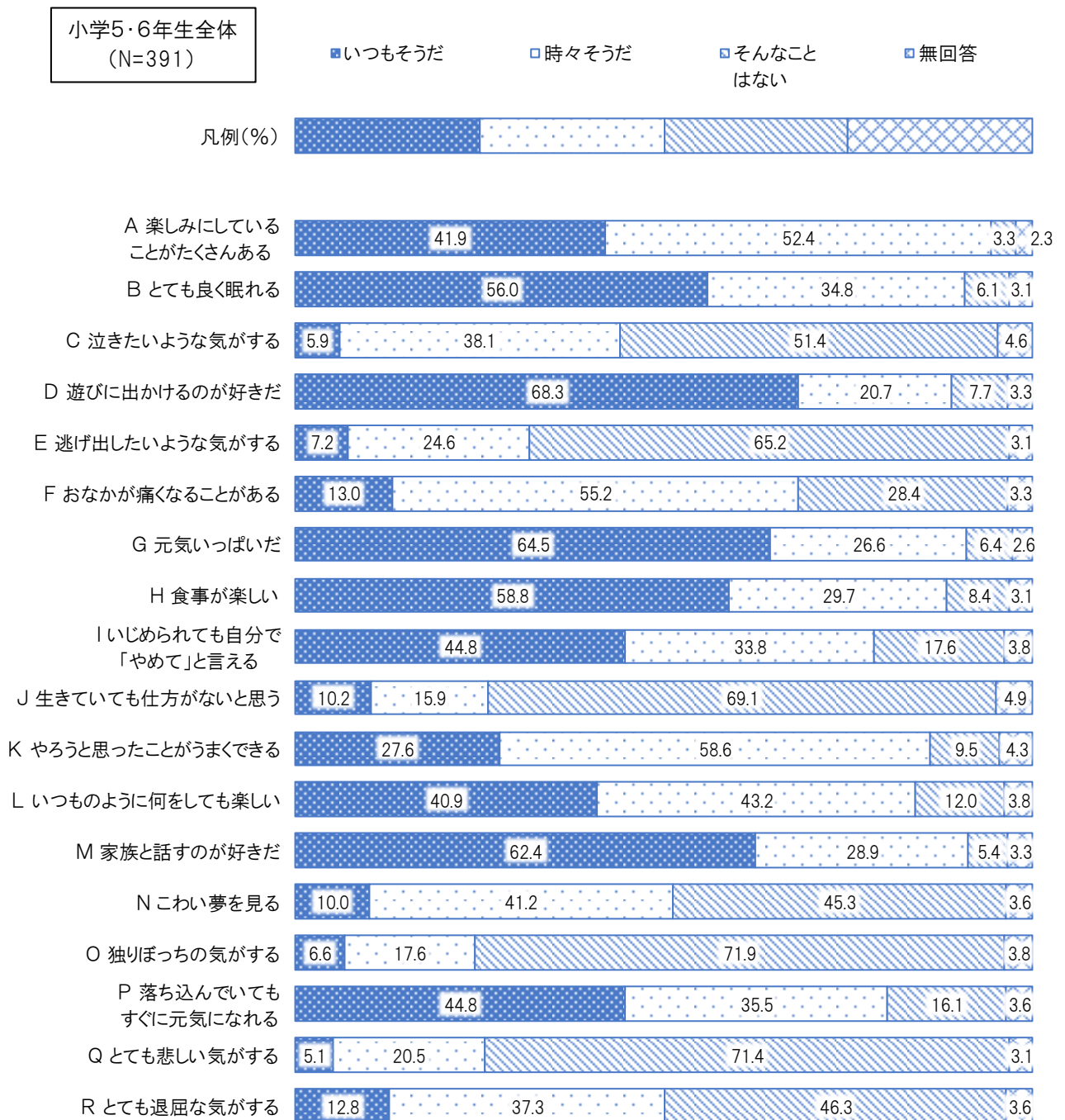
将来の夢の有無別（問5）でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「とても思う」の割合が高くなっている。



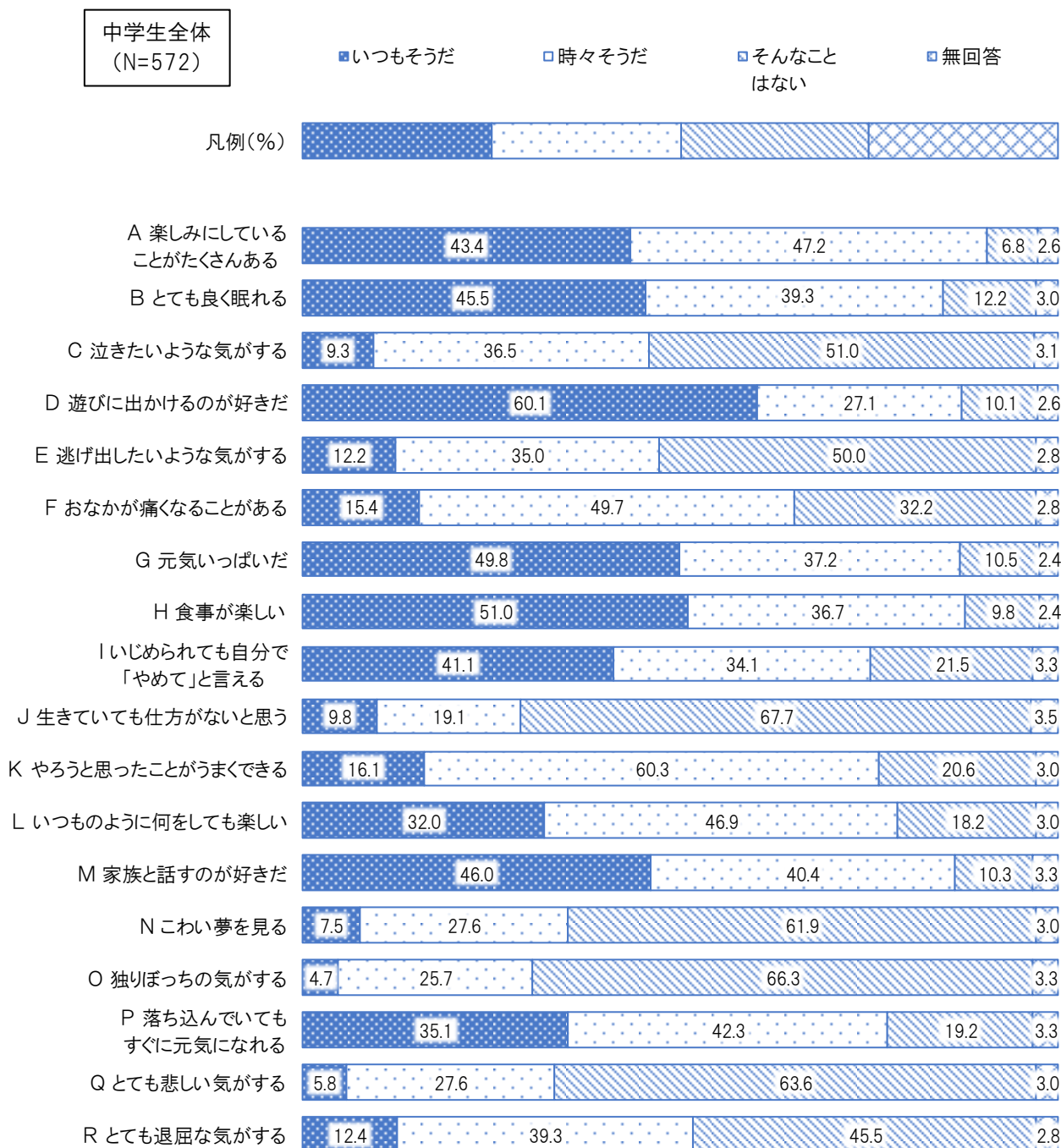
(2) 心の状態

子／問 40 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。この1週間はどんな1週間だったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

心の状態については、小学5・6年生全体では「いつもそうだ」の割合が高い順に「D 遊びに出かけるのが好きだ」(68.3%)、「G 元気いっぱいだ」(64.5%)、「M 家族と話すのが好きだ」(62.4%)となっている。一方、「そんなことはない」では「O 独りぼっちな気がする」(71.9%)、「Q とても悲しい気がする」(71.4%)、「J 生きていても仕方がないと思う」(69.1%)などがあげられる。



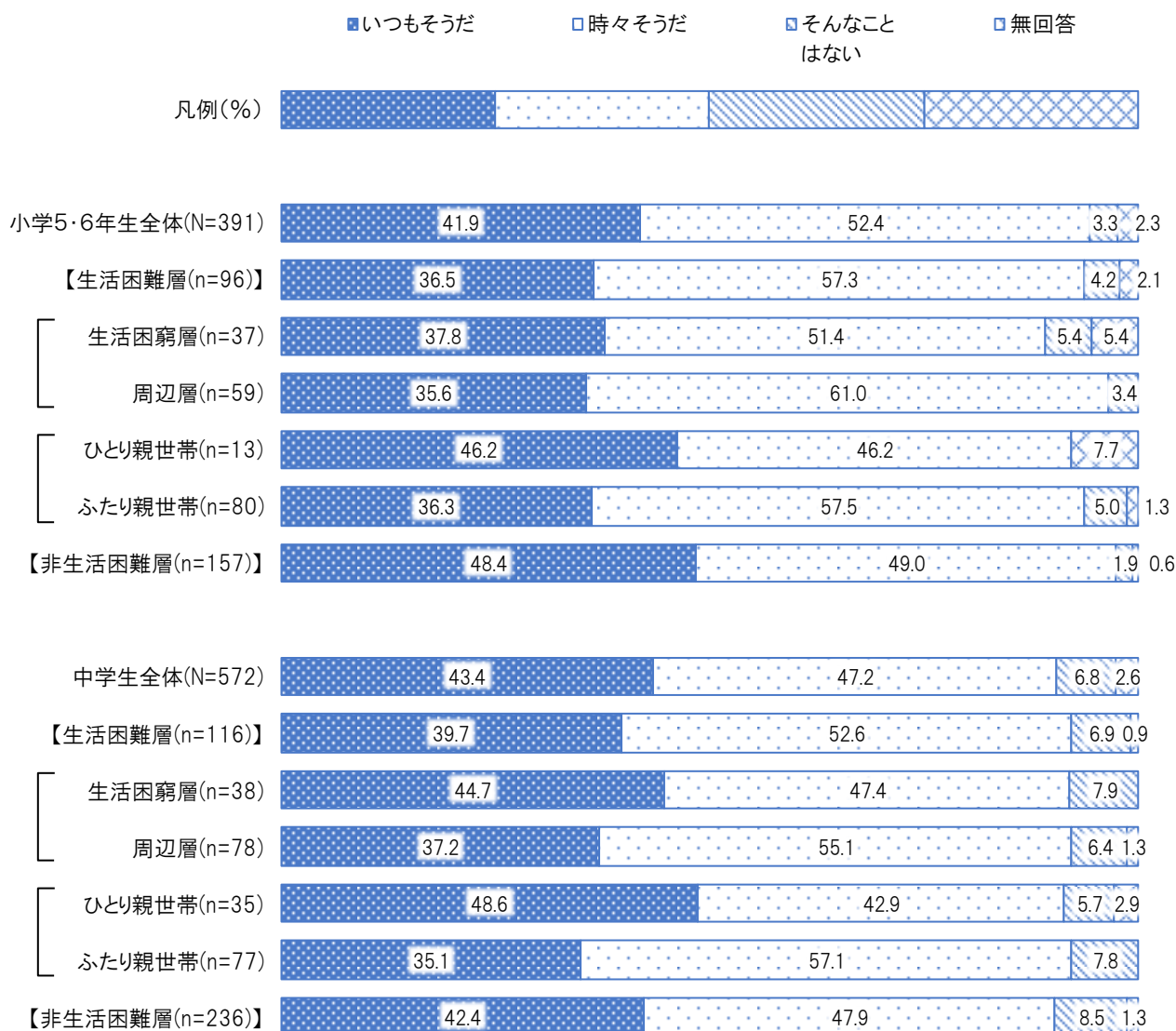
中学生全体では、「いつもそうだ」の割合が高い順に「D 遊びに出かけるのが好きだ」(60.1%)、「H 食事が楽しい」(51.0%)、「G 元気いっぱいだ」(49.8%)となっている。一方、「そんなことはない」では「J 生きていても仕方がないと思う」(67.7%)、「O ひとりぼっちな気がする」(66.3%)、「Q とても悲しい気がする」(63.6%)、「N こわい夢を見る」(61.9%)などがあげられる。



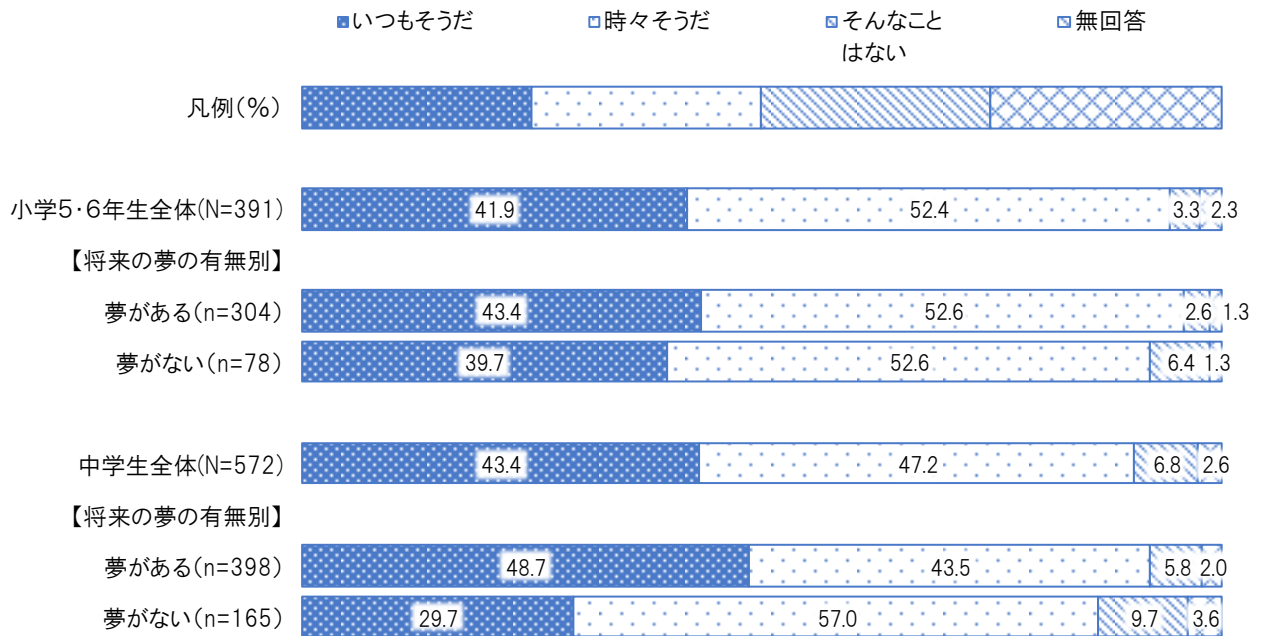
A 楽しみにしていることがたくさんある

楽しみにしていることがたくさんあることについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で37.8%、周辺層で35.6%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。中学生では、生活困窮層で44.7%、周辺層で37.2%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにふたり親世帯で「いつもそうだ」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



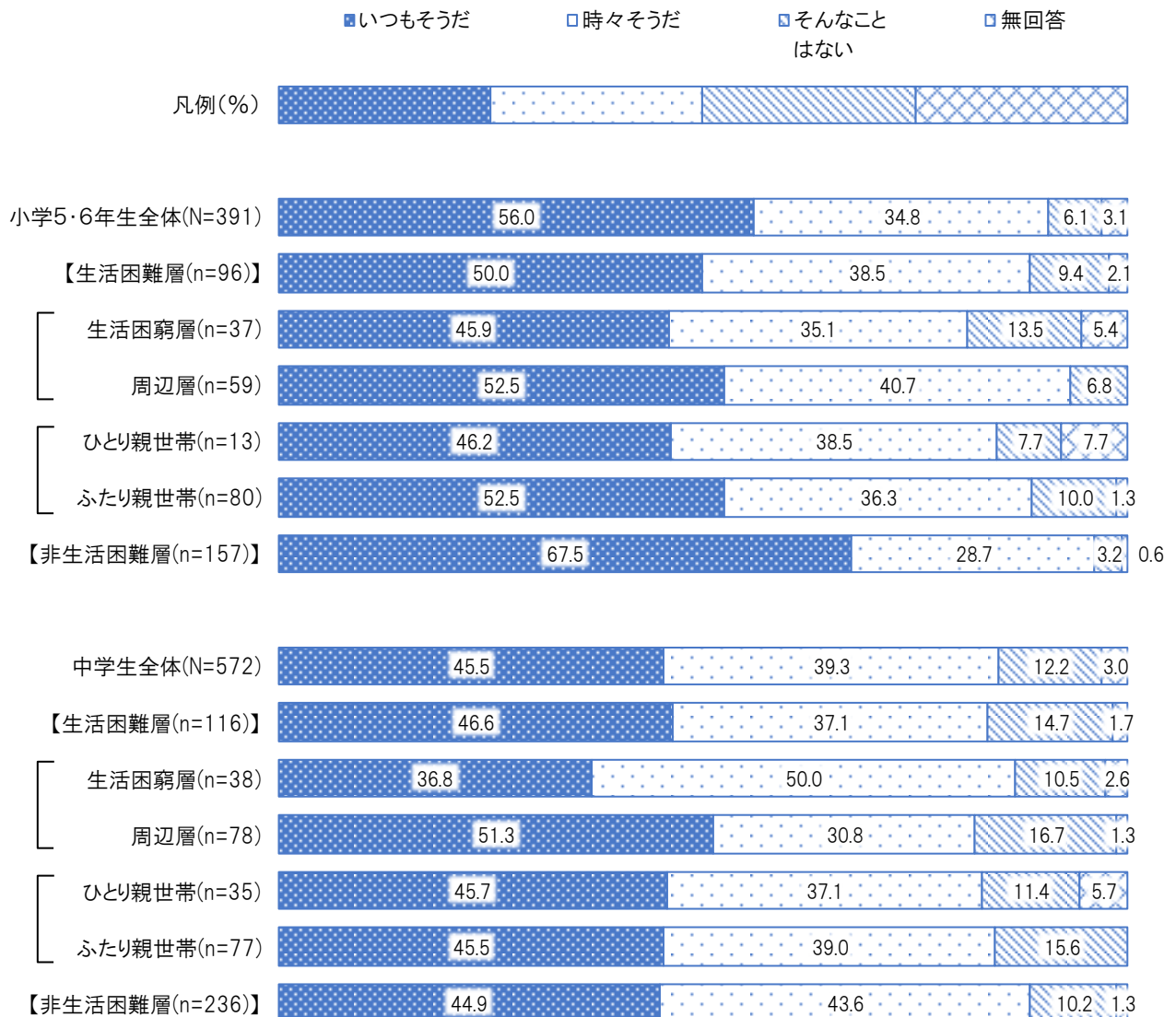
中学生について将来の夢の有無別（問5）でみると、夢がある層では、夢がない層に比べ「いつもそうだ」の割合が高くなっている。



B とても良く眠れる

とても良く眠れることについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で45.9%、周辺層で52.5%、中学生では、生活困窮層で36.8%、周辺層で51.3%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

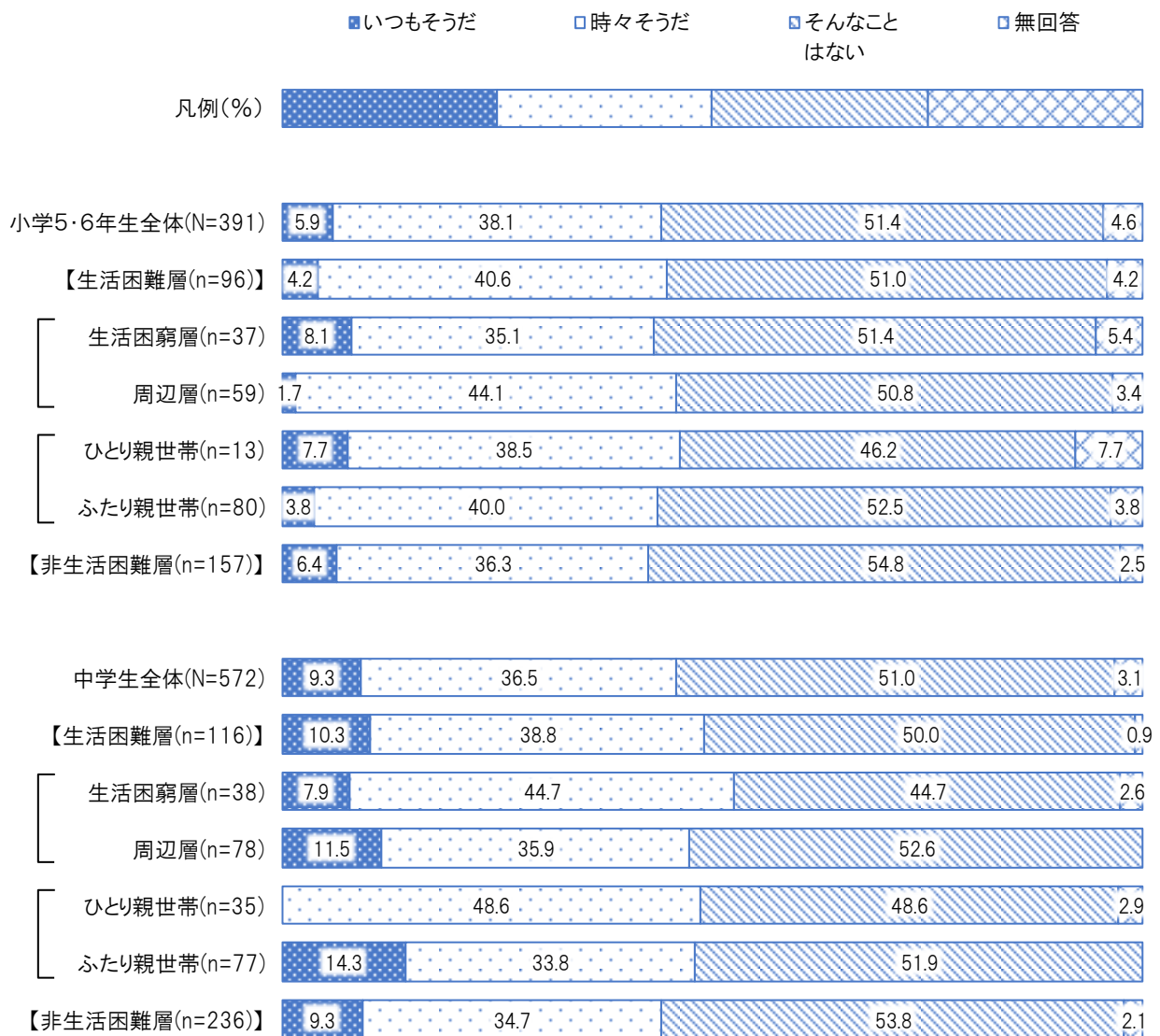
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べてやや低くなっている。



C 泣きたいような気がする

泣きたいような気がするということについて「いつもそうだ」「時々そうだ」の合計は、中学生の生活困窮層で52.6%、周辺層で47.4%となっており、生活困窮層で高くなっている。

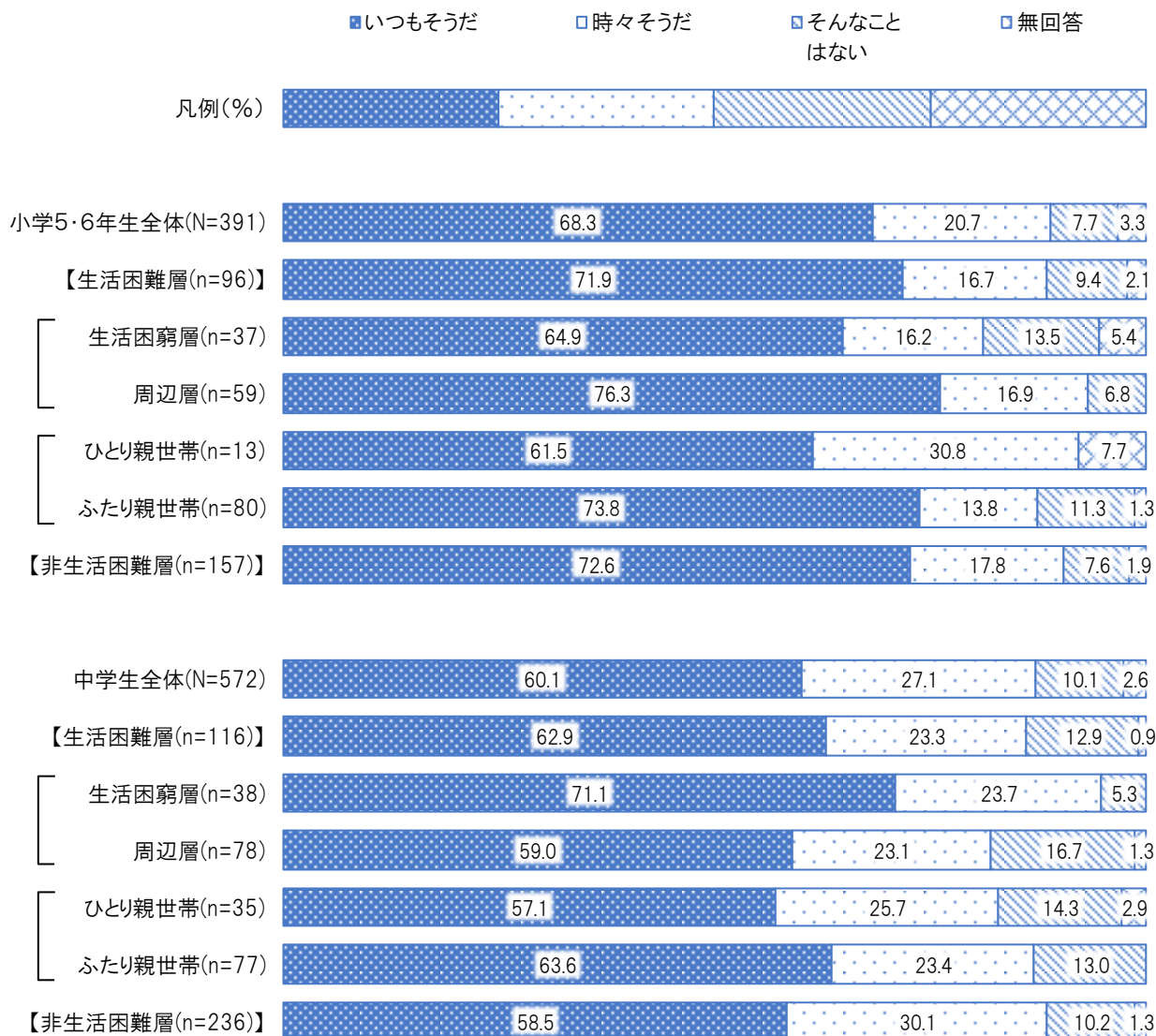
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「いつもそうだ」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



D 遊びに出かけるのが好きだ

遊びに出かけるのが好きであることについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で64.9%、周辺層で76.3%となっており、生活困窮層で低くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で71.1%、周辺層で59.0%となっており、生活困難度が高い層ほど高くなっている。

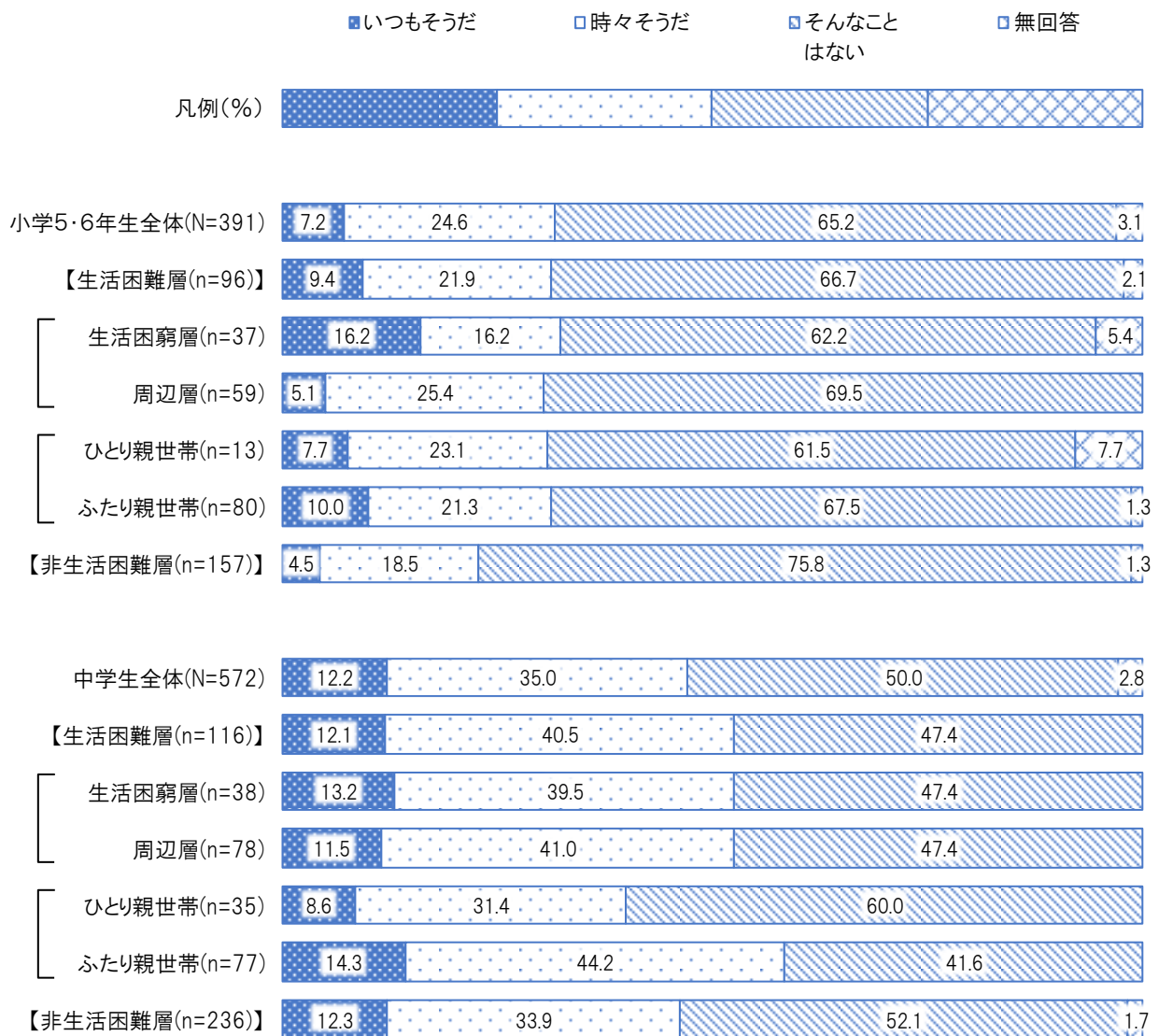
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



E 逃げ出したいような気がする

逃げ出したいような気がするについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で5.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

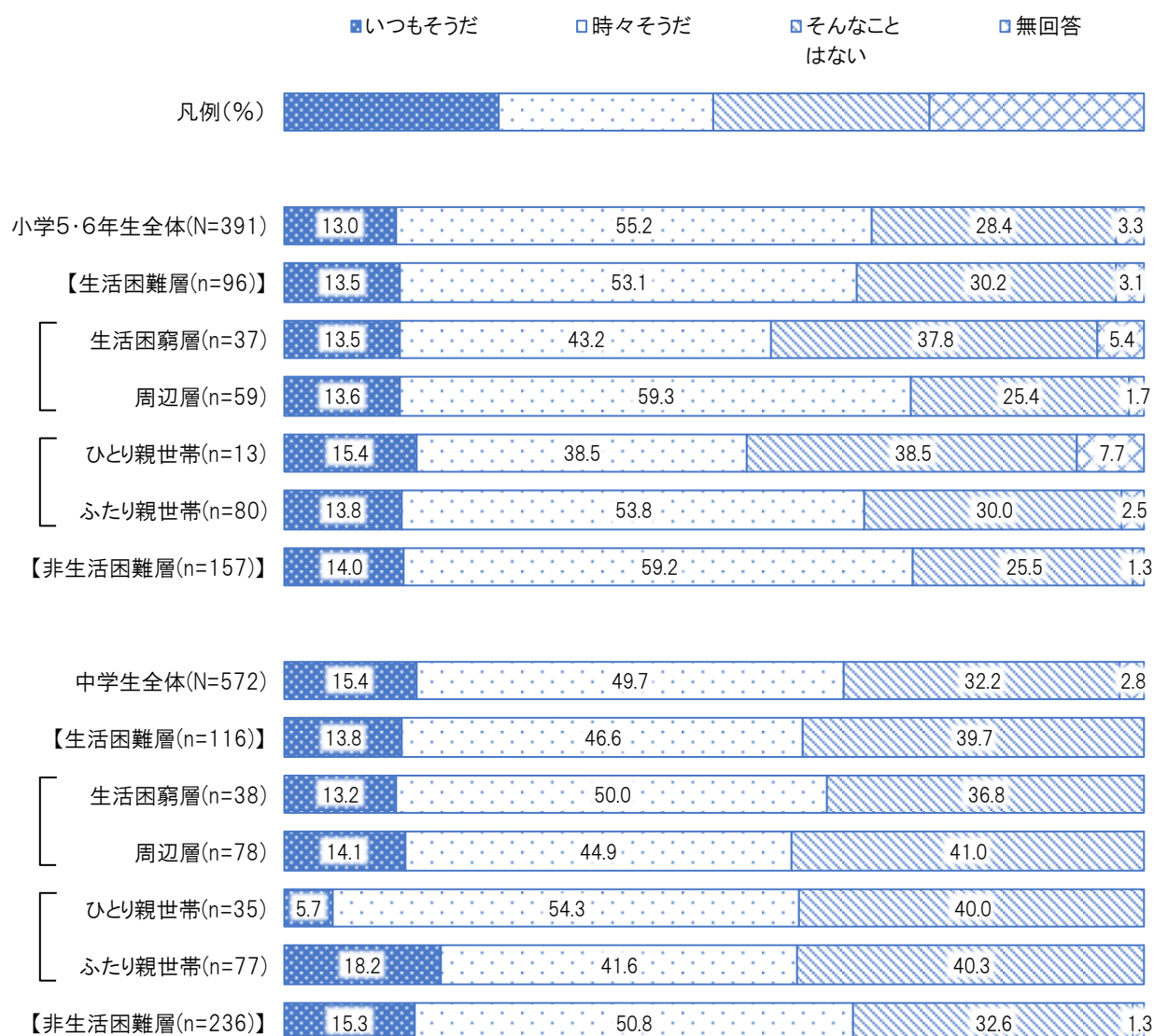
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「時々そうだ」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



F おなかが痛くなることがある

おなかが痛くなることがあることについて「時々そうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で43.2%，周辺層で59.3%となっており，周辺層で高くなっている。

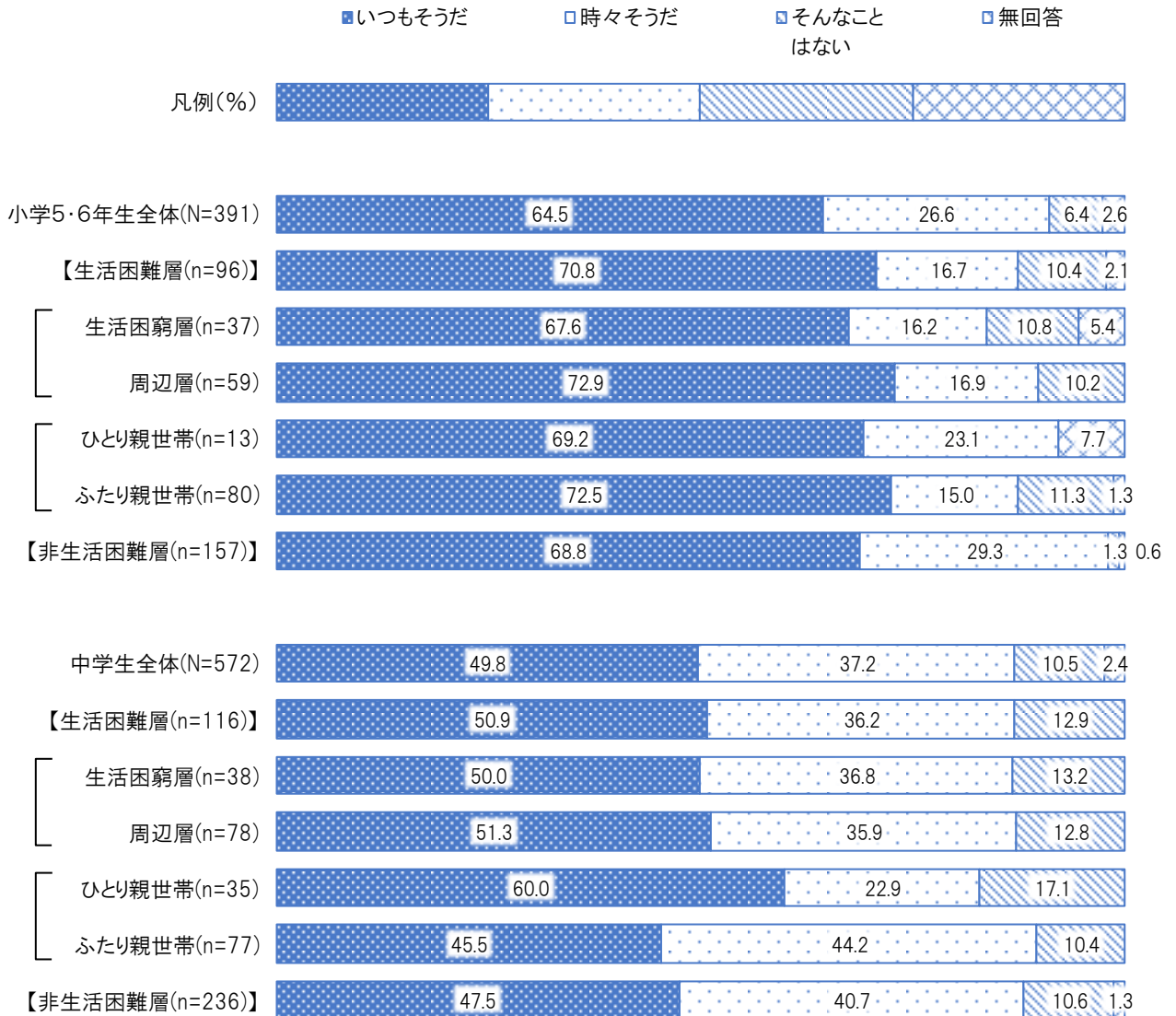
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年生のふたり親世帯で「時々そうだ」，中学生のふたり親世帯で「いつもそうだ」の割合がひとり親世帯に比べてそれぞれ高くなっている。



G 元気いっぱいだ

元気いっぱいであることについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で67.6%，周辺層で72.9%，中学生では，生活困窮層で50.0%，周辺層で51.3%となっており，生活困難度による大きな差はみられない。

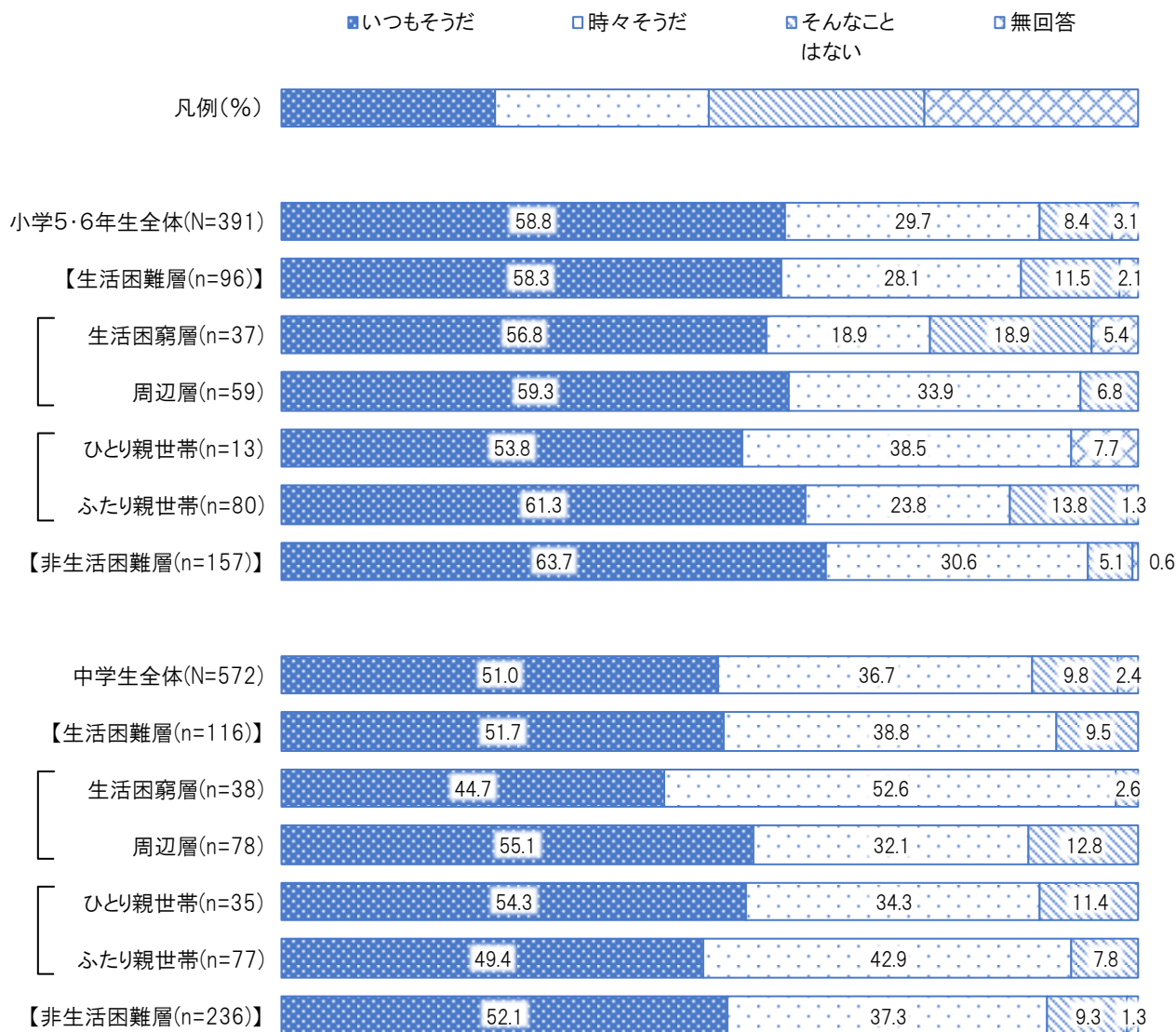
生活困難層世帯タイプ別では，中学生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



H 食事が楽しい

食事が楽しいことについて、小学5・6年生の生活困窮層で「そんなことはない」の割合が18.9%となっており、非生活困難層を大きく上回っている。

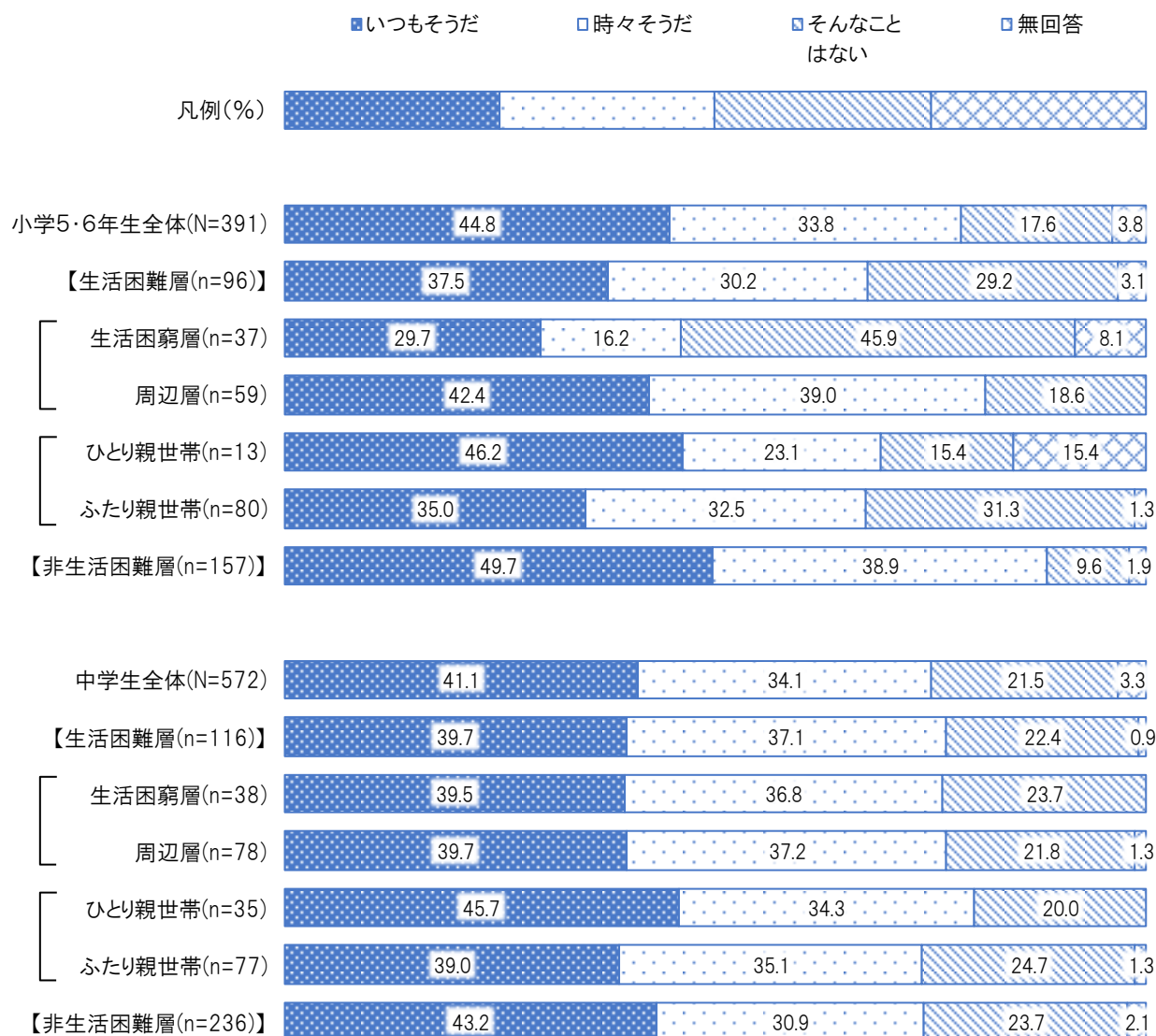
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「そんなことはない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



Ⅰ いじめられても自分で「やめて」と言える

いじめられても自分で「やめて」と言えることについて、小学5・6年生の生活困窮層で「いつもそうだ」の割合が29.7%と低く、「そんなことはない」の割合が45.9%と他の層を大きく上回っている。

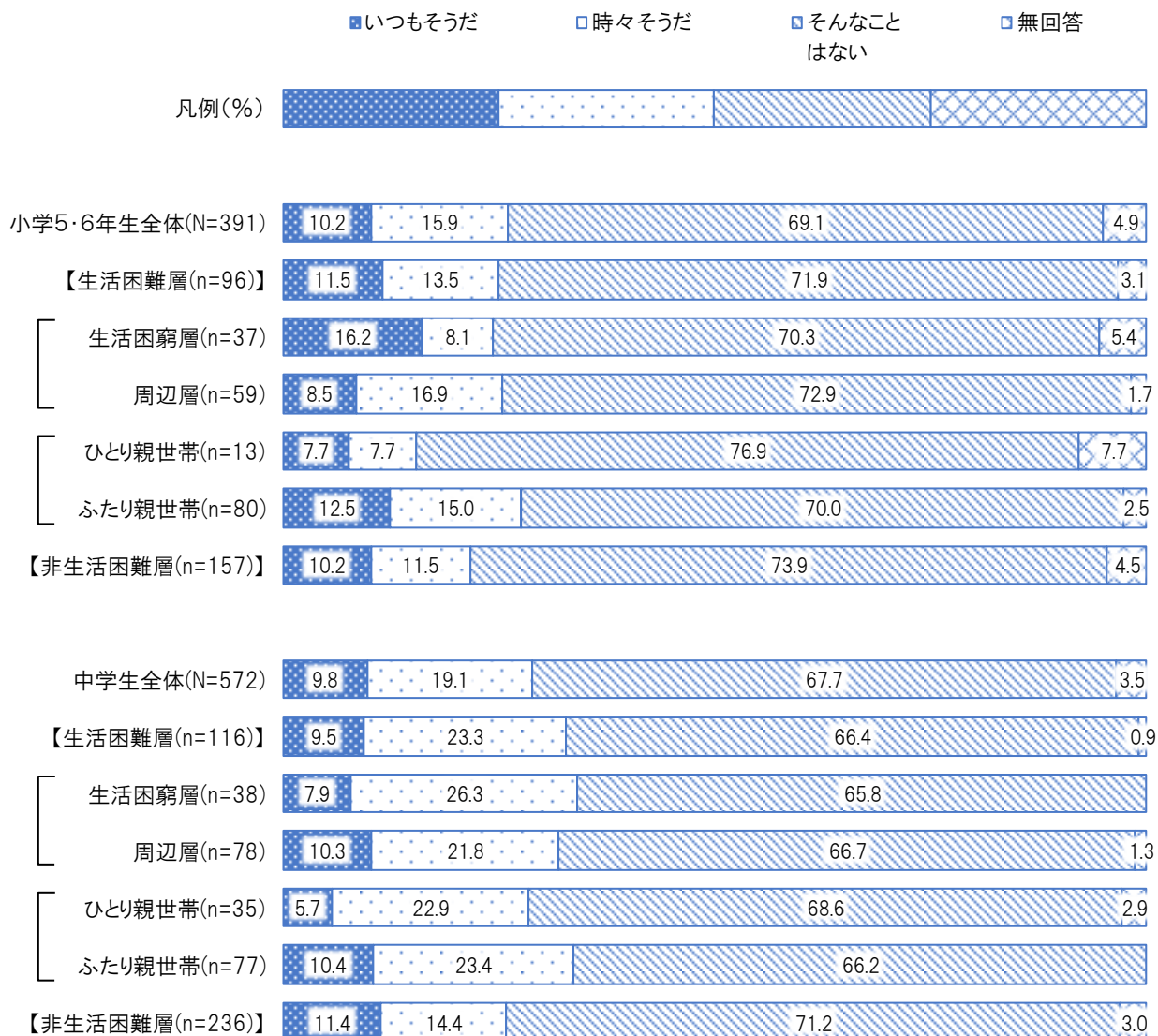
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「そんなことはない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



J 生きていても仕方がないと思う

生きていても仕方がないと思うことについて「いつもそうだ」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で8.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。

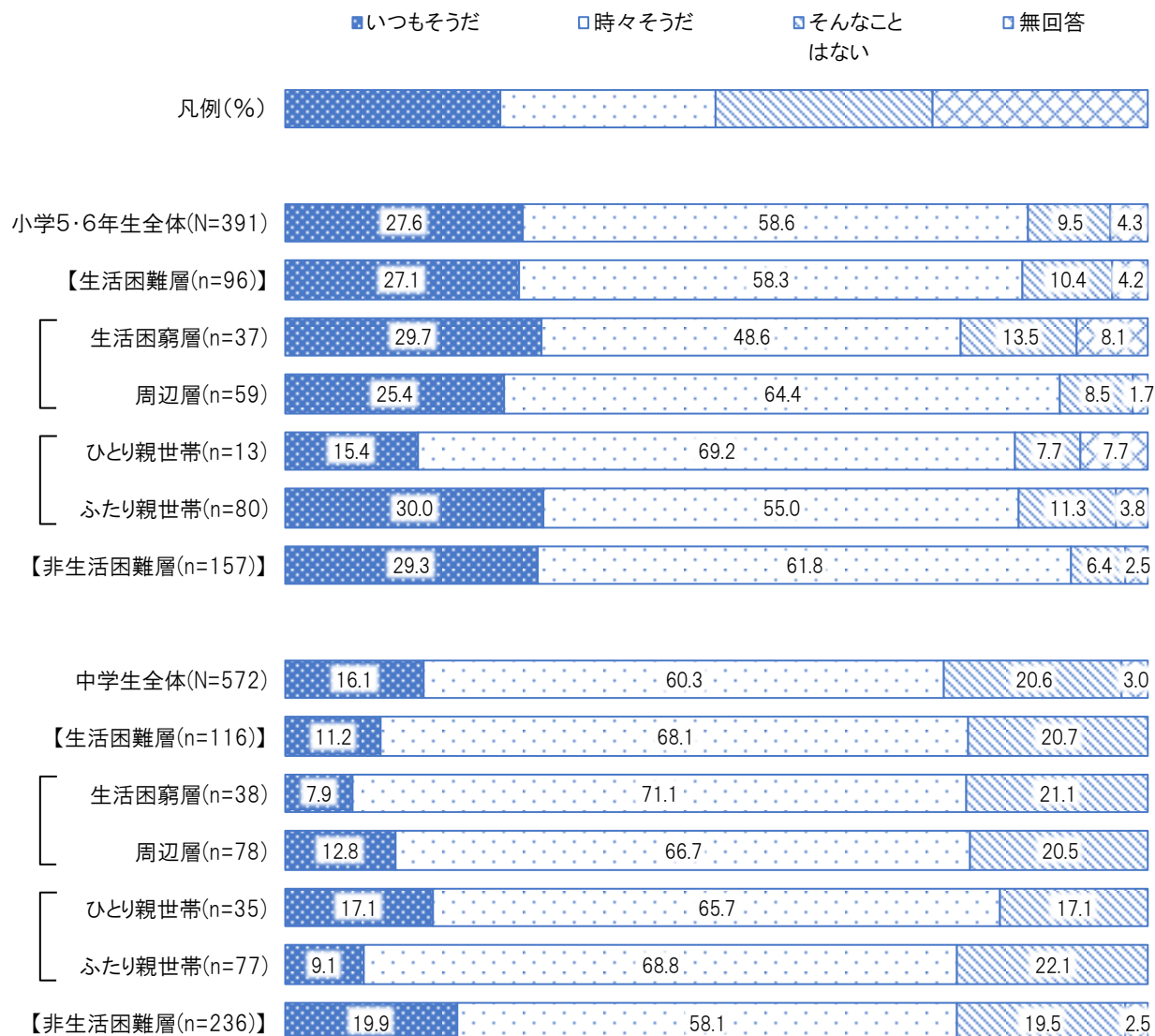
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「いつもそうだ」「時々そうだ」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



K やろうと思ったことがうまくできる

やろうと思ったことがうまくできることについて「いつもそうだ」の割合は、中学生の生活困窮層で7.9%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

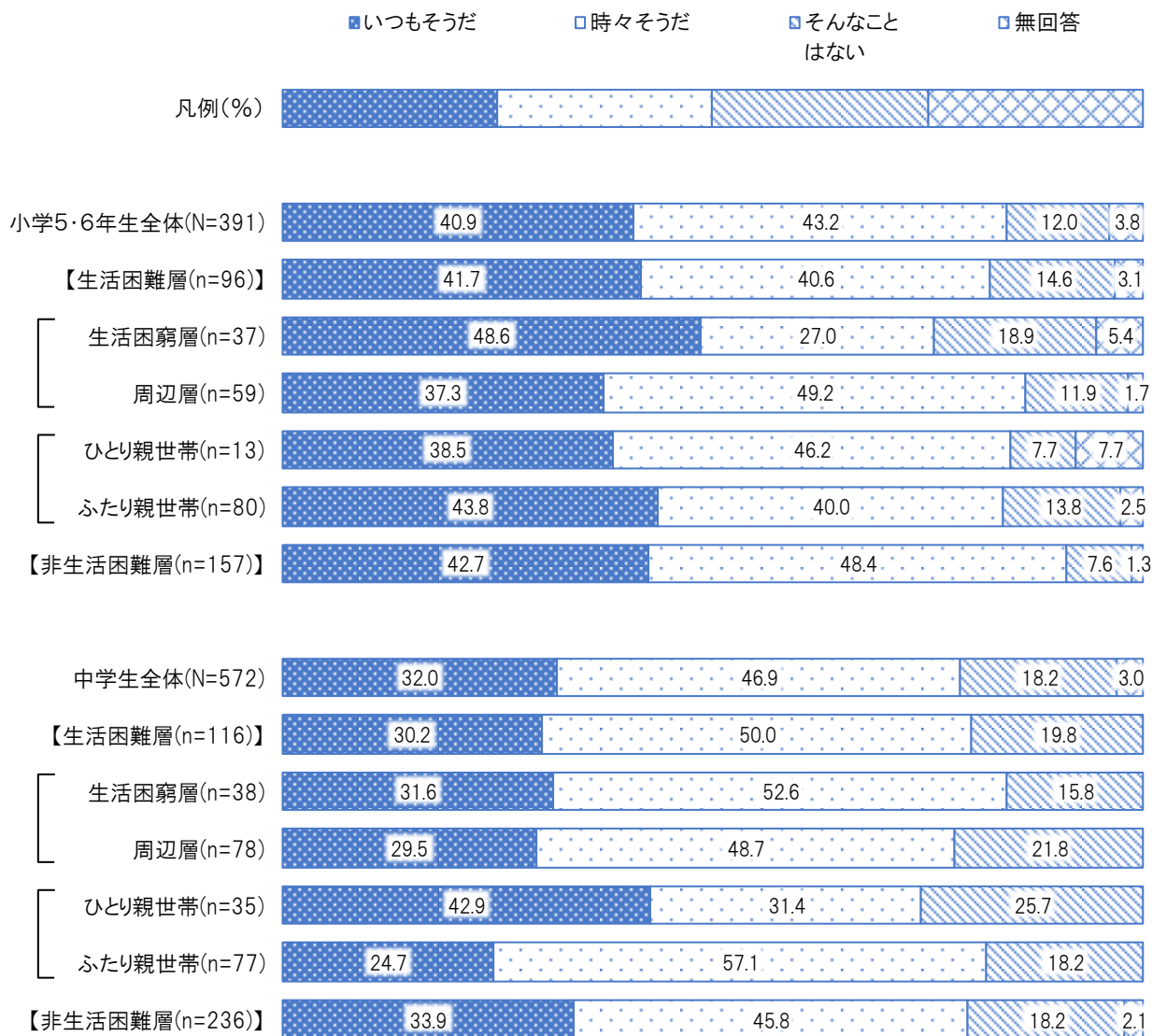
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



L いつものように何をしてもしも楽しい

いつものように何をしてもしも楽しいと感じることについて「そんなことはない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

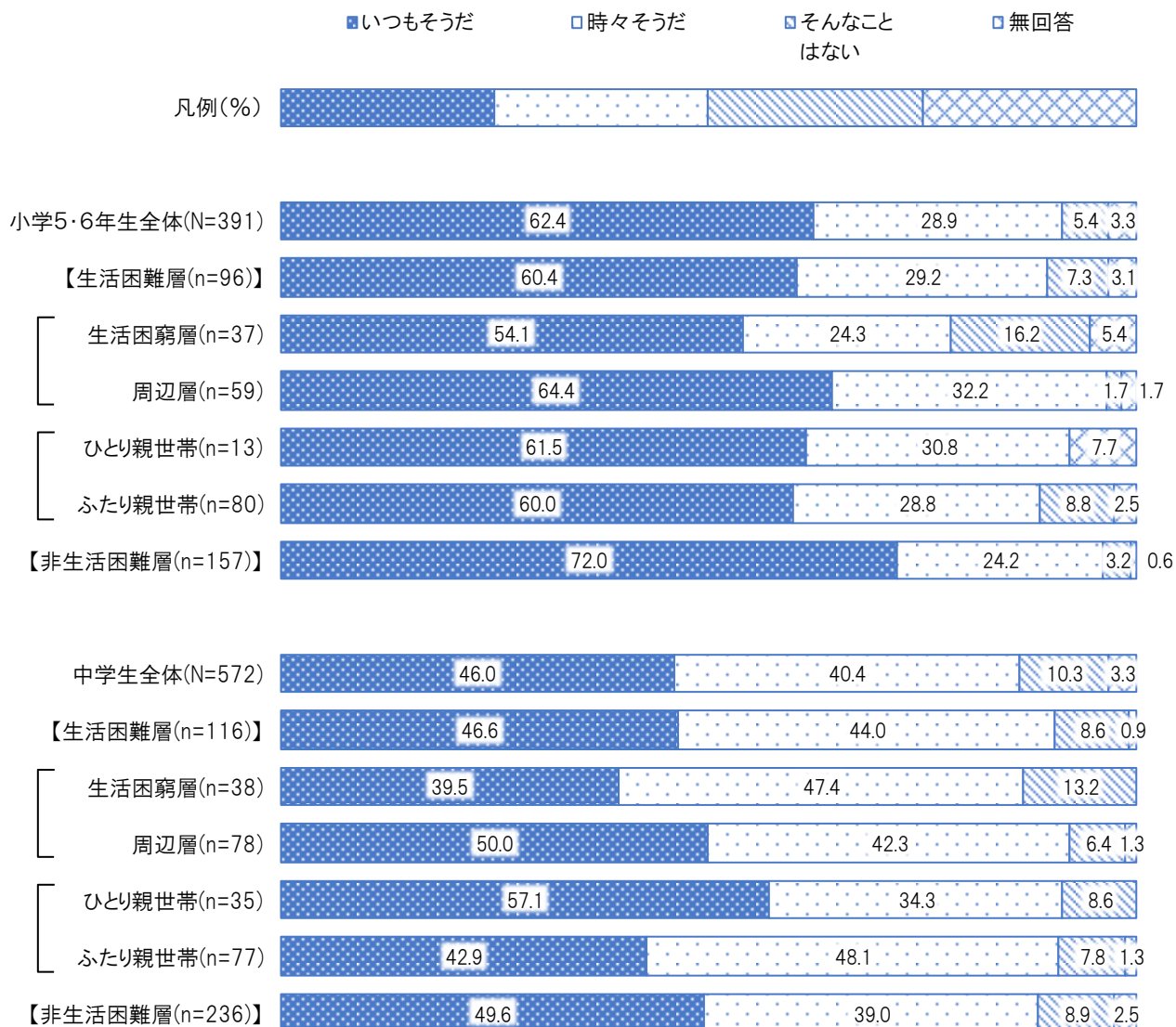
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



M 家族と話すのが好きだ

家族と話すのが好きであることについて「そんなことはない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

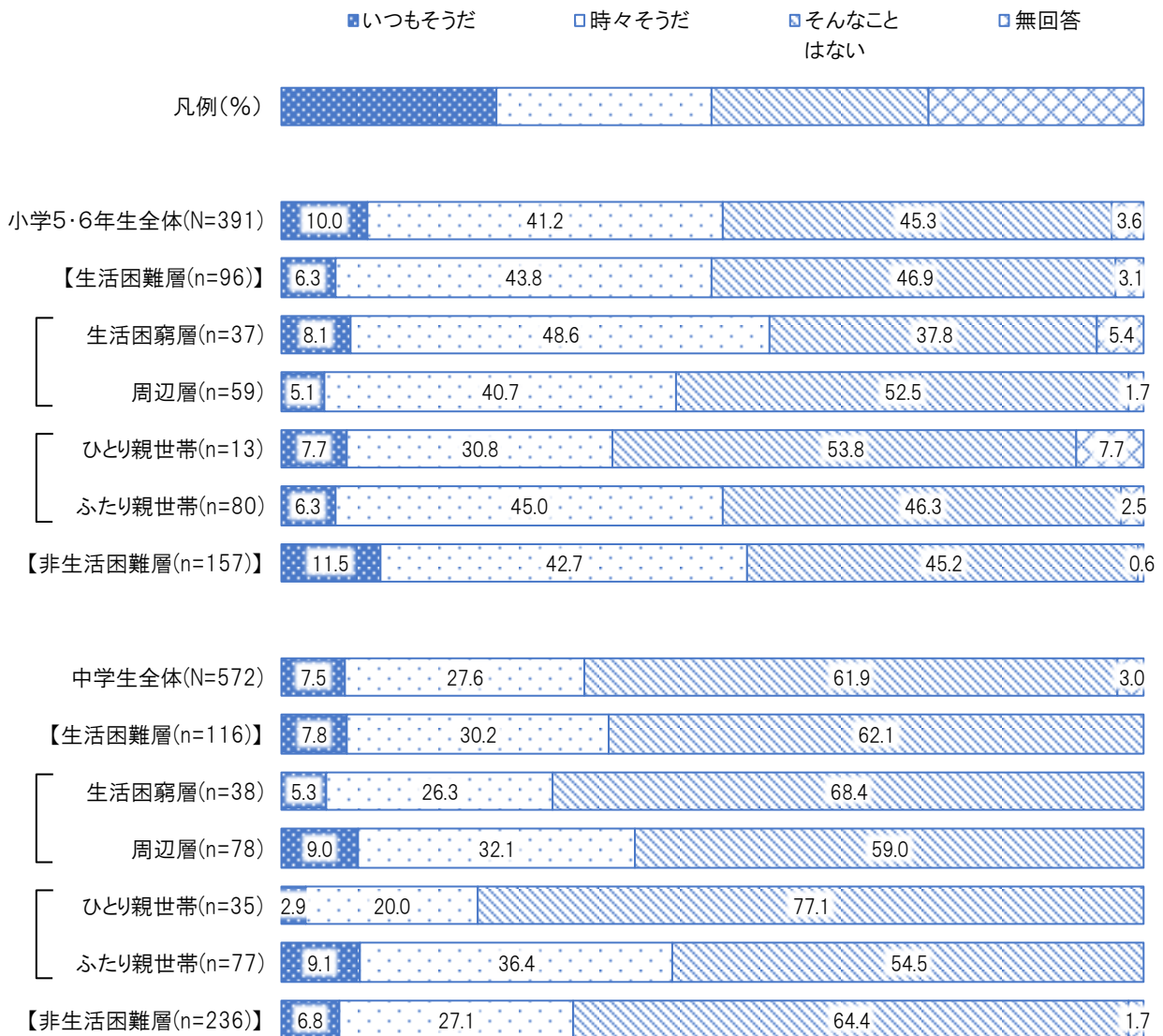
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「いつもそうだ」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



N こわい夢を見る

こわい夢を見ることについて「いつもそうだ」「時々そうだ」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で56.7%、周辺層で45.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。一方、中学生では、生活困窮層で31.6%、周辺層で41.1%となっており、周辺層で高くなっている。

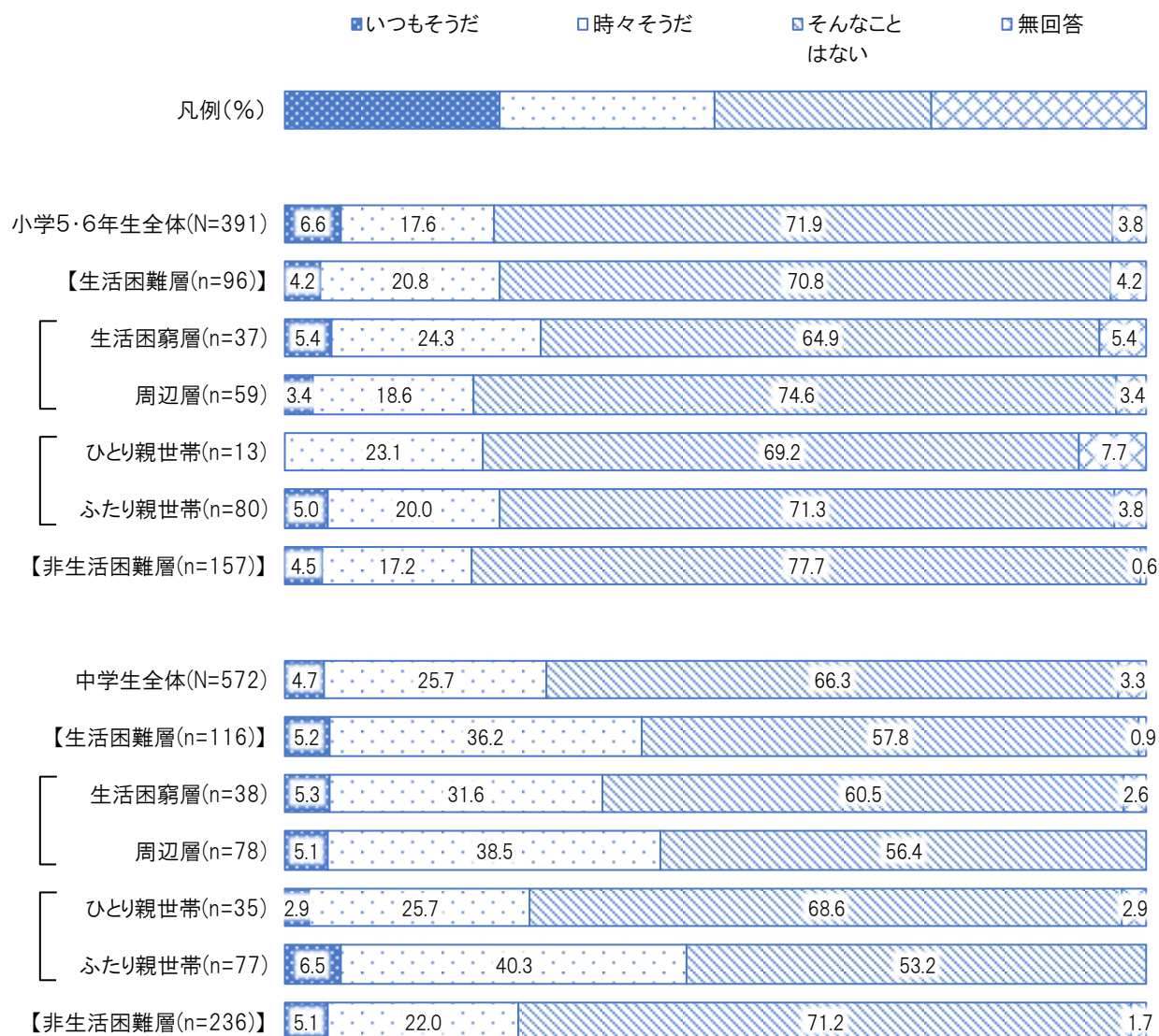
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにふたり親世帯で『そうだ(合計)』の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



〇 独りぼっちの気がする

独りぼっちの気がすることについて「いつもそうだ」「時々そうだ」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、周辺層で22.0%となっており、生活困窮層で高くなっている。中学生では、生活困窮層で「時々そうだ」の割合は31.6%、周辺層で38.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

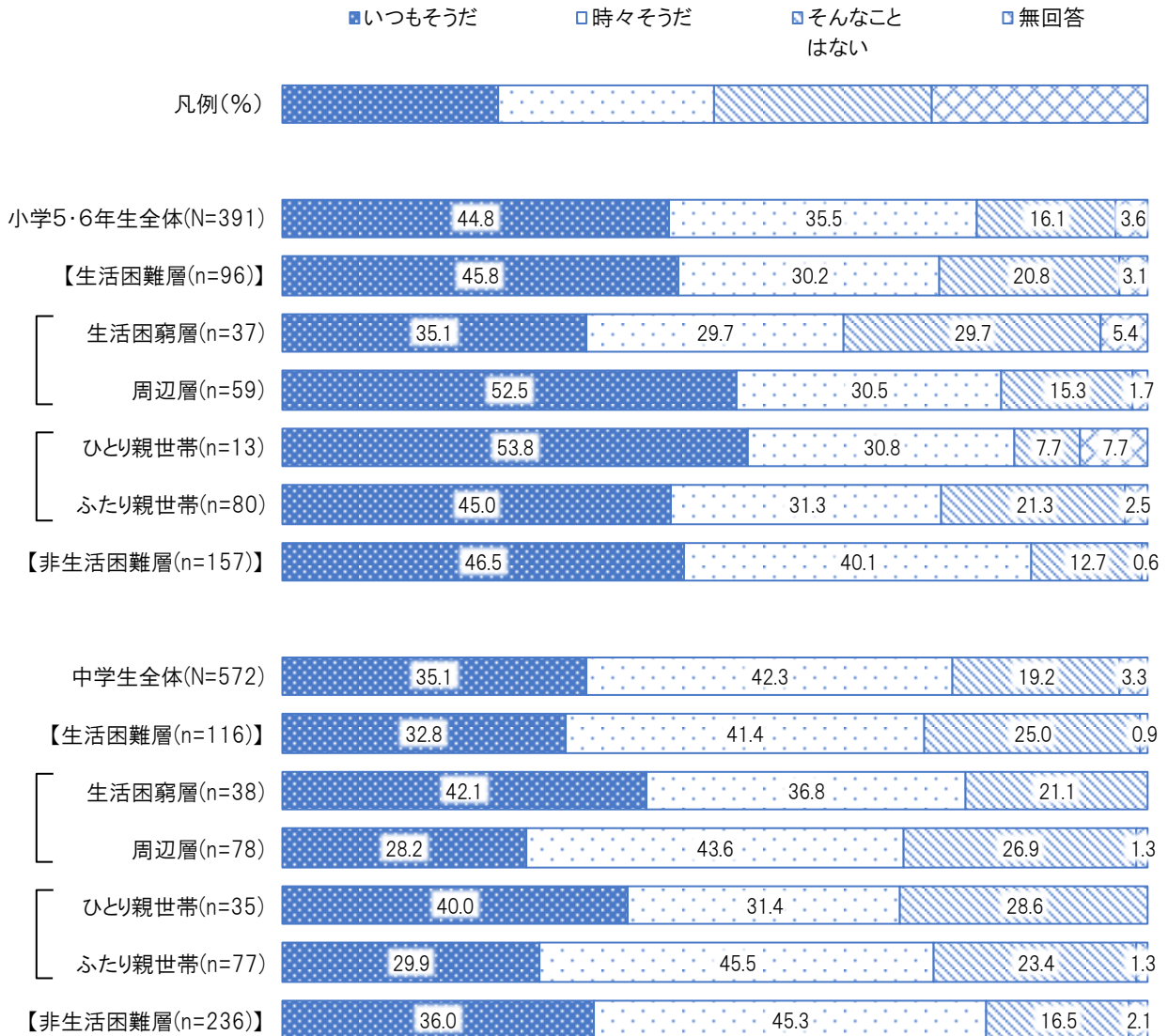
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で「時々そうだ」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



P 落ち込んでいてもすぐに元気になれる

落ち込んでいてもすぐに元気になれることについて「そんなことはない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、周辺層で15.3%となっており、生活困窮層で高くなっている。中学生では、周辺層で26.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

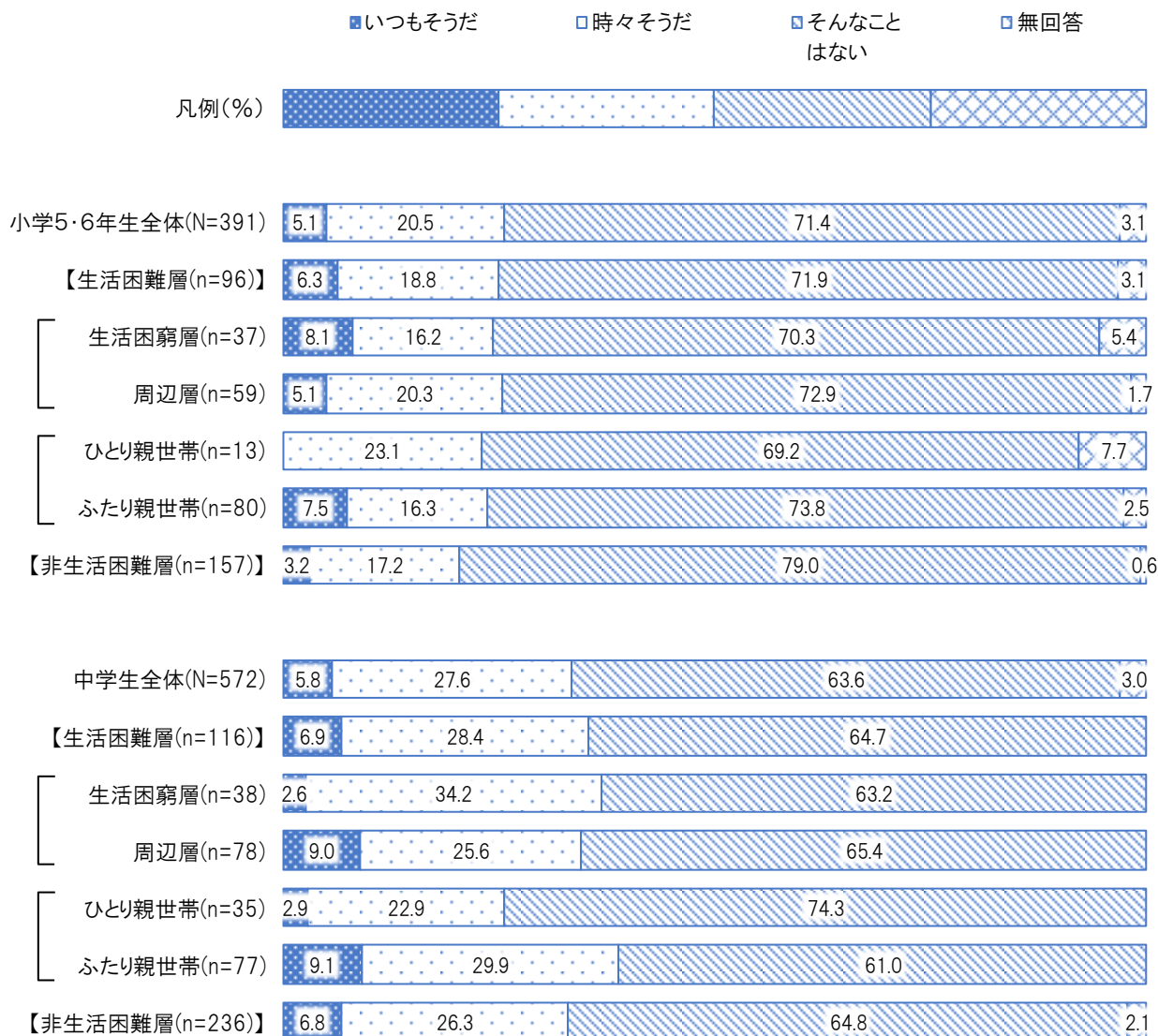
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「そんなことはない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



Q とても悲しい気がする

とても悲しい気がするということについて「いつもそうだ」「時々そうだ」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で22.3%、周辺層で25.4%、中学生では、生活困窮層で36.8%、周辺層で34.6%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。

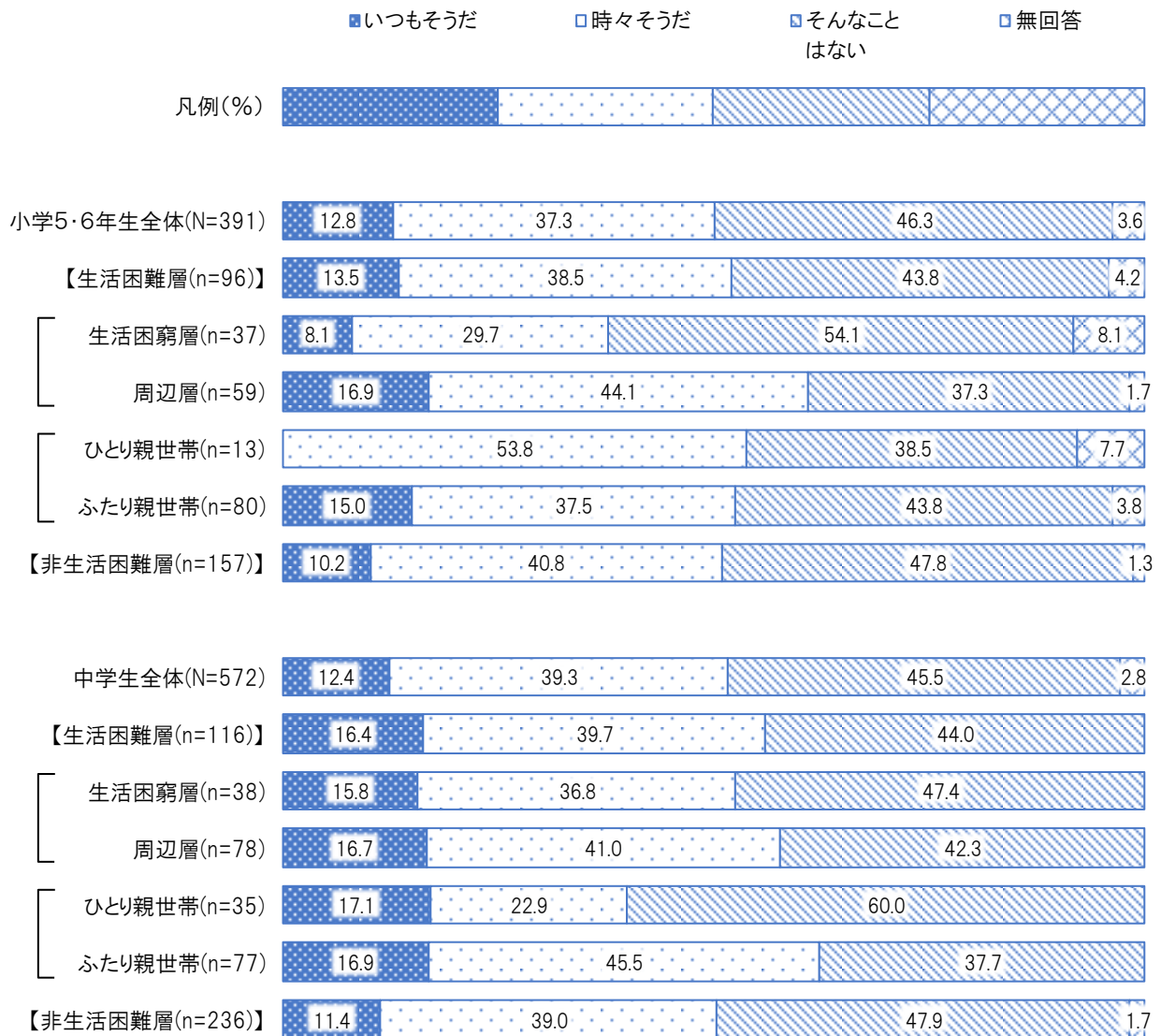
生活困難層世帯タイプ別では、中学生のふたり親世帯で『そうだ（合計）』の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



R とても退屈な気がする

とても退屈な気がするということについて「いつもそうだ」「時々そうだ」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で37.8%、周辺層で61.0%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「そんなことはない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



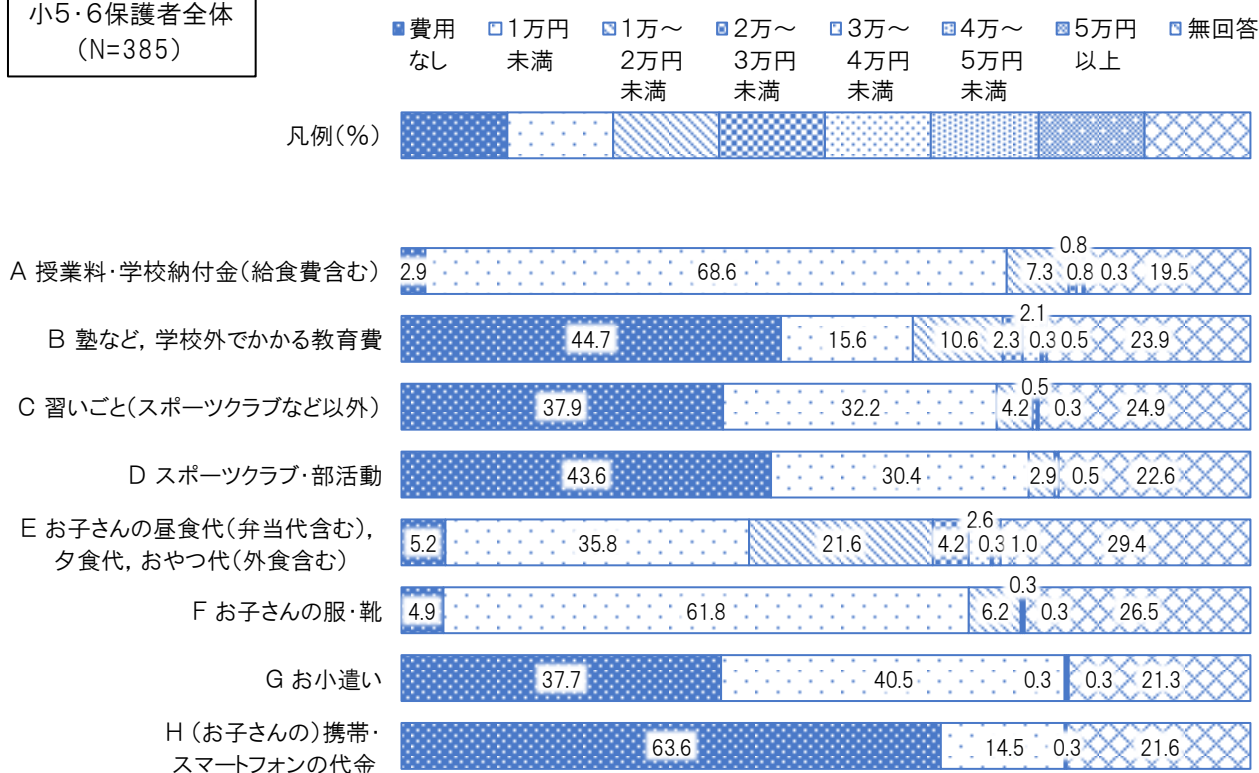
第6章 子育てと各種制度・サービス

【1】子育てにかかる費用

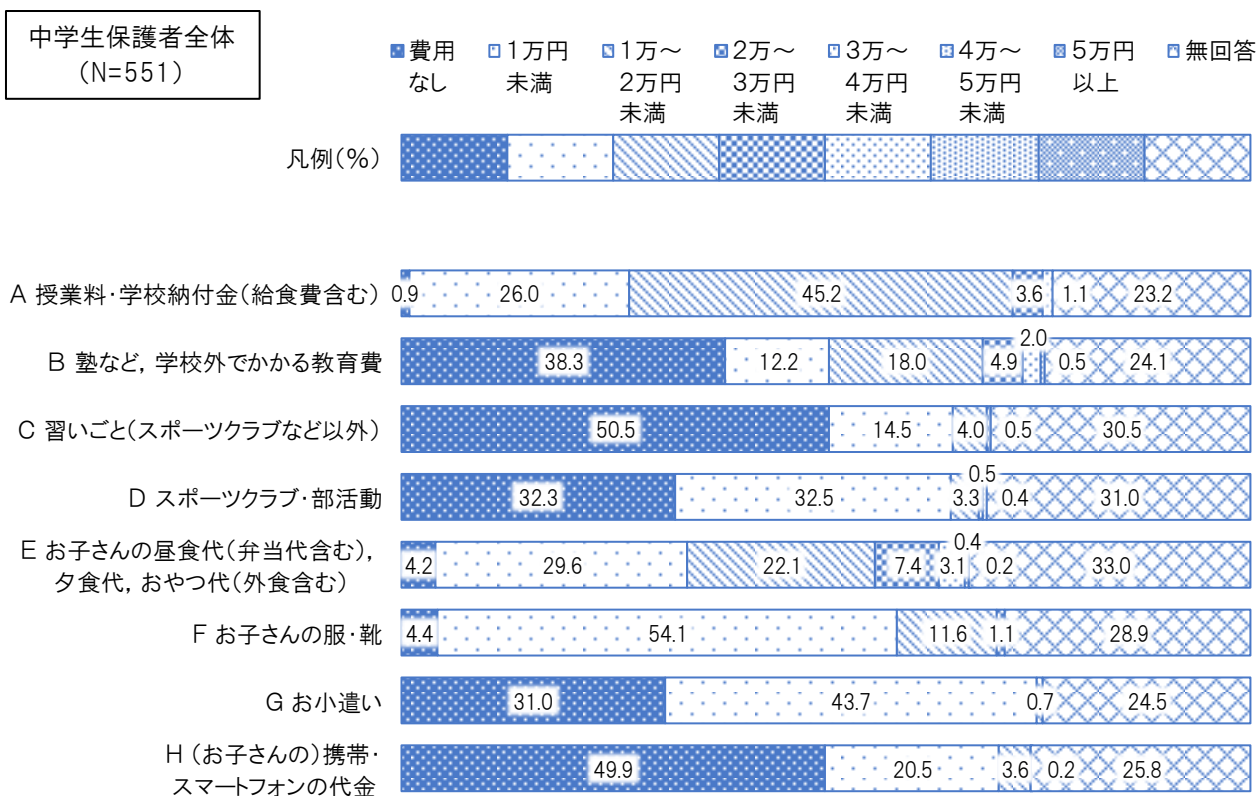
保／問 19 この調査票を持ち帰ったお子さんの生活費や学費について、おうかがいします。次のA～Hの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。平均的な金額を教えてください。（枠内に数字で回答してください）
 ※費用がかからない場合は、0とご記入ください。
 ※お子さんの学校がある日の昼食が、給食の場合、給食費はAに含めてください。お子さんの学校がある日の昼食が弁当などの場合、弁当などの代金はEに含めてください。

子育てにかかる費用については、小学5・6年保護者全体では「1万円未満」「1万～2万円未満」を合計した割合が高い順に「A 授業料・学校納付金（給食費含む）」（75.9%）、「F お子さんの服・靴」（68.0%）、「E お子さんの昼食代（弁当代含む）、夕食代、おやつ代（外食含む）」（57.4%）となっている。一方、「費用なし」では「H（お子さんの）携帯・スマートフォンの代金」（63.6%）、「B 塾など、学校外でかかる教育費」（44.7%）、「D スポーツクラブ・部活動」（43.6%）などがあげられる。

小5・6保護者全体
(N=385)



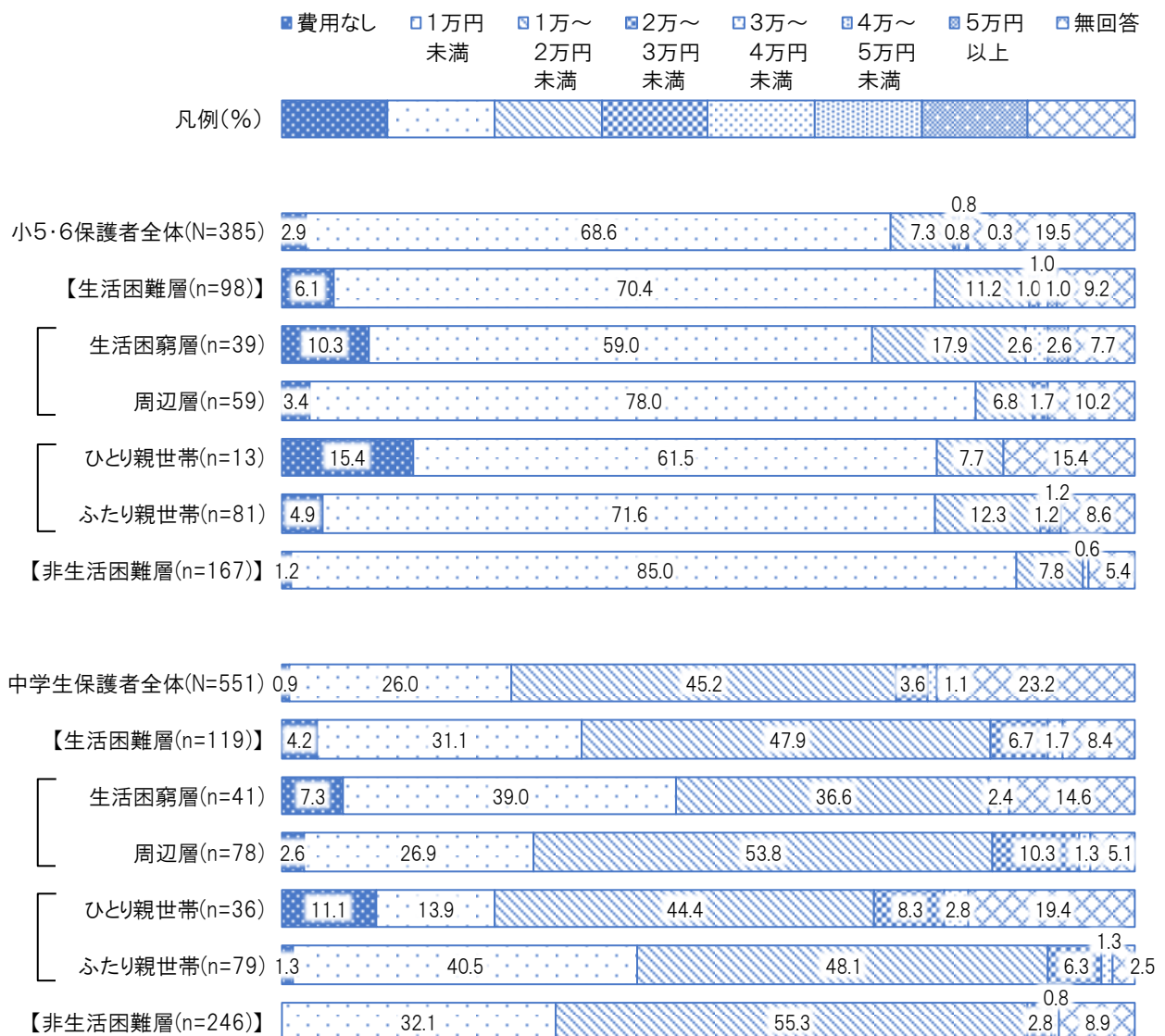
中学生保護者全体では、「1万円未満」「1万～2万円未満」を合計した割合が高い順に「A 授業料・学校納付金（給食費含む）」(71.2%)、「F お子さんの服・靴」(65.7%)、「E お子さんの昼食代（弁当代含む）、夕食代、おやつ代（外食含む）」(51.7%)となっている。一方、「費用なし」では「C 習いごと（スポーツクラブなど以外）」(50.5%)、「H（お子さんの）携帯・スマートフォンの代金」(49.9%)などがあげられる。



A 授業料・学校納付金（給食費含む）

授業料・学校納付金について、小学5・6年保護者の生活困窮層で「1万～2万円未満」が17.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。また、中学生保護者では、生活困窮層で「1万円未満」（39.0%）、周辺層で「1万～2万円未満」（53.8%）の割合が高くなっている。

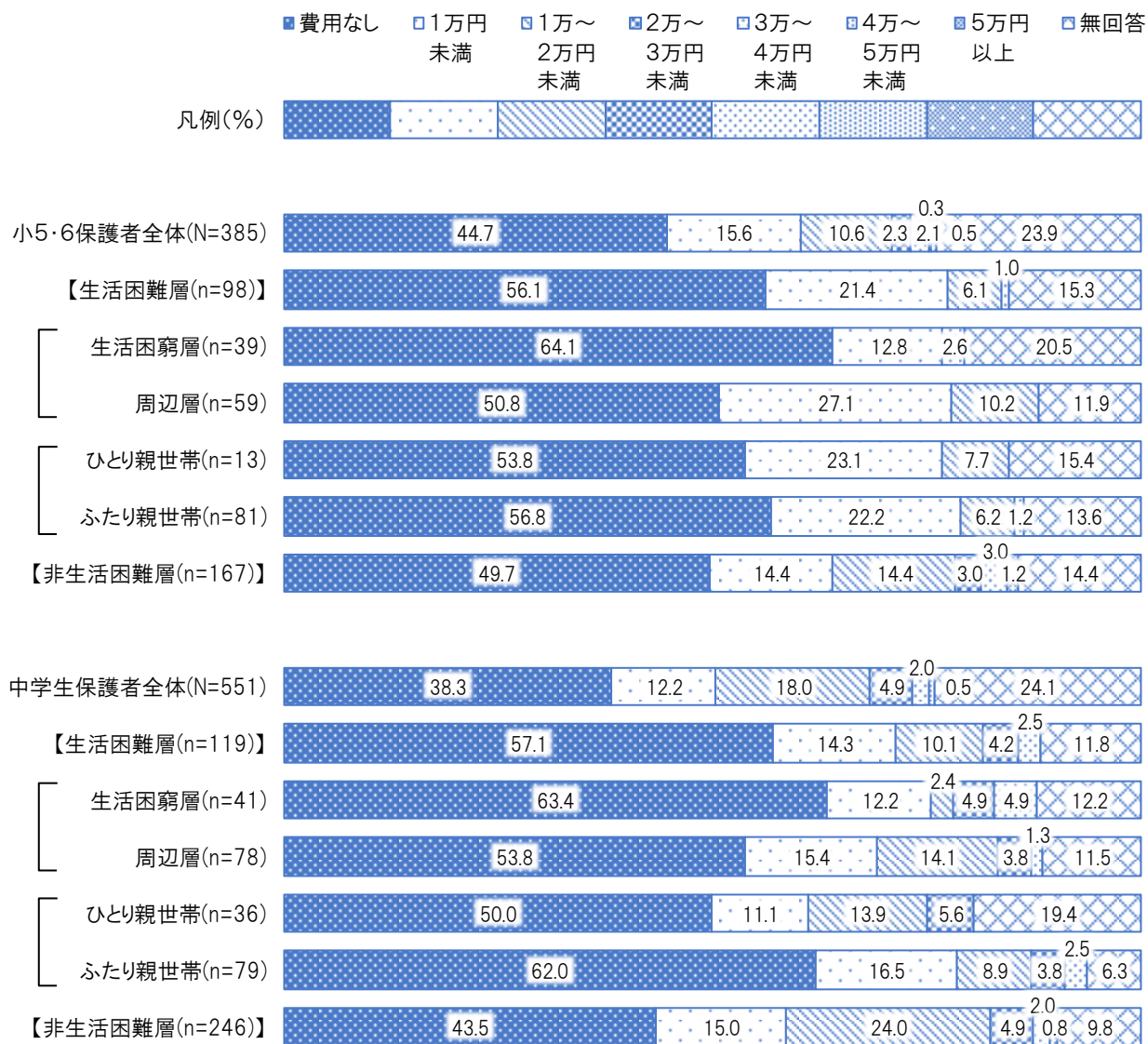
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「費用なし」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 塾など、学校外でかかる教育費

塾など、学校外でかかる教育費について「費用なし」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で64.1%、中学生保護者では63.4%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

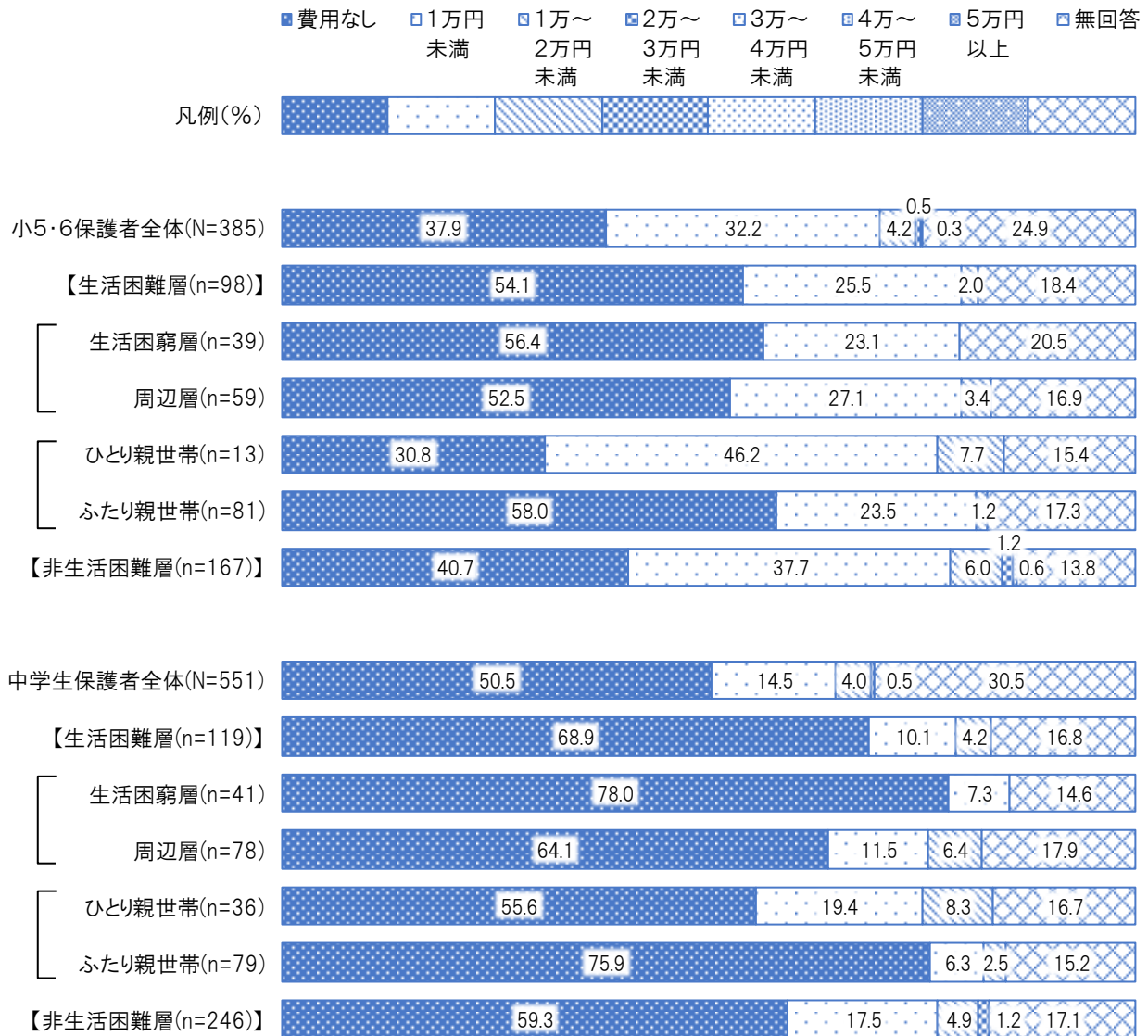
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のふたり親世帯で「費用なし」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C 習いごと（スポーツクラブなど以外）

習いごとについて「費用なし」の割合は、中学生保護者の生活困窮層で78.0%となっており、他の層を大きく上回っている。

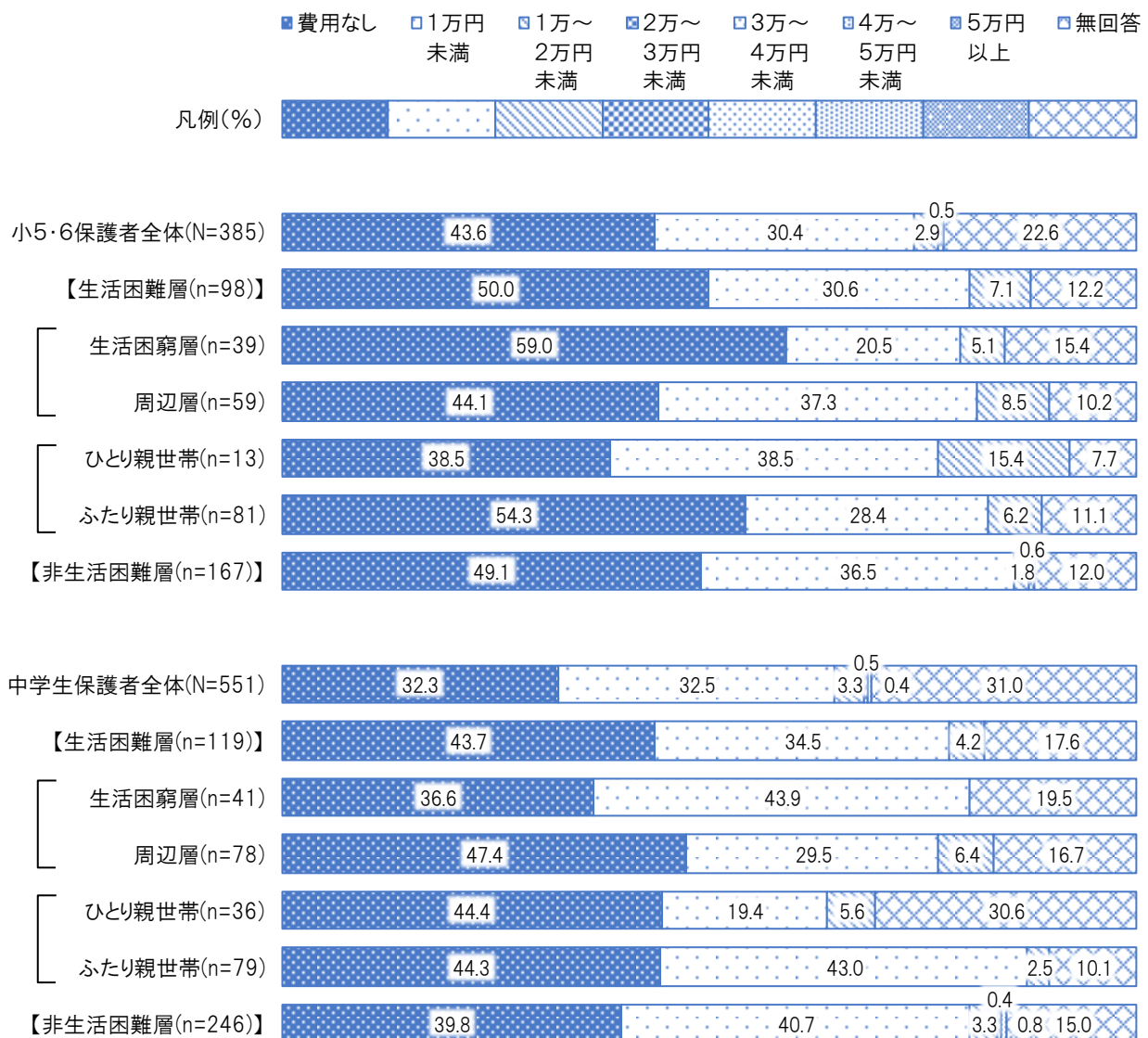
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「費用なし」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



D スポーツクラブ・部活動

スポーツクラブ・部活動について、小学5・6年保護者の生活困窮層で「費用なし」の割合が59.0%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で「1万円未満」(43.9%)の割合が周辺層に比べて高くなっている。

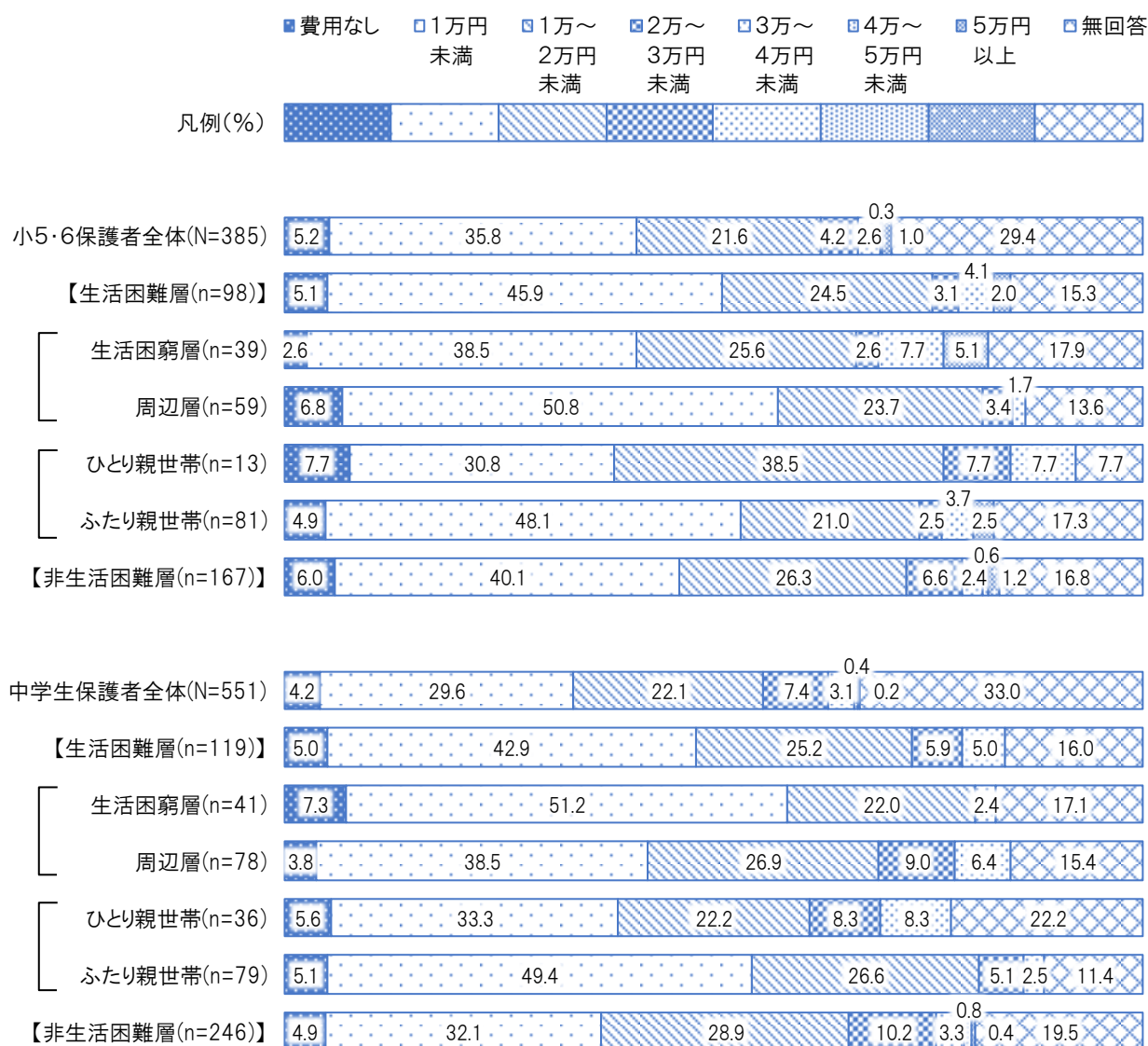
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「費用なし」、中学生保護者のふたり親世帯で「1万円未満」の割合がひとり親世帯に比べてそれぞれ高くなっている。



E お子さんの昼食代（弁当代含む）、夕食代、おやつ代（外食含む）

お子さんの昼食代，夕食代，おやつ代について「1万円未満」の割合は，小学5・6年保護者の生活困窮層で38.5%，周辺層で50.8%となっており，周辺層で高くなっている。一方，中学生保護者の生活困窮層で51.2%，周辺層で38.5%となっており，生活困窮層で高くなっている。

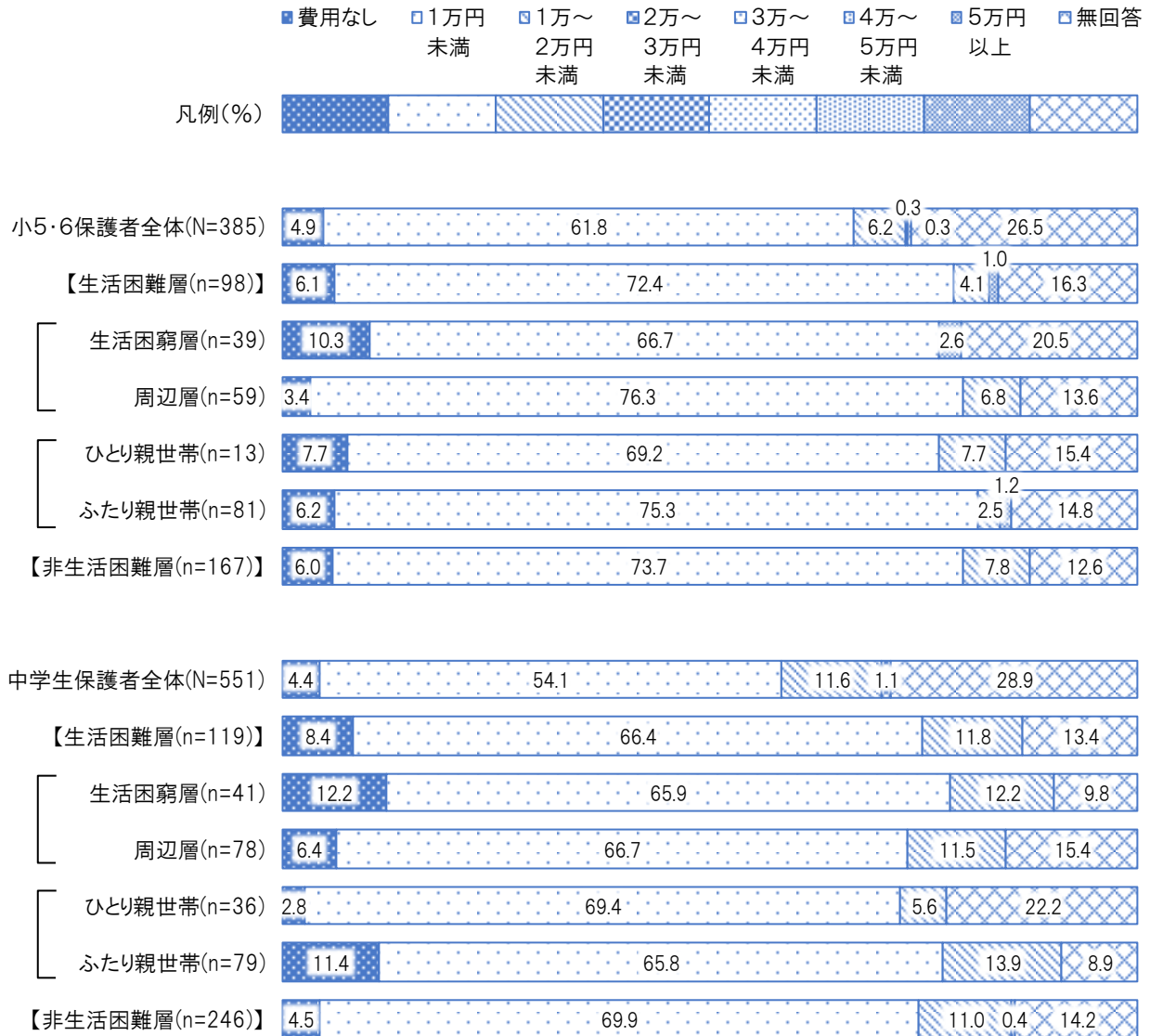
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年保護者，中学生保護者ともにふたり親世帯で「1万円未満」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



F お子さんの服・靴

お子さんの服・靴について「1万円未満」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で66.7%，周辺層で76.3%となっており，周辺層で高くなっている。一方，中学生保護者の生活困窮層の「費用なし」（12.2%）の割合がやや高くなっている。

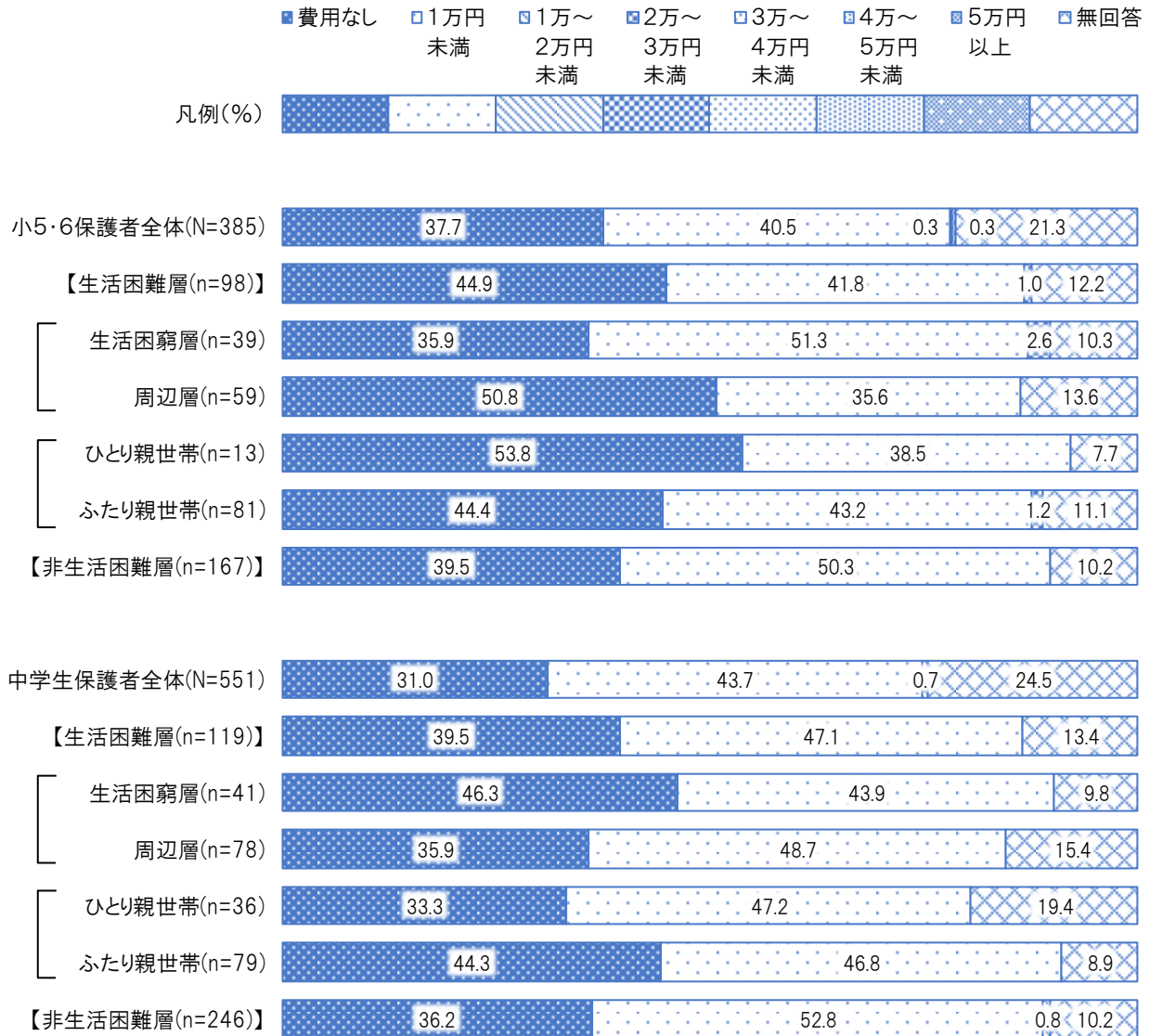
生活困難層世帯タイプ別では，中学生保護者のふたり親世帯で「費用なし」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



G お小遣い

お小遣いについて「費用なし」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で50.8%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で46.3%、周辺層で35.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

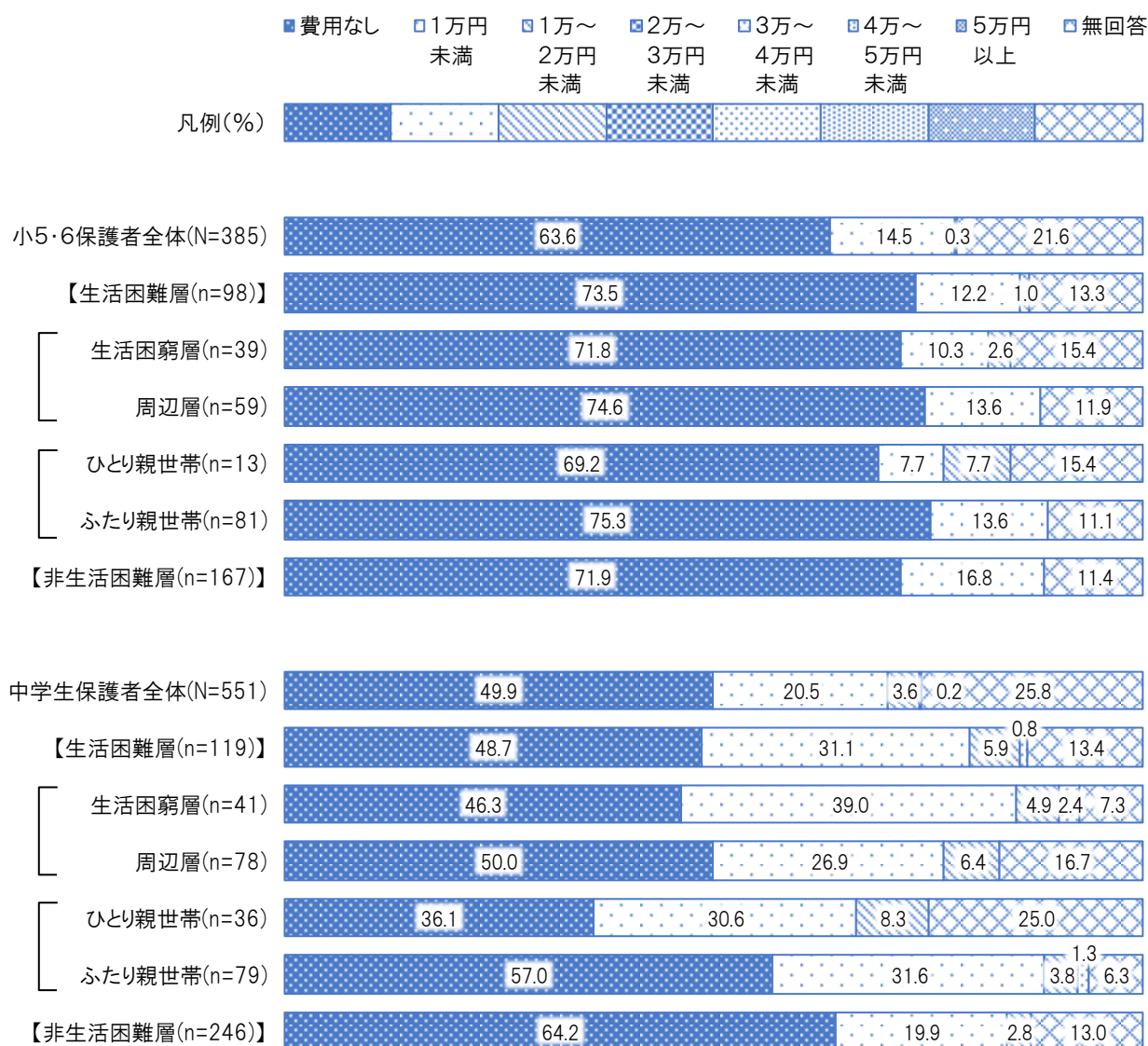
生活困難層世帯タイプ別にみると「費用なし」の割合は、小学5・6年保護者のひとり親世帯、中学生保護者のふたり親世帯でそれぞれ高くなっている。



H (お子さんの) 携帯・スマートフォンの代金

(お子さんの) 携帯・スマートフォンの代金について「費用なし」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で71.8%、周辺層で74.6%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。一方、中学生保護者の生活困窮層で「1万円未満」の割合が39.0%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のふたり親世帯で「費用なし」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



【2】 就学援助

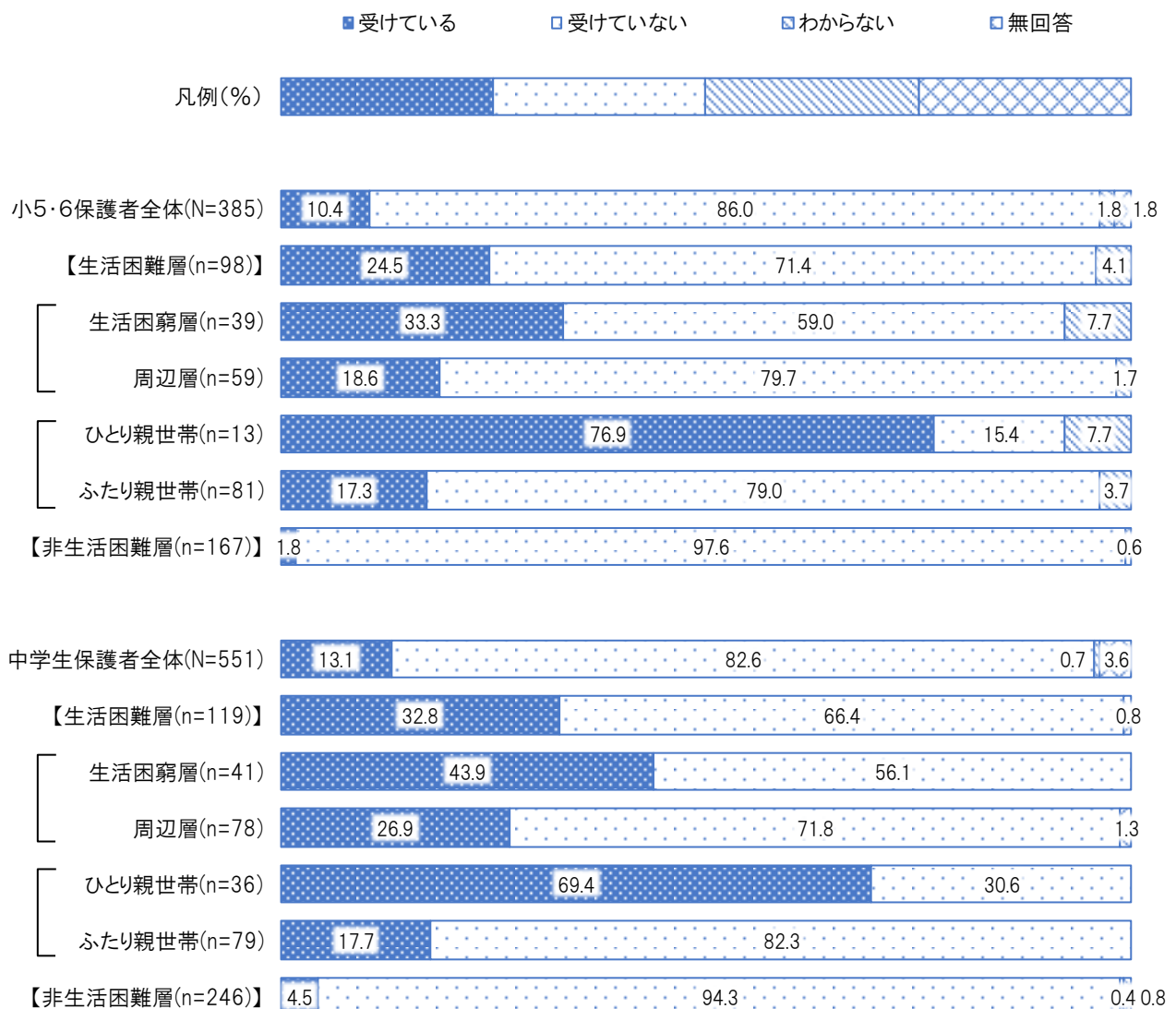
（1） 就学援助受給状況と受給していない理由

保／問 20 あなたのご家庭では、この調査票を持ち帰ったお子さんのために就学援助を受けていますか。（あてはまる番号1つに○）
 ※「就学援助」制度は、経済的な理由により就学が困難な子供たちの保護者に対して、援助を行い、子供たちが等しく義務教育を受けることができるようにするための制度です。
 ※特別支援教育就学奨励費は除きます。

就学援助受給状況については、小学5・6年保護者全体では「受けている」が10.4%、中学生保護者全体では13.1%となっている。一方、「受けていない」の割合は、小学5・6年保護者全体では86.0%、中学生保護者全体では82.6%となっている。

生活困難度別にみた「受けている」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で33.3%、中学生保護者で43.9%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

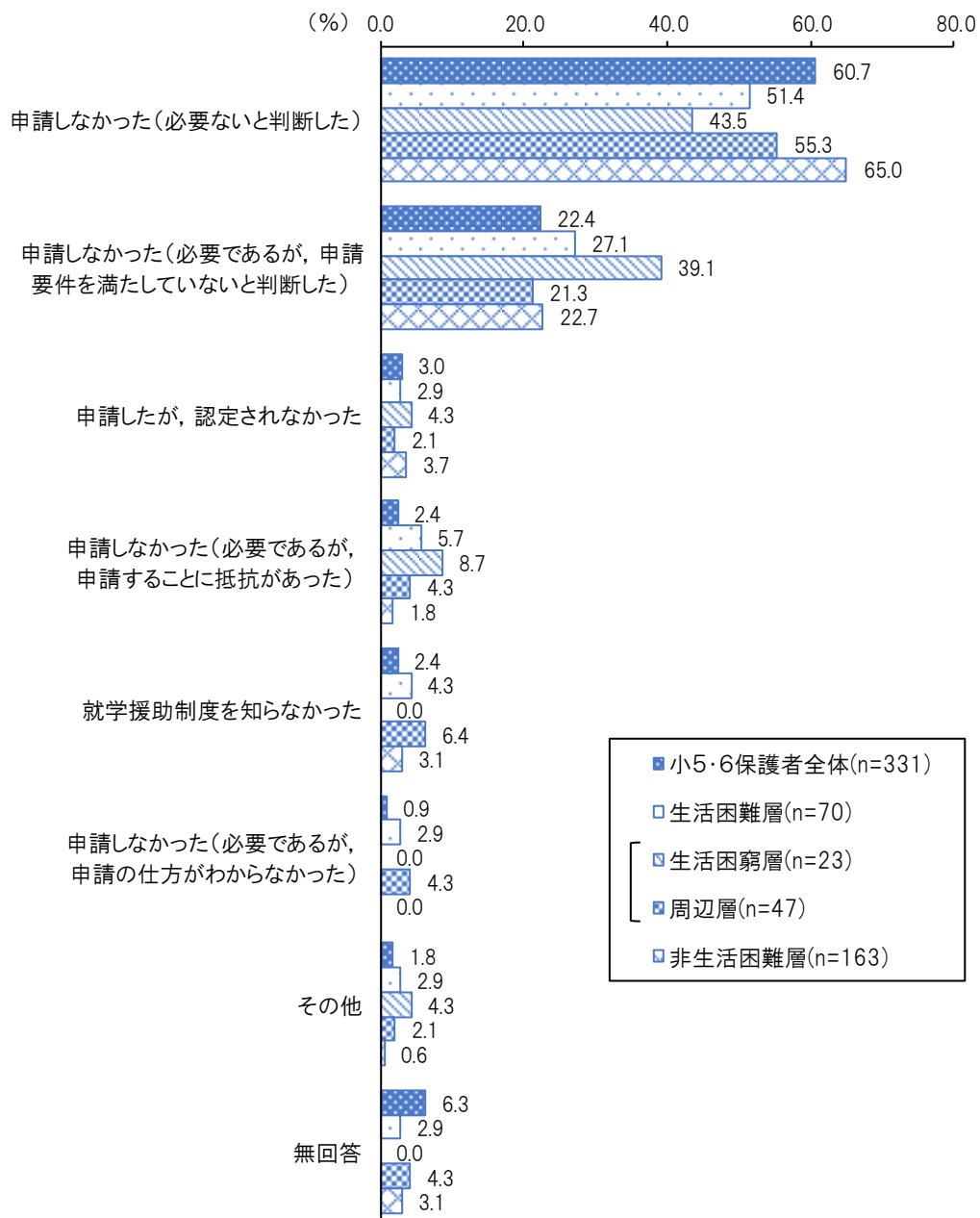
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「受けている」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



【問 20 で「2 受けていない」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 20-2 受けてない理由は、何ですか。次のうち最も近いものに○をつけてください。
 い。（あてはまる番号1つに○）

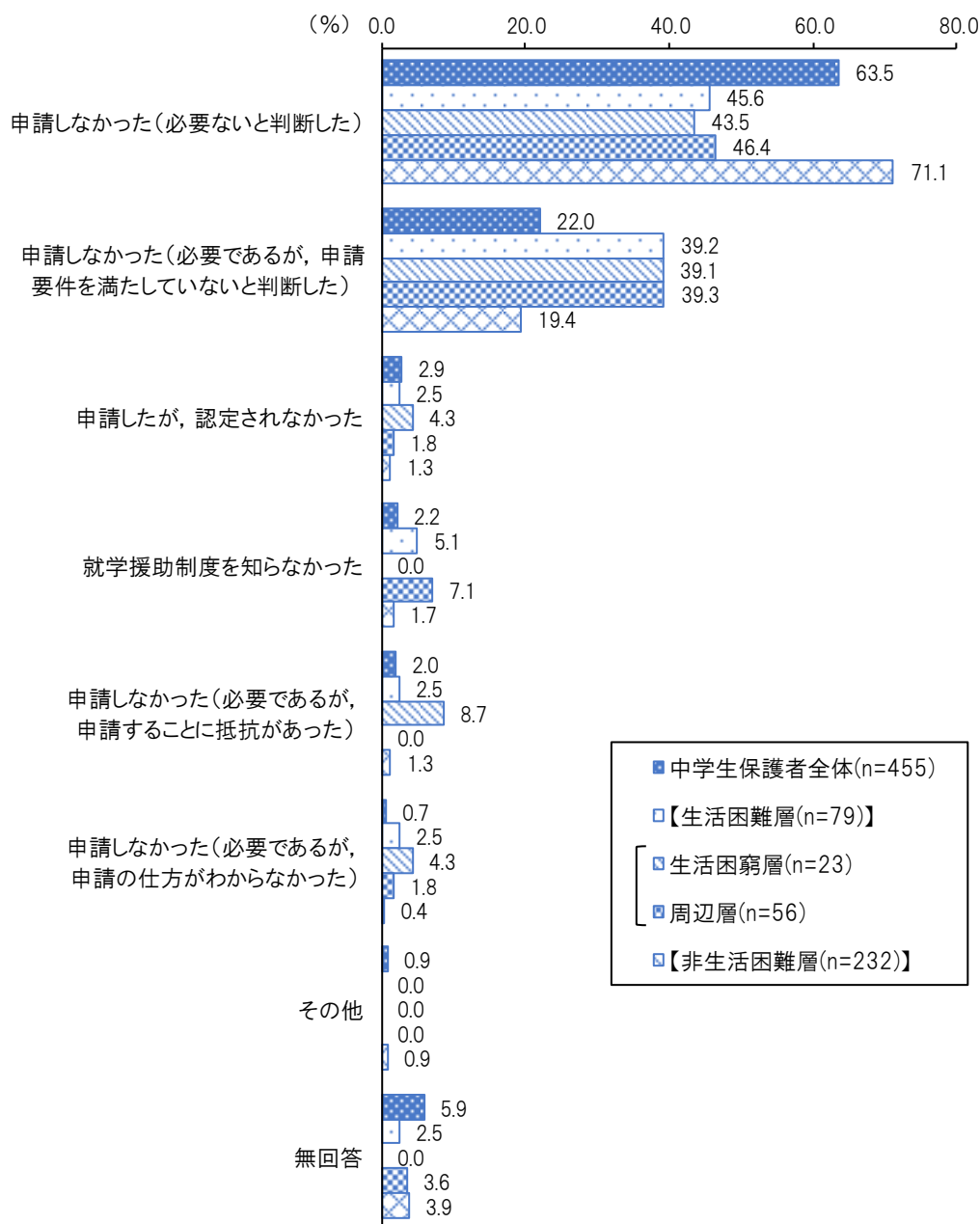
就学援助を受給していない理由について、小学5・6年保護者全体では「申請しなかった（必要ないと判断した）」が60.7%と最も高く、次いで「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていないと判断した）」（22.4%）が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていないと判断した）」の割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「申請しなかった（必要ないと判断した）」が 63.5%と最も高く、次いで「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていないと判断した）」(22.0%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困難層は非生活困難層に比べて「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていないと判断した）」の割合が高くなっている。



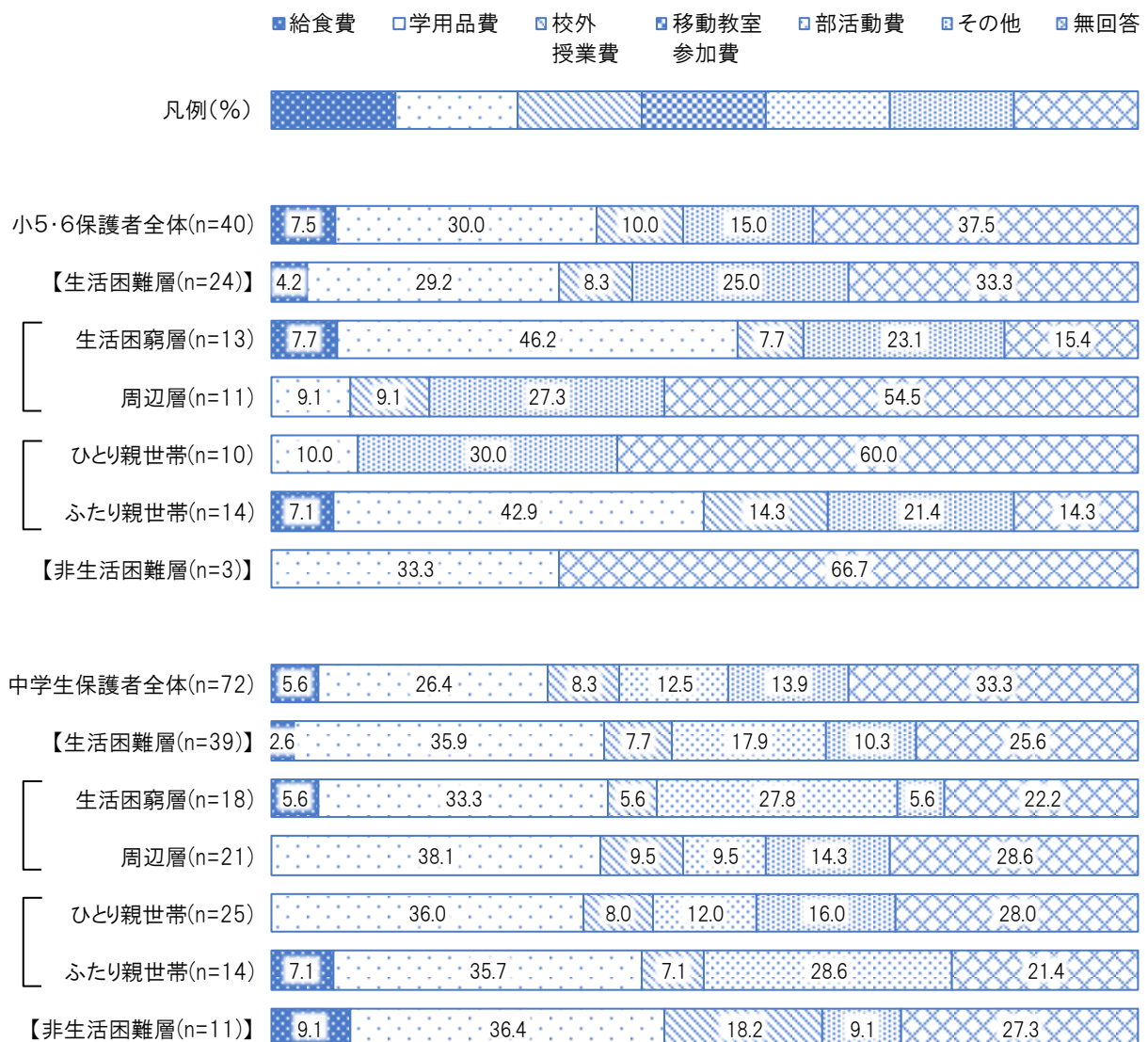
(2) 支給額と実費との差が大きい経費

【問 20 で「1 受けている」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 20-1 就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、その差が大きいものは何の経費ですか。(あてはまる番号1つに○)

支給額と実費との差が大きい経費について「学用品費」の割合が、小学5・6年保護者全体で30.0%、中学生保護者全体で26.4%となっている。

生活困難度別では、中学生保護者の生活困窮層で「部活動費」の割合が27.8%となっており、非生活困窮層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「学用品費」、中学生保護者のふたり親世帯で「部活動費」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



注: 非生活困難層については、件数(n)が少ないため参考値として参照

【3】 公的年金等の支給額

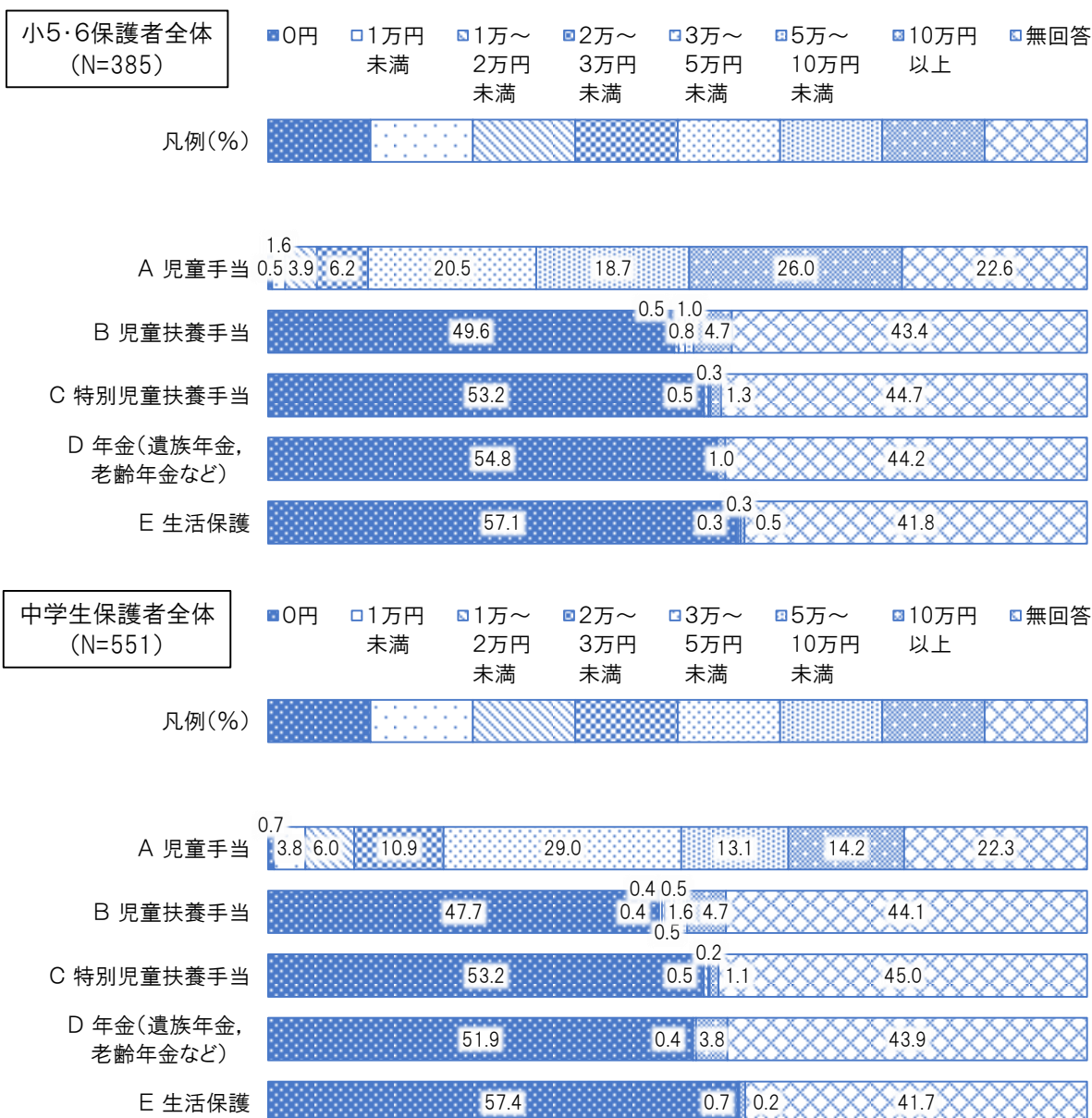
保／問 21 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。（枠内に数字で回答してください）

※該当する収入がない場合には、0とご記入ください。

※兄弟姉妹等にかかわる手当等も含まれます。

公的年金等の支給額については、小学5・6年保護者全体では『支給あり（0円，無回答以外の合計）』の割合が高い順に「A 児童手当」（76.9%）、「B 児童扶養手当」（7.0%）、「C 特別児童扶養手当」（2.1%）となっている。

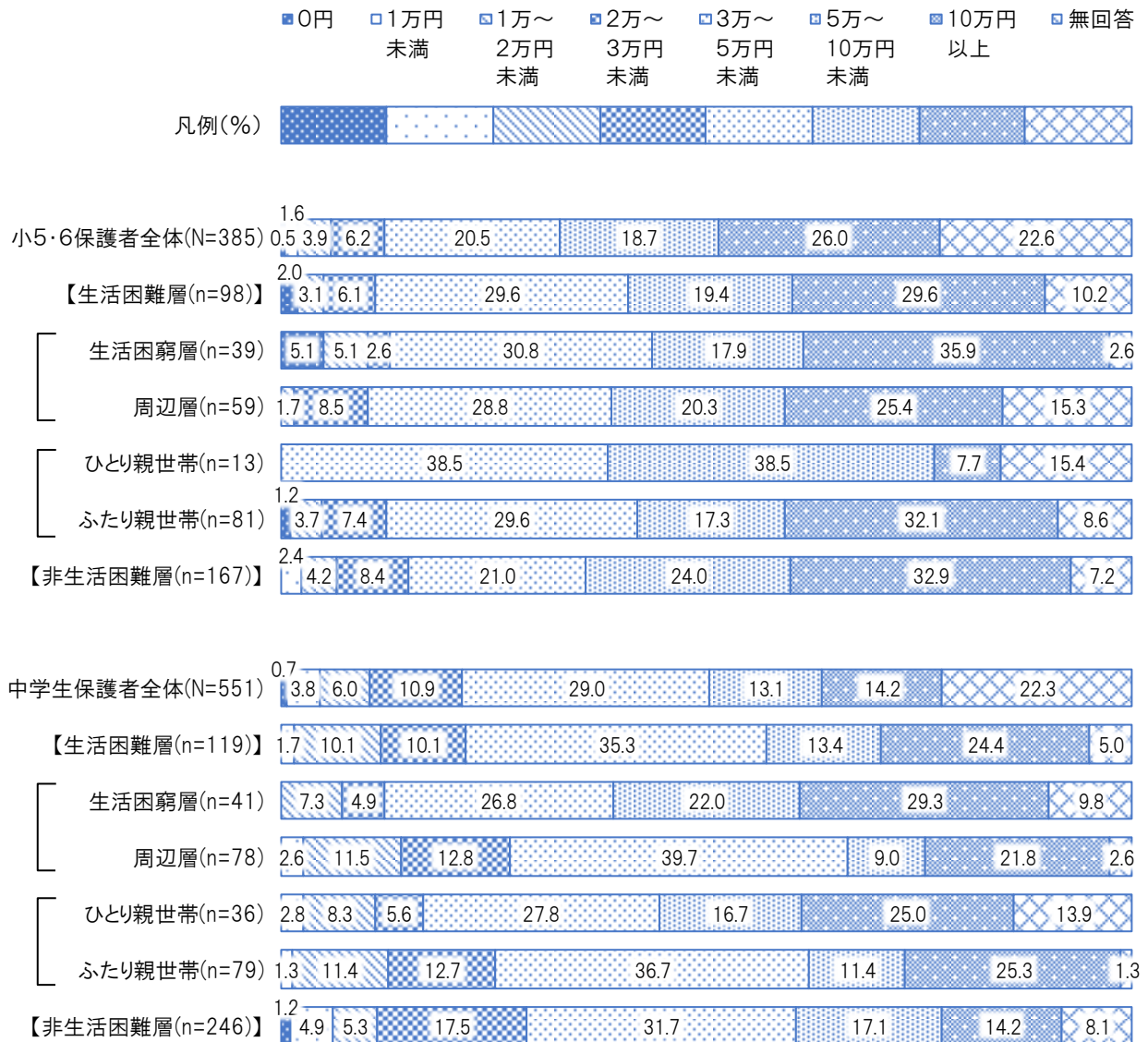
中学生保護者全体では『支給あり（0円，無回答以外の合計）』の割合が高い順に「A 児童手当」（77.0%）、「B 児童扶養手当」（8.2%）、「D 年金（遺族年金，老齢年金など）」（4.2%）となっている。



A 児童手当

児童手当について「10万円以上」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で25.4%、中学生保護者では、生活困窮層で29.3%、周辺層で21.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

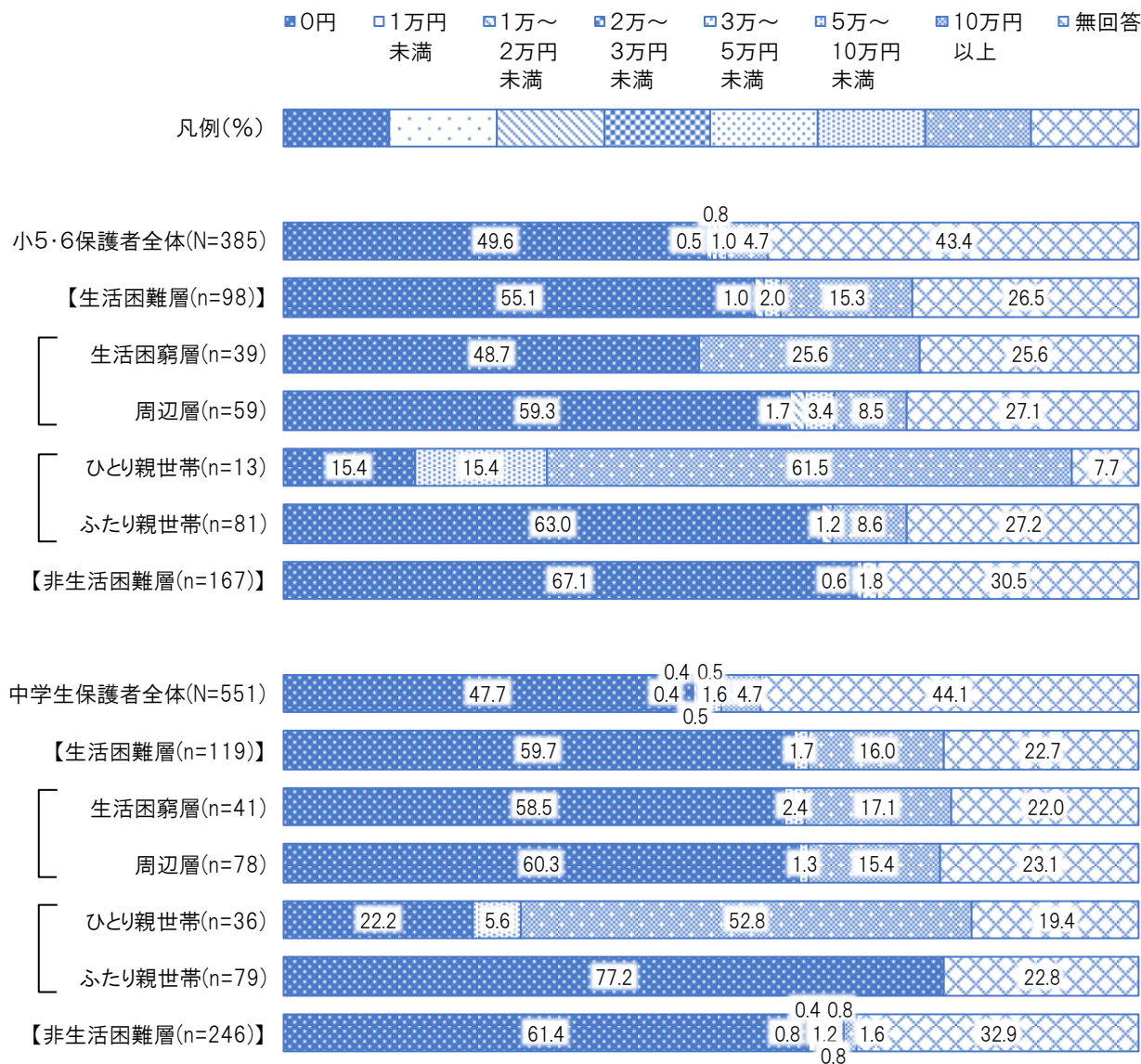
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「5万～10万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。また、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「10万円以上」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



B 児童扶養手当

児童扶養手当について「10万円以上」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で25.6%、周辺層で8.5%となっており、生活困窮層で高くなっている。

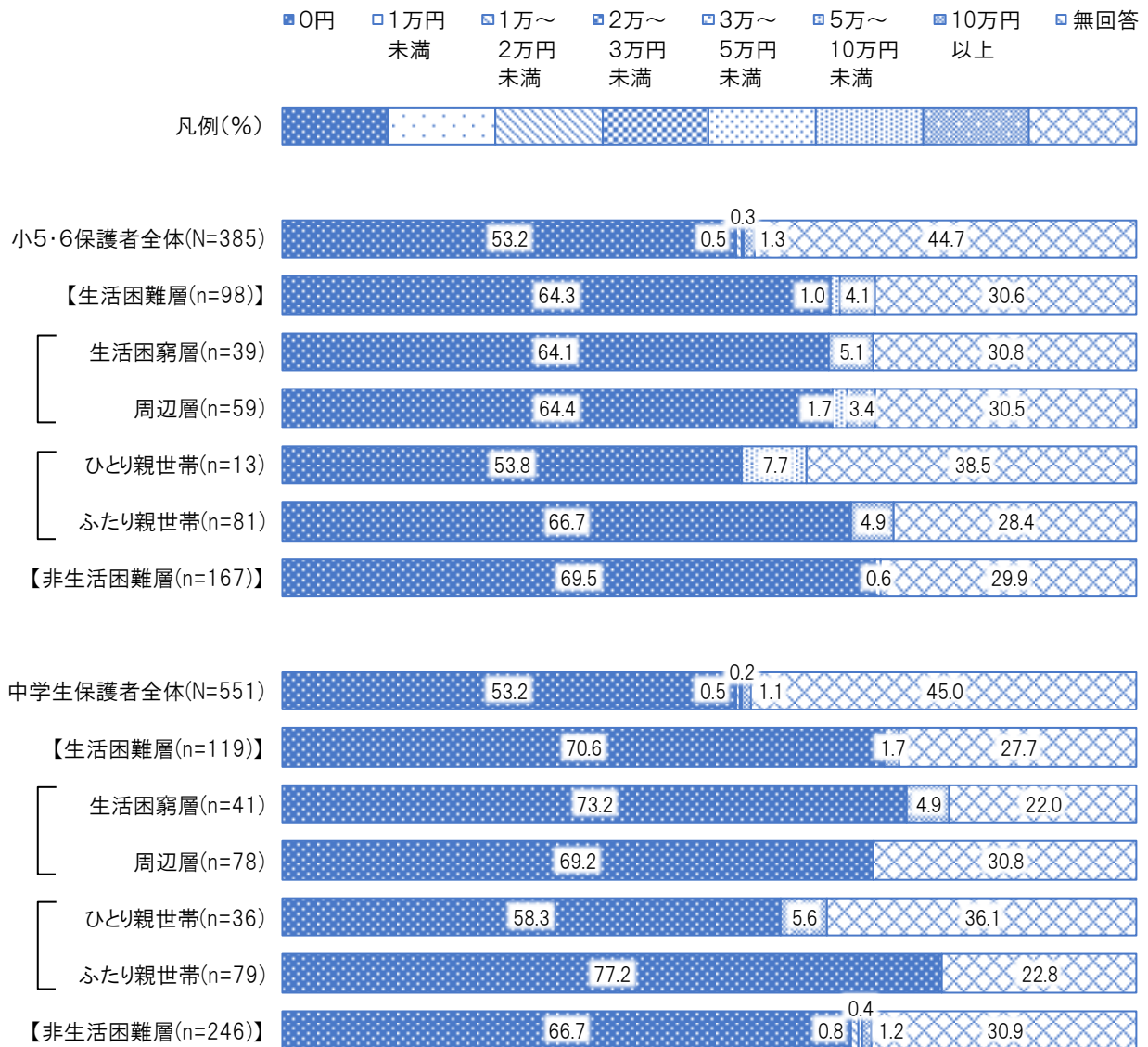
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「10万円以上」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



C 特別児童扶養手当

特別児童扶養手当について「0円」の割合は、中学生保護者の生活困窮層で73.2%、周辺層で69.2%となっており、生活困窮層でやや高くなっている。

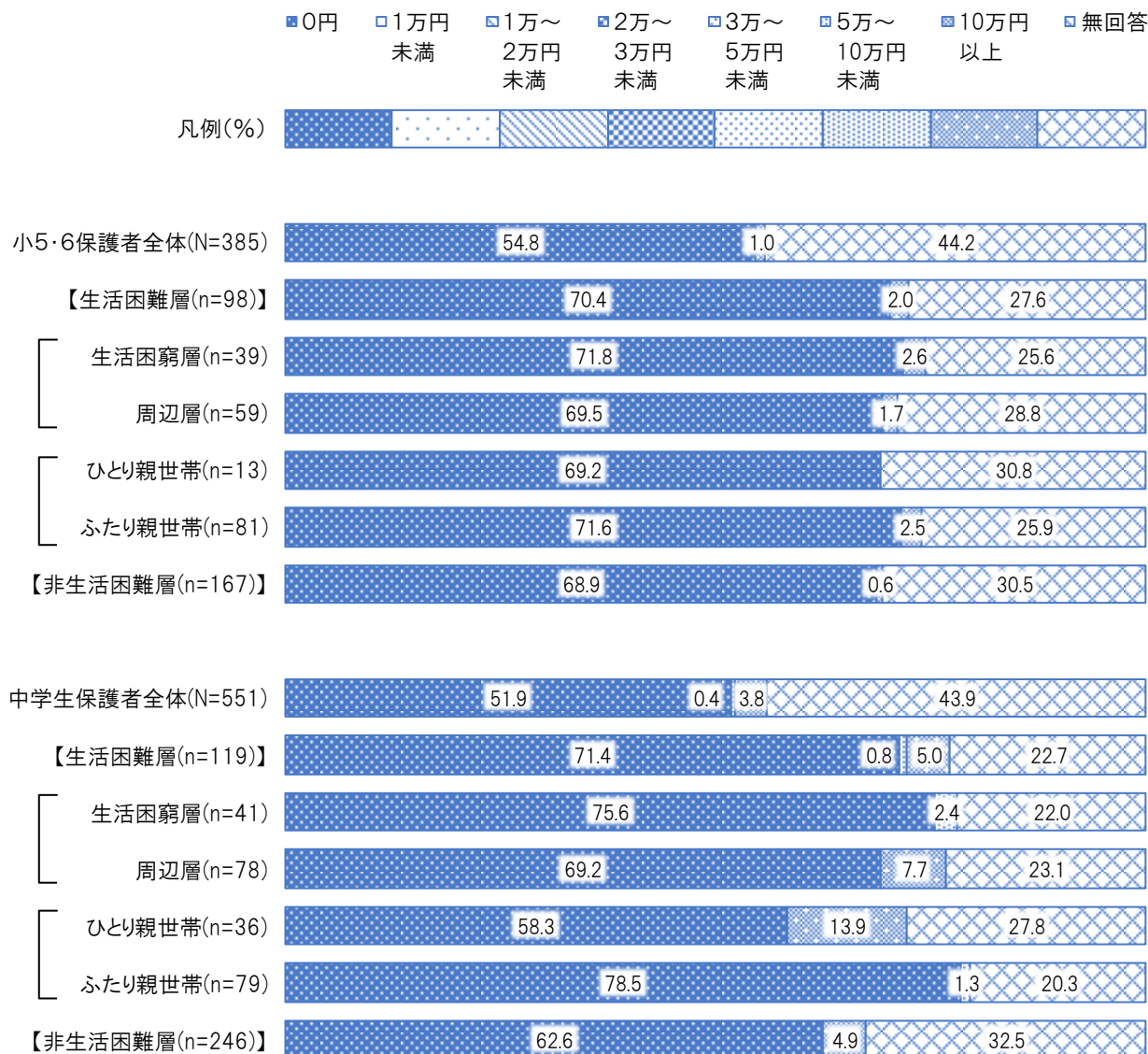
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「0円」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



D 年金（遺族年金，老齢年金など）

年金（遺族年金，老齢年金など）について「0円」の割合は，中学生保護者の生活困窮層で75.6%，周辺層で69.2%となっており，生活困窮層で高くなっている。

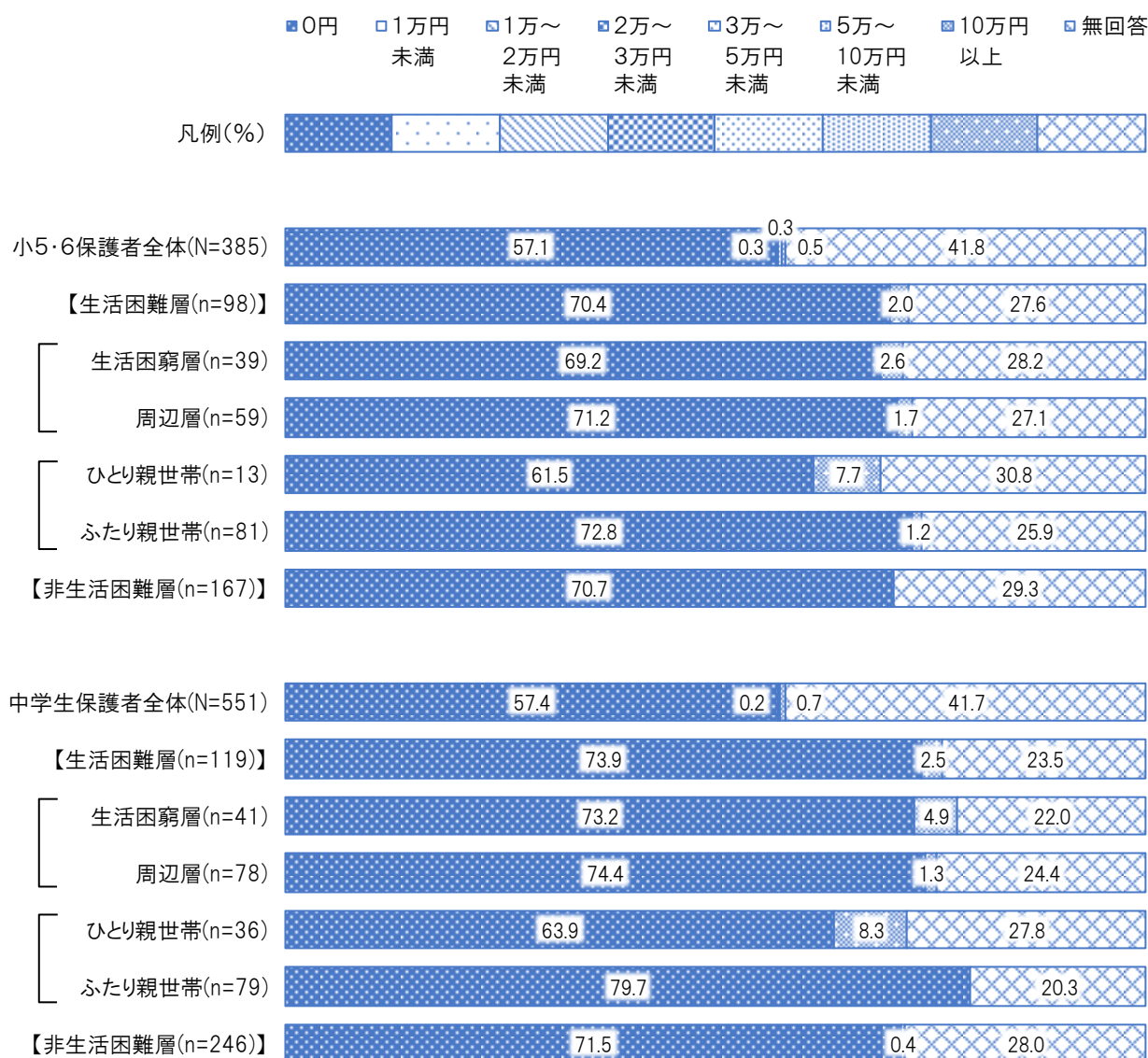
生活困難層世帯タイプ別では，中学生保護者のひとり親世帯で「10万円以上」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 生活保護

生活保護について「0円」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で69.2%、周辺層で71.2%、中学生保護者では、生活困窮層で73.2%、周辺層で74.4%となっており、生活困難度による大きな差はみられない。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「0円」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



【4】世帯年収

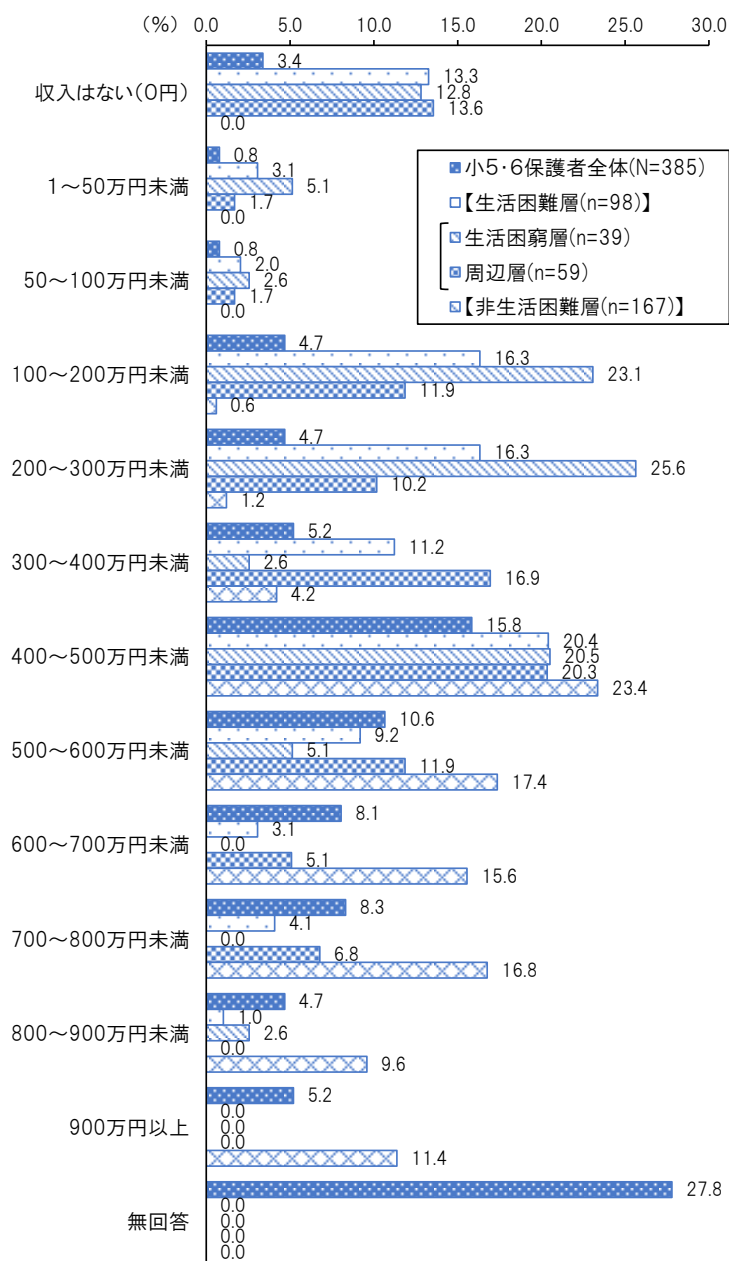
保／問 22 上記問 21 で回答いただいた，公的年金と社会保障給付金以外の収入についてお聞きします。お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の，おおよその年間収入（税込）はいくらですか。（あてはまる番号1つに○）

※収入には，勤労収入（パート，アルバイトを含む），事業収入（自営業等），農業収入，不動産収入，利子・配当金，個人年金，仕送りや元配偶者からの養育費を含みますが，上記問 21 で回答いただいた公的年金と社会保障給付金は除いてお考えください。

※複数の収入源がある場合（お父さまが勤労収入，お母さまに事業収入など）は，おおよその合算値(合計額)を教えてください。

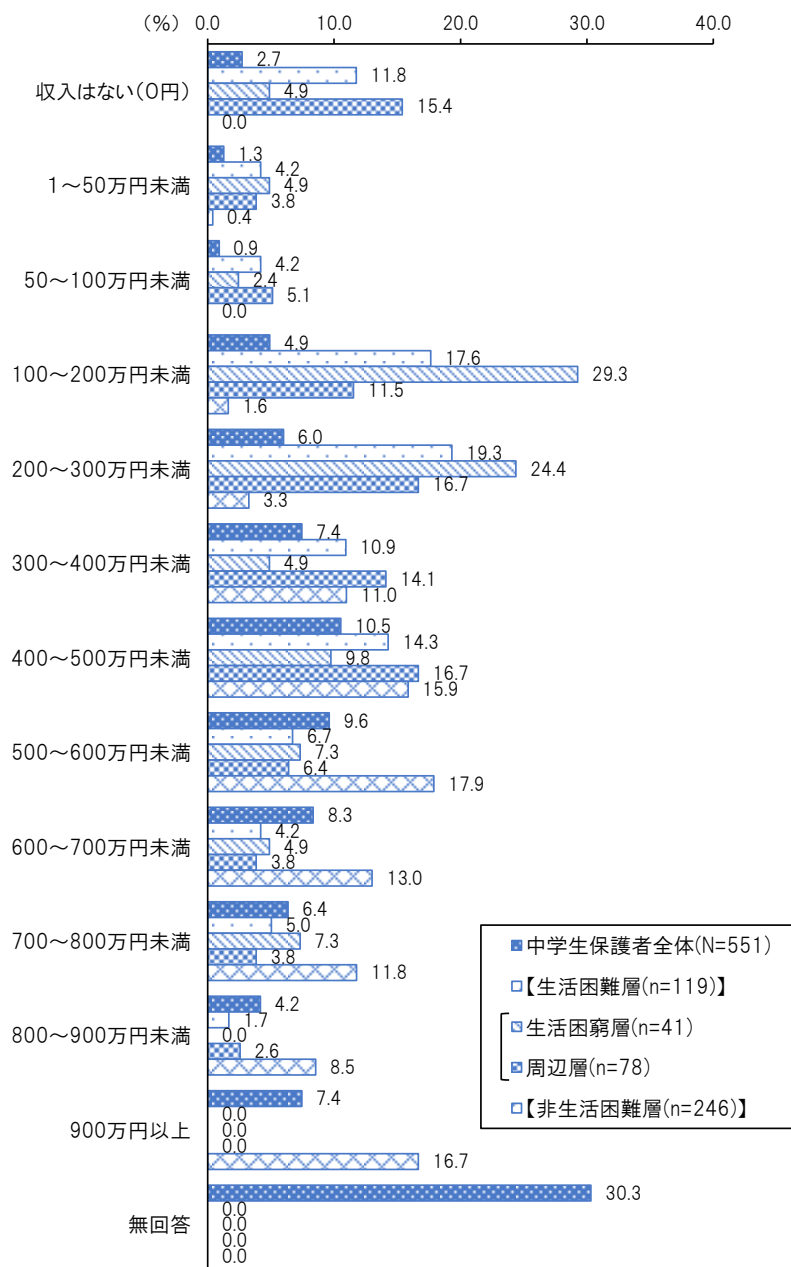
世帯年収について，小学5・6年保護者全体では「400～500万円未満」の割合が15.8%と最も高く，次いで「500～600万円未満」（10.6%）が続いている。

生活困難度別にみると，生活困難層で「収入はない（0円）」，生活困窮層で「100～200万円未満」「200～300万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。

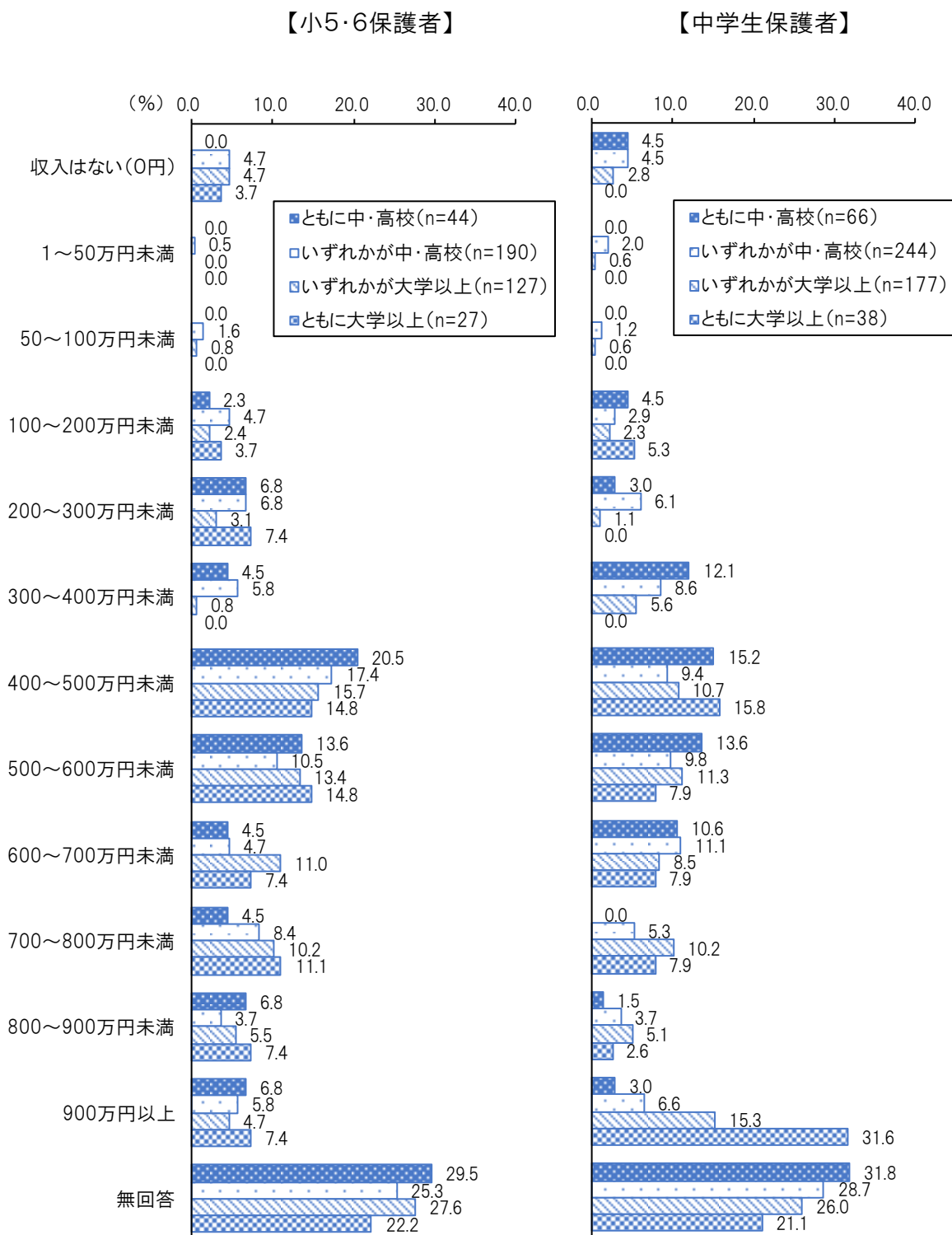


中学生保護者全体では、「400～500万円未満」が10.5%と最も高く、次いで「500～600万円未満」(9.6%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「100～200万円未満」「200～300万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。



保護者の学歴別（問 36・問 37）でみると、小学 5・6 年保護者、中学生保護者ともに、「ともに中・高校」では「300～400 万円未満」「400～500 万円未満」「500～600 万円未満」などの割合が高く、「ともに大学以上」では「700～800 万円未満」「900 万円以上」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

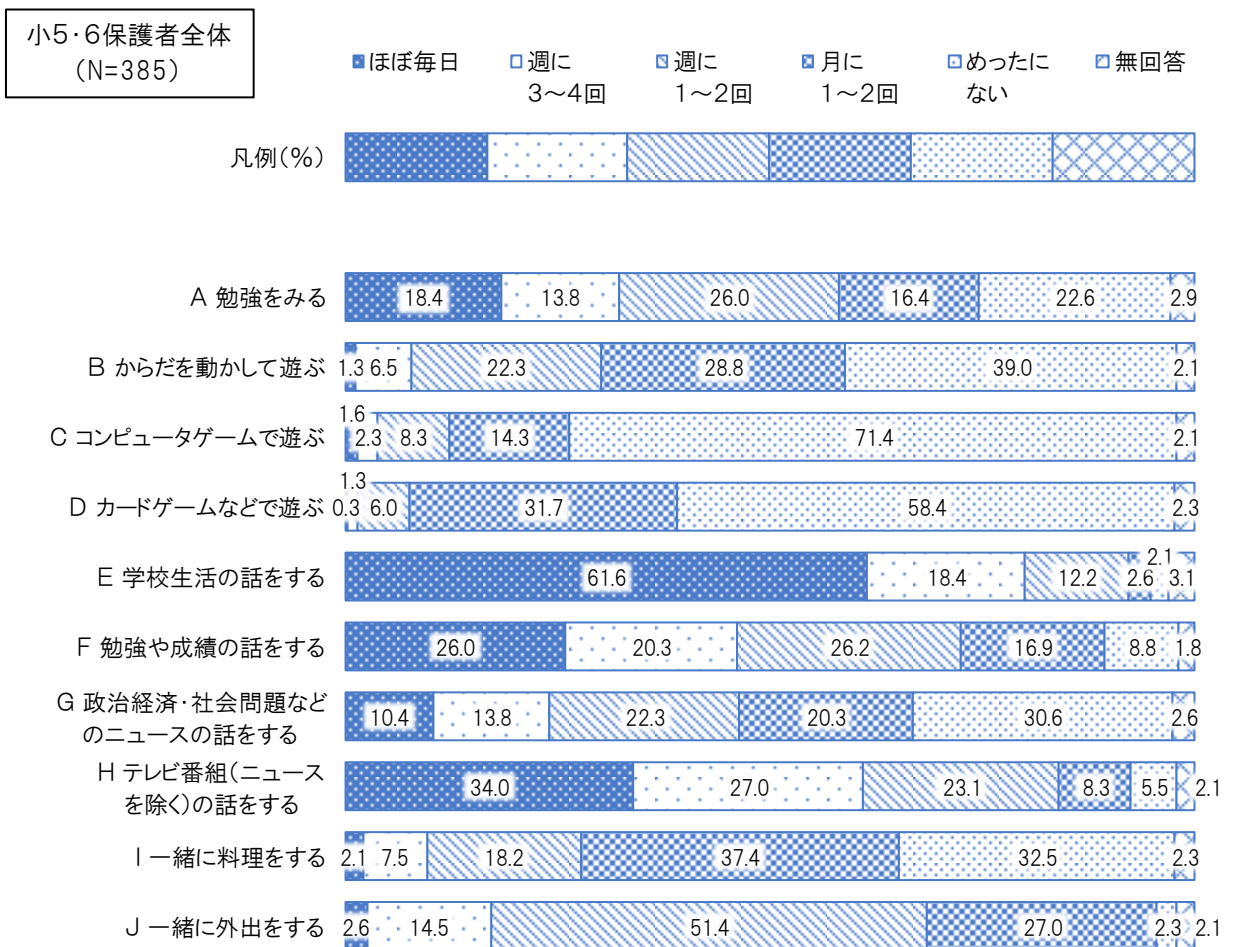


【5】子供とのかかわり

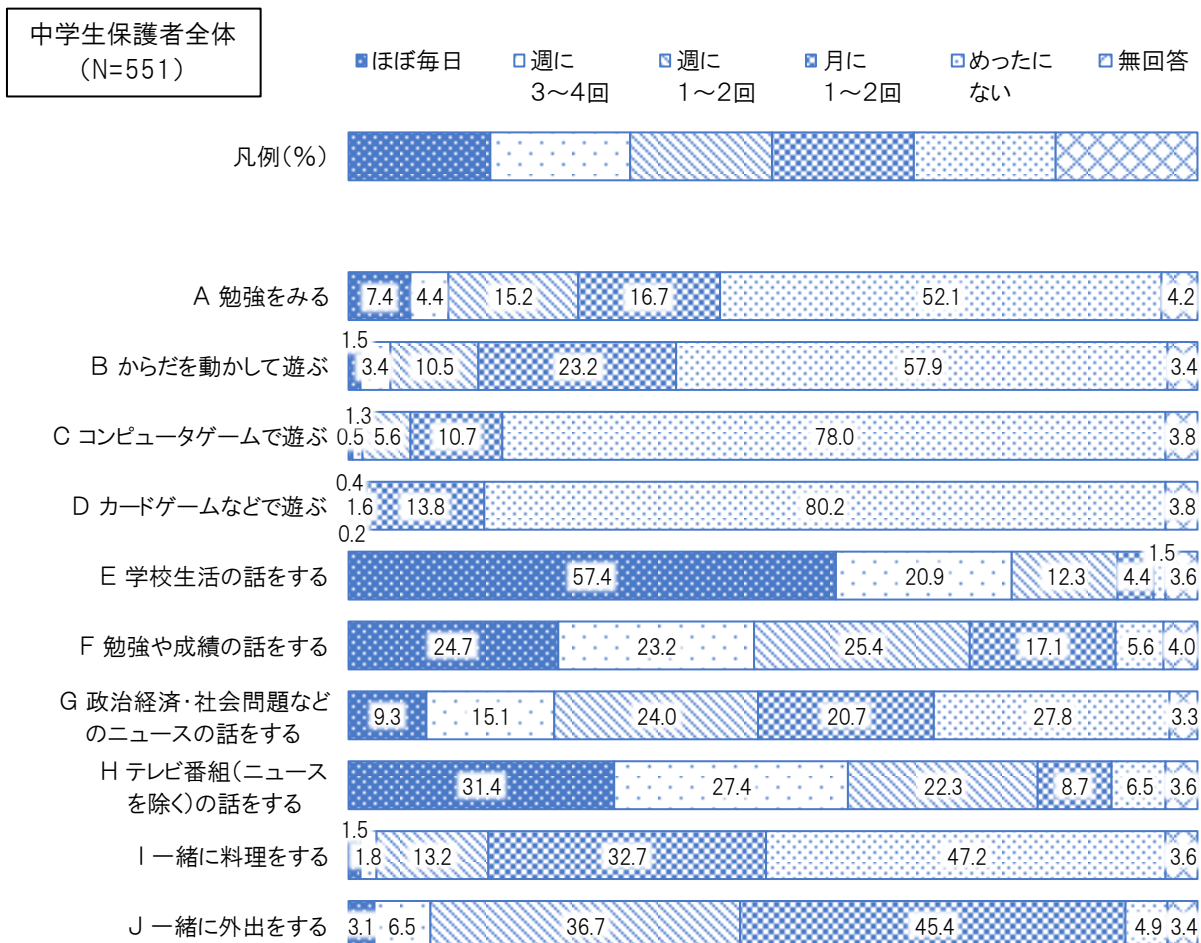
(1) 子供とのかかわり頻度

保/問 25 あなたの家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

子供とのかかわり頻度については、小学5・6年保護者全体では「ほぼ毎日」の割合が高い順に「E 学校生活の話をする」(61.6%)、「H テレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(34.0%)、「F 勉強や成績の話をする」(26.0%)となっている。一方、「めったにない」では「C コンピュータゲームで遊ぶ」(71.4%)、「D カードゲームなどで遊ぶ」(58.4%)、「B からだを動かして遊ぶ」(39.0%)などがあげられる。



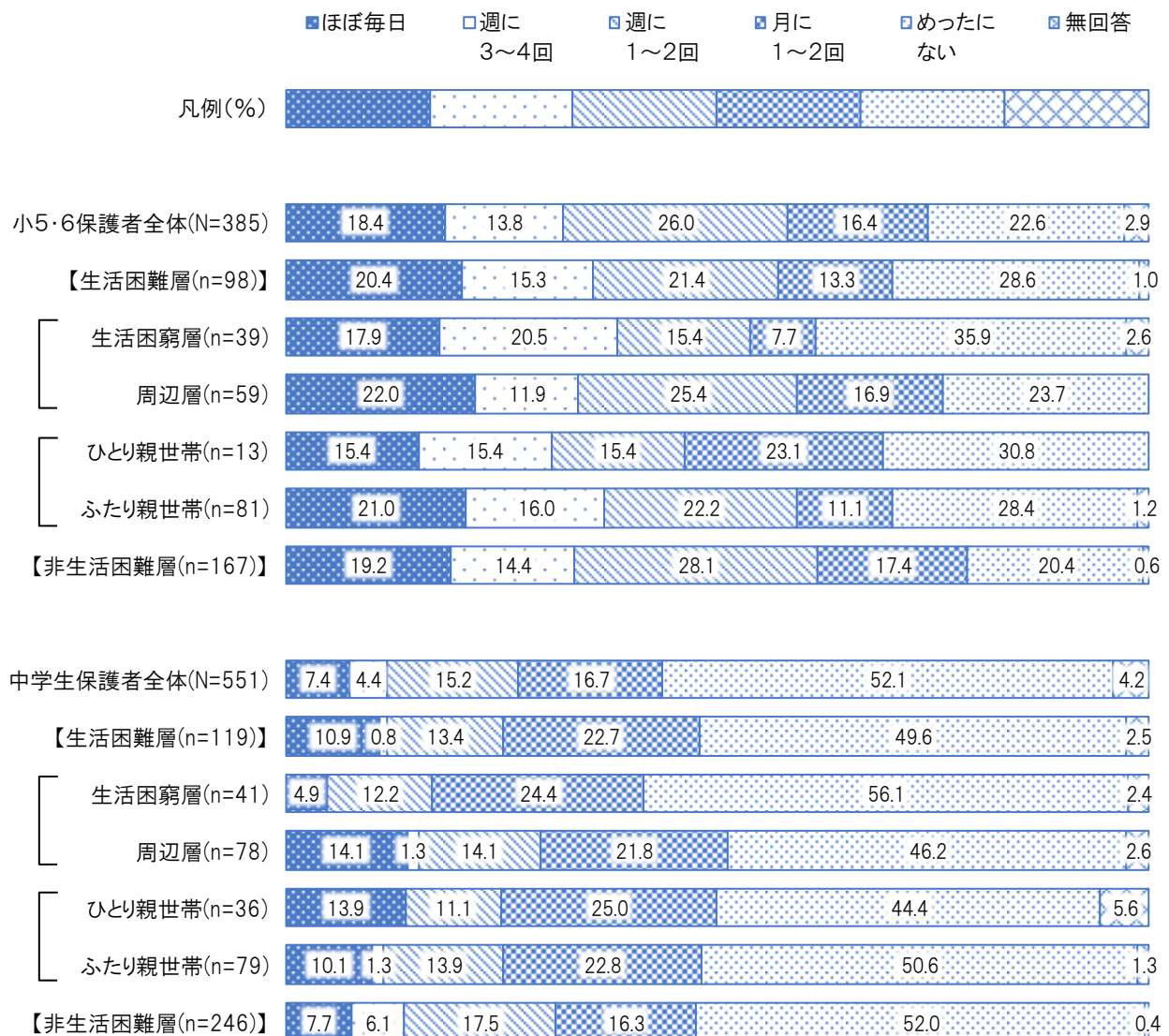
中学生保護者全体では、「ほぼ毎日」の割合が高い順に「E 学校生活の話をする」(57.4%)、「H テレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(31.4%)、「F 勉強や成績の話をする」(24.7%)となっている。一方、「めったにない」では「D カードゲームなどで遊ぶ」(80.2%)、「C コンピュータゲームで遊ぶ」(78.0%)、「B からだを動かして遊ぶ」(57.9%)などがあげられる。



A 勉強をみる

勉強をみることについて「めったにない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、中学生保護者で56.1%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

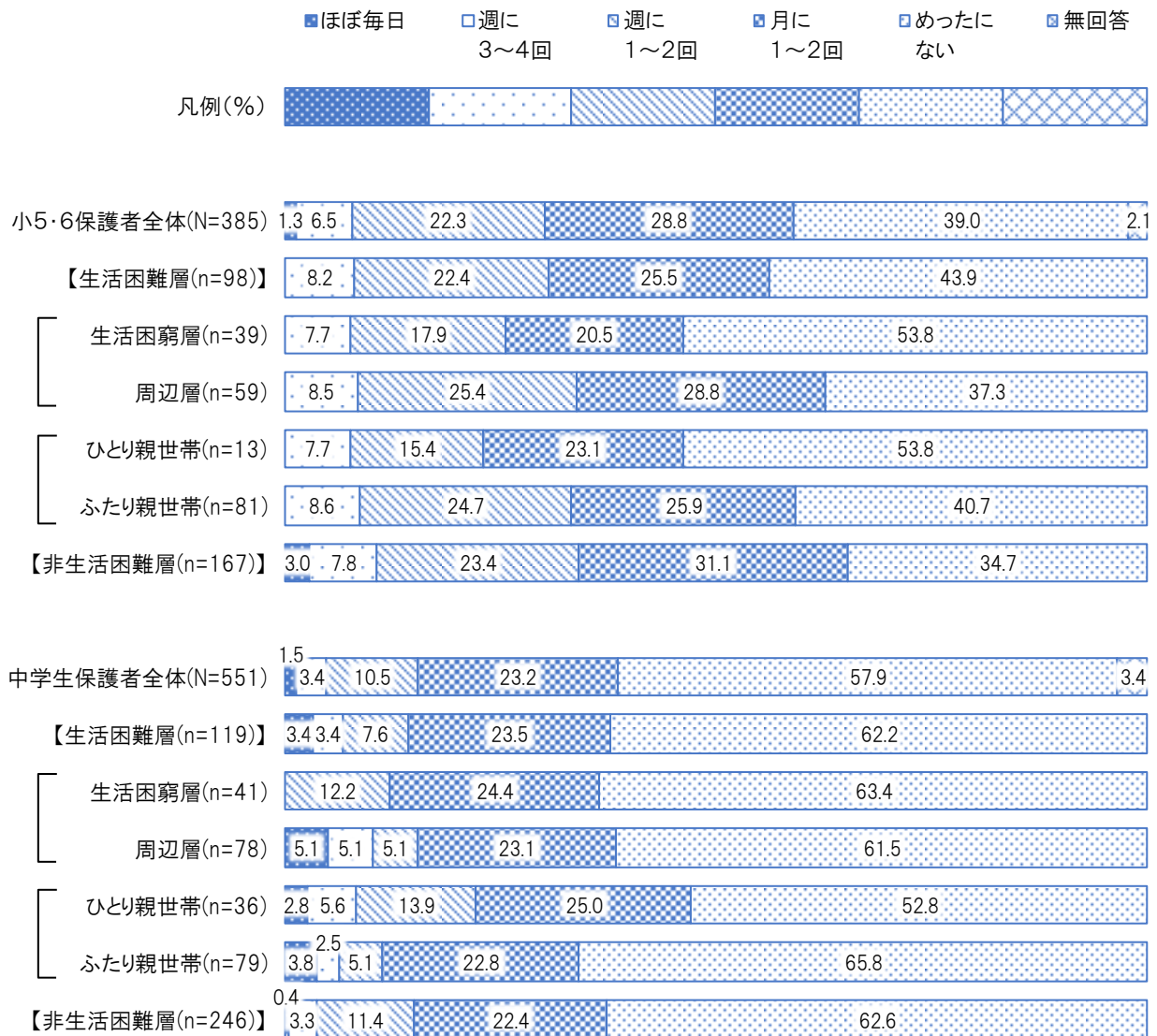
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「ほぼ毎日」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



B からだを動かして遊ぶ

からだを動かして遊ぶことについて「めったにない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で53.8%，周辺層で37.3%となっており、生活困窮層で高くなっている。

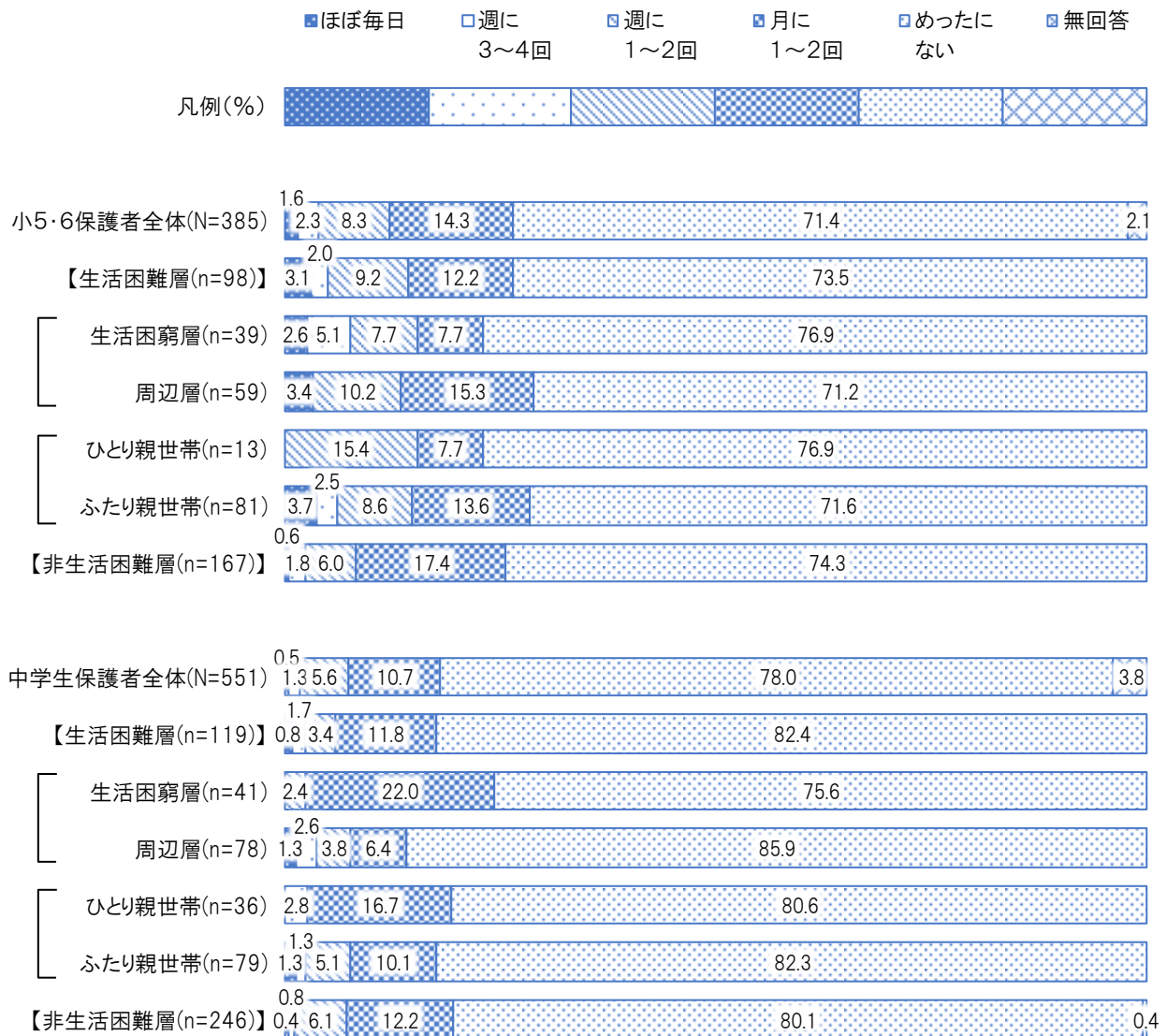
生活困難層世帯タイプ別にみた「めったにない」の割合は、小学5・6年保護者ではひとり親世帯、中学生保護者ではふたり親世帯で高くなっている。



C コンピュータゲームで遊ぶ

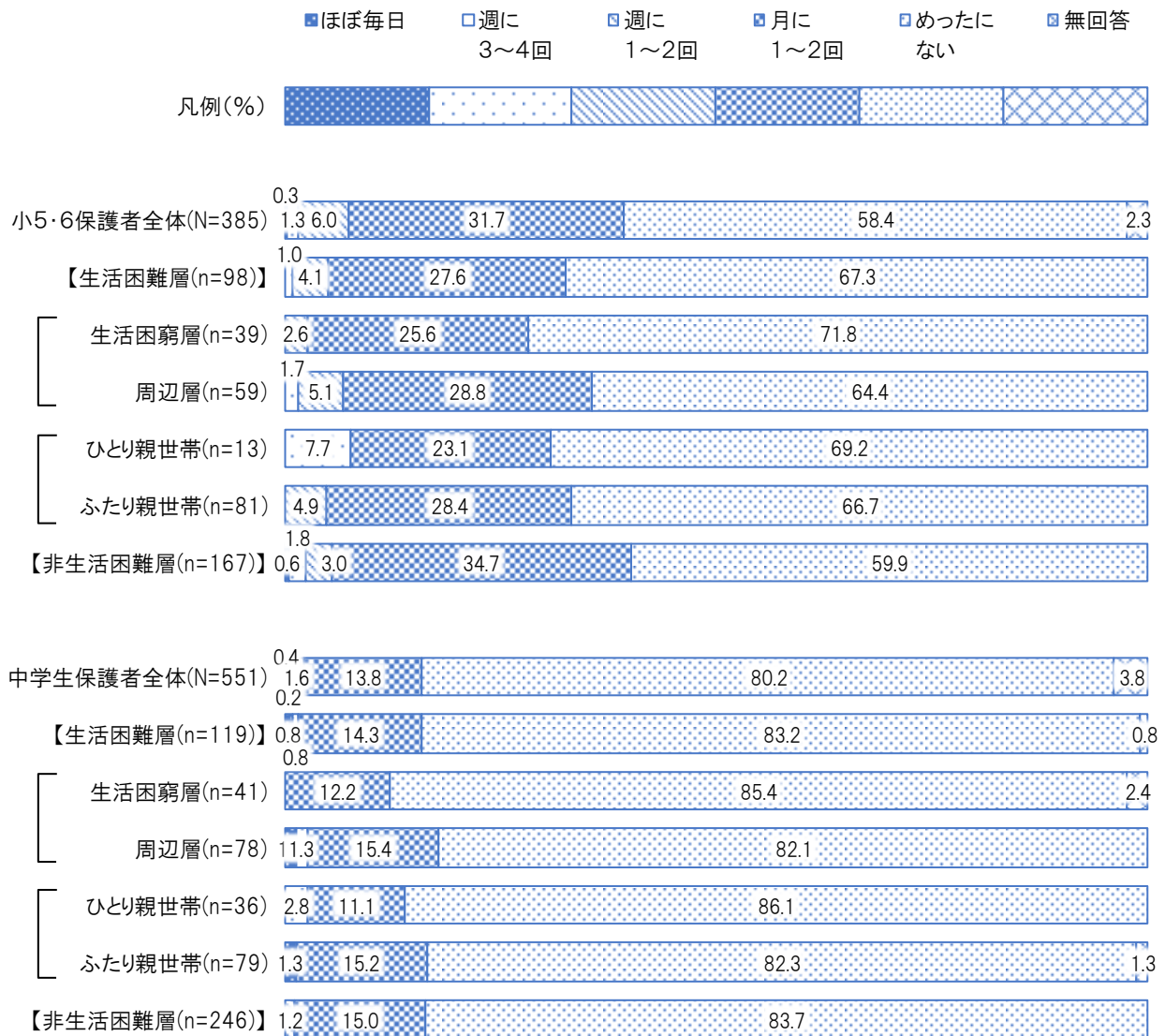
コンピュータゲームで遊ぶことについて「めったにない」の割合は、中学生保護者の生活困窮層で75.6%、周辺層で85.9%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「週に1～2回」の割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。



D カードゲームなどで遊ぶ

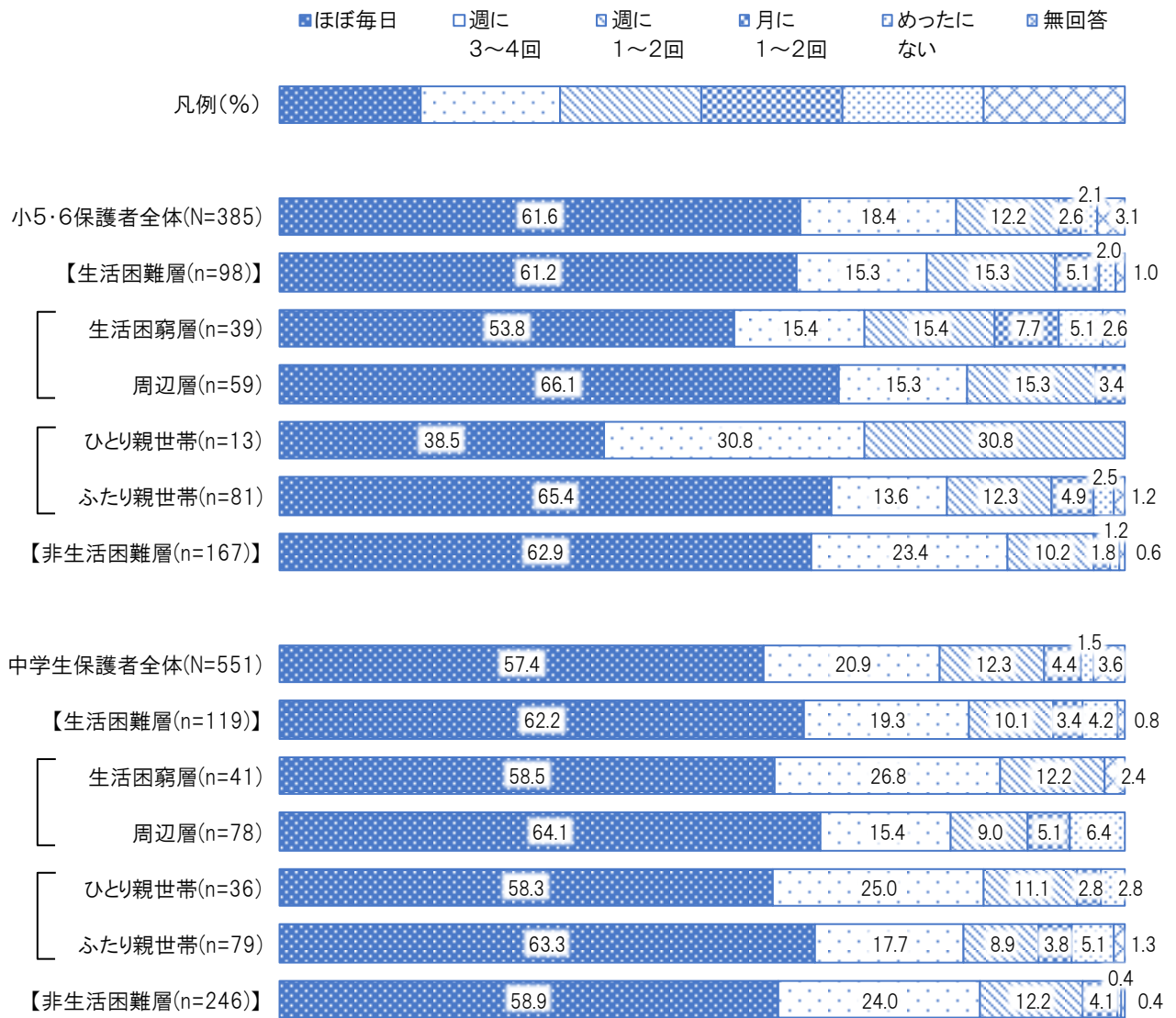
カードゲームなどで遊ぶことについて「めったにない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で71.8%，周辺層で64.4%となっており、生活困窮層で高くなっている。



E 学校生活の話をする

学校生活の話をするについて「ほぼ毎日」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で53.8%、周辺層で66.1%となっており、生活困窮層で低くなっている。

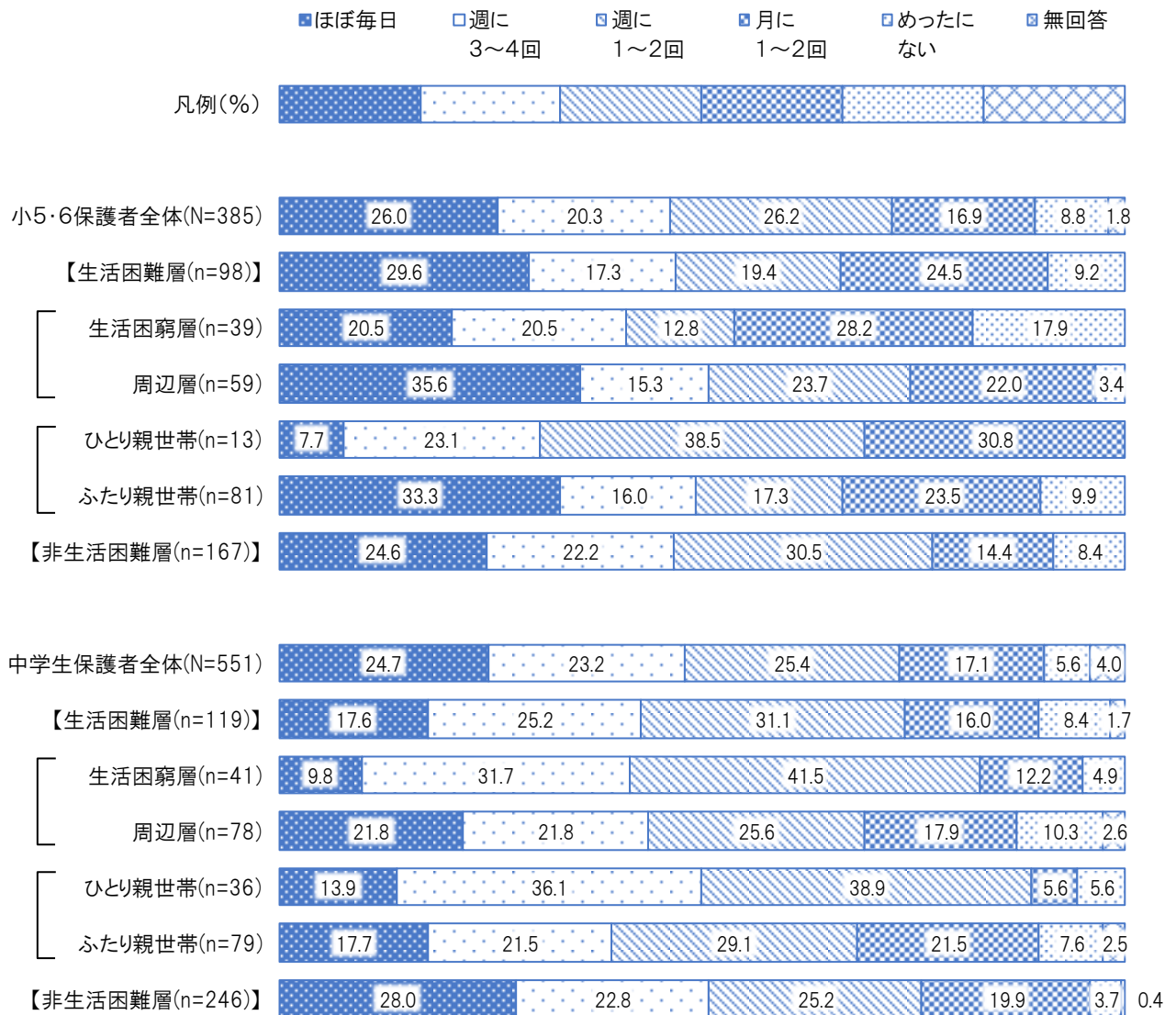
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ほぼ毎日」の割合が低く、「週に3～4回」「週に1～2回」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F 勉強や成績の話をする

勉強や成績の話をするについて「ほぼ毎日」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%、周辺層で35.6%となっており、生活困窮層で低くなっている。また、中学生保護者では、生活困窮層で「ほぼ毎日」(9.8%)の割合が非生活困難層に比べて低く、「週に1～2回」(41.5%)の割合が高くなっている。

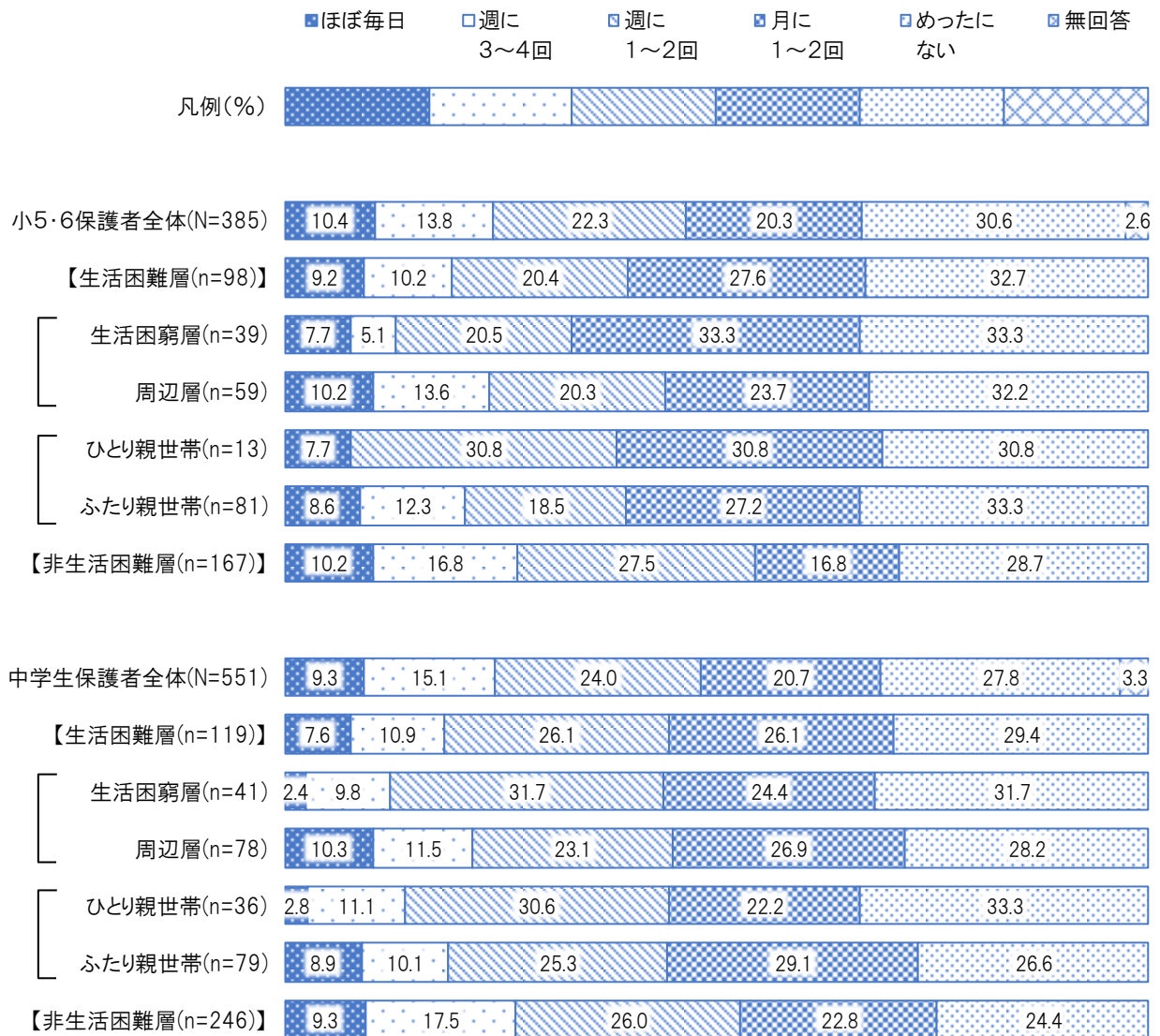
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ほぼ毎日」の割合がふたり親世帯を大きく下回っている。中学生保護者のひとり親世帯では、「週に3～4回」「週に1～2回」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



G 政治経済・社会問題などのニュースの話をする

政治経済・社会問題などのニュースの話をすることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「月に1～2回」の割合が33.3%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。また、中学生保護者の生活困窮層で「週に1～2回」の割合が31.7%となっており、周辺層に比べて高くなっている。

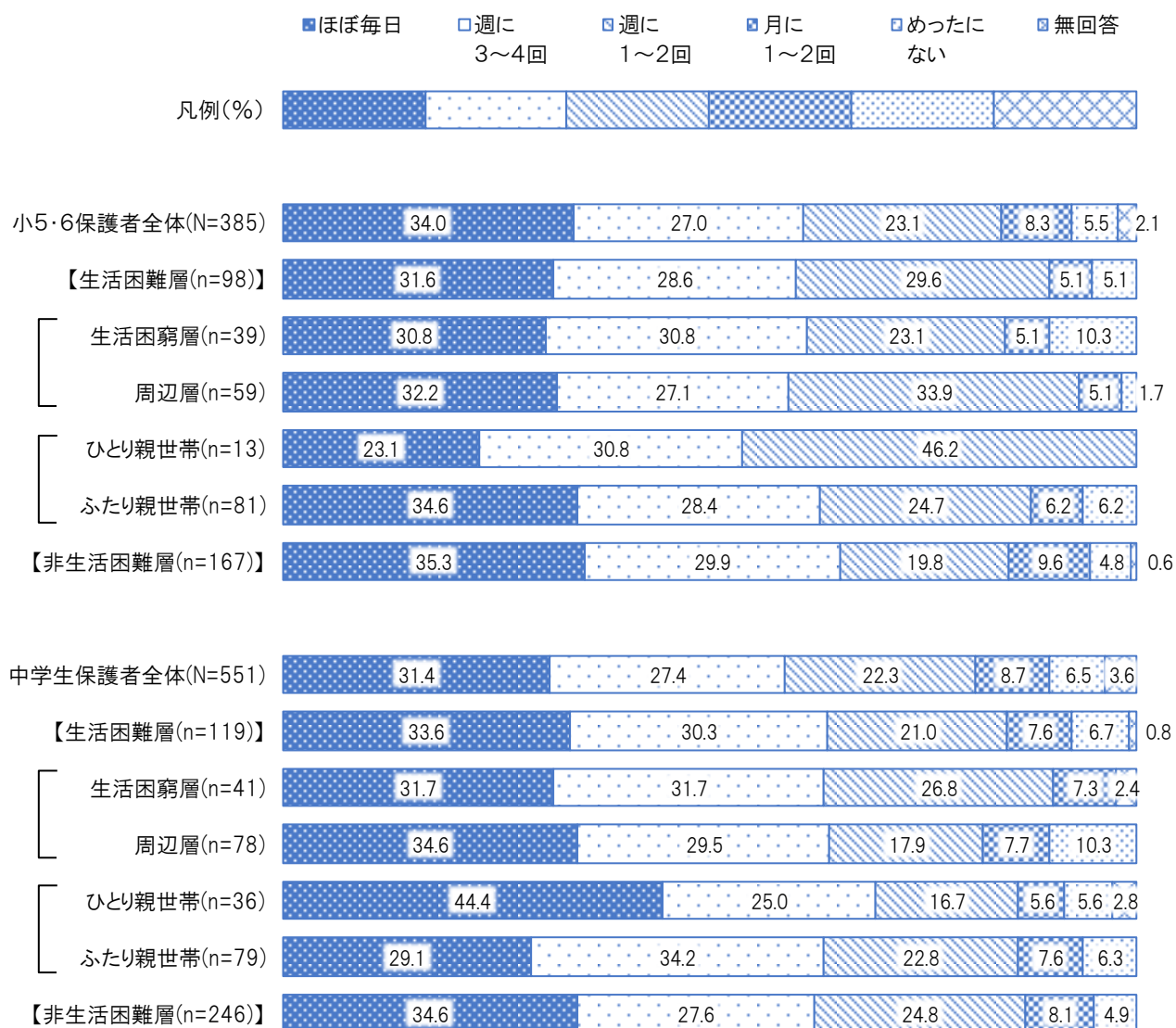
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「週に1～2回」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



H テレビ番組（ニュースを除く）の話をする

テレビ番組（ニュースを除く）の話をすることについて「週に1～2回」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で23.1%、周辺層で33.9%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で26.8%、周辺層で17.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

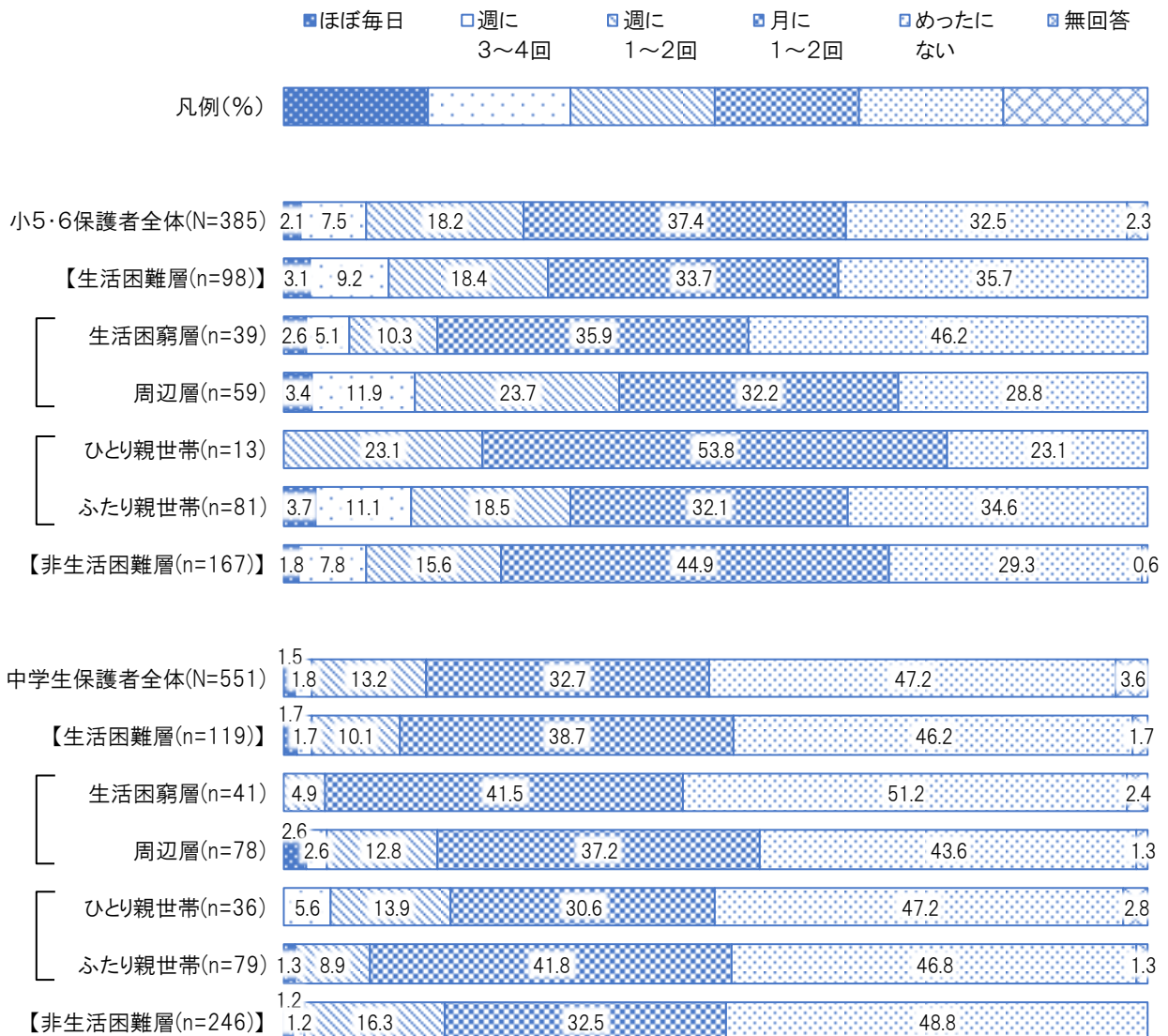
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「週に1～2回」、中学生保護者のひとり親世帯で「ほぼ毎日」の割合がふたり親世帯に比べてそれぞれ高くなっている。



I 一緒に料理をする

一緒に料理をすることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「めったにない」の割合が46.2%となっており、非生活困窮層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で「月に1～2回」の割合が41.5%となっており、非生活困窮層に比べて高くなっている。

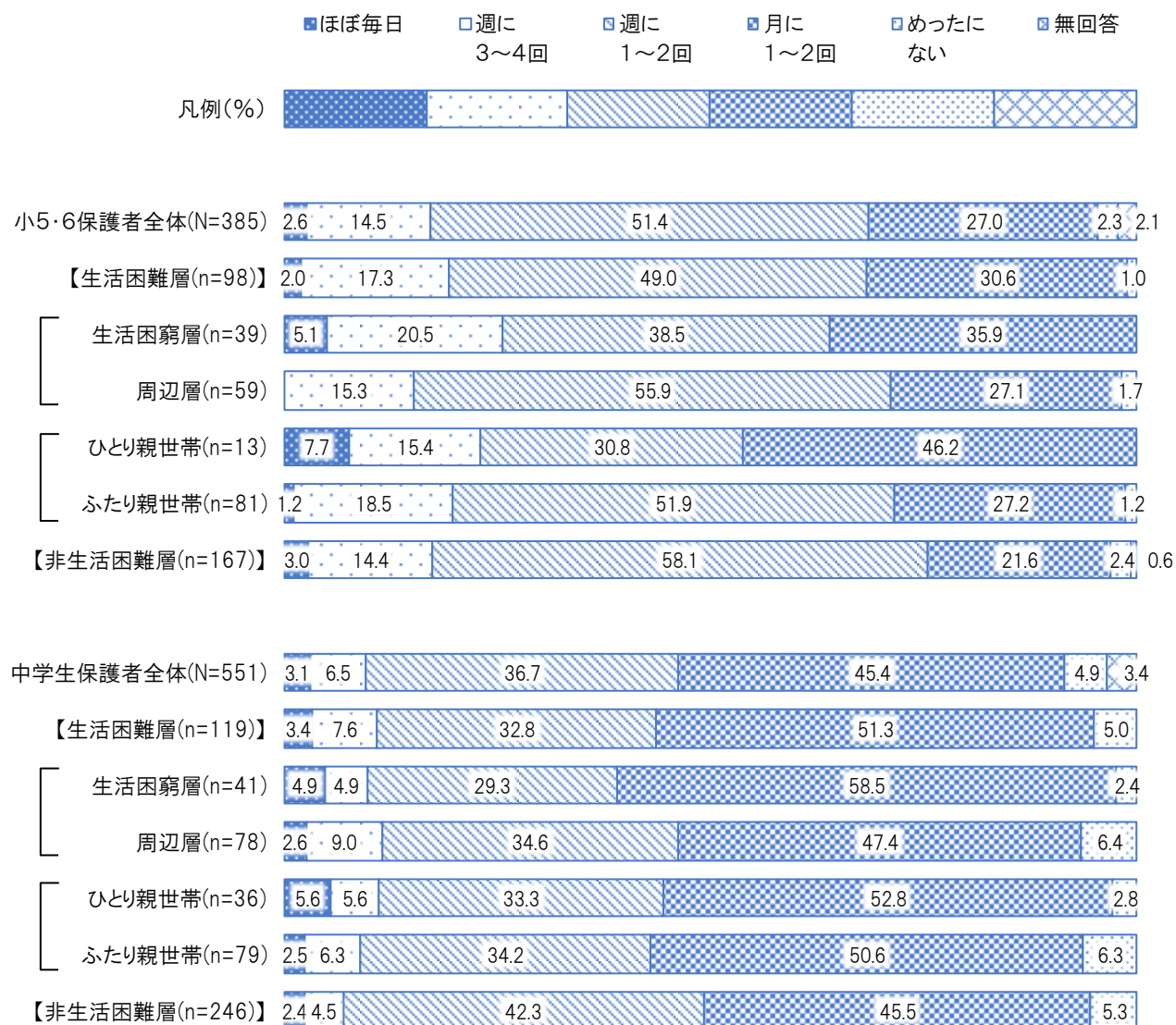
生活困窮層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「めったにない」の割合がひとり親世帯に比べて高く、中学生保護者のふたり親世帯で「月に1～2回」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



J 一緒に外出をする

一緒に外出をすることについて、小学5・6年保護者の周辺層で「週に1～2回」の割合が55.9%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。また、中学生保護者では、生活困窮層で「月に1～2回」の割合が58.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「月に1～2回」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



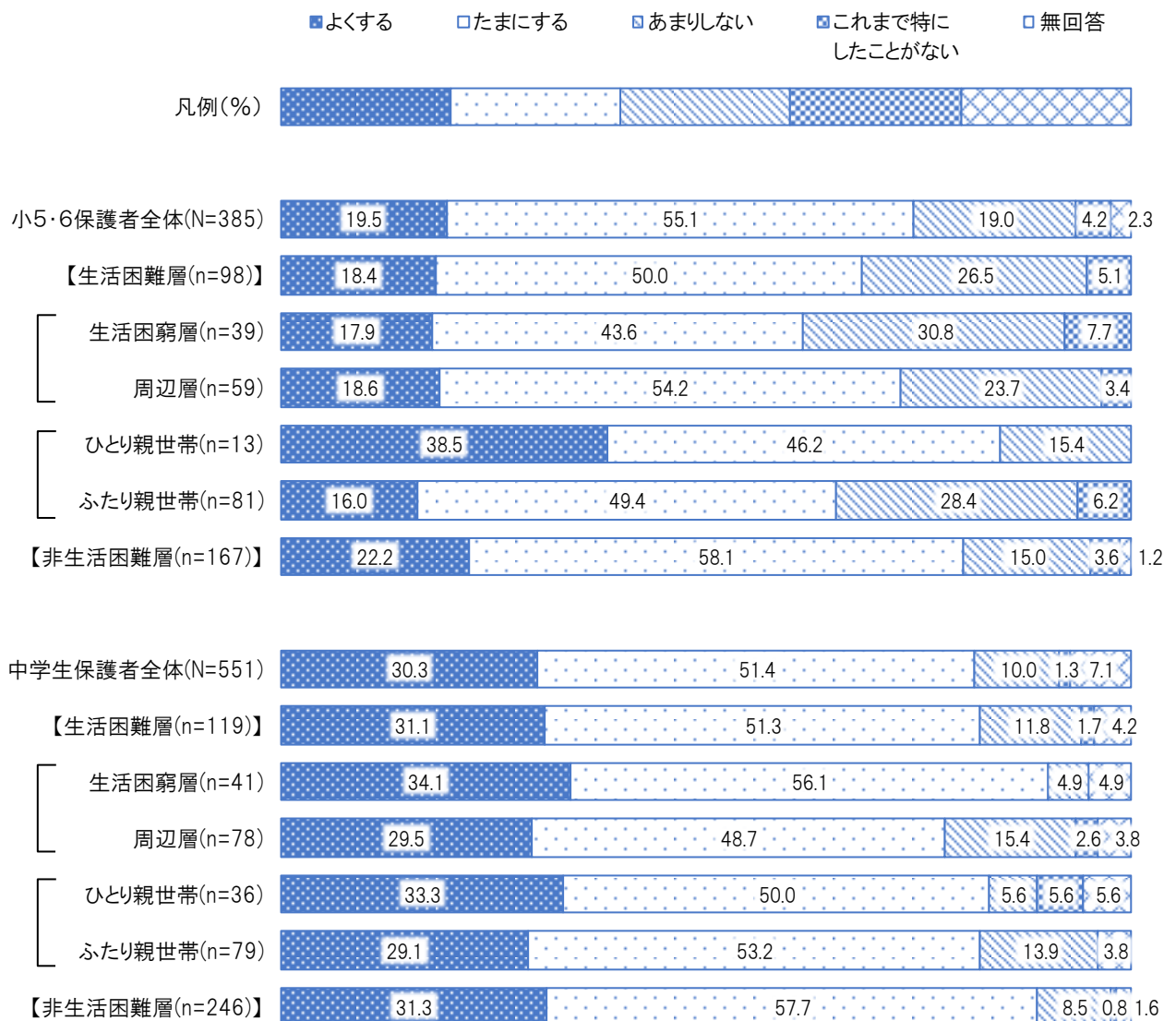
(2) 子供の将来についての会話

保／問 26 あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話したりすることがありますか。（あてはまる番号1つに○）

子供の将来についての会話については、小学5・6年保護者全体では「よくする」の割合が19.5%、中学生保護者全体では30.3%となっている。一方、「あまりしない」「これまで特にしたことがない」の合計は、小学5・6年保護者全体では23.2%、中学生保護者全体では11.3%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年保護者の生活困窮層は「あまりしない」の割合が30.8%となっており、非生活困難層を大きく上回っている。一方、中学生保護者の周辺層で「たまにする」の割合が48.7%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「よくする」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。

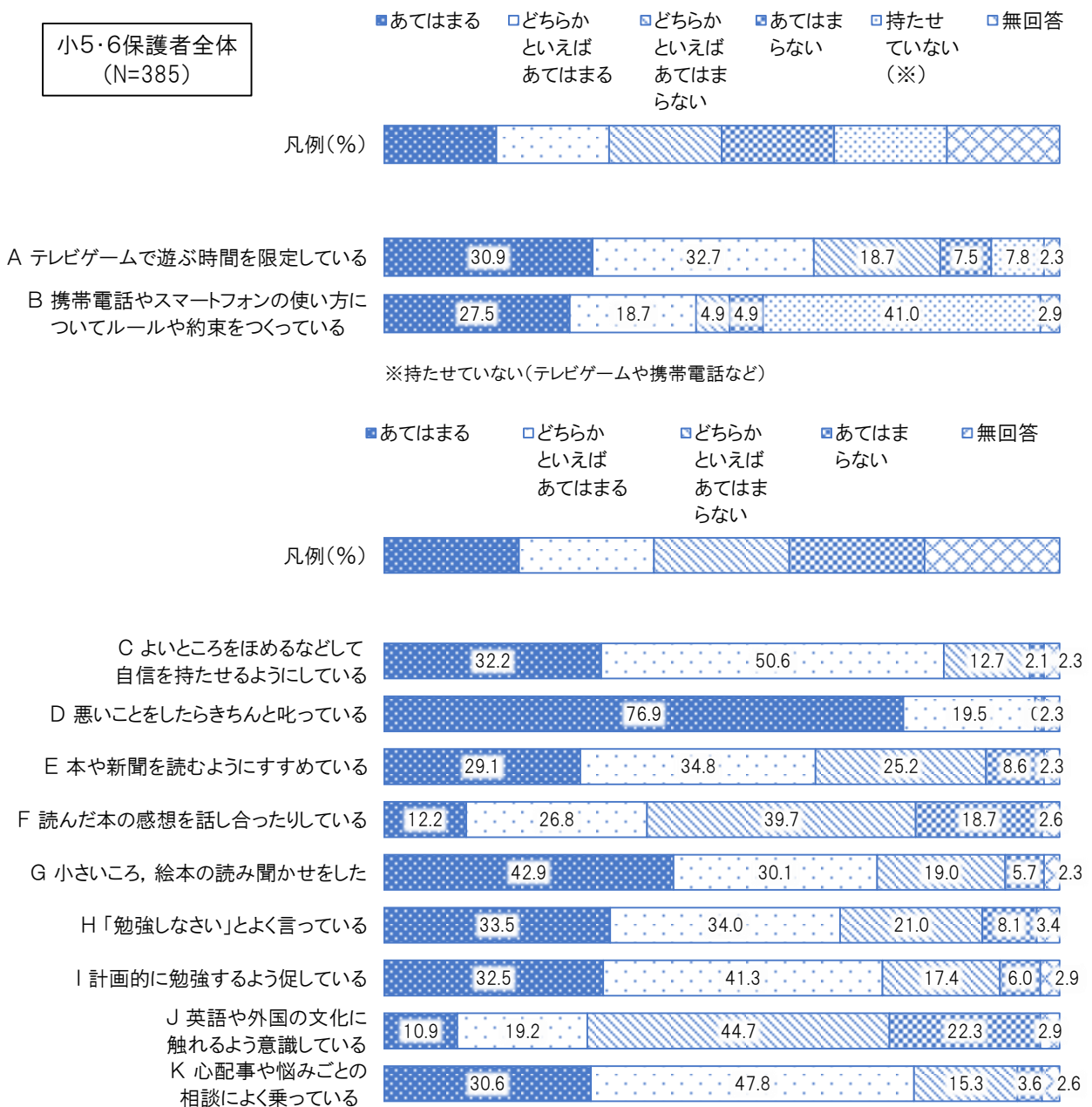


【6】子供のしつけ

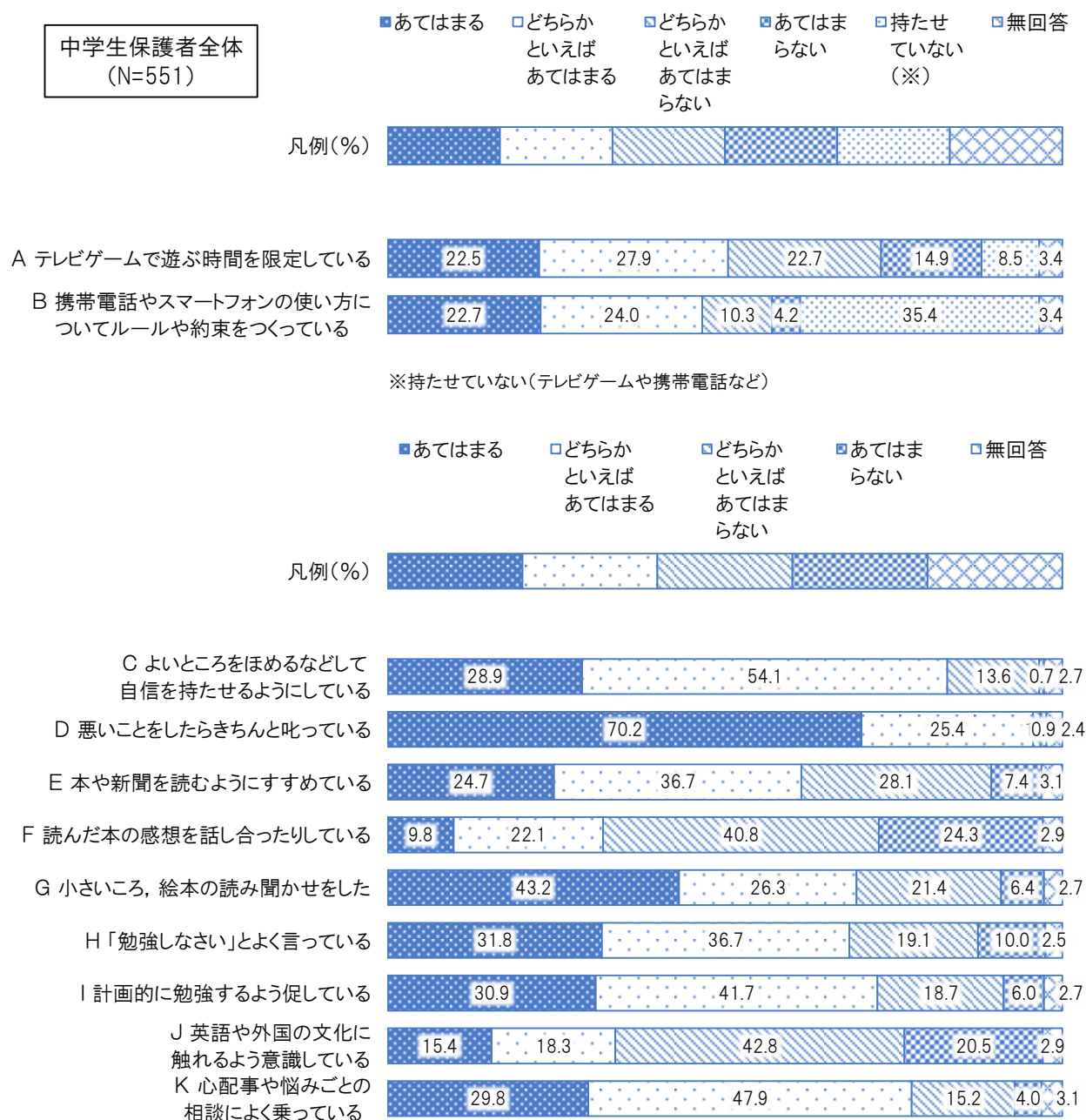
保／問 28 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

子供のしつけについては、小学5・6年保護者全体では「あてはまる」の割合が高い順に「D 悪いことをしたらきちんと叱っている」(76.9%)、「G 小さいころ、絵本の読み聞かせをした」(42.9%)、「H 『勉強しなさい』とよく言っている」(33.5%)となっている。一方、「あてはまらない」では「J 英語や外国の文化に触れるよう意識している」(22.3%)、「F 読んだ本の感想を話し合ったりしている」(18.7%)などがあげられる。

小5・6保護者全体
(N=385)



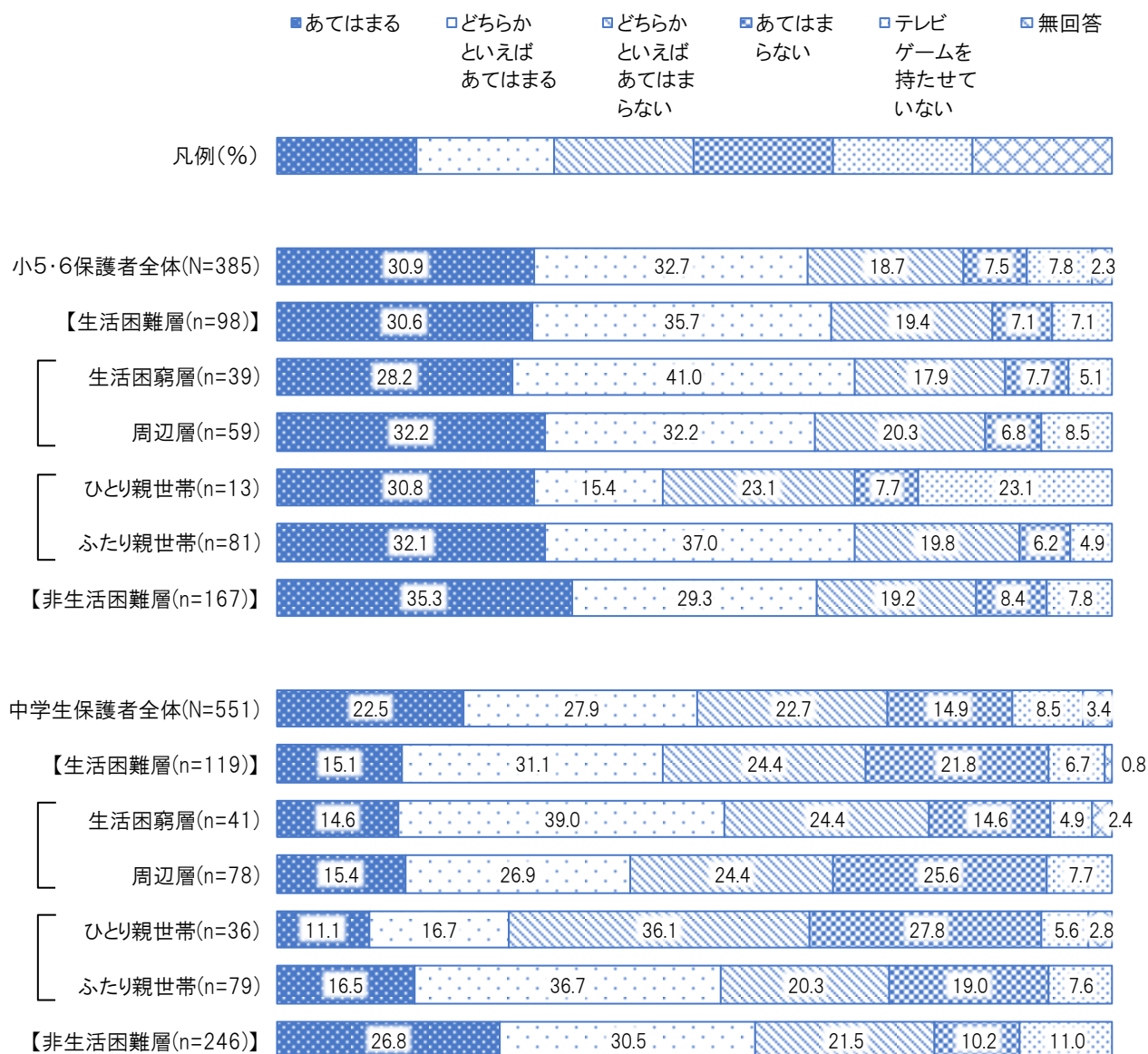
中学生保護者全体では、「あてはまる」の割合が高い順に「D 悪いことをしたらきちんと叱っている」(70.2%),「G 小さいころ、絵本の読み聞かせをした」(43.2%),「H 『勉強しなさい』とよく言っている」(31.8%)となっている。一方、「あてはまらない」では「F 読んだ本の感想を話し合ったりしている」(24.3%),「J 英語や外国の文化に触れるよう意識している」(20.5%)などがあげられる。



A テレビゲームで遊ぶ時間を限定している

テレビゲームで遊ぶ時間を限定していることについて「どちらかといえばあてはまる」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で41.0%、中学生保護者の生活困窮層で39.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

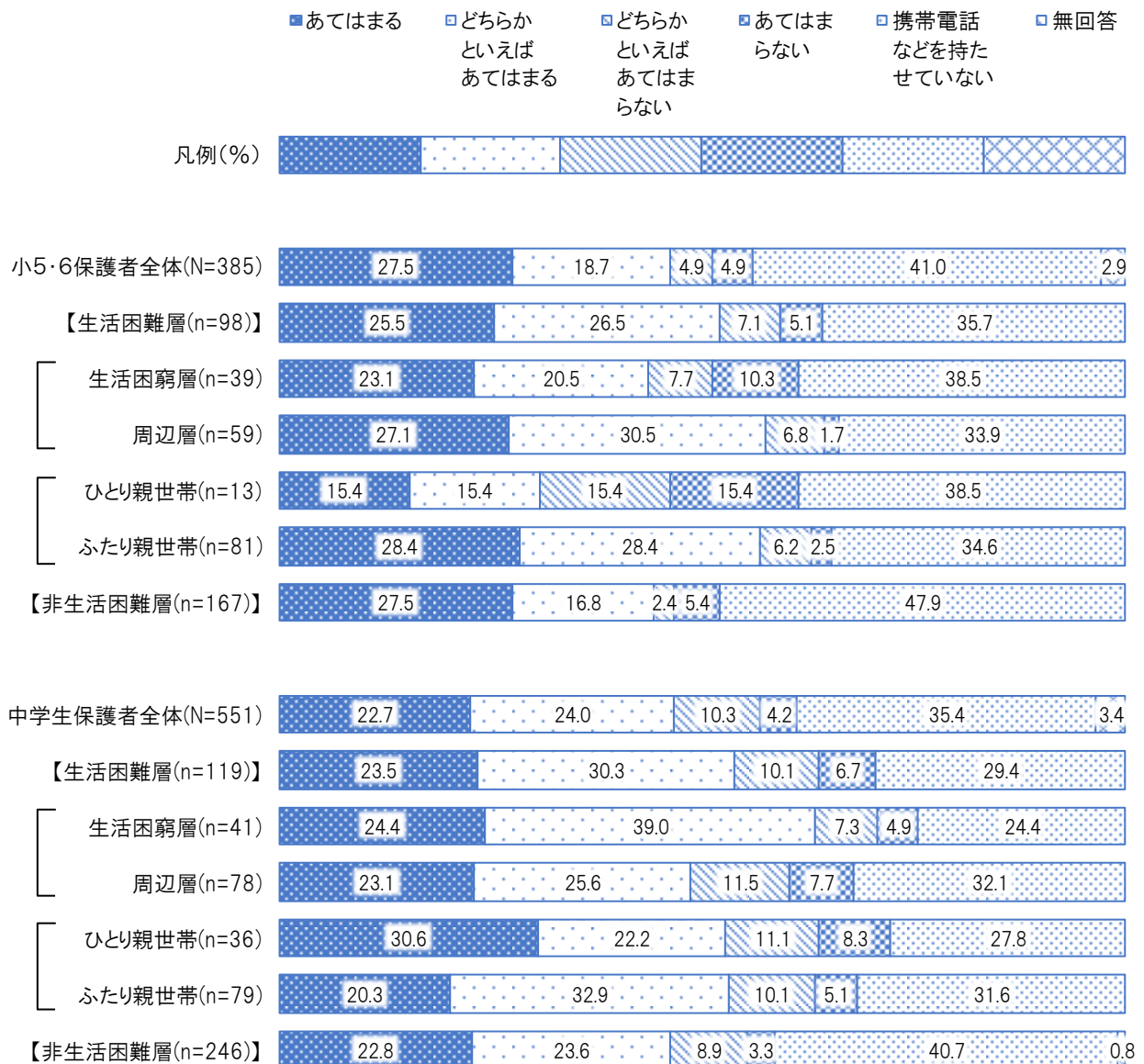
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「テレビゲームを持たせていない」の割合が他の層に比べて高く、また、中学生保護者のひとり親世帯では「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



B 携帯電話やスマートフォンの使い方についてルールや約束をつくっている

携帯電話やスマートフォンの使い方についてルールや約束をつくっていることについて、小学5・6年保護者の周辺層で「どちらかといえばあてはまる」の割合が30.5%と高く、中学生保護者では、生活困窮層で「どちらかといえばあてはまる」の割合が39.0%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。また、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「携帯電話などを持たせていない」の割合は、非生活困難層で高くなっている。

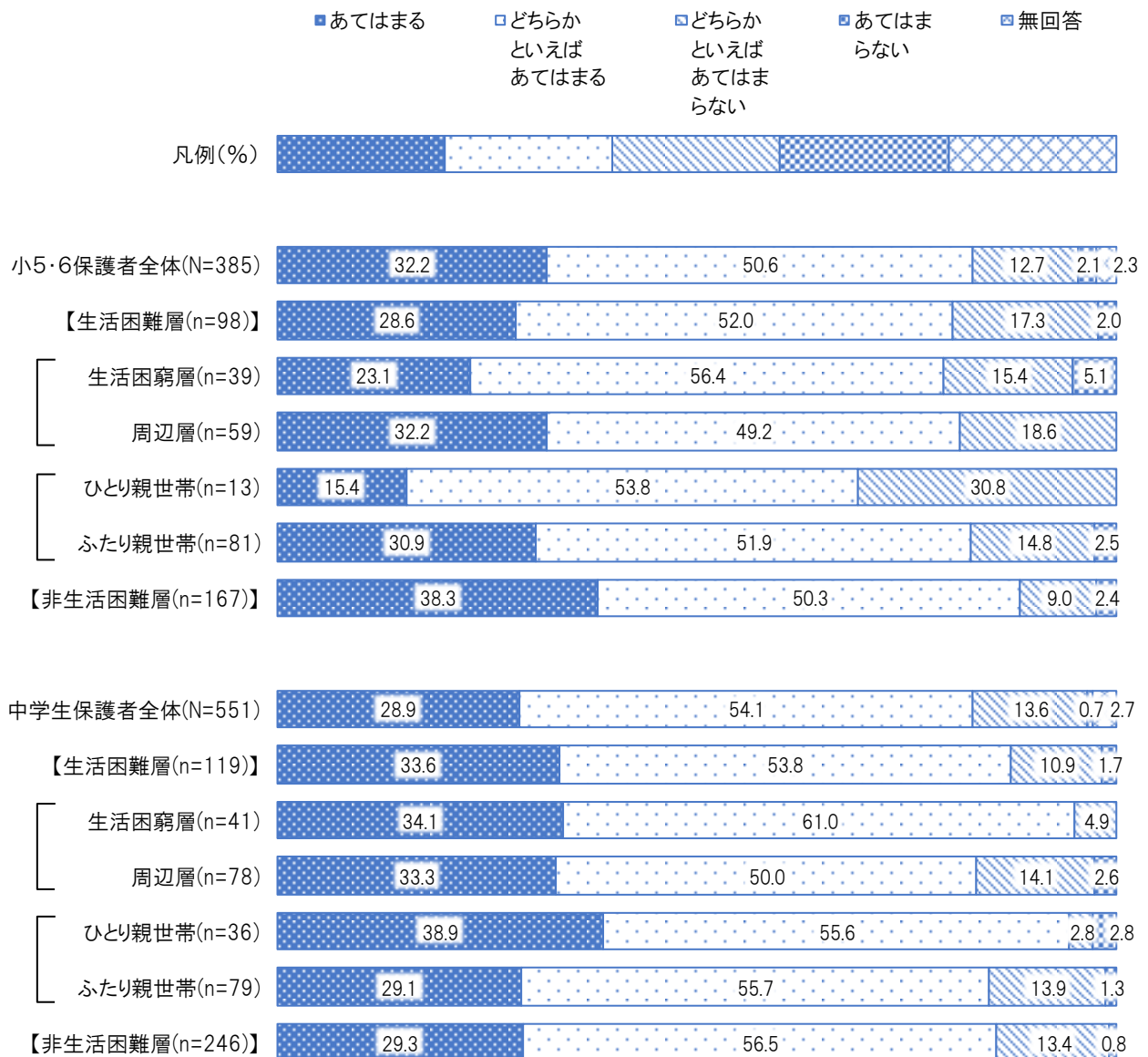
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C よいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている

よいところをほめるなどして自信を持たせるようにしていることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「あてはまる」の割合が23.1%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。また、中学生保護者の周辺層で「どちらかといえばあてはまらない」の割合が14.1%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。

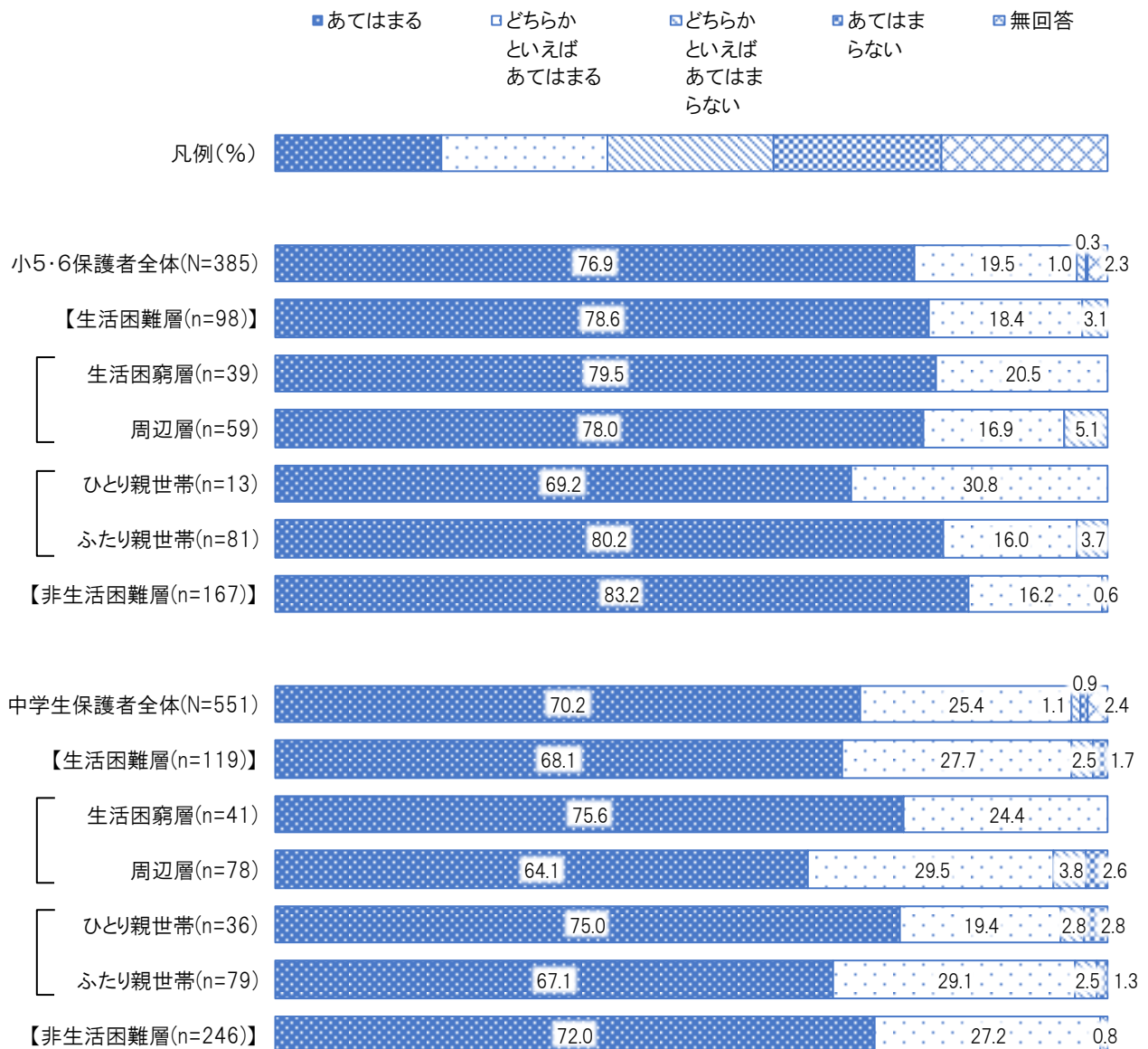
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「どちらかといえばあてはまらない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



D 悪いことをしたらきちんと叱っている

悪いことをしたらきちんと叱っていることについて「あてはまる」の割合は、中学生保護者の生活困窮層で75.6%、周辺層で64.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

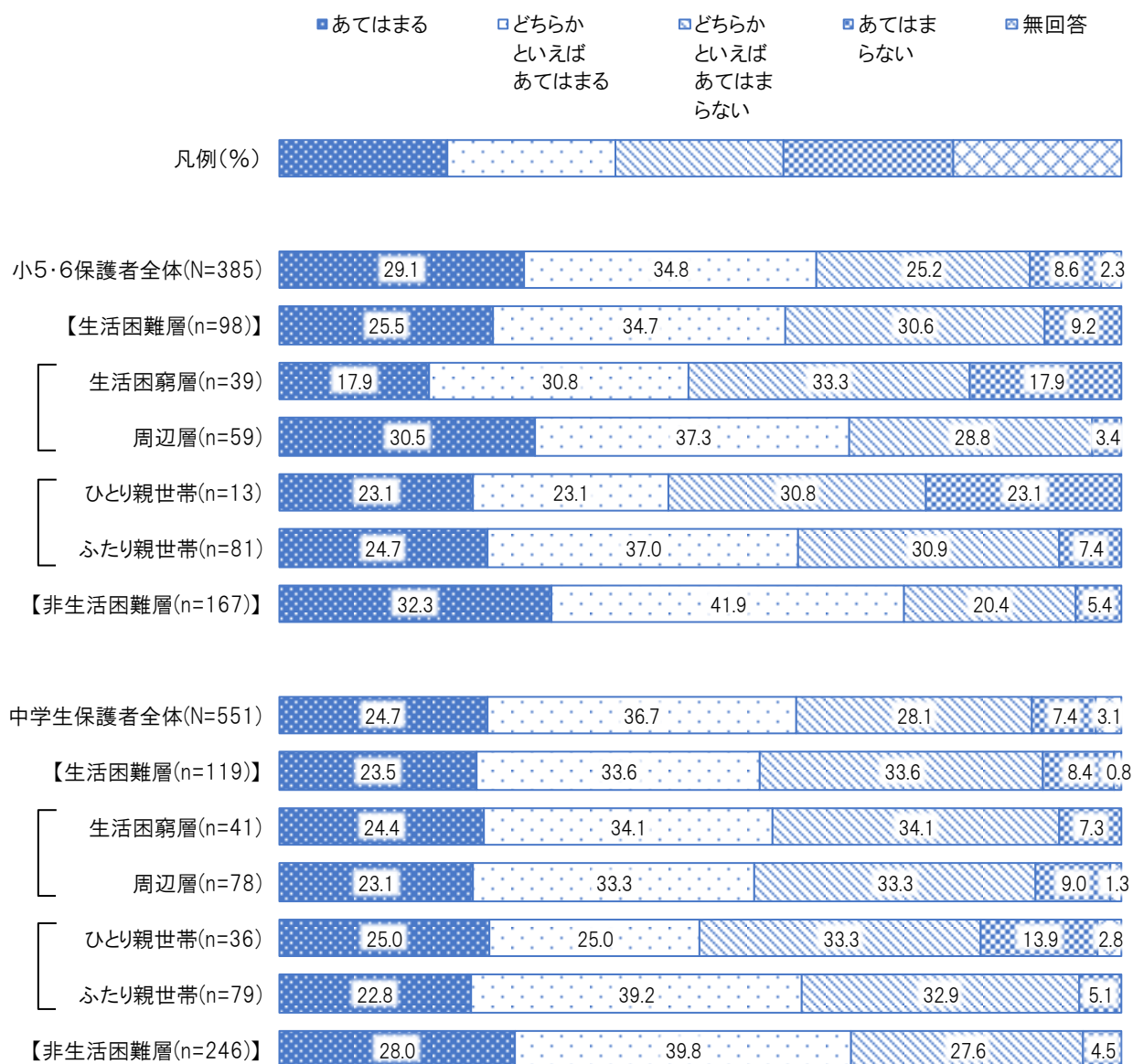
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「あてはまる」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



E 本や新聞を読むようにすすめている

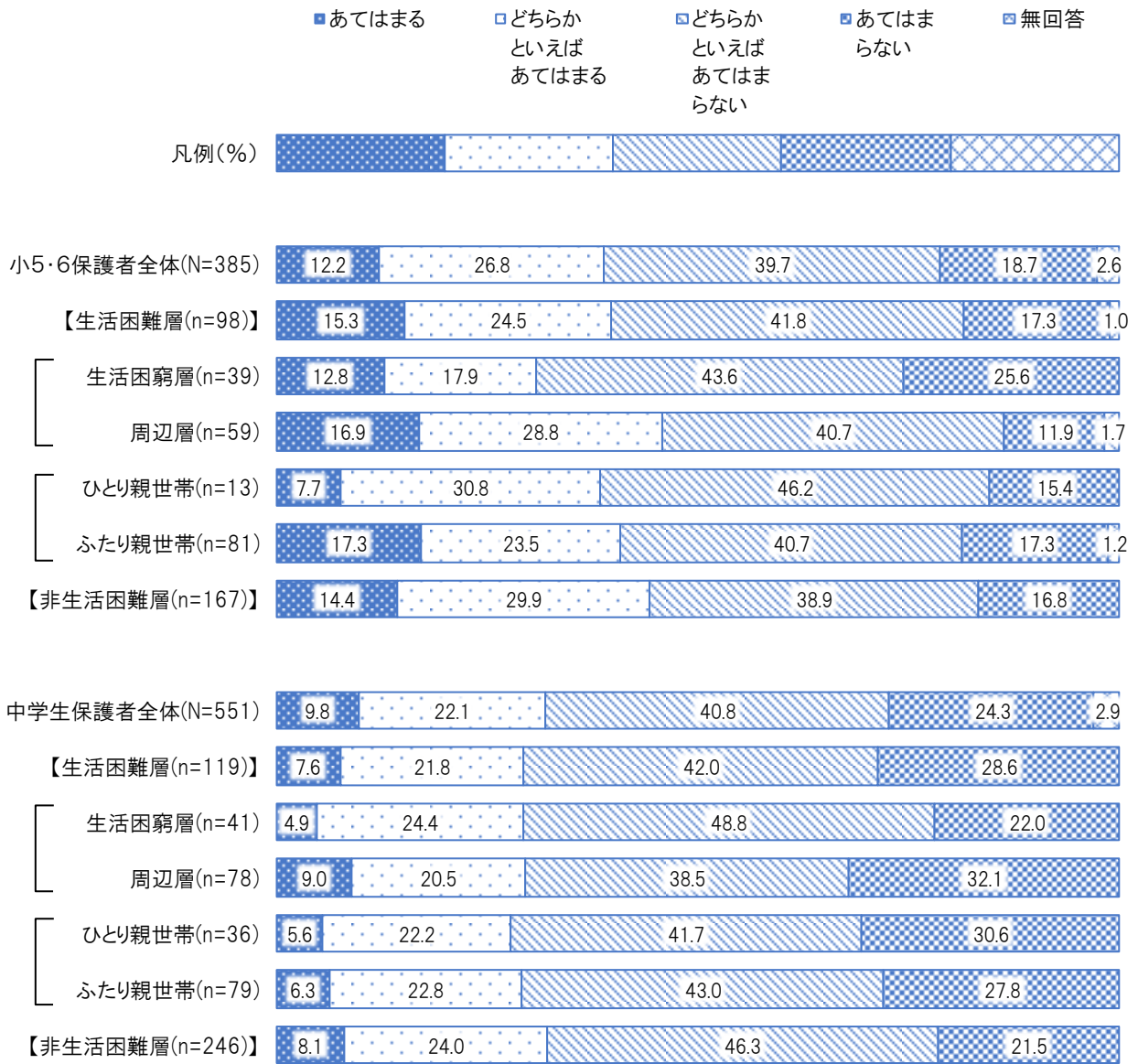
本や新聞を読むようにすすめていることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「どちらかといえばあてはまらない」が33.3%、「あてはまらない」が17.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「あてはまらない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F 読んだ本の感想を話し合ったりしている

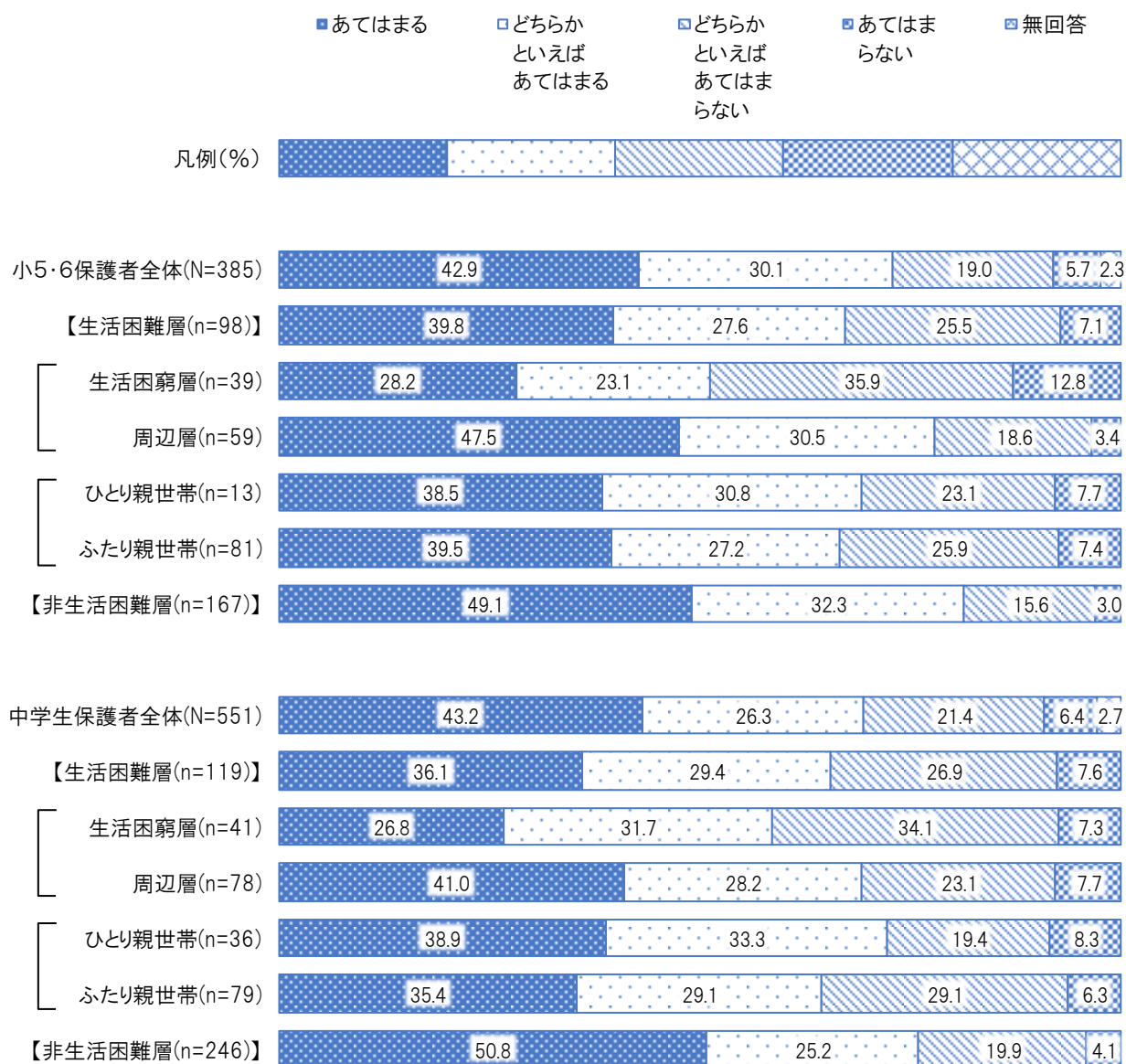
読んだ本の感想を話し合ったりしていることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「どちらかといえばあてはまらない」が43.6%、「あてはまらない」が25.6%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者の周辺層で「あてはまらない」の割合が32.1%となっており、生活困窮層に比べて高くなっている。



G 小さいころ、絵本の読み聞かせをした

小さいころ、絵本の読み聞かせをしたことについて「どちらかといえばあてはまらない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、中学生保護者で34.1%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

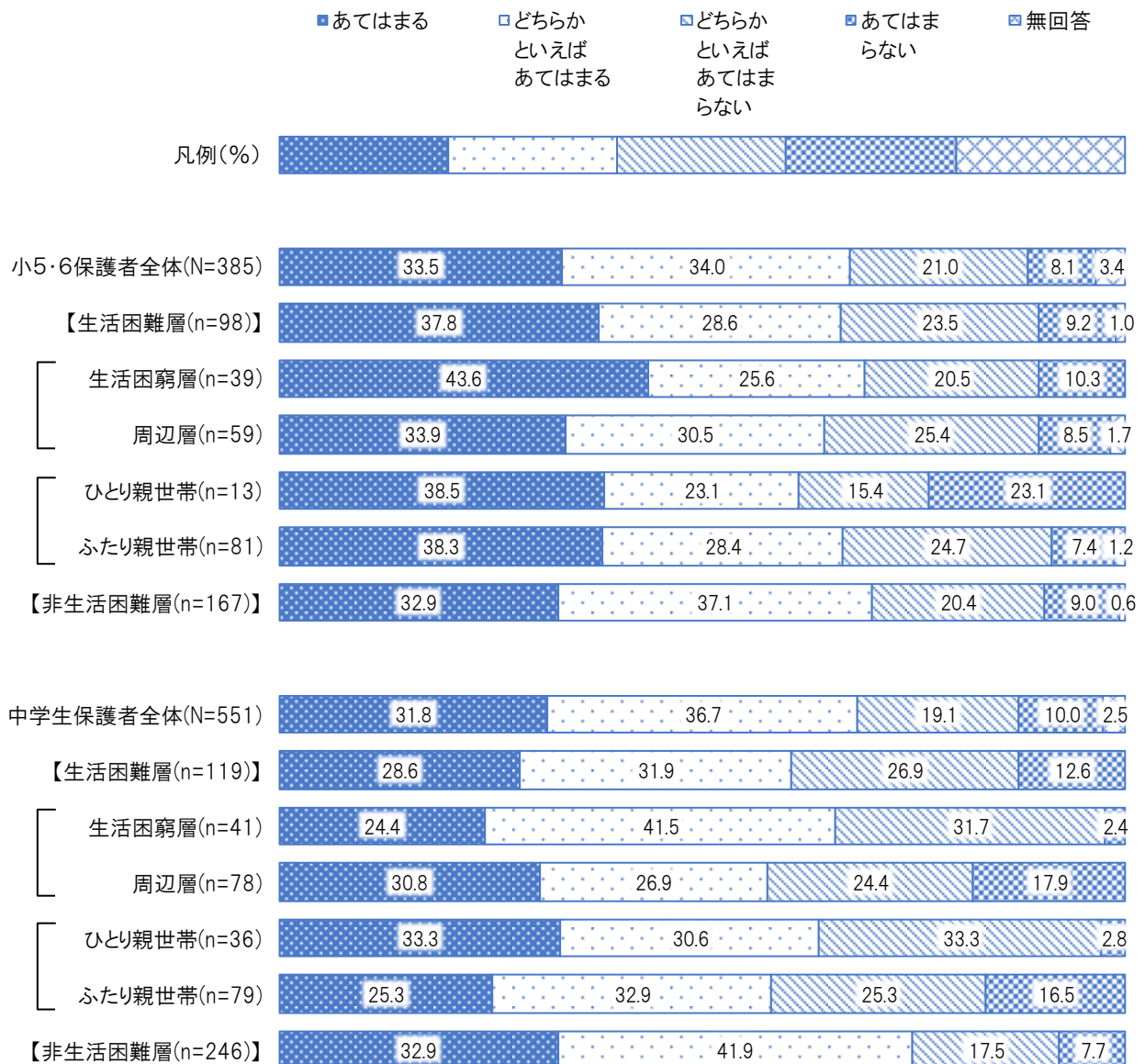
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のふたり親世帯で「どちらかといえばあてはまらない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



H 「勉強しなさい」とよく言っている

「勉強しなさい」とよく言っていることについて「あてはまる」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者では、生活困窮層で「どちらかといえばあてはまらない」の割合が31.7%、周辺層で「あてはまらない」が17.9%となっており、非生活困難層に比べてそれぞれ高くなっている。

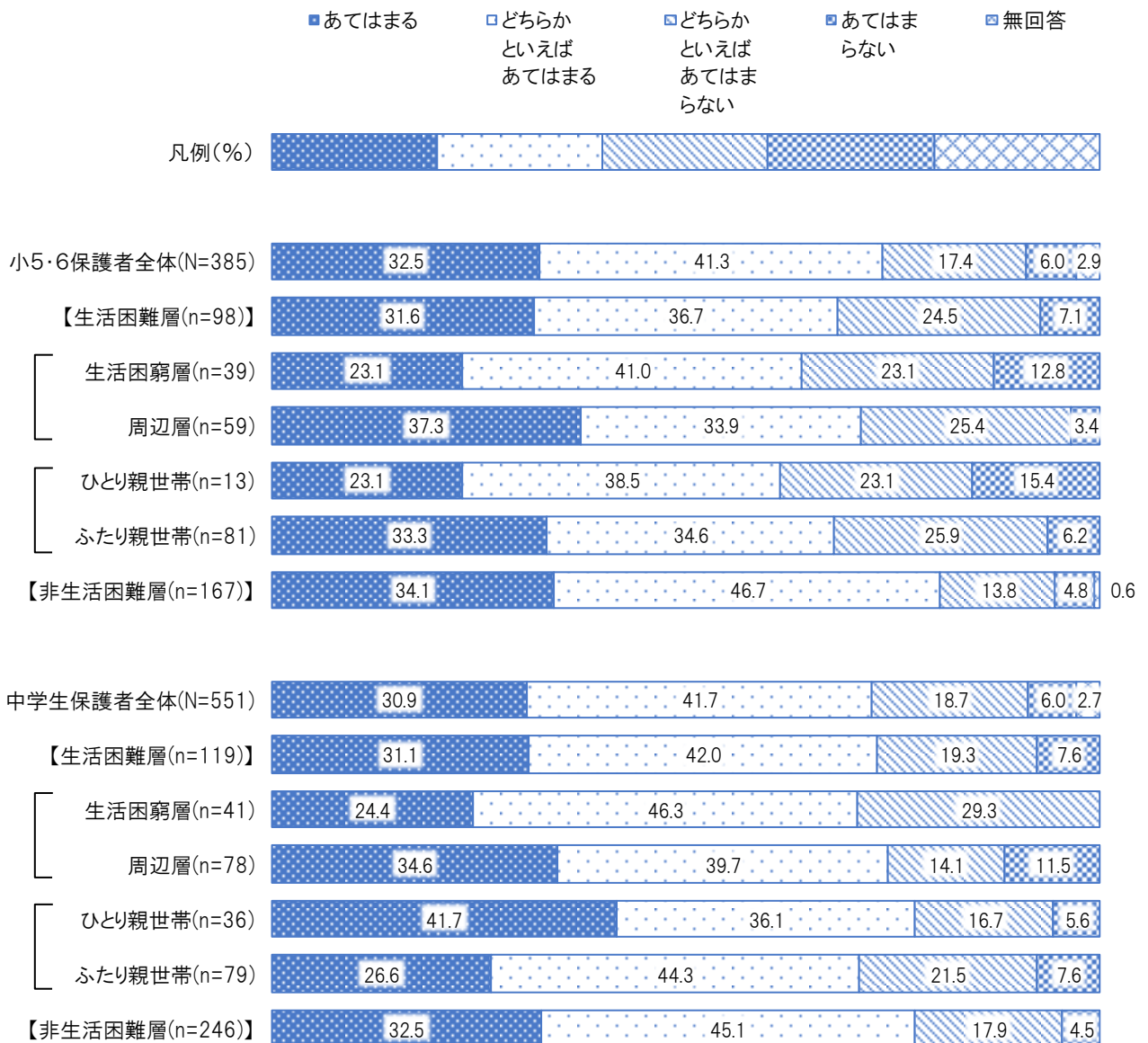
生活困難層世帯タイプ別にみた「あてはまらない」の割合は、小学5・6年保護者ではひとり親世帯、中学生保護者ではふたり親世帯でそれぞれ高くなっている。



I 計画的に勉強するよう促している

計画的に勉強するよう促していることについて「あてはまる」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で23.1%，中学生保護者で24.4%となっており，非生活困窮層に比べて低くなっている。

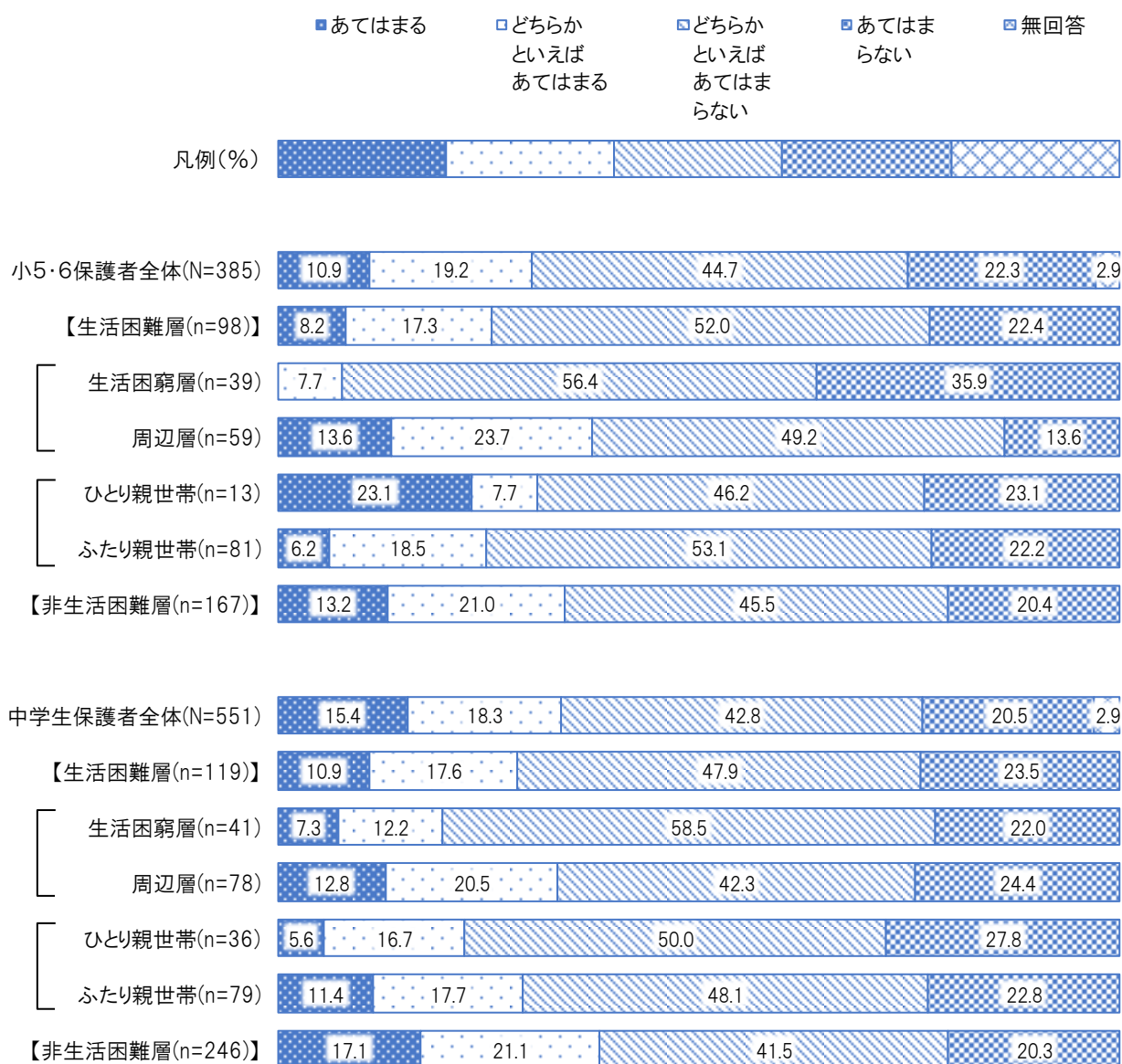
生活困窮層世帯タイプ別では，小学5・6年保護者のひとり親世帯で「あてはまらない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。一方，中学生保護者のひとり親世帯で「あてはまる」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



J 英語や外国の文化に触れるよう意識している

英語や外国の文化に触れるよう意識していることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「あてはまらない」の割合が35.9%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。また、中学生保護者の生活困窮層で、「どちらかといえばあてはまらない」の割合が58.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

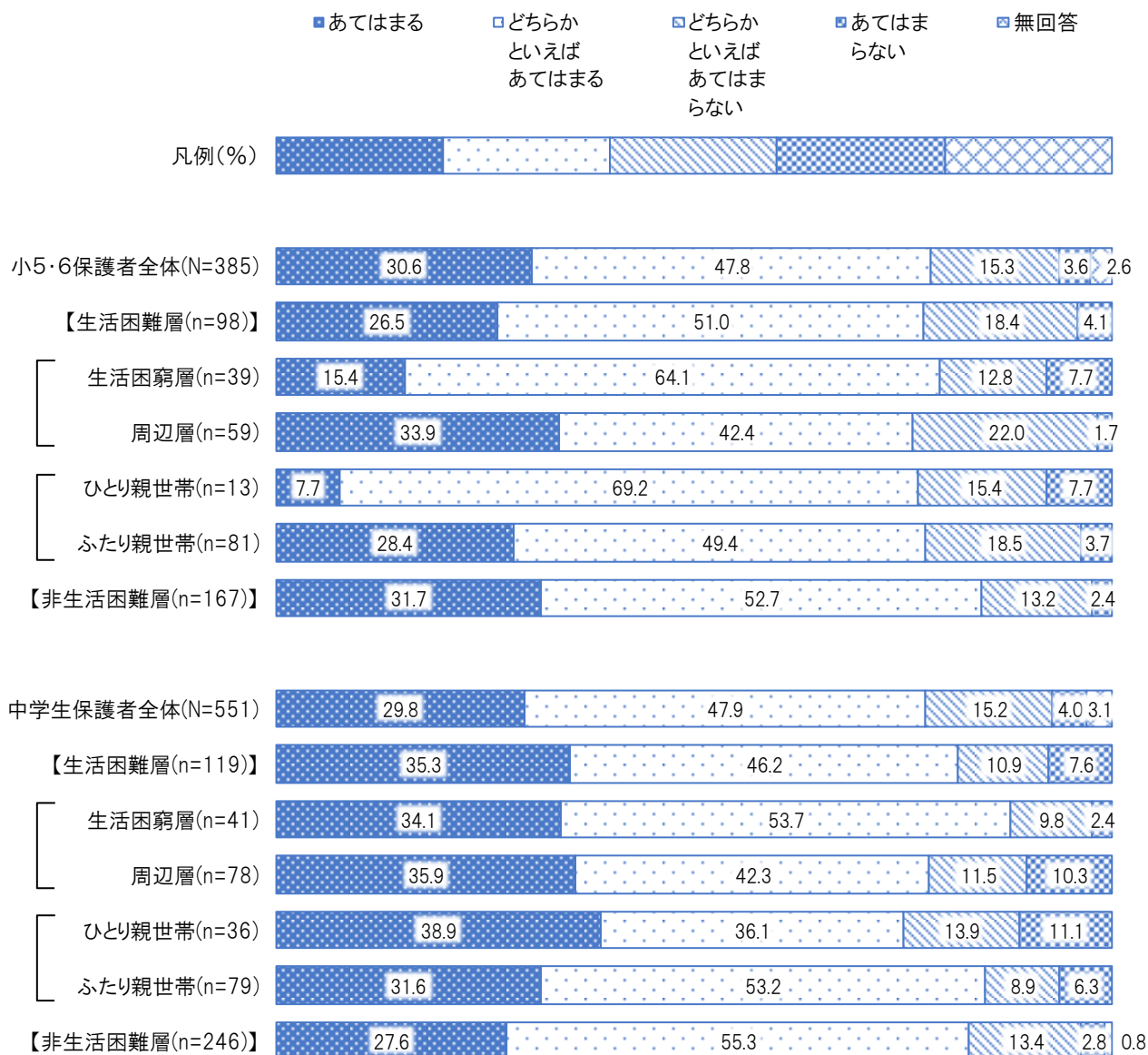
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「あてはまる」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



K 心配事や悩みごとの相談によく乗っている

心配事や悩みごとの相談によく乗っていることについて、小学5・6年保護者の生活困窮層で「あてはまる」の割合が15.4%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あてはまる」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。

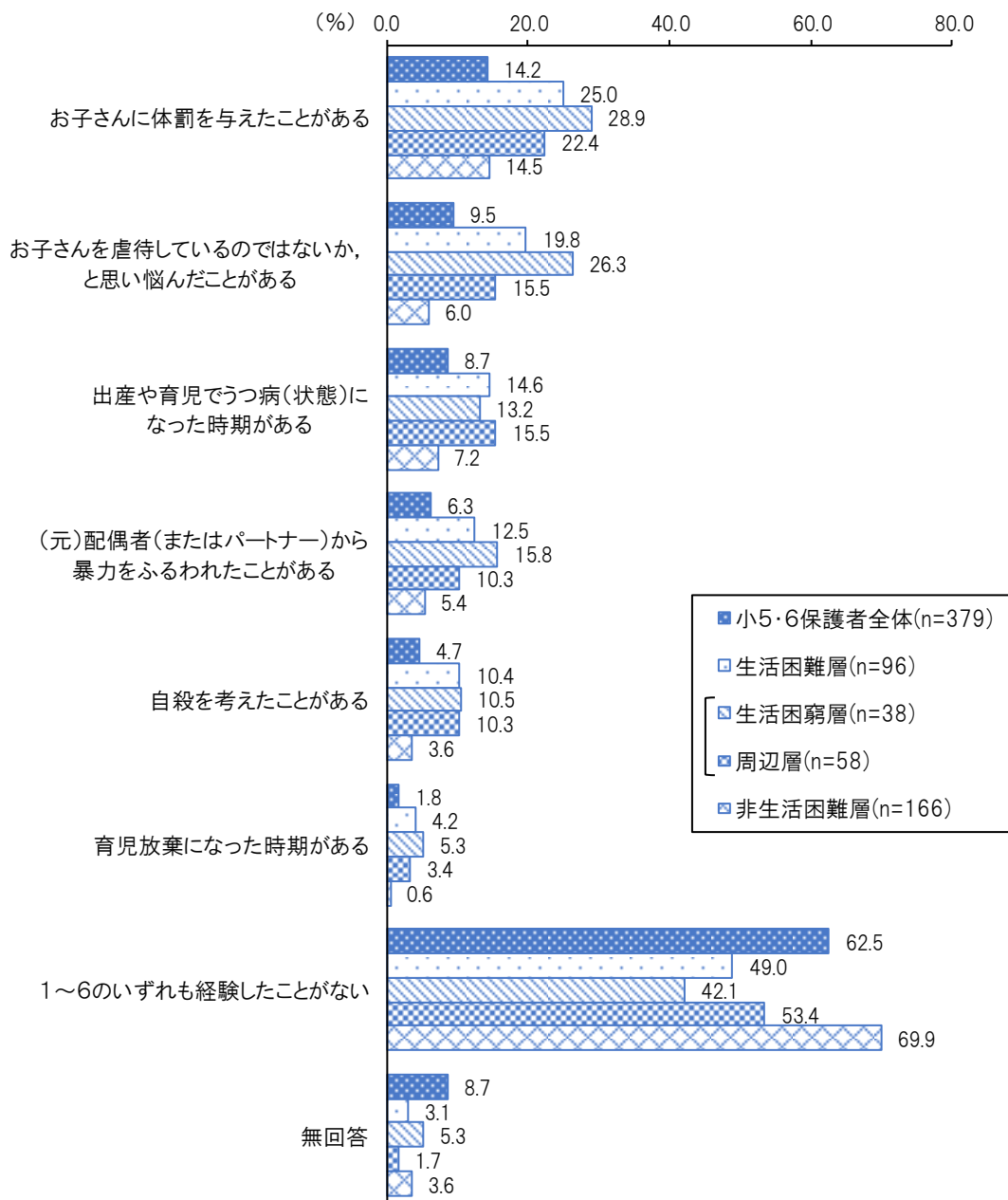


【7】子育て上の経験

保／問 41 あなたは子育てにかかわってから、次のような経験をしたことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

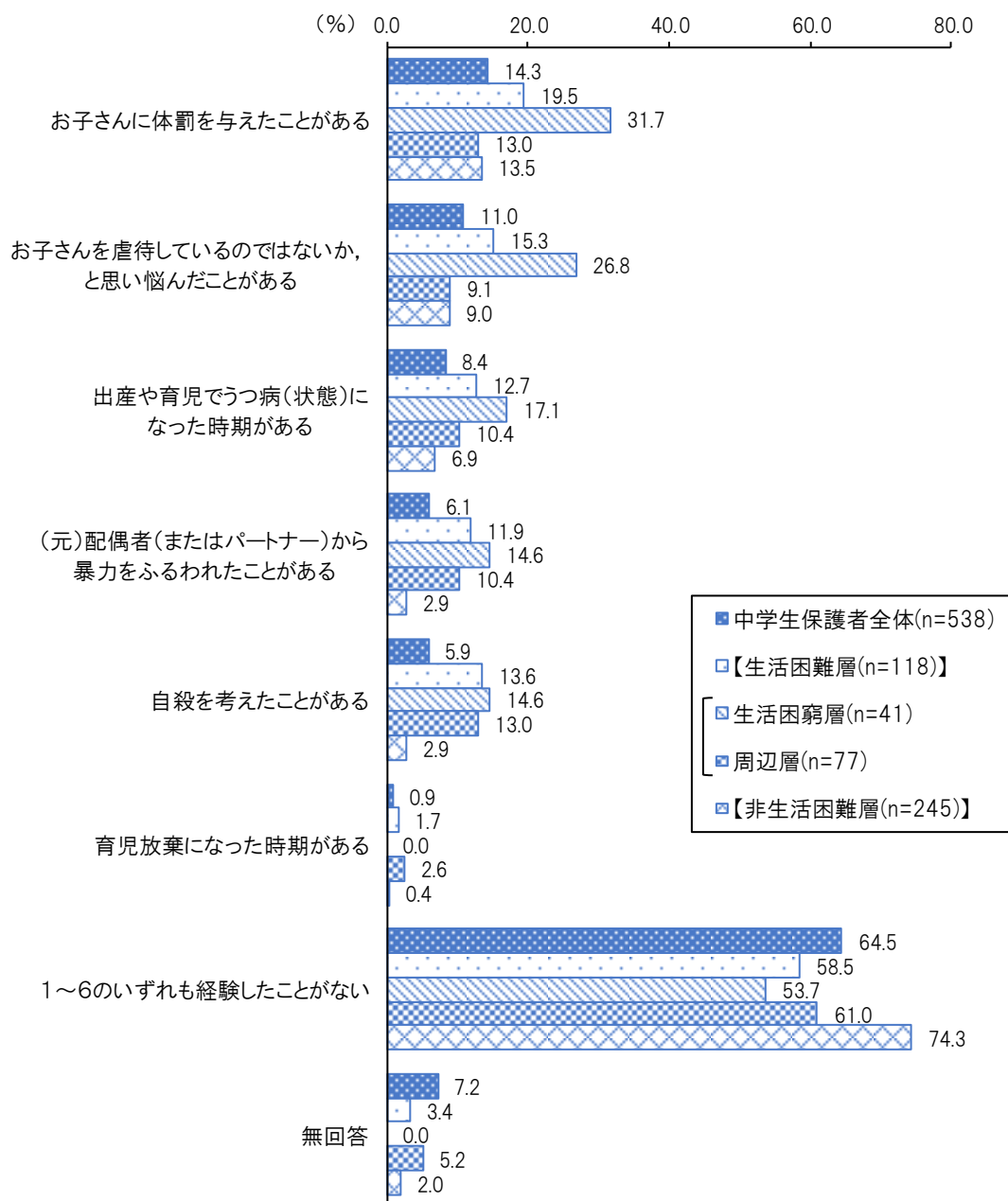
子育て上の経験について、小学5・6年保護者全体では「お子さんに体罰を与えたことがある」が14.2%と最も高く、次いで「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」(9.5%)、「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」(8.7%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さんに体罰を与えたことがある」「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「お子さんに体罰を与えたことがある」が14.3%と最も高く、次いで「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」(11.0%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さんに体罰を与えたことがある」「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



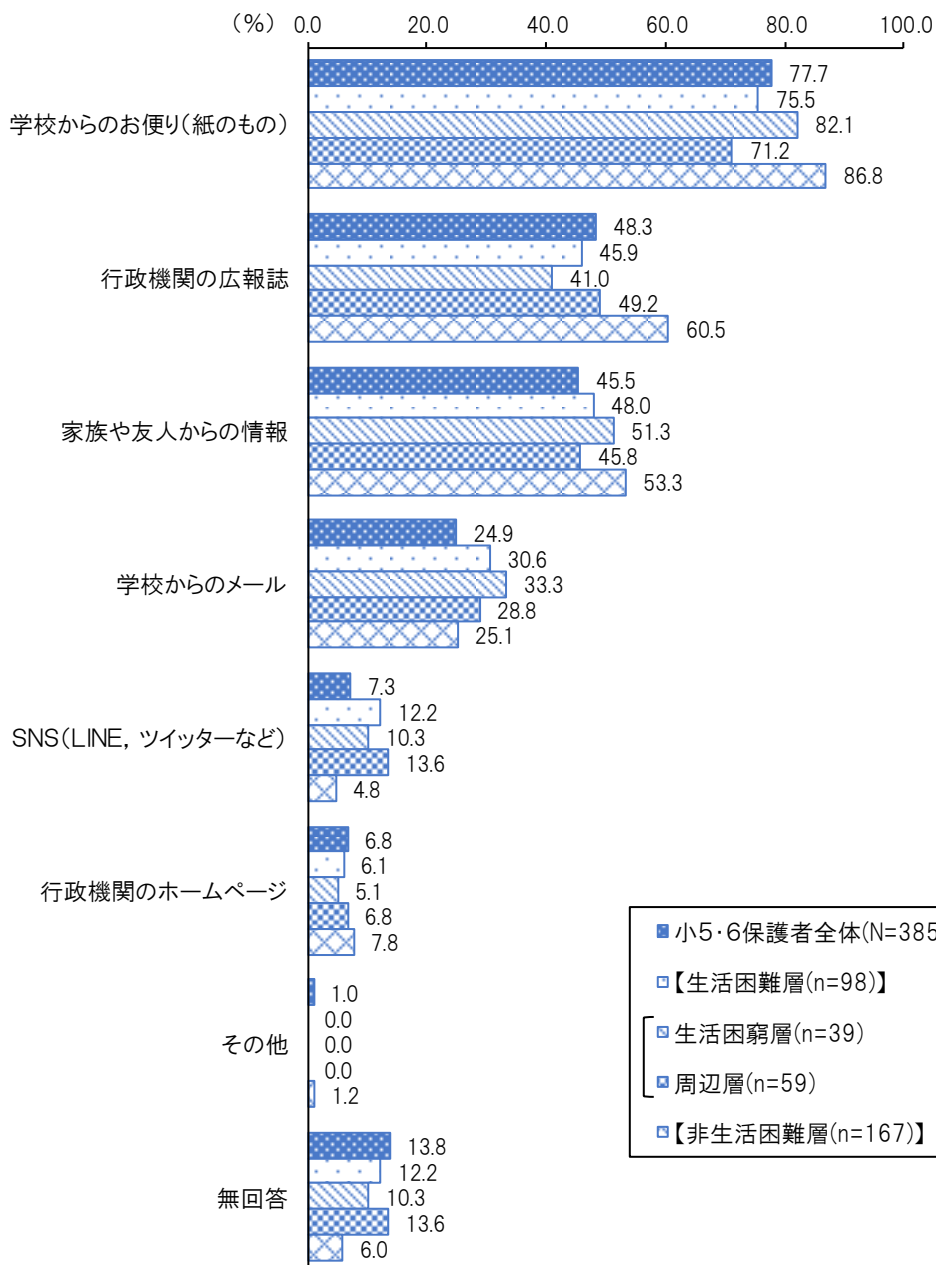
【8】 制度・サービスの利用

(1) 子供関連情報の入手方法の現状と意向

保／問 43 あなたは、子供に関する施策等の情報をどのような方法で受け取っていますか。
 また、今後、受け取りたいですか。
 (それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

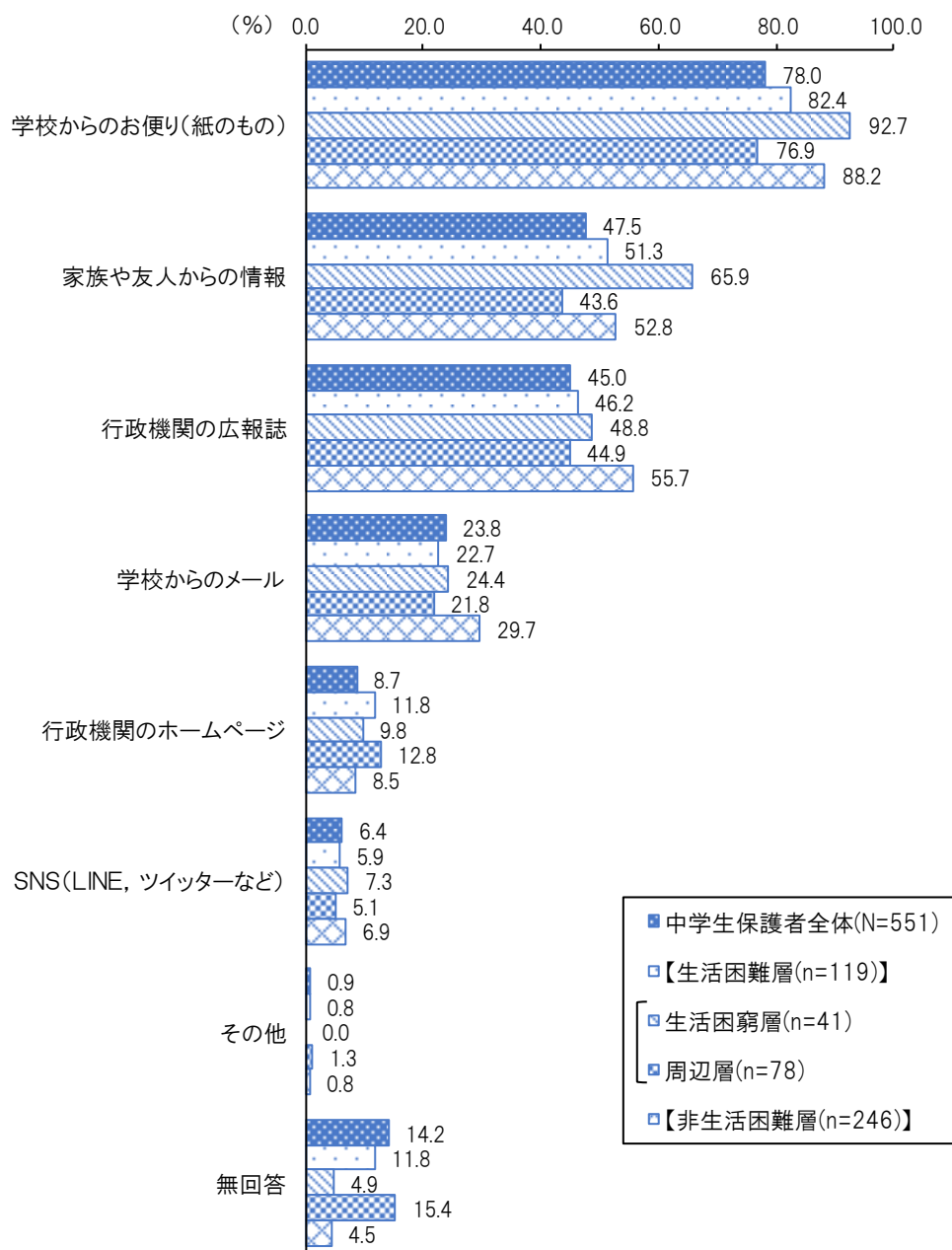
A 現在の受け取り方法

現在の受け取り方法について、小学5・6年保護者全体では「学校からのお便り（紙のもの）」が77.7%と最も高く、次いで「行政機関の広報誌」（48.3%）、「家族や友人からの情報」（45.5%）の順となっている。



中学生保護者全体では、「学校からのお便り（紙のもの）」が78.0%と最も高く、次いで「家族や友人からの情報」（47.5%）、「行政機関の広報誌」（45.0%）の順となっている。

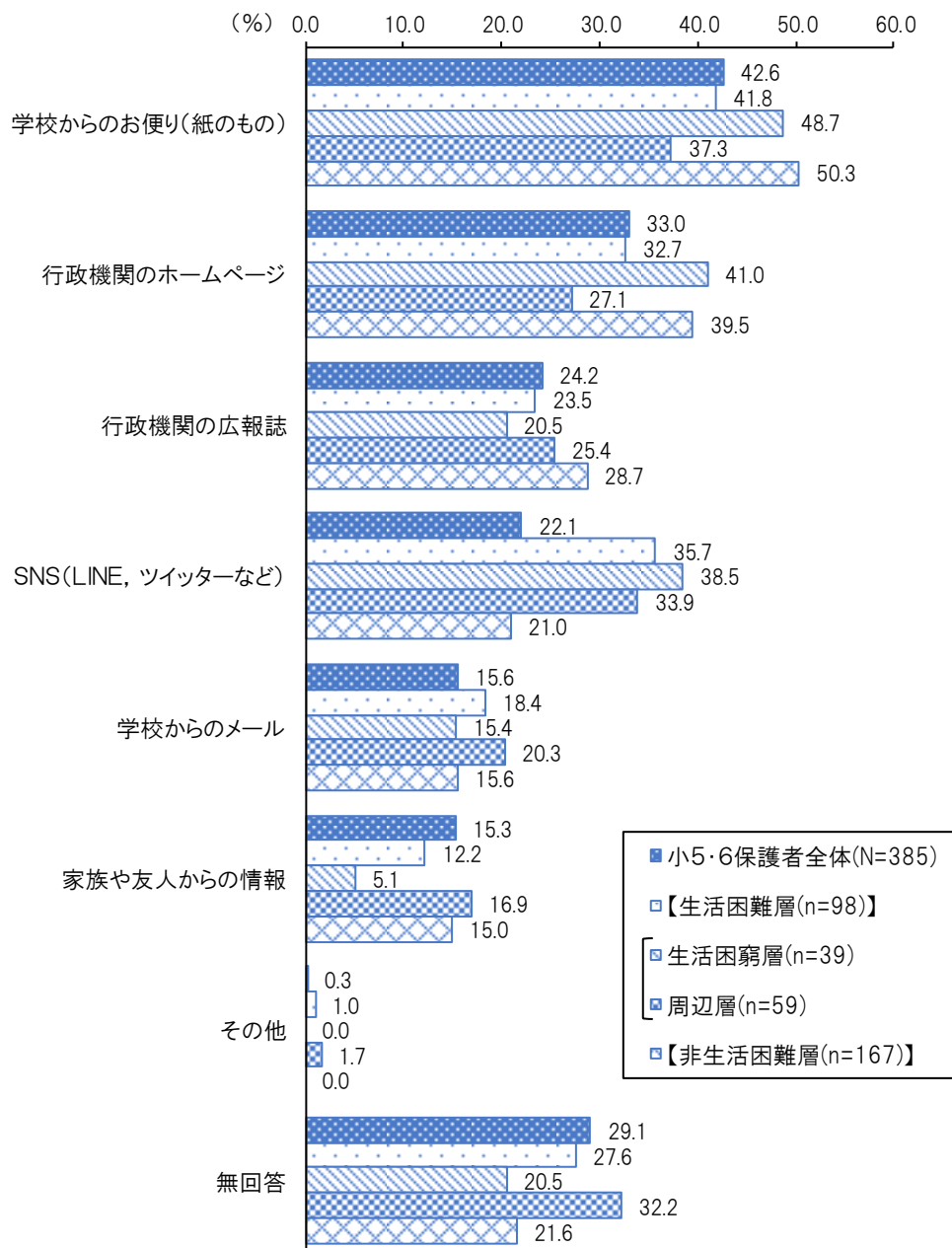
生活困難度別にみると、生活困窮層で「学校からのお便り（紙のもの）」「家族や友人からの情報」などの割合が高くなっている。



B 今後、受け取りたい方法

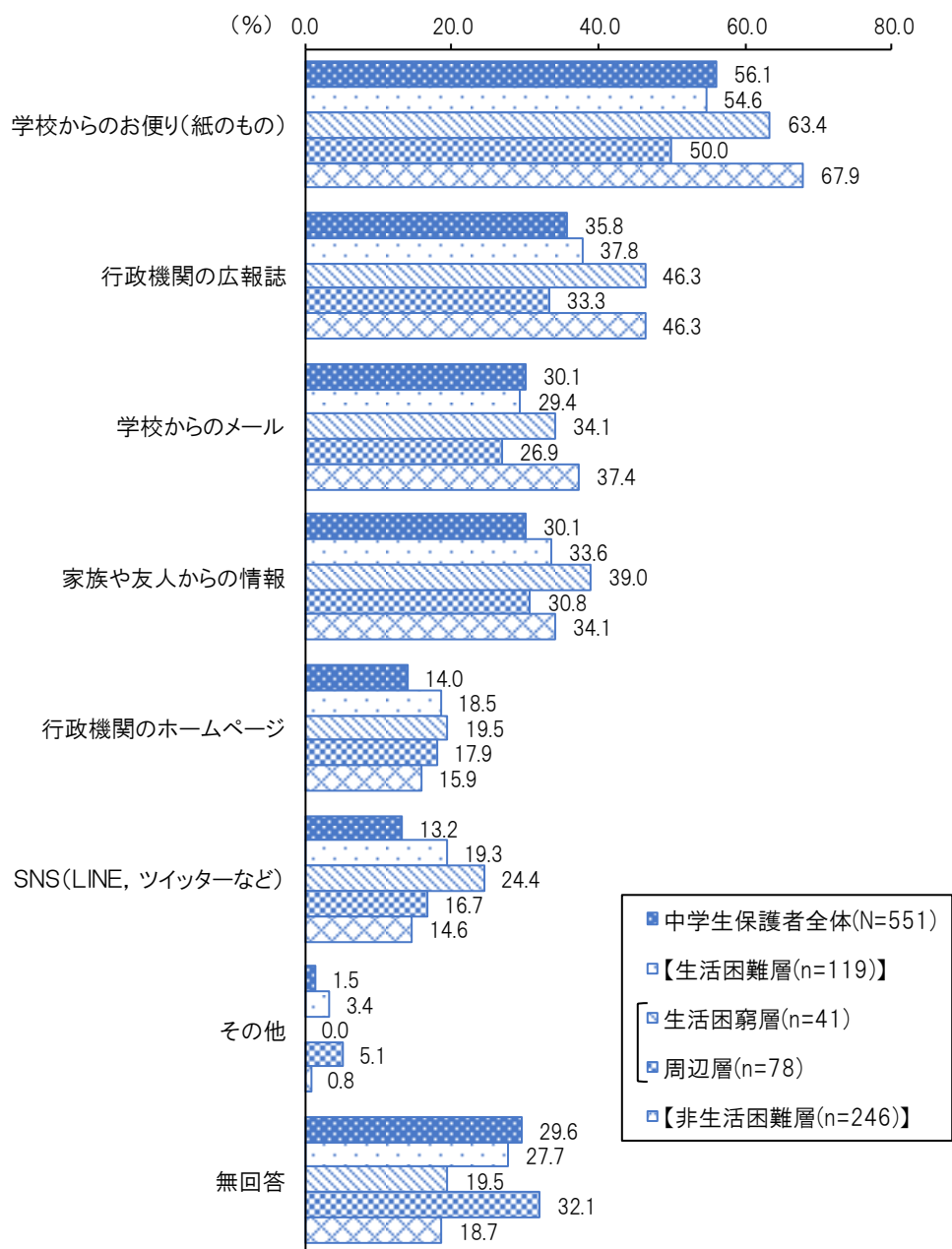
今後、受け取りたい方法について、小学5・6年保護者全体では「学校からのお便り（紙のもの）」が42.6%と最も高く、次いで「行政機関のホームページ」（33.0%）、「行政機関の広報誌」（24.2%）、「SNS（LINE、ツイッターなど）」（22.1%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「SNS（LINE、ツイッターなど）」などの割合が高くなっている。



中学生保護者全体では、「学校からのお便り(紙のもの)」が56.1%と最も高く、次いで「行政機関の広報誌」(35.8%)、「学校からのメール」「家族や友人からの情報」(各30.1%)の順となっている。

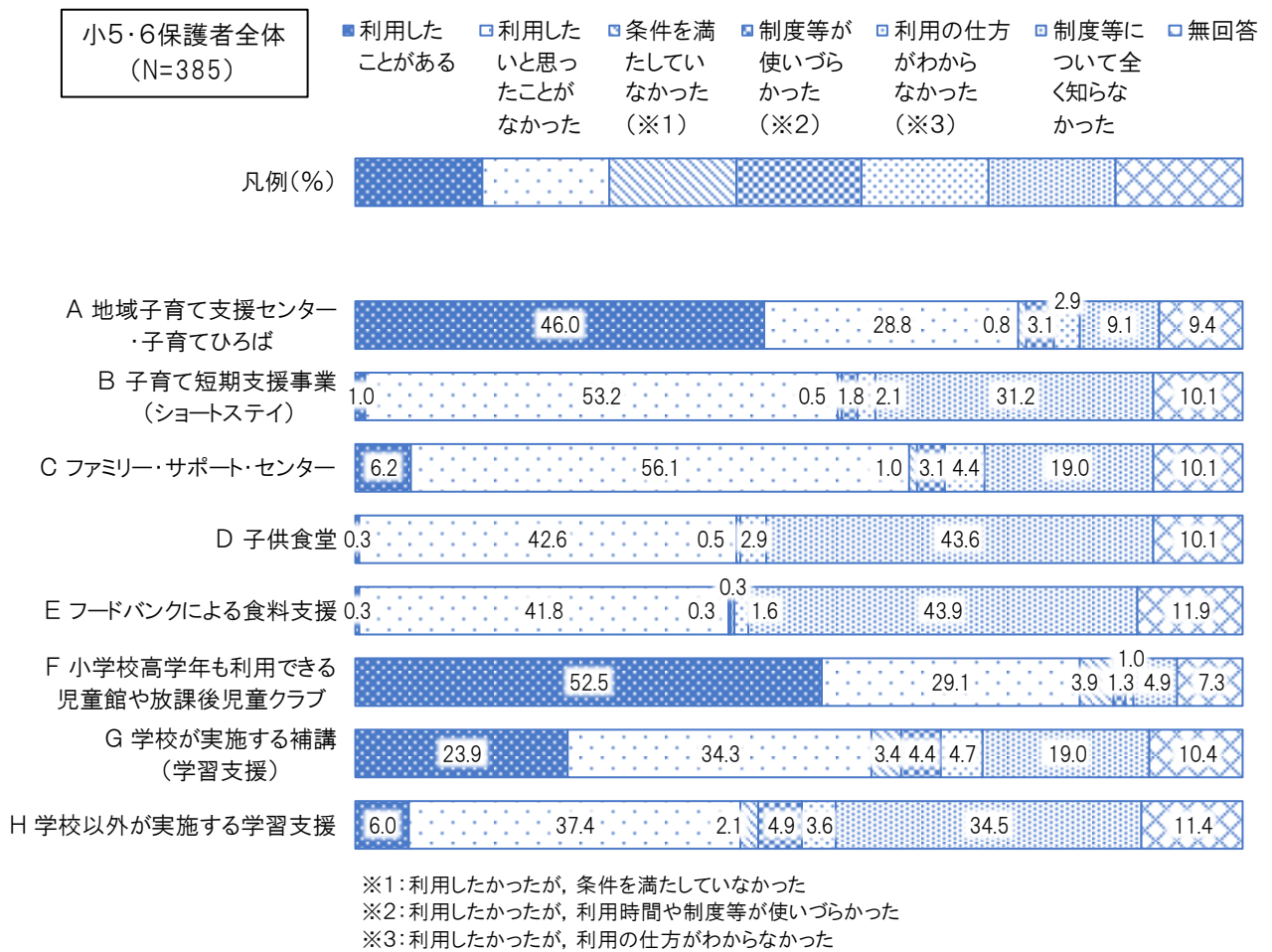
生活困難度別にみると、生活困窮層で「家族や友人からの情報」「SNS(LINE, ツイッターなど)」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。



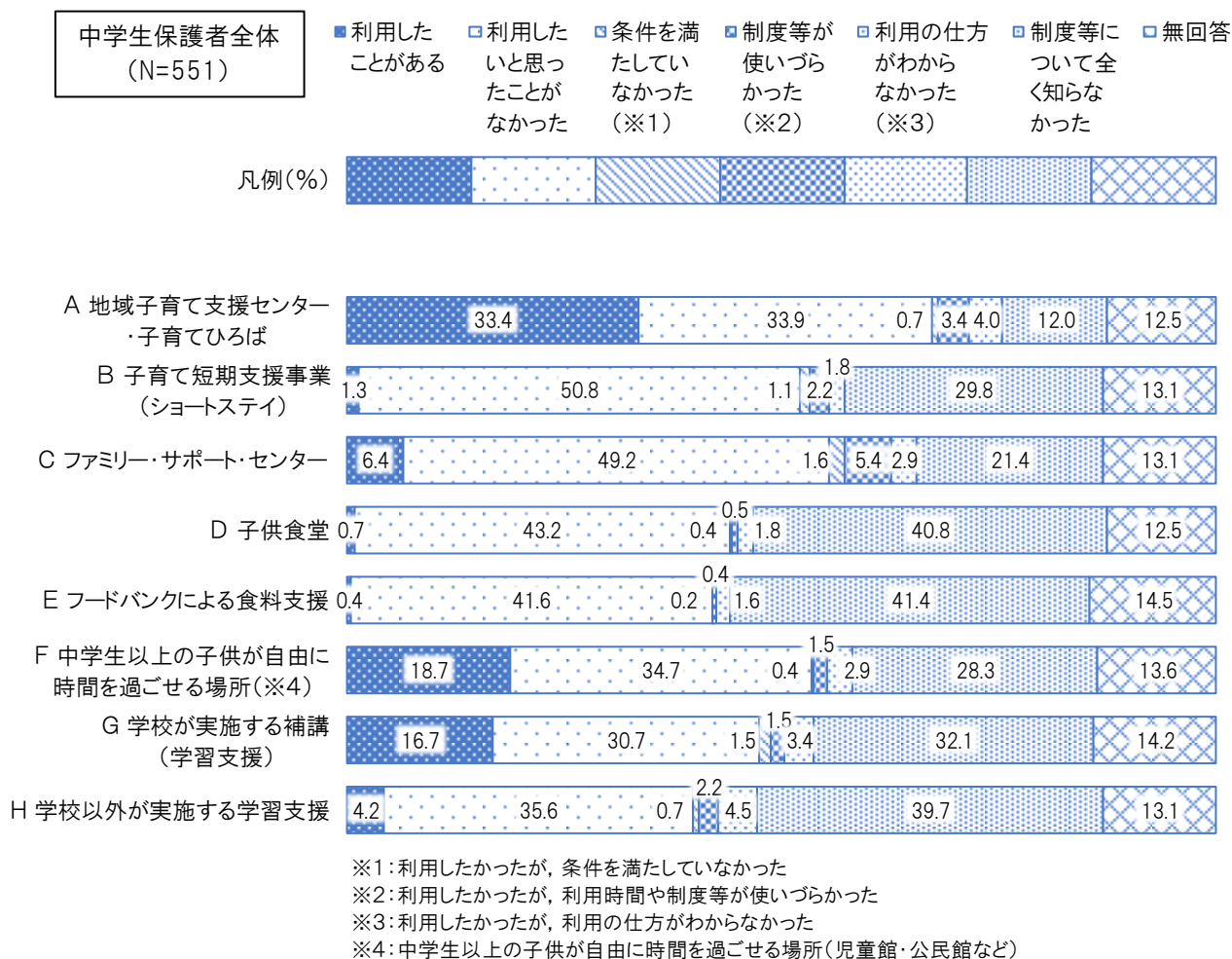
(2) 各種支援制度の利用経験

保／問 44 次のA～Hの支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。
 利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

各種支援制度の利用経験については、小学5・6年保護者全体では「利用したことがある」の割合が高い順に「F 小学校高学年も利用できる児童館や放課後児童クラブ」(52.5%)、「A 地域子育て支援センター・子育てひろば」(46.0%)、「G 学校が実施する補講(学習支援)」(23.9%)となっている。一方、「制度等について全く知らなかった」では「E フードバンクによる食料支援」(43.9%)、「D 子供食堂」(43.6%)、「H 学校以外が実施する学習支援」(34.5%)、「B 子育て短期支援事業(ショートステイ)」(31.2%)などがあげられる。



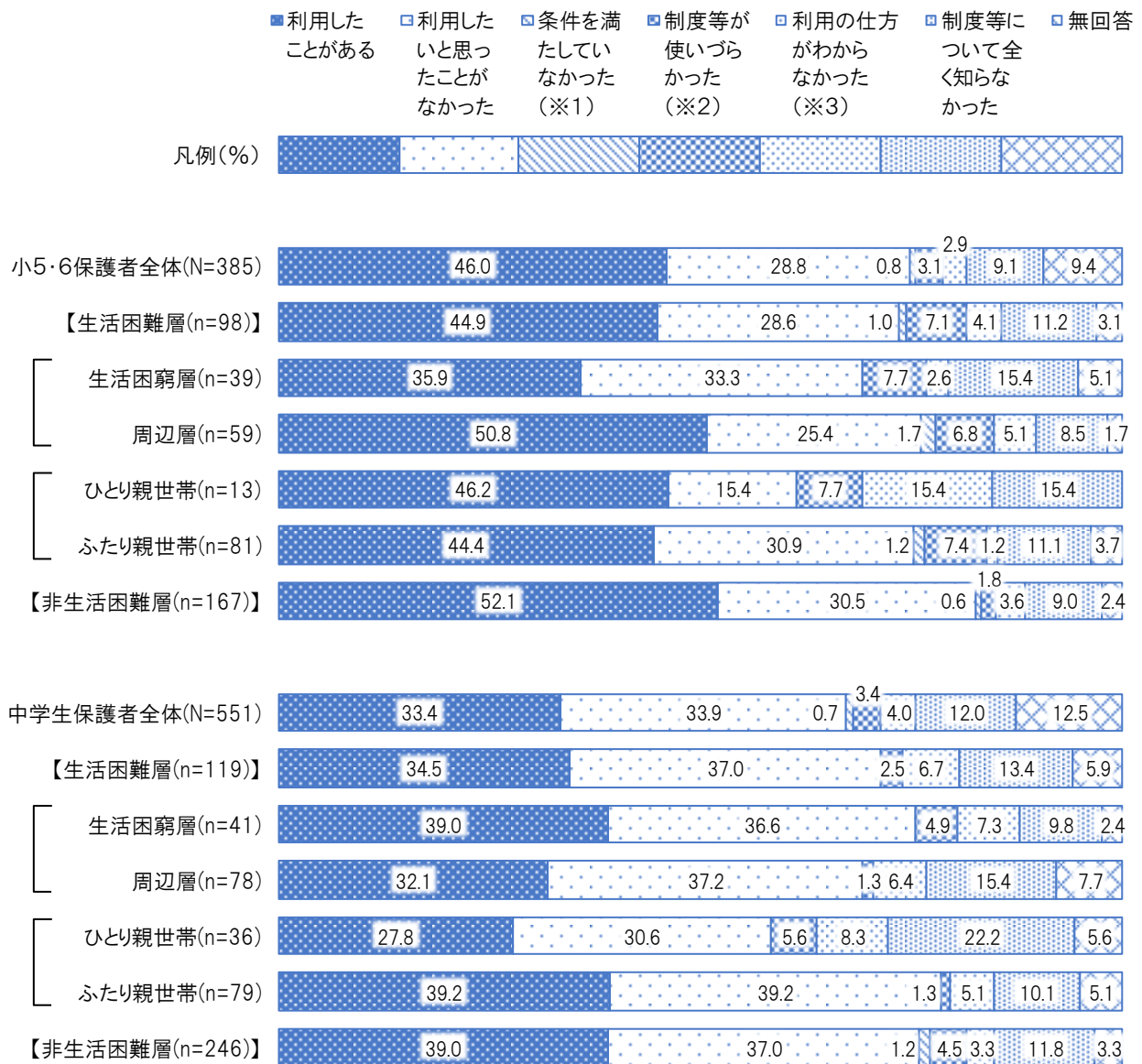
中学生保護者全体では、「利用したことがある」の割合が高い順に「A 地域子育て支援センター・子育てひろば」(33.4%)、「F 中学生以上の子供が自由に時間を過ごせる場所(児童館・公民館など)」(18.7%)、「G 学校が実施する補講(学習支援)」(16.7%)となっている。一方、「制度等について全く知らなかった」では「E フードバンクによる食料支援」(41.4%)、「D 子供食堂」(40.8%)、「H 学校以外が実施する学習支援」(39.7%)などがあげられる。



A 地域子育て支援センター・子育てひろば

地域子育て支援センター・子育てひろばについて「利用したことがある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「利用したかったが、利用の仕方がわからなかった」、中学生保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合が、ふたり親世帯に比べてそれぞれ高くなっている。



※1: 利用したかったが、条件を満たしていなかった

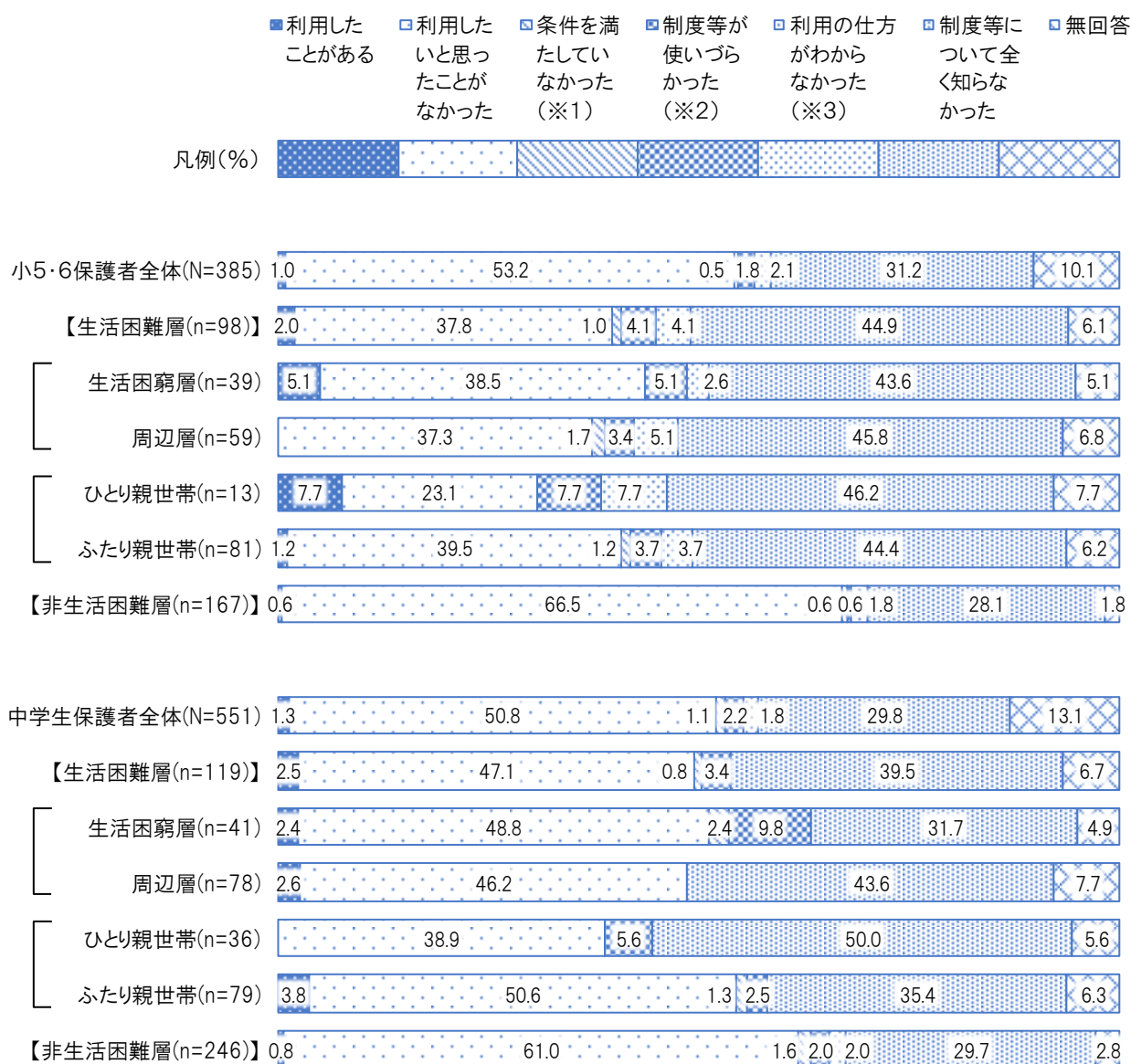
※2: 利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった

※3: 利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

B 子育て短期支援事業（ショートステイ）

子育て短期支援事業（ショートステイ）について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で45.8%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生保護者では、周辺層で「制度等について全く知らなかった」の割合が43.6%と高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合が、ふたり親世帯に比べて高くなっている。

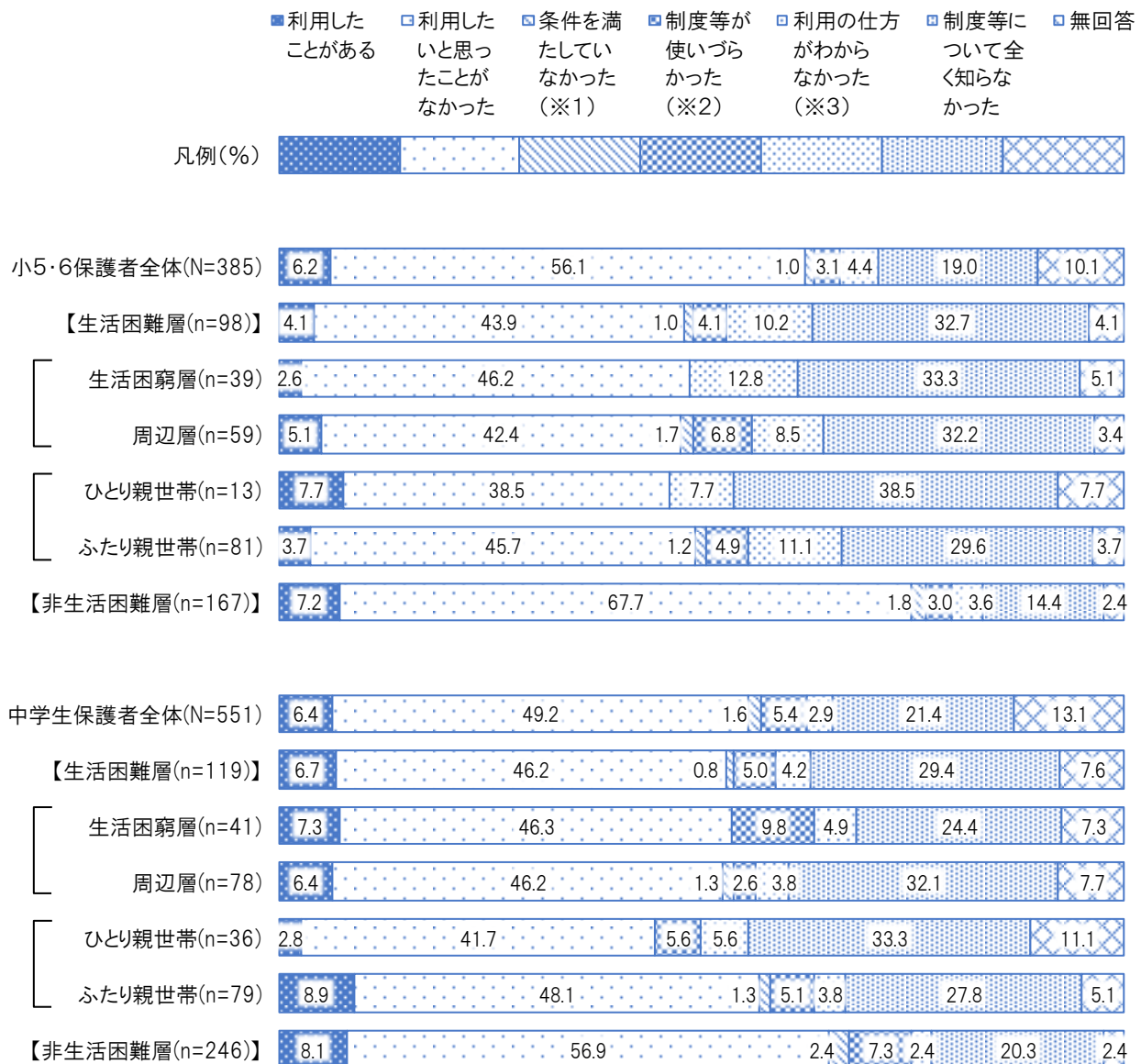


※1：利用したかったが、条件を満たしてなかった
 ※2：利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった
 ※3：利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

C ファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターについて「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で33.3%、周辺層で32.2%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生保護者では、周辺層で「制度等について全く知らなかった」の割合が32.1%と高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



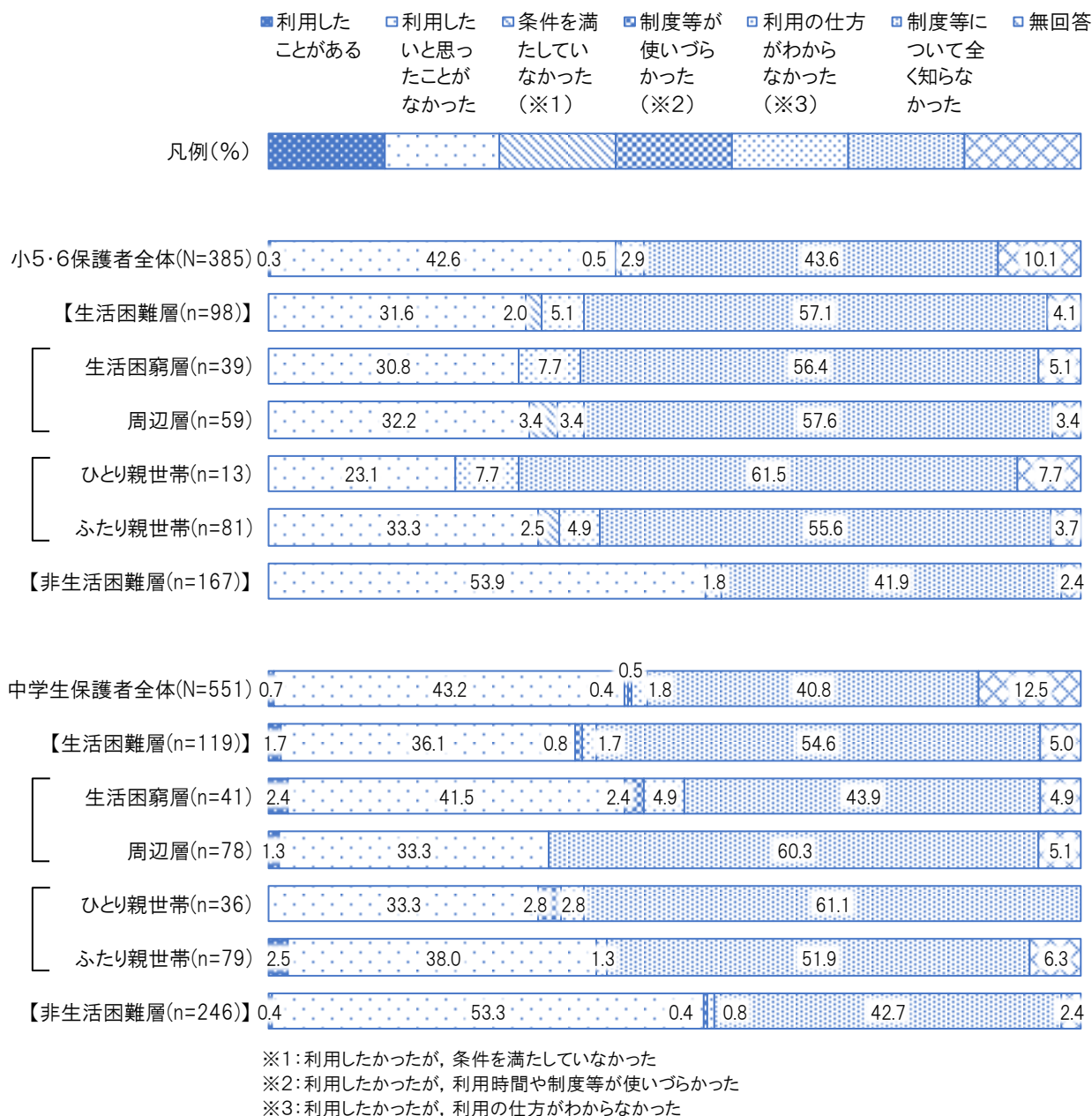
※1：利用したかったが、条件を満たしていなかった

※2：利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった

※3：利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

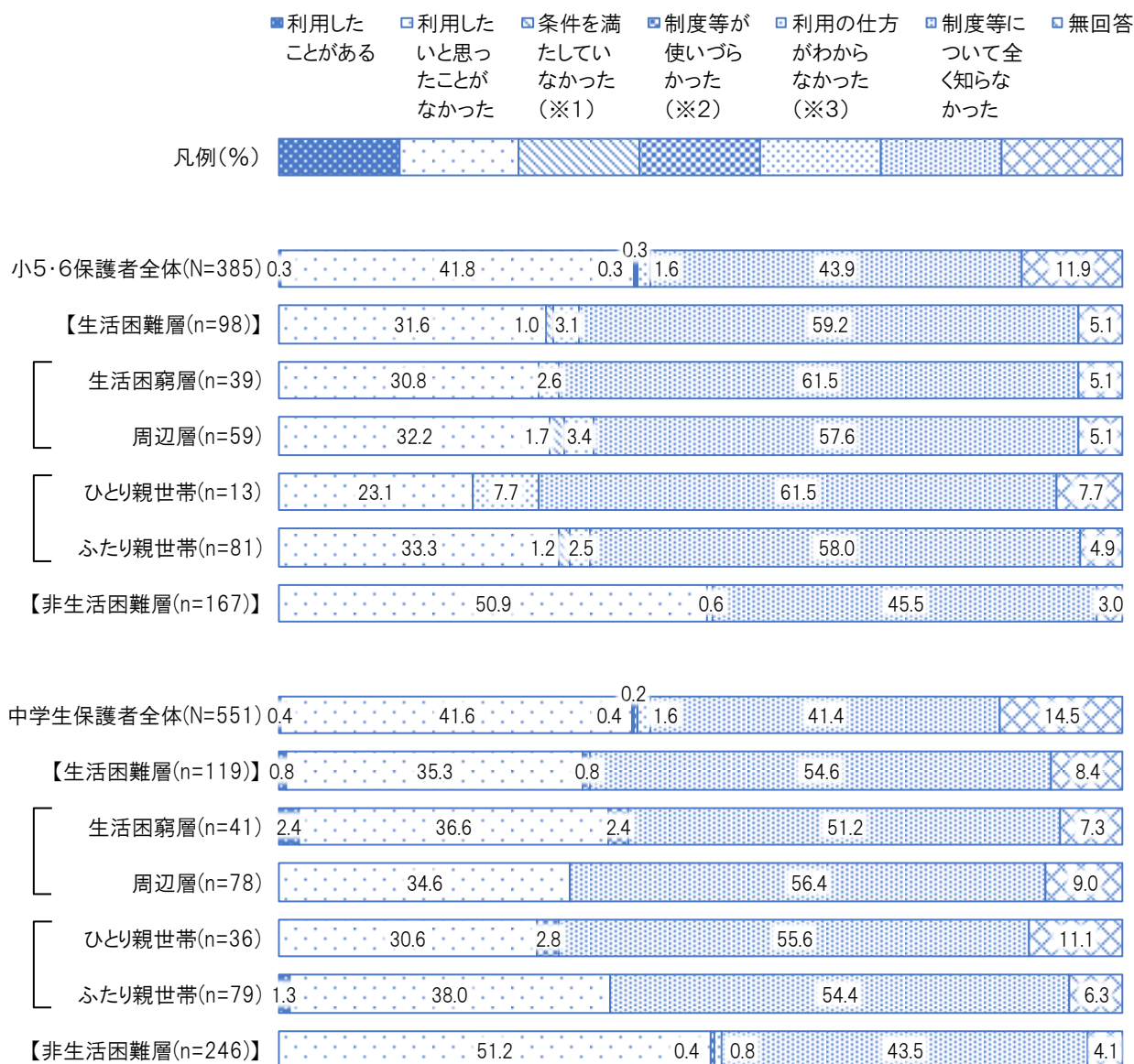
D 子供食堂

子供食堂について、小学5・6年保護者全体では「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で56.4%、周辺層で57.6%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。中学生保護者では、周辺層で「制度等について全く知らなかった」の割合が60.3%と高くなっている。



E フードバンクによる食料支援

フードバンクによる食料支援について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で61.5%、周辺層で57.6、中学生保護者では、生活困窮層で51.2%、周辺層で56.4%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

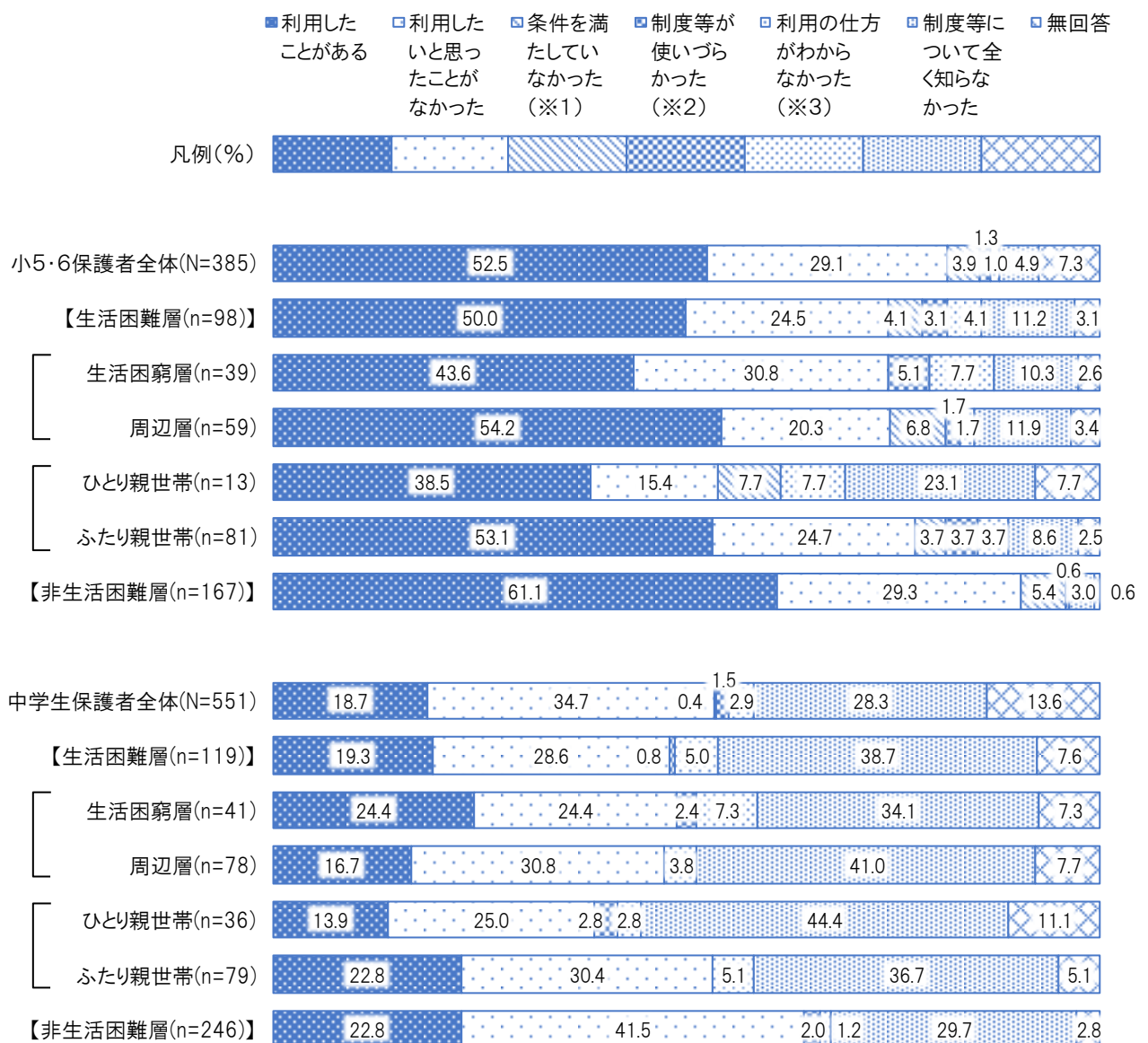


※1: 利用したかったが、条件を満たしていなかった
 ※2: 利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった
 ※3: 利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

F 中学生以上の子供が自由に時間を過ごせる場所※（児童館・公民館など）

子供が自由に時間を過ごせる場所について「利用したことがある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。また、中学生保護者では、周辺層で「制度等について全く知らなかった」の割合が41.0%と高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「利用したことがある」の割合がふたり親世帯に比べて低く、「制度等について全く知らなかった」の割合が高くなっている。



※1: 利用したかったが、条件を満たしていなかった

※2: 利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった

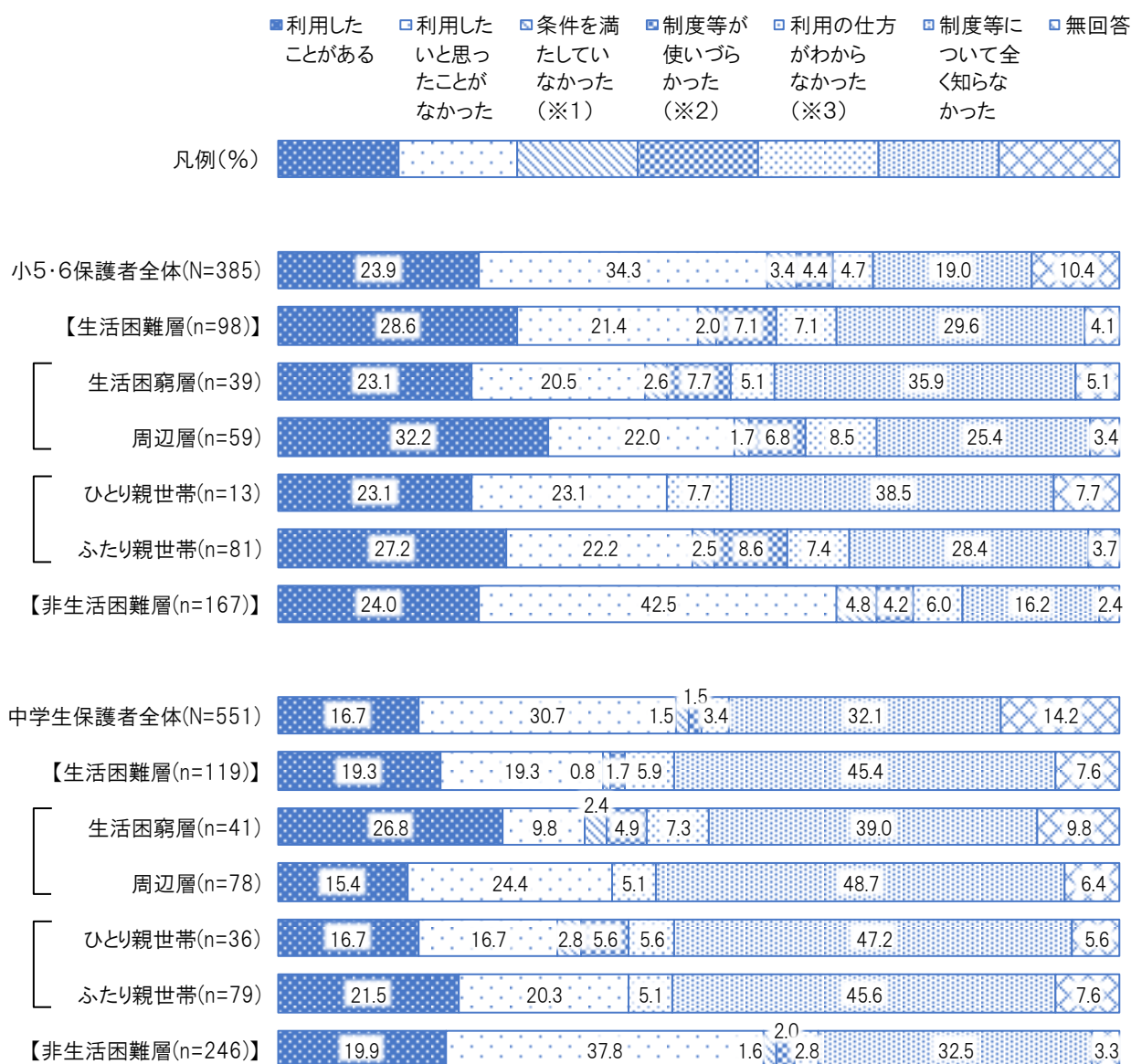
※3: 利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

※小学生票では「小学校高学年も利用できる児童館や放課後児童クラブ」

G 学校が実施する補講（学習支援）

学校が実施する補講（学習支援）について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で25.4%となっており、生活困難度が高い層ほど高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で「利用したことがある」の割合が26.8%となっており、周辺層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合はふたり親世帯に比べて高くなっている。

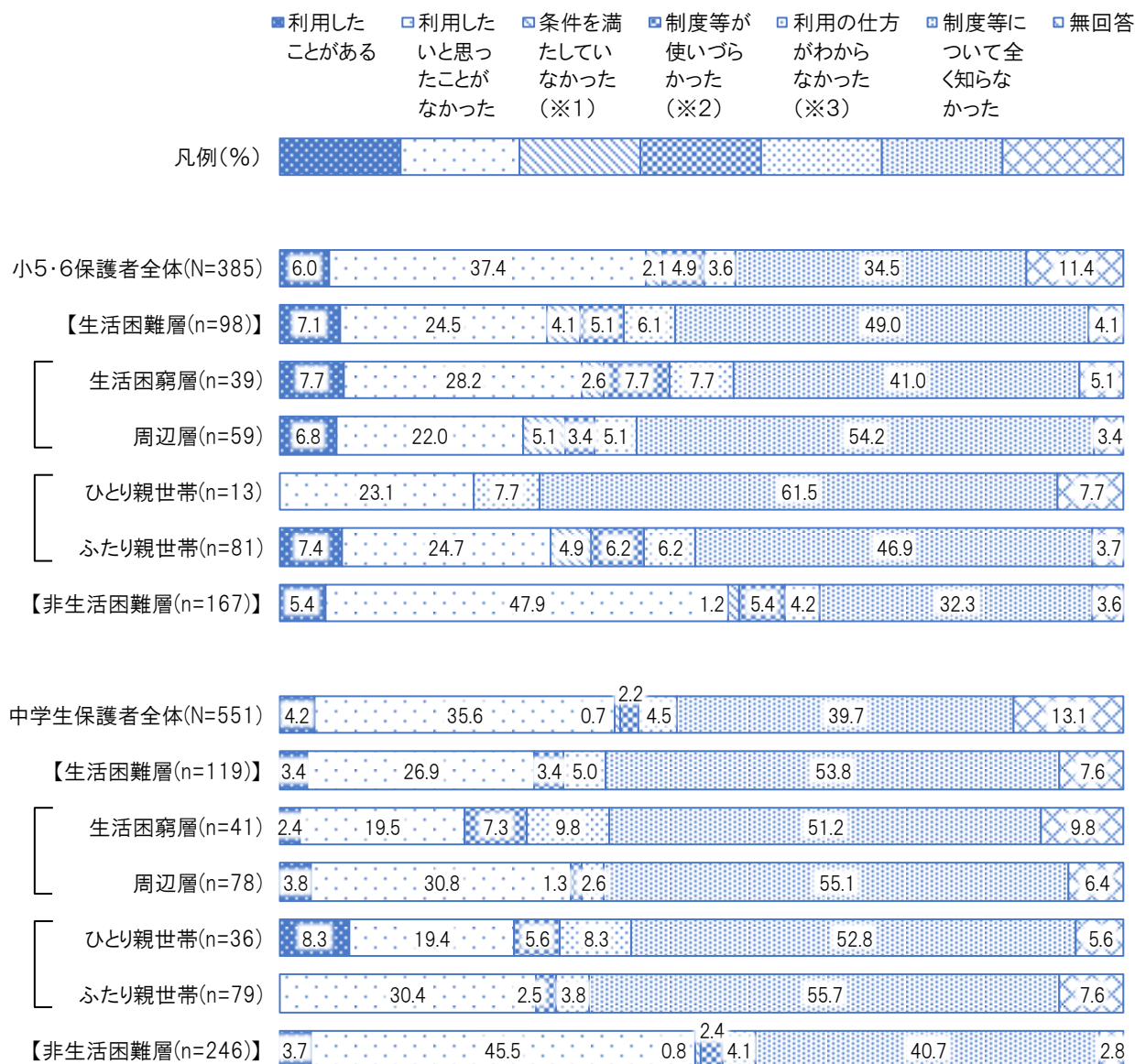


※1：利用したかったが、条件を満たしていなかった
 ※2：利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった
 ※3：利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

H 学校以外が実施する学習支援

学校以外が実施する学習支援について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の周辺層で54.2%，中学生保護者の生活困窮層で51.2%，周辺層で55.1%となっており，非生活困難層に比べてそれぞれ高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



※1：利用したかったが，条件を満たしていなかった

※2：利用したかったが，利用時間や制度等が使いづらかった

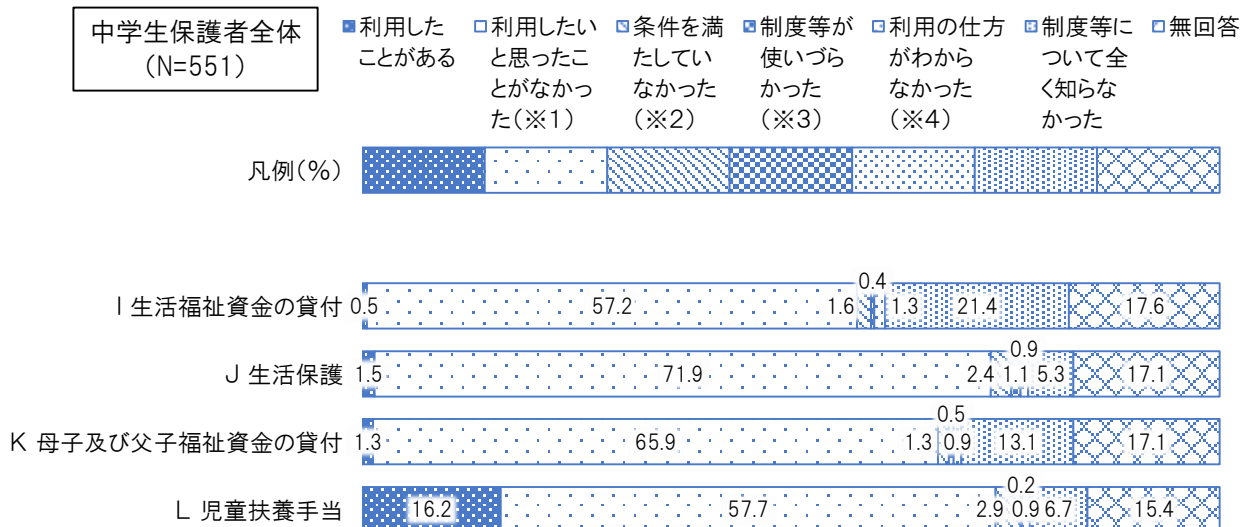
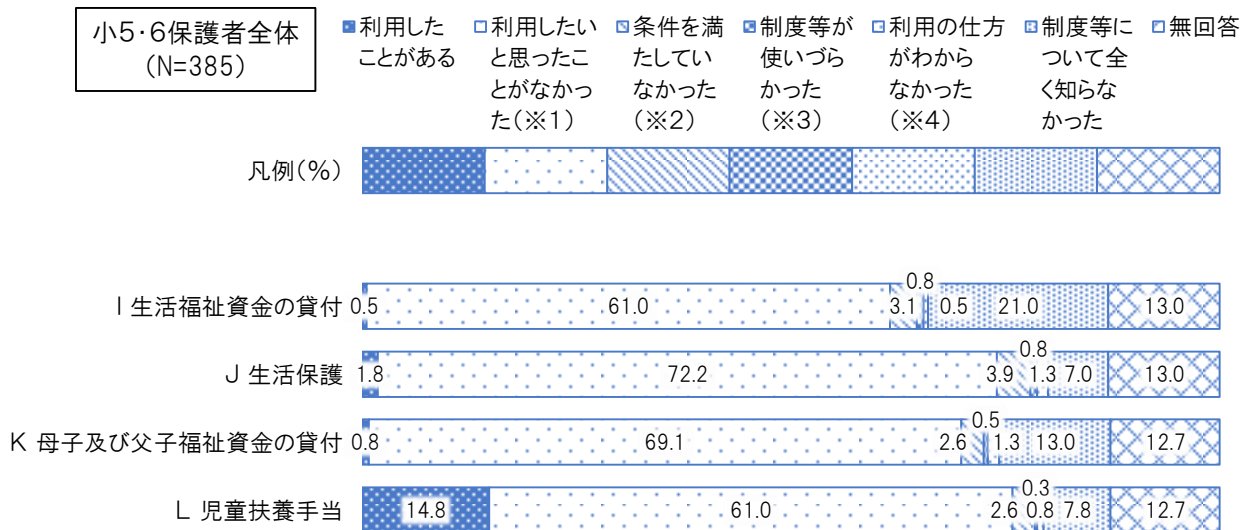
※3：利用したかったが，利用の仕方がわからなかった

(3) 各種経済的支援制度の利用経験

保／問 45 次のI～Lの支援制度等は、これまでに利用・受給（以下「利用」という。）したことがありますか。
 利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。
 （それぞれ、あてはまる番号1つに○）

各種経済的支援制度の利用経験について、小学5・6年保護者全体の「利用したことがある」では「L 児童扶養手当」（14.8%）などがあげられる。一方、「制度等について全く知らなかった」では「I 生活福祉資金の貸付」（21.0%）、「K 母子及び父子福祉資金の貸付」（13.0%）などがあげられる。

中学生保護者全体の「利用したことがある」では「L 児童扶養手当」（16.2%）などがあげられる。一方、「制度等について全く知らなかった」では「I 生活福祉資金の貸付」（21.4%）、「K 母子及び父子福祉資金の貸付」（13.1%）などがあげられる。

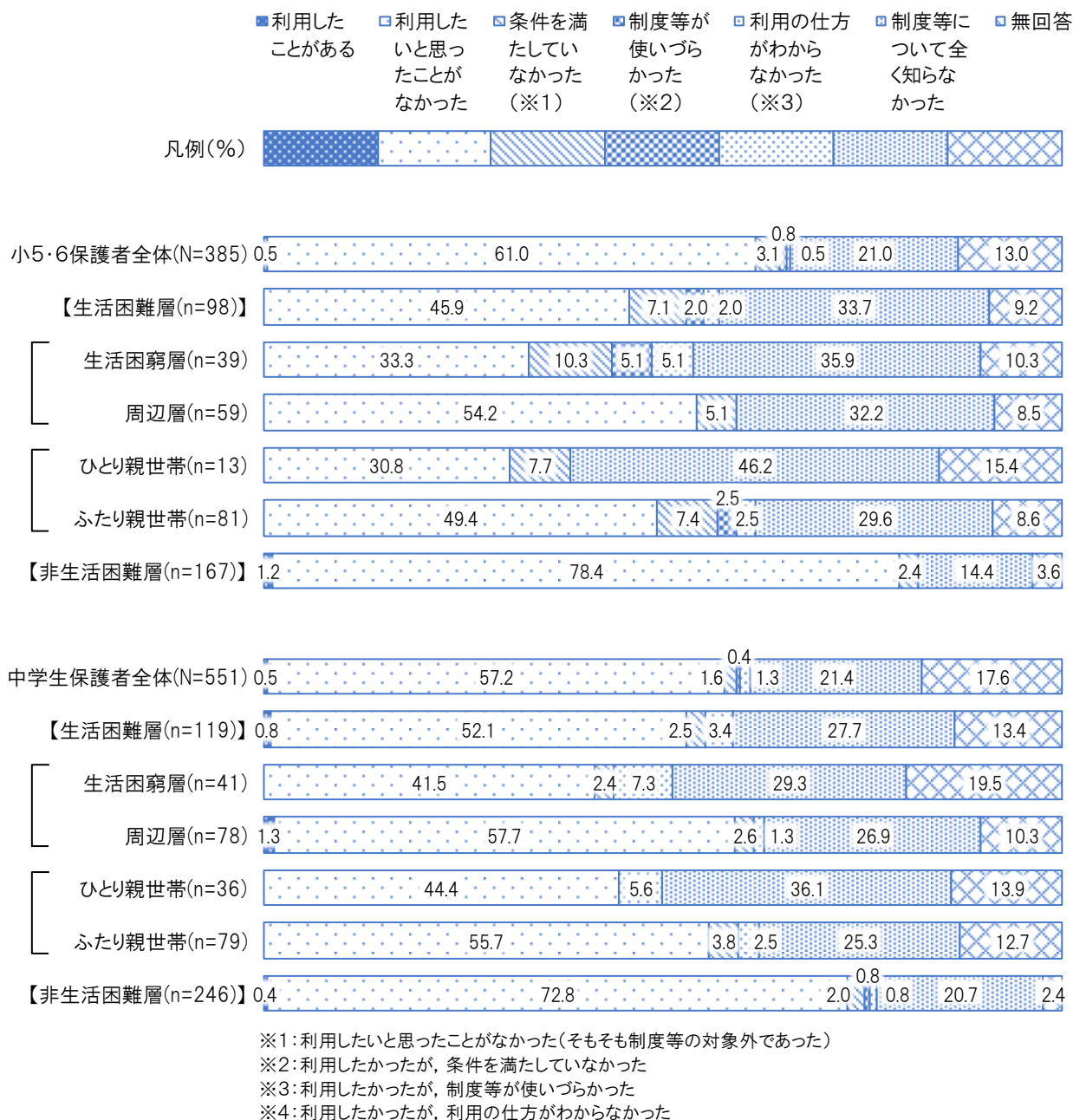


※1: 利用したいと思ったことがなかった(そもそも制度等の対象外であった)
 ※2: 利用したかったが、条件を満たしていなかった
 ※3: 利用したかったが、制度等が使いづらかった
 ※4: 利用したかったが、利用の仕方がわからなかった

I 生活福祉資金の貸付

生活福祉資金の貸付について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%、周辺層で32.2%、中学生保護者の生活困窮層で29.3%、周辺層で26.9%となっており、非生活困難層に比べてそれぞれ高くなっている。

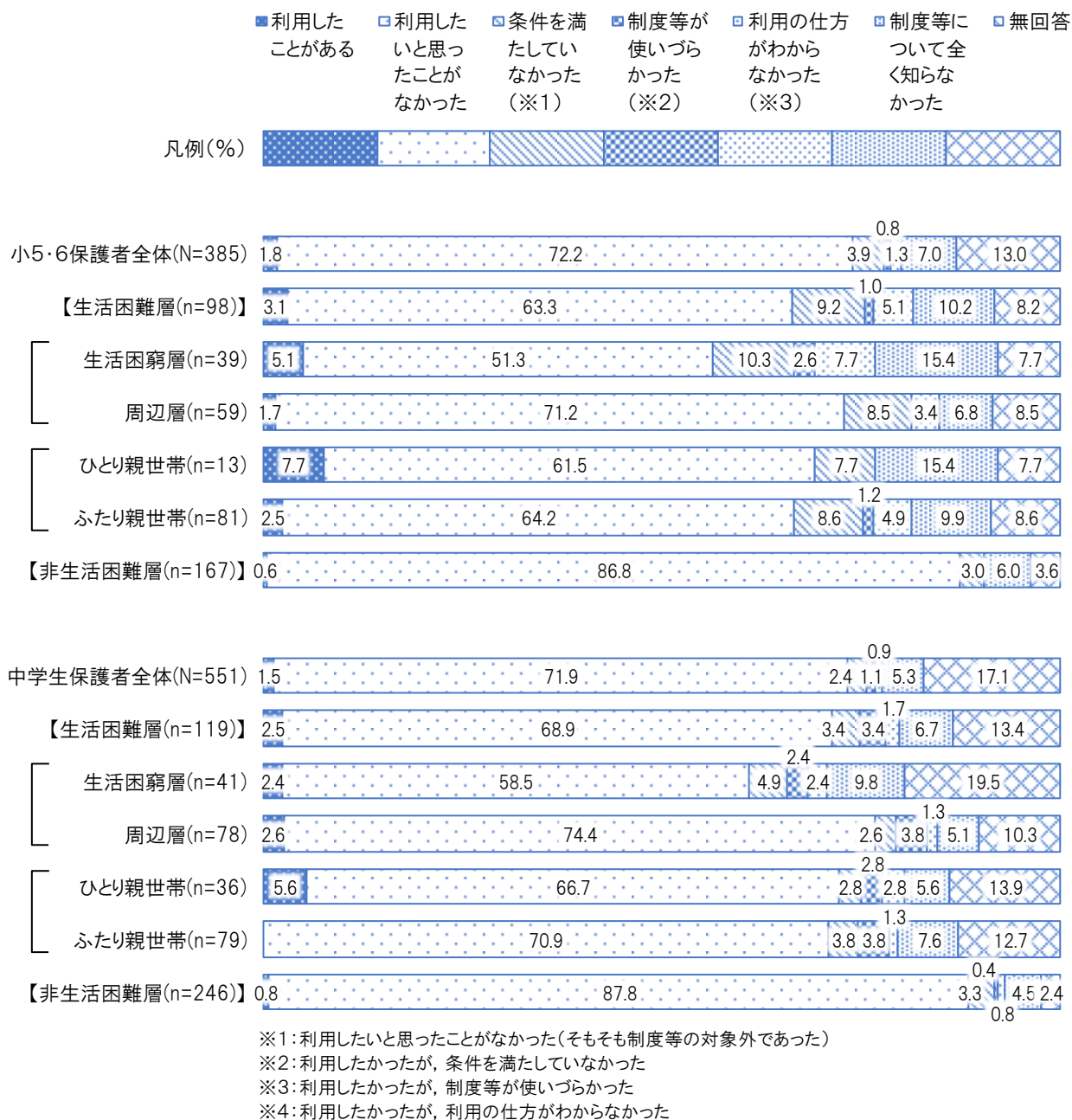
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



J 生活保護

生活保護について、小学5・6年保護者の生活困窮層で「制度等について全く知らなかった」が15.4%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

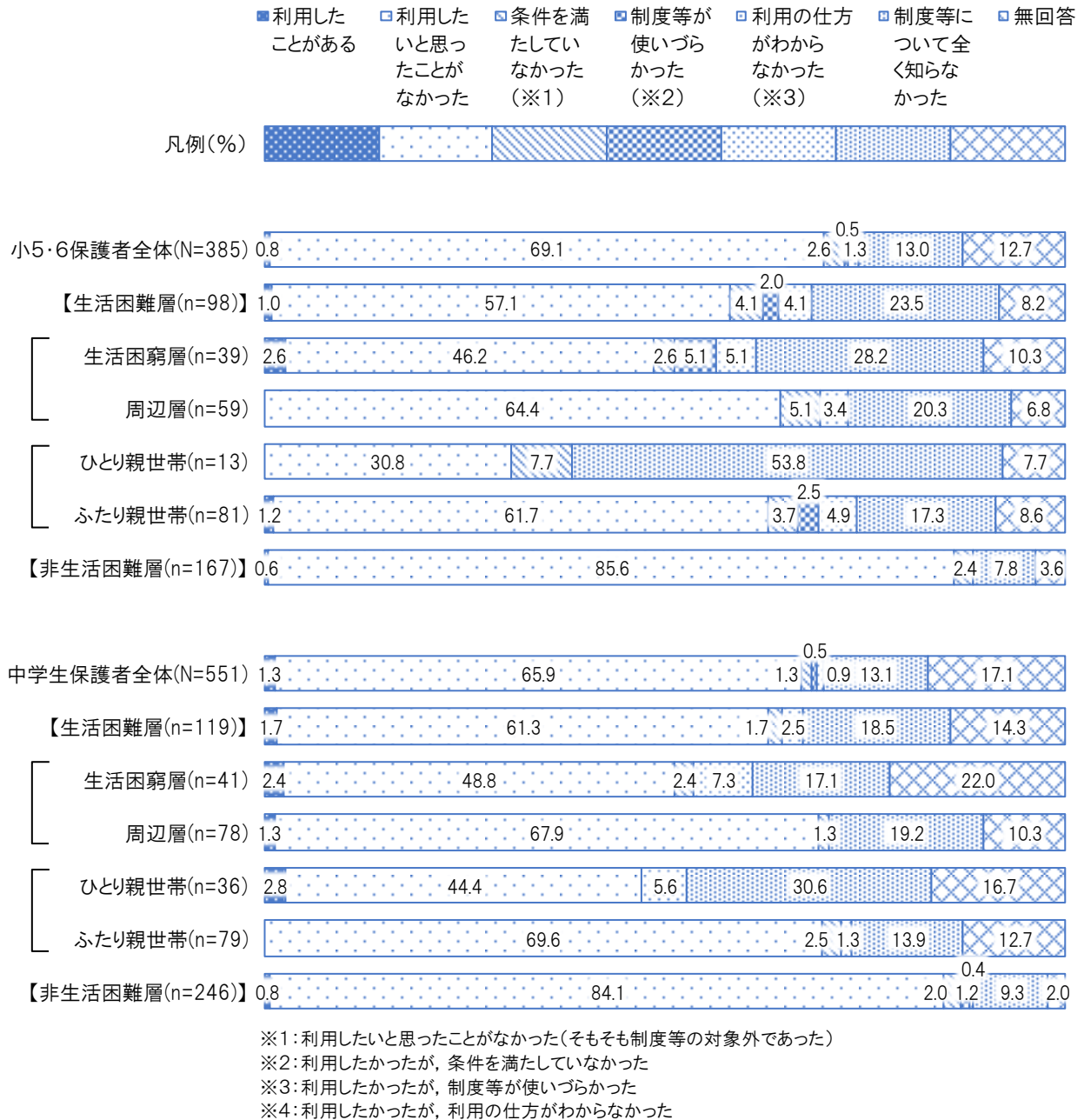
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「利用したことがある」の割合が7.7%となっており、他の層に比べてやや高くなっている。



K 母子及び父子福祉資金の貸付

母子及び父子福祉資金の貸付について「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%，周辺層で20.3%となっており，生活困難度が高い層ほど高くなっている。

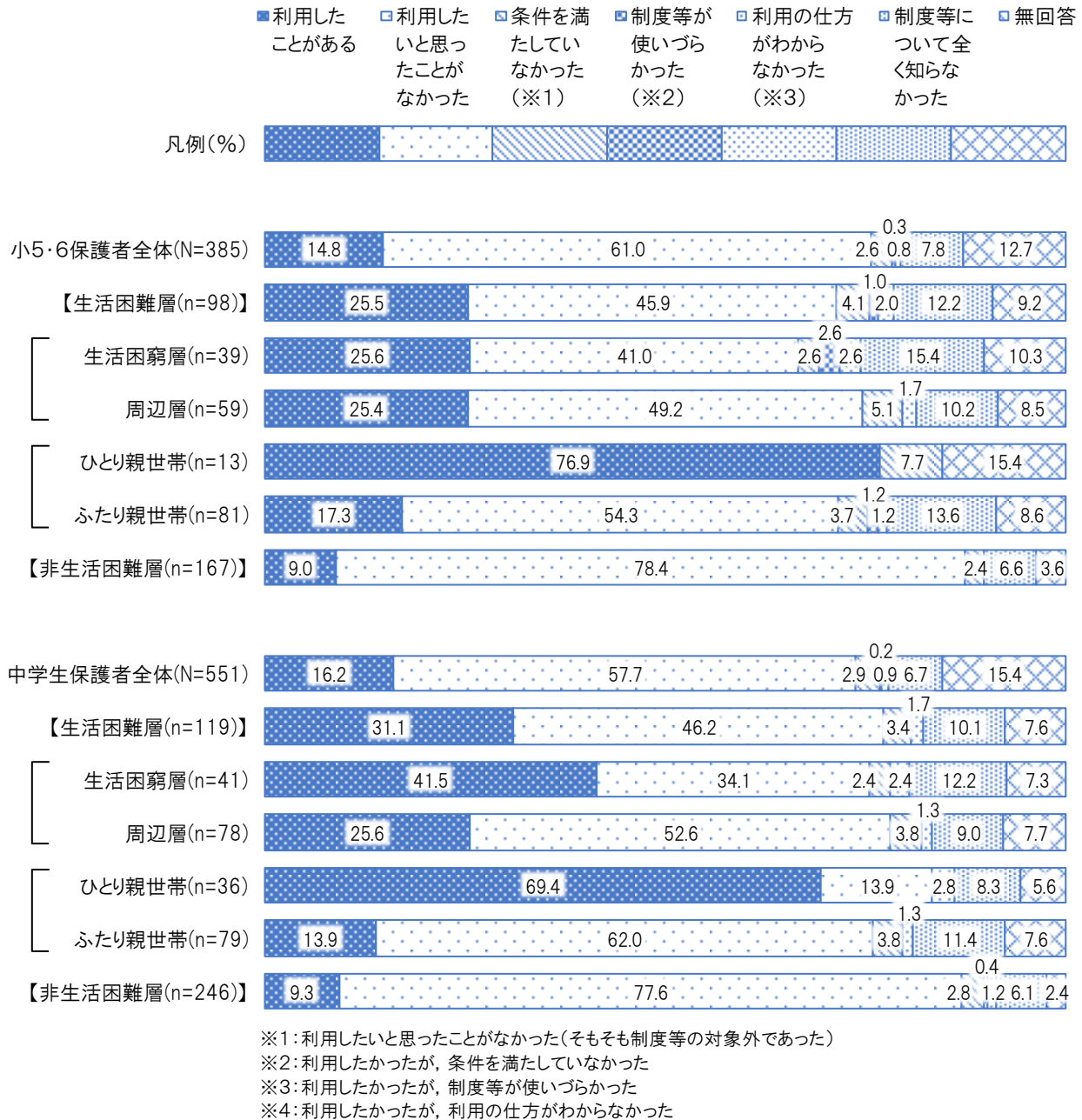
生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年保護者のひとり親世帯で「制度等について全く知らなかった」の割合が他の層を大きく上回っている。



L 児童扶養手当

児童扶養手当について「利用したことがある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で25.6%、周辺層で25.4%となっている。中学生保護者では、生活困窮層で41.5%、周辺層で25.6%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「利用したことがある」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。

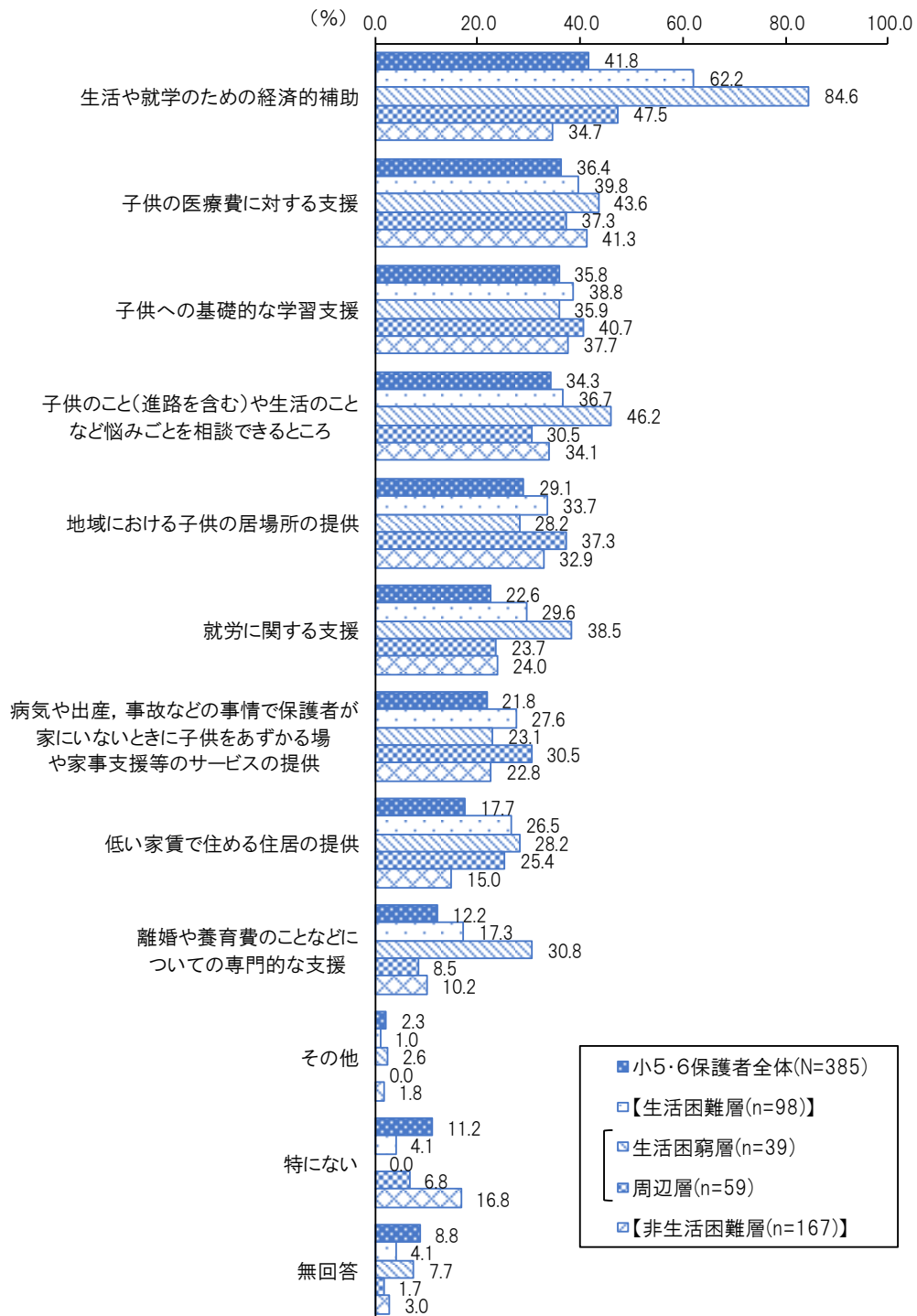


(4) 将来的に必要と思う支援

保／問 48 あなたとあなたの子供にとって、現在、または将来的に、どのような支援があると良いと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

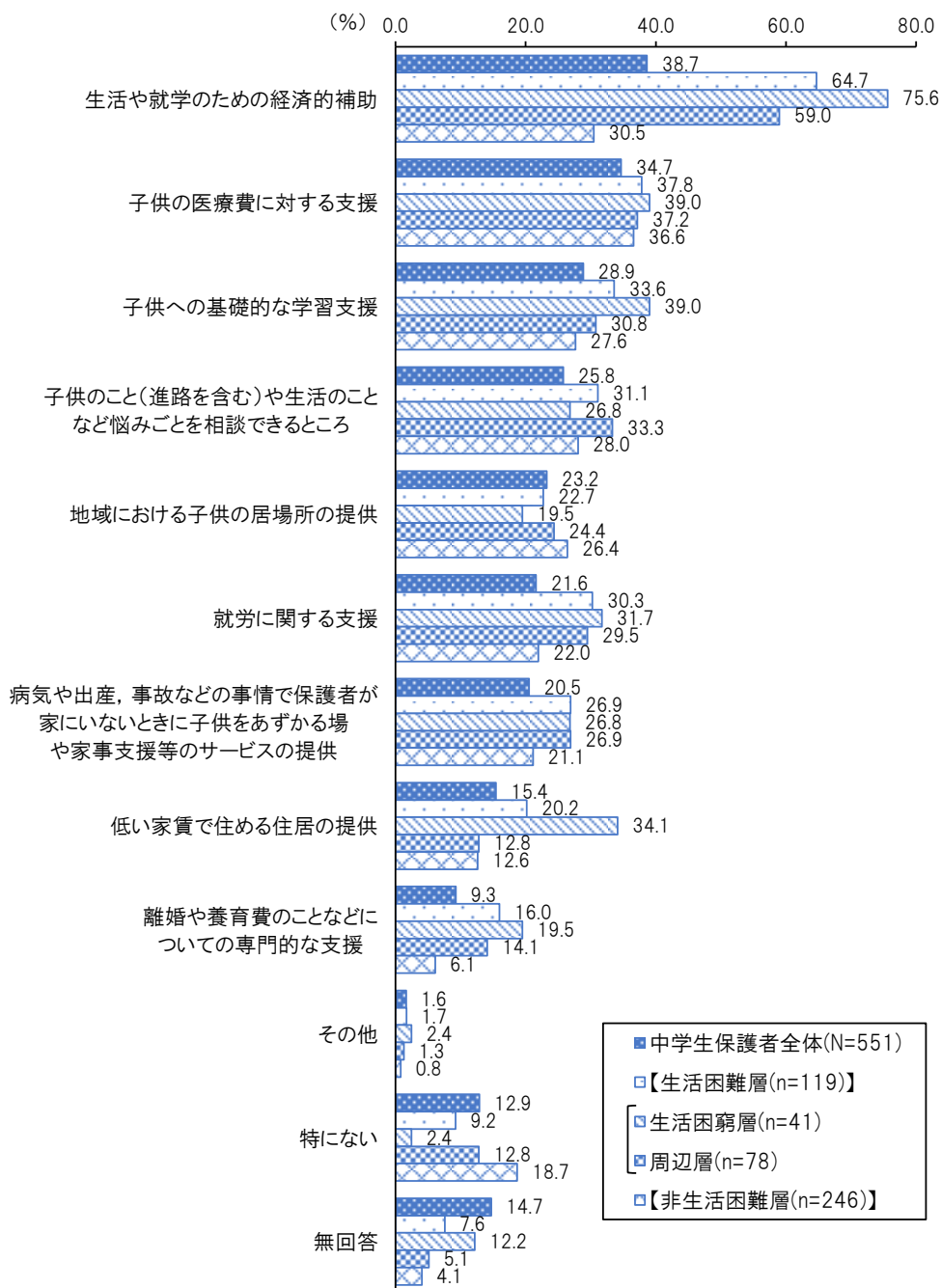
必要な支援について、小学5・6年保護者全体では「生活や就学のための経済的補助」が41.8%と最も高く、次いで「子供の医療費に対する支援」(36.4%)、「子供への基礎的な学習支援」(35.8%)、「子供のこと(進路を含む)や生活のことなど悩みごとを相談できるところ」(34.3%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「生活や就学のための経済的補助」などの割合が他の層を大きく上回っている。

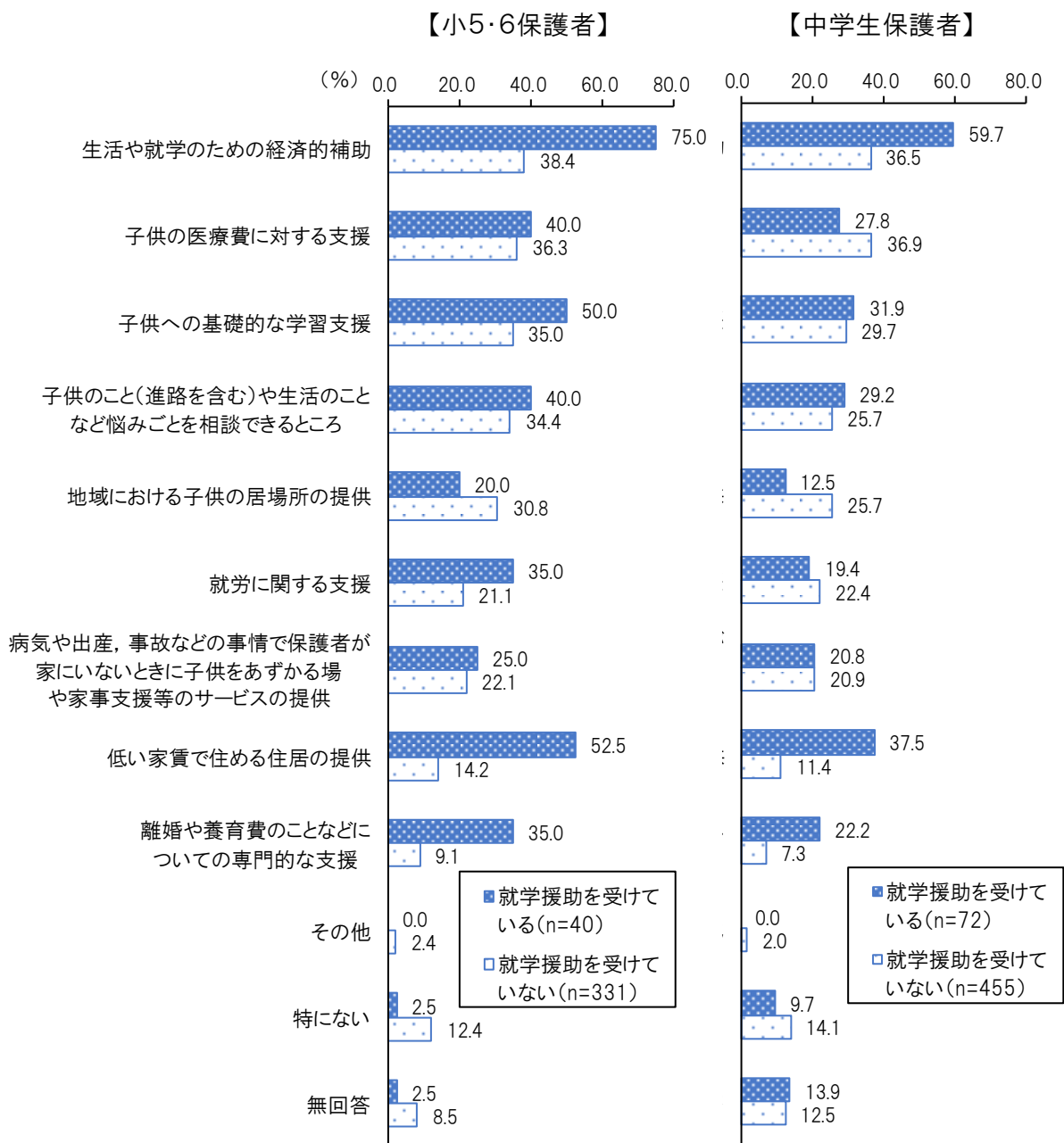


中学生保護者全体では、「生活や就学のための経済的補助」が38.7%と最も高く、次いで「子供の医療費に対する支援」(34.7%)、「子供への基礎的な学習支援」(28.9%)、「子供のこと(進路を含む)や生活のことなど悩みごとを相談できるところ」(25.8%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「生活や就学のための経済的補助」「低い家賃で住める住居の提供」などの割合が他の層を大きく上回っている。



就学援助受給別（問 20）でみると、小学5・6年保護者，中学生保護者ともに，就学援助を受けている層では，「生活や就学のための経済的補助」「低い家賃で住める住居の提供」「離婚や養育費のことなどについての専門的な支援」などの割合が，就学援助を受けていない層を大きく上回っている。



【9】相談

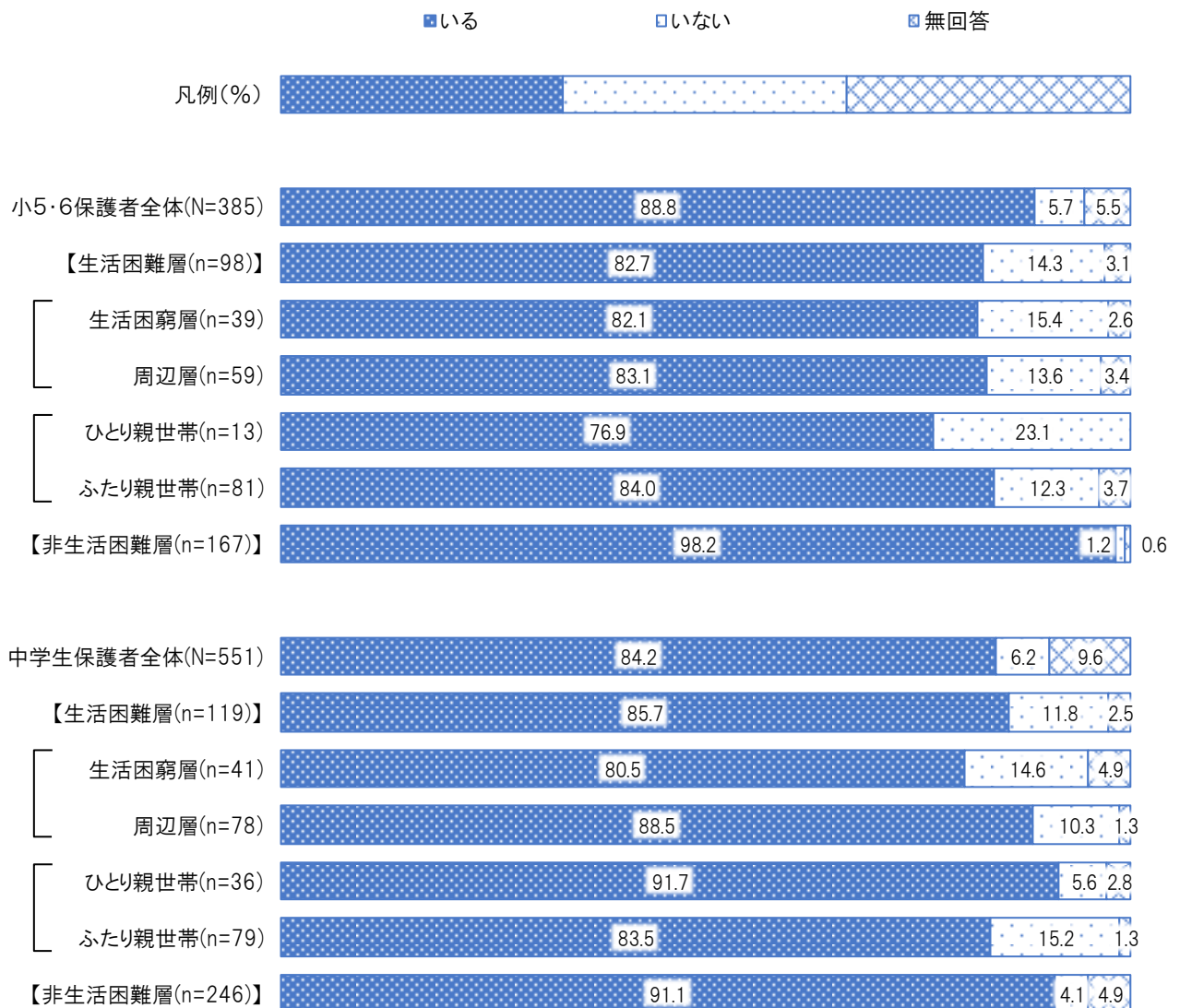
（1）相談相手の有無

保／問 46 あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか。（あてはまる番号1つに○）

相談相手の有無については、小学5・6年保護者全体では「いる」が88.8%、中学生保護者では84.2%となっている。一方、「いない」は、小学5・6年保護者全体では5.7%、中学生保護者全体では6.2%となっている。

生活困難度別にみた「いない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で15.4%、周辺層で13.6%、中学生保護者の生活困窮層で14.6%、周辺層で10.3%となっており、非生活困難層に比べてそれぞれやや高くなっている。

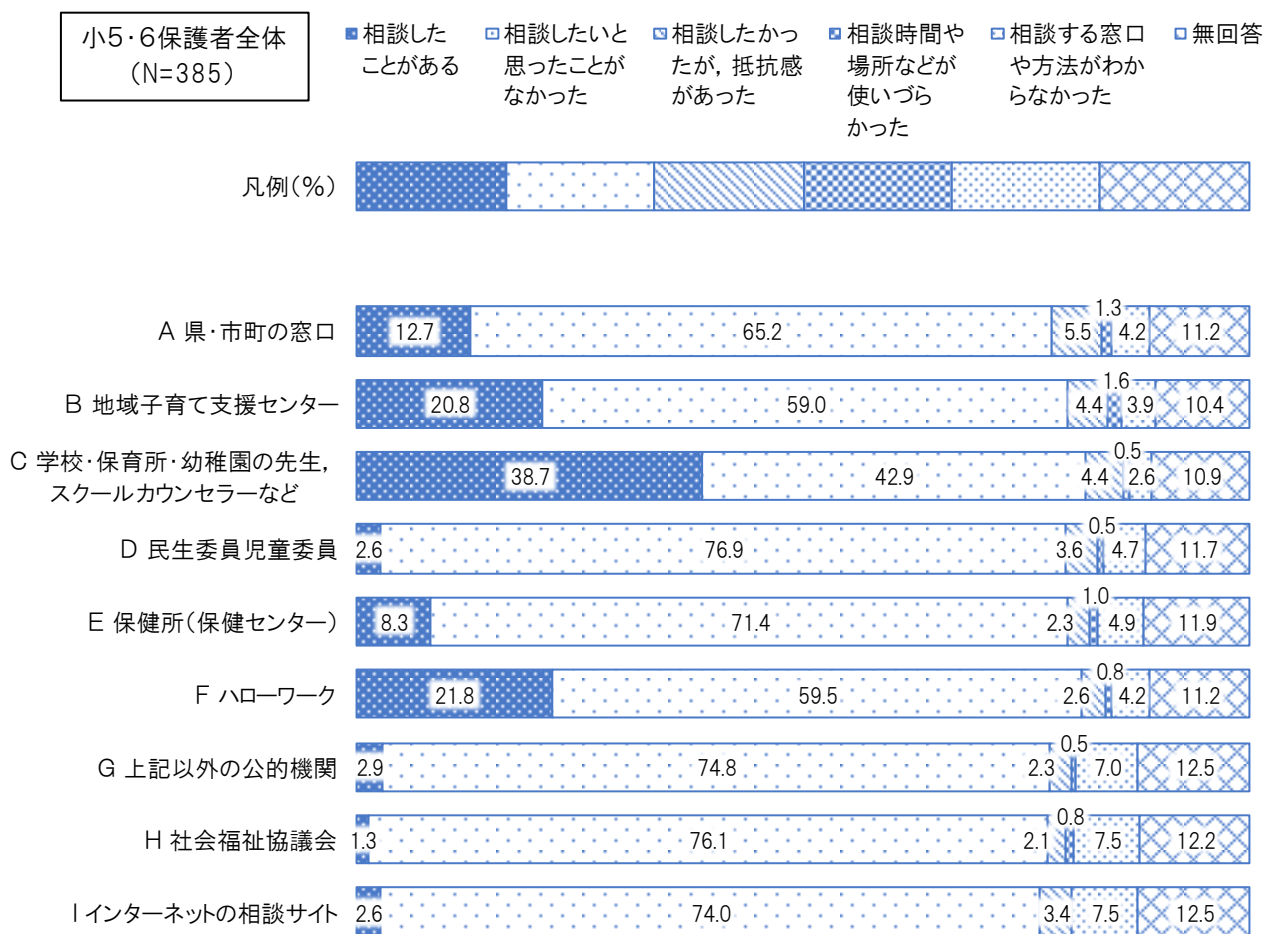
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「いない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



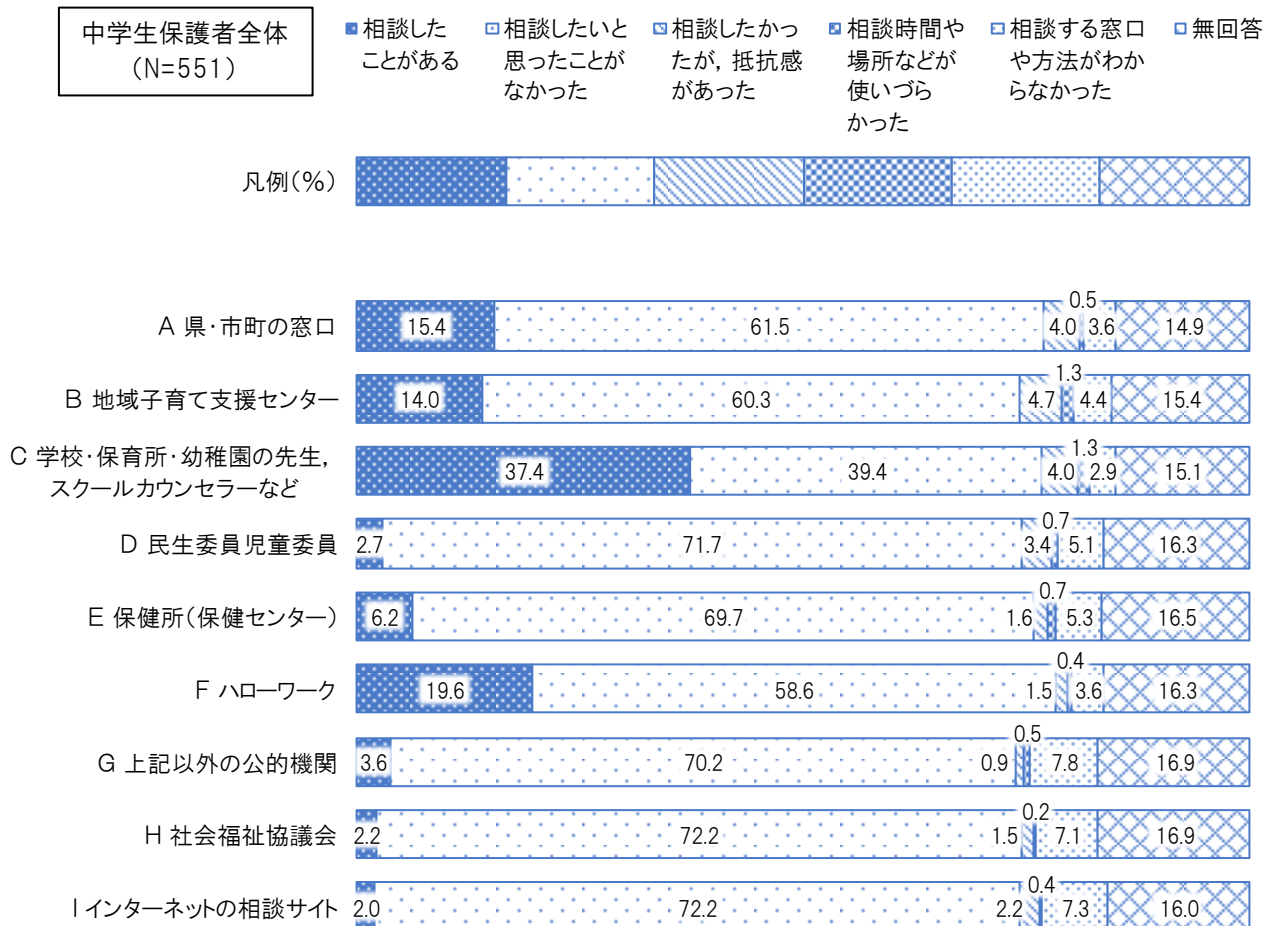
(2) 公的相談機関の利用経験

保/問 47 あなたは、これまでに困ったときに次の公的機関に相談したことがありますか。相談したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

公的相談機関の利用経験については、小学5・6年保護者全体では「相談したことがある」の割合が高い順に「C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」(38.7%)、「F ハローワーク」(21.8%)、「B 地域子育て支援センター」(20.8%)となっている。一方、「相談する窓口や方法がわからなかった」では「H 社会福祉協議会」「I インターネットの相談サイト」(各7.5%)、「G 上記以外の公的機関」(7.0%)などがあげられる。



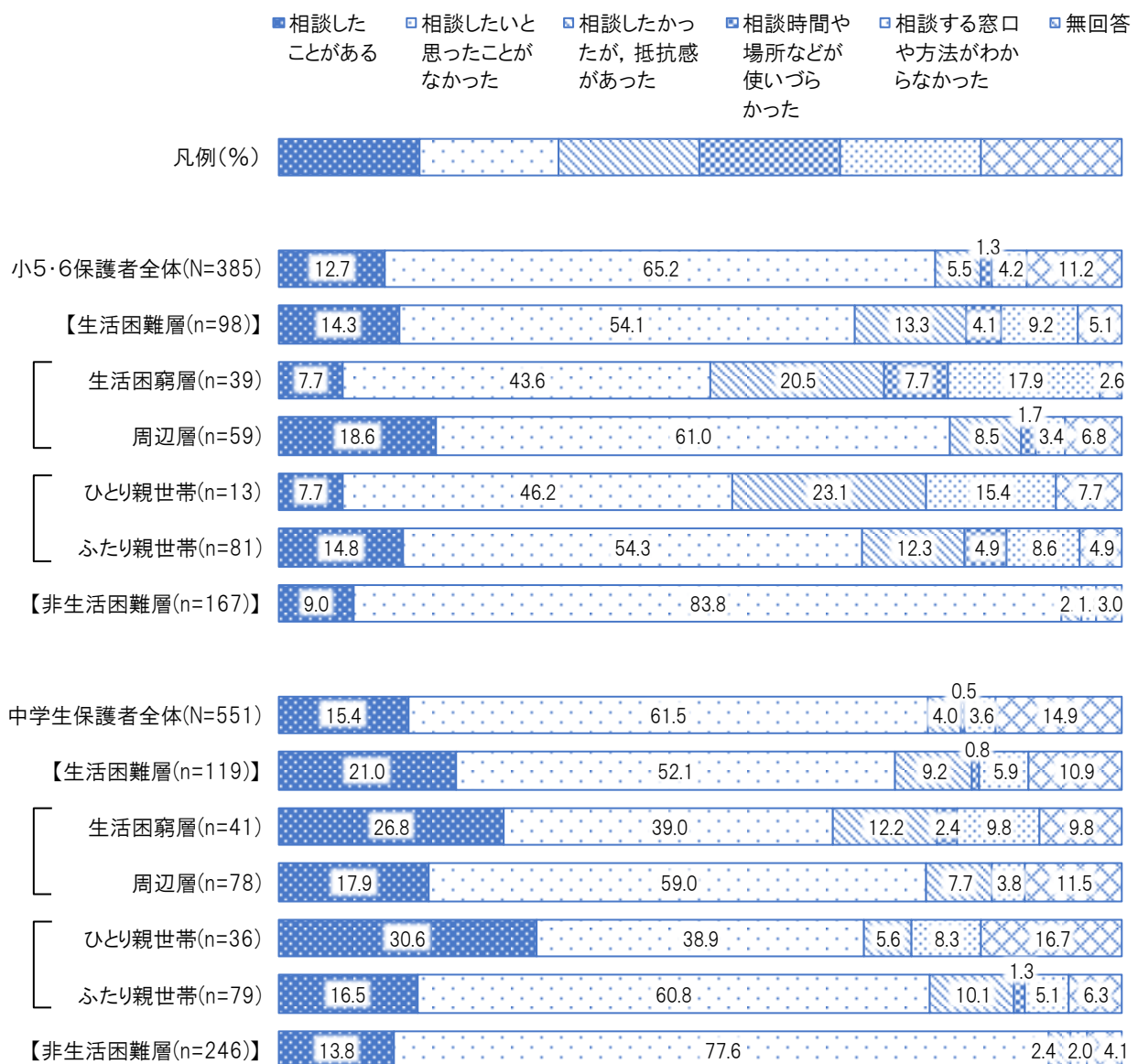
中学生保護者全体では「相談したことがある」の割合が高い順に「C 学校・保育所・幼稚園の先生，スクールカウンセラーなど」(37.4%)，「F ハローワーク」(19.6%)，「A 県・市町の窓口」(15.4%)，「B 地域子育て支援センター」(14.0%) となっている。一方，「相談する窓口や方法がわからなかった」では「G 上記以外の公的機関」(7.8%)，「I インターネットの相談サイト」(7.3%)，「H 社会福祉協議会」(7.1%) などがあげられる。



A 県・市町の窓口

県・市町の窓口について「相談したことがある」割合は、小学5・6年保護者の周辺層で18.6%と生活困窮層に比べて高く、生活困窮層で「相談したかったが、抵抗があった」の割合が20.5%と他の層に比べて高くなっている。中学生保護者では、生活困窮層で「相談したことがある」の割合が26.8%、周辺層で17.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

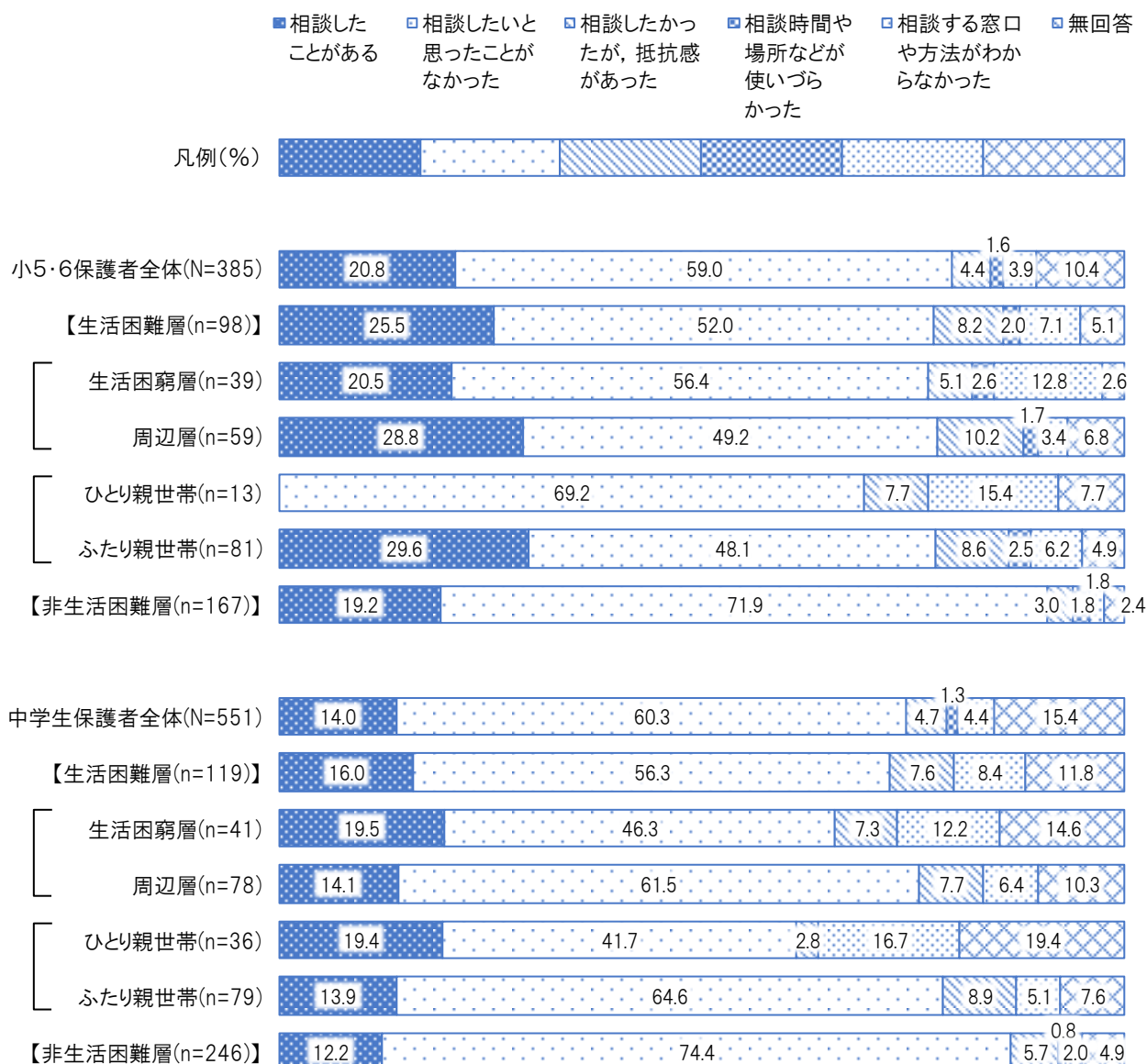
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「相談したかったが、抵抗があった」の割合が他の層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者では、ひとり親世帯で「利用したことがある」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



B 地域子育て支援センター

地域子育て支援センターについて「相談したことがある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%、周辺層で28.8%となっており、周辺層で高くなっている。一方、中学生保護者では、生活困窮層で19.5%、周辺層で14.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

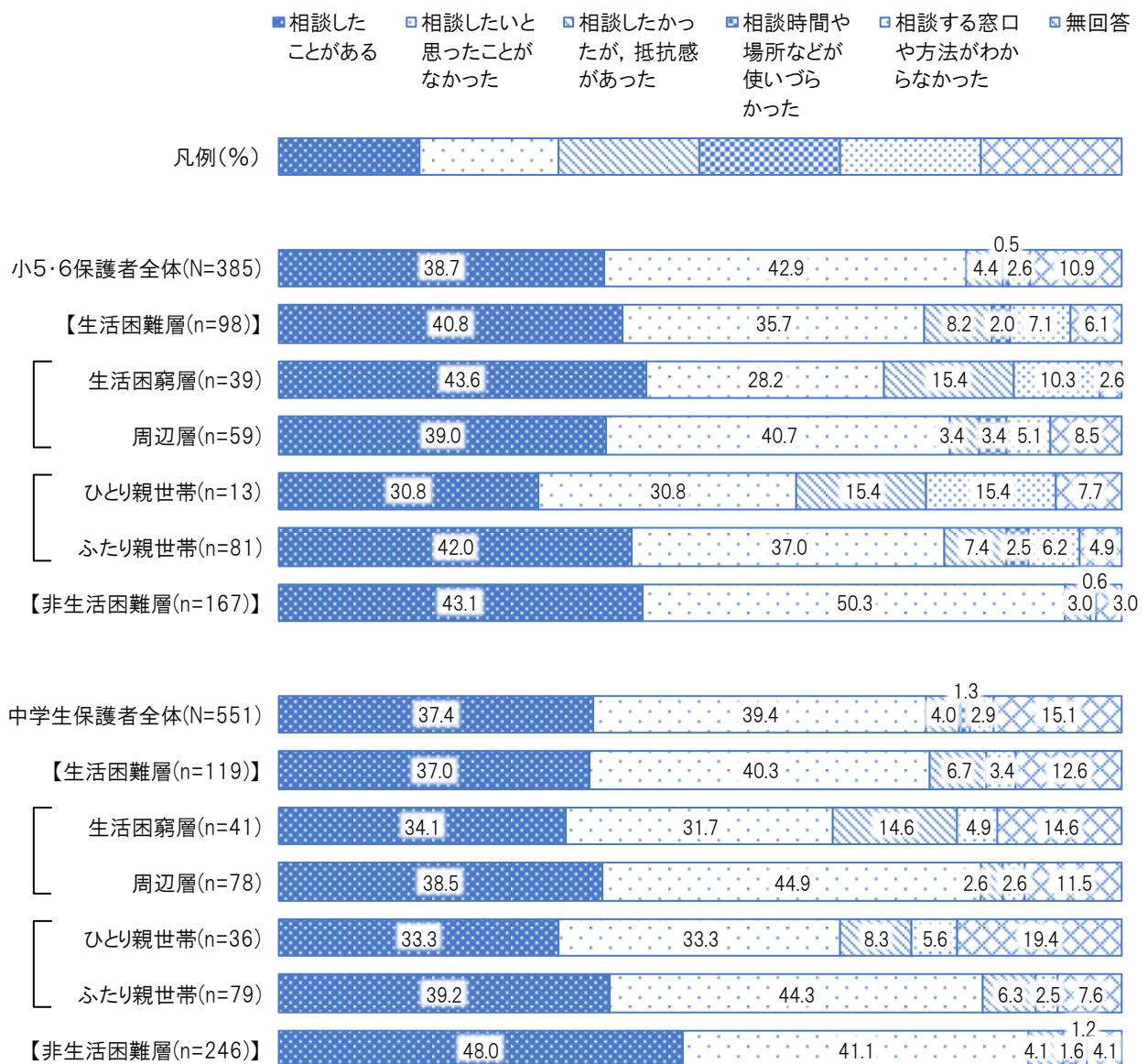
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「相談したことがある」の回答はなかった。また、小学5・6年保護者、中学生ともにひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



C 学校・保育所・幼稚園の先生，スクールカウンセラーなど

学校・保育所・幼稚園の先生，スクールカウンセラーなどについて「相談したかったが，抵抗感があった」の割合は，小学5・6年保護者の生活困窮層で15.4%，中学生保護者で14.6%となっており，生活困難度が高い層ほど高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では，小学5・6年保護者のひとり親世帯で「相談したかったが，抵抗感があった」「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



D 民生委員児童委員

民生委員児童委員について、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに生活困窮層で「相談したかったが、抵抗感があった」「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が非生活困窮層に比べて高くなっている。

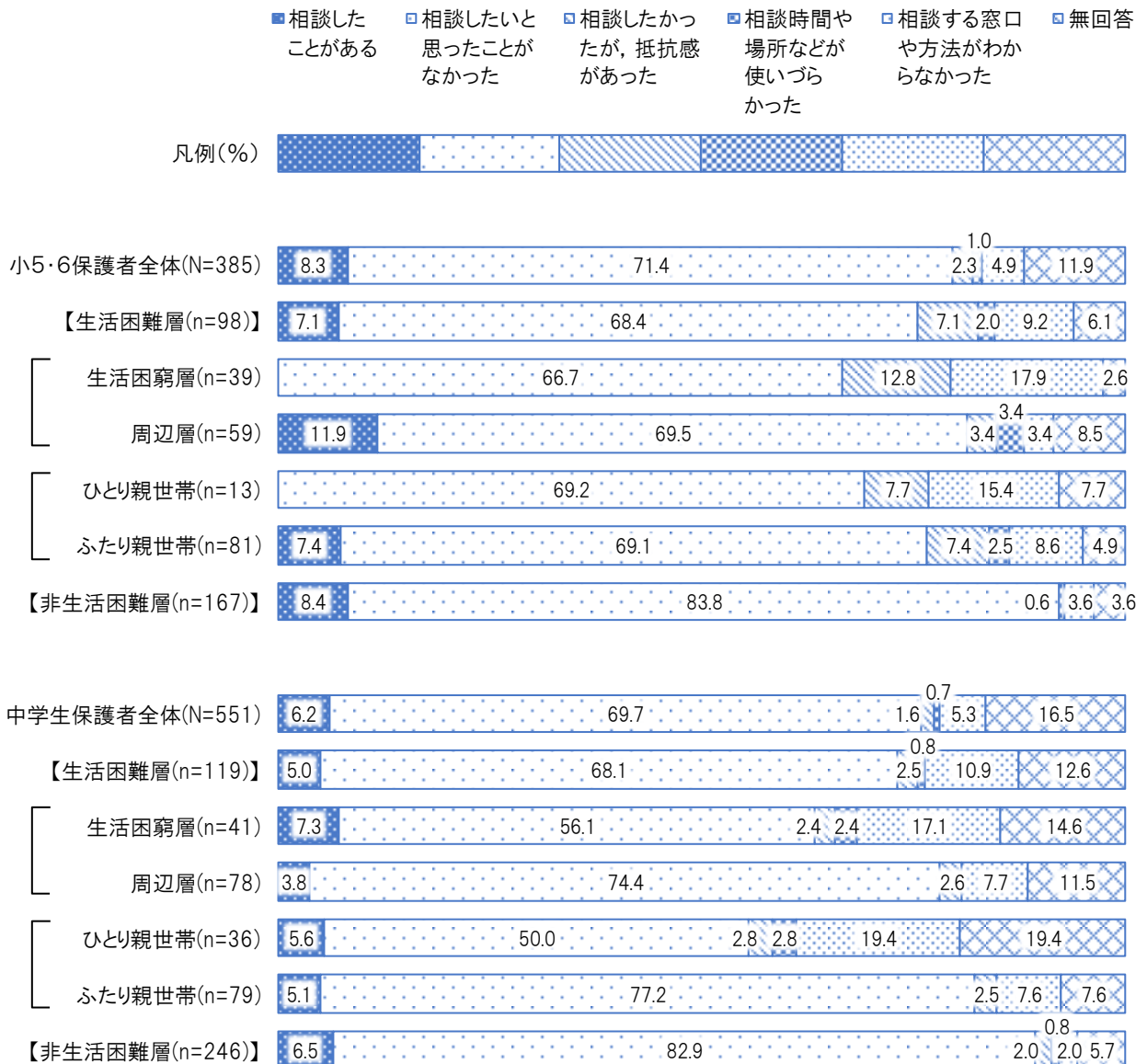
生活困窮層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 保健所（保健センター）

保健所（保健センター）について「相談したことがある」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で回答はなく、「相談したかったが、抵抗感があった」（12.8%）、「相談する窓口や方法がわからなかった」（17.9%）の割合が非生活困難層に比べて高くなっている。また、中学生保護者の生活困窮層で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が17.1%となっており、生活困難度が高い層ほど高くなっている。

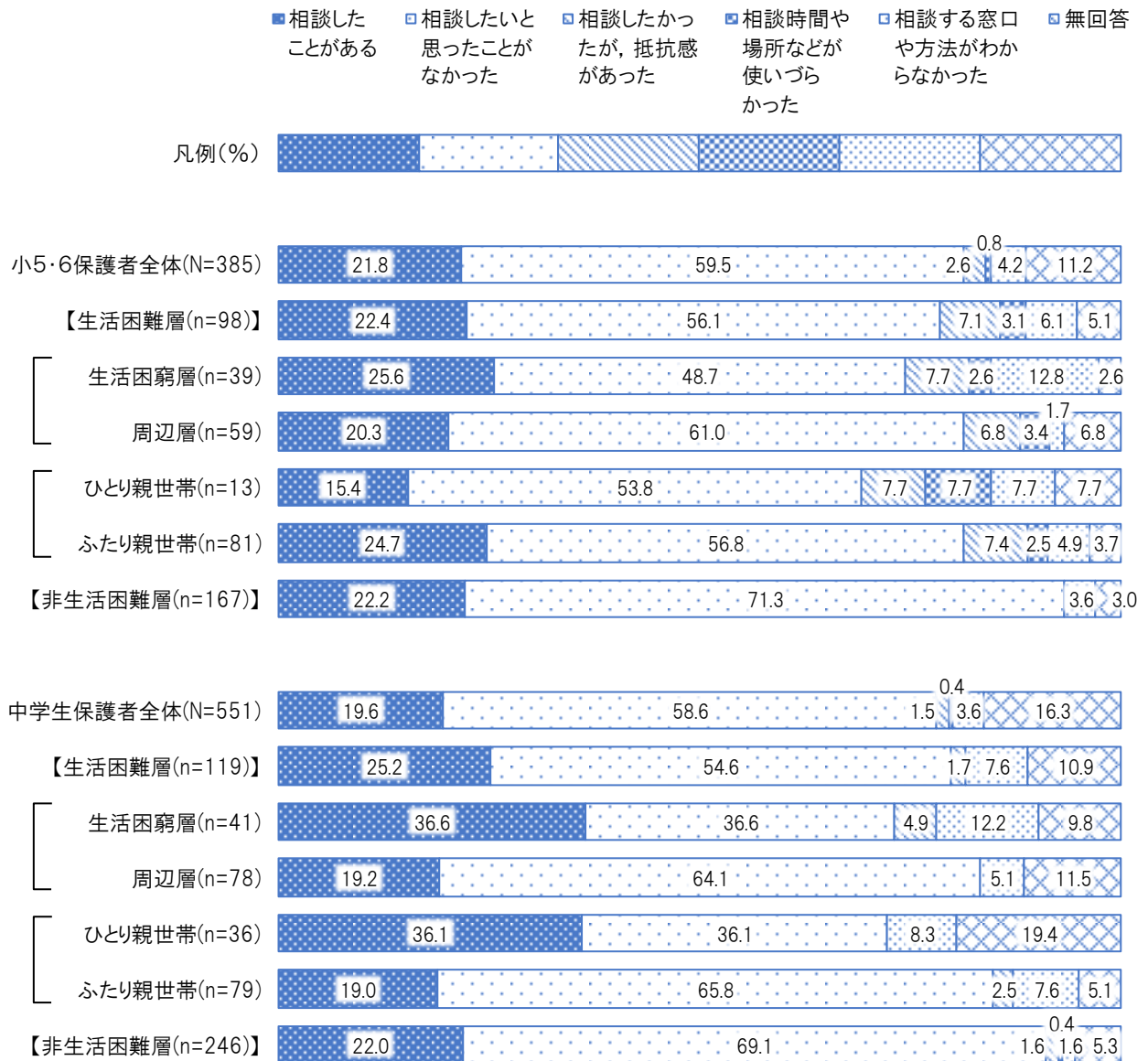
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



F ハローワーク

ハローワークについて「相談したことがある」の割合は、中学生保護者の生活困窮層で36.6%、周辺層で19.2%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「相談したことがある」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



G 上記以外の公的機関

上記以外の公的機関について「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%、中学生保護者で19.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

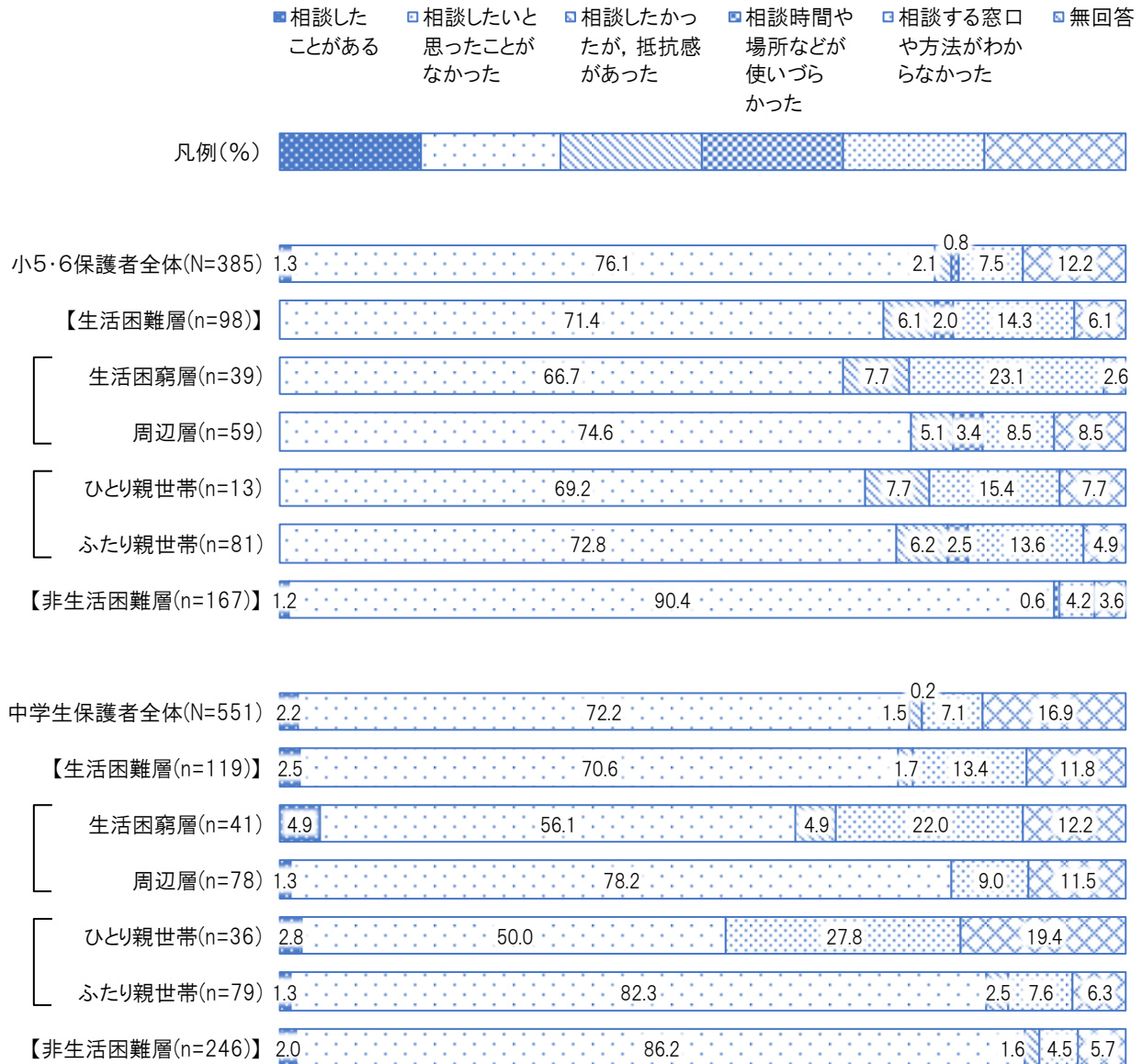
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「相談したかったが、抵抗感があった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生保護者のひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



H 社会福祉協議会

社会福祉協議会について「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で23.1%，中学生保護者で22.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

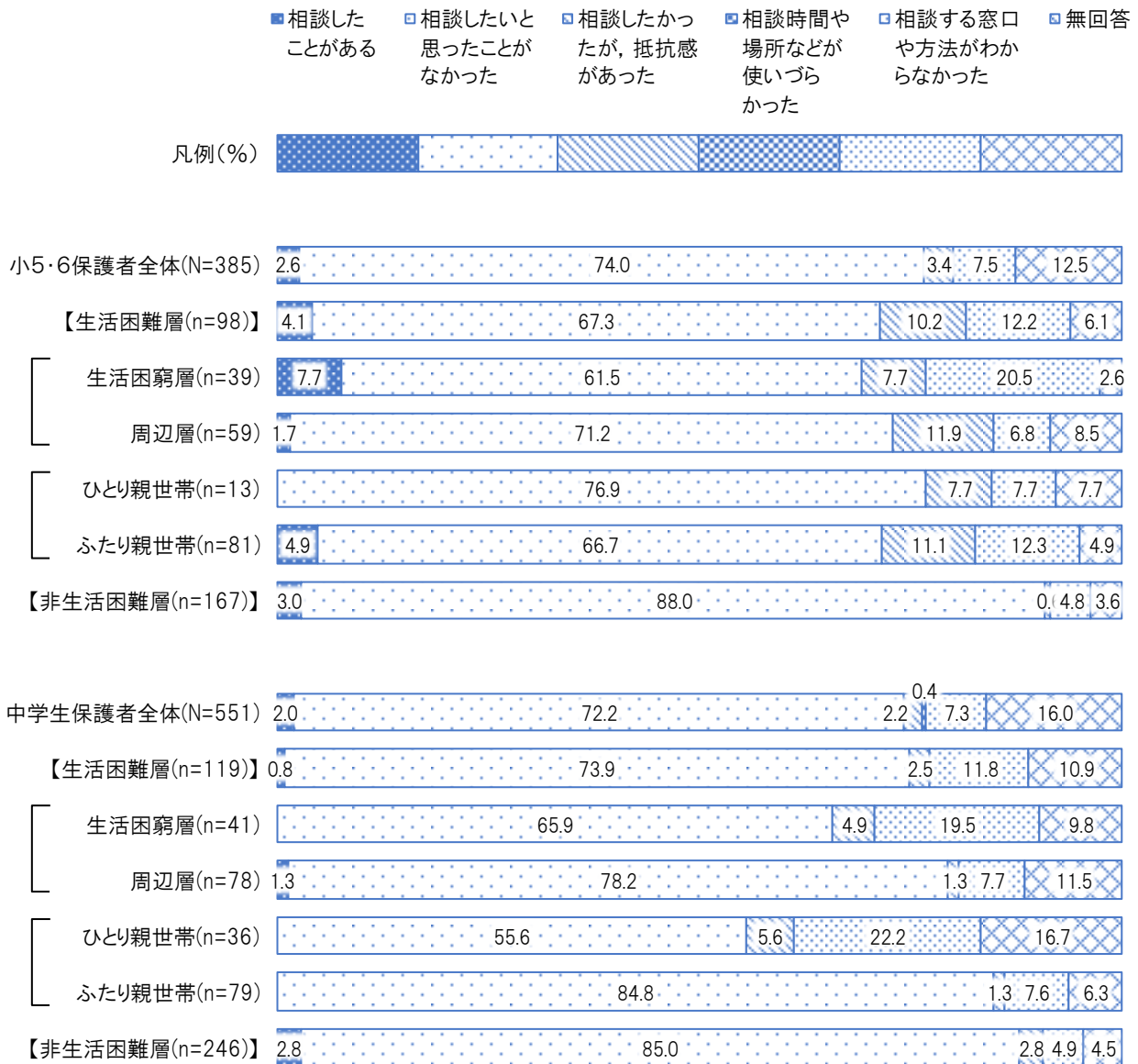
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



I インターネットの相談サイト

インターネットの相談サイトについて「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で 20.5%，中学生保護者で 19.5%となっており，生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では，中学生保護者のひとり親世帯で「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。



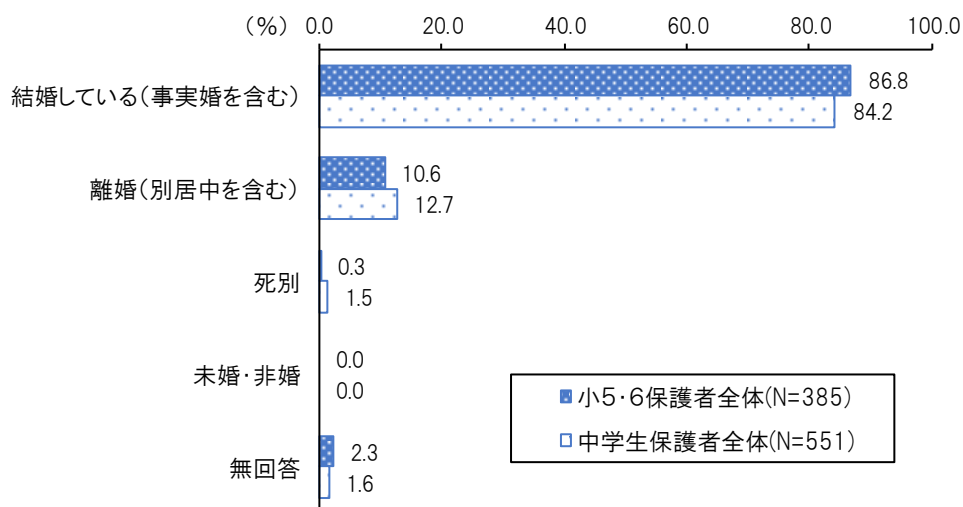
第7章 保護者の状況

【1】回答者

(1) 婚姻状況

保／問5 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

婚姻状況については、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「結婚している(事実婚を含む)」が8割以上を占め、「離婚(別居中を含む)」が1割程度となっている。



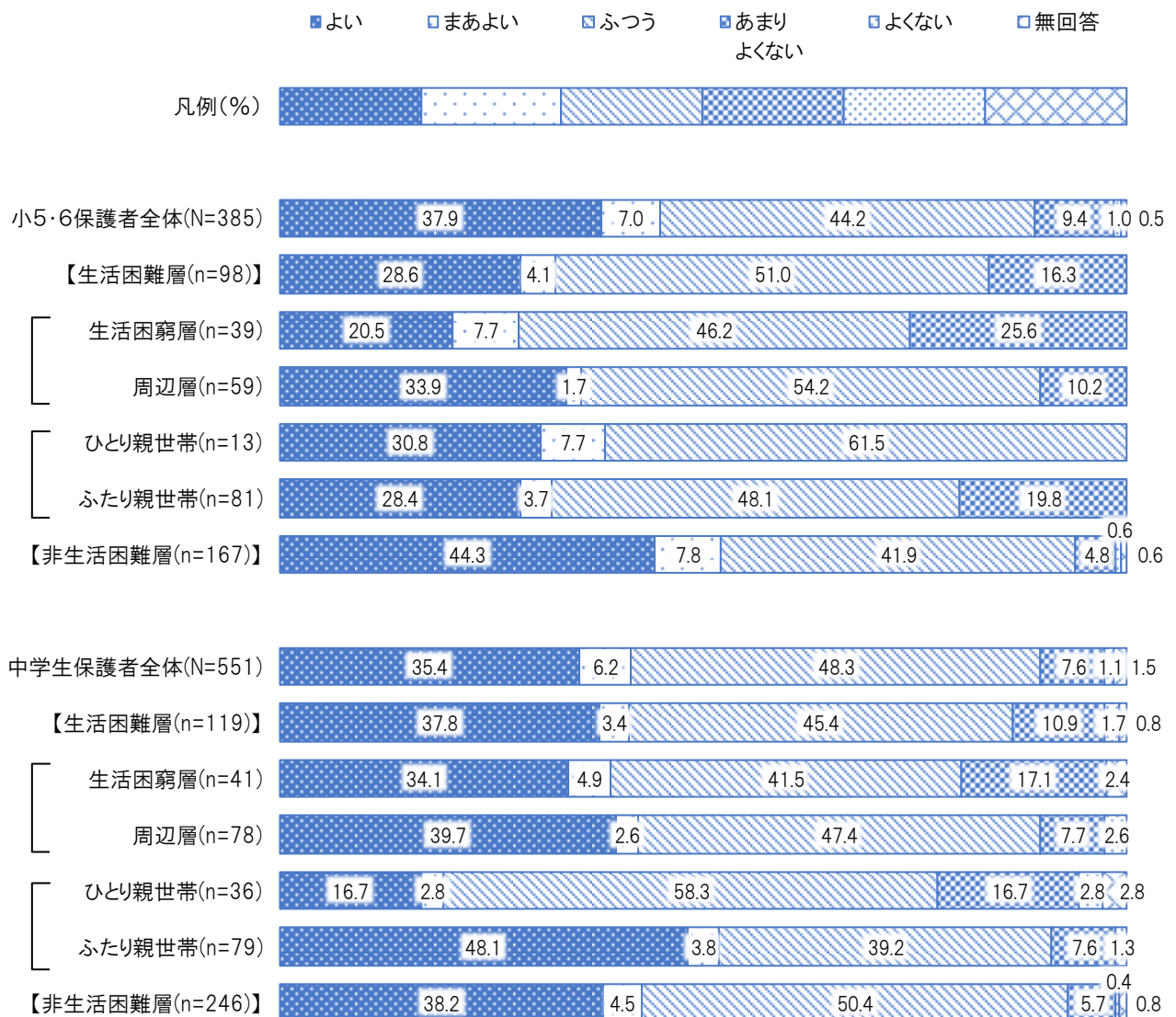
(2) 健康状態

保／問 15-1 あなたの健康状態についておうかがいします。最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

健康状態については、小学5・6年保護者全体では「よい」の割合が37.9%、中学生保護者全体では35.4%となっている。一方、「あまりよくない」「よくない」の合計は、小学5・6年保護者全体では10.4%、中学生保護者全体では8.7%となっている。

生活困難度別にみた「よい」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%、周辺層で33.9%、中学生保護者の生活困窮層で34.1%、周辺層で39.7%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者ふたり親世帯で「あまりよくない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生保護者ひとり親世帯で「よい」の割合が低く、「あまりよくない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



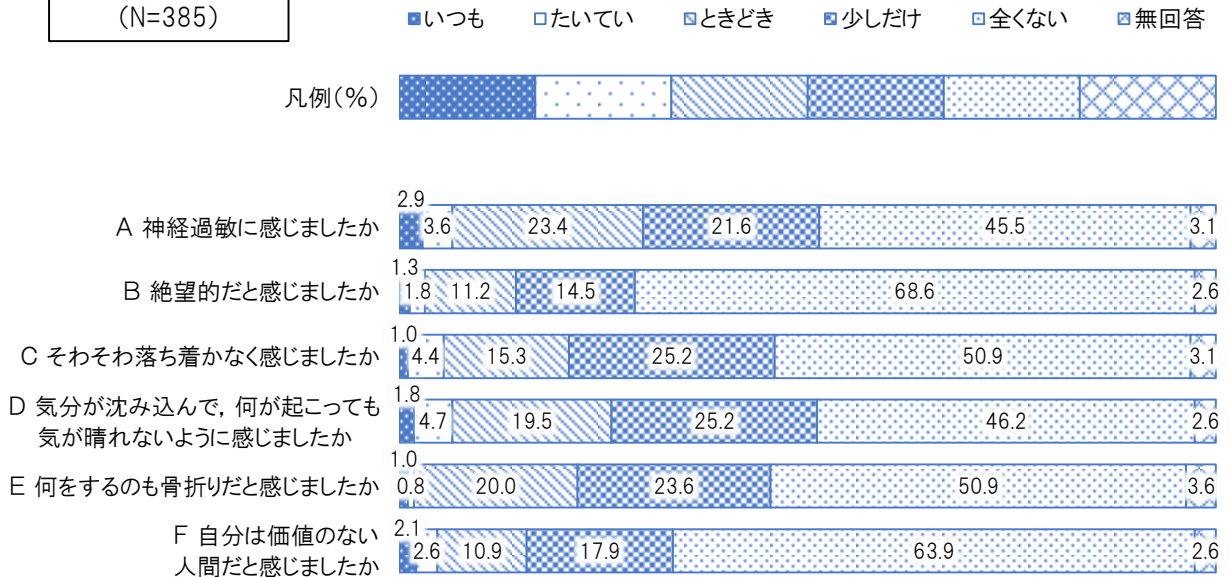
(3) 心の状態

保／問 18 次のA～Fの質問について、あなたは、1か月の間に次のことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

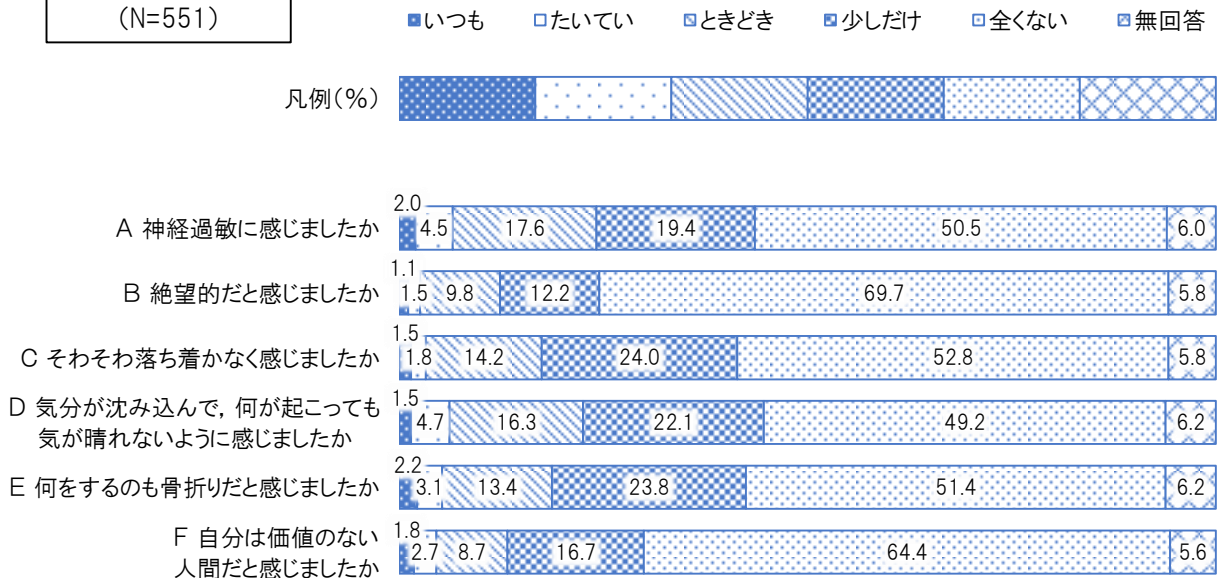
心の状態について「いつも」「たいてい」「ときどき」を合計した割合が高い順に、小学5・6年保護者全体では、「A 神経過敏に感じる」(29.9%)、「D 気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じる」(26.0%)、「E 何をするのも骨折りだと感じましたか」(21.8%)、「C そわそわ落ち着かなく感じましたか」(20.7%)となっている。

同様に中学生保護者全体では、「A 神経過敏に感じる」(24.1%)、「D 気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じる」(22.5%)、「E 何をするのも骨折りだと感じる」(18.7%)、「C そわそわ落ち着かなく感じましたか」(17.5%)の順となっている。

小5・6保護者全体
(N=385)



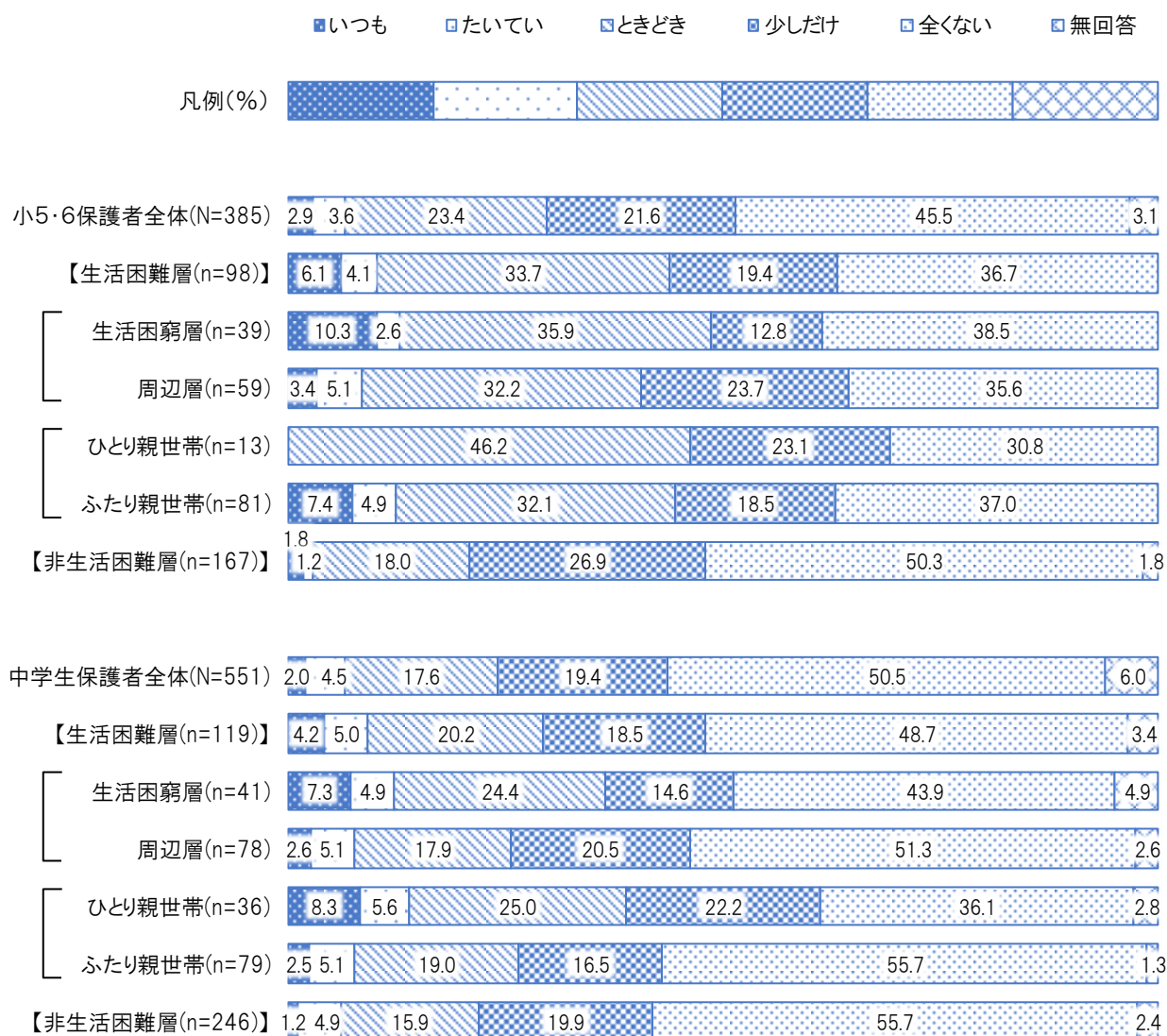
中学生保護者全体
(N=551)



A 神経過敏に感じましたか

神経過敏に感じるということについて「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で48.8%、周辺層で40.7%、中学生保護者では、生活困窮層で36.6%、周辺層で25.6%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

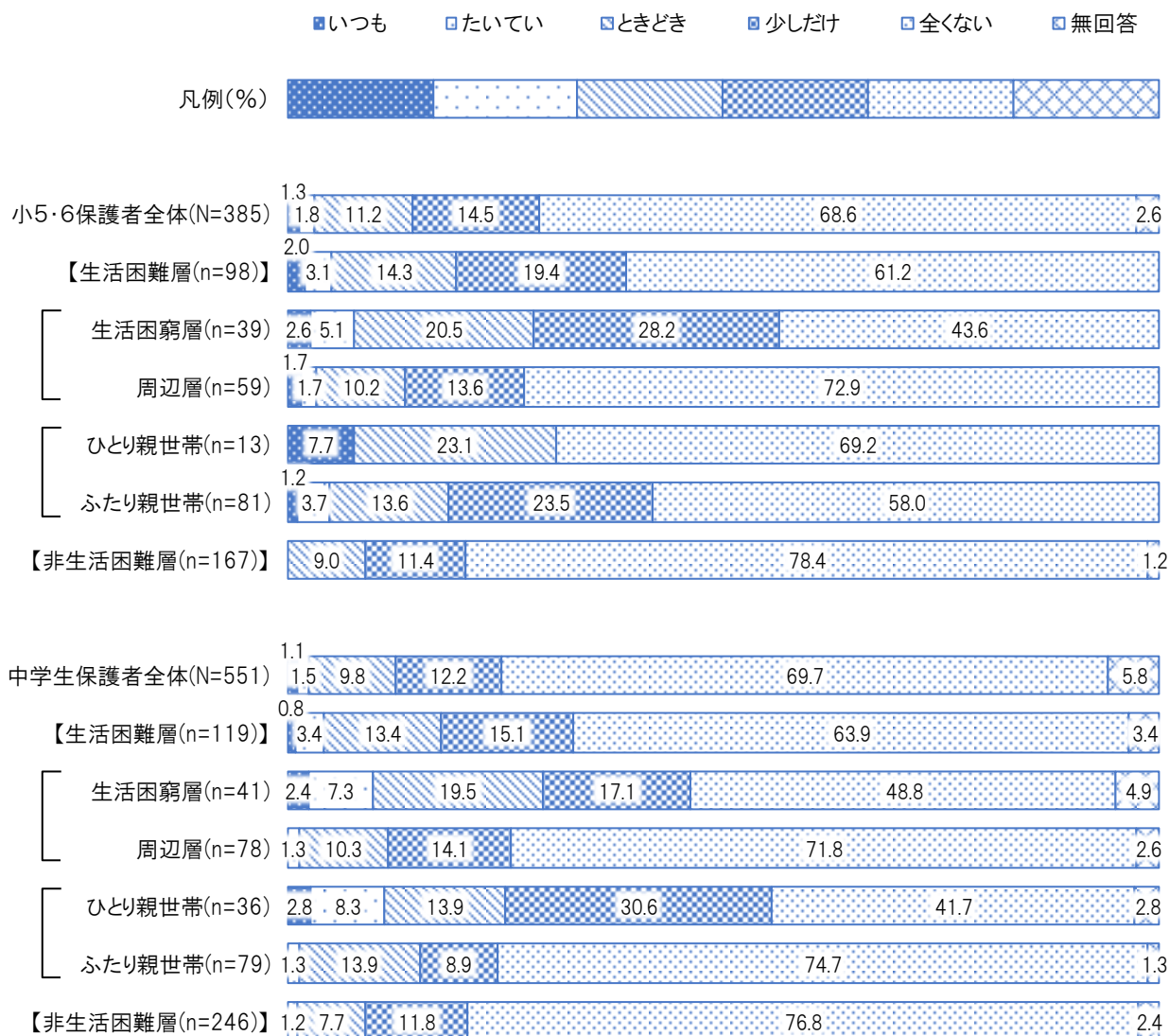
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ときどき」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生保護者ふたり親世帯で「全くない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



B 絶望的だと感じましたか

絶望的だと感じるということについて「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%、周辺層で13.6%、中学生保護者では、生活困窮層で29.2%、周辺層で11.6%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

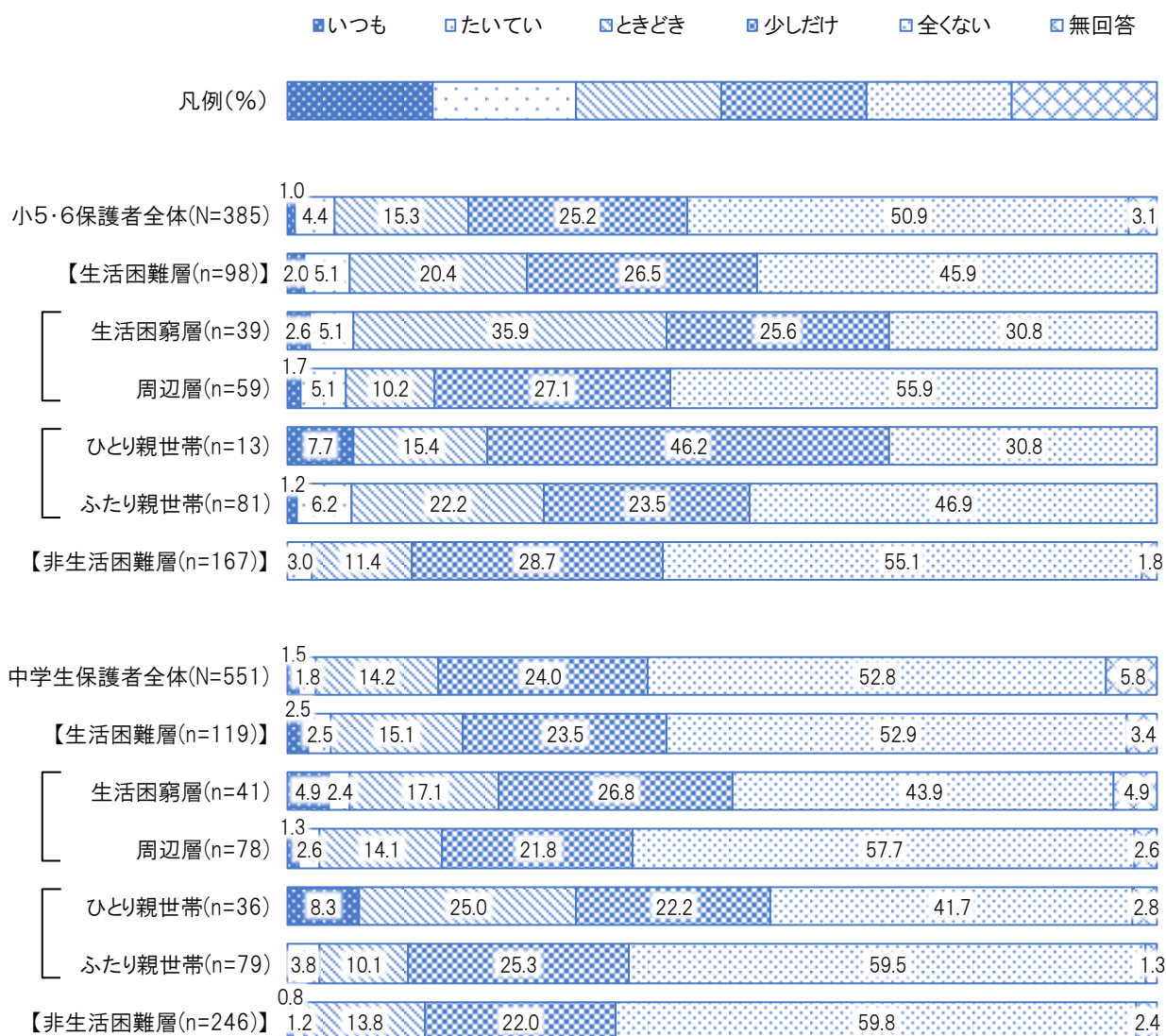
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ときどき」、ふたり親世帯で「少しだけ」の割合が高くなっている。また、中学生保護者のひとり親世帯で「少しだけ」の割合が高く、ふたり親世帯で「全くない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



C そわそわ落ち着かなく感じましたか

そわそわ落ち着かなく感じるについて「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で43.6%、周辺層で17.0%、中学生保護者では、生活困窮層で24.4%、周辺層で18.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

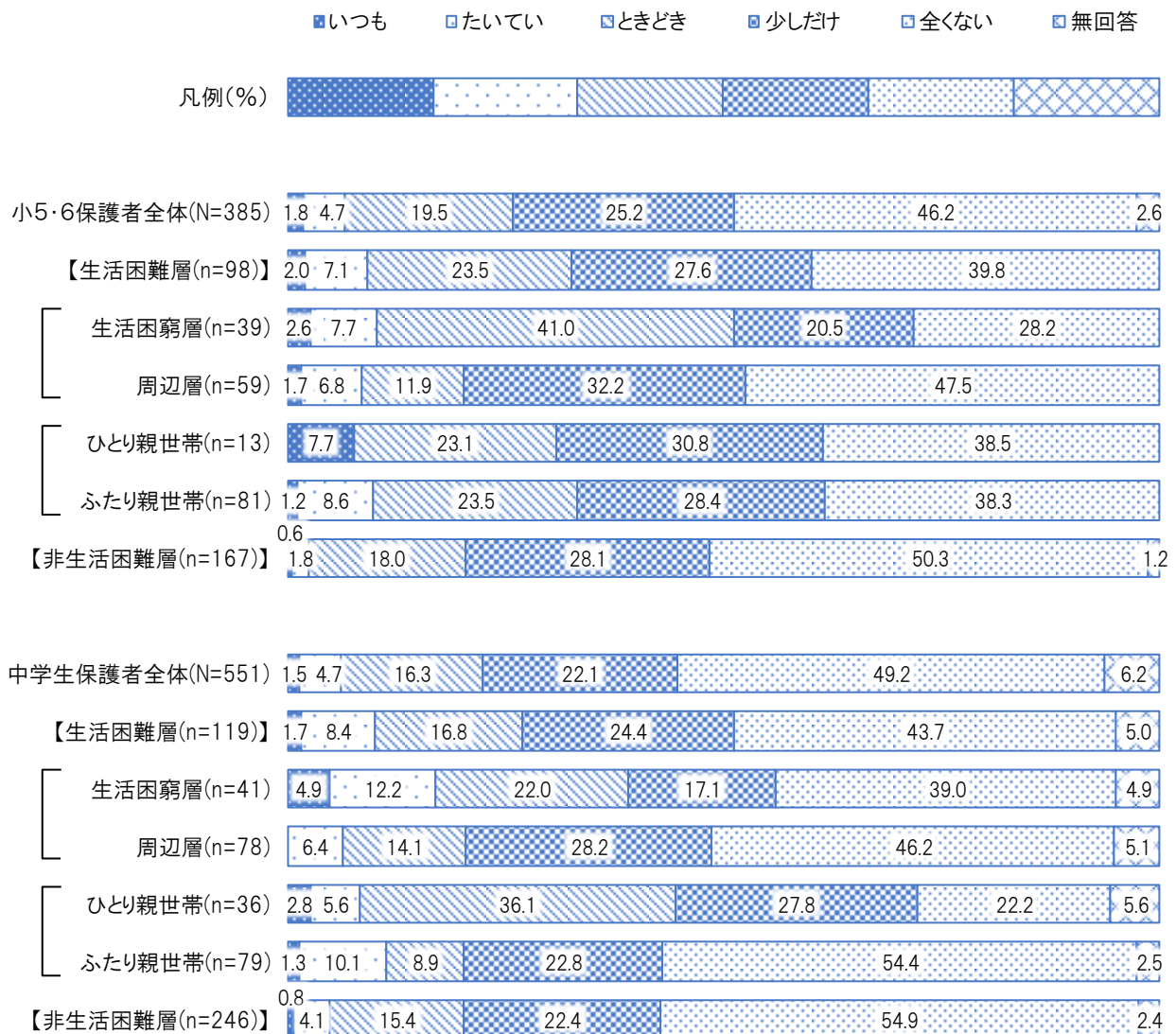
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「少しだけ」の割合がふたり親世帯に比べて高く、中学生保護者のひとり親世帯では「ときどき」の割合が高くなっている。



D 気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じましたか

気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じるについて「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で50.3%、周辺層で20.4%、中学生保護者では、生活困窮層で39.1%、周辺層で20.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

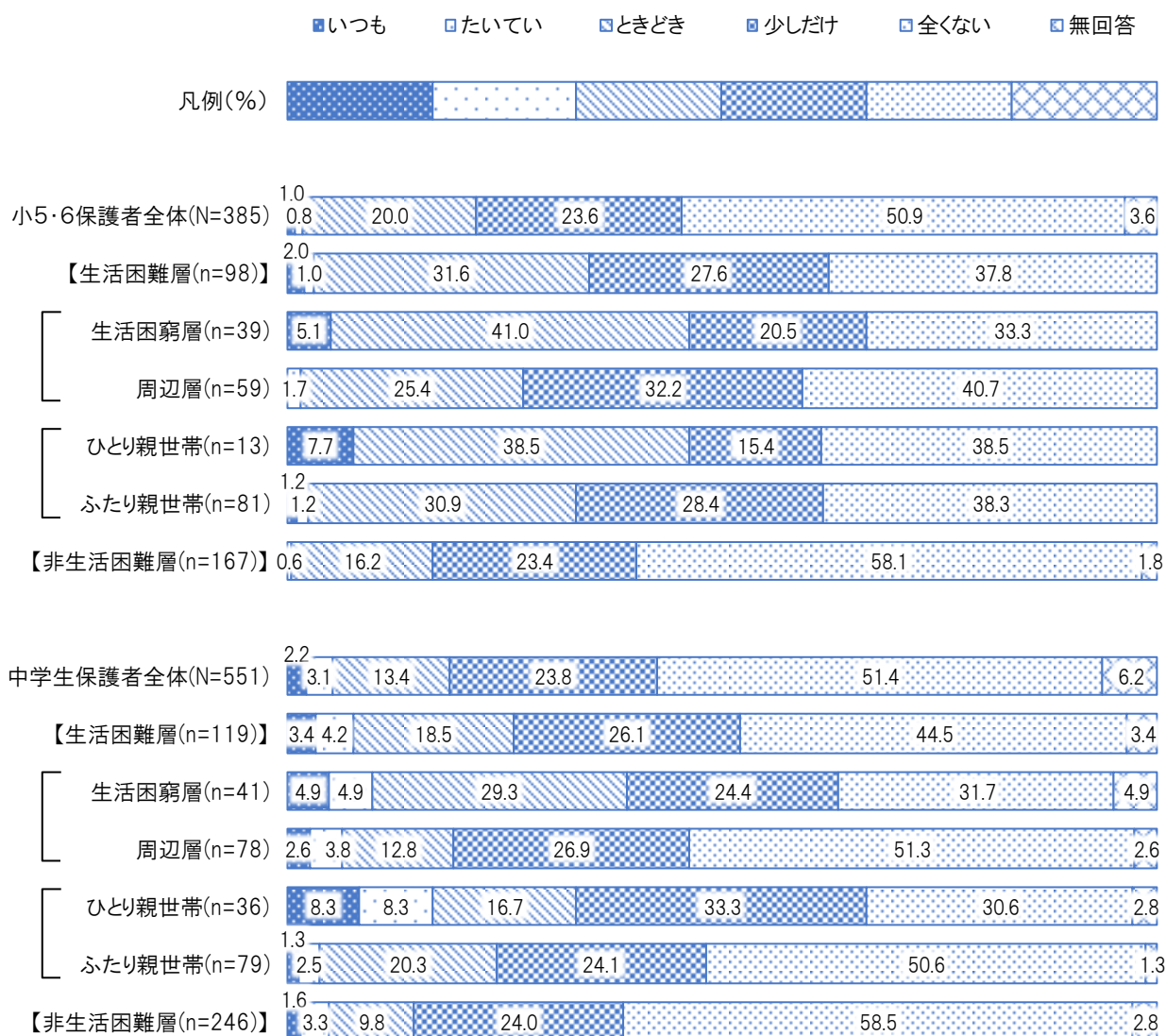
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「ときどき」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



E 何をするのも骨折りだと感じましたか

何をするのも骨折りだと感じることに「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で46.1%、周辺層で27.1%、中学生保護者では、生活困窮層で39.1%、周辺層で19.2%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

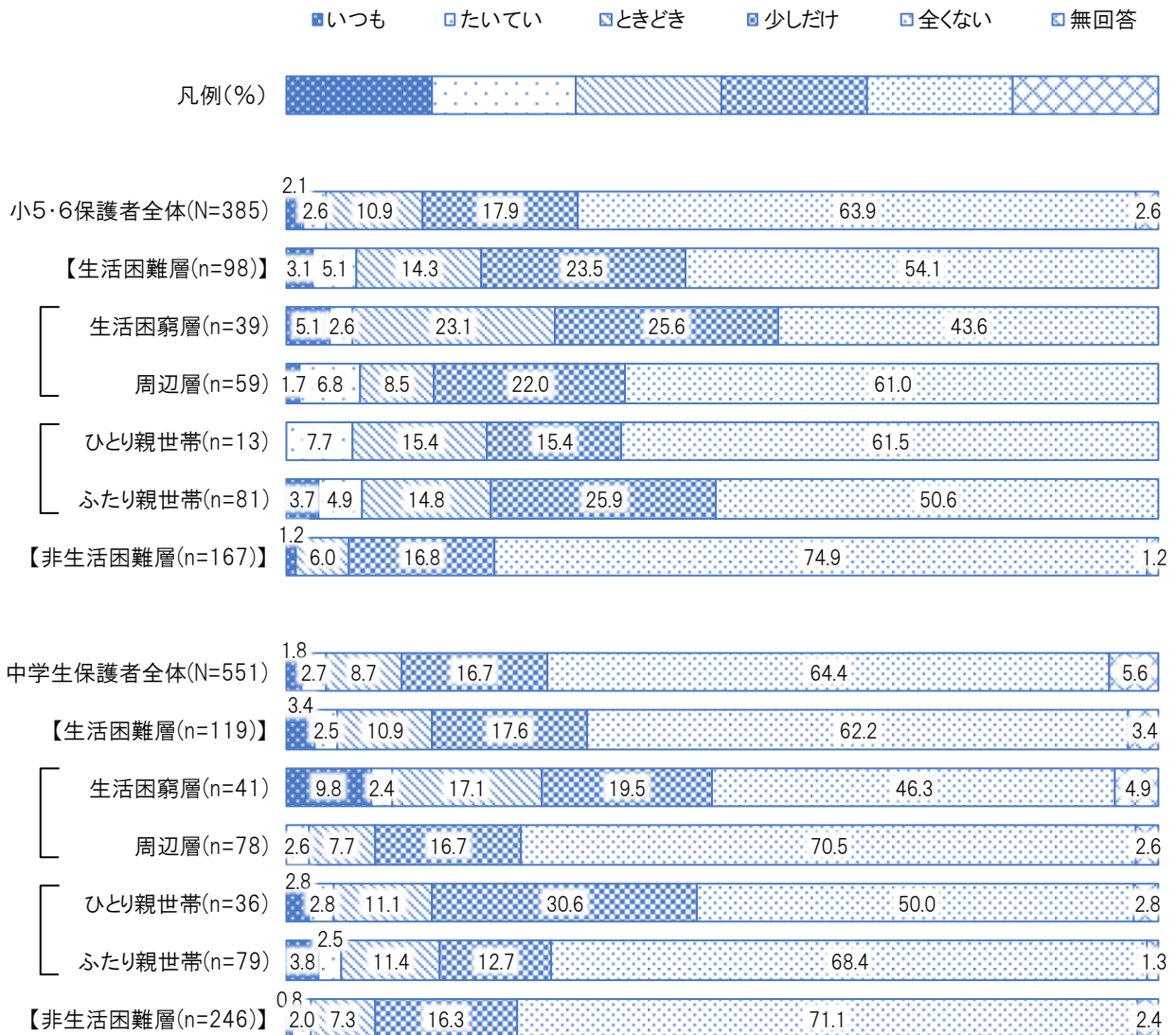
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「ときどき」、ふたり親世帯で「少しだけ」の割合が高くなっている。また、中学生保護者のふたり親世帯で「全くない」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。



F 自分は価値のない人間だと感じましたか

自分は価値のない人間だと感じるということについて「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で30.8%、周辺層で17.0%、中学生保護者では、生活困窮層で29.3%、周辺層で10.3%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「少しだけ」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。一方、中学生保護者のひとり親世帯で「少しだけ」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



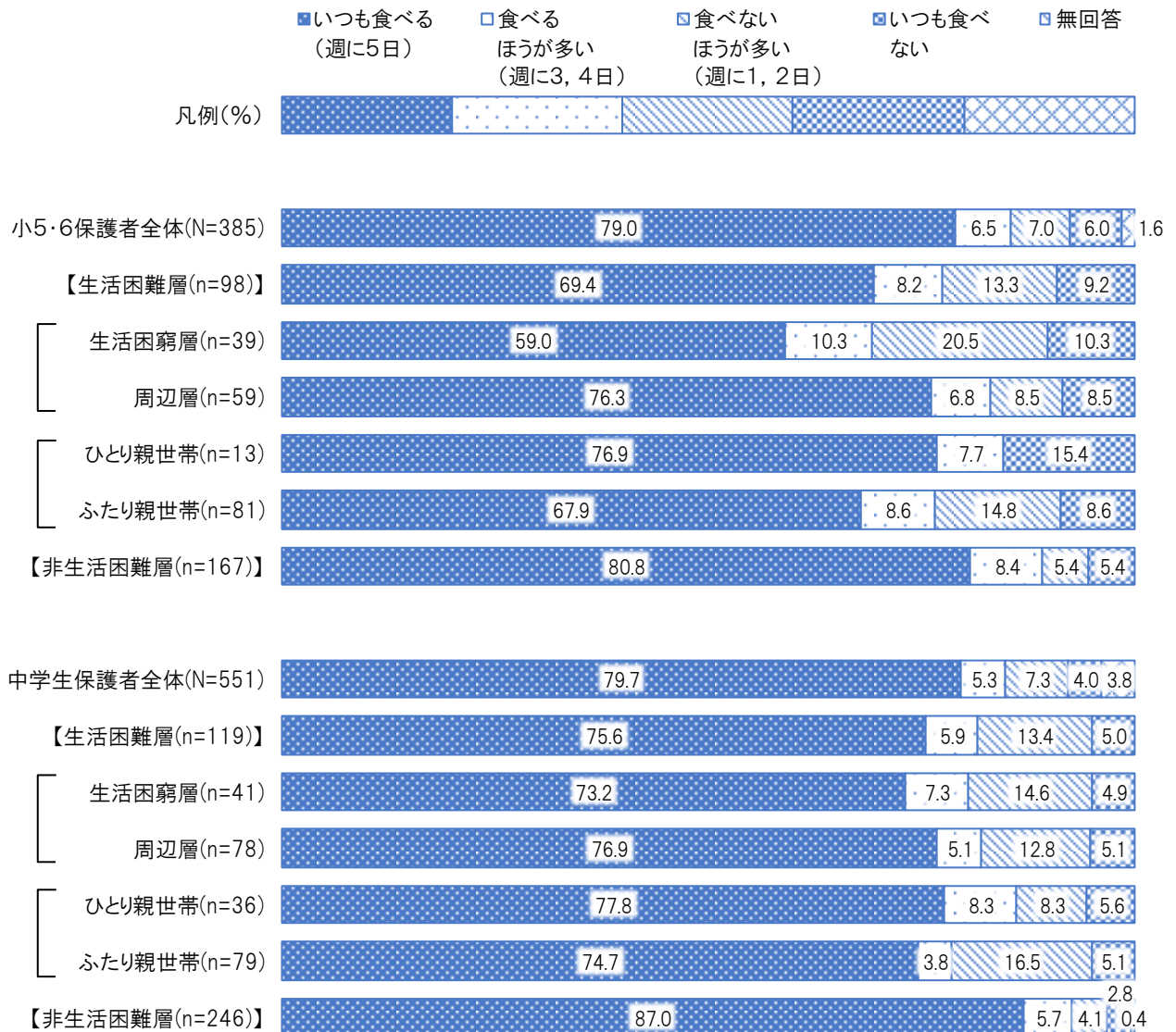
(4) 朝食をとる頻度

保／問 23 あなたは、平日（お子さんが学校に行く日）に毎日、朝ごはんを食べますか。
（あてはまる番号1つに○）

朝食をとる頻度について、小学5・6年保護者全体では「いつも食べる（週に5日）」が79.0%と最も高く、次いで「食べないほうが多い（週に1，2日）」（7.0%）、「食べるほうが多い（週に3，4日）」（6.5%）の順となっている。中学生保護者全体では「いつも食べる（週に5日）」が79.7%と最も高く、次いで「食べないほうが多い（週に1，2日）」（7.3%）、「食べるほうが多い（週に3，4日）」（5.3%）の順となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年保護者の生活困窮層で「食べないほうが多い（週に1，2日）」の割合が20.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者ひとり親世帯で「いつも食べない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

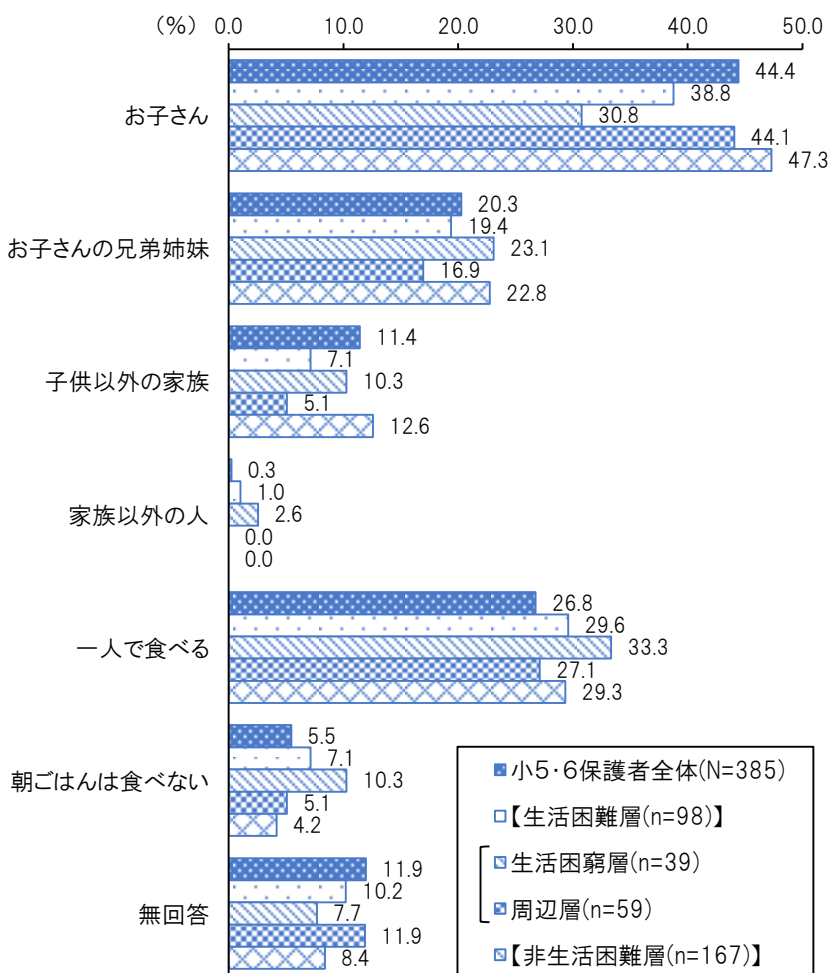


(5) 朝食を一緒にとる人

保／問 24 あなたは、平日（お子さんが学校に行く日）に朝ごはんをだれと食べますか。
 （あてはまる番号すべてに○）

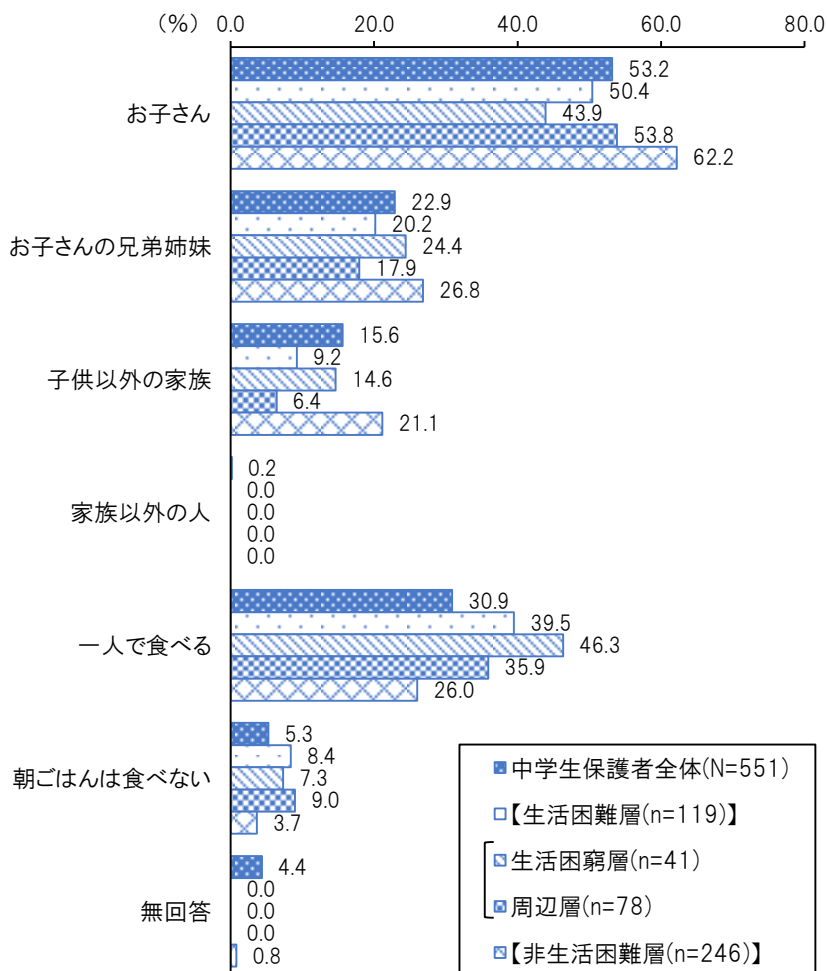
朝食を一緒にとる人について、小学5・6年保護者全体では「お子さん」が44.4%と最も高く、次いで「一人で食べる」(26.8%)、「お子さんの兄弟姉妹」(20.3%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さん」などの割合が低く、「一人で食べる」「朝ごはんは食べない」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。



中学生保護者全体では、「お子さん」が53.2%と最も高く、次いで「一人で食べる」(30.9%)、「お子さんの兄弟姉妹」(22.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さん」などの割合が低く、「一人で食べる」の割合が他の層に比べて高くなっている。

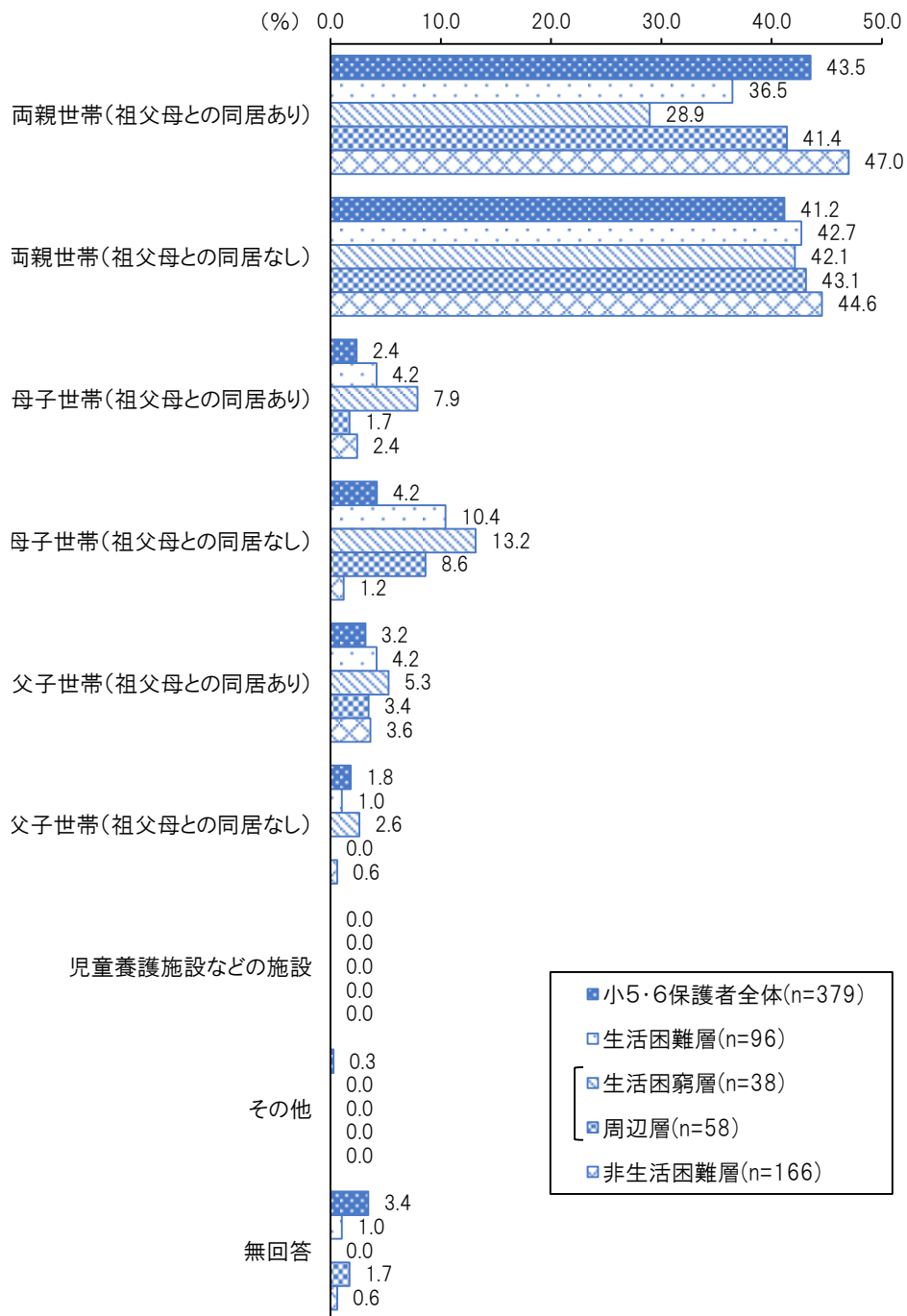


(6) 15歳の頃の家族構成

保／問 38 あなたが15歳の頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。
(あてはまる番号1つに○)

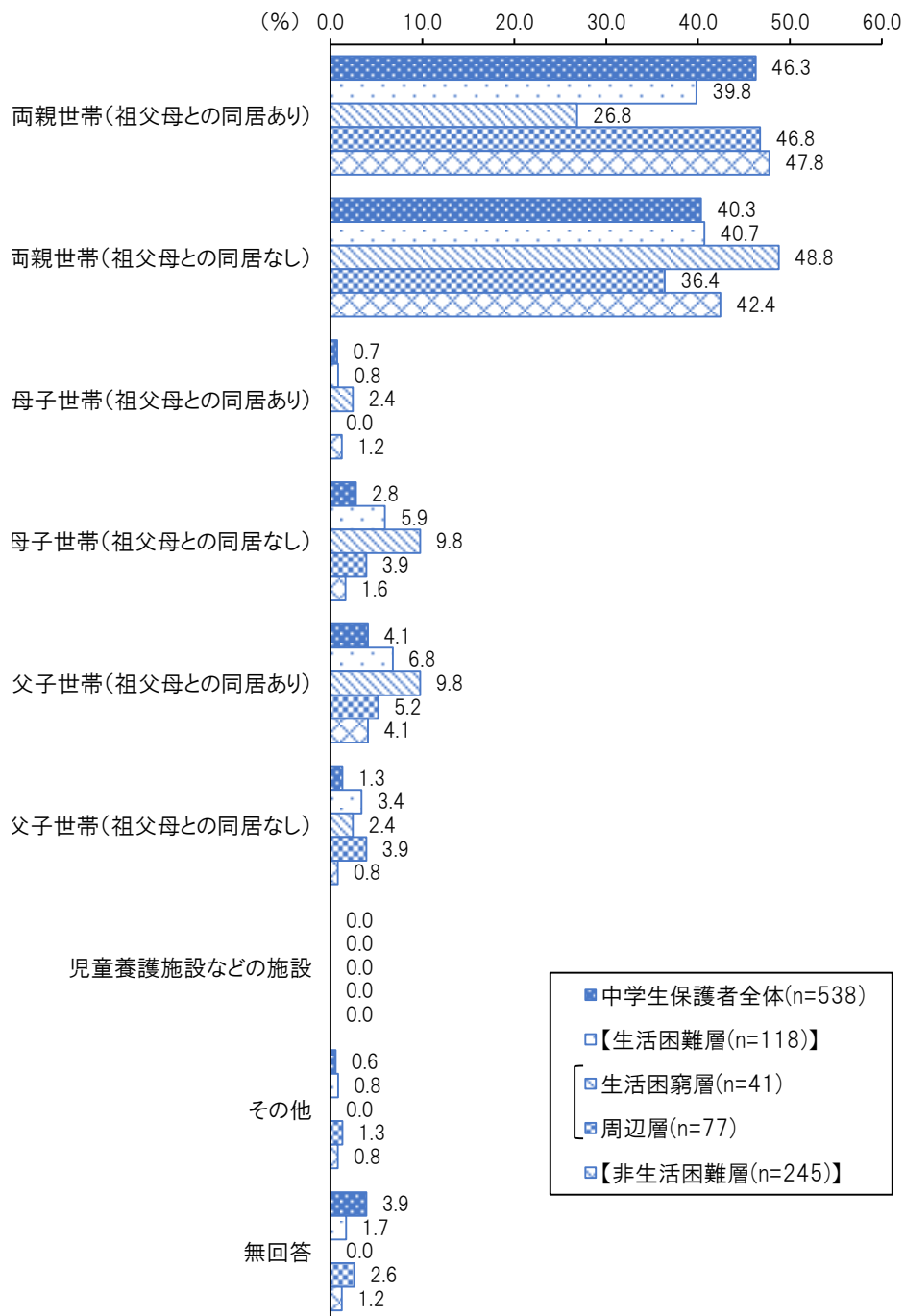
15歳の頃の家族構成について、小学5・6年保護者全体では「両親世帯（祖父母との同居あり）」が43.5%と最も高く、次いで「両親世帯（祖父母との同居なし）」（41.2%）が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「両親世帯（祖父母との同居あり）」の割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生保護者全体では、「両親世帯（祖父母との同居あり）」が46.3%と最も高く、次いで「両親世帯（祖父母との同居なし）」（40.3%）が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「両親世帯（祖父母との同居あり）」などの割合が低く、「両親世帯（祖父母との同居なし）」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



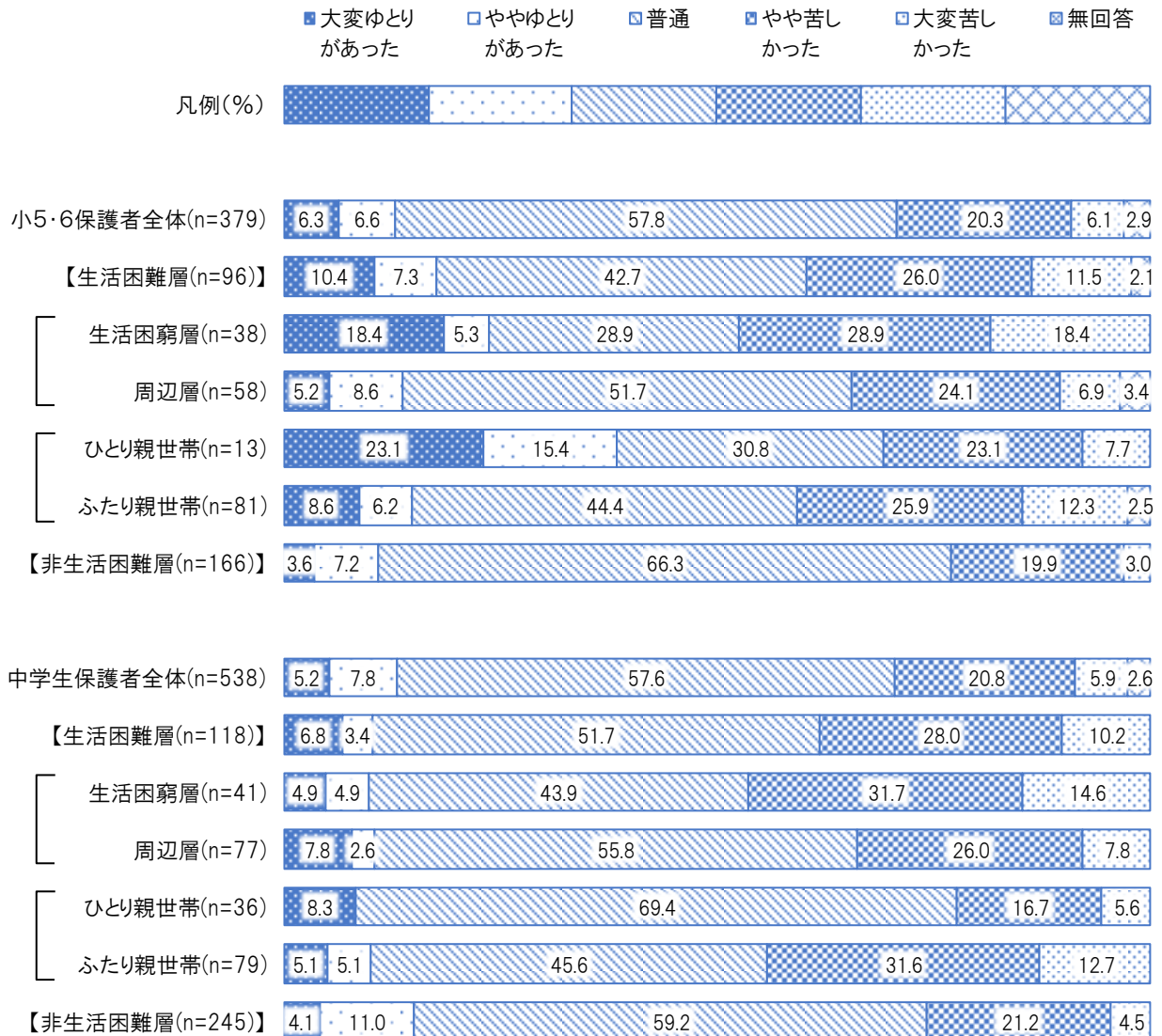
(7) 15歳の頃の(主観的)暮らし向き

保/問 39 あなたが15歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

15歳の頃の(主観的)暮らし向きについては、小学5・6年保護者全体では「大変ゆとりがあった」「ややゆとりがあった」の合計が12.9%となっており、中学生保護者全体では13.0%となっている。一方、「やや苦しかった」「大変苦しかった」の合計は、小学5・6年保護者全体では26.4%、中学生保護者全体では26.7%となっている。

生活困難度別にみた『苦しかった(合計)』の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で47.3%、中学生保護者で46.3%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で『ゆとりがあった(合計)』の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。また、中学生保護者のふたり親世帯で『やや苦しかった』の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。

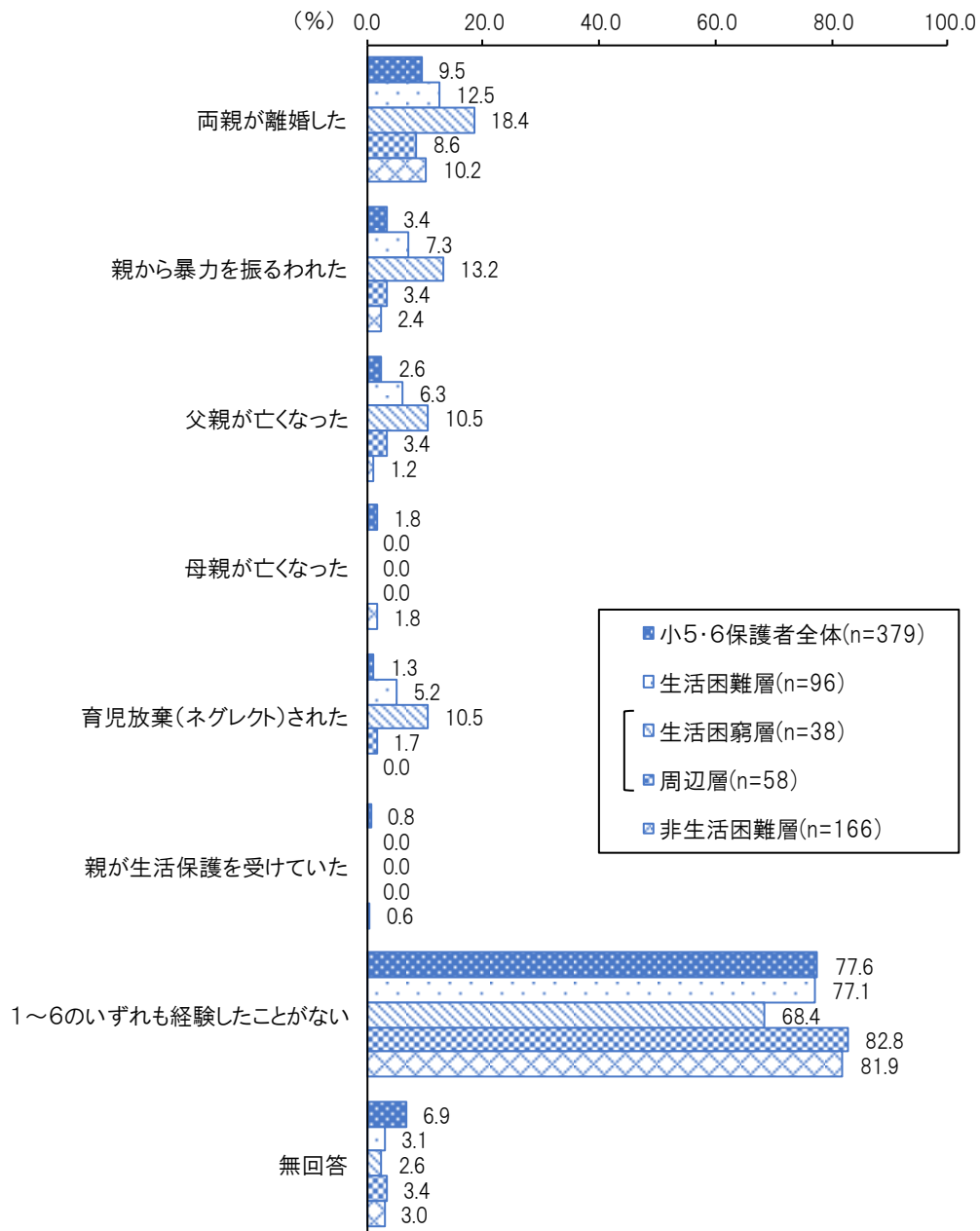


(8) 成人するまでの体験

保／問 40 あなたは、成人する前に次のような体験をしたことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

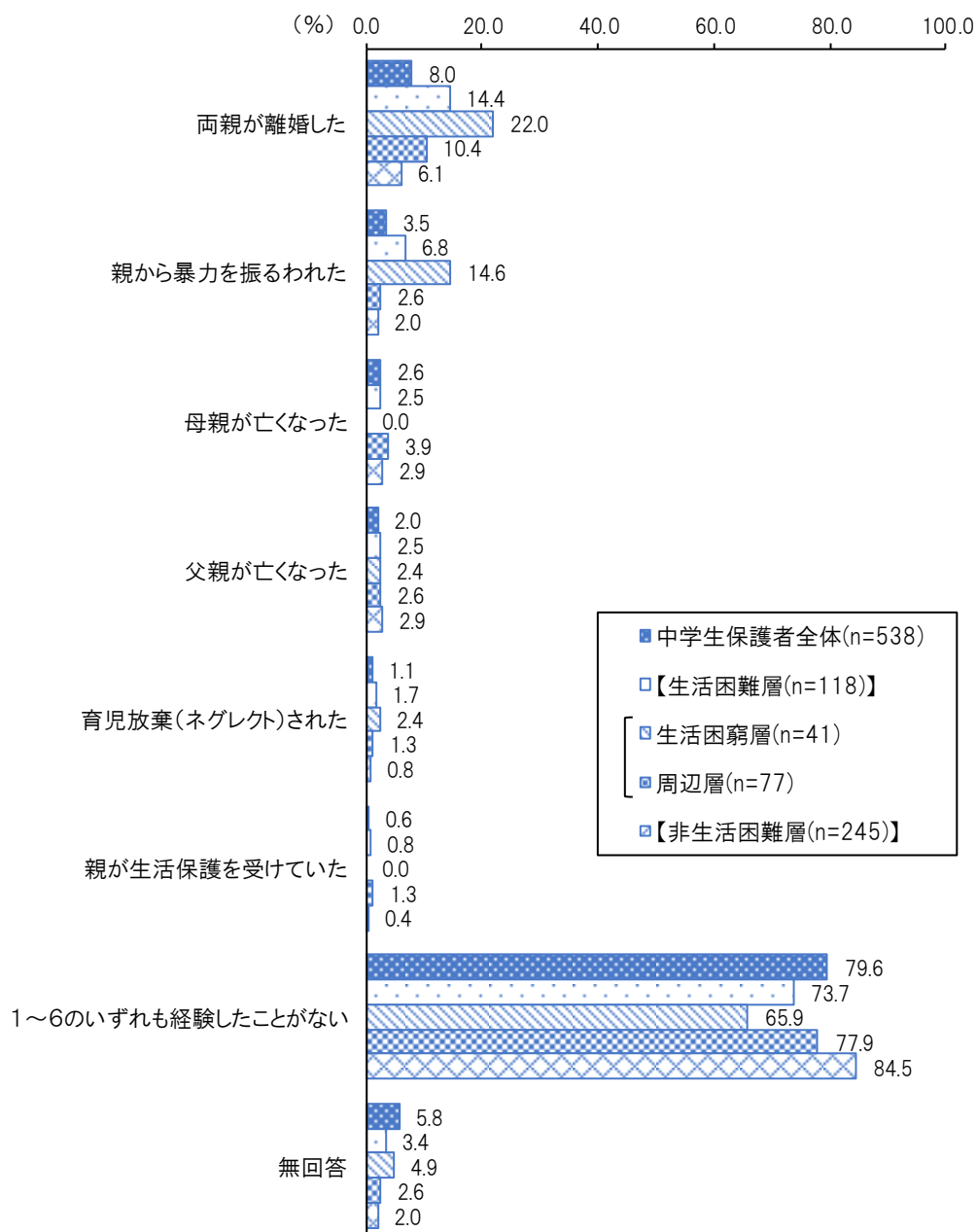
成人するまでの体験について、小学5・6年保護者全体では「両親が離婚した」が9.5%、「親から暴力を振るわれた」が3.4%、「父親が亡くなった」が2.6%となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」「父親が亡くなった」「育児放棄(ネグレクト)された」の割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「両親が離婚した」が8.0%、「親から暴力を振るわれた」が3.5%、「母親が亡くなった」が2.6%、「父親が亡くなった」が2.0%となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」の割合が他の層に比べて高くなっている。

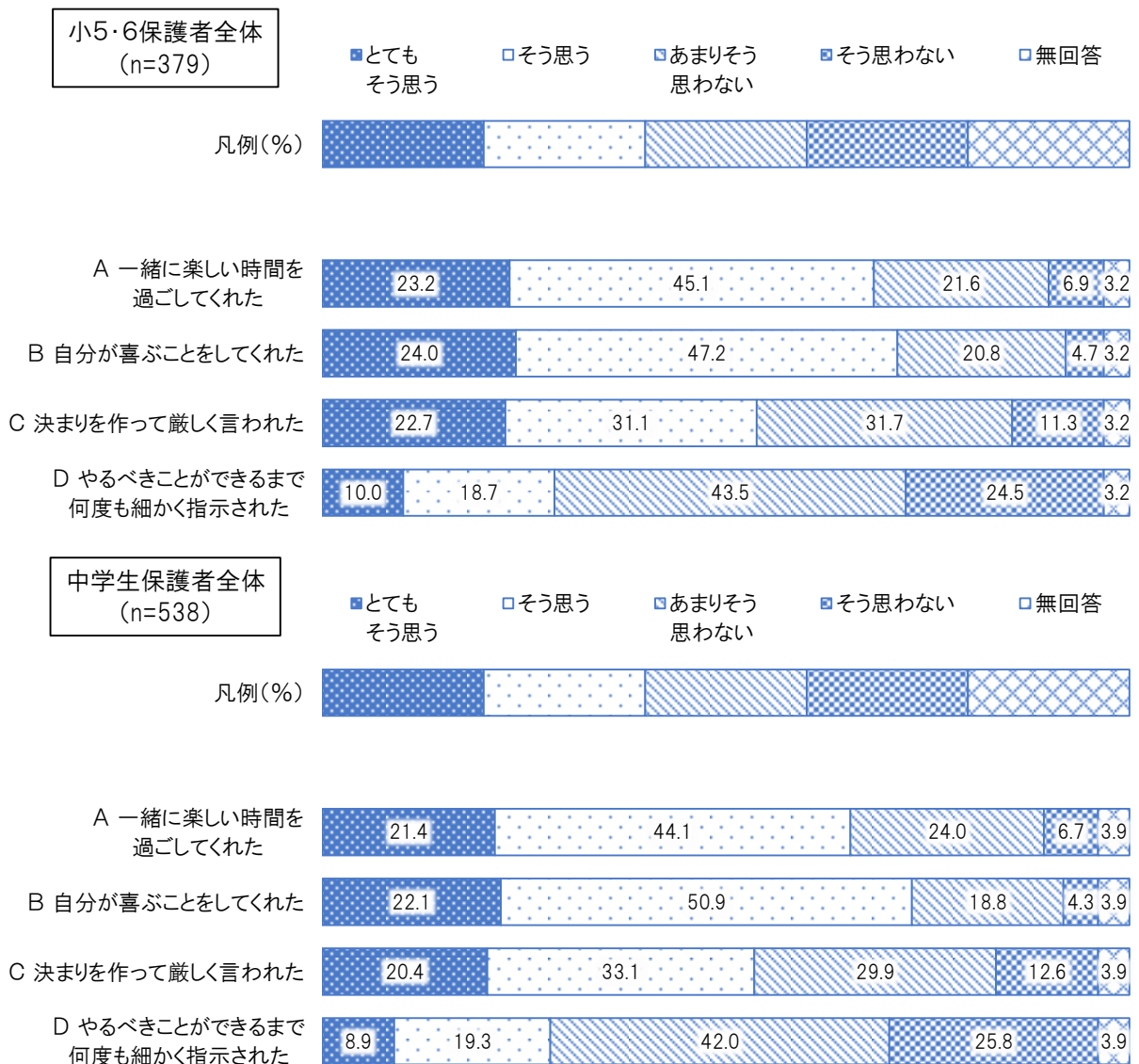


(9) 子供の頃の親の接し方

保／問 42 あなたの親は子供のころのあなたに対してどのように接していましたか。
 もっとも近いと思うものに○をつけてください。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

子供の頃の親の接し方について、小学5・6年保護者全体では、「とてもそう思う」の割合が高い順に「B 自分が喜ぶことをしてくれた」(24.0%)、「A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれた」(23.2%)、「C 決まりを作って厳しく言われた」(22.7%)となっている。

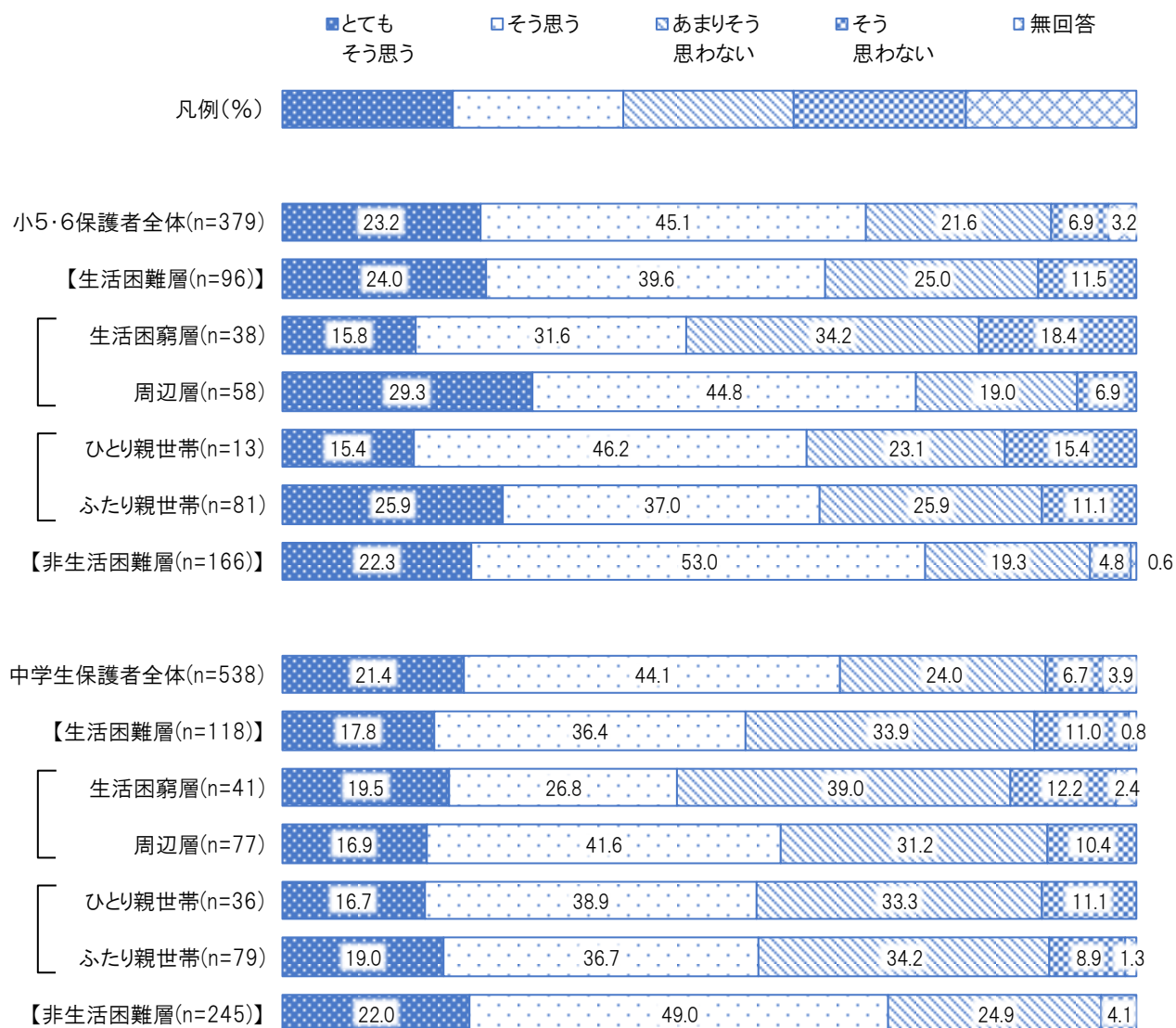
中学生保護者全体では、「とてもそう思う」の割合が高い順に「B 自分が喜ぶことをしてくれた」(22.1%)、「A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれた」(21.4%)、「C 決まりを作って厳しく言われた」(20.4%)となっている。



A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれた

一緒に楽しい時間を過ごしてくれたことについて「とてもそう思う」「そう思う」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で47.4%、周辺層で74.1%、中学生保護者では、生活困窮層で46.3%、周辺層で58.5%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

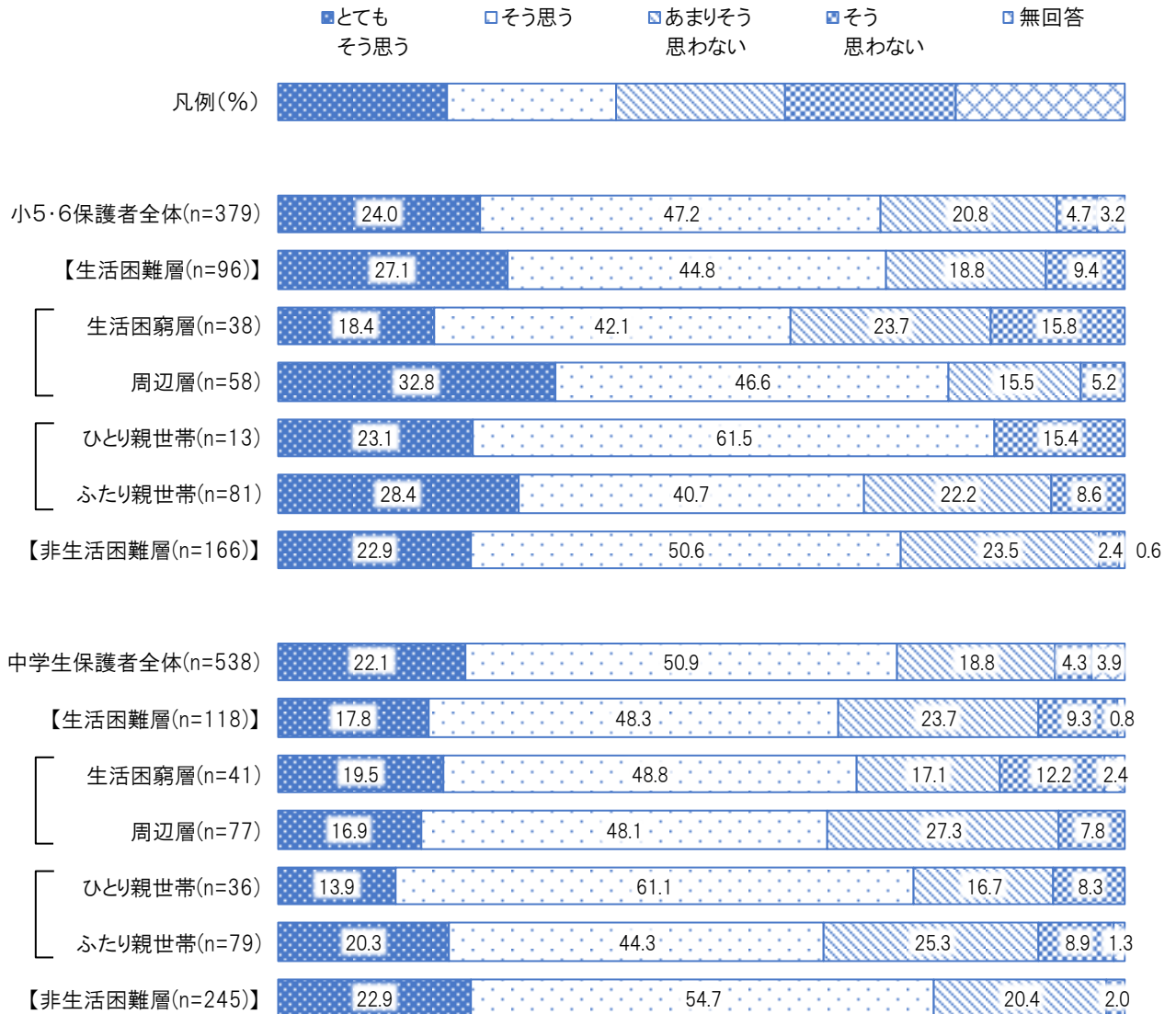
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「とてもそう思う」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



B 自分が喜ぶことをしてくれた

自分が喜ぶことをしてくれたことについて「とてもそう思う」「そう思う」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で60.5%、周辺層で79.4%となっており、生活困窮層で低くなっている。

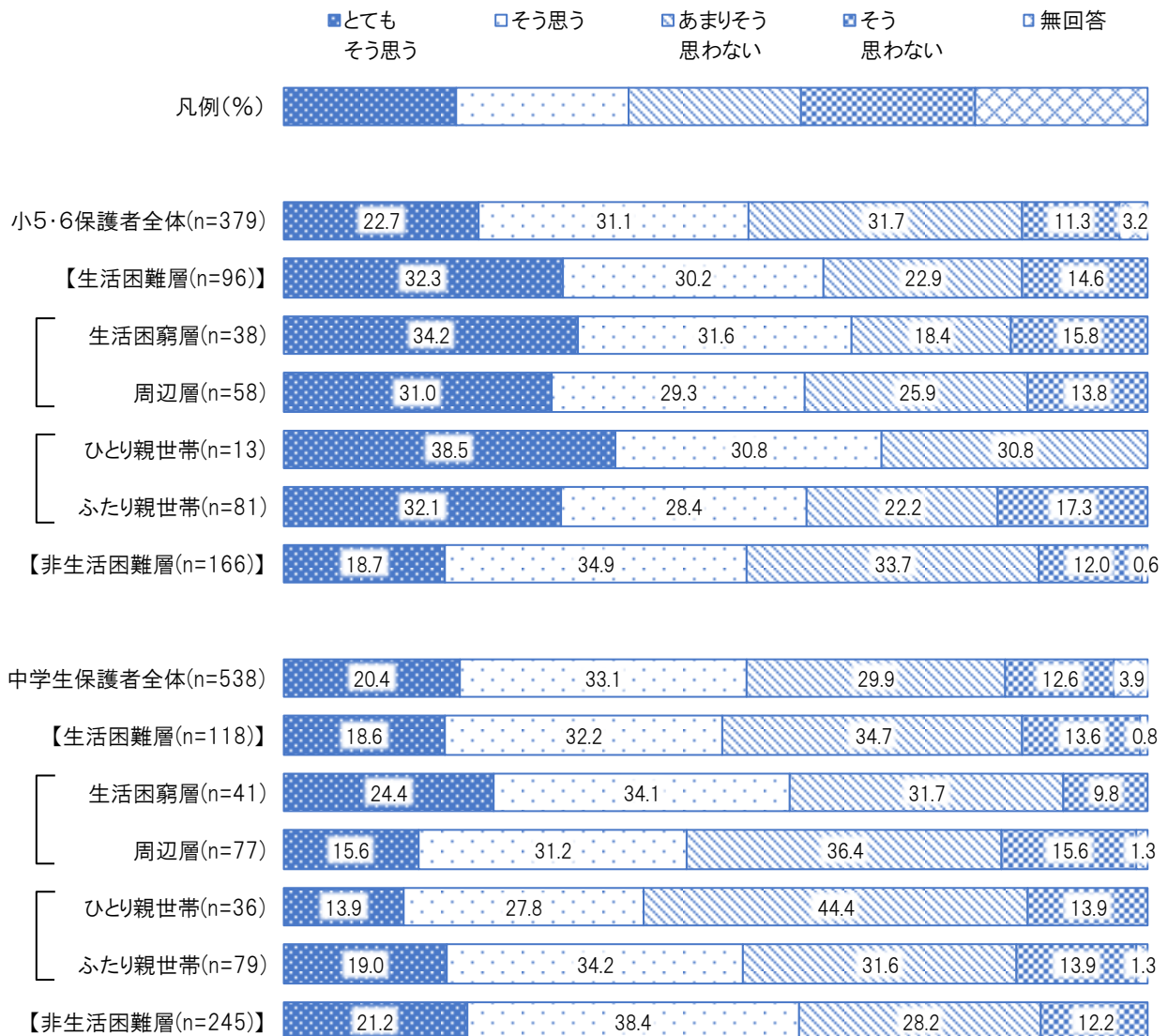
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにふたり親世帯で「あまりそう思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



C 決まりを作って厳しく言われた

決まりを作って厳しく言われたことについて「とてもそう思う」「そう思う」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で65.8%、周辺層で60.3%となっている。中学生保護者では、生活困窮層で58.5%、周辺層で46.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

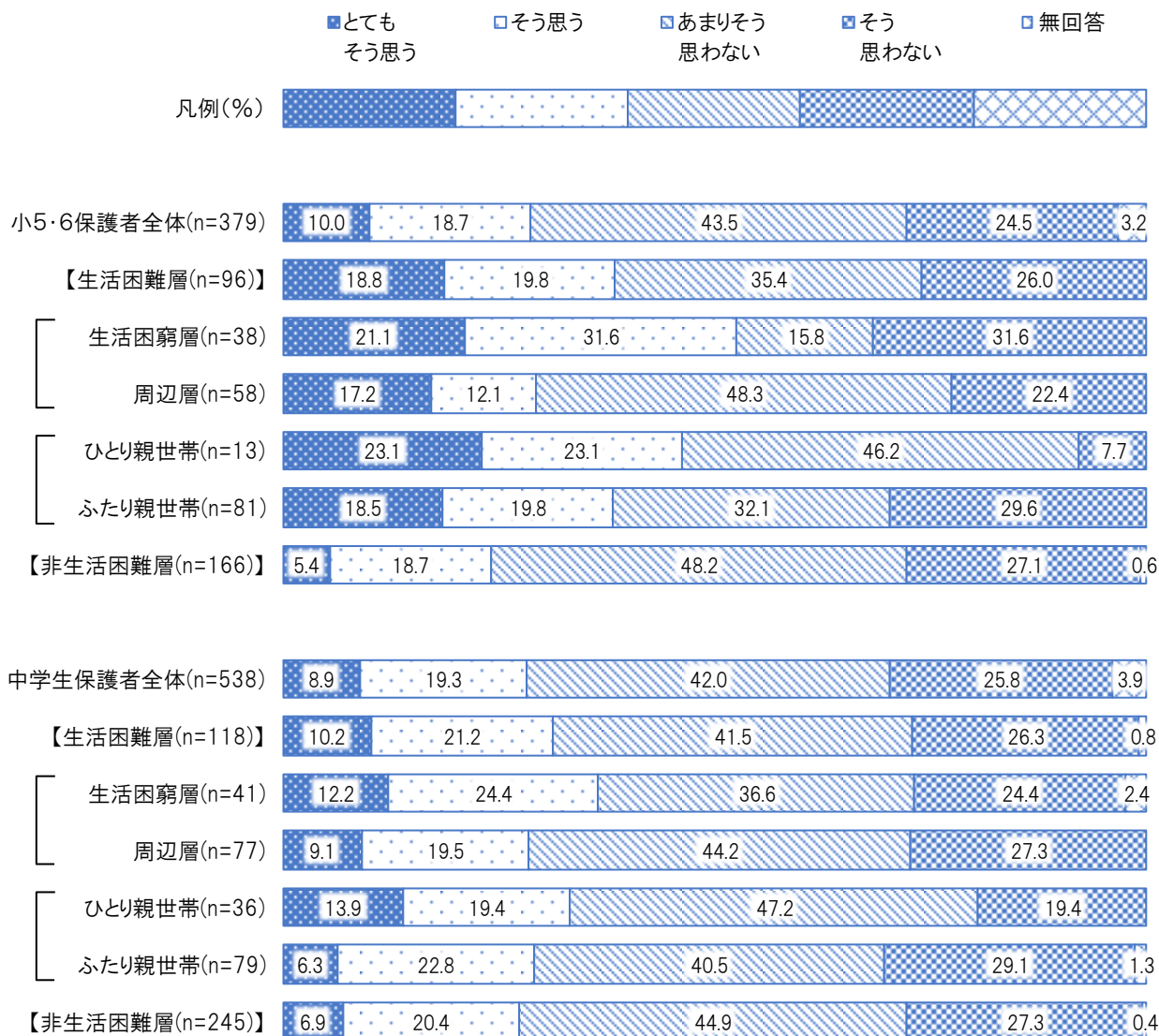
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「そう思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。一方、中学生保護者のひとり親世帯で「あまりそう思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



D やるべきことができるまで何度も細かく指示された

やるべきことができるまで何度も細かく指示されたことについて「とてもそう思う」「そう思う」の合計は、小学5・6年保護者の生活困窮層で 52.7%，周辺層で 26.3%，中学生保護者では、生活困窮層で 36.6%，周辺層で 28.6%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者，中学生保護者ともにふたり親世帯で「そう思わない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。

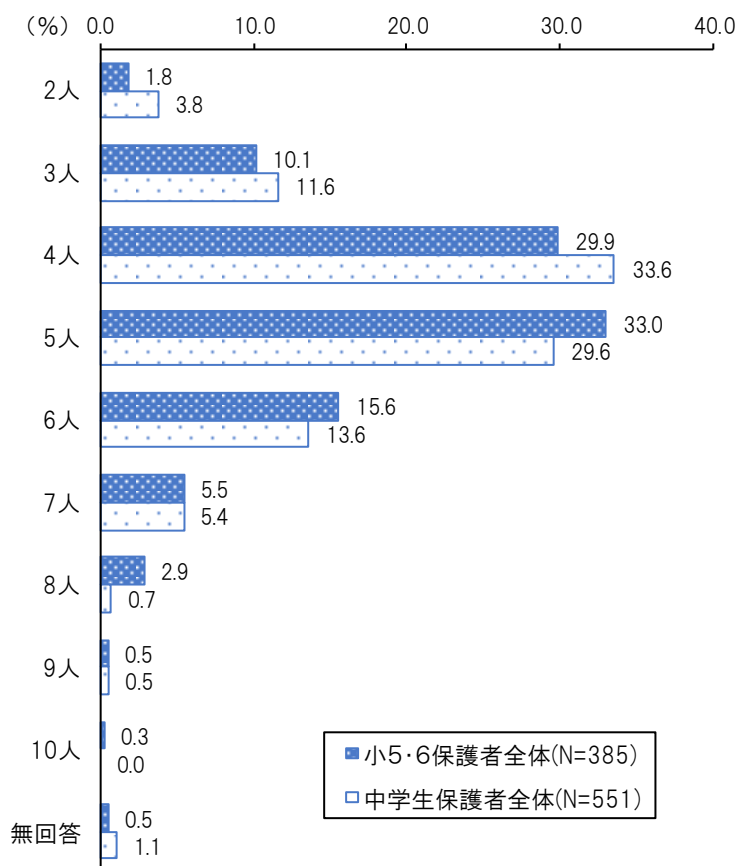


【2】 家族

(1) 人数

保／問6 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください。あなたとお子さんも含みます。（枠内に数字で回答してください）
※単身赴任しているご家族も含めてください。

人数については、小学5・6年生保護者、中学生保護者ともに「4人」「5人」が3割前後を占めており、以下ほぼ並んで「3人」「6人」となっている。



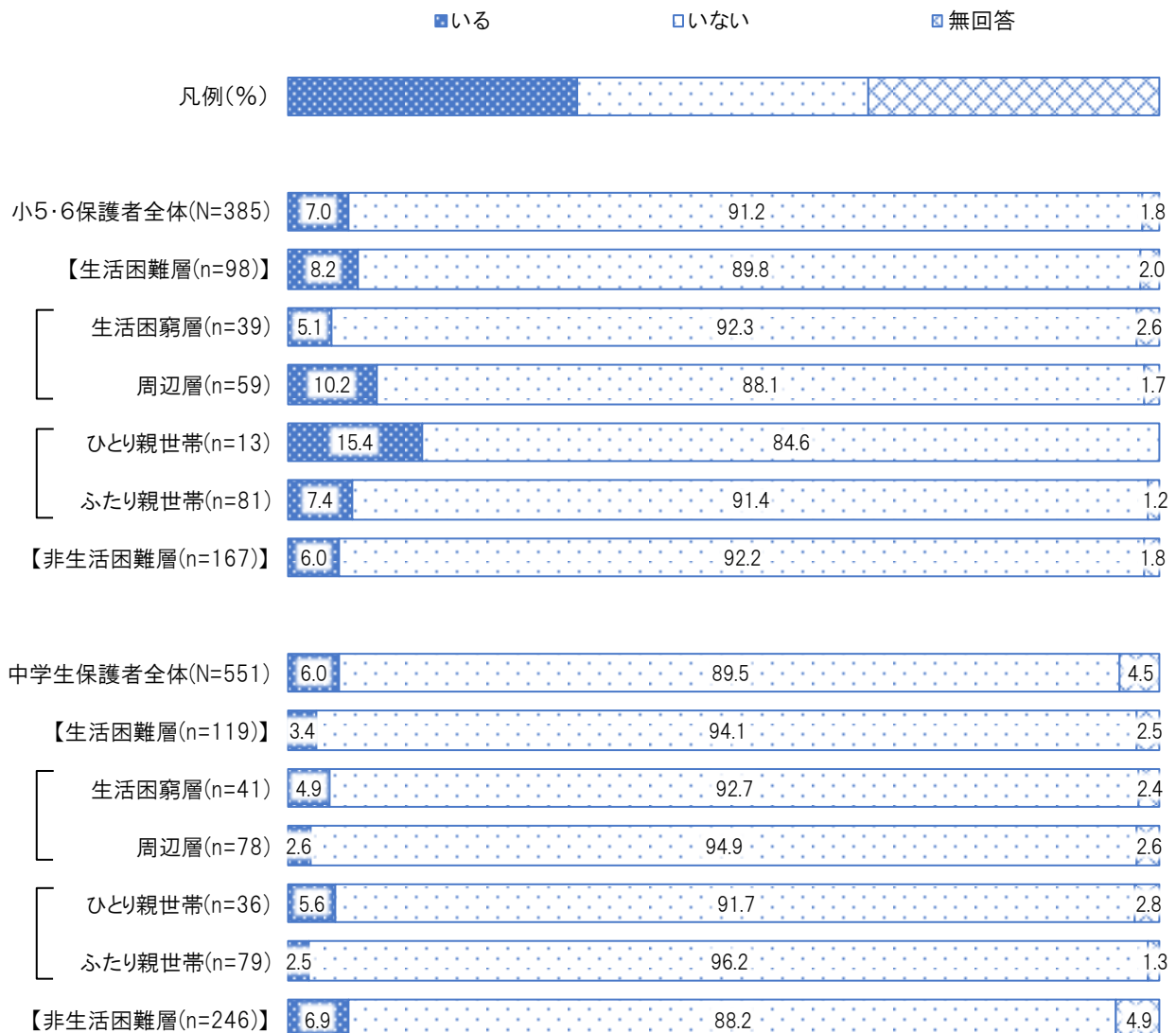
(2) 高齢・障害の同居家族の有無

保／問8 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。(あてはまる番号1つに○)

高齢・障害の同居家族の有無について、小学5・6年保護者全体では「いる」が7.0%、中学生保護者全体では6.0%となっている。一方、「いない」は小学5・6年保護者全体では91.2%、中学生保護者全体では89.5%となっている。

生活困難度別にみた「いる」の割合は、小学5・6年保護者の周辺層で10.2%となっており、生活困窮層に比べてやや高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「いる」の割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。



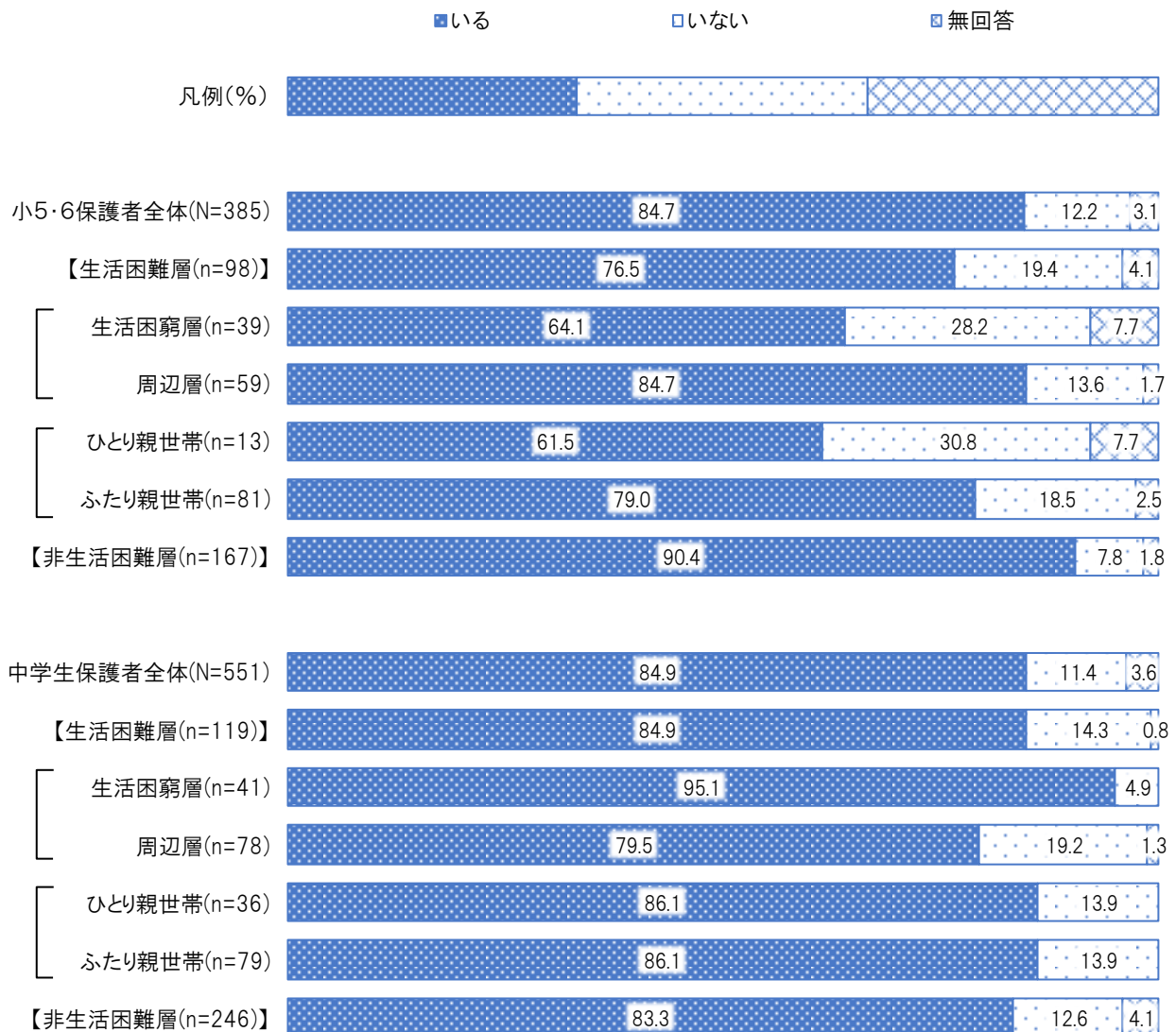
(3) 頼れる親族・友人の有無

保／問9 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。(あてはまる番号1つに○)

頼れる親族・友人の有無について、小学5・6年保護者全体では「いる」が84.7%、中学生保護者全体では84.9%となっている。一方、「いない」は小学5・6年保護者全体では12.2%、中学生保護者全体では11.4%となっている。

生活困難度別にみた「いない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%、周辺層で13.6%となっており、生活困窮層で高くなっている。一方、中学生保護者では、生活困窮層で4.9%、周辺層で19.2%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「いない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

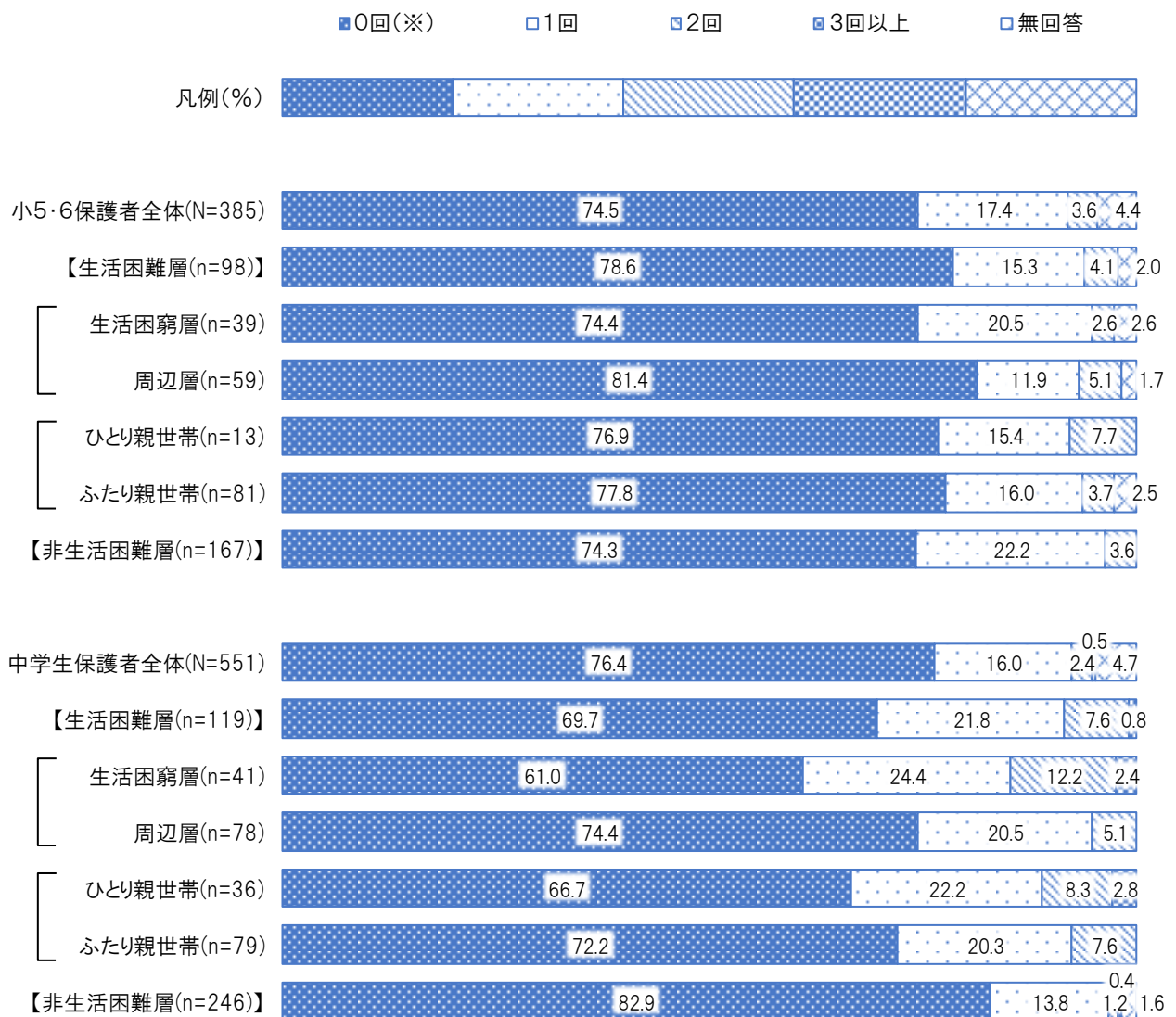


(4) 転居経験

保／問 34 あなたの家庭では、過去5年間に、何回転居しましたか。
(あてはまる番号1つに○)

転居経験について、小学5・6年保護者全体では「0回（過去5年間で転居はしていない）」が74.5%、「1回」が17.4%となっている。中学生保護者全体では「0回（過去5年間で転居はしていない）」が76.4%、「1回」が16.0%となっている。

生活困難度別では、小学5・6年保護者の生活困窮層で「1回」の割合が20.5%、中学生保護者の生活困窮層で「2回」の割合が12.2%となっており、周辺層に比べて高くなっている。



※0回(過去5年間で転居はしていない)

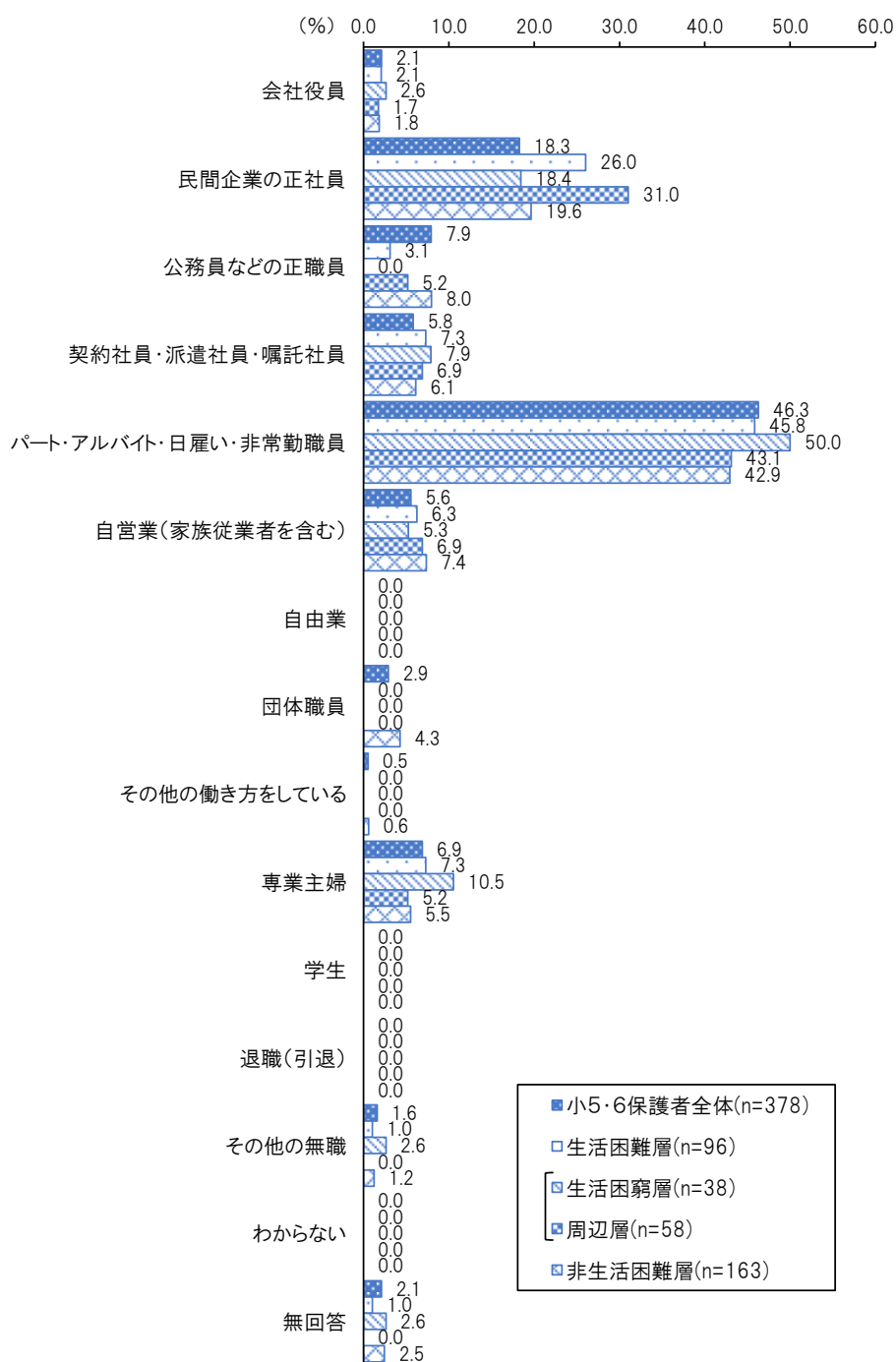
【3】母親のこと

(1) 職業

保／問 10 お子さんのお母さまの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。
(あてはまる番号1つに○)

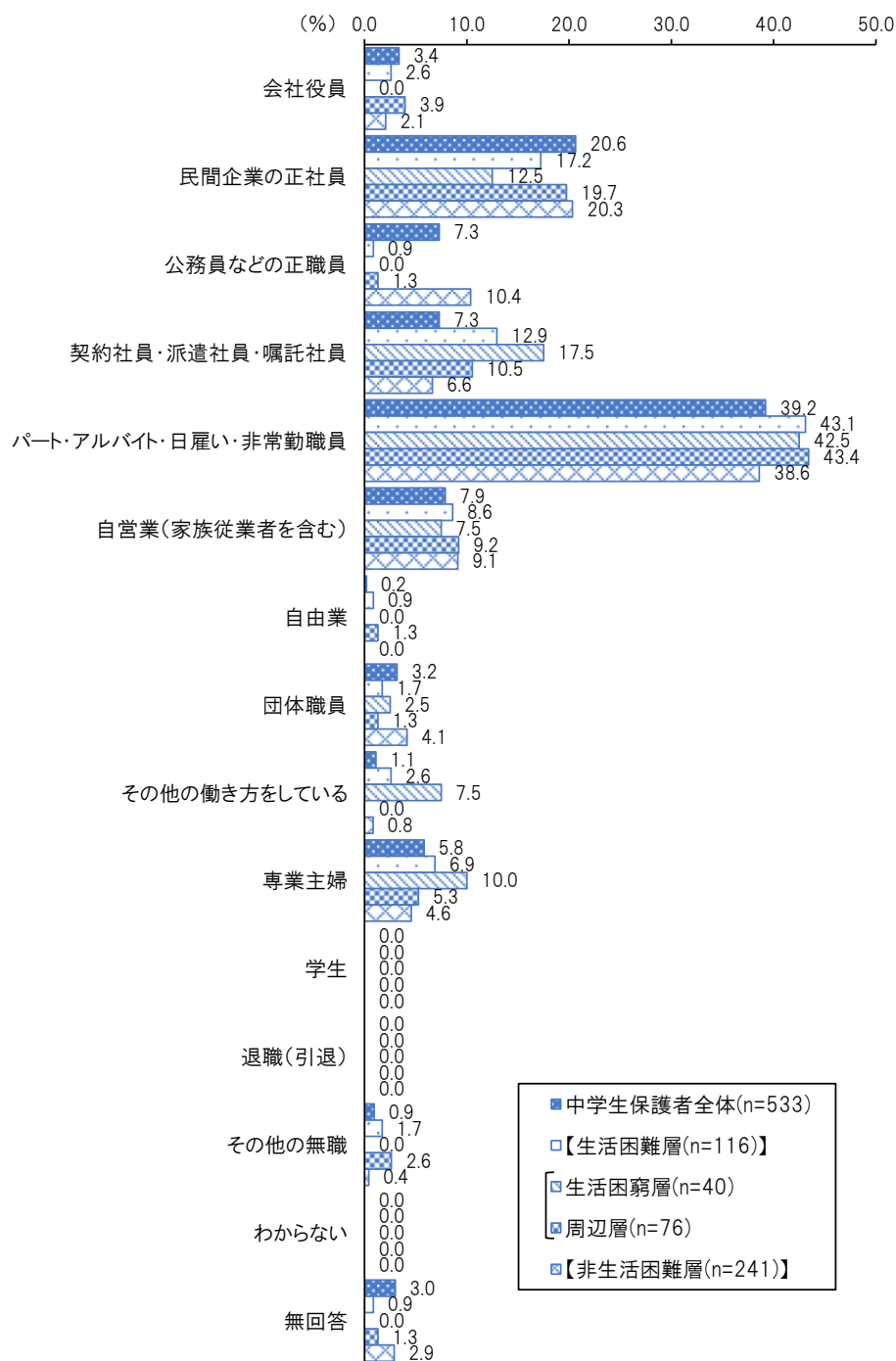
職業について、小学5・6年保護者全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が46.3%と最も高く、次いで「民間企業の正社員」(18.3%)、「公務員などの正職員」(7.9%)、「専業主婦」(6.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」などの割合が他の層に比べてやや高くなっている。



中学生保護者全体では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が 39.2%と最も高く、次いで「民間企業の正社員」(20.6%)、「自営業(家族従業員を含む)」(7.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」の割合が低く、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」「その他の働き方をしている」「専業主婦」の割合がやや高くなっている。



(2) 就労時間

【問 10 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

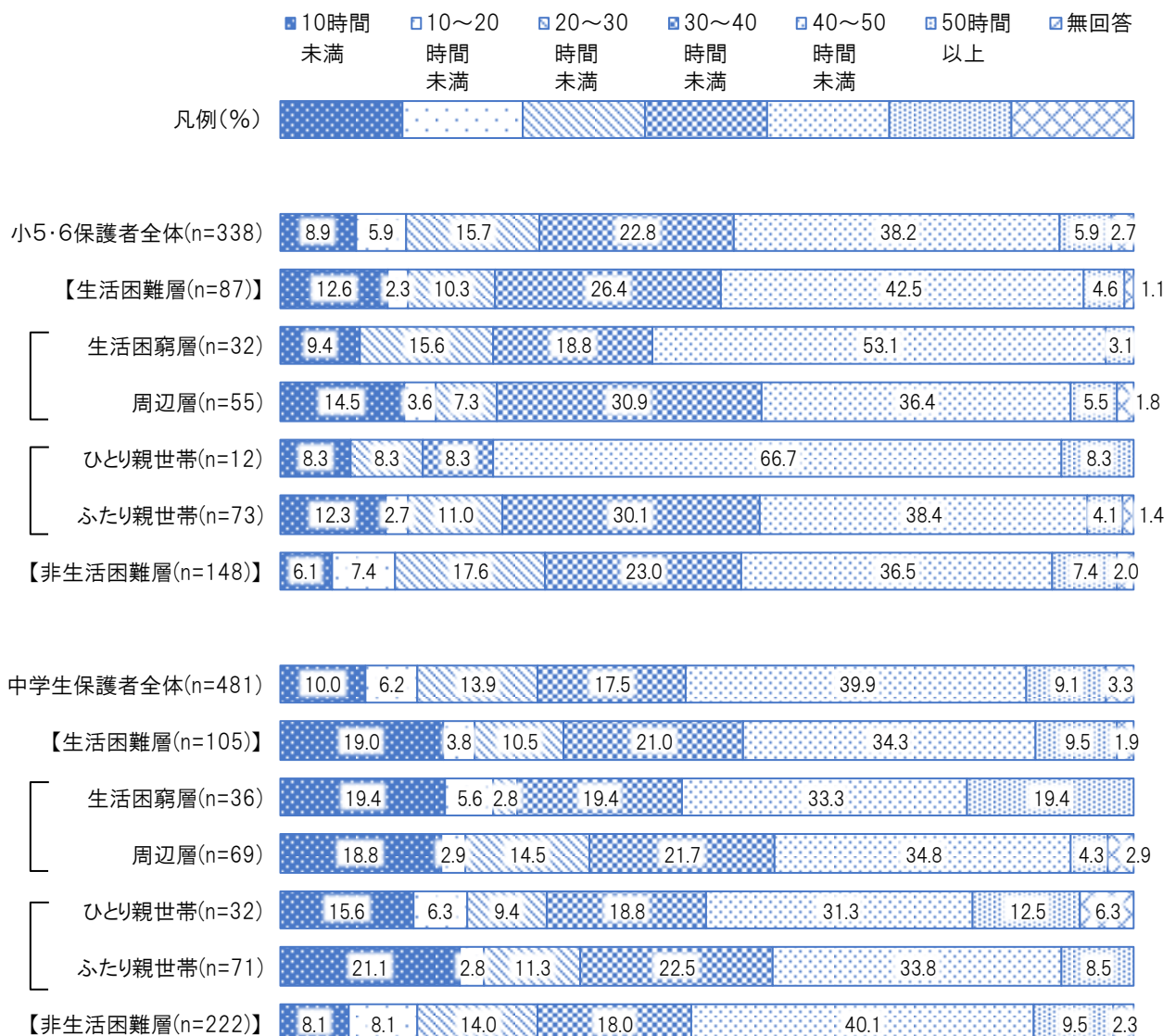
保／問 10-1 お子さんのお母さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事に従事しておられる場合は合算してください。

就労時間について、小学5・6年保護者全体では「40～50 時間未満」が 38.2%と最も高く、次いで「30～40 時間未満」(22.8%)、「20～30 時間未満」(15.7%)の順となっている。中学生保護者全体では「40～50 時間未満」が 39.9%と最も高く、次いで「30～40 時間未満」(17.5%)、「20～30 時間未満」(13.9%)の順となっている。

生活困難度別では、小学5・6年保護者の生活困窮層で「40～50 時間未満」の割合が 53.1%、中学生保護者の生活困窮層で「50 時間以上」の割合が 19.4%となっており、生活困難度が高い層ほど就労時間が長い傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「40～50 時間未満」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。

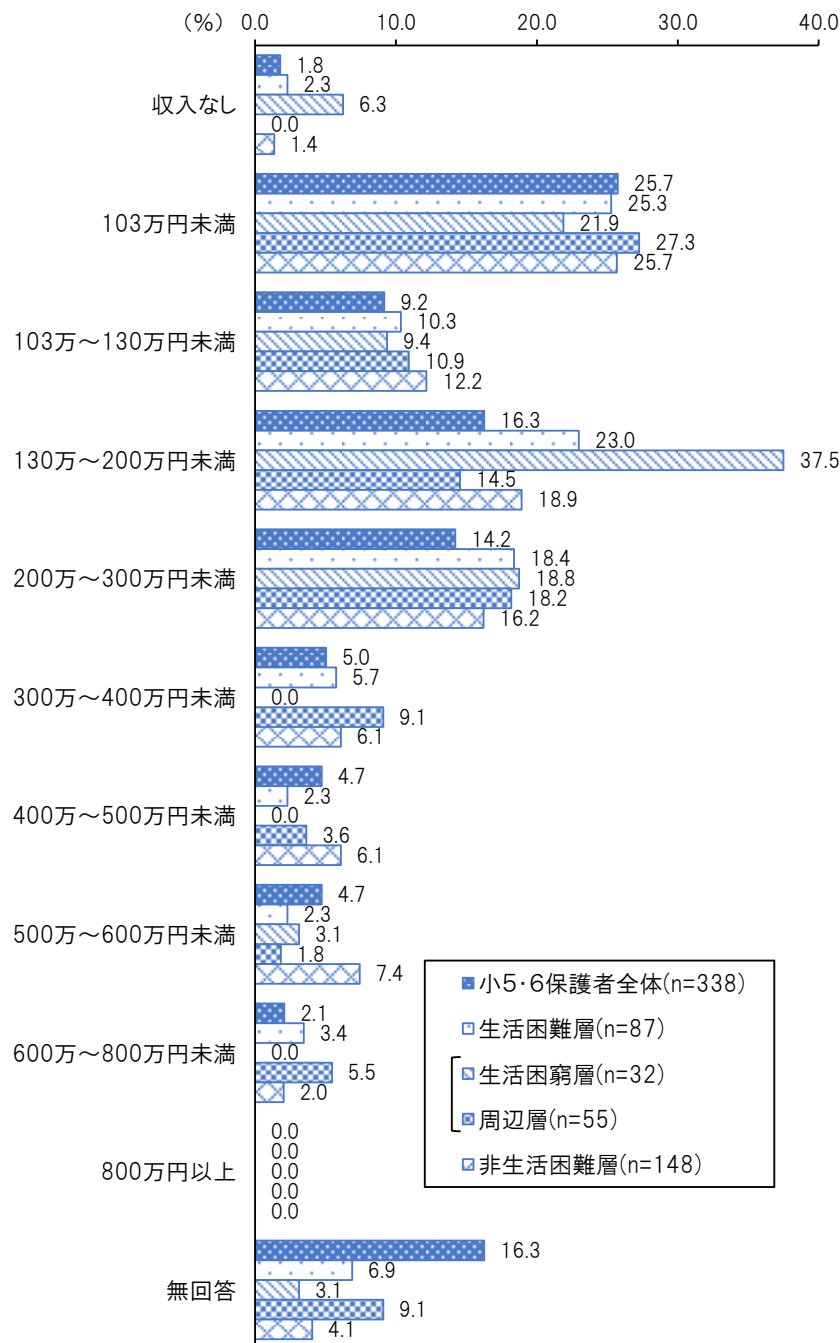


(3) 税込収入

【問 10 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 10-2 昨年1年間（平成 28 年 1 月～12 月）を合計した，お子さんのお母さまのお仕事からの収入（税込）は，およそいくらですか。
 （枠内に数字で回答してください）
 ※収入がない場合には，0 をご記入ください。

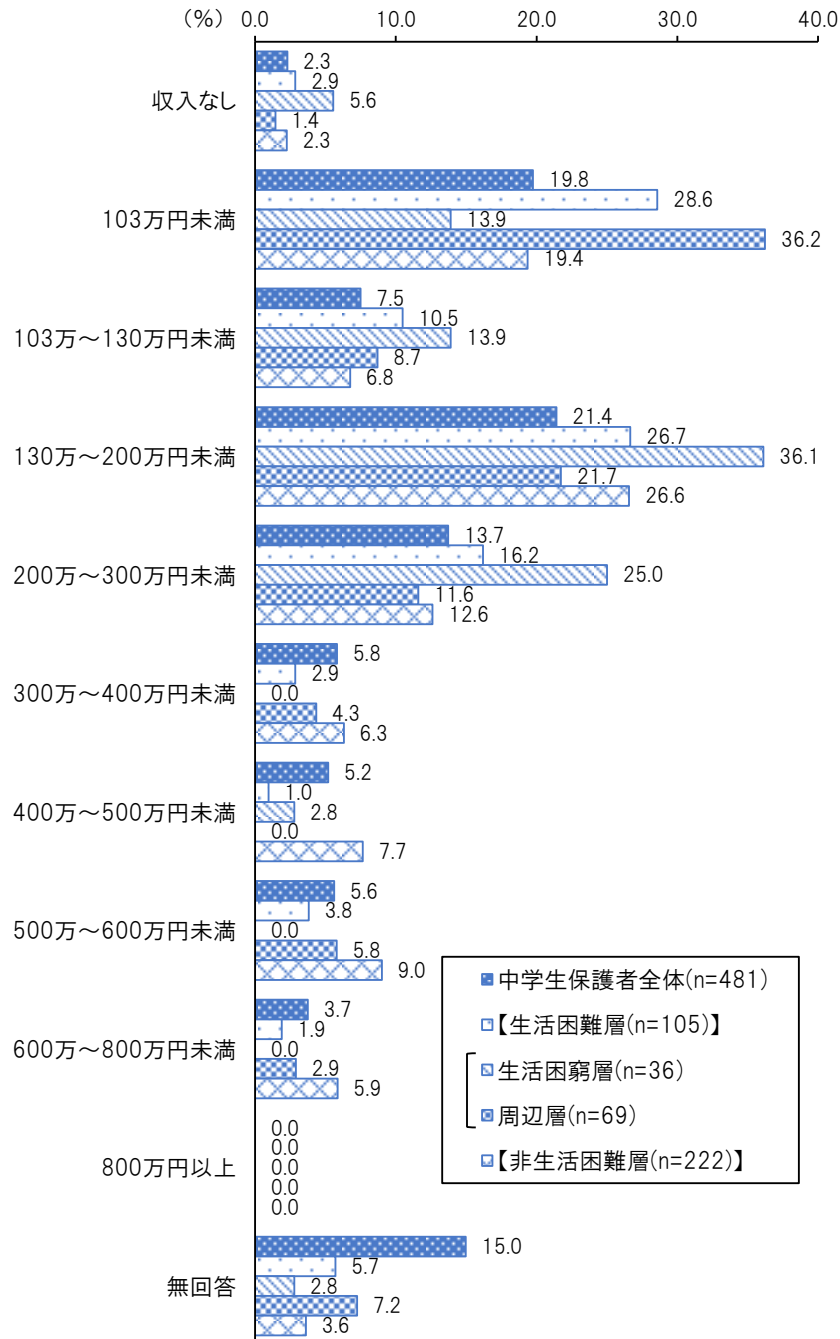
税込収入について，小学5・6年保護者全体では「103 万円未満」が 25.7%と最も高く，次いで「130 万～200 万円未満」（16.3%），「200 万～300 万円未満」（14.2%）の順となっている。

生活困難度別にみると，生活困難層で「130 万～200 万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「130万円～200万円未満」が21.4%と最も高く、次いで「103万円未満」(19.8%)、「200万円～300万円未満」(13.7%)の順となっている。

生活困難度別にみると、周辺層で「103万円未満」の割合が高く、生活困窮層は「130万円～200万円」「200万円～300万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。

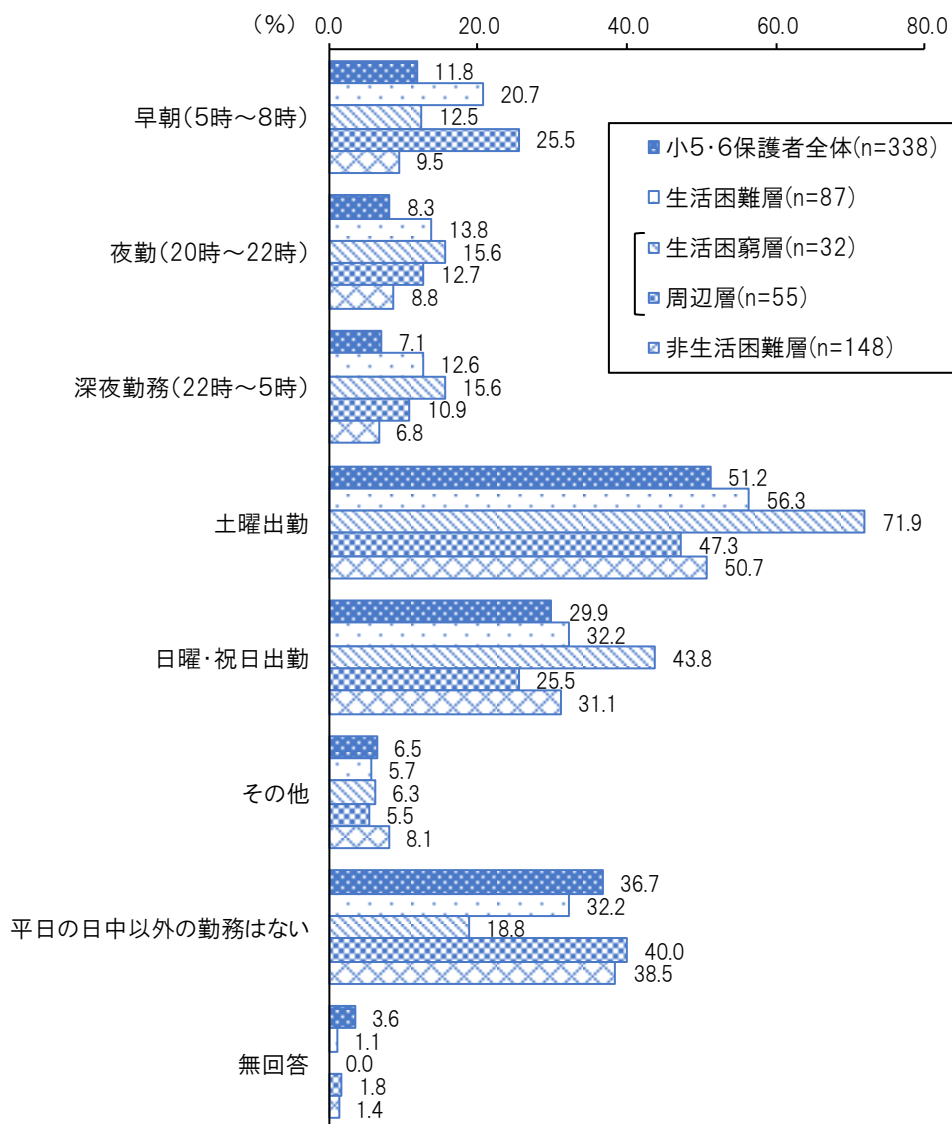


(4) 平日日中以外の勤務状況

【問 10 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 10-3 お母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

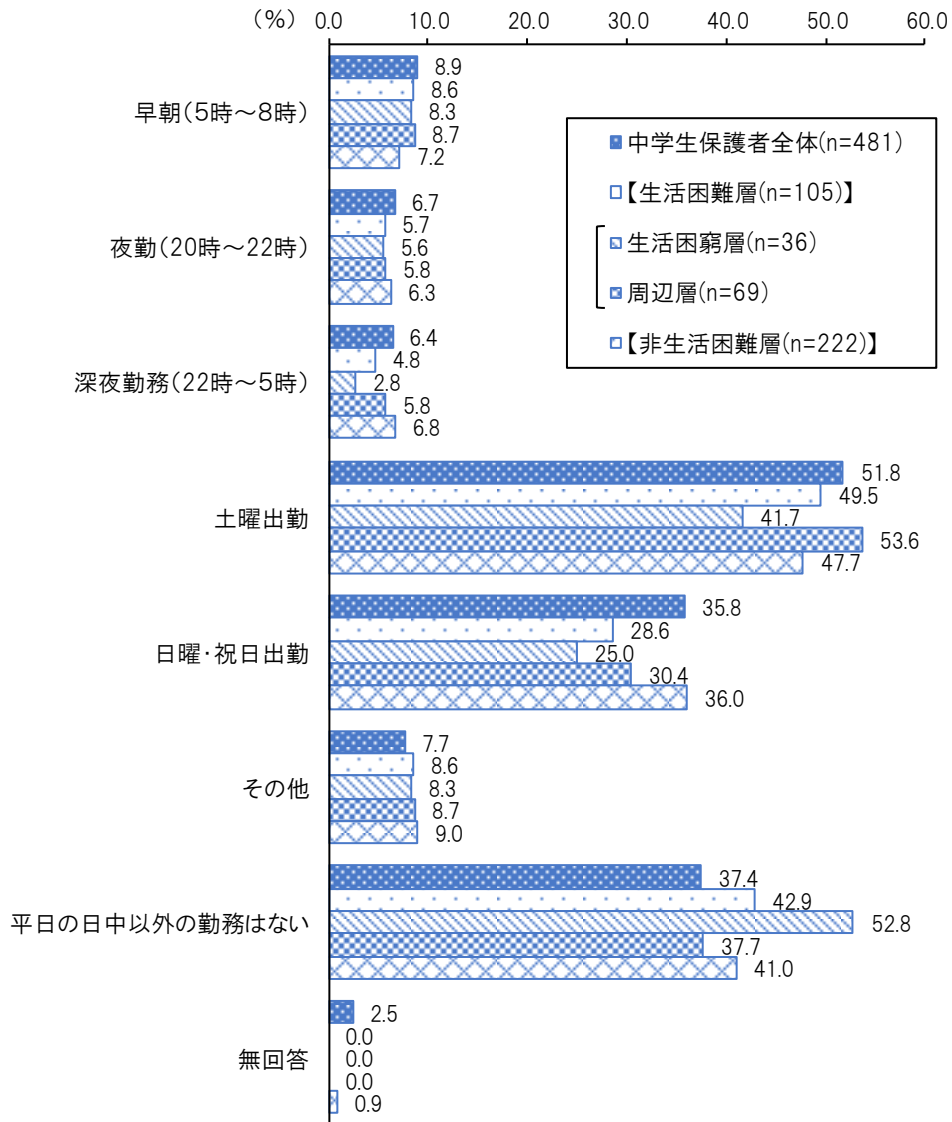
平日日中以外の勤務状況について、小学5・6年保護者全体では「土曜出勤」が51.2%と最も高く、次いで「平日の日中以外の勤務はない」(36.7%)、「日曜・祝日出勤」(29.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「土曜出勤」が 51.8%と最も高く、次いで「平日の日中以外の勤務はない」(37.4%)、「日曜・祝日出勤」(35.8%) の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」などの割合が低く、「平日の日中以外の勤務はない」の割合が他の層に比べて高くなっている。

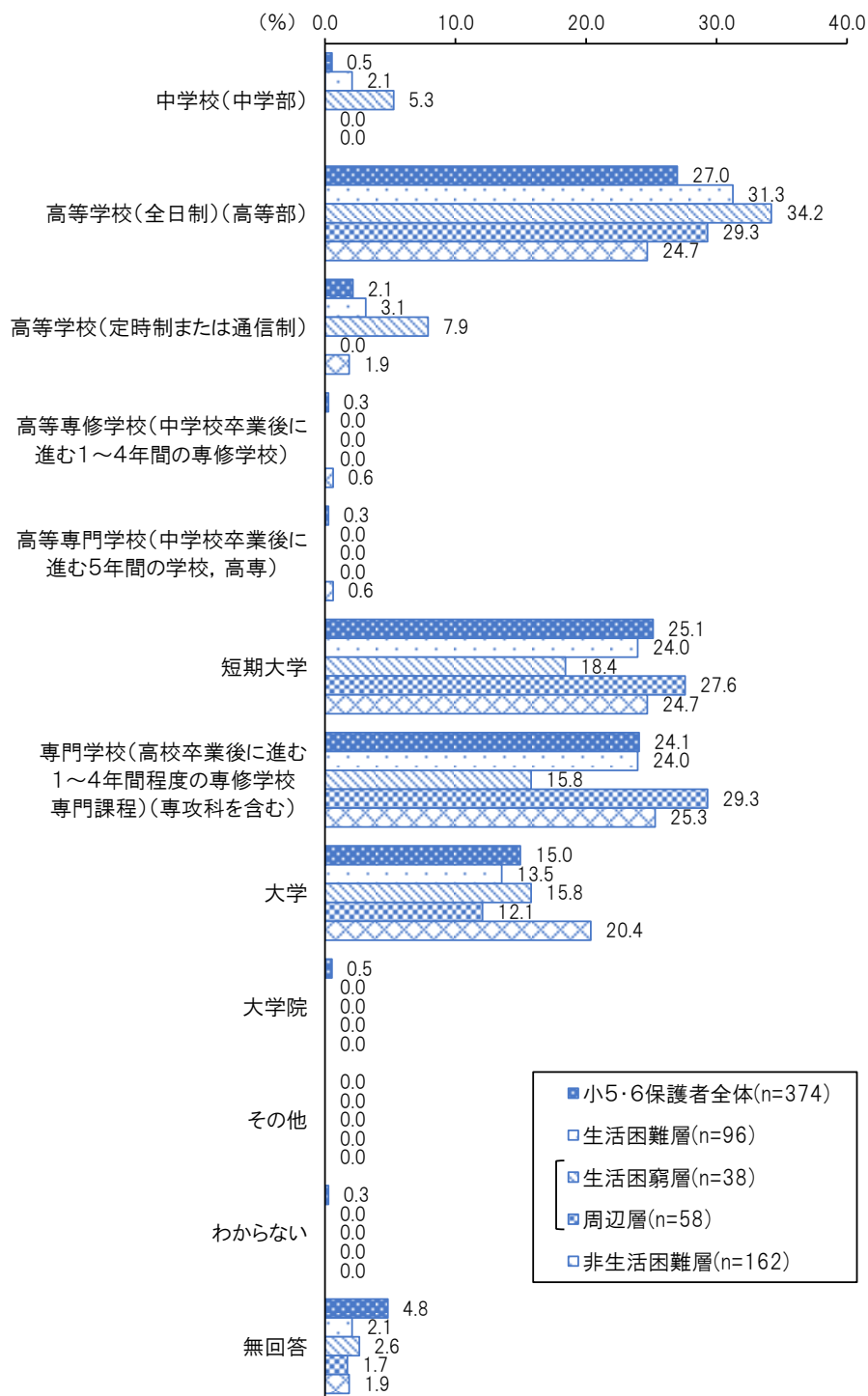


(5) 最終学歴

保／問 36 お子さんのお母さまが、最後に通われた学校は次のどれにあてはまりますか。
(あてはまる番号1つに○)

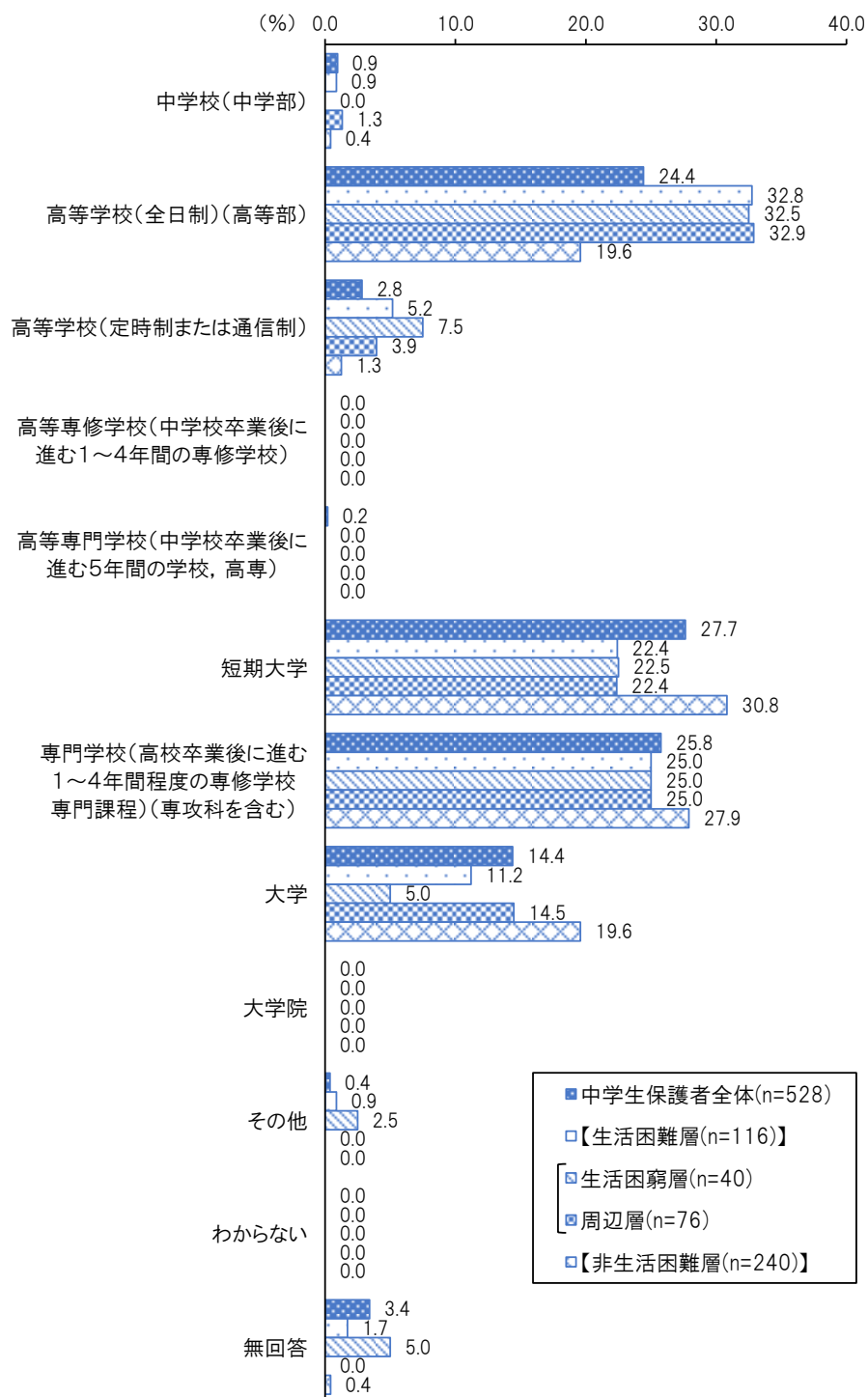
最終学歴について、小学5・6年保護者全体では「高等学校(全日制)(高等部)」が27.0%と最も高く、ほぼ並んで「短期大学」(25.1%)、「専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)(専攻科を含む)」(24.1%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「高等学校(全日制)(高等部)」の割合がやや高く、「短期大学」「専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)(専攻科を含む)」などの割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生保護者全体では、「短期大学」が27.7%と最も高く、ほぼ並んで「専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）（専攻科を含む）」（25.8%）、「高等学校（全日制）（高等部）」（24.4%）が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「大学」の割合が他の層を大きく下回っている。



(6) 最終学校の卒業の有無

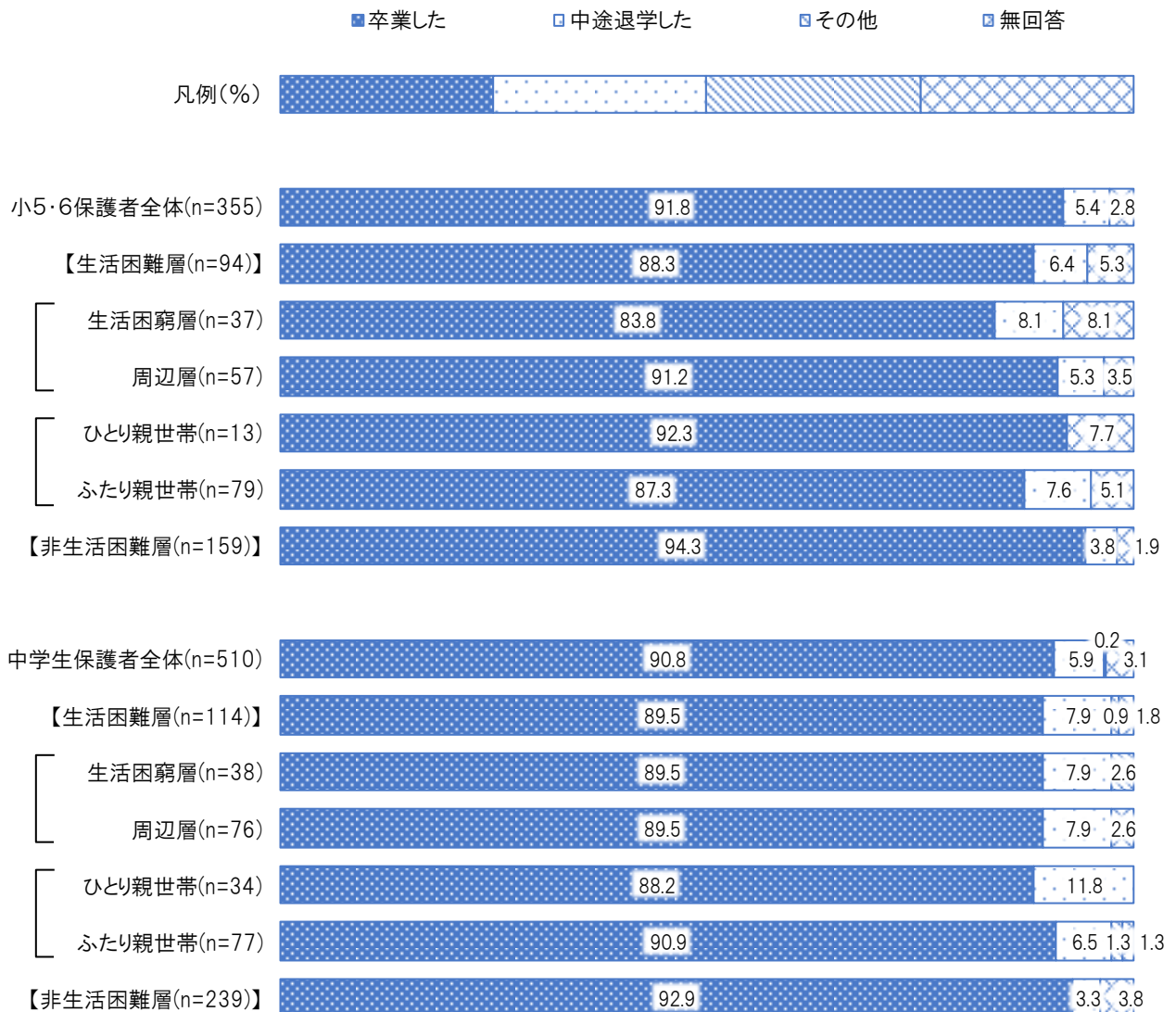
【問 36 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。】

保／問 36-1 お子さんのお母さまは、問 36 で答えた学校を卒業されましたか。
(あてはまる番号1つに○)

最終学校の卒業の有無については、小学5・6年保護者全体では「卒業した」の割合が91.8%、中学生保護者全体では90.8%となっている。一方、「中途退学した」の割合は、小学5・6年保護者全体では5.4%、中学生保護者全体では5.9%となっている。

生活困難度別にみた「中途退学した」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で8.1%とやや高いものの、生活困難度による大きな差はみられない。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「中途退学した」の割合がふたり親世帯に比べてやや高くなっている。

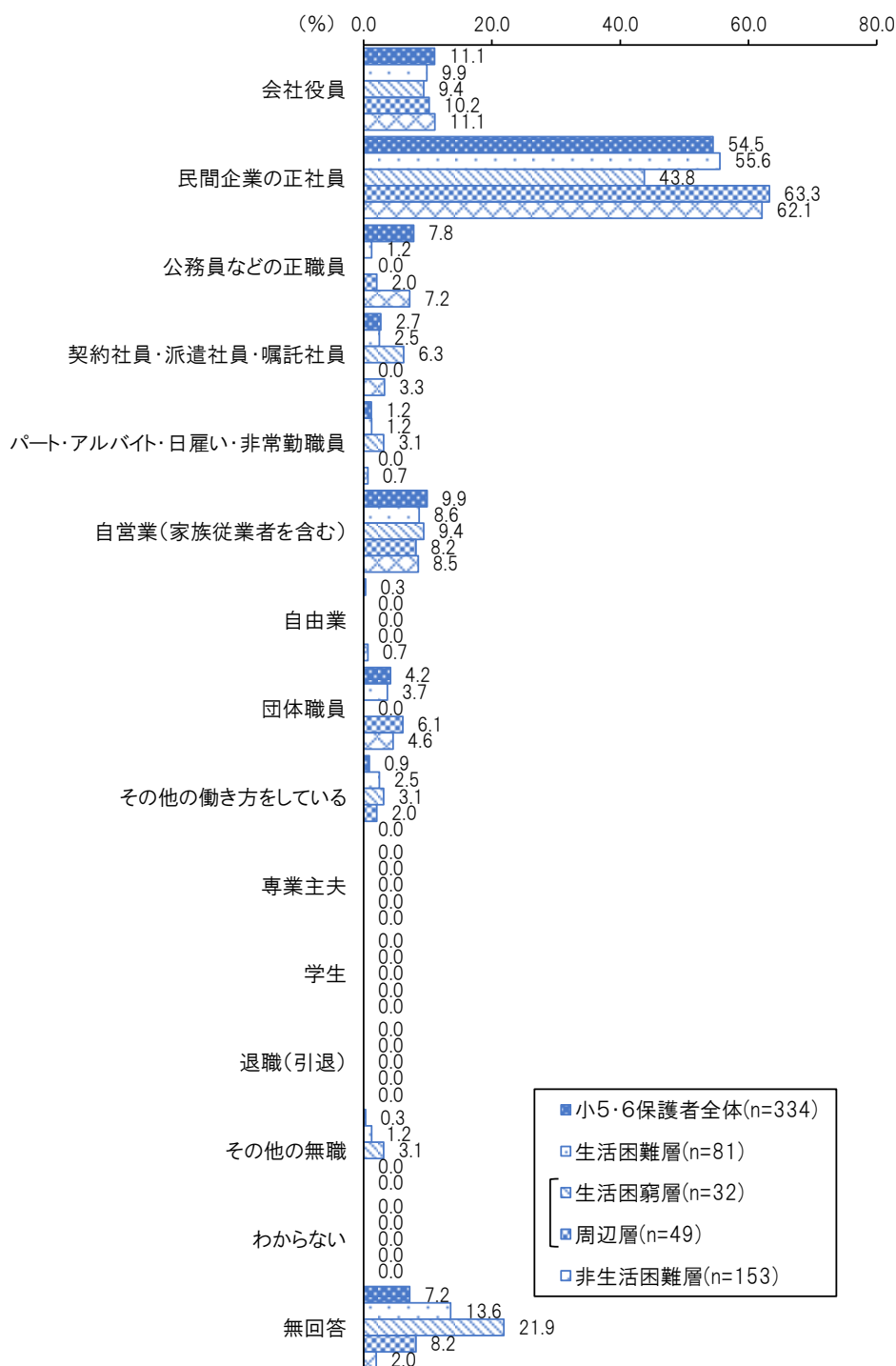


【4】父親のこと

(1) 職業

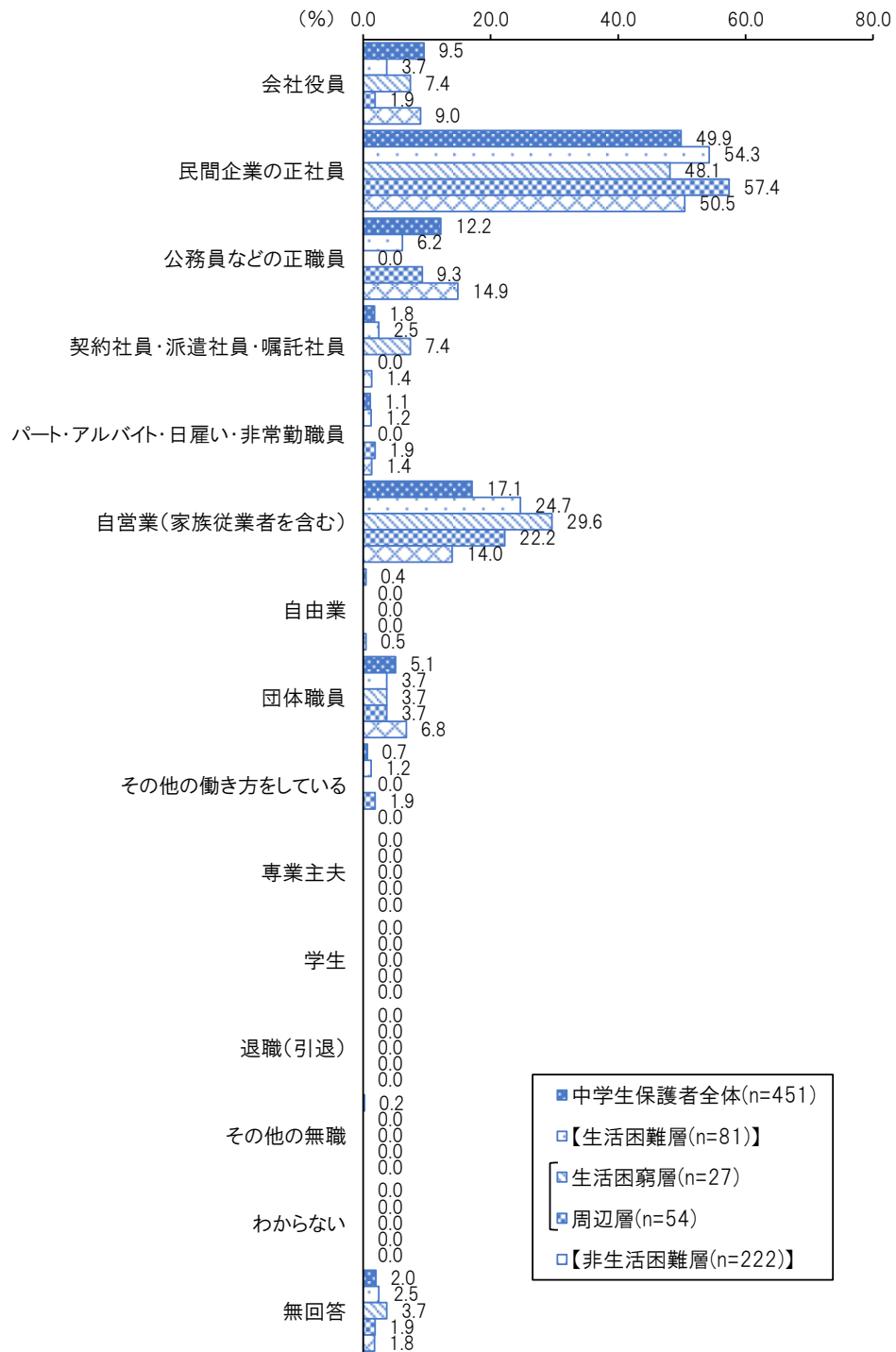
保／問 11 お子さんのお父さまの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。
(あてはまる番号1つに○)

職業について、小学5・6年保護者全体では「民間企業の正社員」が54.5%と最も高く、次いで「会社役員」(11.1%)、「自営業(家族従業者を含む)」(9.9%)の順となっている。生活困難度別にみると、生活困窮層は「民間企業の正社員」などの割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生保護者全体では、「民間企業の正社員」が49.9%と最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む）」（17.1%）、「公務員などの正職員」（12.2%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「公務員などの正職員」の割合が他の層に比べて低く、「自営業（家族従業者を含む）」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。



(2) 就労時間

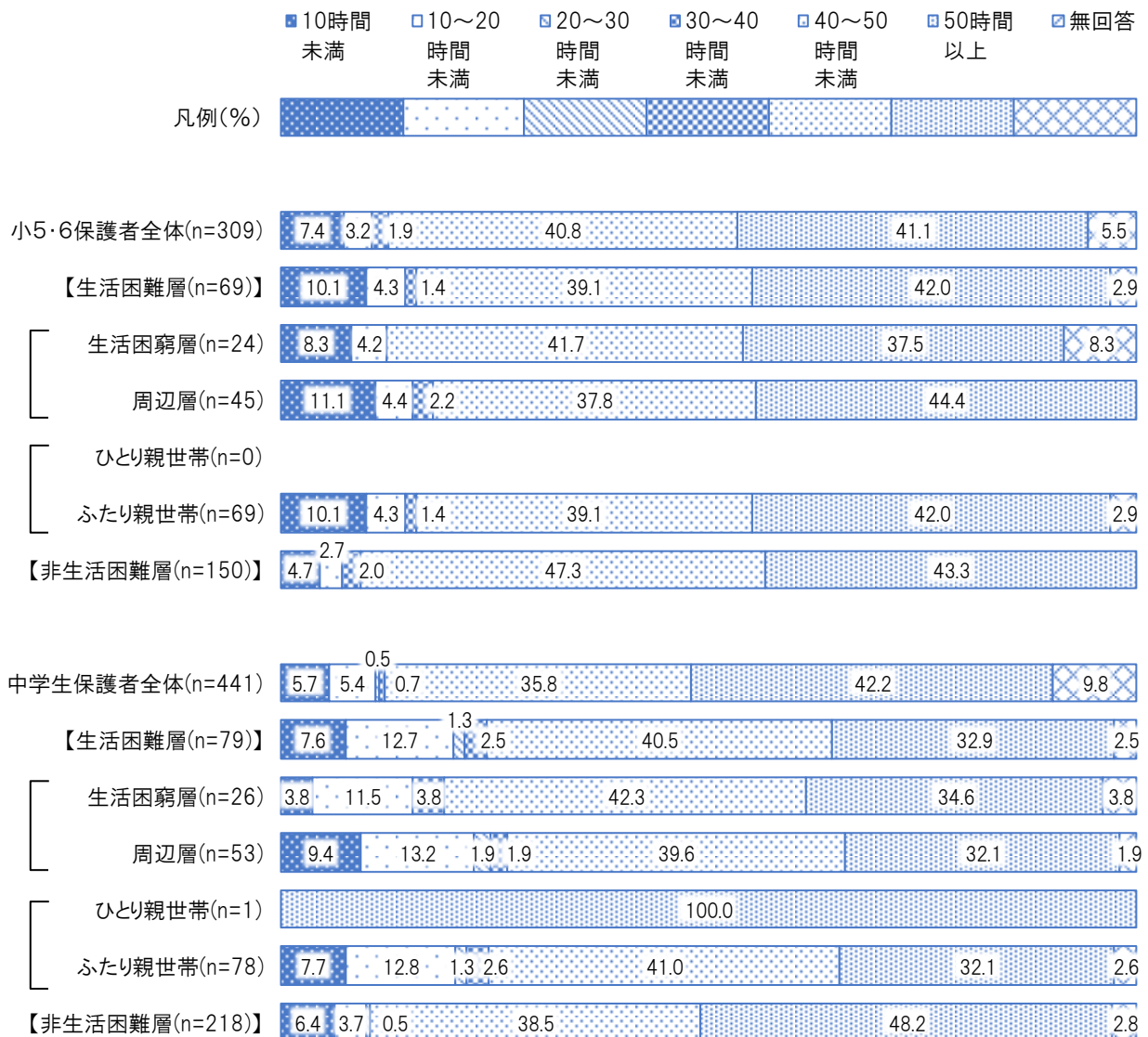
【問11で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

保/問11-1 お子さんのお父さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事に従事しておられる場合は合算してください。

就労時間について、小学5・6年保護者全体では「50時間以上」が41.1%と最も高く、ほぼ並んで「40～50時間未満」(40.8%)が続いている。中学生保護者全体では「50時間以上」が42.2%と最も高く、次いで「40～50時間未満」(35.8%)の順となっている。

生活困難度別にみると、中学生保護者の生活困難層で「50時間以上」の割合が非生活困難層に比べて低くなっている。



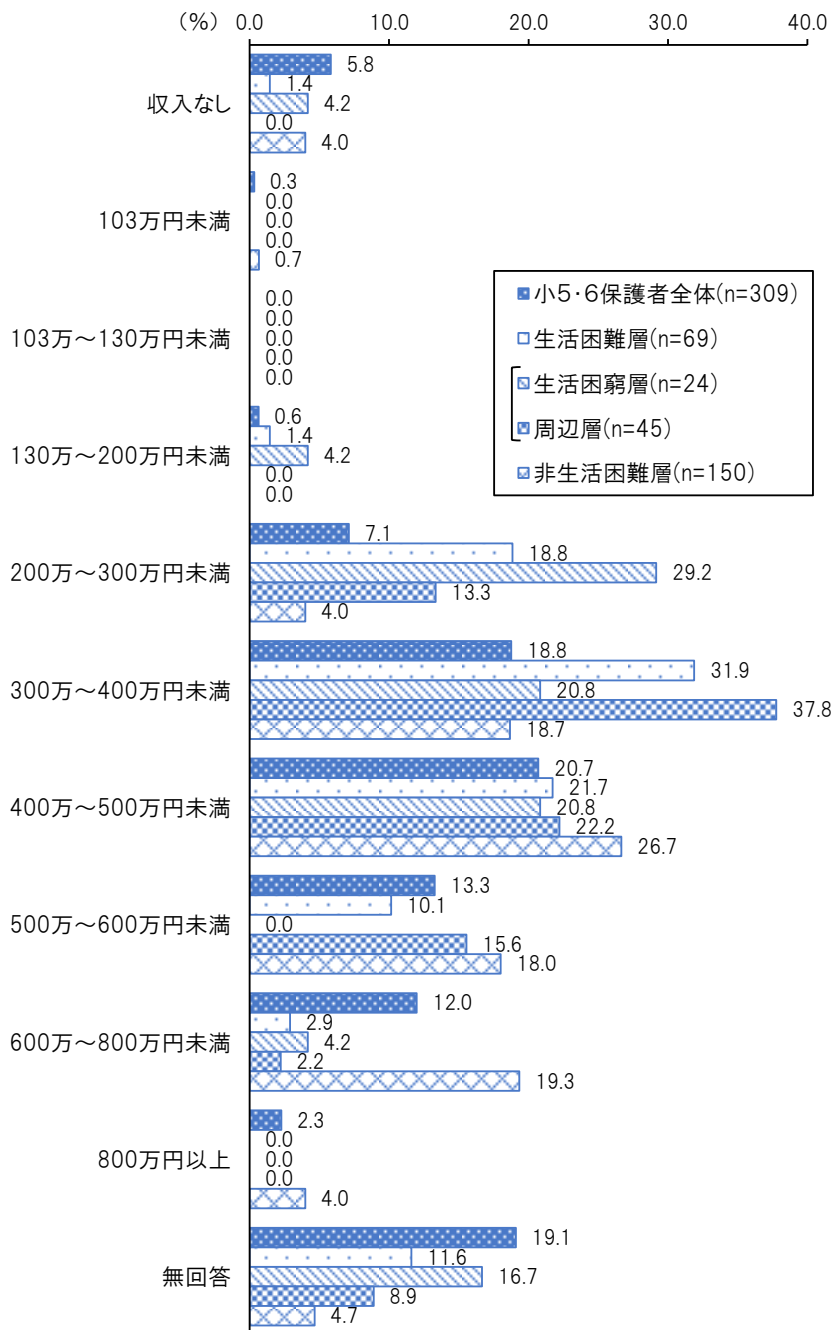
注:ひとり親世帯については、件数(n)が少ないため参考値として参照

(3) 税込収入

【問 11 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 11-2 昨年1年間（平成 28 年 1 月～12 月）を合計した，お子さんのお父さまのお仕事からの収入（税込）は，およそいくらですか。
 （枠内に数字で回答してください）
 ※収入がない場合には，0 をご記入ください。

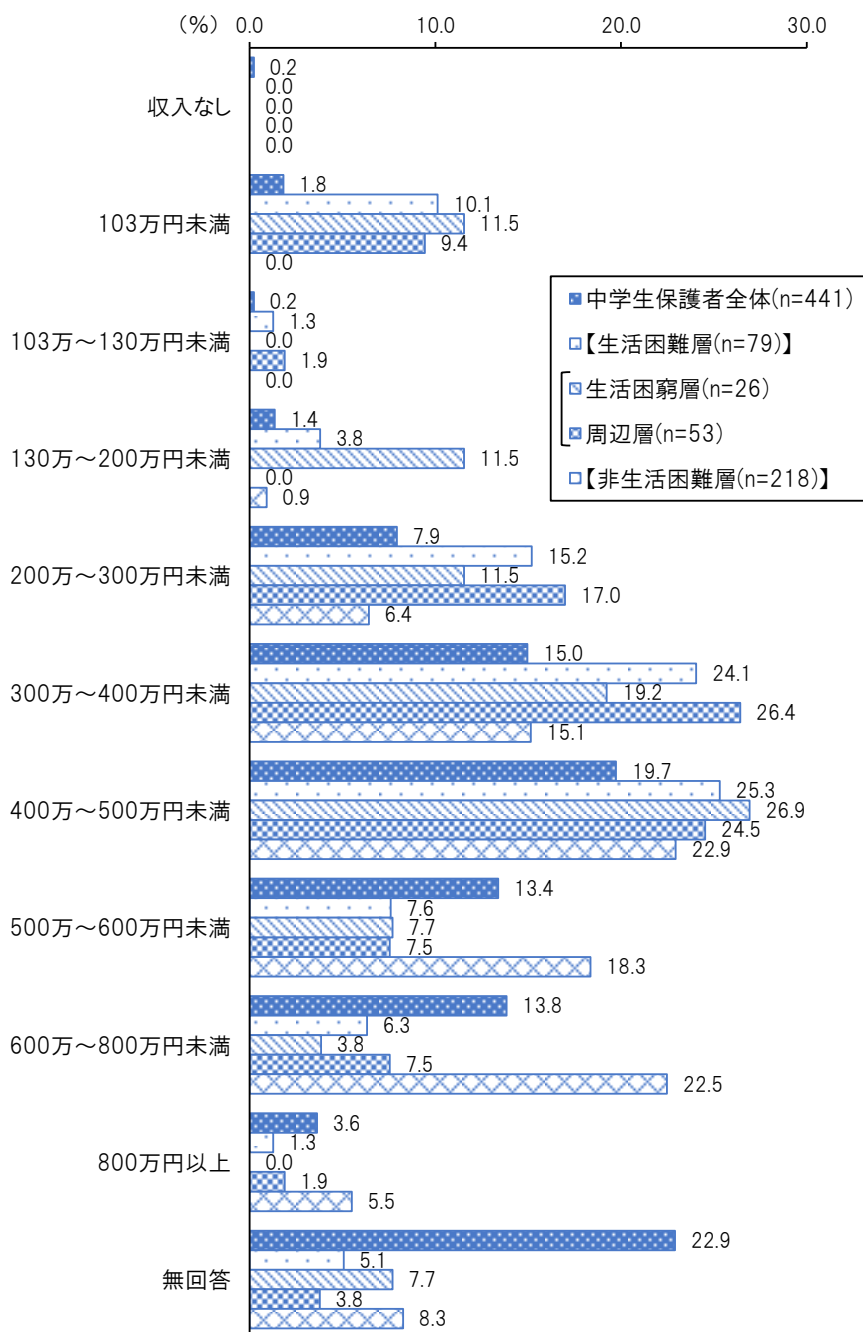
税込収入について，小学5・6年保護者全体では「400万円～500万円未満」が20.7%と最も高く，次いで「300万円～400万円未満」（18.8%），「500万円～600万円未満」（13.3%）の順となっている。

生活困難度別にみると，生活困窮層は「200万円～300万円未満」，周辺層で「300万円～400万円未満」の割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「400万円～500万円未満」が19.7%と最も高く、次いで「300万円～400万円未満」(15.0%)、「600万円～800万円未満」(13.8%)、「500万円～600万円未満」(13.4%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「130万円～200万円未満」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

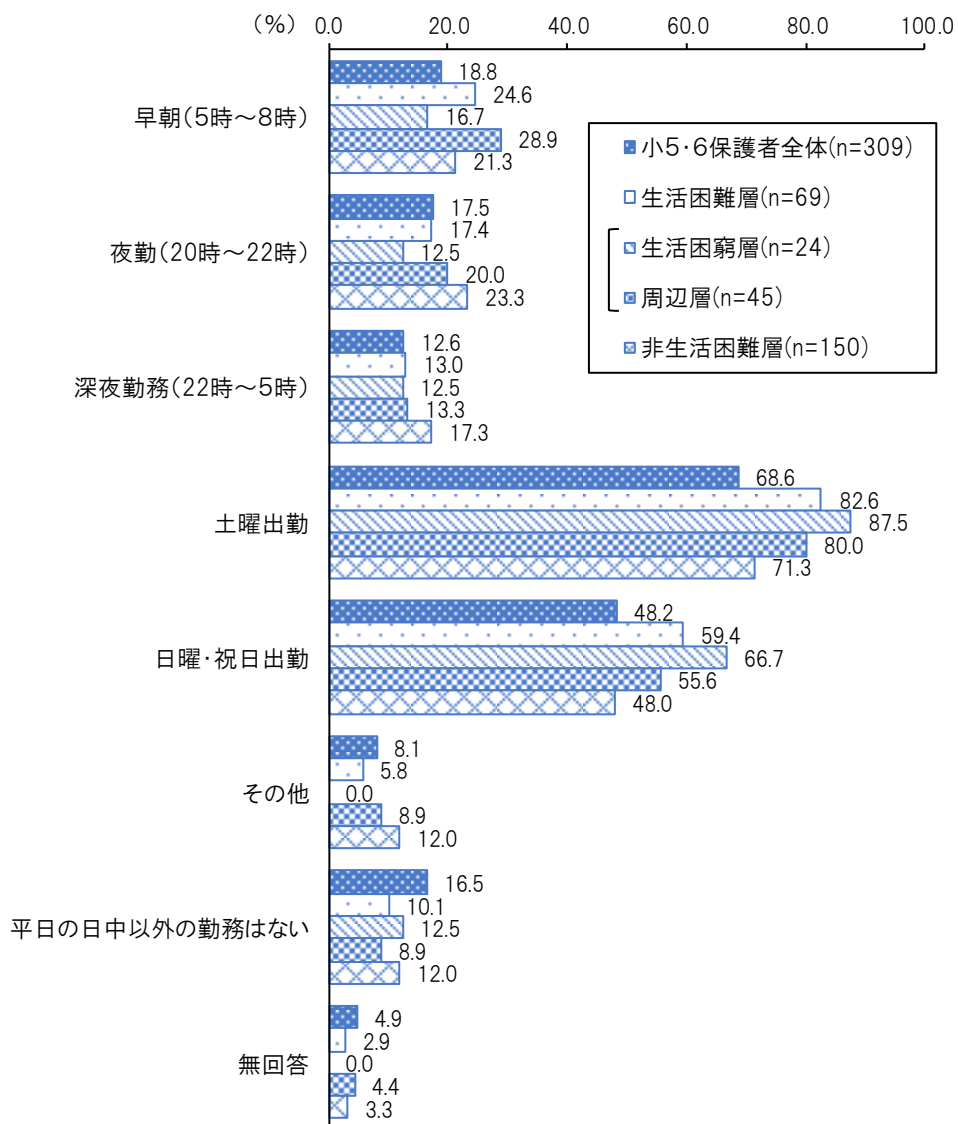


(4) 平日日中以外の勤務状況

【問 11 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】
 保／問 11-3 お父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

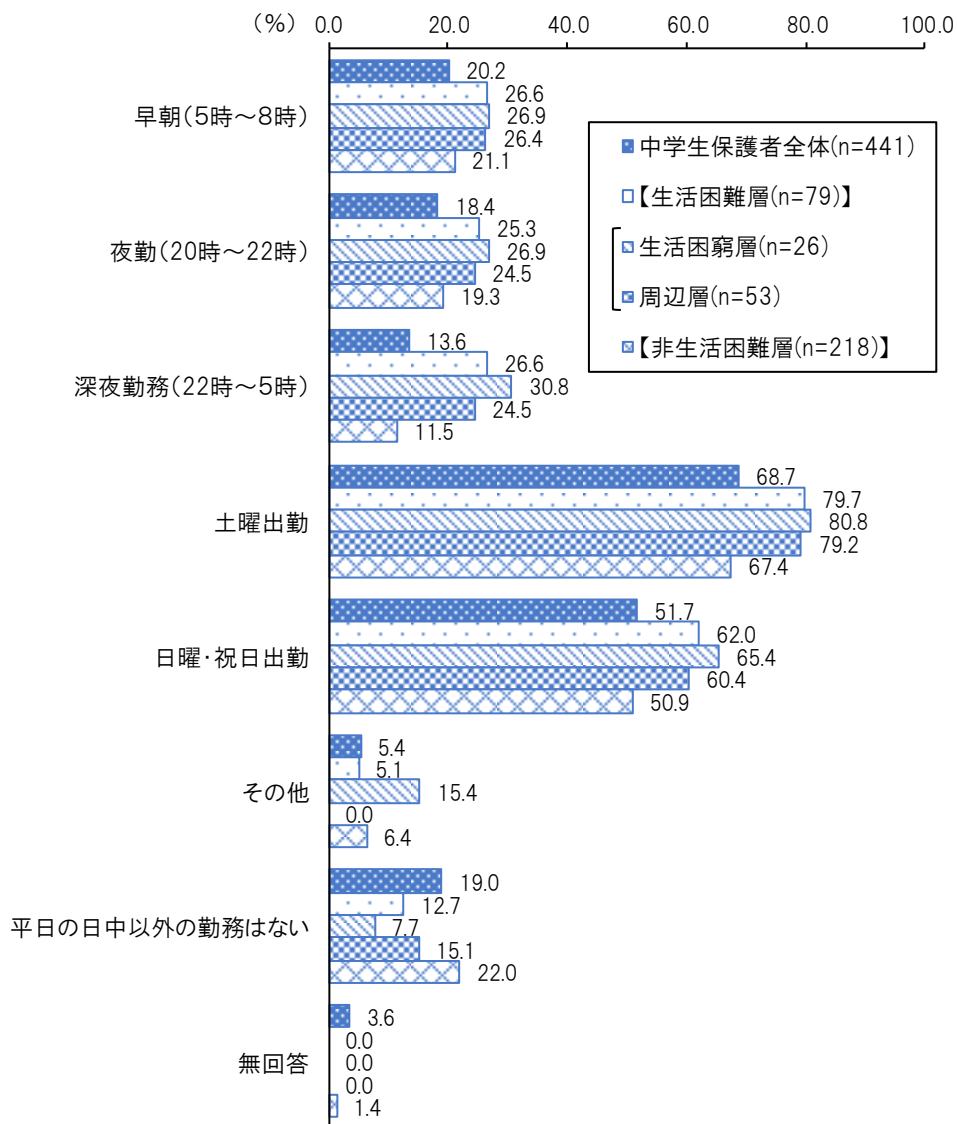
平日日中以外の勤務状況について、小学5・6年保護者全体では「土曜出勤」が68.6%と最も高く、次いで「日曜・祝日出勤」(48.2%)、「早朝(5時～8時)」(18.8%)、「夜勤(20時～22時)」(17.5%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。



中学生保護者全体では、「土曜出勤」が68.7%と最も高く、次いで「日曜・祝日出勤」(51.7%)、「早朝(5時～8時)」(20.2%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」などの割合が他の層に比べてやや高くなっている。

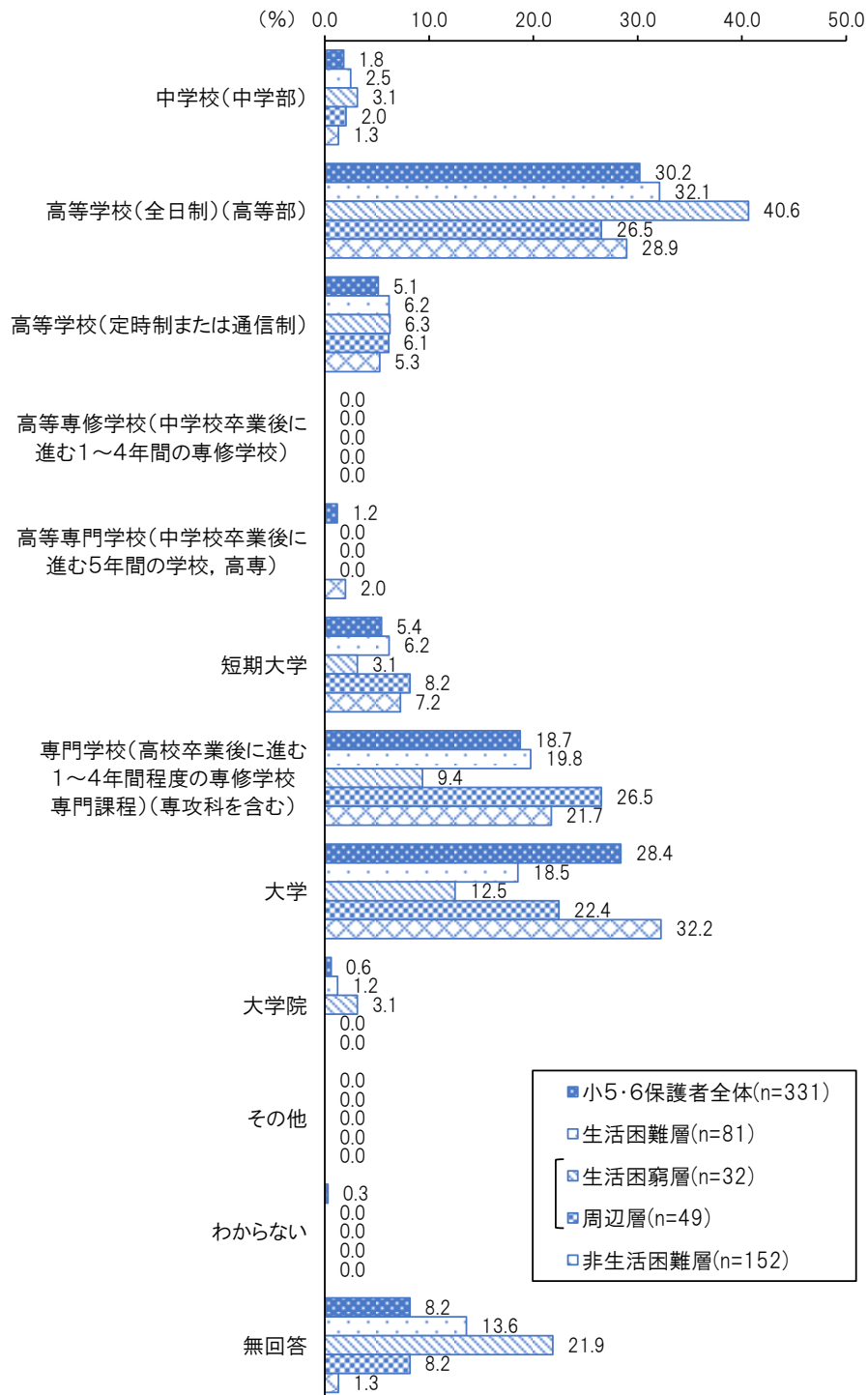


(5) 最終学歴

保／問 37 お子さんのお父さまが、最後に通われた学校は次のどれにあてはまりますか。
(あてはまる番号1つに○)

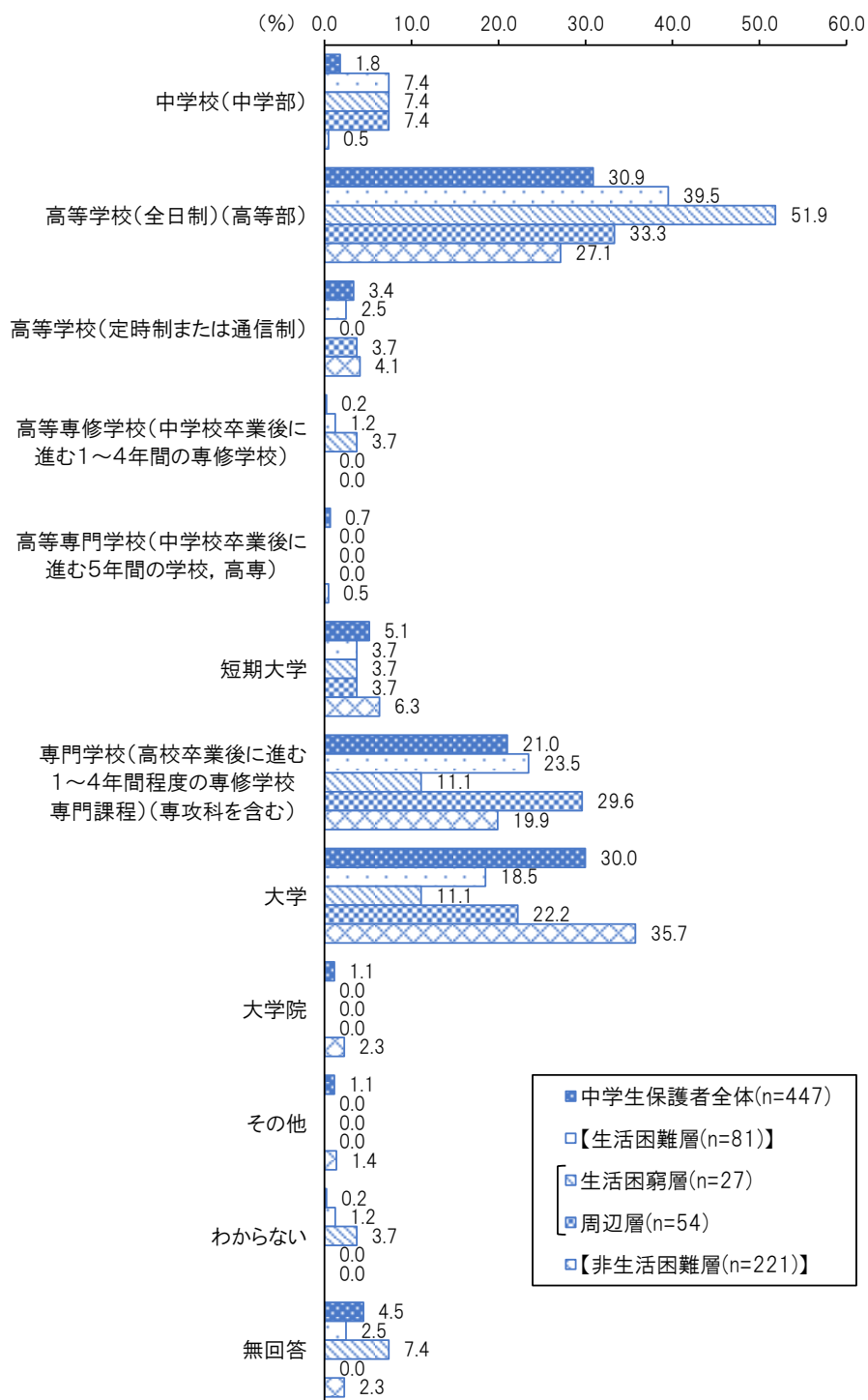
最終学歴について、小学5・6年保護者全体では「高等学校(全日制)(高等部)」が30.2%と最も高く、次いで「大学」(28.4%)、「専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)(専攻科を含む)」(18.7%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「高等学校(全日制)(高等部)」の割合が高く、「専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)(専攻科を含む)」「大学」の割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生保護者全体では、「高等学校（全日制）（高等部）」が30.9%と最も高く、次いで「大学」（30.0%）、「専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）（専攻科を含む）」（21.0%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「高等学校（全日制）（高等部）」の割合が高く、「専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）（専攻科を含む）」「大学」の割合が他の層に比べて低くなっている。



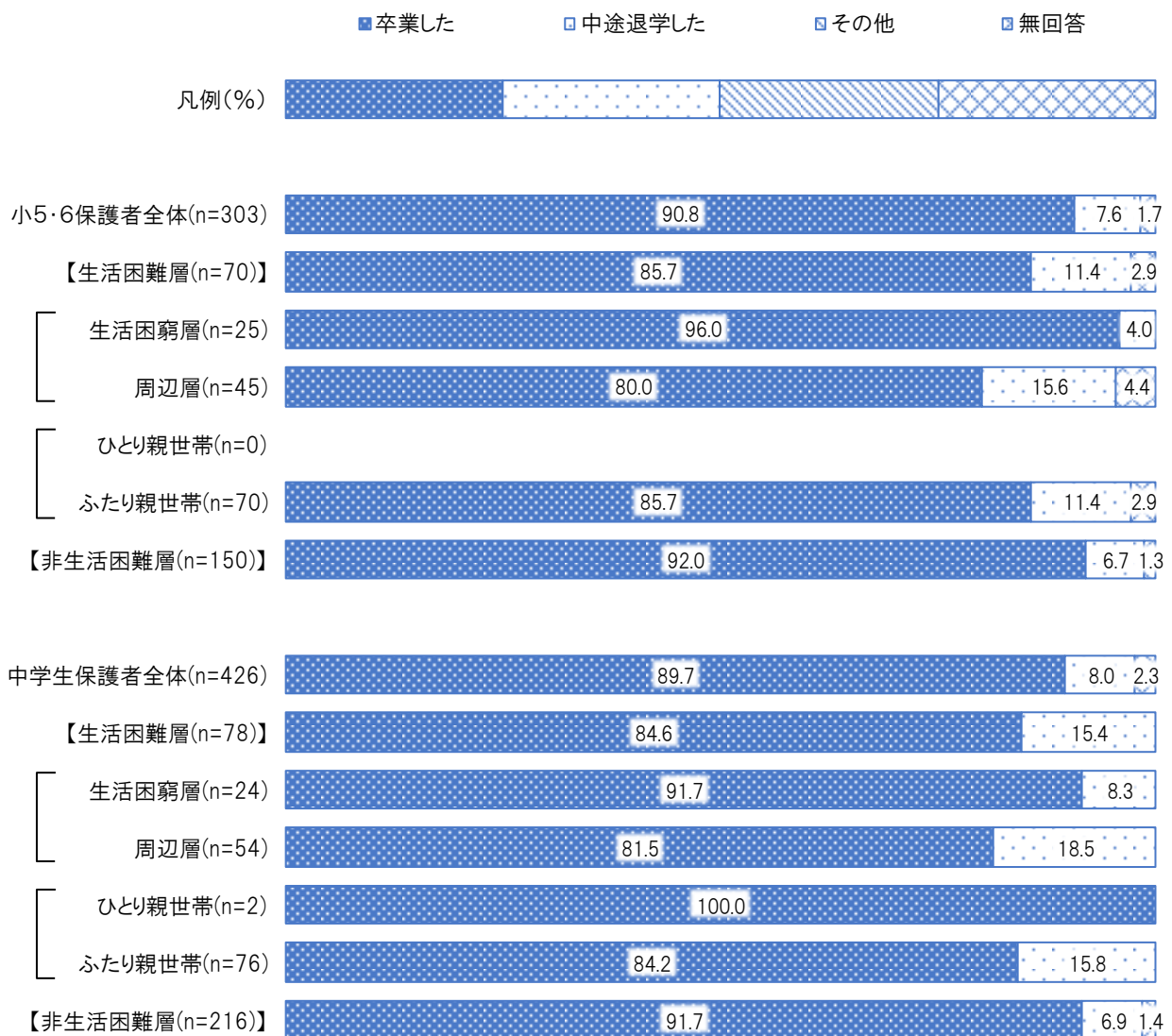
(6) 最終学校の卒業の有無

【問 37 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。】

保／問 37-1 お子さんのお父さまは、問 37 で答えた学校を卒業されましたか。
(あてはまる番号1つに○)

最終学校の卒業の有無については、小学5・6年保護者全体では「卒業した」の割合が90.8%、中学生保護者全体では89.7%となっている。一方、「中途退学した」の割合は、小学5・6年保護者全体では7.6%、中学生保護者全体では8.0%となっている。

生活困難度別にみた「中途退学した」の割合は、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに周辺層で高くなっている。



注：ひとり親世帯については、件数(n)が少ないため参考値として参照

安芸高田市子供の生活実態調査
報告書

発 行 者／平成 30 年 3 月
発 行 者／広島県 安芸高田市 子育て支援課
〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田 791 番地
TEL (0826) 47-1283
FAX (0826) 42-2130
